武藤、カシン、小島退団! "新日分裂騒動"の真相はこれだ!!

紙のプロレス RADICAL

2002 46

"桜庭を2度破った男"、2・24
シウバと激突!!
田村潔司

問題提起大特集

新日分裂騒動を語る!
橋本真也

新日分裂から小川直也まで
マット界の大地殻変動を
読み解く!

『猪木祭り』&
1・4新日ドーム大検証!

サスケ、辻アナ、I編集長は
『猪木祭り』&1・4に何を見たか!

衝撃!
リングス活動停止!!
2・15横浜文体がラストマッチ!
前田道場全選手が、その心境を告白!
金原弘光他

万感の思いで
惜別のメッセージ! **浅草キッド**

戦慄の『ミスター高橋本』は
マット界に何をもたらしたか!?

"アンドレ足折り事件"の
真相を本人に直撃!
キラー・カン

"敵前逃亡事件"の
真実を遂に明かした!
エル・カネック

遅ればせながら
2001年
『紙プロ大賞』
発表!

PRIDE.LOVEを
ブチ壊す男!!

3・1WWF日本上陸
イッツ・トゥルー最新情報!
もちろんこの男もやってくる!
TAJIRI

メキシコ修行時代の
秘蔵写真も満載! **CIMA**

どっこい生きてたバト魂!
アレクサンダー大塚&大場貴弘

紙のプロレス RADICAL NO.46
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188

“プロレスLOVE”の台風が
巨大戦艦・新日本を揺らす中——

この男が“PRIDE.LOVE”をブチ壊しにやってきた!!

この男の参戦で、髙田道場とDSEの確執が再燃!! それでも、

桜庭和志、藤田和之という2大エースが長期欠場中。高田延彦は『猪木祭り』でのベルナルド戦後に「あと一戦やるかやらないかで引退」と明言。そんな状況下で、今年前半、いったい『PRIDE』が何を仕掛けてくるのかは実に注目されていた。そんななか『PRIDE』を運営するDSEは、遂に〝赤いパンツの頑固者〟の引っ張り出しに成功した。

元リングス無差別級王者！ ヘンゾ・グレイシーを桜庭より先に破った男！ その桜庭とはUインター時代の先輩・後輩の仲で、〝名勝負数え唄〟を展開した元ライバル！

その男、田村潔司の『PRIDE』参戦が、ヌキ打ち的に電撃発表されたのが1月11日だった。パンクラス勢の参戦、エンセン井上の一夜限りの復活というのは業界内では噂にのぼり、ネット上でもチラホラと情報が流れてはいた。しかし、田村に関してはまったくのノーマーク。これには各マスコミ、関係者、ファンも驚いたようで、ネット上の各サイトでは、その話題で爆発しまくっていた。

それもそのはず、田村の2・24『PRIDE.19』での相手は、昨年、桜庭がまさかの2連敗を喫した、現・PRIDEミドル級王者のヴァンダレイ・シウバ！ しかもいきなりタイトルマッチだ!!

田村のUWF時代からの歴史、さらにUインター、リングス時代の活躍を知るファンにとってみれば盛り上がらないはずがない。

しかし、この機運に「待った」をかけたのが高田延彦総裁だった。『SRS・DX』（2/14号）のインタビューを受けた高田総裁は、その話題に触れるのを嫌がりながらも、〝『PRIDE』新参者〟に対して痛烈な言葉を浴びせかけたのだ。

高田と田村の確執といえば、〝「高田さん、ボクと真剣勝負をしてください！」事件〟が有名だが、それ以前から確執は取り沙汰されていた。そしてUインター末期、田村がひとり新日本との対抗戦を嫌がりK―1のリングを選んだことで、溝は決定的なものとなり、その後は、お互いアンタッチャブルな領域に入っていった。

「一億一万歩譲って、奴が『PRIDE』のリングに上がってきたとしましょう。でも、やっぱり物事には順番っていうのがあるんだよ」

高田総裁が問題にしているのは、まず〝タイトルマッチ〟という点だ。田村にはリングスの無差別級王者だったこと、数々の強豪を破ってきたこと、エースとしてリングスを引っ張ってきたことなど、実績は多くあるとは思うのだが、高田総裁は、次のように見解を述べまくった。

「それとこれとは次元が違う。競技も違うし、ルールも違う。時代も違う。何もかもが違うんだよ。現役のチャンピオンだったら話は少し違ってくるかもしれないけどね。元なんとかだったら誰でもよくなっちゃうよ。元アジアヘビー級チャンピオンでも、元インターコンチネンタルヘビー級チャンピオンでもね」

さらには、**「そこにノコノコ来るほうも来るほうだよ。だって、シウバは桜庭が貯金預けてる銀行みたいなもんだよ。そのキャッシュカードを拾っておろしに行くようなもんだよ」**とまで言い放った。

ここまでくると、もはや田村は〝赤いパンツの嫌われ者〟になってしまったといっても過言ではない。

一体なにが高田総裁にそこまで言わせるのだろうか？ そして総裁のヒートしたホコ先は、DSEにも向いていく。

「極論を言えば、出すことに関してはドリームの決めることだから、とやかく言う筋合いはない。でも、スタートから一緒に歩んできた者として、ドリームにはもっと正常なスタンスを持ってもらいたいね。『PRIDE』をあのミドル級の体で思いきり背負

この新風景は刺激的この上なし!!

ってきたサクのことをもっと考えろと言いたいのよ。来るほうも来る。使うほうも使うほう。使うほうも使い方が違うよ」

高田総裁とDSEは昨年秋、「高田vs小川戦」実現へのボタンの掛け違いから火種が広がりかけたことがある。今回の一件で、またも高田道場とDSEの確執が再燃という形になってしまったようだ。

はからずも純プロレス方面では、武藤敬司らが大量離脱、巨大戦艦・新日本のドテっ腹には風穴が開いてしまった。その武藤らの掲げる〝プロレスLOVE〟とは方向が違うものの、高田総裁には強烈な「PRIDE・LOVE」ともいうべきものがある。

自らのヒクソン戦で始まった『PRIDE』の歴史、身体を張り総合格闘技を上質のエンターテインメントとして提供するというシンドさ、桜庭が〝グレイシー狩り〟を果たし数々の実験の扉を開けてきた痛み。そして、それらのことをやってきた〝自負〟と〝誇り〟が、「PRIDE・LOVE」ともいうべき思いになって高田総裁のなかには宿っている。

高田総裁にとってみれば、シウバの首&ミドル級タイトルは桜庭の〝獲物〟という思いもあるのだろう。それを〝新参者〟においしいところを持っていかれたくない、という気持ちは十分に理解できる。

ましてや高田総裁と因縁浅からぬ田村、実は桜庭とも確執めいたものがある田村となれば、なおさらだ。田村と桜庭の間に確執があることを関係者もファンも薄々は知っているものの、その根っこにあるものは明るみには出ていない。田村と桜庭は〝犬猿の仲〟なのか？　と聞かれた高田総裁は「**その表現は桜庭に失礼だろ。立場が違う。すべてが違いすぎる**」と言った。もしかしたら両者の間には計り知れない感情のもつれがあるのかもしれない。

しかし、本誌の見解としては田村参戦はノー問題。まったくオッケーである。DSEの描く方向性に対して、田村の参戦が反しているわけではないからである。

むしろ刺激的な新風景をつくり出す企業努力、さらに『PRIDE』を従来の団体システムではなく、強い選手、面白い選手を受け入れる〝場〟にしていくという理念は、評価されてしかるべきだ。その理念にかなった異分子・田村潔司の参戦はまったくドキドキものとなる。

そういったことを抜きにしてもシウバvs田村は屈指の好カードだ。シウバが防衛すれば、桜庭の〝3度目の正直〟があったときにも、見る側のモチベーションは上がる。

田村が王座を獲ろうものなら、日本人の新王者が誕生するという新しい局面が開けるわけだし、その先には各マスコミがすでに報道しているように、「桜庭vs田村戦」という夢も広がってくる。ヘタにアオるわけではないし、いまのところ実現するのかしないのかは未知数だが、田村と対峙したときの桜庭の顔を想像するだけで震えがくる。いままで見たことのないサクを見たい！　ファンも見たがっているのも事実だし、そういう想像をしながら見るのはプロの舞台を見るときには大事な要素である。桜庭とグレイシーの一連の闘いがなぜ盛り上がったのかを考えればわかることだ。価値観の違う者同士の闘いが一番面白い!!

だから、無責任極まりない言い方をすれば、田村と高田&桜庭には「どうぞ仲の悪いままでいてください」というしかない。

さらに言えば、リング上で決着を付けて再び認め合う瞬間は来ないんだろうか。そういうことができて、「ガチンコ」は初めて「プロレス」を超えたといえるのかもしれないのだ。

それにズバリ断言しておく。今回、田村がシウバの首を獲ったとしても、そのことによって桜庭の価値が落ちるとは思わないし、そんなことで落ちるほど桜庭和志の価値はヤワではないはずである。

高田総裁にとって田村潔司は「PRIDE・LOVE」をブチ壊しにきた男に見えるのだろうか？

しかし、〝自負〟と〝誇り〟という部分での「PRIDE・LOVE」なら大歓迎だが、仲間内や認め合った者しか上がれないリングになってしまうことまで、その範疇に入ってしまうなら、それは考えものだ。

この先、『PRIDE』には菊田や近藤、美濃輪らのパンクラス勢も上がってくるという。2月で活動停止となるリングスのTKや金原の参戦も夢ではなくなった。まさにリアルUだ。はからずも高田道場とDSEの確執が生まれてしまった田村の参戦だが、見方を変えればこんなに夢のある興奮する話はない。

2・24から何かが転がり始める——。

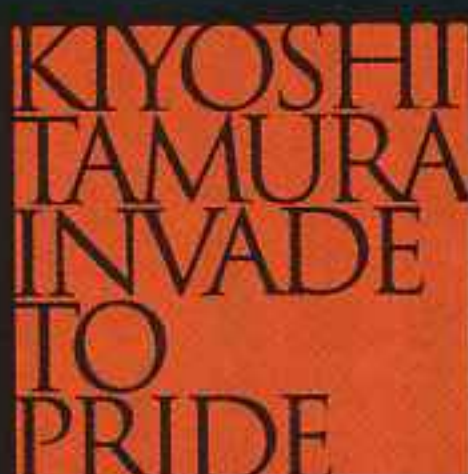
UWFとバーリトゥード
〝異なる価値観〟の凌ぎ合い！

時は来た！『PRIDE』へ、いざ討ち入り！

田　村　潔　司

2・24『PRIDE.19』で、シウバの持つ
「PRIDE ミドル級王座」に挑戦決定!!

2月24日は田村潔司と『PRIDE』の生き残りを賭けた闘いです

KIYOSHI TAMURA INVADE TO PRIDE

聞き手／山口日昇
撮影／森鷹博
designed by hisa (Two Three)

——いま田村さんはプロレスラー、格闘家、意識としてはどっちなんですか？
田村　……（沈黙）。う〜ん、どっちがいいですか？
——どっちかな〜？って、ボクが決めることじゃないです（笑）。
田村　昔はプロレスが好きな人には「格闘家」って言ってましたね。
——で、格闘技が好きな人には「プロレスラー」って言ってたんですよね（笑）。いま聞かれたらどう言うんですか？
田村　いまは……いまはあんまり聞かれない。でも、意識としては、やっぱり〝プロレスラー〟ですかね。
——あ、プロレスラー。
田村　え？　プロレスラーじゃないですか？
——いや、〝プロレスラー〟っていうものに対する概念の持ち方が僕は、もしかしたら特殊かもしれないんで（笑）。
田村　『紙プロ』っていうのはどうなんですか？　格闘技雑誌なんですか？　プロレス雑誌なんですか？
——『週刊G』の名物編集長によると、ウチはマジメな格闘技雑誌らしいですよ（笑）。
田村　ふ〜ん。で、どう考えてるんですか？
——僕はズッと理想の〝プロレス〟を追い求めてますけどね（笑）。たとえばWWFにしてもバッグンに面白いけど、「あれこそがプロレス」と言い切られると、個人的にはちょっと違う。むしろ、猪木軍vsK—1や『PRIDE』に、〝プロレス〟を感じるほうですね。それはガチンコだとか、そうじゃないとかの問題だけじゃなくて、「あ、こっちのほうが〝プロレス〟らしいなぁ」って感じることが多いというか。
田村　あ〜、なるほどね。

──で、田村さんはどうなんですか？

田村　う〜ん……（沈黙）。じゃあ、間を取って〝UWF〟にしときます!!

──おお、アイ・アム・U！　アイ・ラブ・U!!

田村　はい。

──UWFって、田村さんだけですよね？　いまこだわってるのは。

田村　垣原（賢人）もこだわってると思います。でも、あんまり表現する場所がないんじゃないですかね？　垣原の場合は。でも、UWFっていう枠は、僕の中ではまだ生きてる話なんで。死んではないんですよね。だから、いますぐにでもやろうとは思うんですけど、その辺はね、けっこう、その時代の流れに乗って、隙を見て隙を見て。

──隙間産業（笑）。

田村　はい（微笑）。まぁ、生き残ってナンボですからね。

──今回『PRIDE』に出ますけど、将来はUWFスタイルを復活させたいっていう思いがあるんですか？

田村　もちろんですね。それがあくまで理想なんで。ビジョンとしては頭の中にあるんでね。多分やるとは思うんですけど、いろいろ問題がクリアされれば、やりたいなとは思いますね。

──同志はいるんですか？

田村　一緒にやる同志？……上山（龍紀）を始め、Uファイルのジム生？　それか、賛同してくれる人。

──願望込み（笑）。今度『PRIDE』に出ることは田村さんにとっては〝UWF〟ではないんですか？

田村　UWFとは別ですね。

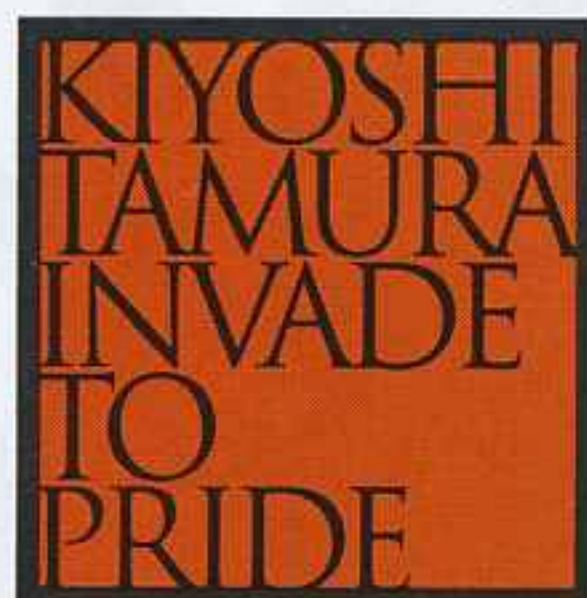
──僕なんかは、むしろ『PRIDE』に田村さんが出ることのほうが〝UWF〟を感じますけどね、観念的には。試合スタイル云々じゃなくて。

田村　あ〜、はいはい。だから、それはそれでもう各自自由に思ってもらったほうがいいと思うんですよね。僕も過去のことはやっぱり否定はできないんで。自分の通ってきた道に対して応援してくれた人、離れていった人っている中で、いろんな幅があると思うんで。

──いままで通ってきた道っていえば、リングスが活動停止宣言をしましたよね。これに関してはどう思ってますか？

田村　それはね、う〜ん………山口さん、どうですか？

──なぜ俺に聞く！（笑）。

KIYOSHI TAMURA INVADE TO PRIDE

小川直也。あの人は凄い。尊敬します。僕があんなブーイング受けたらヘコむ

田村　いや、マスコミにまず聞いてみる（笑）。

──こういう言い方すると怒られるかもしれないけど、タイミング的にはいましかないだろうっていう気がします（笑）。

田村　……これ書きます？

──はい。

田村　か、書きます？

──というか、この時期にリングスが形を変えるっていうのも、やっぱり「前田日明らしいなぁ」っていうか。スパッとやめたじゃないですか？

田村　あぁ、前田さんらしいっていう意味でね。

──だから、そういう意味では、はからずも、時代の先っちょに前田日明はいるんだなぁと思いますね。思いたいというか（笑）。

田村　なるほどね。

──あのまんま団体を運営していくっていうことに固執していても、前田日明らしさもリングスらしさもドンドン削り取られていくような気がしてましたからね。

田村　そうなんですよね。だから、僕の場合は二つ、見方があるんですよ。一つの会社として捉えると他の業者だとか周りに迷惑もかけてないし、選手にも前もって「2ヶ月後に会社をやめる」っていうことも伝えてあるんで、なんら問題はないと思うし。

──何ら問題ないとはいえ、社員や選手はビックリしたでしょうけどね（笑）。

田村　それはつらいでしょうね、やっぱり。つらいと思いますよ。でも、前田さんは10年間リングスを引っ張ってきて、社員や選手に対して給料やギャラの遅滞もなかったと思うし、「ちゃんとした会社だったんだな」とは思いますよね。ただ、もう一つの観点から見ると、やっぱり若い選手とかが、かわいそうかなぁと。

──新弟子たちとか。

田村　はいはい。かといって僕に何ができるわけでもないし。そういう二つの意見がありますかね、僕は。

──田村さんは、いま考えるとなんでリングスを辞めたんですか？

田村　う〜ん。これもね、指のケガがあったし。だからあのまま残ったとしても、選手としての価値はゼロだし。

──ゼ、ゼロ!?

田村　ゼロですよ。だって試合できないんですから。それはもう個人的なグチを言えばキリがないけど、それはそれとしてビジネスとして捉えると、使えない選手はやっぱり使えないわけですよね、会社としては。居残っても会社に迷惑がかかるし。でも、いま振り返ると去年、指を骨折したにも関わらず2試合やったんです。アブダビの試合と……。

──グスタボ・シム戦。同じ4月に2試合。

田村　はい。で、その後、精神的にちょっと追っつかなかった部分もあるし、ケガで選手としての評価もないし。そういう面ですかね。退団の理由としては。でも、リングスの国内の試合は穴を一つも開けてないんですよ。4〜5年間、リングスのメインで引っ張ってきた……そういうプライドの部分でいえば、迷惑もかけてないし、自分のリングスとしての仕事っていうのは、もうやったとは思ってるんで。

──そういう部分での責任感は見えますよね、田村さんって。

田村　責任感はありますね、はい（キッパリ）。

──プロ意識も持ってるし。

田村　はい（キッパリ）。

──ただ、なんか田村さんって、孤立してるというイメージがある。それは何でなんですかね？

田村　わかんないですね。なんでですかね？　やっぱり……（しばし沈黙）。たしかにプライベートで遊ぶ選手っていないですからね、あんまり。坂田（亘）はたまに飲み友達。富家（飛駈）、垣原っていうのも、たま〜にメールのやりとりするぐらいで。だから……自分に言い聞かせてる部分もあると思うんですよ。

──「選手間ではつきあわない」と？

田村　つきあわないっていうか……（しばし沈黙）。

――「仲良しこよしになったらいけない」と自己制御してるっていうことですか？　簡単に言うと。

田村　はいはい。

――そういう孤立の仕方って珍しいですよね、この業界では。

田村　珍しいですね。

――ボクが知ってる限りでは小川直也と田村潔司だけだもんな（笑）。

田村　小川選手は凄いですね。

――オリジナルな孤立の仕方っていうのであれば前田日明という巨大な前例もありますけど（笑）。

田村　でも小川選手はなんであんな……図太いですよね！　オリンピックの金メダルを逃したときにも腕組みしながら会見してて、けっこう、その頃から小川節が出てましたよ。あの頃から変わってないんだなって思いましたね。だからあの人は凄いですよね。尊敬しますよ。あの人がいるから僕もできることです（笑）。僕があんなブーイング受けたらヘコみますもん。

――ガハハハハ！　ヘコみますかーーッ!!

田村　ホントに。

――田村さんこそ、神経が図太いのか繊細なのか、まったくわかんないですよ。

田村　僕、細いですよ～、繊細ですよ～。メチャメチャ繊細。

――自分で繊細っていう人ほど図太いっていう説もありますけどね（笑）。『ＰＲＩＤＥ』参戦は、田村さんの中では必然的なものですか？

田村　必然？……必然じゃないよなぁ……いまとなったら必然かもしれませんけど……周りからの圧力！

――圧力（笑）。でも、流れとしてはＵＷＦ、Ｕインター、ＫＯＫも含んだリングス、そして『ＰＲＩＤＥ』へっていうのは、ごく自然な流れだと思いますよ。

田村　……そうねぇ。

――仮にここで、いきなり「Ｕスタイルをやります！」って言ってたら、全然田村さんが置かれる状況は変わってきますよね。

田村　どうなってきちゃうの？

――多分ファンも戸惑うと思いますよ。「何でいま？」って（笑）。

田村　「どうして？」って。

――と思いますね。

田村　いや、でもね、ＵＷＦスタイルを見たい人はいっぱいいると思いますよ、いまは。なんか参戦が決まって、『ＰＲＩＤＥ』のことをあれこれ言うのはどうかなと思うんですけど……。

――バンバン言ってください（笑）。

田村　いまだにああいう闘い方はあんまり好きじゃないんですよ。矛盾してるのはわかってるんですけど。もうある意味、刺激だけであって、「何が残るの？」っていう感じはあるんですよね。ホント自己満足の世界で、僕の感覚なんですけど、"余韻"っていうのがないんですよ。ＵＷＦのスタイルは、僕は余韻を見せれると思うし、明日への活力になると思うんです。

――観てる人のですよね。

田村　はい、観てる人が。だからいま、業界もそうですし、景気も全体的に落ち込んでるじゃないですか？　で、30代、40代の人に「じゃあ明日がんばろう」っていう活力を与える娯楽みたいなものがなくなってきてるので。だから、僕はジャッキー・チェンの映画とか刑事物アクションとか観ると、次の日絶対マネをしたんですよ。ちょっと１ｍぐらいの段があるとカッコつけてジャンプしたり。

――『ロッキー』観て、シャドーボクシングしたりとか（笑）。

田村　そういう感じ。例えばそういう映画みたいな、活力やエネルギーを呼び起こすものがなくなってきてると思うから、そういうのは残したいなと思いますよ。

――でも、いまの『ＰＲＩＤＥ』は、田村さんが言うところの余韻が残るような闘いが、できるところまできてるんじゃないですか。ああいう闘いにもかかわらず。『ＰＲＩＤＥ』の初期やアルティメットの初期の頃には確かになかったですけどね。

田村　でも、ある一部の選手だけじゃないですかね？　それができてるのは。

――桜庭さんを代表にしてね。だからこそ、ＵＷＦ、リングスを通過してきた田村さんに対しては、たとえ『ＰＲＩＤＥ』というリングでも、それを見せてくれるんじゃないかなっていう期待があるんですよ。

田村　へ、ヘンなプレッシャーはかけないで！

――ガハハハハ！　いやいや、会話ですよ、これは（笑）。

田村　（急に頭を抱えて）もうね、もういいんですよ、僕！

――な、なんだ!?

田村　もういつ、つまずくかわかんないんですから。13年間つまずかないで来たけど。

――これまでつまずいてないっていう感覚はあるんですか？

田村　いやッ、つまずいてても、要は消されなきゃいいわけだから、自分の存在を。だから消されないこと自体、つまずいてな

いと思って。いろいろありましたけど、生き残ってきてるんで。だから「いつ、つまずくか」ってオドオドしてますから。

——田村さんはそう言いながらメチャメチャ本番に強いタイプだからなぁ。

田村　だから！　そういうプレッシャーは……。

——だから、プレッシャーとかじゃなくて会話ですよ！（笑）。シウバにはどういうイメージ持ってますか？

田村　やっぱり力強さもあるし、顔も怖いし、前に出てくるし……動物ですよね。

——動物に例えると？

田村　ゴリラ！（即答）。

——ゴ、ゴリラ!?　そのまんまですね（笑）。

田村　でも動物ですよね？

——動物ですね、確かに。

田村　ああいうのは、反則ですよ、ああいう肉体は。日本人には絶対破れない壁があるじゃないですか。その壁を破いてるから、外人パワーっていうのは。だから力も強いし。イメージとしては、見ての通り、ホントに強いっていうイメージなんで。でも、桜庭との試合を見てると、シウバが劣って見えるんですよね。

——劣って見える？

田村　劣って見えるっていうか、技術的に2人とも凄い高いレベルの試合をしてるから。シウバが例えば他の選手とやると、1ラウンド中に倒したりとか、一方的に押して倒したりするじゃないですか。でも、技術のレベルが上がった者同士がやると、やっぱりしょっぱい試合になるし、「なんだ、こんなチンタラした動きして」ってなると思うんですよ。だからお互いうまいからあいう試合になるんだとは思いますけどね。

KIYOSHI TAMURA INVADE TO PRIDE

——ぶっちゃけた話、突破口は見つけてるわけですか？

田村　（こっそりと）ないです。

——あ、ない。

田村　（ひっそりと）ないんです。

——ホントにないんですか？

田村　ホントはありますけど。

——ガハハ！　やっぱりあるんだ。

田村　ホントはあるけど。あんまりね、もうね……はぁ～（タメ息）。もう、しゃべりたくないんですよ！　面倒くさい！　試合が終わってからじゃないと、ホントに。

——でも聞きますよ、まだ。

田村　全然、それはしょうがないです。

——し、しょうがない！（笑）。

田村　圧力かかってますからね。

「汚い人間」だって言われてるような気がするしね。「恩知らず！」とか

『PRIDE』さんからも『紙プロ』からも。

——嫌みか（笑）。そのシウバ戦はPRIDEミドル級王座が懸かることになりました。

田村　いままで僕が勝った選手で3人、UFCでチャンピオンになってるんですよ。モーリス・スミス、デイヴ・メネー、パット・ミレティッチ。で、ヘンゾとかも、いま世界的にトップ・クラスですよね。そういうチャンピオン・クラスの選手を倒したりとかありましたけど、なんかそれ以上の刺激がある場所だと思うんですよ。タイトルも懸かってるし。だから、これ以上ないお膳立てを用意してくれたんだと思いますね、『PRIDE』さんは。

——タイトルをシウバから奪取したら、『PRIDE』のリングでやりたいことはあるんですよね？

田村　あ、ちょっとだけありますね。

——教えてください。

田村　いやいや、ダメです。ダメですよ！　だって言える立場じゃないでしょ。まだ、ない話だから。一つ言えることは、みんな無責任だなぁと。

——みんなって誰ですか？

田村　いやもう、記者！　記者はみんな無責任ですよ。

——「やるのは俺だぞ！」と。

田村　そう！　そうですよ。

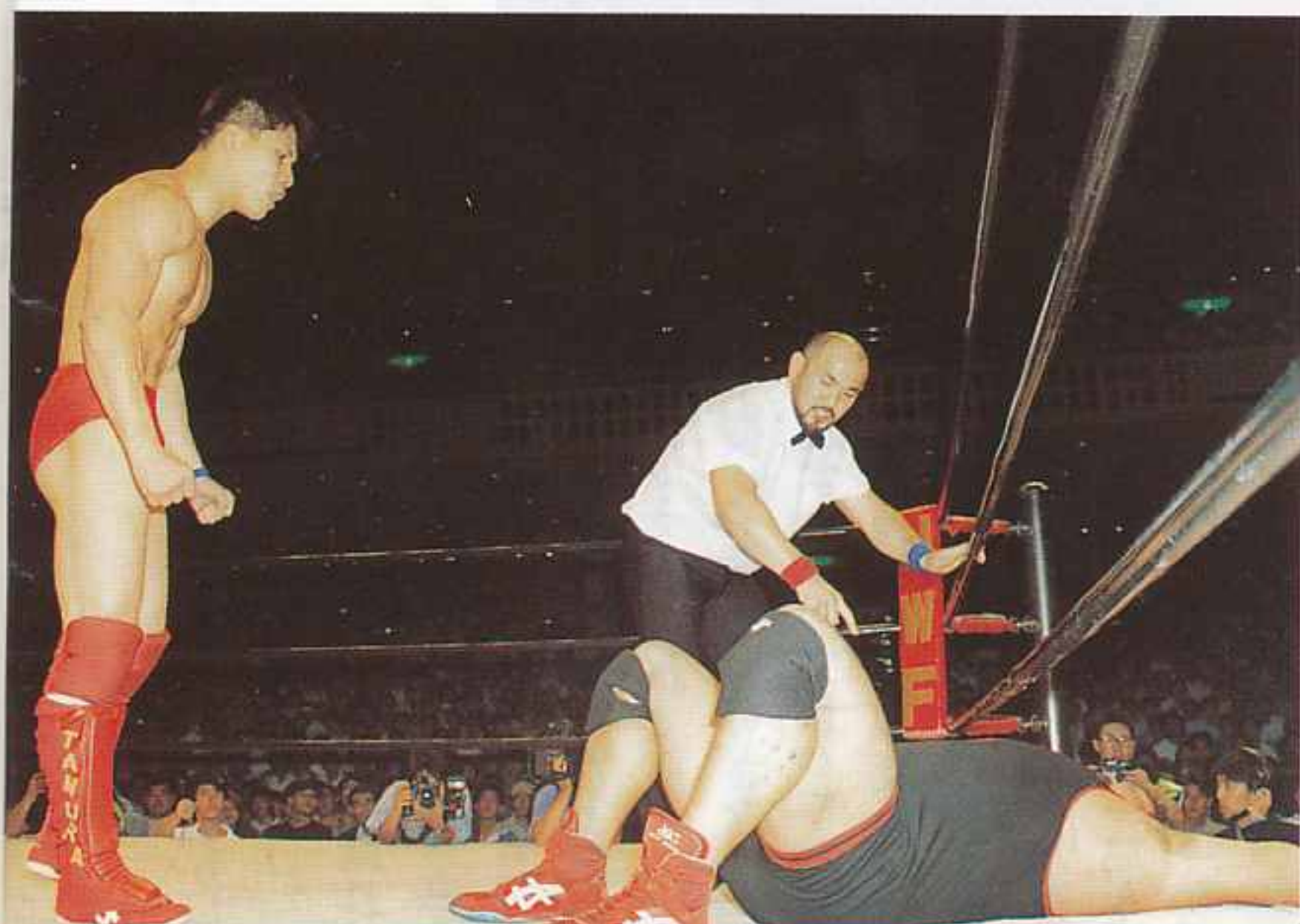
——「お前らがやるわけじゃないんだぞ！」ということですよね。

田村　そう！　それ。基本的にはね、僕は試合後にインタビュー受けたいタイプなんですよ。試合前にはしゃべりたくない。これも『紙プロ』の圧力。

——はぁ？　それは結果がもし伴わなかった場合、カッコ悪いからですか？

田村　はい。

——あ、単純にそうなんですか!?

田村　そうです。卵が先か、ニワトリが先かっていう話になるんですけど。試合後のほうがやっぱりしゃべりやすいですね。でも、今度の試合が終わってからは可能性はいっぱい出てきますよね。『PRIDE』を……これ、けっこうマジメに答えるからダメなんですかね？　流しちゃえばいいのかなぁ、山口さんみたいに……マジシャンのようにねだまくらかせばいい。

【95年6月16日／両国国技館】"第2の前田vsアンドレ戦" と呼ばれた不可解な試合。田村は試合前からイスをリング内に投げ入れるなど、明らかに普通じゃないオブライト相手に終始冷静に対処。ローキックの連打で戦意喪失させ、最後はスリーパーで勝利。田村のハートの強さを見せた一戦だった。

【95年12月9日／名古屋レインボーホール】「PRIDE.1」が開催される2年も前、まだＶＴのセオリーどころかルールも確立される前に、新日本との対抗戦に背を向けた田村は素手による顔面パンチ、ヒジ打ちまで認められたアルティメットルールでＵＦＣ準優勝のパトスミと対戦。圧倒的不利の下馬評を覆し、ヒールホールドでパトスミを秒殺した。

○田村潔司vs桜庭和志●

（8分42秒　足首固め）96・3・1日本武道館

新日本との対抗戦の最中に３大会連続第１試合で行われた伝説の田村vs桜庭戦。Uインターのリングが新日本の色に染まる中、２人は第１試合でハイレベルなUWFスタイルの攻防を披露。この３連戦でUWFファンの間での桜庭の評価が急上昇した、ある意味サクの出世試合でもある。はたして『PRIDE』のリングでこの究極の日本人対決は実現するか!?

―だから、なんでそこで人を引き合いに出す（笑）。

田村　アハハハ。うま～い具合に、ちょっと裏道を通ったほうがいいんですかね？　直球勝負じゃなくて。

―じゃあ田村さんは直球勝負をしてるっていう感覚はあるんですね？

田村　けっこうマジメに答えてますよね。

―あ、それだ！　直球勝負をしてるっていう割には、かわしてるように見えるというか。スカしてるように見えるんですよ。全国１千万の『紙プロ』読者もきっといま頃そう思ってますよ（笑）。

田村　そうですかね？　正直者っていう風には見られないんですかね？

―なんでもいいんですけど、とにかく誤解を受けやすいタイプなことは間違いないですよね？

田村　（頷きながら）間違いない。

―で、さっきのつまずく、つまずかないの話じゃないけど、つまずかないような道筋を通っていくというか、道をつくっていくというか。みんなそこに、ある種の脅威を感じてるんだと思いますよ。

田村　う～ん、そうやってやってるから、「汚い人間だ」って言われちゃうんですけどね。

―そう言われてるんですか？（笑）。

田村　う～ん。なんか言われてるような気がするしね。

―「汚い人間」（笑）。

田村　うん。「自分のことばっかり考えてる」っていうようなな。そういう言われ方をされるのはしょうがないのかなって開き直ってますけどね。だからこれもね、「リングスが潰れたのは田村のせいだ！」っていう言い方をする人がいるわけですよ！

―「田村が抜けなかったら、まだ続いていたはずだ」という（笑）。

田村　「恩知らず！」とか。確かに、リングスがあって僕があるっていう感じもあるんですけど、じゃあ逆の発想では、「僕ひとり抜けたぐらいで潰れるような会社なの？」「僕がいなきゃなんにもできないのか？」っていう風になっちゃうから。で、またもっと辿っていくと、「僕がリングスに入らなかったら、リングス自体はどうなってたんだ？　どこまでもってたの？」っていう気持ちもあるし。……だからあんまりこういうこと自分で言うと、イヤらしいから……あ、言わしてるんだな？

―は？　また僕のせいですか（笑）。

田村　言わしてる！　山口さんが言ってましたってことにしといてください（笑）。実際、逆に僕は騙されやすいタイプだから。僕に近づいてくる人も大きいことを言ってくる人もいるわけですよ。で、実際会うと大したことなかったとか。っていうか、ただ単に一緒に飯を食いに行きたかっただけだとか（笑）。

―いっぱいいますよね、そういう人は。

田村　もうだから、なんか面倒くさいんですよね、人間関係。僕、人間不信だから。

―それはともかく（笑）、『PRIDE』っていうと高田道場っていうイメージが強いですよね。敵地に乗り込むっていう感覚はあるんですか？

田村　はい、あります!!（キッパリ）。でも、『PRIDE』自体っていうのは、団体じゃなく〝場〟だって説明を受けてるんで、その〝場〟に出場するっていう心境ですね。敢えて言えば、僕はもう、田村潔司と『PRIDE』という大きな企業の闘

いだと思ってる‼（キッパリ）。

――『PRIDE』と田村潔司の闘い？す、スケールでかい標的ですね。

田村　はい。だからホントにもう、どっちが生き残るかっていう、いわゆるホント勝負だと思うんで。

――将来、UWFをやりたいということも含めて。

田村　はい。リングスに入った当初は、「リングスを田村色に染める」っていう気持ちで1年目はやってたんですけど、それと同じように、そういう風に染めたいなっていう願望はあります。

――完全に『PRIDE』の中では異分子だけど、面白いですね。

田村　で、どっかにいなくなる……。

――は？　そういうことを言うから「田村は何を考えてるかわからない」って言われるんですよ（笑）。でも、要は「『PRIDE』に飲み込まれてたまるか！」っていうことですよね？

田村　はいはい。

――「『PRIDE』を引っ掻きまわしてやる！」っていうことですよね？

田村　まぁ、そうです。

――そうなったら実に面白いです！

田村　いや、もうホントにね、練習とかしてても、いろ～んなことが頭をよぎりますよ。「もっと練習しなきゃいけない」「これは自分との闘いだ」「試合に勝って、金稼いでやる」とか。なんかいろ～んなのがもう頭に浮かんでは消え、浮かんでは消えするんですよ。だから、何が本当の自分なのかっていうのが、わかんないんですよね。

――何が本当の自分なのかを確認するために試合するんじゃないですか？

KIYOSHI TAMURA INVADE TO PRIDE

田村　そうなんですけど、その試合前の心境っていうのが、もう日に日に考えが変わってくるっていうか、気持ちがおかしくなるって言うか。

――気がふれる（笑）。ルールについてはどう感じてますか？

田村　噛みつきとかそういうのは抜かして、もう何でもありって感じですよね……でも危ないですねえ。

――お茶の間で見てるお母さんじゃないんだから（笑）。

田村　アハハハ。いやホント。相手が四つん這いになってるときにヒザで蹴ったりするって……もう、ダメですよ。ホント、ダメ。あれはダメ。あれをね、子供には見せられないですね。で、あれを子供に見せる親もバカだなと思うし。人にはいろいろ考えがあるんだろうけど、僕はそう思うんで……って僕が言っても説得力は全然ないんでしょうね？

――ダハハハ！　誰に向けて何を訴えてるんだか、よくわかりません（笑）。

田村　俺、なんかねぇ、よくわかんないんですよ。もう情緒不安定になるから。

――面白い人だなぁ、田村さんは（笑）。

田村　だから、もし『PRIDE』である程度発言権っていうか、力がついてきたときには、僕はあれはなくしたいですね。

――〝4ポイント〟はなくしたい？

「リングスを田村色に染める」っていう気持ちでやってたけど、同じ願望はあります

田村　なくしたいです。ヒザで蹴り上げるっていうのは。

――そういうルールへの不安はある？

田村　はい。

――『PRIDE』という大きな舞台に出ていくことも不安材料？

田村　全部、不安ですね。

――相手がシウバっていうことも含めて？

田村　はいはい……不安。

――「不安だらけの人生だから、ちょっと足を止めて考えてみた」って感じなんですかね、いまは（笑）。

田村　もうね、そうしてね、そうやってごまかせばいいんですよね！

――何を！（笑）。でも、ホントはそんなに不安だとは思ってないですよね？

田村　いやいやいや、不安ですよ。怖いです、マジで。毎日エヅいてます。

――ゲーゲーやってるわけですか（笑）。リングス時代もそうなってたんですか？

田村　リングスの場合は、胃にきてましたね。胃が痛くなったり。もう試合恐怖症になってました。メイン恐怖症。

――今度もメインでしょ。

田村　だいぶ間を開けてるんで、その分リフレッシュできましたけどね。

――約10ヶ月ぶりの試合ですからね。

田村　リングス時代のほうが不安はあると思うんですよ。ただ、そこまでいかないにしても、けっこうプレッシャーもあるんで……マジメにしゃべってもいいんですか？

――いや、どうぞ。ふざけたかったらふざけてもらってもいいです（笑）。

田村　だから、逆に不安があったほうがいいかなって。

――そこですよね。その不安やプレッシャーの溜め込み方が適度に大きいときのほう

「PRIDE」無敗を誇った桜庭までもが餌食となった、4ポイント（四つん這い）の相手に対するシウバの打撃攻撃。ある意味、シウバの快進撃はこのルールによるところが大きい。このルールに初挑戦の田村は、"スペシャリスト"であるシウバにどう向かっていくつもりなのか？　ドキドキものだ！

が、本番での爆発力も大きいっていうイメージがあるんですよ、田村さんの場合。

田村　はいはい。

——だからドンドン不安になってほしいと、僕なんかは無責任に思ってますけどね。

田村　いやいやもう、ホントにね……ありがとうございます！（怒）。でも、体張って、人にできないことをやってると思うから、その辺は胸張って言えると思いますけどね。試合をやりたくてもできない人もいるし。そういう人に比べると僕なんか凄く恵まれてるから、開き直ってなんでもできるんですけどね。

——「元気があればなんでもできる」ということですかね（笑）。

田村　そう（笑）。元気があれば……そうですよね。

——会見の翌日にさっそく『東スポ』が、〝桜庭—田村、決戦〟と一面に打ってました。あれを見てどう思うんですか？

田村　僕の売名行為だなと思われなければいいですけどね。桜庭に。でも、もうもうもう……もう好きに書いてもらっていいです。周りは好き勝手に書いてナンボですから。僕としては、ちょっとソッとしておいてほしい気持ちですけどね。

——桜庭さんは、3年ぐらい前に「田村さんとだったら素手でバーリ・トゥードをやってもいい」って言ってましたよ。

田村　す、素手で？

——はい。

田村　僕を殴るっていうこと？　じゃあ向こうがやりたがってるの？

——その当時の話だけど、やるんだったら、素手でもいいってことでしょうね。

田村　そういうことアオるから、ダメなんですよ！

——……あ、僕がダメ？

一昨年2月にヘンゾ・グレイシー、レナート・ババルと1日2連戦、4月にギルバート・アイブル、5月にジェレミー・ホーン、8月にパット・ミレティッチ、10月にアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ。続いて昨年の2月が再びババル、4月にアブダビ、同月にグスタボ・シムと、約1年ちょっとの間に強豪と9連闘してきた田村。この経験が活きるか？

田村　そう（笑）。だからもうね、ホントに実績を作るしかない。それからです。

——日本人同士でバーリ・トゥードやるっていうことに関しては、田村さんはOKなんですか？　TKや桜庭さんは「日本人同士ではやりたくない」って言いますね。

田村　やりたくなくても、プロとしてはやらなきゃいけないときもあるでしょ。でも、仲のいい人とはやりたくないですよ。

——でも、仲がいい選手はいないんですよね？（笑）。

田村　あ、そうか。まぁ、だからそういう意味で言うと、マッチメイク的には広がりますよね。

——実に広がりますね。『PRIDE』というシビアな場に、高田道場、Uファイル、パンクラス、元リングス勢が集って凌ぎ合っていけば、これはある意味、UWFの未来形じゃないですか。

田村　う〜ん。なるほど。それはでも多分、僕らの世代よりも下の世代じゃないですかね？　そういう風になっていくのは。多分いま活躍してる人たちの間では……少なくとも僕はもう、可能性は低いと思います。そういう日本人対決に関しては。それはなぜかと言うと……いや、やめとこ。

——な、なぜだ!?

田村　いや、いまのは逆の意味でハッタリをカマしてみたんですけど。だから終わったら！　試合終わっていい結果が出たら言えることはあると思うんで。はい。

——最後に、シウバから王座を取れる確立は、自分でどれくらいだと思ってますか？

田村　ゼロか100ですね!!

——最後にやっと明確な答えが出た気がしました（笑）。面白い方向に『PRIDE』を掻き回すことを期待してます。

【1月16日／東京・六本木アートセンターにて収録】

★次号は早いゾ!!『PRIDE.19』3秒前徹底大特集！（2月23日発売）

田村潔司KOK全FILE
Kiyoshi Tamura 1999.11-2001.4

構成／堀江ガンツ designed by hisa (Two Three)

#01 ○vsディヴ・メネー
[2R判定] 99.12.22 大阪府立体育会館

田村のＫＯＫ初戦は、前ＵＦＣミドル級王者メネー。開始早々いきなり左ストレートからバックを奪うなど、終始ペースを掴み「ミスター判定勝ち」から逆に判定勝ちを奪った。

#02 ○vsボリス・ジュリアスコフ
[2R1分17秒 裸絞め] 99.12.22 大阪府立体育会館

１回戦でＴ・レイシックからタップを奪ったブルガリアのレスリング王者にチョークからの一本勝ち。"エース"として負けられない重圧から解放された田村は涙を流した。

#03 ○vsヘンゾ・グレイシー
[2R判定] 00.2.26 日本武道館

「ＵＷＦ」と「グレイシー」の看板を賭けた天下分け目の一戦。「Ｕのテーマ」で入場した田村は、ヘンゾの寝技を完封し、逆に腹固めを極めるなどして判定勝ち。武道館が揺れた！

#05 ×vsギルバート・アイブル
[2R13分13秒 KO]
00.4.20 代々木第二体育館

ＫＯＫルールとなって初となる無差別級王座防衛戦。ルールを最大限に利用するアイブルの嵐のような猛打に轟沈したが、この試合が田村のＫＯＫベストマッチという声も多い。

#06 ○vsジェレミー・ホーン
[2R判定] 00.8.26 東京ドーム

船木vsヒクソン戦のセミに、レガース＆素手というＵＷＦの出立ちで登場。パンチが打てないハンデを自ら背負いながら、あのジェレミーを下した一戦はもっと評価されていい。

#07 ○vsパット・ミレティッチ
[2R判定]
00.8.23 大阪府立体育会館

現役のＵＦＣライト級王者を完封したこの一戦。当時はあきらかな判定狙いの闘いぶりが物議を醸したが、実力者ミレティッチ相手にこの闘いができるのは実は凄いことだった。

#08 ○vsグロム・ザザ
[2R判定] 00.10.9 代々木第二体育館

20キロ以上の体重差を跳ね返して、グルジアの五輪レスラーであるザザに判定勝ち。実はこの勝利でＶ・ハンらロシア勢の田村に対する評価がグンと上がったという裏話もある。

ありがちな企画こそ重要!

一目でわかる 田村vsシウバ徹底比較

田村潔司

1969年12月17日（32歳）180cm、87kg。
U−FILE CAMP

［主なタイトル］
初代&3代リングス無差別級
第1回KOKベスト4

- ○vsディヴ・メネー 2R判定 99.12.22
- ○vsボリス・ジュリアスコフ 2R1分17秒 裸絞め 99.12.22
- ○vsヘンゾ・グレイシー 2R判定 00.2.26
- ×vsレナート・ババル 2R判定 00.2.26
- ×vsギルバート・アイブル 2R13分13秒 KO 00.4.20
- ○vsジェレミー・ホーン 2R判定 00.5.26
- ○vsパット・ミレティッチ 2R判定 00.8.23
- ○vsグロム・ザザ 2R判定 00.10.9
- ×vsアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ （2R2分19秒 腕ひしぎ十字固め）00.10.9
- ×vsレナート・ババル 2R判定 01.2.24
- ×vsグスタボ・シム 2R判定 01.4.20

ヴァンダレイ・シウバ

1976年7月3日（25歳）182cm、90kg。
シュート・ボクセ・アカデミー

［主なタイトル］
IVCミドル級
PRIDEミドル級

- ○vsカール・マレンコ 判定 99·9·12
- ○vs松井大二郎 判定 99·11·21
- ○vsボブ・シュライバー 2分42秒 チョークスリーパー 00·1·30
- ×vsティト・オーティズ 5R 判定 00·4·14
- ○vsトッド・メディーナ 1R 0分38秒 KO 00·8·12
- ○vsガイ・メッツアー 1R 3分45秒 KO
- ▲vsギルバート・アイブル 1R 0分27秒 無効試合（シウバのローブロー）00·10·31
- ○vsダン・ヘンダーソン 2R判定 00·12·23
- ○vs桜庭和志 1R 01:38 TKO 01·3·25
- ○vs大山峻護 1R 00:30 TKO 01·5·27
- ○vs桜庭和志 1R 10分0秒TKO（ドクターストップ）01·11·3

＊田村はKOK以降、シウバは「PRIDE」参戦以降の戦績です。

#04

×vsレナート・ババル

［2R判定］ 00.2.26 日本武道館

打倒、グレイシーの大仕事をやってのけた田村は、やはり緊張の糸が若干切れてしまったか、15キロ以上の体重差のあるババルを攻めあぐね、初のＫＯＫは準決勝で姿を消した。

#09

×vsアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

［2R2分19秒 腕ひしぎ十字固め］
00.10.9 代々木第二体育館

ＫＯＫ屈指の名勝負となったこの一戦。田村はノゲイラの寝技地獄を凌ぎまくり、館内は大興奮。最後はノゲイラの技術の前に屈したが、勝負論と観客論が見事に合致した。

#10

×vsレナート・ババル

［2R判定］
01.2.24 両国国技館

ＫＯＫ２回戦で敗れた田村はワンマッチでババルとの雪辱戦に出場。しかし、20キロの体重差がありながら明かな判定狙いのババル相手に突破口を見いだせず、大凡戦に……。

#11

×vsグスタボ・シム

［2R判定］ 01.4.20 代々木第二体育館

指を骨折していた田村はグローブなしで登場。パンチが打てない分、引き込みに活路を見いだそうとしたが、いい所なく判定負け。寂しいリングス最後の試合となってしまった。

1月いっぱいで新日本の武藤敬司が終わる。後悔はしてない

【武藤敬司・1月18日】

馬場さんは引き抜きが嫌いでしたし（中略）馬場さんがしなかったことは私もしません

【馬場元子社長・「週刊ゴング」No.903】

全日の青森大会をプロモートしていいですか

【ケンドー・カシン「週刊ファイト」No.1794】

12月11日全日大阪大会後、馳と同席した安達勝司の店での発言。大みそか決戦前から、カシンの心は全日行きに傾いていたのだろうか？

（この騒動の黒幕という説に対して）推理小説なら面白い

【馳浩・1月20日「スポーツ報知」】

カシン、小島フロントが離脱

分裂

（武藤には）破壊王の称号をあげたい

【橋本真也・1月17日「スポーツ報知」】

オレたちは永遠にテンコジだから

【天山広吉・1月24日新日後楽園大会】

小島との最後のタッグを結成した天山は試合後「違うリング、全日本でもどこでも頑張れよ！」と涙ながらに絶叫。誰もが「テンコジは永遠」と呟きたくなる瞬間だった。

新日本はほっといても潰れる

【アントニオ猪木・1月8日】 新日内部では、12月中から囁かれていたという大量離脱。それを見越した上でのアントン総帥の爆弾発言か……。

全日入り後、3年後には株式上場も狙っているという離脱組。蝶野はホームページで二日間に渡りビジネス面で蠢く野望を徹底糾弾した。

株式公開で一発当てるのが夢か
新日本を潰したいだけか

【蝶野正洋・アリストトリストHPより】

(武藤が)いなくなったら、オレのギャラが上がるかもなあ

【安田忠夫・1月18日】

(マスコミに武藤ら離脱の新聞を見せられ)いま初めて知った。信じられない。裏で話ができているんだろう

【佐々木健介・1月18日】

武藤、カシ…
中枢を担うプロ…
新日…

このところ、タヌキもキツネも出てこないと思ったら今回はメギツネまで顔を出したな

【坂口征二・1月21日「東京スポーツ」】

永島勝司取締役、元子社長との“次期全日社長就任”の密約に、長州激怒!?

【「週刊ファイト」No.1749】

結局、武藤に禅譲の線が濃くなった全日社長の席だが、こんな仰天密約が発覚!? 真偽は定かではないが、「週プロ」で元子社長は「永島さんには本当に感謝している」と何度も述べているだけにあり得ない話でもなかった!?

そのとき新日は“死んだ”

【「東京スポーツ」・1月20日】

石井館長の「6・6藤田vs永田によって新日が本来の姿から離れた」という新日批判を受けての過激な見出し。ちなみに藤田vs永田は「東スポ・プロレス大賞」年間最高試合に選ばれている。

コメントで振り返る新日分裂騒動

ドリー（ファンクJr.）さんに教えを請ううちにもしかしたら新日本より全日本のほうが一段高いレベルのレスリングをやってるのでは？という疑問を抱きました。ただ、いまの全日本には自分の理想とする70～80年代の全日本を受け継いだ方は2～3人しかいらっしゃらないですからね。移籍って決断には至らなかったです

【1月22日】（西村修）

いま高く売らないで、いつ売るんだよ

【1月16日】

（T2000入りについて）金さえくれたら入るかも

【1月23日】（安田忠夫）

違う意味で新日を揺さぶった安田の銭ゲバ騒動。バンナ戦のギャラでも揉めていると報じられているだけに、まさしく本領発揮である。

全日本の名前を捨ててやってきた。それを自分で否定することはできない

【1月16日】（三沢光晴）

馬場社長と確執がある以上、全日マットでの武藤戦実現の可能性は限りなく低い。猪木磁場から離れても問題はあるのだ。

再編という言葉が当てはまるかどうかわからないけど、選手と会社、お互いの信頼関係というのを見直す時期がきてるのかもしれませんね。でも、ファンの視点から見れば（この騒動は）血脇肉踊るものだと思うんですよ。総合格闘技やK―1のファンも注目してるし、逆に流れを引き寄せるチャンスでもあるんじゃないかな。新たに帆を掛け直し、この危機を乗り越えることを期待するしかないですよね。

（辻よしなり・談話）

連日、新聞紙上を賑わしたこの分裂騒動。スキャンダルをビジネスに転換させてきたのが新日本の歴史ではあるが、今回ははたして……。

大激怒！"DON"蝶野が武藤を斬る！

一向に口を開かないドラゴンに成り代わってか、TV、新聞、ホームページなどで見解を示す蝶野。それは、離脱組、アントン総帥との微妙な三角関係を顕わにするものだった。

キャリヤ10年前後の、レスラー（小島、カシン）&社員の選択は、オレも理解できる。しかし、武藤を含めた連中は、重要なポストを持ち、彼等の下で仕事をしてきている社員&レスラーを移籍時の材料に利用し、荒らすだけ荒らした後、後始末もしないで、美味しい情報だけ持ち逃げした、運び屋に成り下がった

【アリストトリストHPより】

いまも毎年、猪木さんがつくった台風がやってくる。敵前逃亡したとしか思えない

【1月20日・テレビ朝日「ペスポジ」】

オレは武藤と違って、自分が住んでる家は捨てない。猪木の侵略から新日本を守ってみせる

【1月21日】

新日分裂騒動の流れ

1/15

見てみい、この分裂騒動を忘れてしまうかのようなドラゴンスマイル！　何人の関係者の神経を逆撫でしたことであろうか。

カシン、契約保留！ドラゴン「この時期になると出てくる話」

もはやこの時期の名物となり、誰もが「またか！」と思ったに違いないケンドー・カシンの契約保留。しかし、交渉に当たった倍賞取締役は「こちらから無理に引き留めるようなことはしない」と離脱を容認するコメントを発表。カシンも猪木事務所に足を運ぶなど、本格的な総合系進出を感じさせたが……。この事態に対してドラゴンは「この時期になると選手からそういう話が出てくるが、今日、答えられることはありません。すべてが終わったあとで必要とあらば話します」と、全選手の契約が住み次第、すべてを総括するという社長らしい考えを明らかにした。

1/16·17

正直、知らんかった！健介、新聞で武藤離脱を知る

選手、フロント大量離脱へ！　17日に各紙が一斉に伝えたこの電撃ニュースだが、契約交渉ため新日事務所を訪れた健介は、「いま初めて知った。信じられない」と「武藤退団」を伝える新聞を記者陣から渡され、食い入るように立ち読み。主力選手とは信じられない、実情の知らなさを表面化させた。

1/18

武藤、退団！ドラゴン、事後報告で知らされる

「1月いっぱいで新日本の武藤敬司が終わる。後悔はしていない」。離脱騒動で渦中の武藤敬司の新日退団が正式に決定した。また、同じく退団濃厚とされていた小島聡も新日サイドに退団を通達。カシン、武藤に続く3人目の離脱者となった。武藤らが"プロレスLOVE"の旗印のもとにすすめる純プロレス路線。そして筆頭株主であるアントニオ猪木が推進する格闘技路線。そのプロレス観の食い違いから起こった今回の離脱劇。武藤が猪木という磁場から離れ、どういうシーンを形成していくかに注目が集まる。一方、常に猪木磁場に狂わされ放しのドラゴンは、この日行われた田中稔・府川由美婚約会見に参加したため、遅れて事務所に到着。武藤と倍賞取締役の話し合いの最中であったが、ナゼか加わることなく事後報告で武藤退団を了承。相変わらずの実権のなさぶりを感じさせたが、「23日にすべてを話しますよ」と、総括に拘る社長としてのスタンスを強調した。

（1月11日全日大阪大会終了後）
この1ヶ月で大きな事が起きる
始まりは2月1日
【週刊ファイトNo.1748】

（武藤らの）退団の真相？ 知らない
【1月19日】（馳浩）

馳先生黒幕説が語られる中で、誰もがツッコミを入れたに違いない「知らない」発言。ホントに知らなかったら、正直、スマン！

（馳が武藤の全日入りの橋渡し役を名乗り出たことに）
さすが将来、大臣になる人は違うな。ハセバ秀吉だよ。オレは信長として、違うやり方で天下を目指す。まだ具体的には決めていないけどな
【1月22日「スポーツ報知」】

まあ、ミソはA経理部長が出たということで凄いことじゃないの？ 新日の黄金時代、その前からの金の流れを全部知っているからね（中略）武藤らしいやり方だと思うよ
【「週刊プロレス」No.1074】

一気に周辺が慌ただしくなった破壊王。破壊王の行動によってマット界の勢力図も一変することのは間違いない。だが、誰もが「言葉と行動は慎重に！」と叫ばずにはいられない。

デスマッチは興味があるのと、おっかないのと半々。葛西選手は好きだし。あとDDTのポイズン澤田JULIEさんが好き
【週刊プロレスNo.1074】（小島聡）

藤田、大谷、安田らが、新日を離れ外の世界でキャラクターを確立させただけに、新たなる小島聡も見えるのだろうか？

「このババア！」……を全日マットで期待せずにはいられない

〝ケンドー・カシン劇場〟

アントン総帥や長州には恩を返したというカシンが全日本に戦場を移すのはまだ恩を返していない馳がいるため。理由は何にしろ、全日フロントに悪態をつくカシンが見られるわけだ。

馳先生には何も（恩を）返してない（新日離脱の）俺の気持ちを止められるのは中西のマッケンローぐらい中西の超プロレスが見られないと思うと……
【「週刊ゴング」NO.902】

俺は親友の中西が、新日本を退団して全日本に移るって噂を聞いたから追随した。ところがその噂はガセネタだった。中西には最後の最後までだまされた…。一体、どうしてくれるんだ？ ブッチャーとタッグを組みたい
【「東京スポーツ」1月21日】

1/20・21

蝶野、武藤ら退団者に吠える！

蝶野が退団者に大激怒!! 20日深夜にテレビ朝日系の『ペスポジ』に生出演した蝶野正洋は「敵前逃亡してるとしか思えない」と、猪木という磁場から離れた武藤らを徹底糾弾。一部報道で、この退団劇に対し「長期的かつ用意周到な計画」と怒りをにじませた蝶野は「今後のことは藤波社長の決断に任せる」というムチャな要求をしながらも、反猪木として全面対抗する構えを明らかにした。翌日の21日には、成瀬、垣原、「闘魂クラブ」の矢野通の入団が発表。緊急ミィーテングも開かれ長州が復帰の意思を固めるなど、新日は戦力を充実させこの難局を立ち向かうことになる。

1/22

瀬戸際のドラゴン、アントンに119番

離脱騒動で瀬戸際のドラゴンが、ロスに滞在するアントニオ猪木・筆頭株主（またはアントン総帥）と電話会談したことを明かした。武藤らの離脱をいまごろになって報告したドラゴンは「猪木さんの反応？ みなさん想像できることでしょう」と、隠してもしょうがないことをウヤムヤにしたが、「組まれてる試合は出る」と言っていた武藤の発言については「ない！」と力強く一刀両断。信憑性は全くなかったが、倍賞取締役も「出ていく人間が試合に出られても」とコメントしてことで真実性は一気に帯び、武藤、カシンが持つIWGPのベルトハク奪まで事態は発展したのである。

1/23

新日、武藤の名を歴史から抹殺!?

新日本プロレスマッチメーク委員会が開催され、今後のカードなどの協議が行われた。ハク奪の決まった武藤・太陽組のIWGPタッグ王座、ケンドー・カシンのIWGPジュニア王座の扱いは発表されなかったものの、武藤、カシンのベルトはこのまま剥奪される模様。また、新日本は武藤のグッズをすべて定価以下で販売することを決定。ベルトをハク奪し、新日本のグッズ売り上げの約7割のシェアを持つ武藤のグッズも一掃することによって新日の歴史から名を消すつもりだ。ちなみにこの日にすべてを話すと明言していたドラゴンは「後日、正式にお話しします」と、思ったとおり決断を先送りにした。

1/24

猪木襲来間近にドラゴン、蝶野、長州無言…

後楽園ホールで小島聡が、号泣の新日本ラストマッチを行った。小島との〝最後のテンコジ〟を勝利で飾った天山は「ふざけんな、タコッ!! 出て行けッ!! 全日本でもガンバレよ、エーッ!! わかったか」と涙ぐみながら手荒いエール。それを受けて、小島は感涙と共に新日のリングをあとにした。またこの日、新日本は後楽園大会直前に、選手＆フロントを集め〝緊急決起集会〟を開催。内容は不明で政権を明け渡す寸前のドラゴンも多くを語らず、蝶野、長州も無言。聞こえるは帰国が間近に迫るアントン総帥の足音と、混乱に乗じて契約条件をつり上げる安田の銭ゲバ笑いだけである。

1/25

アントン総帥緊急帰国！ そして……

1|25

馳が大見得切ってるようだがバカじゃないか! アントン、怒りの緊急帰国!

【アントン怒りの成田会見】

負け惜しみではなく、現実をどうとらえるか、素直にどうするかということ。若い人が決起するかもよ。新日本はラッキーだよ。オレみたいのがいるから。武藤には武藤の生き方があり、新日本には彼の居場所がなくなった。選択はそれでいいと思う。ただ、インターネットで見たから詳しいことは言えないが、馳が大見得切ってるようだ。バカじゃないか！　国会議員辞めろ！　この経済情勢でやることがあるのに納税者や選挙民は怒るだろう。大仁田にも言ったようにだったら議員辞めてプロレスに戻って来りゃいいじゃないか。馬場のかあちゃんのどうのこうのじゃない。馳は本当に情けないなあ。（新日フロント陣について）藤波らの返答次第では、オレも手を打つ。外部からフロントに大物を入れる。ミスターXとでも言っておこうか。ンムフフフ！

訴える内容を見てからでないと（元子社長）

藤波の「法的手段」発言まで飛び出した今回の騒動。馬場社長は、武藤らとの話し合いは契約が切れる2月になってからと述べているが……。

、アントン帰国で 火がついた!

「新日本が乱れ、混乱したときこそ俺の出番!!」……とばかりにアントン総帥が1・25に緊急帰国をはたし、一気に一連の離脱騒動に対し動き始めた新日本プロレス。

帰国早々アントン総帥は、今回の騒動の黒幕を「馳浩」と断言し、「納税者に失礼！政治で活躍してくれよ」と怒りをまき散らせば、それまで沈黙を保っていた藤波社長までもが〝怒りのドラゴン〟に変身！「腹ワタが煮えくり返っていた！」といまごろになって、全日本への法廷闘争も見据えた〝徹底抗戦〟を訴えた。

しかし、そもそも武藤らの離脱の原因は、新日本の筆頭株主でもあるアントン総帥が強引に推し進める〝プロ格〟路線への反発、との見方が大方を占めている。

たしかに「プロレスLOVE」を掲げる武藤らにしてみれば、「居場所がなくなった」（アントン総帥曰く）と思ってもおかしくない。移籍先の全日本プロレスで、アントニオ猪木という磁力の効かない世界を構築しようとしているわけだ。

その武藤に、〝王道女神〟馬場元子・全日本社長から社長の座が禅譲されるとか、新生・全日にはテレビ放映の話、メディア展開の話、はたまた孫正義氏のソフトバンク社がスポンサーにつくなどのビックリ仰天な未確認情報も伝えられている。

まあ、そういったビジネス面のプランは別にしても、小島やカシンという強烈なキャラが共に移籍する以上、アントン総帥の磁力の効かない世界の構築に準備はすでに万端なのかもしれない。ドラゴン調に言うならば〝知恵をつける〟馳先生もいるわけだし。

逆に、選手ばかりか中枢を担うフロントもまで失った新日本の旗色は当然悪い。

30周年を前にしてそんな大危機に陥った新日本にアントン総帥は、2月1日に行われる新日札幌大会で幹部、全選手を緊急召集！　建て直しを計る〝闘魂注入〟を行う。

が、はたして足並みは揃うのだろうか？

〝反・猪木〟を公然と掲げる蝶野の存在も新たな火種になりかねない。

大量離脱者騒動、ア

新日に怒りの

「国会議員の馳」絶対に許さん!!! ドラゴン、怒りの徹底抗戦！

【ドラゴン怒りの会見】

契約が終わるまでは言葉を控えていましたが、ハッキリ言って腹わたが煮えくり返っています。納得いかないのは前もって離脱が予測されてて、選手に知恵を付けている者がいると。国会議員の馳。大義名分として構造改革とかプロレスのことを政治の話に置き換えてきれいな部分で謳っているけど非常に腹立たしい。ハッキリ言います。全日本と戦争します。法的な手段に出るかは、いまは迂闊なことはいいません。ただ法的なものを含めて戦争です。猪木さんにも言いたいことは言った。3年前、なんの意味で俺を社長にしたのか。任期のある間はやりたいことをやるし、言いたいことを言わせてもらう！　もう腹は括ってます。

何も存じません（馳浩）

離脱騒動当初から黒幕と噂された馳浩国会議員は「直接話し合ったほうがいいと思う。まあ、私は何も存じませんが」と否定した。

ピンチのときにはアントンにすがりつくドラゴンにしても「3年前、なんの意味で俺を社長にしたのか。任期のある間はやりたいことをやるし、言いたいことを言わせてもらう！」と、いちいちツッコミを入れたくなるコメントであくまで社長の座に固執。

そんなドラゴン率いる（？）新日フロント陣に苦言を呈し続けるアントン総帥は、「外部から強烈なヤツを送り込まないといけないかもな。大物・ミスターXとでも言っておこうか。ンムフフフ」と、飛ばしまくる。

さらには、選手本格復帰の意思を固めた長州の不気味な沈黙後の矢はどこに向かって放たれるのか？

そして同じく沈黙を続ける天龍は、このまま武藤色に染まる全日本で一体何を……？

外を見渡せば、三沢率いるノアや破壊王が新日本と微妙な関係で交錯している。

安田、石澤といった新日本の選手が度々登場し、多大な影響を及ぼしている『PRIDE』やK―1にしても、こうなった以上、なんらかの影響が出てくるのは明らかだ。

しかも、そんなマット界には、まだまだ激震は襲う。

年末には、「ミスター高橋本」がマット界を襲ったわけだが、3・1には遂に〝黒船〟WWFがスポーツ・エンターテインメントを高らかに謳い上げ、上陸してくる。

ここ数年、『PRIDE』に代表される総合格闘技に圧迫されていた新日本は、今度はエンターテインメント方面からも挟み撃ちにあうことになるわけだ。

どうなる、どうする新日本プロレス！

そして馳浩を黒幕とした一派はドラスティックな方向転換を見せることができるのか。

とにかく2月1日には、アントン総帥が〝激〟を飛ばす新日本・札幌大会が行われ、武藤の全日との交渉が公に解禁となる。この日を境に、新日の運命のダイスが転がることは間違いない！

この号が発売されているころには、さらなる激震がマット界を襲ってるかもしれない。

（構成／ジャン斉藤）

1年前、新日をクビになった男
橋本真也が語る
新日分裂騒動！

控えおろう！

最近の破壊王のトレードマークになっている印籠。近々、ZERO—ONEロゴ入り印籠が直営ショップ「火乃國屋」で発売予定! それは欲しい!!

これからは、橋本・武藤・蝶野

三国志の時代や!

今年は春から激震三昧！『猪木祭り』での安田の劇的勝利、そして1・4新日ドームでの小川対健介戦への大ブーイング。それらの話題を一気に吹っ飛ばしたのが、武藤、カシン、小島、さらにフロント数名の新日離脱騒動である。残念ながら『紙プロ』では新日系の選手の取材はできないので、この男に話を聞いた。新日が乱れ、混乱したときこそ破壊王の出番！　橋本真也選手の登場です!!

聞き手／松澤チョロ　構成／坂井ノブ　撮影／寺島耳男
designed by hisa (Two Three)

——今度、ZERO—ONEの事務所内に直営のショップが出来るそうですけど、店の名前は決まってるんですか？

橋本　まだ発表前だけど『紙』のインタビューだから特別に教えてやるよ。

——ありがとうございます！

橋本　（自信たっぷりに）『火乃國屋』！

——紀伊国屋のパクリですか！（笑）。

橋本　直営店やからな。それに高級そうやろ（笑）。もう、お客様は神様ですから！

——そうですか（笑）。で、今日はどうしてもお聞きしたい話がありまして……ズバリ、新日本分裂騒動のことなんです。『紙プロ』的に、新日本の選手は取材できないので、ここは橋本さんに語っていただければと思って来た次第なんですけど（笑）。

橋本　ハッハッハッ！　いや、俺に聞いたってアイツらの本心は分からないから。俺はもう、日頃、新聞に言ってる通りや。

——橋本さんは新聞でも相当面白いこと言ってますからね（笑）。実際、武藤（敬司）選手離脱の第一報を聞いた時っていうのは、正直、驚いたって感じですか？

橋本　まぁ驚きはしたけどな。要するに、武藤ちゃんがそうせざるを得なかったと考えた時に、俺はまず背景を考えるから。「なぜこうなったのか？」という背景をね。俺が去年そういうことをやってるから……やってるからって俺はクビになったんだ！　一緒にせんといてくれ！（笑）。

——自分でツッコミを入れないでください（笑）。今回の騒動と橋本さんの時とは全然違うわけですね。

橋本　武藤ちゃん達が今回どうだったかは、詳しいところまではわからないけどな。残されたヤツらにとっては、これはチャンスなんだよ。だけどな、残されたヤツらは武藤ちゃん達のことをバッシングすると思う。「そんな次元じゃねぇだろ！」って俺は言いたいけどね。だって、武藤ちゃんは新日本に貢献してきた人間だろ？　去年は東スポ大賞のMVPも取ってるわけだし。一番プロレス界に貢献した人間やぞ！　それが契約満了で「辞めたいから」って言って辞めていく……俺はそこに憤りを感じるよ。でも、これはチャンスなんや！　良くなるためには一回壊さなきゃ。

——まさに「破壊なくして創造なし」と。

橋本　そう！　ホントそんな状態になってきたから。新日本もここで変わらなかったら、また何年後かに同じことが起きると思うよ。これは間違いない！（キッパリ）。新日本がそれでもいいんだったら構わないし。ただ新日本は猪木さんの会社だからな。潰すようなことはないと思うし、猪木さんなりが入ってきて、いろんなことやれば面白くなるんじゃない？

——なるほど。連日新聞を賑わせてる橋本さんの発言ですけど、最近一番面白かったのは腐ったミカンの例えなんですよ（笑）。『東スポ』（1／19日付）「今の新日本は新鮮なものを外に出して、腐ったものだけを箱に残している」と言ってましたよね。

橋本　意味わかるやろ？

——ええ、金八先生ネタですね（笑）。

橋本　新しいミカンをドンドン入れたって、一個のミカンにカビ生えて緑色になってたら、みんな伝染していくだろ。そういうことを言いたかったんだよ。

——で、新鮮なミカンが、「俺は腐ったミカンじゃねえ！」と金八の加藤優ばりに大暴れしちゃうみたいな状況で（笑）。

橋本　でも、それがいい状況とは言えないよな？　新鮮なミカンが一番上にある時はいいけど、段々、箱の中に混じって下に行ったりなんかして、そのうちカビに触れる

ことがあるんだよ。触れちゃったら最後、カビを生やされちゃうんだから。まあ、俺が望むことは2つ！（語りかけるように）蝶野、新日本救ってくれよ！ってこと。救うというか、まとめてくれよ！　これは俺の故郷への想い。蝶野がいるからこそ言える言葉や。蝶野がいなかったらこんなこと言わないよ。（急に声が大きくなり）それから武藤ちゃん！　俺も去年の経験があるけど、今までのね、過去の栄光を捨てて行くようなもんだから。ホントにイバラの道だと思うよ。それを敢えて武藤ちゃんがやったっていうことは、武藤ちゃんもまだまだ熱いんだろう。だからこそ、大義名分を貫いて、全日本行くんだったら全日本で武藤敬司っていう存在感をしっかりアピールして、プロレス界のために頑張ってくれ！

——他にも（ケンドー）カシン選手であったり、小島（聡）選手も武藤選手に追随するような報道がされてますけど、その2人についてはいかがですか？

橋本　武藤ちゃんについて行くんだったらついて行って、頑張って欲しい。だってプロレス界のためを考えて動くわけでしょ？　移籍だとか離脱の理由なんて、まず第一にプロレスを面白くするためであるべきなんや。その次に人間関係がくる。「どうしてもこれは譲れない」「これだけは許せない！」っていうのは絶対あるからな。

——カシン選手なんかも口に出してますけど、今回の件は馳（浩）さんの影響が凄い大きいみたいですね。

橋本　まぁ大きいんじゃないの？　でも、要は武藤ちゃんが動いたから、ここまでの大騒ぎになってるんだよ。馳が動いてどうにかなる問題じゃないから。ただし、そういう別の参謀的なことをやらせたら右に出るものはいないよな。頭脳という凄い武器を持ってるから、みんなが恐れるのも当然だよ。まぁ、もっと言えば、馬場さんが武藤を引き寄せたっていうことだろうな……（と空を見上げる）。

——天国から引き寄せたんですか……。

橋本　武藤ちゃんが天国行かされちゃったら困るけどな（笑）。馬場さんが全日本に武藤を呼んだんだろう。

Shinya Hashimoto

「俺は聞いてない」って、武藤ちゃんが健介なんかに言うわけねぇじゃねぇか！

——エッ!?　元子さんじゃなくて、馬場さんですか。

橋本　ああ、馬場さんの、目に見えない意思があるんだろう、俺にはそうとしか考えられないな。

——橋本さん的には武藤選手が移籍する全日本よりも、ノアとの関係を現時点では優先するんでしょうか？

橋本　そりゃ、そうやろ。

——それは武藤選手の方とも協力関係は結んでいきたいけど、欲を出して両方に手を出したら壊れることもあるんで、現時点ではノアっていうことなんでしょうか？

橋本　現時点でって言うよりも、これが俺の道だから。ノアさんとZERO－ONEの関係は去年の3月とか4月頃のまんま、止まってるから。その続きを追求するのは俺の役目だし。ノアが「ノー」って言ったら知らないけどな（笑）。で、それもやりながら、武藤ちゃんが来る前から、俺は全日本…というよりも天龍さんと話をしてるから。それはそれでやらせてくれ！　これには信念があって、両天秤とかそういう次元でものを言われたくない！　俺がやろうとしてることは何だって言ったらプロレス界のベルリンの壁を崩壊させることだから。

——ベルリンの壁、崩壊！　ですか。

橋本　だから、常にいろんなところと交流ができなきゃダメなんだ！と。ただでさえ、いまプロレス界がナメられてる状況で「プロレスこそ本当に面白いんだ」っていうことを証明せにゃいかんだろうが！　そのためには、くっだらねぇさ、邪魔をするヤツらはホント潰してやりたいよ、みんな！

——ただ、武藤選手のことを「敵前逃亡」猪木さんの圧力から尻尾を巻いて逃げ出した」と蝶野選手が批判してましたけど、こういう対立構造はどうなんですか？

橋本　……表立ってのコメントはあれでいいと思うよ。はっきり言っとくと、蝶野だってあんなこと言いたくねぇはずだよ。でも、なぜ蝶野がそういう発言をするかっていうのは、もう完全に新日本の中の自分が選手の代表だという、みんなを迷わせないために断腸の思いで言ってるんだよ！　これだけは俺が代弁してやる。

——代弁しますか（笑）。蝶野体制になれば、新日本はよくなると思いますか？

橋本　うん。蝶野がIWGPのベルトを取ってくれれば、俺たちも氷が溶ける可能性もあるから。

——おっ、そうなんですか？

橋本　ただ、アホの（佐々木）健介とだけは絶対話をしないぞ！（怒）。

——ア、アホですか!?　でも、相変わらずというか、健介選手も藤波社長もそうなんですけど、今回の離脱騒動に関しては「俺は聞いていない」「何も言えない」って感じでしたけど……。

橋本　（遮って）武藤ちゃんが健介なんかに言うわけねぇじゃねぇか！　これは、はっきり書いといて。「お前らなんかに誰が言うんだ？」」って。お前らなんかアホだから誰が相談するかよ！

——またストレートな（笑）。

橋本　散々、俺らを陥れてきて、上に泣きついてさ……なぁ!?　誰がお前となんか

としゃべる？　あいつは相談魔なんだよ。

――誰に相談してるんですか？

橋本　上だろ。あんなの親友ともライバルとも思ってないよ、俺は！　たぶん、武藤ちゃんも蝶野も同じ気持ちだと思うぞ。あいつとは試合する気もないよ。あいつだけは俺は男と認めてないから！（キッパリ）。

――男とも認めてないですか!?（笑）。

橋本　おう！　ホント、カスだよ。上に告げ口したりするヤツ、大嫌いなんじゃ！

――告げ口とかそういうことは一切言わないタイプに見えますけどね。

橋本　表向きとは全然違うからな。あんなの大嫌い！　アイツだけは認めん！　小川もそこのところが嫌でああなるんだから。約束破りの……ホントむかつく！　何言われようが、お前は俺らを追い越すことは絶対出来ない！　ハッキリ言ってやる！

――（圧倒されて）わ、わかりました。では、藤波社長はどうだったんですかね？

橋本　いや、藤波社長には俺もお世話になった憶えもあるからな……まぁ俺とは性格が合わないから。俺は決断しかしない人だから。

――藤波社長は決断しても、すぐに引っくり返すイメージがありますよね（笑）。

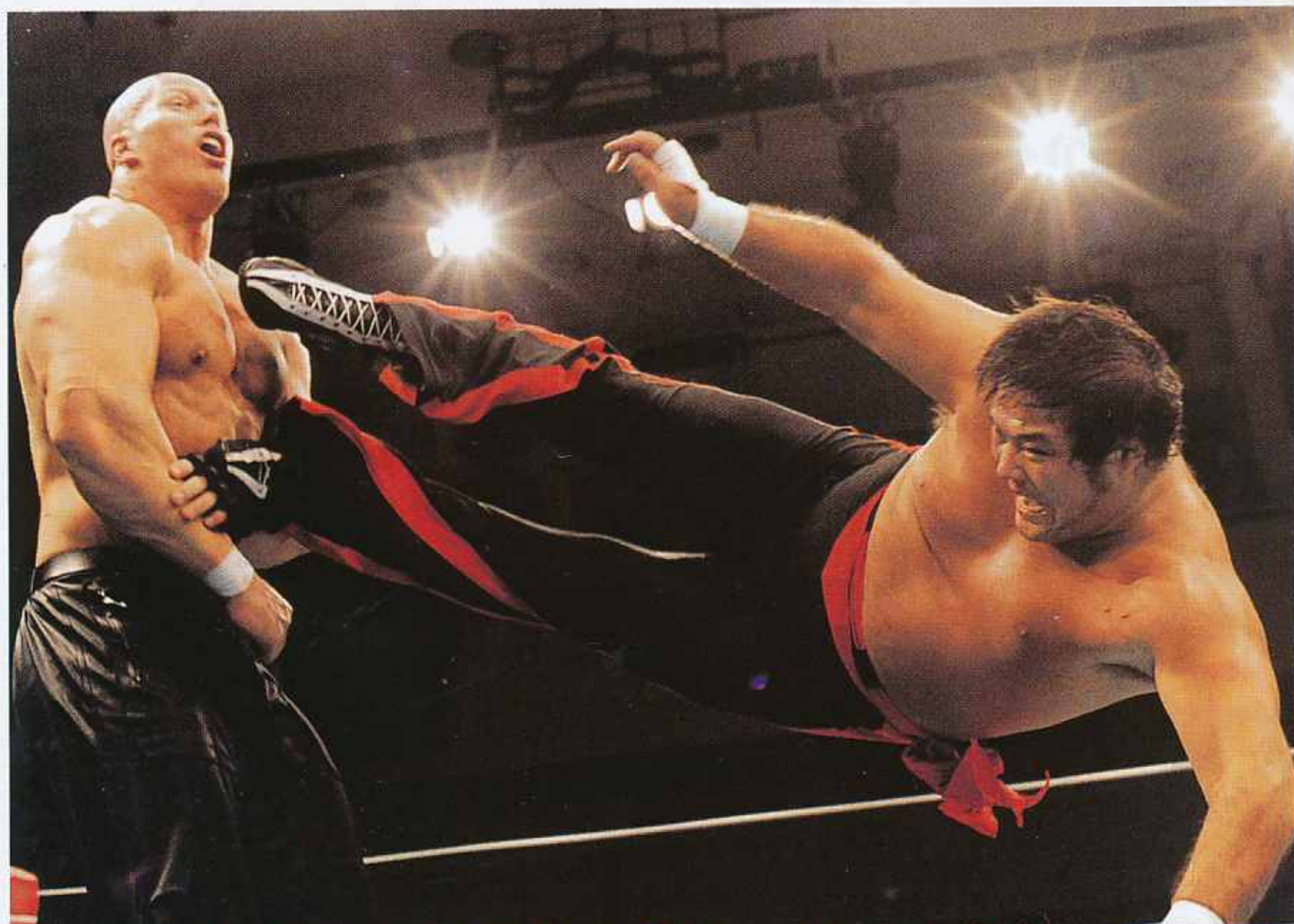
橋本　しょうがないよな。でも、ZERO―ONEの新しい道場が出来た時、「これは新日本の第二道場とする」なんて藤波社長に言われたんだぞ？「何を眠たいこと言ってるのかな？」と俺は思ったよ。「道場探してこい」って言ったのは、あなたですよと言いたい！　俺が自分で物件を探してきて、団体を作ったら、いいスポンサーも引っ張ってきたんだから。「お前の道場じゃない」って言われたんだから。どこに、そんな話あるかって！（怒）。

――武藤さんと橋本さんの件も同じように見ているファンも多いんですかね？

橋本　ファンもつまらんこと考えんな！　アングルでもなんでもねぇぞ、この件は！　大体、アングルなんて言葉をファンが知る必要もないし。俺たちプロレスラーはそんな、くだらねぇことしねぇよ。くだらない連中が新日本に巣食ってる限りは、また何年かしたら同じことが起きるだろうけどな。（猪木）会長が新日本に入ってやった方がいいだろ？

――逆にそういう形は蝶野選手が、あんまり望んでいないような気はしますけどね。

橋本　うん、確かにな。路線が違っちゃうから。だからこそ、今は蝶野がやんなきゃダメなんや！　それぐらい思い切ったことしないと改革なんか出来ねえぞ!?　改革には犠牲を伴うんだから。武藤ちゃんだって好きで新日本辞めたんじゃないよ。ウチの大谷（晋二郎）だって高岩（竜一）だって、好きで新日本辞めたヤツなんて誰一人としていないぞ！　それは長州力が維新軍でやったこと（※編集部注：新日を離脱してジャパンプロレスを旗揚げした長州だったが、結果的には新日に戻ってきた）とは絶対違うからな！

――大谷選手は「いまでも新日本を一番好きなのは俺だ！」って言ってますね（笑）。

橋本　ただし、もう何を言おうが戻ることはできないし、戻ったところでもう遅いんや。だから、そういう気持ちを捨てないのはいいことだと思う。でも、もう帰れないんだよ！　よく言うだろ？「ふるさとは遠きに在りて思うもの」ってな（笑）。人間っていうのは後ろに下がることはできないんだ。前に進むしかないんだよ。

――一説には、武藤さん達の方が用意周到に準備を進めていたんじゃないかって言われてますけど。

橋本　そりゃそうだよ。こういうことは用意周到にやらなきゃ。普通に考えたら、こんなことやらせるわけないじゃん？　それを「汚い」とか言ってる場合じゃねえよ！　もっと汚いのはテメエらだろうが!?（怒）。

――「テメエら」っていうのは新日本の一部の人間のことですよね？

橋本　ヒントをやろう。「ひと～つ、人の世、生き血をすすり……ふた～つ、不埒な悪行三昧！」ってな！

――アハハハ、出た！　桃太郎侍！　新日離脱のときに、通称タヌキ・オヤジに向けて歌ったヤツですね（笑）。そういえばタヌキで思い出しましたけど、坂口征二会長が「このところタヌキもキツネも見なかったけど、牝キツネが顔を出してきた」と言ってましたね（笑）。

1・6後楽園大会で、破壊王はNWAヘビー級の初防衛戦でネイサン・ジョーンズと激突。210cmのジョーンズに久々にドロップキックをかますなど、絶好調ぶりをアピール。その後、花道を引き揚げる破壊王に対し、観戦していた極真・小笠原和彦氏の「お前のキックはハエがとまる」発言をきっかけに場内大乱闘！（後に抗争は終結）。他にも、この日はプロレスの醍醐味爆発の試合が続出！

橋本　坂口さん？　言うの遅いよ！　言うんだったら10年前に言えや！　坂口さんは武藤ちゃんの仲人だし、俺にとっては親代わりだよ！　ちゃんと慕ってるんだから、そんなこと言っちゃダメやっちゅーねん。（息子の）憲一の面倒だけ見ときゃいいんだよ！

——アハハハ！　でも、こういう状況になって安田選手なんかは逆にチャンスかもしれないですね。

橋本　大チャンス！

——「武藤さんとかいなくなったら俺のギャラも上がるのかなぁ」とまた呑気に言ってましたけど（笑）。

橋本　あのなぁ（苦笑）。まだそんなこと言える身分じゃねぇよ！　『猪木祭り』でやっと男を取り戻したんだから、そこがスタート地点だと思えよ」と言いたいな。

——なんか猪木さんとギャラで揉めてるのが表面化してますね。

橋本　こないだ、あいつと会ったんだけど「バカ！」って言ってやったよ。それでも「いや、この前の試合に関しては（ギャラは）もらいます！　会長はギャラ8000万円って言いましたから！」って言ってたけどさ、「お前、何年プロレスやってる？」って感じだよ（笑）。でも、チャンスであることには変わりないよ。いままで絶対、アイツにはIWGP王座なんて見えてこなかったじゃない？　ところがアイツがその射程距離に入ってきたんだから。ホント、どこで何が起こるかわからないよな。

——他にも、この状況がチャンスになる選手はいますかね？

橋本　中西（学）も今こそ浮上しないとアカンやろ。小川（直也）がどうのこうのと言ってる場合じゃねぇっての。永田にボーンっと取って代わられて、チャンスをことごとく逃してね。新婚生活でイチャイチャしている場合じゃないんだよ！　ホンットに……。『紙』だから、ここまでしゃべってんだぞ！

——ありがとうございます！（笑）。でまぁ、最近は音沙汰がない小川さんなんですけど、橋本さん的には2人のタッグでノアに上がるという方向性には変更はないと？

橋本　うん。もちろんその方向で話をするけどね。ただ、あとは小川の名誉挽回の場所を作ってやらないとな。

——それはホント期待したいです！　そういえば、大仁田さんが「アフガニスタンで小川直也に挑戦したい」っていうことを言ってましたけど。

橋本（呆れて）せぇや！

——大仁田選手なりに、沈滞しているプロレス界を盛り上げたいと言ってますけど。

橋本　あなたの思想が、プロレス界に反映されるとは思えねぇよ。アフガンで何すんだ？　試合するよりもビン・ラディン捕まえてこんかい！

——先生だったら、それぐらいしろと（笑）。

橋本　そうや！　お前が捕まえてこいよ！

——それぐらいしたら認めてやると（笑）。でも、今回の分裂騒動で武藤・全日、蝶野・新日、そしてZERO—ONE・橋本と闘魂三銃士が完全にバラバラになりましたね！　これで再びライバル関係がうまくまわっていけば、プロレス界は確実に面白くなりますよね。

アホの話題はもういい！「武藤ちゃんと蝶ちゃん頑張れ！」って、でっかく書いとけ！

Shinya Hashimoto

橋本　うん、面白くなる！　これが将来的にね、蝶野が新日本を掌握して、それから対外的な面でもリーダーシップを発揮するようになった時はすっげぇ面白いと思うぞ。まあアホの健介じゃダメだけどな。

——アハハハハ！　こだわりますねぇ。

橋本（吐き捨てるように）「チ●カスッ!!」って書いといて。まぁ、アホの話題はキリがねぇから、あんなヤツのことなんか書かなくてもいい。「武藤ちゃんと蝶ちゃん頑張れ！」って、でっかく書いとけ！

——でっかく書いときます（笑）。もちろん、俺も頑張るぞ、と。

橋本　あったり前や！　で、いつか、くだらん理由を取り払って、それぞれ率いてやろうやって。それが俺たちの、闘魂三銃士の役目じゃないの？　これからは"三国志"って書いといて。

——三銃士ならぬ三国志（笑）。

橋本　あ～、叫びまくってスッキリした！

——ところでZERO—ONEの方でも、近々契約更改って聞きましたけど、何か動きはありますかね？

橋本　明日、あさってだけどな。なんだよ、動きって？（笑）。

——不穏な動きというか（笑）。

橋本　ウチの選手は右手でコク動きしかねぇんだよ！（と実演）。

——アハハハ！　素晴らしい！（笑）。

※

【取材後記】このインタビュー翌日に行われた契約更改では新日にも優るとも劣らない不穏な動きが続出！　1／25日付の『東スポ』情報によると、『きちんとした格好が印象がいい』とアドバイスされた佐藤（耕平）は交渉の席に黒のタキシードで登場。橋本以下、役員をア然とさせた」り、「崔はその上を行く。『プロレスラーは体が資本。練習の成果を見てもらいたい』と考え席に着くなり服を脱ぎ始めた。リングコスチューム姿の崔は、鍛え上げた体を見せ付け意気揚々と契約書にサインした」という。やっぱ、ZERO—ONE最高ーッ！

【02年1月21日／ZERO—ONE事務所にて収録】

いいグッズを「♪さ～がしてる、い～まも～」なキミに朗報！

ZERO—ONEオフィシャルショップ

『火乃國屋』オープン！

インタビューでも再三、話に出ていた直営店「火乃國屋」が前月26日オープン。こちらでは公式グッズはもちろん、カマクラジムやLAボクシングジムのグッズも販売。今後はZERO—ONEとダブルネームのグッズも開発中とのこと。さらに店内ではNWAヘビー級＆タッグのベルトや、あの"火祭り刀"も展示されている。君も「火乃國屋」で熱いヤツになれ！
【問い合わせ】東京都港区芝2-30-11-6F
ZERO—ONE事務所内　TEL.03-5730-3966

年をまたいだ二大ビッグマッチ

12/31『猪木祭り』&

1/4『新日ドーム大会』を

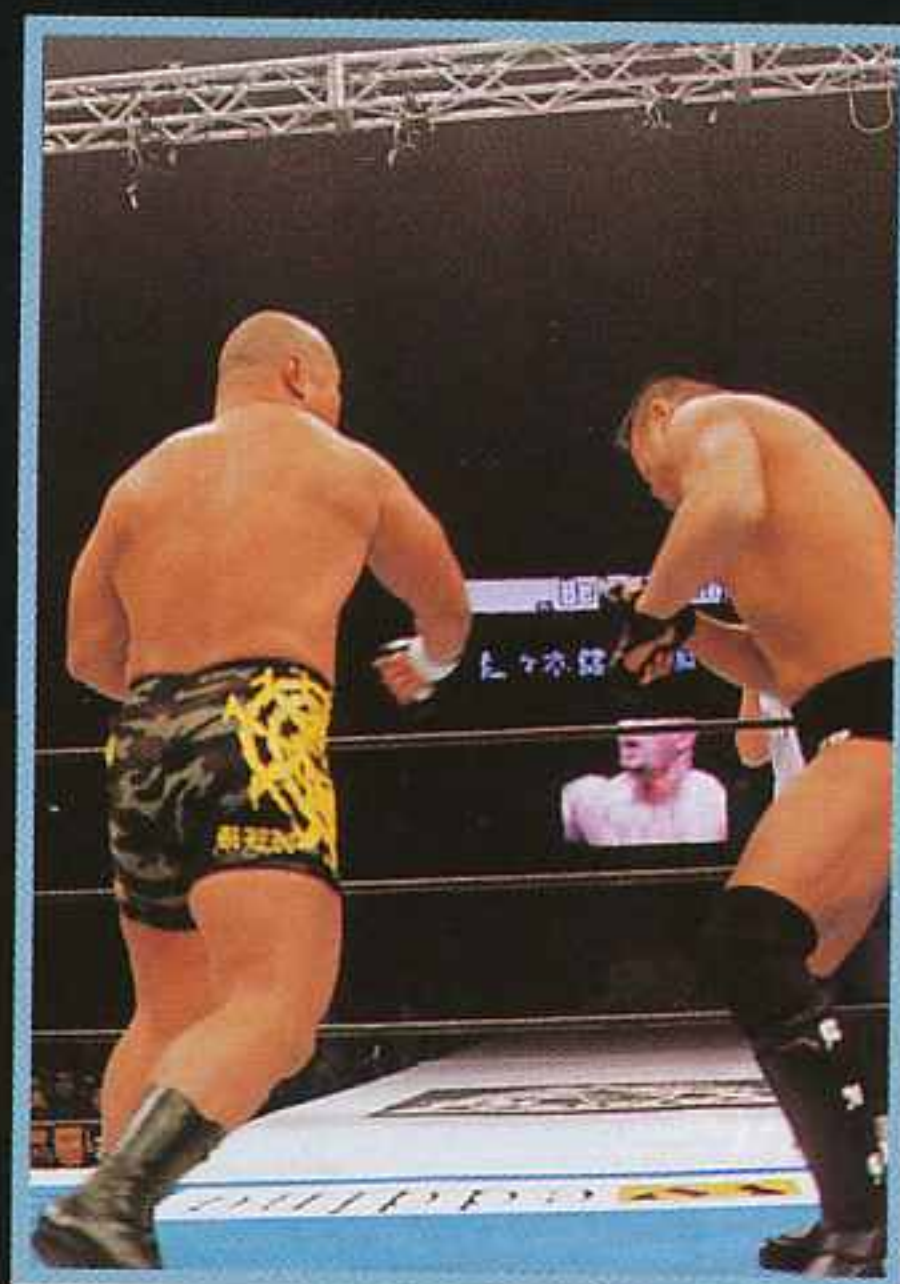
解き明かす!!

この道を行けばどうなるものか……

『紙プロ』読者が選んだ2001年ワーストレスラー

小川直也よどこへ行く!?

サスケ、辻アナ、I編集長は『猪木祭り』&1・4に何を見たか!

昨年の大晦日に行われた『猪木祭り』、毎年恒例の1・4新日ドーム大会。
武藤離脱に始まる"新日分裂騒動"が勃発する前のマット界は、
この二大ビッグマッチの話題で持ちきりであった。
日本中を感動の渦に巻き込んだ安田忠夫(&娘)の人生激勝!
そして『猪木祭り』を蹴って挑んだ小川直也と佐々木健介の無効試合。
紅白を向こうにまわし驚異的な視聴率をはじき出した『猪木祭り』と、
大ブーイングに包まれた1・4新日ドーム大会。
いま、アントン総帥は、どの道を行こうとしているのか?

なぜだ!?『紙プロ』読者が選ぶ
"2001年度ワーストレスラー"は

オーちゃん!!

一体これは何を意味するのか?

小川よ、君の闘う場所にゃ海より大きな夢はある!?

断言します！　これからのプロレスは「プロレスを超えたプロレス」しか生き残っていけません。

合い言葉は、オーバー・ザ・プロレス!!

I編集長こと井上義啓さんがよく言ってる「“プロ格”（プロレスの匂いがどこかに存在する格闘技）でなければ、もう商売にならない」というのは、まったくその通りだ。

紅白を裏に回し、ふだんなら30％に換算される、14・9％という奇跡的な視聴率をはじき出した昨年大みそかの『猪木祭り』——。

新日本とノアのトップ対決という謳い文句があったにも関わらず、ゴールデン・タイムで8・2％しか取れなかった「新日本1・4ドーム」——。

この数字が如実にそれを現している。

『猪木祭り』のメインを張ったのは“ブーテンのヤス”こと安田忠夫。レ・バンナ相手にこれもまた奇跡の勝利を呼び込んで、偶然にも感動の親子愛まで演出してしまった。

確かにベタベタだった。しかし、むしろベタベタだからこそ、偶然の出来事に絡んでくるエネルギーが、より遠くに届きまくった。

まさに、これはプロレスの匂いがどこかに立ち昇る格闘技。純プロレスの別バージョンとして行われる“プロ格”マッチではなく、「プロレスを超えたプロレス」だった。

この『猪木祭り』や『PRIDE』、あるいはK—1が、なぜマット界の中心にドカンと居座るようになったのか。

その答えは簡単だ。

ガチンコだからである。ガチンコを軸にしたエンターテインメントだからだ。

ガチンコだけが善で、それ以外は悪だと言ってるわけではない。

昨年末の「ミスター高橋本」の出版、3・1の“黒船”WWFの来襲、新日本分裂騒動、すべては線で繋がっている。

プロレスにはケーフェイというものが存在する。つまり、“共犯関係を結ぶための控”のことである。どんな世界にもケーフェイは必ず存在する。

しかし、それにも賞味期限がある。

従来のプロレスのケーフェイはすでに賞味期限切れになっている。

マニアックなファンは、賞味期限が少しづつ切れていくケーフェイの臭気を楽しんできた。しかし、その“古いケーフェイ”は、もうすでに腐ってしまっていて、さすがのマニアでも臭気を楽しむどころか、その匂いには吐き気しか催さない。それがプロレスの現状である。

小川が蹴った「猪木祭り」で、見事に国民的ヒーローとなった“ブーテンのヤス”。小川にとって「猪木祭り」に出なかったことは吉と出るのか凶と出るのか、答えはまだ出ていない

再生させるには“新たなケーフェイ”をつくるしかないのだ。

プロレスの新たなケーフェイ、それがガチンコである。一番原始的で、それでいて新鮮で光り輝くケーフェイ、それがガチンコだったのだ。目からウロコである。

このケーフェイの前にはマニアやスレッカラシのファンは近寄れない。腐りかけの臭気が洩れてくるのを少しづつ楽しんでいたマニアには、新鮮でマブしすぎるのだ。『猪木祭り』や『PRIDE』、あるいはK—1になじめないマニアがわりと多いのはそういうことである。ガチンコという名の“共犯関係を結ぶための控”の前に立ちすくんでしまうわけだ。

「プロレスの匂いがどこかに立ち昇る格闘技」——それ以外にも、もう一つ商売になるものがある。

“過剰な脚本と肉体表現”を軸にしたエンターテインメント。つまり、WWFも「プロレスを超えたプロレス」なのだ。

WWFのいまの手法も、新たなケーフェイをつくり出したといえる。これはよく言われることだが、あの世界を見て「八百長」だなんだという言葉は出てこない。見事な“共犯関係を結ぶための控”をつくりあげている。

「プロレスを超えたプロレス」とは、古いケーフェイを捨てさって、新たなケーフェイをつくりだすことをいう。

そこで小川直也だ。

オーちゃんは、『紙プロ』読者1104人から取ったアンケートの中の「2001年度ワーストレスラー」のダントツの1位だった。一昨年までは毎年MVPやMVP候補に上がっていたオーちゃんが、だ。

『猪木祭り』出場を蹴ったこと、アントン総帥に“銭ゲバ”と言われるほど金に固執しているというイメージがついたこと、試合数が少ないこと、印象に残る試合がなかったこと——理由はある程度考えられる。

しかし、『猪木祭り』に出なかったのもオーちゃんの生き方だし、“銭ゲバ”というイメージがついたから株が暴落したということでもないはずだ。しょっぱい試合を繰り返しているレスラーは他にいくらでもいる。たしかに期待が大きいから反動も大きい。でも、どれも一番の理由ではない。

ファンは敏感に感じ取っているのだ。“新しいケーフェイ”の世界をつくり出す旗手として動いてほしいオーちゃんが、去年1年、すでに賞味期限の切れた“腐ったケーフェイ”の世界上浮遊していたことを。

オーちゃんは、ガチンコに出ていくことを一番望まれているのは確かだが、ファンからしてみれば、せめてもう一方の「プロレスを超えたプロレス」だったら面白かったのに、という願いを込めてワーストに票をいれたのではないだろうか。

つまり、同じノーコンテストになるなら、1・4ではなく、3・1のWWFでロック相手にノーコンテストを演じるくらいの針の振り方をしてほしいということだろう。

“古いケーフェイ”の世界でどっちつかずで浮遊している存在ではないという思いが、小川直也を「2001年度ワーストレスラー」の座に見事に輝かせた。

小川よ、君の闘う場所にゃ、海より大きな夢があるはずである。「プロレスを超えたプロレス」を見せてくれ、オガワーッ!!【Y】

『紙プロ』読者1104人が選ぶ“2001年度ワーストレスラー”

順位	選手	ポイント
1st	小川直也	315pt
2nd	髙田延彦	210pt
3rd	長州力	105pt
4th	小原道由	98pt
5th	佐々木健介	90pt

『紙プロ』読者が選ぶ2001年度ワーストレスラーは、小心者協会（©ノブ兄さん）の2人が仲良く上位を独占！　オーちゃんは期待が大きかった分、試合数の少なさや不発ぶりがファンには目立った1年となったのだろう。今年は健介戦でスタートしたが……!?　2位の髙田総裁はミルコ戦＆ベルナルド戦のブーイングがそのまま反映された結果か。それでも、もう一丁ッ！

『猪木祭り』で安田、成瀬の次に目立っていた男!

ザ・グレート・サスケ

紅白歌合戦の裏番組にもかかわらず、14.9%という驚異的な視聴率を叩き出した、昨年大晦日の『猪木ボンバイエ』。一方『バカ殿&モー娘。』の裏で、視聴率が二桁にも満たずに惨敗した1・4新日本ドーム大会。この曰く付きの両大会に参加した数少ない男、ザ・グレート・サスケに両大会の壮絶な(?)舞台裏を聞いた!

聞き手/松澤チョロ　助手/寺島耳男
designed by matsu (Two three)

俺はプロレス部門での猪木軍! 呼ばれたら、なんでもやりますよォオオ!!

——大晦日の『猪木祭り』で、いきなりのサスケ登場に驚いた人は全国に3千万人はいると思うんですけど。しかも、シルバを必死に止めながらっていう(笑)。

サスケ　いるだろうねぇ。だって俺が驚いてるんだから(笑)。

——サスケさん自身も驚いたと(笑)。今回はどういった経緯で?

サスケ　それは俺が聞きたいよ!(笑)。そもそも第1回の『猪木祭り』を思い起こしてみると、あの時も3~4日前に「ちょっとやらないか?」って話になってね。『猪木祭り』の要請っていうのは、いつ来るのかわからないっていうのが俺の中であるんだよ。

——でも、一回目とは趣旨が違って、昨年は「猪木軍 vs K—1」っていうのがメインだったじゃないですか?

サスケ　でしょ? 普通に考えると俺が入る余地なんてないわけよ。ないんだけど、「なんかあるんじゃないか?」って心の準備だけはしてたけどね。そしたら電話が来たと。この電話がまたトンチが効いてたんだ、今回は(笑)。

——トンチを効かせたのは誰ですか?

サスケ　島田レフェリーからの電話だったんだけどね。「猪木さんからのメッセージです。『サスケは飛べるのかい? ンムフフフ』って言ってました。どうも失礼します」って、それだけなんだよ。

——アントン口調で言われたと(笑)。

サスケ　そう(笑)。「飛ぶのは俺の本職だぞ—!」と。そうなると俺も飛ぶ人間としては、これ、血が騒ぐわけよ!

——飛ぶ人間としては(笑)。

サスケ　もう、何が起こるかわからないから前日の夜に東京に入ってスタンバって、という状況だったんだよ。で、30日の夜中過ぎに島田レフェリーに会って、「結局どうなるの?」って聞いたら、「まだわからない」って。「もしかしたら『PRIDE』系の選手と組んで、『PRIDE』&プロレス混合のタッグマ

THE GREAT SASUKE

ツチをやるかも」って。「スペーヒーやノゲイラが出るかも」って言うんだよな。

——サスケ&ノゲイラ組は見たかったですね（笑）。結局、スペーヒーは元ワンギャルのアリーネとかと一緒に棺を担いでましたけどね（笑）。

サスケ　そうそう（笑）。で、よく事情を把握しないまま、眠りについたと。

——何もわからないまま大晦日を迎えてしまったわけですね（笑）。ミスター高橋本じゃないですけど、打ち合わせとかもないままに（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　そんなもん全然ないよ！　で、大晦日迎えて、「もう、なるようになれ！」っていう感じで、あとは皆さんご存知のとおりで（笑）。

——ご存知のとおり、ジャイアント・シルバを必死に止めてましたね（笑）。

サスケ　なんで俺が止めてるんだっていう話なんだけどな（笑）。

——謎かけだらけというか（笑）。

サスケ　ホントに、やってる本人が謎だらけだよ！（笑）。まあでも、紅白仮面はプロレス的な動きだったんで、なんとかなったけどね。

——正体は誰だかわからないですけど、『ファイト』には思いっきり出てましたね。「紅白仮面（正体は日高郁人）」って（笑）。まぁ、ホントかどうかはボクには、わかりませんが（笑）。

サスケ　いやいや、俺も全然わかんないんだよ！（キッパリ）。

——そうなんですか（笑）。

サスケ　でも舞台裏で日高は見かけたよ。「なんでいるのかなぁ」って（笑）。

——アハハハ！　舞台裏に（笑）。

サスケ　でも振り返ってみるとさ、猪木さんが卍固めを決めてゴングが鳴った瞬間っていうのは、俺はちょっと悔しかったんだよね。

——何が悔しかったんですか？

サスケ　そもそも「サスケは飛べるのかい？」って言われて、「飛びます、飛びます！」って二郎さんじゃないけども（笑）、そんな感じで来たんだよ。でも、結局、俺は飛んでないんだよな。

——あぁ、そうですね。「なんで、そうなるのかなッ」って感じで（笑）。

「猪木祭り」では、アントンが紅白仮面と闘ってる最中にシルバが登場！　そのシルバがリングに入るのを阻止しようと試みたのが、誰あろうサスケ！　そのあとシルバに吹っ飛ばされたものの存在感を示した。明けて1・4新日ドームでもタイガーを引き連れ元気にサスケ見参！　花道でディック東郷に高角度バックドロップをくらい痙攣。こちらでも存在感を大いに示した。

サスケ　うまいッ！（笑）。でも、「飛ばないで終わっちゃった」っていう悔しさは残ったね。フィニッシュの時、ちょうどシルバが場外にいたんで、「飛ぼうかな」って思ってたんだよ。そしたら猪木さんがマイク取って「ザマァミロッー！」って言い出したからさ（笑）。

——自分が言われたような気になったんじゃないですか？

サスケ　そうそうそう（笑）。「俺にかよ？」って（笑）。それでお客さんも出来上がっちゃったから、なんか猪木さんと一緒になってガッツポーズ取っちゃったりしてね（笑）。結局、試合が決まる前から試合が終わるまで、ずっと猪木さんに翻弄されっぱなしだったよ（笑）。でも嬉しかったけどね。

——もし、猪木さんから「サスケ、バンナと頼む！」って言われたら、サスケさんはどうしてましたか？（笑）。

サスケ　俺はとにかく「やれ！」って言われればなんでもやるよ！

——素晴らしい！（笑）。

サスケ　ただね、俺はプロレス部門での猪木軍のつもりでいるから。だから、年末は『猪木祭り』の盛り上げ要員として使ってもらえればと思ってるしね。

——でも使ってもらうからには、「飛ばせてくれよ！」と（笑）。

サスケ　そうそう（笑）。「今年こそ飛ぶぞー！」みたいなね。

——で、『猪木祭り』は安田さんの勝利で大成功に終わったわけですけど。

サスケ　安田さんの試合は、俺はアレクと二人で見てたんだよ。勝った瞬間、抱き合って喜んだからね！　もう二人で思いっきり泣いちゃってさ。

——やっぱり泣きましたか。

サスケ　俺も祝福しに安田さんの控室の方に走って行ってね。そしたら、走って行く途中にすれ違ったTBSのスタッフも泣いてるんだよ。みんな泣いちゃって中継にならないと（笑）。でも、あれはもう、本当にアリーナ中というか日本中が感動したよね。

——いやぁ～、感動しましたね。

サスケ　以上、ザ・グレート・サスケの舞台裏レポートでした（笑）。

——ありがとうございました（笑）。その感動的なフィナーレの『猪木祭り』とは逆に、1・4新日ドームは小川vs健介戦っていう不透明決着があって大ブーイングでしたけど、その大会にもサスケさんは出てるんですよね（笑）。

サスケ　なにげにね（笑）。

——サスケさんの試合で一番インパクトがあったのが、東郷さんに喰らった花道でのバックドロップなんですけど（笑）。

サスケ　ねえ？　俺の体的にも相当インパクトあったけどね（笑）。まぁ、1・4は「新日ドームにサスケあり」っていうのを久々に見せられたんじゃないかな。その中で小川戦のようなのもあり…でも俺は、ああやってファンを怒らせてしまうっていうのも新日イズムだと思うしね。いいんじゃない？

——その新日本では、最近、分裂騒動があったり大変みたいですけど、みちプロとの関係はどうなるんですか？

サスケ　今後も新日本との関係っていうのは続くと思うよ。これは今まで築き上げたものだから。この間も藤波社長から、「（ドラゴン口調で）今度ゆっくりメシでも食おうよ！」って（笑）。

——サスケさんもお気に入りのユリオカ超特Qさん並ですね（笑）。

サスケ　ユリオカ超特Qはいいよね（笑）。でも、新崎人生なんかはBATTの一員だったりするからね。

——あっ、そっか。今のマット界の状況を把握するのは大変ですよね（笑）。

サスケ　そうなんだよ。この状況を把握するのはモーニング娘。の流れを把握ぐらいの難しさはあるよね（笑）。

——確かに（笑）。それで、最近、国内のマット界は新日分裂騒動をはじめゴタゴタしてるんで、サスケさんは世界へ目が向いてるみたいですね。

サスケ　これも、そうなんだよ。日本の中だけでコップの嵐になっちゃうとアレなんで、まず世界にも目を向けて視野を広げなきゃならないと。それこそが猪木イズムでもあるわけなんだから。やっぱり私が目指すのは世界平和！　そのためにブルガリアなんですよォォォ！

——エッ!?　ブルガリアなんですか？　ちょっと前までは「今はチェコが熱い！」って言ってましたけど（笑）。

サスケ　チェコは今でも熱いんだけども（笑）、今年はブルガリアが熱いと！　詳しくは「次号で」ということで（笑）。

——次号でサスケさんの口から驚愕の事実が続々と発表されると（笑）。

サスケ　そういうこと！　だって、俺自身がビックリしてるんだから（笑）。

【02年1月23日・都内某所にて収録】

なぬっ！ サスケがブルガリア大学の学長に！
ヨーロッパ映画に出演決定！
いったい、どうなってるんだ!?

サスケを囲む美女は、2・17みちプロ横浜文体大会でマスコットガールとして活躍する（左から）九条慶さん（21）、鈴木文理さん（20）、六条華さん（21）。サスケはこの他にも、チェスターフィルム制作の映画（カンヌ等映画祭にも出展！）に出演が決定。しかも、ブルガリア国立総合大学内に設立するプロレス学校の学長にも就任するというのだ。サスケの周りで、なにやら凄いことが動き出そうとしている！　ブルガリアにケブラーダ！　詳細は次号を待て！

「プロレス二極化の褐炭」あるいは「プロレス二大文明の推計」

12・31「INOKI BON-BA-YE」
さいたまスーパーアリーナ

1・4「新日本プロレス」
東京ドーム

文・井上義啓（元週刊ファイト編集長）

I編集長直言

【I 編集長とは?】
いのうえ・よしひろ■1934年岡山県出身。「週刊ファイト」の編集長を長く務めた、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。ターザン、GK、ケンファー佐藤等、プロレスマスコミでＩ編集長に影響を受けた人間は数知れない。

二つの事象の是非と区別がまるでつかぬことを“ジャイアント猪木症候群”と称する

『紙プロ』流に言うなら、「純プロレスの資料は懐メロのファイルに移し替えるべきである」ということであろう。これまで私が事あるごとに「〝プロ格〟（プロレスの匂いがどこかに存在する格闘技）でなければ、もう商売にはならない」と書いてきたことは、読者諸君の知るところであるが、しかし、それは〝そのうち〟だの〝いずれは〟といった但し書きが当然のように付加される性質の予告であった。

それは2004年であり、2005年のはずだったのに、猪木という名の公園に巣食う赤鬼が、いきなり「今年の終わりから来年の始めにかけての話なんだろ?」と、プロレス焼けしてプクーッとふくれ上がった指を焚き火にかざしながら、私の顔を見やったのである。昨年末の私がひどい風邪を引いて、ゼーゼー言っていた頃のお話。

世の中のテンポはこんなにも早い。12・31『猪木祭り』と1・4東京ドーム大会がまさにそれだった。

ある人は、「観客数では1・4、TVの視聴率では『猪木祭り』の方が上だったわけで、引き分けといったところですかね」と言った。二つの事象の是非と区別がまるでつかぬことを、私は〝ジャイアント猪木症候群〟と称している。

あの二つのビッグマッチが指差していたもの、それは「もう純プロレスは商売になりませんね」との、焚き火にあたってワァーワァー言っている青鬼、黄鬼の声だった。私の論評は得てして独りよがりと受け取られがちだが、ちゃんと赤鬼、青鬼、黄鬼……の声も聞いた上での〝やっぱりそうでなければならない!〟なのである。

だから、『猪木祭り』と1・4東京ドーム大会の総評は、ただ一語にして尽くす。いわく、明快。プロレス者とは何かにつけて話し合っているが、誰一人、1・4秋山vs永田の話をしない。そう、5人ものプロレス者がである。以下は、あるプロレス者との〝電話トーク〟の一節。

「小川が『猪木祭り』に出られなくなってしまったのは、編集長（私の呼び名）が書いた『小川はK―1軍団のリーダーとして出場する積もりではないか』が、ギャラの面でこじれてしまったからなんでしょうか」「猪木が小川を握っていたのであれば、あんな変テコなもめ方はしないはずですからね。石井館長サイドのプロデュースだったからこそ、変な方向に走ってしまったんですよ」「クロコップにやられた藤田の例もあることですし、なまじっかのギャラで（小川が）ウンと言うはずがないのに、その点をどのマスコミも活字にしていない。オフレコなんですか、あれは……」「言わなければわからなかったのに、本当のことを言わないといけないんだと勘違いした館長がギャラの額をベラベラとしゃべってしまった（笑い）。こういったところも、プロレスとK―1とは住んでいる世界がまるで違うんだな、というね」「……」「プロレスの世界なら、『8000万円でいいですから……』『では出場してもらいましょう』となるところが、『もう駄目だと思って、そう手配してしまったものですから……』となった。小川陣営にすれば、どうして、プロレスのようにはいかないの?とのちぐはぐさ」「それが悪い印象となって、1・4で悪者になってしまったんですよ」「あのケンカマッチはそうなるべき結果だったわけで、中西が飛び込んでこなかったら、あのまま続行されていたはずです。ノーコンテストにしようとの意志があって、それをセコンドが忠実に演じて見せただけでね」「猪木が言っていたこと――『秋山、永田で客が入るのか』とののしりと、安田がレ・バンナに勝ったという、プロレス界ではあり得ない結果と、クロコップに負けた時には笑いが見えたのに、秋山に負けた直後は泣いていた永田が、2連敗の原因は何だったのかを端的に言いつくしてい

「紅白」を裏に回して、視聴率14.9％と1・4ドームの8.2％を大きく上回った「猪木祭り」。来年は新日を飲み込むか?

「猪木ボンバイエ」を成功に導いたのは、なんと言っても、"借金王"安田忠夫のレ・バンナ戦激勝! そして愛娘・彩美さんとの親子愛。「ベタすぎる」という批判も一部であるが、一般視聴者の心に一番訴えたのが安田であることは事実だ。

1・4の小川はA級戦犯ではなく、勲一等だった。あれだけ毒のあるインパクトは秋山vs永田に求めるべくもない

ますよ」「そうです。1・4の小川はA級戦犯ではなく、勲一等だったんですよ。あれだけ毒のあるインパクトは秋山vs永田には求めるべくもない。純プロレスを"プロ格"まがいのケンカマッチに置き替えてやって見せればどうなるかとの今日的な命題を、はっきり突きつけて見せたわけですから……」

◆

通常のプロレス興行であれば、今年も何とか純プロレスでつないで行けるだろう。タッグもジュニア・ヘビー級も何とかなりそうである。活字プロレスには意識の変化が起こりそうにないので、デジタルデバイドに陥るだろう。プロレスを取り巻く何もかもがデフレ現象の中でもがき苦しむことになるが、それだからこそ、古いものをスパッと切り捨てる変わり身の早さが要求されるのだ。

リング上の風景に絞っていうなら、もはや団体交流は商売にならないということである。だからこそ、「純プロレスよ、何か商売になるものを見つけて踏みとどまれ!」と叫びたくもなるのだ。

しかし、純プロレスは急激に衰退へ向かう。すでに起こっている現象だから、嘆き悲しむことではないが、1・4東京ドームの観客数(5万1500人)と『猪木祭り』の3万5492人の意味するものをシビアに分析しなければならない。勢いよく坂を駆け登っている若者(『猪木祭り』)と、ゼーゼー言いながら坂を下りている老人(1・4東京ドーム大会)と……。

老人が着ている古ぼけたランニングシャツ。その背中に書かれている『TV視聴率8・2%』の文字。確かに、老人の方が若者より坂の上にはいるが、いずれはすれ違って、若者とは遠く離れてしまう。

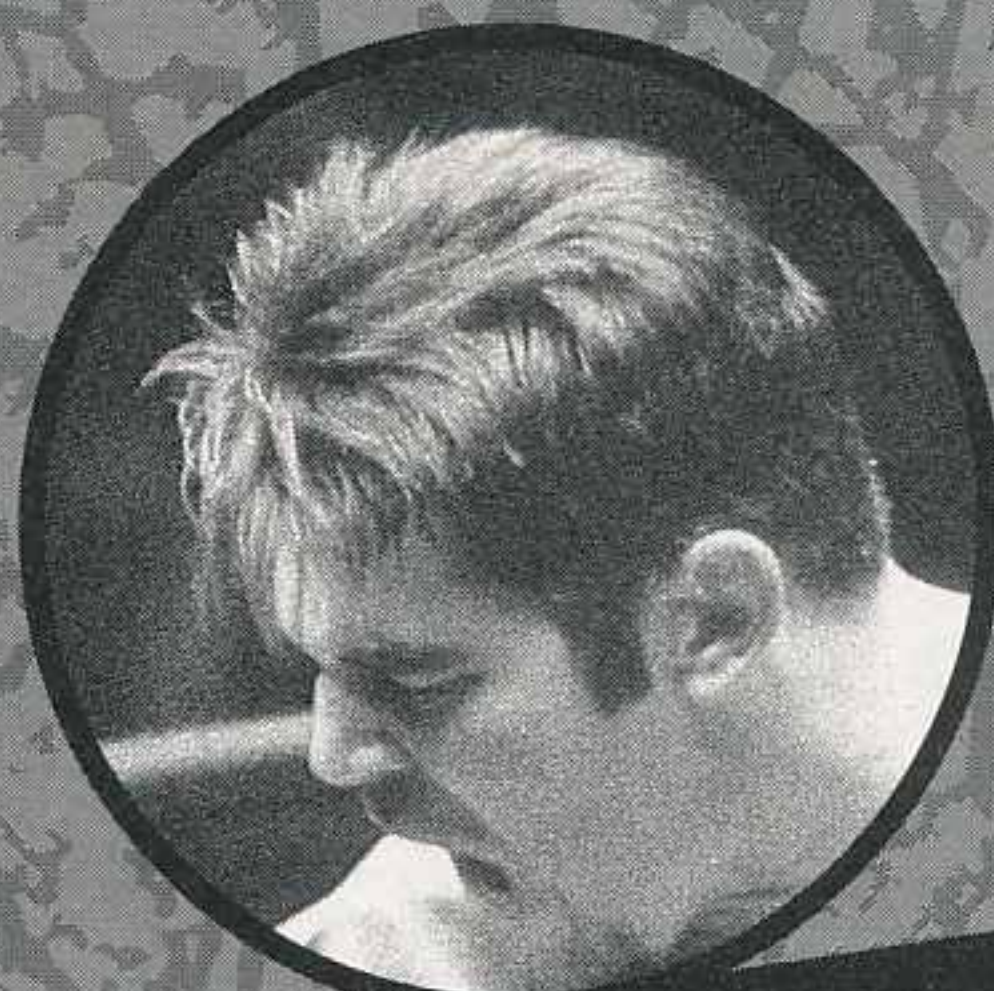
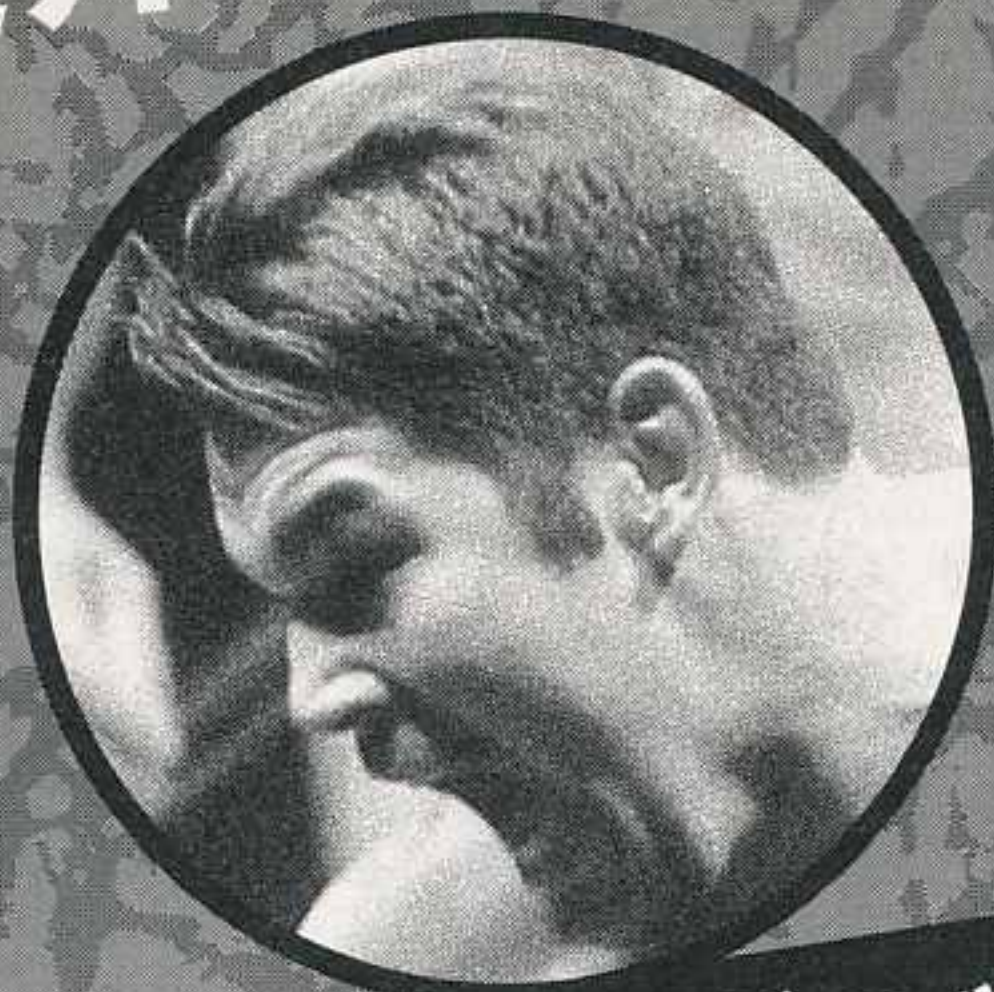
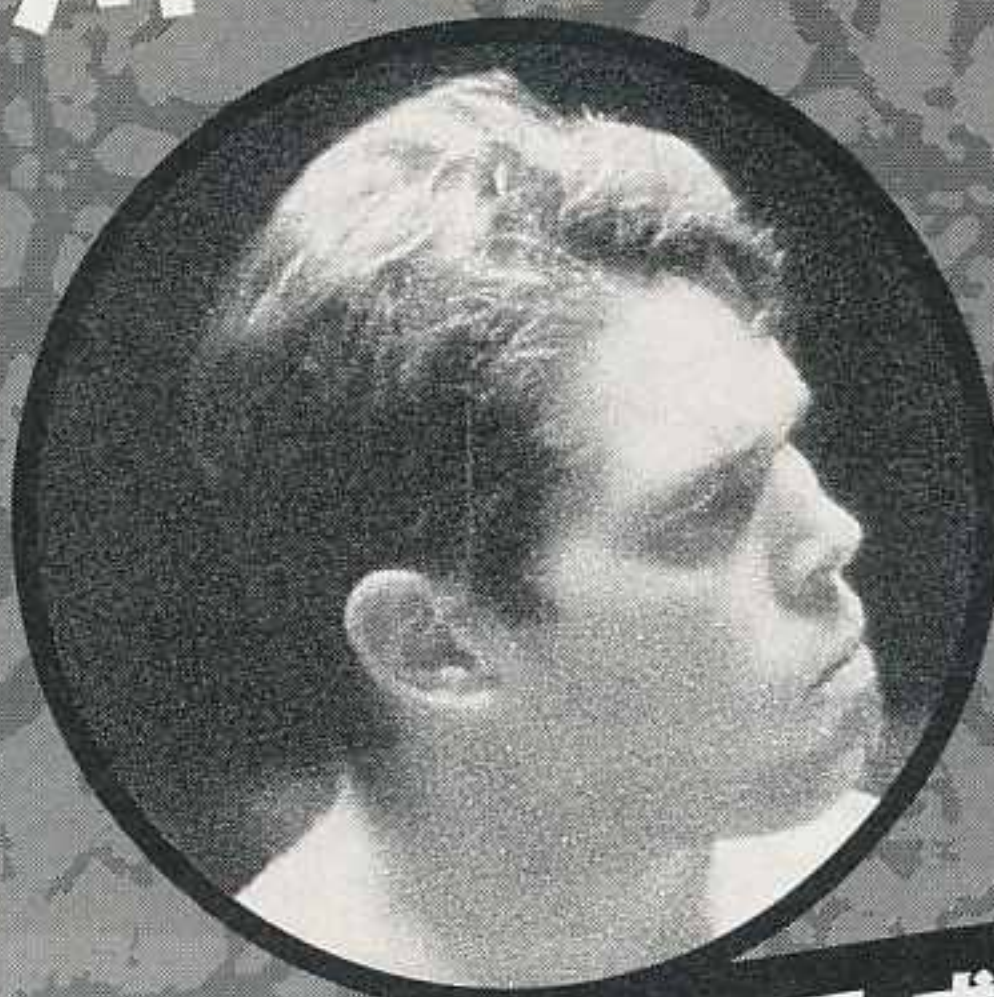
どんなに目をこらしても、全日プロの風景は30周年でプツンと切れてしまう。全日プロが新日プロに吸収される愚を元子夫人がぼんやり見ているはずはない。30周年大会を最後に引退した天龍が社長として元子夫人からバトンを受け継いで運営していくということであろう。新日プロは純プロレスはますます"プロ格"化し、全日プロは純プロレスという時化(しけ)の海でもがき苦しむ。

ビッグマッチは『猪木祭り』(年3回興行に肥大化)を中核として、『PRIDE』とK—1を飲み込んで増殖していく。名称こそ『PRIDE』シリーズであり、K—1大会だが、イメージとしては『猪木祭り』の二分化となる。

"プロ格"化現象は日本だけでなく、アメリカ、中国などへも輸出されるから、猪木ワールドがグローバルな展開を見せることになるのだ。

その一方で、WWFなどのエンターテインメント・プロレスが魔物のようにはびこる。この二極化の中で、弱肉強食の争いが繰り広げられるのである。

(平成14年1月28日脱稿)

小川も永田も健介も

平成のタイガー・ジェット・シン

ジョシー・デンプシーを見習え!!

マット界の大一番

12·31「猪木祭り」

1·4「新日東京ドーム」

そして話題騒然「ミスター高橋本」

を語るのは

「ワールドプロレスリング」実況アナ

辻ちゃんです!

猪木祭りで久々に復活した古舘伊知郎の実況を聞いて、「やっぱり古舘が一番！」と思った人も多いようだが、正直言ってブランクや思い入れの有無ゆえなのか、「これって辻アナと同レベルだなあ」と思ったのはボクだけだろうか？　とプロレス～格闘技に関してはレベル的に大差がないのであれば、あとは最近の情報に関する知識量で勝り、そして永田をあえて追い込むような実況に挑んだりする辻アナの方が、いまとなっては『紙プロ』的には面白いというか。そういうわけで、新年のご挨拶がてら近所なので辻アナの事務所まで行って来ました！　（吉田豪）

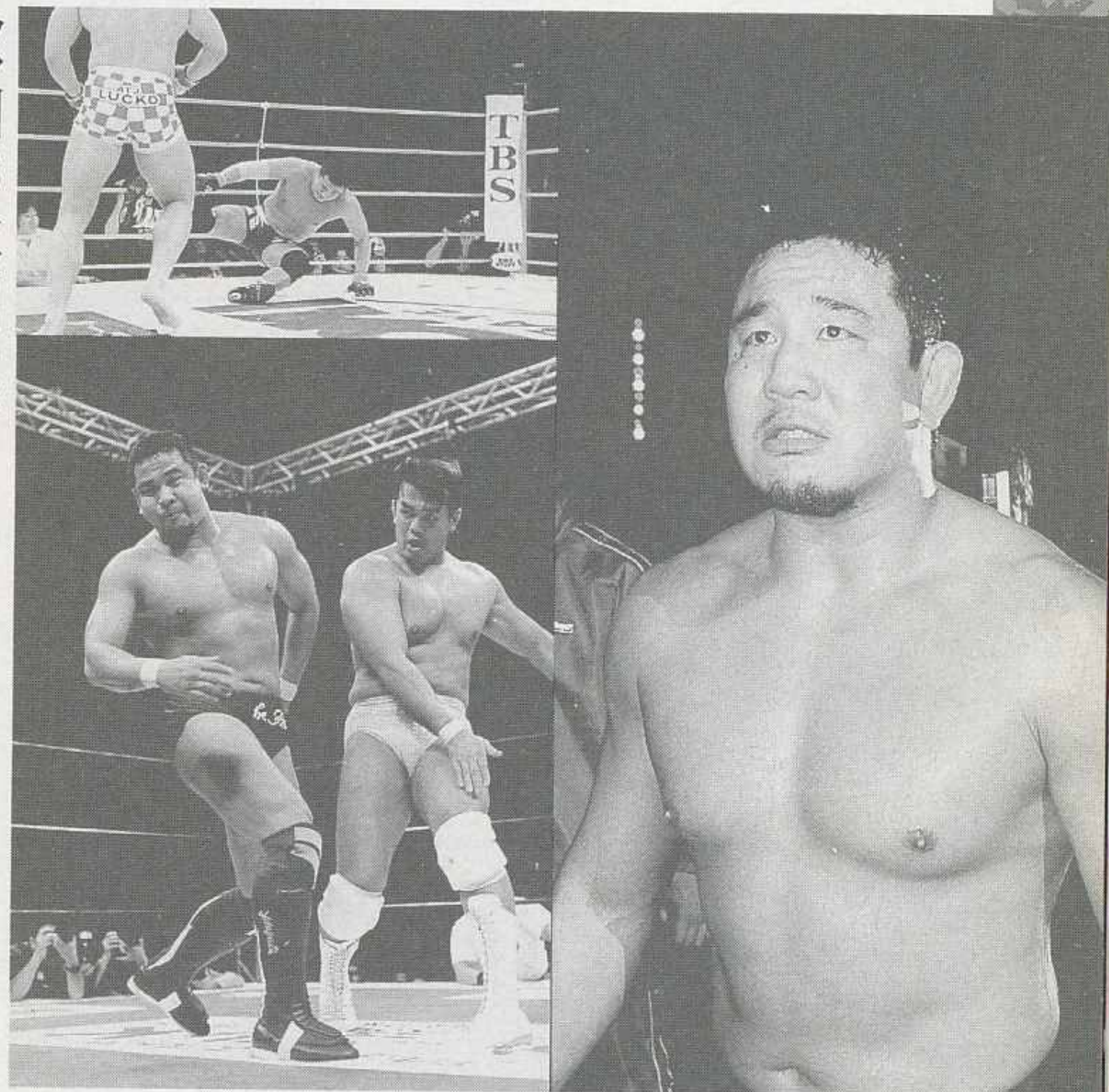
★　★

――『BUBUKA』（掟ポルシェの連載）に「辻ちゃん」として登場したのが、かなり評判いいみたいですね！

辻　そうなの？　『やじうまワイド』のスタッフには「辻さん、仕事選んでくださいよ」って冗談ぽく言われたけどさあ（笑）。

――すいません、実はあれボクの企画でした（笑）。それで、今日は1月4日の新日の辻さんの実況を聞いて、ぜひお話を伺わなければと思って来たんですよ！

辻　ホント!?　嬉しいねえ（笑）。

――あの実況で辻さんの電波をキャッチしたというか、何か語りたいんだろうなって思いましたから。たとえば辻さんは永田 vs 秋山戦で、「この蹴りをミルコに出したかった！」みたいに何度もミルコの名前を連呼してましたけど、それってTV局側からすれば触れてほしくない話じゃないですか。

辻　多分ね（淡々と）。

――ですよね（笑）。やっぱりプロレスの文脈だと、ミルコ戦はなかったことにして、「頂上対決実現！」みたいに煽りたかったんだと思うんですよね。

辻　でも、それを外したらいまの永田を語れないっていうのが大前提でありますよね。ボクは音楽番組の年越しイベントに出ていて、「猪木祭り」には行けなかったんですよ。それで格闘技好きのミュージシャンから永田がキック一発で秒殺された って聞かされたのが、番組の本番前！　「そりゃねえだろう」って力抜けちゃったっていうかね。

――正直、周りも永田さんが勝つものだと思って送り出したと思うんですけどね。

辻　だからホント、ビデオ見ても凄いショックでね。1月4日の秋山 vs 永田はどうやって喋ろうかって、いままで一番困りましたよ。

――どういうスタンスで実況していいのか、わからなかった、と。

辻　でも、永田が大晦日でボロボロになって、どうやってドームに出てきて闘うのかというのは絶対外せない部分じゃないですか？

――当然、そこには拘らざるを得ないですよね。

辻　歴史の扉が開いてベルトがやってくるという画期的なこともスタンスとしてあったけど、他団体のタイトルマッチを他のリングでやるにしては雰囲気がないなって思ったりもしたし。だから、最後に「永田がノアに行け！」って言っちゃったんですよ。

――あれもフライングだったわけですね。

辻　テレビ朝日からすれば美味しくないよ。でも、アウェイで取ってこないとドキドキしないんだよ！

――同感です！　正直、メインの永田 vs 秋山にしても、もっと面白くなるはずだって思いがボクの中にあったんですよ。でも実際には凄い手が合うわけでもなく、対抗戦らしいギクシャクするような試合でもなくて、なんかお互いを立て合っちゃってるように思えたっていうか。実際、今回のドーム大会自体も評判があまり良くないわけじゃないですか？

辻　何が悪かったと思います？

――やっぱり、小川 vs 健介があいう結果に終わったことが大きいみたいですけどね。

辻　う～ん……。たとえば、美味いラーメンやうどん、みそ汁にしてもダシというか隠し味が効いてないと美味くないと思うんだけど、今回のはセコンドの乱入とかのトッピングだけって感じがしたよね。

――いつもの味付けみたいには見せてはいるんだけど、手間のかけ方が致命的に違うんわけですね。

辻　手間っていう部分では、小川をリングに上げて健介と闘わせたのも手間なんだろうけど。

――ただ、小川さんの場合はリングに上げるまでの手間で終わっちゃう気がするんですよね。

辻　そこに労力を使い果たしたっていうか。それでも「ノーコンテストでもしょうがない！」と観客に思わせれば良かったんだよね。

――ところが、いままでの小川さんにはノーコンテストにも説得力があったのに、今回はそれが致命的に足りなかったじゃないですか。健介さんにしても観客の空気が読めてないのか、「いまやるぞ！」じゃなくて「またやるぞ！」って言っちゃったりして、ちょっと単なる予告編に見えすぎたというか。

辻　確かに次も大事なんだけど、引っ張るためにはいまが大事なんだよね。ボクの記憶では長州さんと藤波さんの名勝負数え唄は無効試合で始まってるはずだから、それを平成の時代に持ってきたのかと思ったんだけど、それにしては無効試合の凄まじさがないよね。

――その点、この間のZERO－ONEでも無効試合があったらしいですけど、説得力が桁違いだったみたいですね。

辻　（ジョシー・）デンプシーでしょ？　あいつは存在が無効試合だからね（笑）。

秋山vs永田はどう実況すればいいか1番困りましたね

――ダハハハ！　いわば、大人の約束が通用しないっていうか。ウチの人間もデンプシーに襲われたんですよ（笑）。

辻　アイツは形を変えたタイガー・ジェット・シンだから！　俺はいま、デンプシーがイチ押し！　圧倒する強烈なパワーと、ホントにこんなヤツが道端にいたらヤバイっていう眼光の持ち主。

――そういう選手なら、ノーコンテストでも納得できますからね。小川vs健介はTV的にも「今夜完全決着！」ぐらいの煽りだったから、みんなもそういうモードで見た部分はあるんでしょうけど。

辻　あのVTRは「この2人は闘うべくして闘うんだ」っていうのがジンワリ匂ってくるものだったから、あれはあれで良かったと思いますよ。ただ、あのVTRを事前に小川と健介に見せていた方が良かったんだよね。

――それ、絶対にいいアイディアだと思いますよ。今回の特番を見てて、TV局と団体側の間に距離があるのかなあとか思っちゃいましたからね。

辻　いや、プロデューサーの松本さんも頑張っているし、テレビ朝日の社長だって東京ドームに来るぐらいだから、やっぱりソフトに対する期待や希望はもの凄い大きいと思うんですよ。あとは、その重責をレスラーに教えてあげるブレーンが必要だと思うの。もしかしたら、その使命を帯びているのは俺なのかもしれないけれど。

小川vs健介は無効試合の凄まじさがないよね

大ブーイングが一向に鳴りやまなかった小川vs健介（写真右）。試合の不明瞭さやセコンド陣の乱闘騒ぎと同じ無効試合ではあったが、ゴルドーが小川の用心棒として暴れ回り、長州までもが乱入した2年前の橋本vs小川（写真左）とは明らかに物騒さが違う。

――そうだったんですか！

辻　まあ、言ったところで「偉そうに！」ってなるけどさ（笑）。

――最近、特に視聴率が重要視されてきてるんで、もっとTV主導で興行をやってもいいんじゃないかなって気もするんですよね。

辻　それは何ともいえないな。というかさ、俺やTV局サイドのスタッフをビックリさせてほしいんだよ！　小川vs健介は隠し味がもう一味二味あれば、そうなったと思うから。

――そうなるべき試合が、ああいう結果になって。

辻　健介だって、「G1でもIWGPでもない。小川という心底燃えられる相手が見つかったんですよ！」って俺には言っていたんだけどね。健介がやってきたパワープロレスや長州イズムをどこにぶつけていけばいいかって考えたときに、小川を隣のプラットホームに発見したんだよ。闘いの新宿駅プラットホーム！　総武線と山手線、行き先は違えどまた必ず戻ってくる！　……というね。

――でも、今回は乗り継ぎができなかった、と。

辻　蝶野や武藤は違う方向に行っちゃってるしね。

――絡みづらいですよね。ファンとしても、その絡みが見たいかっていうわけでもないと思いますし。

辻　ファンといえば、団体側も小川ありき、健介ありきとか、東京ドームありきじゃなくて、まずファンありきってところに立ち返って貰いたい。偉そうで申し訳ないんだけど、そうやっていかないと新日本プロレス自体がどっか飽きられちゃってしまうから。やっぱりファンの気持ちを潤わしていかないといけないですよ。

――特に、今回のドームはただでさえ大晦日の「猪木軍vsK―1」と比較されやすい状況だったわけですからね。

辻　大晦日の話が出たから言うわけじゃないけど、猪木さんだったらあの無効試合の状況はどうしただろうって思いましたよ。猪木さんはそういう無効試合では最高のものもあるけど、最低っていうのが多かったじゃない？

――何度も暴動沙汰を起こしてますからね。

辻　もっと言うと、暴動が起きなかったのが健介と小川の価値ってことですよ。あれが猪木さんなら暴動が起きると思いますから。

――期待を裏切られた思いは同じでも、小川さんと健介さんではまだそこまではいかないという。

辻　いや、暴動なんか起きない方がいいんだよ（笑）。ただ、小川がそう言ったかどうかは別にして、東スポ読むと「最低の試合でしたね？」って問いに「何が最低ですか？　最低こそ最高ですよ」って言っててさ。確かに狂喜乱舞させた、怒りの導火線に火を付けた。

――スポーツ新聞の一面を飾るだけの話題はあったけど……。

辻　だけど、何か後味が良くないんだよ！

――やっぱり話題としてネガティブですからね。それで、この前のインタビューで辻さんが言ってた「これからのプロレスはベタがキーワード」という意見に、ようやく納得できたんですよ。「猪木軍vsK－1」なんかはとことんまでベタに徹したことで視聴率を取ったし、いまはWWFにしてもファンが応援したいと思えるよう人間をベビーフェイスにして、ブーイング送りやすい人がヒールになるというすごく観客が感情移入しやすいベタな状況になってるしで。

辻　ベタということは、つまり見る者を意識してるってことなんだよね。TBSさんは見る者を意識して、すべてさらけ出してやってさ。周りもそうだし、実況の古館さんもそう。それを許す安田もいるわけだし。いまは、そういう時代なんだなって。

――プライベートの話を、試合を盛り上げるためにアングルにしちゃったという。

辻　ねえ！　しかも、安田が勝つとは思っていなかったしね（笑）。

――みんなそうだったと思うんですよ（笑）。安田さんは、今回に関しては負けてもいいみたいな役割でしたから。

辻　だから、ホント窮鼠猫を噛むっていうかさ。ネズミにしては大きすぎるんだけど（笑）。TBSさんがあそこまで取材して作ったVTRには、こういう部分がないと大どんでん返しはできないっていうのを教えられたっていうかね。

――とことん追いつめられたからこそ、勝ったわけですね。

辻　でも、あそこには大きなキーワードが隠されているの。平成の破産王というのはサブタイトル！

――となると、メインタイトルが

あるわけですね。
辻　メインは、この綱渡りができるかどうかでしょ。自分で乗っかったのか猪木さんに乗っけられたのかはわからないけど、乗っかっちゃったんだから向こうの袂まで行くしかないよね。だから、安田の人生の全ての集中力を問う試合だったと思うよ。
——猪木さん自身も、まさか安田さんが綱渡りに成功すると思ってなかったからこそ、あそこまで喜んだんだろうし（笑）。
辻　俺も最近鳥肌立ったりとか泣くとかはなかったんだけど、久々に泣いたねえ……（しみじみと）。
——実際、泣いた人はかなり多いみたいですね。
辻『タイタニック』以上に泣けるでしょ！
——あれ以上ですか！　それは、かなりのベタですよね（笑）。
辻　あれに泣ける自分がいるから、プロレスが好きだったりとか闘う姿を見ることが好きだっていうことを確認できる。それが大晦日に確認できたんだなって。
——いま、プロレスでそういう感動が生まれづらくなってきてますからね。「笑い」や「感心」は生まれても、「感動」や「涙」は生まれづらいっていう。
辻　ああ、なるほどねえ。
——そんな中で、ミスター高橋さんの著書が出たわけなんですよね。プロレス専門誌がいくら黙殺しても猪木さんが表紙で武藤さんが原作も手掛けている『ビックコミック・スペリオール』の格闘技増刊号にもミスター高橋さんのインタビューが掲載されたりしてるわけですけど。
辻　う〜ん……。
——辻さん的には、やっぱり喋りづらいですか？
辻　喋りづらいっていうか、何て言うんだろうなあ……。いろんな人間関係というのが組織を造り、社会を造っていくと思うんだけど。その中にはやっぱり仲が良くても言わないとか、これは隠しておかないと人間関係が壊れてしまうというのがあると思うんだよね。
——まあ、当然ありますよね。
辻　それが人間の優しさに繋がると思うんですよ。たとえば、いま付き合ってる彼に「前の彼とこんなエッチしちゃったの」って言わないでしょ？　「あんなことしちゃって、こんなことしちゃって、凄い関係だったの」なんて、優しい女の子だったらそんなこと言うまいって思うはずだから。
——知りたいけど、知ったら失望しそうな部分ですからね（笑）。
辻「どこのラブホで、どこの部屋で」って、そこにいろんな玩具があったりしたらどうするのって世界じゃん！　これは経験で言ってるんじゃなくて、耳年増で言ってるだけなんですけどね（笑）。
——ダハハハ！　つまり、この本にはそういう感じがする、と。
辻　読んだファンの気持ちというのも十人十色だからわからないけど、ちょっとたとえると、そんな気がする。
——いわば、別れた奥さんが「猪木さんはこんなエッチしてましたよ！」って言い触らしてるようなものですかね（笑）。
辻　高橋さんはもっと大いなる優しさでもって書かれたかもしれないけど、俺の理解できる優しさっていうのは違うところにあるね。
——ただ、プロレスってホントに語りづらい部分があるんじゃないですか。格闘技をプロレス的に語ることは可能でも、プロレスを格闘技のように勝負論で語るのは難しいと思うんですよね。そう思っていたファンが読むと納得できる部分は多いだろうし、実際かなり売れてるみたいですね。
辻　絶対売れるよ。読んでて「へえーッ！」って驚くことはあるしね。でも、高橋さんの言い訳なのかポリシーなのかはわからないけど、「WWFのようにプロレスをエンターテインメントとして見ないと、これから面白くない」というのを1つの主旨に掲げているでしょ。あれは、「エンターテインメントでなくても楽しめる」って言う人もいると思うんだよね。
——ボクも『スペリオール』格闘技増刊号で書いたんですけど、力道山は「プロレスはショーだけれど、客を喜ばせるためにはやっぱりスリルと真剣勝負の要素が必要だ」って言ってるんですよね。高橋さんも、WWFに関しては「アメリカで流行ってるらしい」ってぐらいの知識しかないみたいだし。

久々に泣いたねえ……「タイタニック」以上に泣けるでしょ！

辻　まあ、日本には日本の文化があるんだし、アメリカで流行っている料理が日本で成功するのかっていったらねえ、わからないでしょ。
——つまり、「アメリカみたいに、料理は大味で量も多くなければダメだ！」って言ってるようなものというか。確かにエンターテインメントも面白いんですけど、やっぱり単なるエンターテインメントでも単なる格闘技でもないような凄いものをプロレスのリングで見たいんですよね。
辻　見たいよね！　小川vs長州なんかは何回でも見たいよ！
——ああいう本当に仲が悪い人同士の試合が組めるのは、やっぱりプロレスだけですもんね。
辻　人間の本能が見え隠れするわけだもんねえ。
——お互いに、「ここだけは許さないぞ」っていうのも見えるし。
辻　それが俺は面白いんだけど、「噛み合ってないよね」「手が合ってなかったよ」って言う人がいるじゃん！　噛み合ってない？　何それって!?
——むしろ、合わないことの面白さもあるわけですからね。
辻　しかも、手が合ったからっていい試合だって限られないし。
——「プロレスとは手が合うものこそ素晴らしい」って最初から決め付けちゃってるんですよね。
辻　おかしいよねえ。あと、「オマエ、裏側をホントは知ってるん

だろ⁉」って言われても、そういう問題じゃないんですよって。「蝶野と揉めたときもそうだったんだろ⁉」って言われても困るわけよ。

——そんなこと言われてたんですか（笑）？

辻　「おいしいとこ持っていったね」って（笑）。あのときは、蝶野からケンカを吹っかけられるまでのこともあったんだよ。連絡を取って「もうやめにしたいんだけど」ってこともなかったし、ディレクターなんかもビクビクしてたんだからさ（笑）。

——ダハハハ！　お互い手探りで抗争してたんですね（笑）。ちなみに、辻さんは高橋さんにどんな印象を持っていたんですか？

辻　普通に話ができる人でしたよ。でも、俺の印象ではウエイトリフティングの王者だったこともあって、どこかレスラーと対抗しようっていう意識が強いなって。

——同じくらい練習してるみたいですからね（笑）。

辻　それで小鉄さんと仲が良くて、プロレスを愛していてね。だからこそ厳しい一面もあったし。

——じゃあ、こういう本を出すとは思いもしなかったわけですか。

辻　もう、「高橋さん、ウソでしょ？」って。だから、「ウソなのにこんなに売れるとは思いませんでした」「全部見たわけじゃないんだよね。楽しめました？」って高橋さんが言ってくれたら面白いと思うよ。「どっちなんだ⁉　ミスター高橋！」ってね（笑）。

——とりあえず、高橋さんが「藤波さんは好きだよ」って言ってたのはボクもウソだと思いますからね（笑）。高橋さんが「プロレスは真実を明かすべきだ」と言うなら、自分の動機の真実も言うべきじゃないかって気もするし。

辻　俺はそこまで言わないけど（笑）。でも、やっぱりプロレスの真実なんてわからないんですよ。真実というのはプラトンのイデア論じゃないんだけど、見えないものであって。

——は？　ツープラトンじゃなくて、プラトンですか？

辻　そのプラトンのイデア論に「洞窟の比喩」っていうのがあるんだけど、簡単に言うと「洞窟で生まれて洞窟で死んでいく人は、鳥の姿を影でしか見ない。漏れてくる光によって鳥が壁に写り、その影を見てこれが鳥なんだと理解する」っていうことなのね。つまり、本当の鳥の姿を見なかったら、綺麗な羽根があるってとかは一生わからない。でも、鳥が糞をするのものだってわからないままで美化されていることもある。人間とは、生まれてこのかた洞窟でしか生活していないようなもんだってプラトンは言ってるんだよね。

——つまり高橋さんは、ある意味その糞をファンに見せてしまおうとしているというか。

辻　フフフ！　何で俺が糞の話したのかって感じ取って、そうやって上手いとこ突いてくるけど（笑）。俺はどう取ってもらってもいいけどね。だから、高橋さんの目で見たことをみんながホントだと思っているだけで、それも洞窟に移る影みたいなもんなのよ。

——ボクが高橋さんの本を読んで思ったのは、単なるプロレス史の答え合わせになっちゃってて余韻がないんですよ。「はい、わかりました！」って感じで、次に繋がってこないっていうか。

辻　……でも読むよ（笑）。

——まあ、答えは知りたいですからね（笑）。ただ、それだけじゃないと思うんですよ。プロレスっていうのは妄想の面白さに尽きるじゃないですか。

辻　だから、高橋さんの本も1つの要素で「あったね、あんな本」でいいんじゃない。

——妄想するための要素の一つとして捉えるべきであって、全てを鵜呑みするべきではないってことですよね。

辻　その要素に対抗して、プロレス側がどう楽しませるかっていうのが問われるべきだよ。

プロレス側がどうするかって
いうのが問われてくる

——そのプロレスの醍醐味がいま見れるのは、ZERO—ONEだと思うんですよね。「真撃」じゃなくて（笑）。なぜかZERO—ONEだと、普段は大人しいノアの選手も含めて出場選手がみんな「俺が俺が」で一番目立とうとするじゃないですか。だからこそ、大谷さんも化けたんだと思うし。

辻　大谷は、もっともっと取り上げてもいいよね。

——あそこは、場としてすごい自由だと思うんですよ。

辻　それは橋本の人徳だよね。小川にしても橋本に惚れ込んでいると思うよ。小川が一番、小川になれるとき。それは橋本といるときなんだよ。健介は小川にそれを植え付けないといけなかったんだよ！　早く小川を追っかけないと！

——橋本さんが、無様なぐらい天龍さんを追っかけたみたいに。

辻　無様でもいい。無様のほうが、よりいいよ。デンプシーだったら、無様になっても追うしね！

——またデンプシーですか（笑）。

辻　あいつは、テレビ画面に映らなくなってもとことん追うよ。あのプロ根性は最大級！　橋本も触発されてほしいね。

——やっぱり、ZERO—ONEが呼ぶ外人選手はレベル高いですよ。だから、もし新日に出ていくことがあるなら、小川&橋本組じゃなくて小川&ゴルドー組とかでやって欲しいと思うんですけど。

辻　それは橋本がキレないからでしょ？　だから、あとは橋本の課題ですよ、デンプシーになれるかどうかって。

——デンプシーになれるかどうか（笑）！　橋本さんがあの勢いで発狂したら、ドキドキしますよね！

辻　小川も橋本も永田も健介も、デンプシーを見習ってほしいよね。みんな、どんどん追いかけて行ってほしいよ！

【02年1月11日・辻事務所にて収録】

構成／堀江ガンツ

designed by matsu（Two three）

菊地毅に脱帽！そしてZERO―ONE最高!!

ZERO-ONE 後楽園ホール

当初はこの日、丸藤正道が持つNOAHのGHCジュニア王座への挑戦を表明していた星川。その前に立ちはだかったのが、NOAHジュニア戦線の重鎮・菊地毅だ！ 菊地は星川の打撃をすべて受けまくり、逆に「おら、打ってみろ」と挑発。その姿は凄みすら漂わすほど。そして技を受けきって、ヘロヘロになりながら、最後は星川のジャーマンをアームロックで切り返し、逆転勝利！ 対抗戦はこうあってほしい、という理想的な試合だった！ とにかくこの日は、菊地に乾杯！

1月6日ゼロワンを体験しなかった人は、まず心から悔いて欲しい。そして、なんとかしてこの日の試合を映像で確認してほしい。この日のゼロワンは早くも2002年のベスト興行決定!

1月4日東京ドームを見てます ます「プロレスって何だろう?」とわからなくなった人間（私のこと）の背中をバシーンと叩くような、「プロレスはこれでええんや!」という破壊王からのお年玉だった。

私はプロレスを見始めて大変日の浅い人間だが、ゼロワンを見ていると、小さいころ、テレビで見たりしていたブラウン管の中の「プロレス」の世界に入れたような気持ちになって、本当にわくわくする。

うさんくさくてやけに強い外人、痛がる日本人プロレスラー、絵に描いたような展開がある。何よりそれらすべてが「プロレスは面白いんや!」という破壊王の絶対の信念に裏打ちされていて、非常に心地良いのだ。

面倒な外人（悪口ではありません）に息切れしつつ勝利した高岩に因縁をつけ、ジャンピングニーで半失神させる元リングス坂田、5分を超えるとやや心配になるものの、相変わらず素晴らしい藤原組長のスパーリングマッチ、「うさんくさい外人」を全身で表現するスティーブ・コリノ、「ここまで乱闘してくれれば文句ねぇや」と思えるデカイ外人同士の場外乱闘、「ベルト取れてよかったね」と心から思える喜びようの大谷&田中のNWAタッグ。そして異様に強そうな外人相手にいつもどおりの破壊王!

しかし1月6日のベストバウトは星川尚浩vs菊地毅!

特に菊地!

この2人の試合は、めちゃめちゃ面白かった!

今までの星川の戦いからは「がむしゃら」「（いつまでも）若手」「今はただひとつひとつ勝つことだけです」というような言葉しか私には見えてこなかった。

ただ単にがむしゃらで若手であっても、それは「がんばってね」という以上の感想をもたらさない。それが光るのは「乗り越えるもの」ができたときだ。

がむしゃらで若手で一生懸命であるのに、乗り越えられないものがあるとき、そのすべてが光る。その星川に受けて受けて受けまくるノアの菊池が立ちはだかってくれた。

星川のトペも全力のキックも受ける受ける。どう見ても真っ赤になってはいるもののそれでもまだ受ける! 倒れない!

「ここまでやってるのにどうして倒れない」

星川のイラダチを逆撫でするようにまだ受ける。

さすがに受けすぎたのか後半、色白菊池はフラフラになってしまうのに対し、サロン焼けした若手星川はまだスタミナが残っているようだった。場外でへたりこんだ菊地のダメージは、見ていて「止めたほうがいいんじゃないか?」と心配になるほどだった。

その菊地に「気持ちもわかるがそろそろ勘弁してやれよ」と思う星川のキックと投げ技の猛攻。このままレフェリーストップか? と思った一瞬、菊地が切り返した! 腕固めで菊地の勝利!!

場内は当然大盛り上がり!

すげぇ!

ゴングが鳴っても腕をとかない菊地、逃げられない星川。レフェリーと両セコンド陣が割って入る。にらみ合う2人。

星川はこれから絶対に面白くなる。

がむしゃらで一生懸命でも乗り越えられないものに対面したとき、そこから絶対に人は光りだす。

誰もがその瞬間に人生で対面しているはずだからこそ、そこから動く人がどうなるのか見たくて仕方ないのだ。ましてやそれがゼロワンとノアのように、まったくカラーの違う団体から現れた「乗り越えられない壁」なら、なおのことだ。

そして、それを星川にやらせてしまうゼロワン。やらしちゃって大丈夫とする星川への信頼がある破壊王。「対抗戦」とはこういうものだ、と観客に突きつけるだけじゃなく、そこに星川物語をあわせて見せつけてくれた。そのうえでノアの菊地という選手のすごさを見せ、そんな選手がいるノアの株もしっかり上げてくださいました!

面白かった! ゼロワン最高!!

（ささきぃ）

いよっ! NWA王者!!
破壊王、"世界"を見事に防衛!

後楽園では、馬場vsレイス以来、約21年ぶりとなるNWA世界戦に挑んだ破壊王。相手は『PRIDE.1』で北尾と対戦したことで、ちょっとだけ知られるネイサン・ジョーンズ。破壊王は2mを超える巨体とパワーに苦しめられながらも、最後は延髄斬りで勝利! 試合後、なお挑発するネイサンに対して「ジス・イズ・バカヤロー」というマイクも最高だった!

2002.1.6 ZER

石川雄規とのコンビで一度はNWAタッグ王座に君臨しながらも、"例の騒動"で、返上となってしまった大谷晋二郎。しかし、この日は、新パートナー田中将斗と共に、王座決定戦に再出陣。『火祭り』参加者同士の熱い熱い情熱と連携で、トム・ハワード&サモア・ジョー組を破り見事、王座帰り咲きに成功! そして最後はもちろん、火祭り刀で決めッ!

世界一熱い
タッグ王者誕生!!

紙のプロレス RADICAL Back Number Information

実録驚愕の!! 紙プロパワー

例：安田忠夫さんの場合

before

ナマクラ時代の安田さん。『紙プロ』を読んでいないので、当然うだつも上がりません。

ご本人登場号 37号

after

『紙プロ』勝ったゾーッ!!

急上昇!!

ところが!『紙プロ』に出ただけで、ヤスヤスと勝つことが!! 娘さんにも認めてもらえました。

★計り知れない『紙プロ』の効用。受験生にもオススメです（以上編集部妄想）。

No.5★高田延彦、樹海へ……ヒクソン戦直前大特集号
高田延彦／タイガーキング／長与＆飛鳥／藤原vs荒川／Puffyも登場

No.7★田村潔司・『紙プロ』初のロングインタビュー記念号
木村健吾／前田日明／富宅飛駈／垣原賢人／冬木弘道／松永高司／T・アボット

No.10★前田日明vsエンセン井上スクープ対談実現記念号!
高田延彦／谷津嘉章／サスケVS松永高司／北沢幹之／冬木弘道／T・山本

No.11★衝撃対談・高田延彦vsエンセン井上が実現!!（完売間近）
前田日明／高田VSヒクソン大予想大会／福田雅一／ザ・グレートカブキ

No.15★小川直也、橋本を破壊! 1・4ドーム大激震号
前田日明／カレリン／馬場さん追悼特集／語ろうマサ・サイトー／佐野なおき

No.16★猪木! 前田! エンセン! ロングインタビュー連発号
田村潔司／坂田亘／高阪剛／山本喧一／M・コールマン／語ろうジャンボ鶴田

No.19★今度はM・ケアー! 高田延彦の新たな挑戦!!（完売間近）
小川直也／高田延彦／前田日明／佐山聡／宇野薫／成瀬昌由／ドン荒川

No.24★頭打ちすぎたかアレク!!『PRIDE』GP特集号
桜庭和志／田村潔司／堀辺正史／サスケ×矢追純一UFO対談／守山竜介／WWF

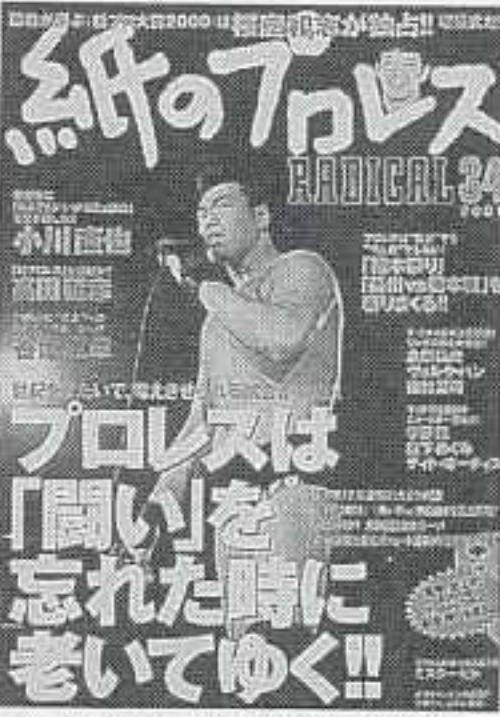
No.25★格闘ロマン続行ーッ!! 藤田和之『紙プロ』初登場記念号
田村潔司／前田日明／小川直也／村上一成／石川雄規&小路晃／ミスター高橋

No.26★世紀の大一番ホイス戦直前! やっちゃてくれサク!（完売間近）
前田日明&田村潔司／桜庭和志／小川直也／大仁田厚／村浜武洋／斉藤彰俊

No.29★ノアの鍵を握るのはこの男! 秋山準『紙プロ』初登場記念号
ノア勢フルメンバー／桜庭和志／ジャンボ鶴田夫人／TKおかん／仲野信市／里村明衣子

No.30★『PRIDE10』直前! 燃えよ! 闘魂の火種!!
秋山準／小川直也／村上一成／金原弘光／桜庭あつこ／高阪剛／永源遙

No.31★歴史に残るベスト興行『PRIDE.10』大特集号
小川直也／桜庭＆TK／永源遥／ユセフ・トルコ／川田語録／田村潔司

No.32★リングスvs新日! 10・9新プロレスvs純プロレス開戦！
小川直也／高田延彦／サク／前田日明／金原弘光／藤波語録／ラッシャー木村

No.34★「猪木祭り」、「長州vs橋本戦」を斬りまくり! 特大号
小川直也／高田延彦／T・オーティズ／金原弘光／ヴォルク・ハン／藪下めぐみ

No.35★「純プロレス」を考え倒せ!「純プロレス」徹底検証号
橋本真也／大仁田厚／馳浩／杉浦貴／ジョー樋口／リングスＫＯＫ大特集

No.36★「面白くなきを面白く！「純プロレス復興記念号」
橋本真也／三沢光晴／高山善廣／前田日明／桜庭和志／金原弘光／鍋野ゆき江

No.38★高田の"忘れ物"は小川!! ラスト・オブ・「もうー丁ッ!!」
高田延彦／小川直也／ジェラルド・ゴルドー／阿修羅原／力皇・杉浦・丸藤

No.39★どうなるんだ! リングス!? 前田isデッド!?
前田日明／山憲・小川襲撃／金原弘光／田村潔司／田上明／藤原敏男／桜庭和志

No.40★猪木軍vsK-1に見たいものは"地上最強のプロレス"
小川直也／金原弘光＆高山善廣／三沢光晴／大谷晋二郎／ガチンコ座談会３連発

No.41★Can you カミングアウト? "最後の黒船"WWF襲来！
小川直也／ＷＷＦ座談会／前田日明／辻　／阿修羅原／力皇・杉浦・丸藤

No.42★アントン総裁なら何をやっても許されるのか!?
小川直也／橋本真也＆ドン荒川／宮戸＆金原＆高山／津谷章嘉／仲野信市／辻よしなり

No.43★サクと『ＰＲＩＤＥ』のケツに火がついた!!
桜庭和志／ブラジリアン・トップチーム／金原＆サスケ／大谷晋二郎／中野達夫／前田日明

No.44★サクの連敗で『ＰＲＩＤＥ』に語りかけるものは何か?
ノゲイラ＆スペーヒー／橋本真也／高山善廣＆杉浦貴／グレート小鹿／シーザー武志

◎バックナンバー申し込み方法◎

●お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）。
【郵便振替】00130-3-769154（株）ダブルクロス　【現金書留】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス
●郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。
●代金はNO.5〜NO.10＝680円　NO.11〜NO.19＝780円　NO.21・NO.24〜NO.32・NO.35・NO.36〜NO.39＝840円　NO23・NO.33・NO.34・NO.40〜NO.45＝880円　送料１冊＝310円　2冊＝380円　3冊〜4冊＝450円　5冊＝520円　6冊以上＝700円　※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。
●『紙のプロレス・RADICAL』バックナンバー常備店
アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングスパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷・レッスル池袋・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・ワールドスポーツプラザKINGS(池袋・渋谷WEST・新宿アルタ・名古屋・大阪・札幌・福岡）・グレート・アントニオ

★NO.1〜NO.4／NO.6／NO.8 NO.9／NO.12〜NO.14／NO.17 NO.18／NO.20〜NO.23／NO.27 NO.28／NO.33は完売!!

紙のプロレスRADICAL

2002 No.46 CONTENTS

No.46 Main-Event

RADICAL特製ピンナップ

No.46 Semi-Final

Radical Fight

Radical Special

Columns

Another

またもや延刊!! 待てばそれだけ旨くなる。さぶちゃんもそう言ってたよ。

Cover Model
田村潔司

Art Director
出田さん● San Ideta

Design
Two Three
ヒサくん● Kun Hisa
マツくん● Kun Matsu
村松さん● San Muramatsu
グッチー● Gutty
タニやん● Yan Tani

Saotome no jimusho
トメオ● Tomeo
ハナエ● Hanae

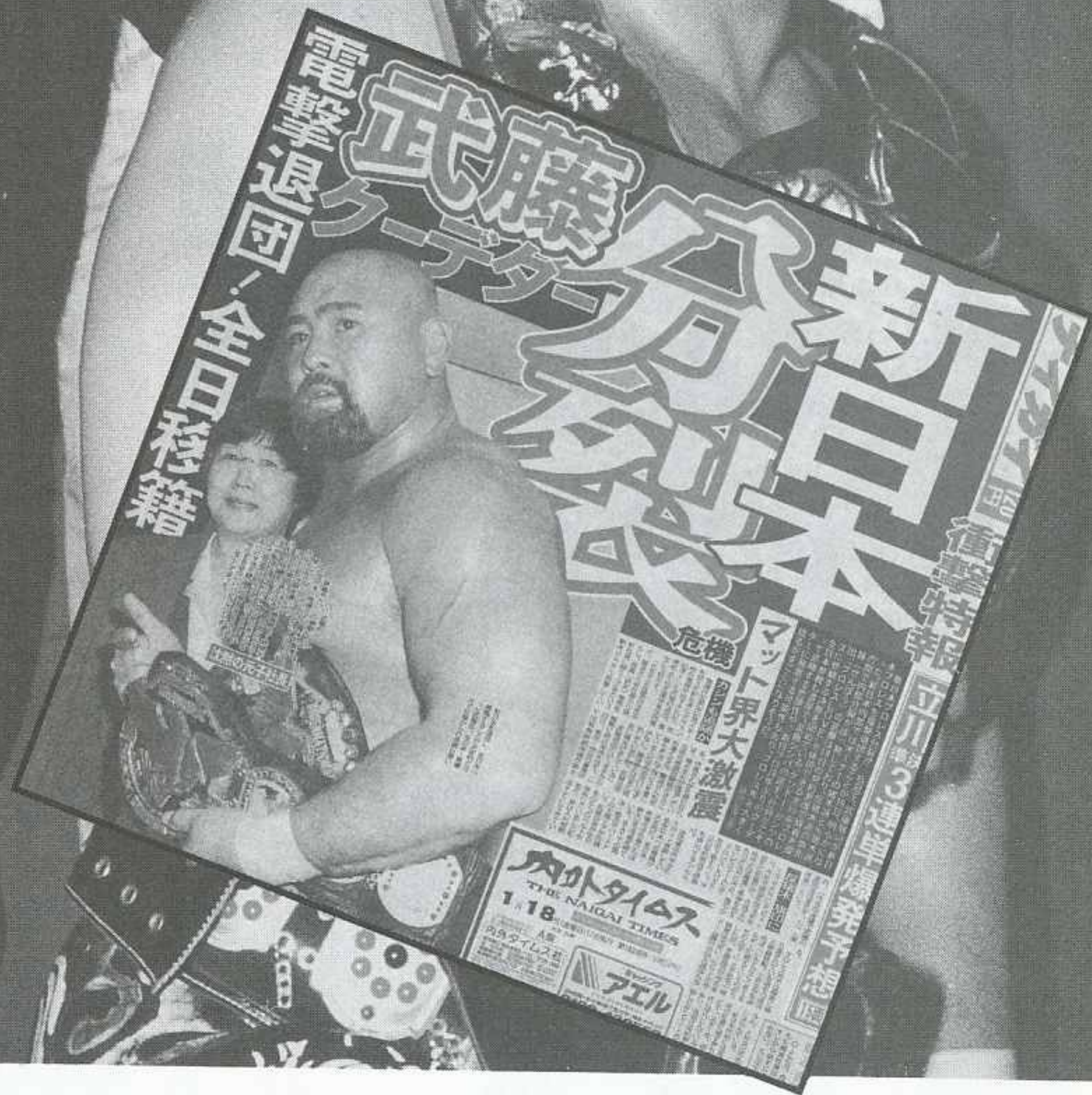
ZERO graphics
海老沢勇● Isao Ebisawa

※伝言ゲーム。"RADICALとは「根本的」「根源的」の意"だって。合ってる?

犯人は馳だ！

21世紀型クーデター成功！

武藤、小島、カシン&社員5人、新日離脱

新日本分裂
武藤クーデター
電撃退団／全日移籍
衝撃特報
マット界大激震
危機
内外タイムス
THE NAIGAI TIMES

マット界に突如大激震が襲った！　新日本分裂！　当初はアングルとの向きが多かったこの事件だが、その内情が明かになるにしたがい、実に巧妙なクーデターであることが発覚！　しかし、こんな大事な時に本誌編集長・山口日昇は冬休みに突入。そこで例によってターザン山本を緊急救援依頼！"葛飾の予言者"が、その恐るべき真相を解き明かす！（聞き手／吉田豪、構成／堀江ガンツ）

、界を読み解く！

山本（唐突に）聞いてくれよォ！
豪 ど、どうしたんですか！
山本 階段から落ちて死にかけたよォォォ！
豪 ダハハハ、な〜にやってんですか（笑）。
山本 腰打って動けなくなったんだよォォ！ もう痛くて痛くて……だからさっさと始めてくれ！
ガンツ はい！ では、山本さんの階段落下も事件だとは思うんですけど、新日本プロレスに「選手3人、社員5人離脱」という大変な事件が起きてしまいました！
山本 そんなもん、もう何年も前から俺が期待してたことだよ！
一同 ガハハハハ！
豪 ようやく来たな、と。
山本 ようやく来たよォ！ やっぱり待つのはいいねぇ。最強だねぇ。これが要するに、俺が6年前に言った「サイレント・リベンジ」の完成ですよォ！
豪 ボディブローがいまになって効いてきたわけですね（笑）。
山本 そう！ 怨念とか恨みというのは、待ってこそ完成するもんな。
豪 無理に仕掛けるとドン・キ・ホーテになっちゃいますからね。でも、こうなるとは想像してました？
山本 してましたよ！（キッパリ）
豪 ホントですか!?（笑）。
山本 世の中でいいことが長続きするはずがありませんよォォ！ 一時期、ボクが『週プロ』辞めたあと、NWAで大ブームが起こったでしょ？
ガンツ 「NWO」です（笑）。
山本 （無視して）世の中の一番の真意っていうのは、決していいことは長続きしないっていうことですよ！ この人生の真実を知らない奴は、全部転落するわけですよォォォ！
豪 山本さんの『週プロ』編集長時代も長続きしなかったし（笑）。
ガンツ それにしても、こうなってしまった元々の原因はなんなんですかね？
山本 これはハッキリしてる！ 大きな二つの原因があるんですよォ！
ガンツ ほう、聞かせて下さい！
山本 まず一番身近な、具体的な原因で言うと長州が権力の座から降りたことですよォォ！ つまり、どんな形にしても長州が睨みを効かせてた時代は、まずこういうことは起きないわけ。
豪 体育会系の鉄拳主義であればこうはならなかったと。
山本 うん。要するにあの体育会系の親分が、選手とかフロントに対してさ、無言の抑圧というか脅しを効かせてると。そういうときには絶対起こらないわけよ。だから長州がマッチメイクを降ろされて……で、あの人、ホントにやる気を失ったよね！
一同 ガハハハハ！
山本 「もう、どうでもいいや！」っていう気持ちになって、天下一品の投げやり殺法になったよな！
豪 誰よりも先に「全日に行きたい」って言い出したのも長州さんですからね（笑）。
山本 そういった意味では、長州の性格がモロ出しになって、そこから組織のひび割れが起こるわけね。だから長州が現場の監督を退いた時に、もうこれはスタートしてるわけですよォ！
豪 まぁ藤波さんじゃ睨みが効くわけがないですからね（笑）。
山本 藤波さんは右往左往するだけでしょ？
一同 ガハハハハ！
山本 もうひとつの要因は、去年一年間、ホントに新日本に対しての猪木さんの嫌がらせが酷かったじゃない。実はそれで一番傷ついたのは、新日本の中の有能な社員なんだよね。
豪 自分らはしっかりやってるのに、毎度毎度「無能」呼ばわりされてたわけですね。
山本 そうそう。要するに有能な社員が嫌気を差したことによって、このような結集力を生んだんだよね。だから一番の原因は……。
豪 猪木さんだと（笑）。
山本 そうですよォォォ！
豪 最近の猪木さんって、ホント歩く街宣車みたいですよね。悪口しか言わない（笑）。
山本 チクチクチクチクさ。それこそ太平洋を往復する度に名誉毀損みたいなことも言ってるもんね。そんな猪木さんに新日本の有能な社員が我慢できなかったということと、内部的には長州が退いたことでのタガが緩んだ。この2点だよ！ つまり外部的要因と内部的な要因、両方で崩れたんですよォ！
豪 だから、ある意味ではホント馳さんの勝利っていう気もしますよね。馳さんと長州さんの揉め事がこう繋がってるわけだろうし。
山本 馳ね、あれはホントにタチ悪いよ！
一同 ガハハハハ！
豪 それでも表向きは「あくまでも仲良くやってますよ」みたいな感じで。
山本 うわべは全部キレイ事だもんな。
豪 さすが政治家（笑）。
山本 全部キレイ事で、いい子になって。で、適当にいつも負け役やってるんだよ。
ガンツ ま、負け役って！（笑）。
山本 いいんだよ！ ミスター高橋が言ってるんだから！ 馳は

馬場元子社長 執念のリベンジ成功

現ノア勢の大量離脱後、新日との交流などで何とか続けてきたが、30周年興行後は解散という見方が一般的だった元子全日本。しかしここに来てまさかまさかの大どんでん返し！ この時間をかけたリベンジはまさに馬場イズムだ！

すべてはオレの予言どおりですよォォォォ!!

ターザン山本が 2002年のマット

新日分裂の要因は
長州の失権と

「僕は負け役で」って、全部あれがフェイントになってるんだよね。カモフラージュの天才みたいな男だよ。

豪　カウント3入れられながらニヤニヤしてる感じですね（笑）。

山本　要するに聖人君子で、言いたいことを言えないから余計ストレスが溜まって、怨念が自分の中に溜まるというかね。

豪　じゃあ、今回の一件は馳さんなりのサイレント・リベンジだったんですね。

山本　サイレント……馳のはもっと悪い言葉だよね。

豪　一緒にするなと（笑）。

山本　そう！　「サイレント・リベンジ」なら凄くいい言葉だけどさ、もっとドス黒い生々しい世界だから。

豪　もっと邪悪なリベンジですよね。

山本　そう、邪悪リベンジだな！

豪　そのままですね（笑）。

山本　英語わからんから（かわいらしく）。

豪　ダハハハ！　でも、今回抜けたメンバーって結構意外じゃないですか？　武藤、小島、カシンの3人って。

山本　意外じゃありませんよォ！　全部、馳とつながってますよ！

豪　小島さんもそうなんですか？

山本　小島選手は、浅草の（アニマル）浜口さんのジムにいてトレーニングしてた時に、（小島が）いい性格といい体力してるので「お前、プロレス入らないか？」と、馳のほうから誘ったんですよ。要するに馳選手が小島選手に目を付けて、スカウトして引き入れたという、非常に密接な恩があるんですよ！

豪　はぁ～、つくづく恐ろしいですね、馳さんは（笑）。

山本　そういう種を蒔く人なんですよ！

一同　ガハハハハ！

山本　だからそういった意味では、いわゆる新日本プロレス頭脳集団が出ていったわけですよ。

豪　フロントの人なんかは、切れ者ばかりだったみたいですね。

山本　そうそう！　要するに頭のいい奴は速く逃げるんですよォォォ！

豪　沈みかけた船ですからね（笑）。

山本　才能のない奴は最後まで組織に残るわけよ。新日本はタイタニック号みたいなもんなんだから、早くボートに乗って逃げなきゃいけないわけよ。違う？　頭のいい奴は逃げ足が早いよ。目先が効くわけですよ！

豪　いま思えば全日とノアが別れたときに、「なんで馳さんは全日に残ったんだ？」とかみんな思ったじゃないですか？

山本　いやいや、それはそうですよ！　ノアに行ったら馳は主流派になれないでしょ？　ノアの世界では外様の外様になるから。だから馳というのは自分の能力をいつか発揮できるというか、主役になる場を望んでいるわけですよ。あの男は自分では「中間管理職」なんて言ってるけど、常に野望を持ってるんですよ！　あれほど世界的な野望を持ってる奴はいませんよォ！

一同　ガハハハハ！

山本　総理大臣になろうとしてるんだもん！　いやホンマですよ！　舐めたらいけませんよ、アイツは!!

豪　その第一歩が今回の離脱劇なわけですね。

山本　そうそう。計画を練りに練った、もう二重三重に網を張った、逆転劇を狙ってる男なんですよ！

豪　確かにちょっと前から「面白いことが起きる」って言ってましたからね。すべては計算ずくだったと。

山本　そうだよ！　計算してない奴ばっかいるんだから、馳にとったらもう赤子の手をひねるようなもんだよ！

一同　ガハハハハ！

山本　もうすべて計算ずくのフィクサーですよ。だから、馳が武藤とくっついた時に、あのBATTを作った時にこうなると思わないとダメよ。

豪　そうだったんですか！

山本　もう全部のプロレスの世界のことは、みんな伏線なんだから！　推理小説と一緒なんだよォォ！

豪　山本さんは気付いてたんですか？

山本　えっ!?　……気付いてないよ（アッサリ）。

一同　ガハハハハ！

豪　つまり、伏線だったって後からわかったんですね（笑）。

山本　プロレスはあとから全部理屈付いて、全部辻褄が合うわけ。あとからわかる面白さですよ！　「よく騙してくれた！」というね。

豪　それなのに、いまだに今回のこの出来事をアングルだと思ってるファンがすごい多いわけじゃないですか。

山本　うん、俺も最初そう思った。

一同　ガハハハハ！

山本　最初は「あ、これは新日本プロレスが長年夢見てきた2リーグ制で、全日本にも地上波がついて、新日本が儲けようとしてるのかな？」と思ったよ。……もう俺たちはホントに俗っぽいよな！（笑）。

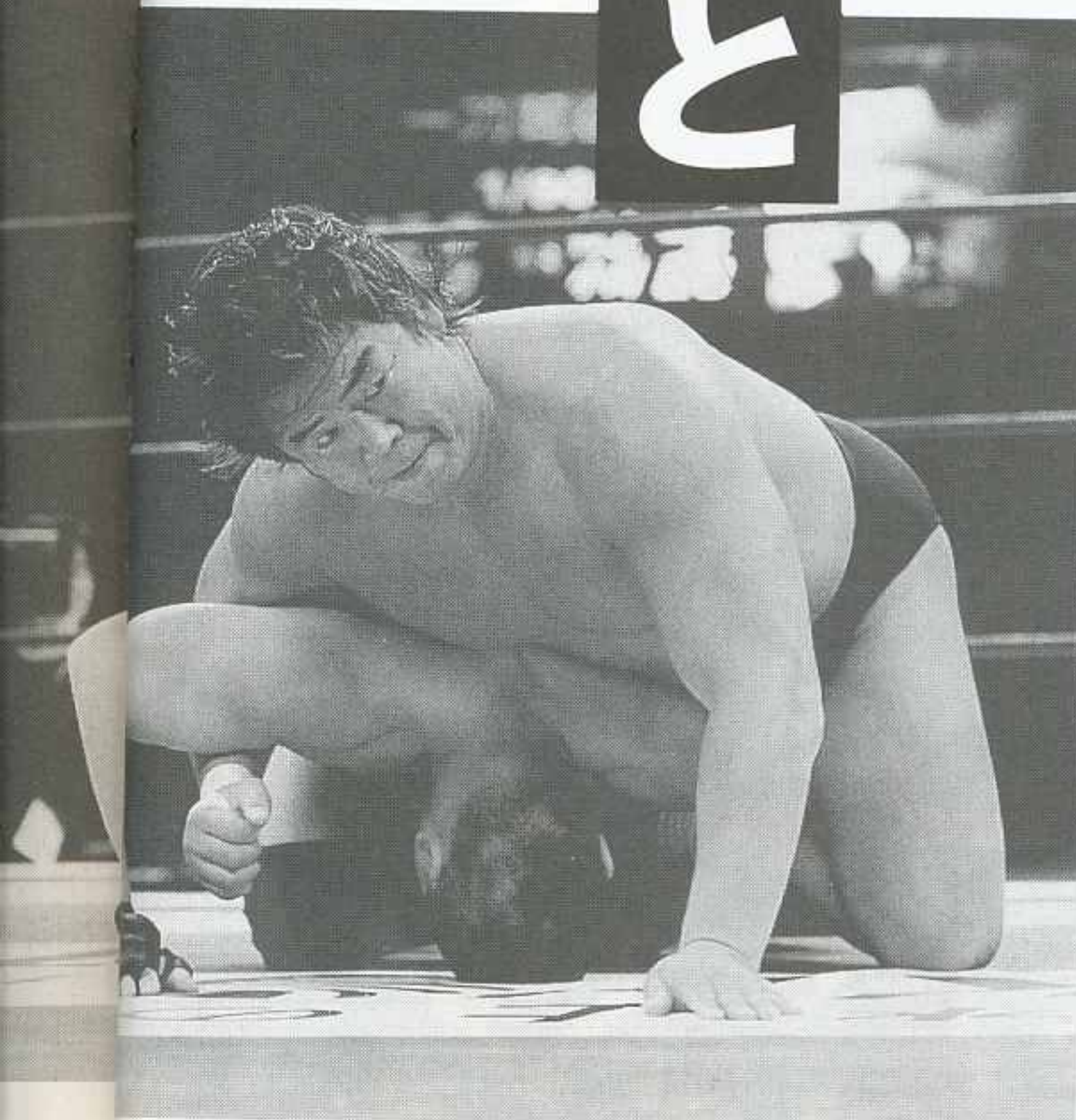
豪　ボクらはすっかりナメてましたね（笑）。しかし全日がこうなると、面白くなってくるのは川田ですよ！

山本　そりゃあ、川田はすぐ新日本に行きますよォ！

豪　早速、東スポに出てましたね。「新日、報復として川田引き抜き」って。

山本　これはアレですよ。もう中日ドラゴンズの中村捕手ですよ。

豪　はぁ？

山本　ベイスターズの谷繁が来たらポジションがなくなって、中村捕手がわ

猪木さんの嫌がらせですよォオオ！

めいて騒いで「自由契約にしてくれ」って言ったでしょ？　で、結果的に横浜に行ったじゃない？　川田と同じですよォ！

豪　そう考えると、ホント川田は面白いですよね。ノアができたときに一人残ってエースになれるかと思ったら、天龍が来てバッシングされまくって、挙げ句の果てには武藤まで来て（笑）。

山本　初めからそういう運命にある男だよ！　ここまで来た時点でもう良しとしないといけないよ。あの力量で。

一同　ガハハハハハ！

山本　あのビジュアルで！

豪　そこまで言いますか！（笑）。

山本　そうですよォ！　ここまで来たことで良しとしないとバチが当たりますよォ！

豪　つまり、あれで四天王になっただけでも凄いと。

山本　三沢が、一番言いたいのはそこだよ。

豪　「なんで　お前が四天王なんだ!?」と（笑）。

山本　そうそう。ズーッとそういう気持ちで試合してたと思うよ！

豪　だから川田さんにエゲツないこともやったわけですね（笑）。そう考えるとホントに川田さんは面白いなぁ。

山本　いや、だからいま言ったことによって、川田のアイデンティティがまた高まるわけじゃない。ひがんでひがんで生きていけばいいんだよ！

豪　渕さんは残ると思います？

山本　行き場所ないんだから残るしかないよ！　結婚できないことと引き取り手がないことが、あの人の二大アイデンティティですよぉ！

豪　どんなアイデンティティですか！（笑）。今年、『ファイト』で「渕は結婚できる」って予言したばかりなのに。

山本　（突然立ち上がって）あの記事は凄いんだよォ！（『ファイト』を広げて）オイオイ！　コレを見てくれ！「ベンチャー企業が新日買収」って書いてるでしょ？

豪　あ！　もしかしてこれは！

山本　これソフトバンクのことですね！　俺はこの時点で真実を書いたらいけないから、「全日買収」じゃなくて「新日買収」と書いたわけですよォォ！

一同　ガハハハハ！

山本　それで「武藤が全日本に行く」って書くとマズイから、「ＷＷＦ」って書いてるわけじゃないですか！（武藤が）「米に永住決意」というのは新日本にいないっていうことですよ！　全部大当たりじゃない！

豪　そして「全日プロ再建へ」って書いてありますね（笑）。

山本　そうですよ！　この「初夢」って記事は、ホントに知ってることを反語で書いてるんだよ、俺は！

豪　本当ですか？

山本　そうですよぉぉぉ！

豪　ええ〜!?　信じられないなぁ（笑）。

山本　じゃあなんでこの「ベンチャー企業」っていう言葉が出るんですかぁぁぁぁ！　本当に書いたら生々しいから、俺はそう書いているわけですよ！

豪　でも「渕結婚」は外しましたけどね（笑）。

山本　これは愛嬌で書いたから（アッサリ）。

一同　ガハハハハ！

山本　これはヤバイ記事を誤魔化すためにさ、中和剤として書いてるわけ。

豪　全体をギャグにするために（笑）。

山本　だからホント大当たりなんだよ！　これ、12月の終わりに書いた原稿だよ！

豪　恐ろしいですね、山本さんは！

山本　俺は予言者ですよォォォ！

豪　そんな予言者からすると、これから新日はどうなると思いますか？

山本　沈みいく船ですよ（キッパリ）。手遅れだよぉ！

豪　じゃあ、猪木さんはこうなった新日に対してどう動くと思いますか？

山本　今までやってきたことが無意味化しますよ。猪木さんは新日本をチクチクいじめてきたわけでしょ？　でもそれは新日本がしっかりしていた時に

居場所を失った川田は中日の中村捕手ですよォ！

初めてイジメ甲斐があったんだよね。

豪　いま下手にイジメたら確実に潰れますからね（笑）。

山本　これによって、もう成田空港での新日イジメは意味がなくなって、ここで初めて猪木さんの言葉は無力になったんだね。

豪　まぁ、「言わんこっちゃない」ぐらいの負け惜しみは言うでしょうけどね。

山本　それで「言わんこっちゃない」と言っていながら、新日本の頭脳は新しいことやってるわけでしょ？　そうすると猪木さんも取り残されるんだよね。だから、逃げていった人間は、ある部分ではアントニオ猪木さんに対しての復讐もあるよね、これ。

豪　でしょうね。完全にそうですよ。

山本　アントニオ猪木に対する人間不信ですよ。「もう新日本にいてもできない。じゃあ外でやるしかない」というね。だからこれをソフトバンクなり大きなスポンサーがやったのなら、それこそ第二のメガネスーパーですよ。しかも今度はいい形の。

ガンツ　いいSWSですか（笑）。

山本　今回は頭脳を引き抜いたということが重要なわけですよ。前はクズを引き抜いたわけでしょ？　クズって言ったら悪いけども。

豪　ダハハハハ！　それは悪いですよ、どう考えても（笑）。

山本　要するに廃棄物を引き抜いたような。廃品回収のトラックですよォ！

豪　そりゃあ絶対、いつか破綻しますよね。（笑）。

山本　やっぱり「歴史には二度過ちがない」というように、今度は頭脳を引き抜いたでしょ？　要するにヘッド・ハンティングですよ！　マット界にとって初めての。前のはクズ・ハンティングだから。

豪　頭脳とクズじゃエライ違いですね（笑）。

ガンツ　でもひとつ疑問なのは、離脱組の人たちは長州さんとか猪木さんの世界から逃れられても、全日本に来たら元子さんっていうオーナーがいるわけじゃないですか？　そういう中で自由にできるものなんですか？

豪　元子さんの縛りはあるのかどうかということだよね。

山本　ないよ！（即答）

豪　ないですか、もう。

山本　元子さんは、全日本プロレスに1から入った選手に対しては、何らかの形の縛りというか、上下関係で支配しようとするけども、外部から来た人たちにはやっぱり縛れないわけですよ。

豪　でも、昔は外様の選手には厳しいとか言われてたじゃないですか？

山本　その外様の選手は、なんて言うか喰えなくなってたり、泣きついて来た人たちなわけですよ。だから馬場さんと一緒にふんぞり返ってたわけ。ところが今度の場合は、そんなに全日本の立場は強くないでしょ？

豪　逆に困ってるのは全日本の方ですからね。

山本　そうですよ！　その人たちによって全日本プロレスを再建して、新日本に対して、ここでもしかしたら逆転するかもわかんないという。要するに元子さんなりのリベンジにどうしても必要な人たちなんですよォォ！

豪　しかも今回来た3選手って、元子さんともうまくやっていけそうな3人じゃないですか。

山本　もう年上殺しみたいなもんよ！

豪　ですよね？　そうなんですよ。

山本　年上殺しって言ったら悪いけども、それは当たり前なことなんだよね！　要するに力を持ってる女性に対して気分良くさせるっていう。そういう才能がある人がいいプロレスができるわけですよ！

豪　川田さんにはそれがないのはハッキリ見えますからね（笑）。

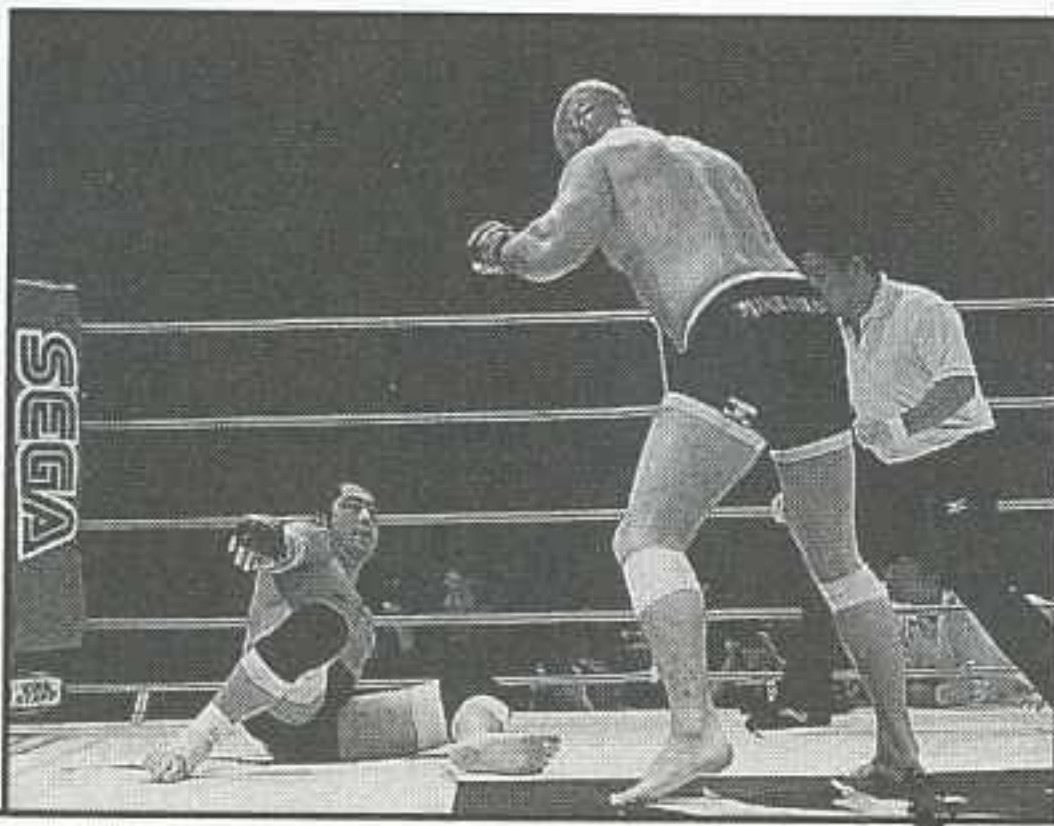
山本　限りなく0に近いよ！

これが『週刊ファイト1月17日号』に掲載された、「ターザン山本のマット界初夢」。ぬるい妄想企画だと思う向きもあったが、なんとなんとここに書かれているようなことが次々と起こり始めた！　これは予言の書か？

△髙田延彦　　マイク・ベルナルド△

［3R　時間切れ引き分け］

手負いの髙田、試合後に引退宣言！

試合前の大々的なオープニング・セレモニーに観客のボルテージは早くも最高潮！　「トレーニング・モンタージュ」が流れる中、登場した髙田には、とても第1試合とは思えないものすごい歓声が送られた。が、試合が始まると観客の態度は一変！　髙田＆ベルナルドの消極的な戦法に、大ブーイングが注がれた。試合も時間切れドローという結果に。髙田は試合後のコメントで「あと一試合で終わり」と発言。近い将来、引退することを匂わした。

2001.12.31
INOKI BOM-BA-YE
PUTIT REVIEW

俺だったら棚橋 真壁 柴田を引き抜いて王道三銃士にする！

一同　ガハハハハ！

山本　やっぱり権力と力とお金を思ってる人は、そばにかわいい人をおいて置きたいっていうのがある。誰でも誉められれば嬉しいしさ。そういう人の心をくすぐるものがないと才能がないよ！　違う？

豪　その点武藤さんはうまいですもんねぇ。記者とかに「元子さんにメシ誘われちゃった。手料理だよ？」とか自慢したりとか。それは元子さんも嬉しいだろうし（笑）。

山本　そういった意味では、もうプロレスラーというか男芸者の典型ですよ！　いい意味のさあ。その辺は彼が持って生まれたもんだよね。

豪　狙ってないですもんね。全日本はこれで完全に化けるんじゃないですか？

山本　大化けしますよ、これ！

豪　いまの時点でも天龍さんとかがいろいろ面白いことやってるのが、これで完全に混沌としたゴージャス過ぎる世界になりますよね？

山本　なる！　あとは世間的に武藤が来たことで、テレビが付くようなイメージづくりになれば成功だよね。

豪　今後はとりあえず、プロレス界は全日中心になるっていう感じですかね？

全日本参戦後、ゼヒともカシンに期待したのが、元子社長との絡み。はたしてカシンは元子社長を「ババァ」と呼んだり、認定書を破り捨てたりできるのか!?　いまからドキドキする！

山本　いや、逆に新日本プロレスがインディーの道を辿ると。こう例えればわかりやすい。

豪　はぁ～、なるほど。

山本　要するにここ5年間、興行におけるシェア率、マスコミにおける記事のシェア率、占拠率が70％あって、一党独裁的な支配を持った新日本が、そこから転落すると。メジャーから限りなくインディー化するというね。

豪　なるほど。まだこれから選手が抜ける可能性もあるでしょうしね。

山本　いや、若手みんな引き抜きに行きゃいいよ。棚橋とかいるでしょ？　棚橋と柴田と、それで向こう行ってる真壁？　もうその3人引き抜いたら終わりですよ。オレなら現ナマ、ポンっと持ってってすぐ口説けるよ。

一同　ガハハハハ！

豪　つまり、鈴木健想やブルーウルフは引き抜かなくていいと（笑）。

山本　そうですよ！　将来性のある奴を引くんですよ！　三銃士じゃないけどさ。

豪　いいですね。王道三銃士（笑）。

山本　そう！「王道三銃士だ！」「もう何も気にすることはない。お前が将来のトップだよ！」って言ってね。

ガンツ　それは行っちゃいますよ。……しかし悪いこと進言しますねぇ（笑）。

豪　それにしても、30周年でこれが起こるというのも凄いタイミングですよね。

山本　いや、ここがプロレスの面白いことで、30周年を興行の切り札にしようとしたわけでしょ？　そういう時に分裂が起きる。いかにも新日本的でいいよな！　それよりさ、こうなると間抜けなのは橋本ですよォ！

豪　破壊王はちょっと行動を起こすのが早かったですからね（笑）。

山本　もうこれは政界で言うと加藤紘一だよな。

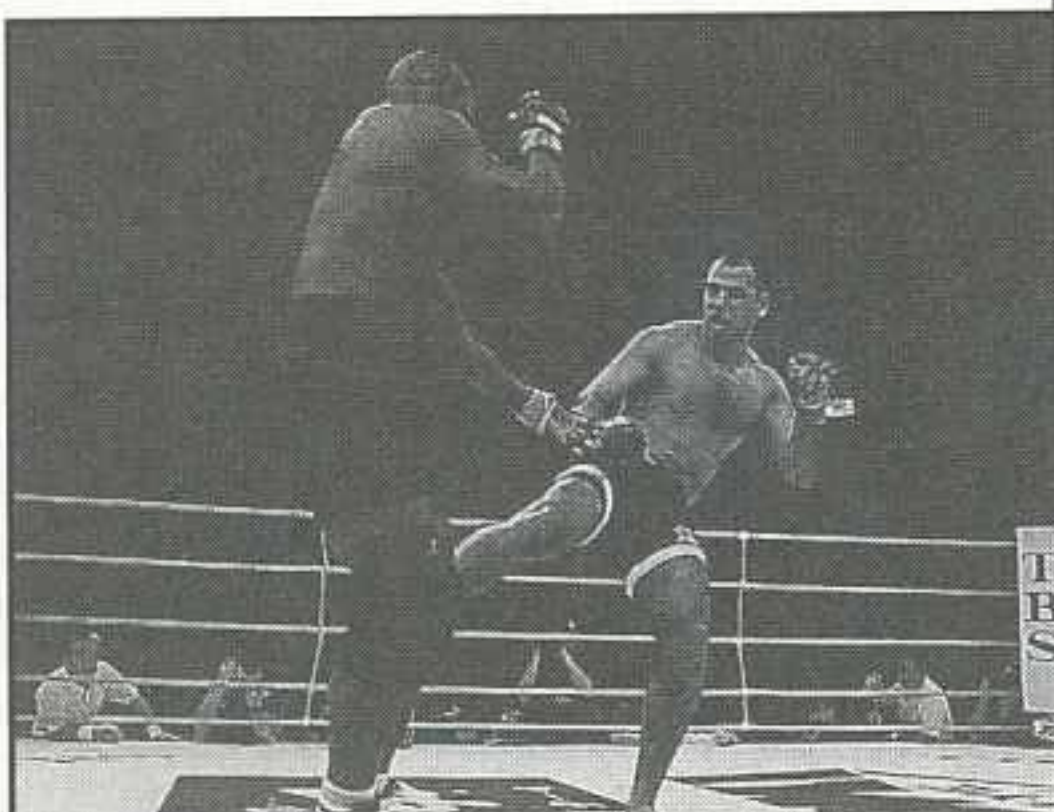
豪　ダハハハ！　それはわかりやすいですね（笑）。

山本　要するに「自民党を変えないき

△ゲーリー・グッドリッジ　エベンゼール・フォンテス・ブラガ△

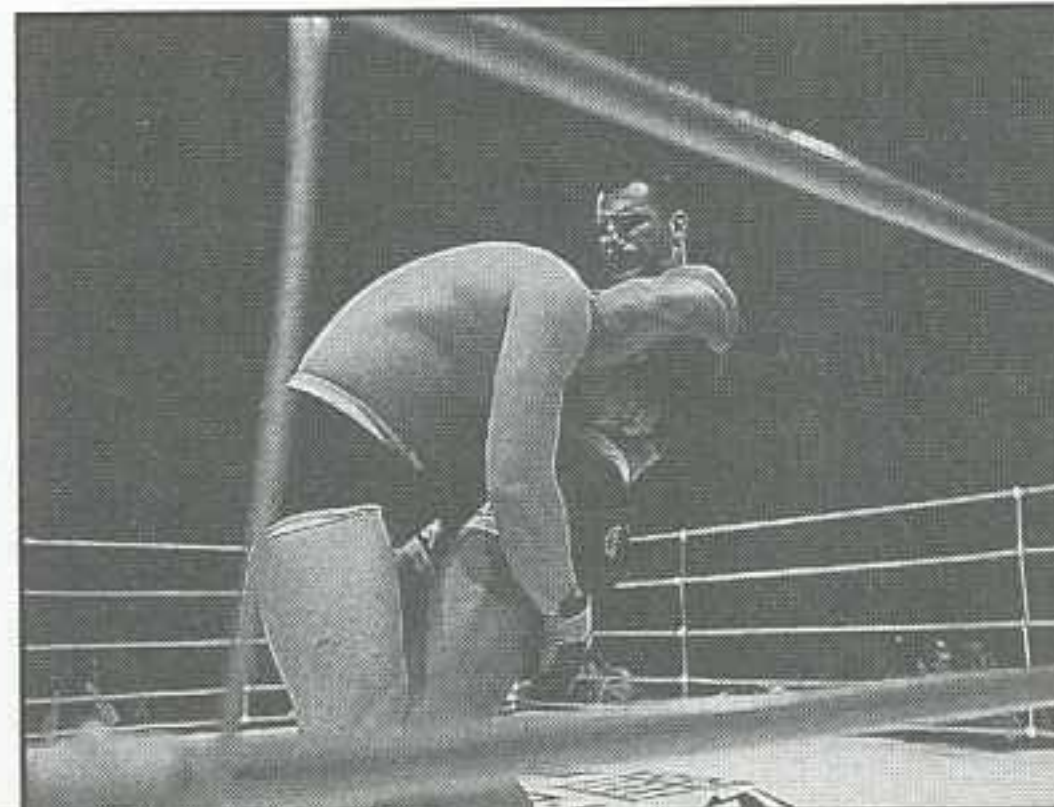
［5R　時間切れ引き分け］

まんま『PRIDE』！ ドロードロードロー……。

2試合連続のドロー決着に客席も微妙な雰囲気になってきた。第3試合は当初グッドリッジ対戦予定だったレネ・ローゼが当日になってブラガに変更された。これで第2試合とは逆に「PRIDE」で実現してもおかしくないカードに。K－1軍として出場のブラガが、グッドリッジをグラウンドで攻めるシーンもあったが、こちらもドロー！　試合後は両者ともに「友人だから闘いたくなかった」とコメントした。3試合連続ドローで客席もぐったり…。

△佐竹雅昭　サム・グレコ△

［5R　時間切れ引き分け］

グレコ、総合への順応性の高さアピール！

猪木軍vsK－1というより、数年前ならK－1のリングで何度も見られたであろう顔合わせ。試合のほうは序盤にグレコが佐竹をフロントチョークで攻めるという、お互いの立場が逆転した場面もあった。それ以降も両者動きのある試合となったが、結局この試合もドロー。しかし、この試合でグレコは総合に対する順応性が高さをアピール。グレコ自身も、今後は総合格闘技や再度プロレス（WCWデビュー予定も団体消滅）に進出する意思があることを明かした。

幻想を作り、巧妙に裏切る田村は負のプロレスラーですよォ！

ゃいけない」と誠意でやって、野党と組もうとしてたけど大失敗して、いまは散々な目でしょ？　そして待っていた小泉首相があとで勝ったでしょ？　もう、わかるじゃないそれで。貧乏くじ引いてるわけですよ、橋本は！

豪　やろうとしたことは正しくても、タイミングが悪かった、と。

山本　そう。タイミングの悪い奴はダメ！　だから計画的なタイミングを狙う、馳の天下ですよ！　犯人は馳ですよぉぉぉ！

ガンツ　タチ悪いですねぇ（笑）。

山本　政治家はタチ悪いよ！　嘘八百だもん、あんなもん!!

ガンツ　タイミングと言えば田村潔司も絶妙なタイミングで『ＰＲＩＤＥ』参戦を発表しましたよね。

山本　田村……アイツもタチ悪いねぇ！

一同　ガハハハハ！

山本　よ～く考えたら、ここしかないってタイミングで出てるんだよね。ということは、ズーッと窺ってるわけよ。昔、Ｕインターvs新日本をやった時に、宮戸と二人で出なかったわけでしょ？　あれが田村幻想を今日まで作ってきたんだよね。だから今回も『ＰＲＩＤＥ』には出ないという考えでいたわけですよ。でも、それを裏切ったということは、裏切られた俺がアホで、田村のほうが一枚上手だったといことだよな。オレたちに幻想を作らせておいて、このタイミングで出るというのはホンットに巧妙すぎますよ！

豪　『真撃』を蹴って、「ＤＥＥＰとか行くしかないな」ぐらいに思ってた時に裏切れば、それは光りますよね。

山本　いや、見事なプロレスラーだよね。そういう意味ではオレは関心してんのよ。でも憎たらしいから悪口書くんですよォ！

一同　ガハハハハ！。

豪　ボクは最近、対立概念をどんどん作っていかなきゃっていう思いが凄くあるんですよ。だから田村『ＰＲＩＤＥ』参戦は断じてアリですね。高田がムキになるし、桜庭もムキになるし。

山本　そういった意味で、人の嫌がらせをするというのは重要なんだよね。嫌がられるということは、相手が本気になるっていうことだから。相手の本気に火を点けることだから。俺も火ィ点けられたもん！　メチャクチャ火ィ点けられてさ。「してやられた！」という自分があるんだよね。しかも一番重要なのは、田村が勝ったら、田村が桜庭より強いことになるんだよね。そういう入り組んだ嫌がらせ。二重、三重構造的な嫌がらせを全部集約してるから、非常にプロレスしたんだよ、田村は。

豪　そして、田村って快勝はしなくても、姑息な判定勝ちとかだったらできそうな気がするから余計タチ悪いですよね（笑）。

山本　０・１ポイントの判定勝ちする可能性あるでしょ？　そういうした場合、「いままでオレたちが見た『ＰＲＩＤＥ』は、なんだったんだ？」って！　全部が全部、覆されますよォ！　ホントにプロレスラー以上にプロレス的にやったって意味で、田村は負のプロレスラーですよォォ！

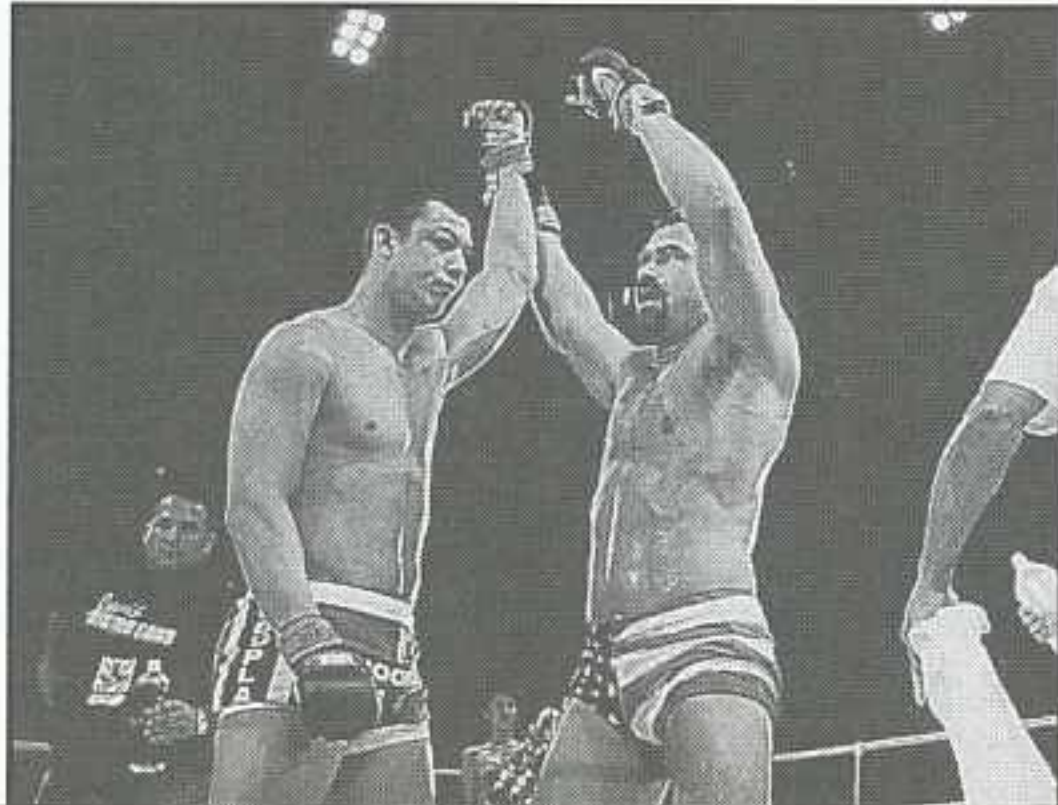
豪　これはもう是非とも判定勝ちしてほしいですね（笑）。

山本　それとシウバは負け時みたいな

○ドン・フライ　シリル・アビディ●

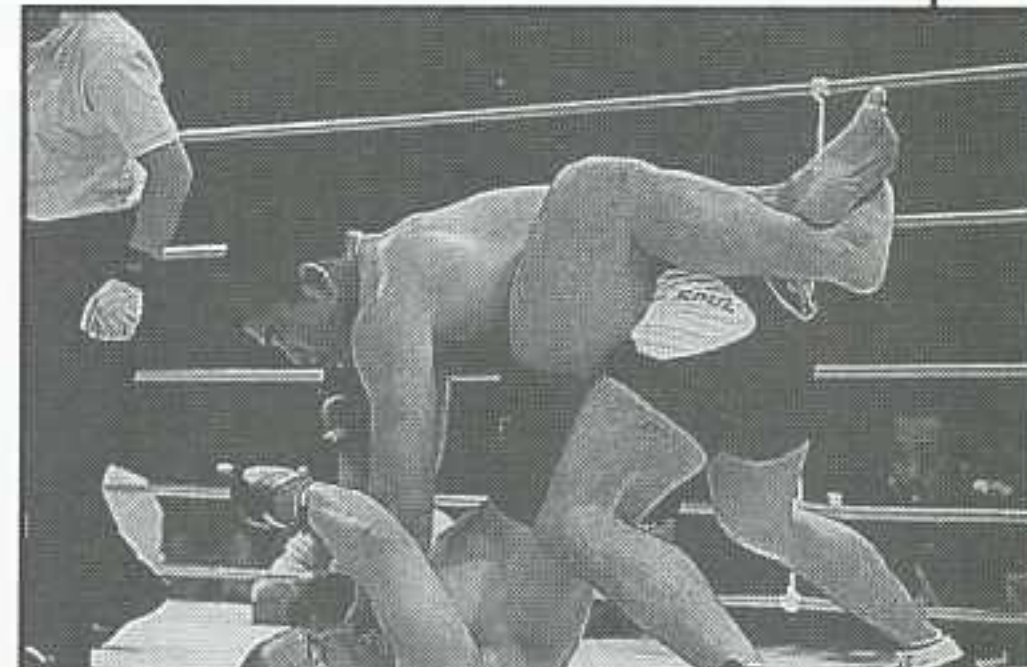
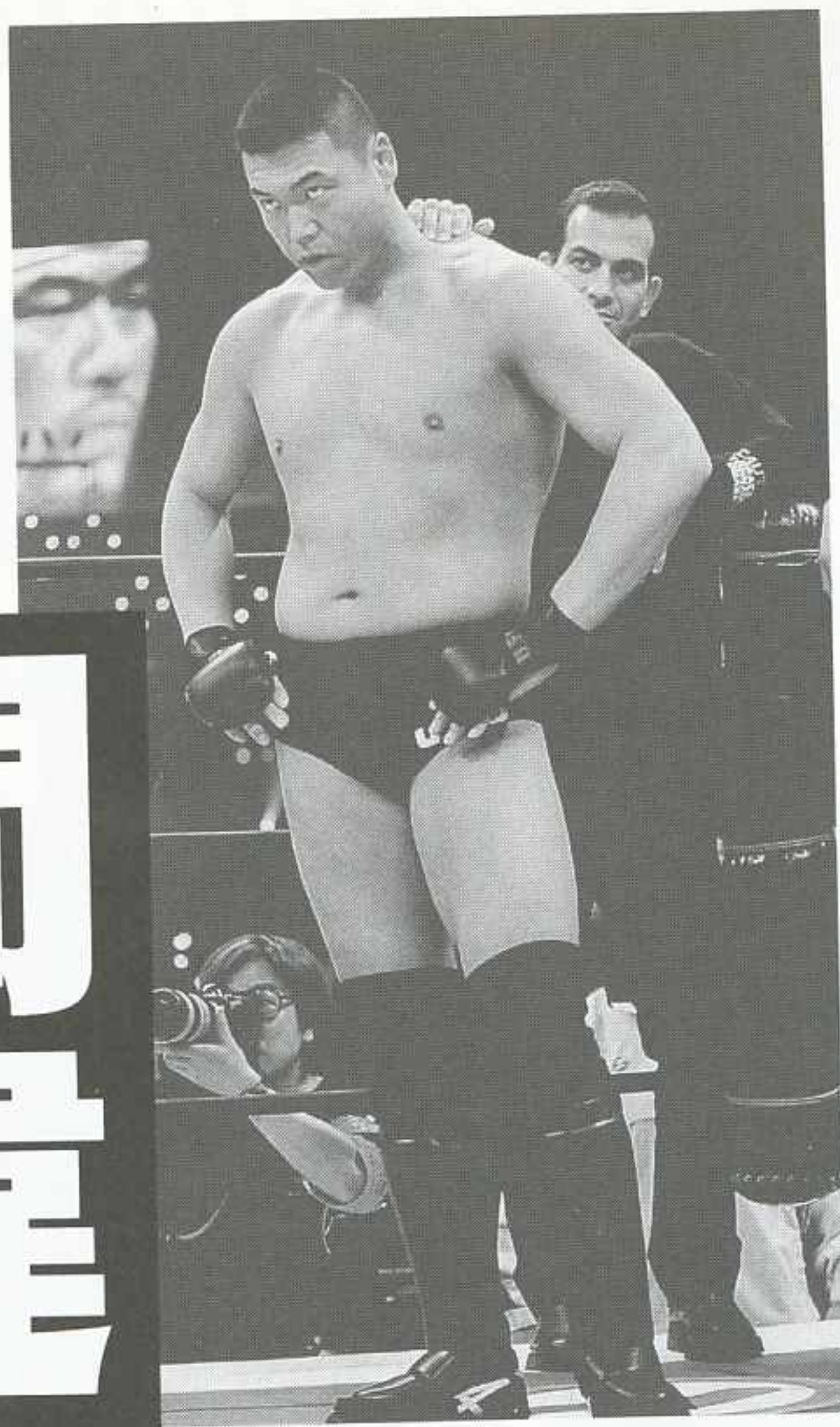
［2R35秒　裸締め］

フライ人気爆発！ ようやく猪木軍先勝！

猪木vs紅白仮面のおかげ（？）で、この試合からリングの雰囲気も変わった！　この日も星条旗を掲げて入場したフライは、１Ｒ開始直後から積極的に動き、アビディの打撃をかわしつつテイクダウンに成功。フライがアームロックを嫌がり反転したアビディにパンチを振り下ろしたところで１Ｒ終了。そして２Ｒ開始早々、アビディのパンチにカウンターでの見事なタックル！　すぐさま裸締めでタップさせ、試合に勝負をつけた。猪木軍、先勝！

△石澤常光　子安慎悟△

［5R　時間切れ引き分け］

石澤、子安を攻めきれず 前代未聞の4連続ドロー

３試合連続ドローという結果に、否が応でも石澤の試合に期待が集まる。それが石澤の入場時に大きな歓声となって表れた。試合では、子安のローなどの打撃でせめられつつも石澤はタックルでテイクダウン。グラウンドでは終始コントロールしていた。だが、それから攻めきれずにそのまま５Ｒ終了のゴング！　石澤は試合後にコメントを残すことなく会場を去った。客席も４試合連続ドローという前半戦に騒然！　猪木祭りは、いったいどうなってしまうのか!?

気がするんだよな。田村は全部それをわかってやったのかもね。……冷徹な男だねぇ。恐るべき冷徹な男だねぇ。氷のような男だよォォ！

豪　一点の曇りもなく冷徹（笑）。

山本　でも、その冷血漢なところをプロレスラーとして評価しなきゃいけないんだよ。

ガンツ　しかもあんだけ同業者から嫌われるっていうのは、それはそれで才能ですよね。

豪　多分、この世界でもトップクラスですね。アレぐらい誰もよく言わない人っていうのは（笑）。

山本　いや、逆に言ったら、それだけ物事を考えている証拠なんだよ。考えに考え抜いて、結論出してるんだよね。それこそ最も計算しつくした結論だよね。素晴らしいよ。

豪　素晴らしいけど、やっぱり悔しいから悪く書く、と（笑）。

山本　メチャクチャ書きますよォ！

ガンツ　ガハハハ！　山本さんも十分タチ悪いですよ！　それからタイミングというと、『PRIDE』出場を決めた田村とは逆に、『猪木祭り』に出ないという我を貫いた小川直也という選手がいますけど。

山本　小川直也？　アイツに関しては俺が間違ってた！

豪　あ、間違ってましたか！　どうしたんですか、急に？

山本　（唐突に）アレは凄い男だよォォォ！　いや要するにさ、人の作ったレールというかアングルに決して乗らない。それをズーッと拒否し続けて小川直也っていう価値観を守り続けてるでしょ？　普通はね、おいしいものがぶら下げられると、パクって行っちゃうわけよ！　8千万にも食いつかなかったんだから、見上げた根性だよ！

豪　まず、プロレスラーなら誰でもおいしい話に乗りますからね（笑）。

山本　いや、プロレスラーぐらい乗る人いないよォ！　「アッ！」と思ったらパクッて飲み込んでるもん！　超ダボハゼ殺法！　あんな釣り堀で釣りやすい人間はいないよ！

一同　ガハハハハハ！

山本　だから、レスラーには現ナマ出すのが一番いいんだよ。そこに8千万なら8千万持っていけばいいんだよね。ズラ～ッと並べてね。もうイチコロだよぉぉぉぉ!!

豪　その中で小川直也だけ、唯一釣れないわけですね？

山本　そう！　唯一釣れないというところに小川直也という人の不思議な魅力を感じるんだよね。もう小川が全部正しいよ。

豪　いままで何回かバッシングしたりとかしたけど（笑）。

山本　やっぱりそれは、憎たらしいからやってるんだよね。でも、よ～く考えたら一つも間違ってねぇや！（笑）。

豪　ダハハハ！　今日の山本さんは素直でいいですね（笑）。

山本　「何だこれ！　小川が全部正しいじゃねぇか！」と思ったんだよォ！

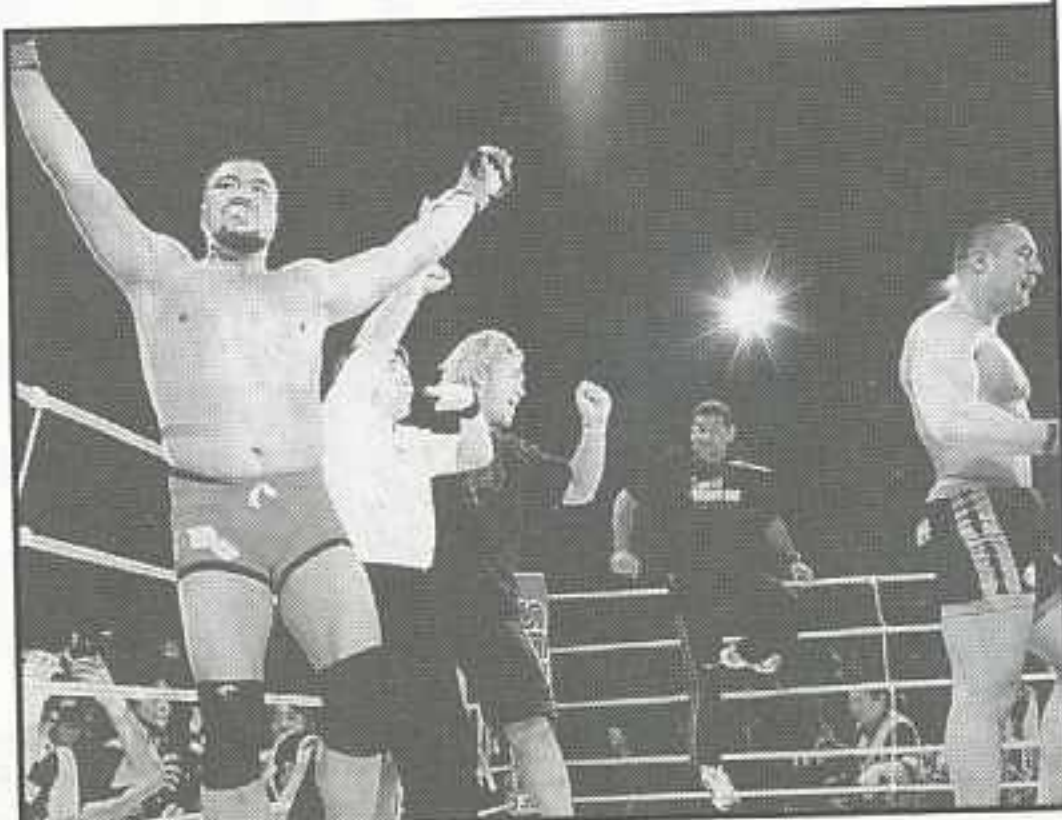
ガンツ　しかもそれでいてプロレスフ

俺が間違っていた
小川は全部正しい！

○安田忠夫　ジェロム・レ・バンナ●

［2R2分10秒　ギロチンチョーク］

ヤスティ、国民的ヒーローに！ 猪木軍、2勝1敗4分で勝利！

1勝1敗となり、事実上の猪木軍vsK－1の決着戦になったメインイベント。試合前からテレビ等で、娘と仲直りしようとするが当の娘は冷たい態度という過程をクローズアップされてきた安田だが、試合ではバンナの打撃にも恐れず前に出て行き、バンナに組みついて倒すことに成功。そして、上に乗ってのギロチンでバンナがタップ！　その喜びから娘を肩車した安田。当の娘は「ギャー！　落ちる！」と困惑ぎみだったが、最高のハッピーエンド

●永田裕志　ミルコ・クロコップ○

［1R21秒　TKO］

永田、一撃で轟沈！ ミルコ、強し！

G1王者・永田裕志が、プロレスラーの宿敵・ミルコに報いることができるのかが最大の観点だったこの試合。気合十分だった永田は、試合開始直後に果敢に前進。それに対しミルコはワンツーを出し対応。これからと思われた瞬間、永田の右側頭部にミルコのハイがクリーンヒット！　倒れた永田にはTKO負けという裁定が待っていた。永田はなにが起こったのかわからず半笑いで戸惑うばかり。プロレスラー・キラー、ミルコの面目躍如の試合だった。

前田は絶対復讐する
あの人の怨念は恐いよ！

アンを騙すというか、そういう所は上手いですよね。みんな何回も裏切られてるのに、試合が組まれる度に期待して行っちゃって（笑）。

山本 やっぱりそれは恋愛と一緒なんだよね。すぐできたらつまらないじゃない？　じらしてじらしてヤる女のほうがいいじゃない？　「（恍惚の表情で）やれた時、どんなんなるのかなぁ」って想像するじゃない！

豪 ある意味ではタチの悪いキャバクラ嬢みたいな（笑）。

山本 もうハマってハマってね！

豪 山本さんも相当つぎ込んでるし（笑）。

山本 そうですよォ！　拒否される度に、その彼女との幻想が膨らんでいってさ、もしできた時には大変だよォォォォ！

一同 ガハハハハ！

山本 最高の快感ですよォォォ！

豪 わかりやすいですね（笑）。小川直也はタチの悪いNO・1キャバクラ嬢（笑）。

山本 「何だこの野郎！」と思うんだけど、惹かれちゃうんだよね。悪女ですよォ！

豪 そう考えると、プロレス界っていうのはホント、レベルの低いキャバクラになっちゃったんですね。場末のスナックみたいな（笑）。

山本 そうですよォ！　もっとね、昔、ナイトクラブにいたようさ、なかなか転ばないでさ、そぶりだけみせて振り回すっていう。ああいう女がいないとダメですよォォ！（いきなり我に返って）……何の話してんだ、もう。

ガンツ ところで話は変わりますけど、この年末年始マット界一番の大事件と言えばミスター高橋本だったわけですよね。この本の影響ってマット界に何か出てくると思いますか？

山本 ありますよォ！　これを甘く見たらいけないんだよね。オレたちみたいに免疫あるヤツはネタにできるけど、それこそネタにできない免疫ない人たちは、やっぱり非常に潜在的なダメージを被ってるから。

豪 『紙プロ』にも、「ショックを受けました。新日はもう見れません。まさかノアにはこんなことないですよね？」ってハガキとか結構来るんですよ。

山本 だからつまり、何かを信じたいっていうのがプロレスファンなんだよね。だからあの本がやったことの罪は非常に大きいわけですよ。でも、俺たちからするとアレは出すべきだろうと。アレをバネにしなきゃ未来はないわけですよォ！

豪 例えば、いまの新日が分裂になった流れにも、あの本の影響がもしかしたらあるのかなぁとか思ったりしたんですけど。

山本 あるよ！　要するに、アレが出た以上は、もう腹くくってやるしかないと。武藤はあんなもんに関係ないプロレスを楽しんでるわけでしょ？　だから新日本に対して「オレはそういうミスター高橋に対して何もやらないし、オレは信じた道をいくよ」と。「ああいうミスター高橋の本なんか関係ないよ」という判断が働いたんだよね。完全に影響ありだよ！

豪 新日にいることで絶対、いろいろ言われるでしょうからね。

山本 そうそうそう。新日の対応のまずさが出たわけだよ。で、完全無視でしょ？　もう全部世界は連動してるんですよ！

豪 全てが伏線になっていると。

山本 そうですよ！　こんな面白い世界ないよ！　野球とかサッカーなんて全てが伏線になってませんよ！

豪 ダハハハ！　でも確かにプロレスを長年見ると面白いのは、ホント伏線がちゃんとあるからなんですよね。

山本 伏線をいかにどれだけ楽しむ気持ちを持ってるかだよ！

豪 面白くなりますね、今年は！

山本 ガ然、面白いよぉぉぉ！　ガ然、オレの時代ですよォォォ！

ガンツ そういうことですか（笑）。でも、まさかここに来て全日本が生き返るとは思いもよらなかったですね？

山本 それが起こるのがプロレス界ですよ！

豪 これも元子社長の意地ですかね？　続かせてきた甲斐あったというか。

山本 あの人も執念深いよぉぉぉ！

豪 これから、いよいよリベンジが始まるわけですね。

山本 ホントにリベンジの深さがこの世界を面白くするんだよね。やられたらやりかえすんだよ！

ガンツ ついでに聞きますけど、前田日明のリベンジはあるんですかね？

山本 ありますよォォォ！　あの人の怨念が一番恐いよ！

豪 絶対忘れないですからね（笑）。

山本 あの人の怨念は恐い。天神様にまつらなきゃダメよ。俺なんかもう、誤解されて誤解されて……。

一同 ガハハハハ！

山本 俺のはもう、ギャグなんだよな。

豪 山本さんはことごとく忘れてるのに（笑）。「山本もこの間テレビで」って言ってたんで、「この間」って何かと思ったら、10年ぐらい前の『プレステージ』の話なんですよね。いつの話だよ、それ！（笑）。

山本 まぁ、前田選手に届くというのは素晴らしいことだよね。前田選手の視界に入らないとダメよ。

豪 ま、要するに今年はリベンジの一年ですかね？

山本 いやぁ、非常にくだらなかった2001年が終わって、やっと21世紀が始まったっていう感じだな。万々歳ですよ。

豪 山本さんもがんばってくださいよ。今日はメチャクチャ面白かったです！

山本 ホント？　山口いなくてよかったなぁ！

豪 ダハハハ！　バッチリです！

山本 要するに俺はインディーを助けに行くブロディみたいなもんよ。エースとして扱われるんだったら、オレは爆発的な力が出るから！　もうお金とか関係ないから！

豪 ナンバー2外人みたいに扱われるんだったら行かないよ、と（笑）。

山本 行かない！　もうそれは炬燵入って昼寝しちゃうよ、俺としたら。でも、エースなら腰が痛くても来ますよ！

豪 ブロディですね（笑）。

山本 ブロディですよ、俺は！

ガンツ では、くれぐれも刺し殺されないように気をつけて下さい（笑）。

【02年1月18日／ダブルクロスにて収録。文中一部敬称略】

2月なのに去年のMVPなんて決めてんじゃねぇよ!!

それでもやるぞーッ!

紙のプロレス大賞 2001

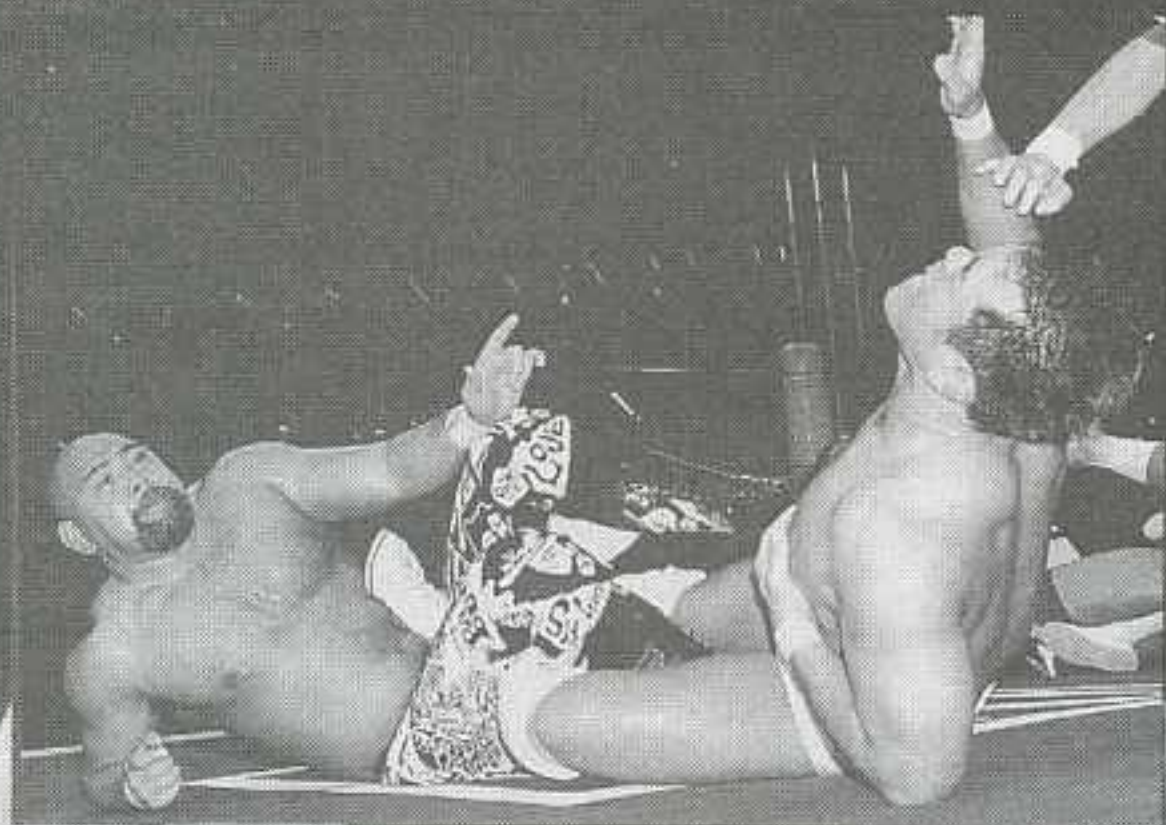
本誌読者1101人(ベストレスラー部門)&
1001人(ベストバウト部門)&
関係者42人が本音で選ぶ!

『紙のプロレス』大賞とは何か?

「紙プロ」大賞とは何か？　え〜、前回の「紙のプロレス」大賞2000によると、業界の政治力やしがらみが一切関係なしのたいそうな賞らしいです。

【ルール】

対象期間は2000年1月1日から12月31日まで。読者1票につき1POINT、関係者1票につき3POINTとして加算される。

■ちなみに東スポ・プロレス大賞2001
[MVP] 武藤敬司
[殊勲賞] 秋山準
[敢闘賞] 永田裕志
[技能賞] 菊田早苗
[新人賞] 村浜武洋
[ベストバウト]
永田裕志vs藤田和之
(6・6日本武道館)

MVP
武藤敬司
272 POINT

「紙のプロレス」大賞2001MVPに輝いたのは、なんと“プロレスLOVE”武藤敬司！「東スポ」プロレス大賞に続き連続受賞！（本人は受賞を一生知らない可能性があるので周辺の関係者皆さん、「ムトちゃん、『紙プロ』大賞おめでとう！」と教えてあげてください）。それにしても昨年の『紙プロ』を読み返して見ると、武藤の目立った記事はほとんどなし。6冠王の偉業を取り上げるどころか、ドラゴンを「グズ」呼ばわりしたときの「紙の新聞」が目立つくらい。それにも関わらず読者票を大量に獲得してのMVPはお見事!!

「プロレスLOVE」は『紙プロ』にも届いた!

心おきなく新日退団へ

ベストレスラー

2nd PRIZE

アントニオ・ホドリコ “ミノタウロ”ノゲイラ

198POINT

KOKを制覇し、「PRIDE」登場後にはグッドリッジ、コールマン、ヒーリングといった強豪を危なげなく下したノゲイラが準MVP！　魔術と称される寝技だけではなく、打撃やハートの強さをまで見せつけた。惜しくも武藤に届かなかった原因それはテーマ曲にある!?

3rd PRIZE

美濃輪育久

123POINT

oi!oi!oi!oi!oi!oi!oi!oi! oi!oi!oi!　昨年のパンクラスを大いに盛り上げた立て役者！　やる試合全てに観客は大興奮！　残念ながら菊田に敗れはしたものの立派な一年だったと思います！　今年は「PRIDE」で暴れるか？　oi!oi!oi!oi!oi!oi!oi!oi!oi!oi!oi!oi!oi!oi!oi

4th PRIZE

ドス・カラスJr.

102POINT

バーリトゥード初のマスク装着で闘い、殺人スープレックス“チリマ”で謙吾を病院送り！　入場シーン（謙吾もある意味最高）、試合内容、コメントと全てが完璧。ルチャは偉大なり!

順位	選手	ポイント
5	桜庭和志	89POINT
6	葛西純	76POINT
7	橋本真也	70POINT
8	石澤常光	65POINT
9	ミルコ・クロコップ	57POINT
10	アントニオ猪木	52POINT

以前から「1年が終わらないにのプロレス大賞を決めるのはおかしい！」と読者の声が続出していた東スポ大賞。「その通り！」と拍手喝采を送っていた「紙プロ」ではあるが、なんとウチでも前々号の募集でとっくに締切っていたことが発覚！　安田、正直スマン！　というわけで、心の中で安田の名前を刻みつつランキングを見てみると、後半失速が効いたか意外なことに藤田は圏外。桜庭はシウバに2連敗したものの、安定した読者票を得て堂々の5位。特筆すべきは破壊王、アントンを押しのけての葛西純の入賞だ！　ウッキーッ！ミルコは今年もプロレスラーハンターぶりを見せつけるか!?（とか言ってるうちに柳沢を撃破！）

ベストバウト

MVP

安田忠夫vsジェロム・レ・バンナ

12月31日 さいたまスーパーアリーナ

237POINT

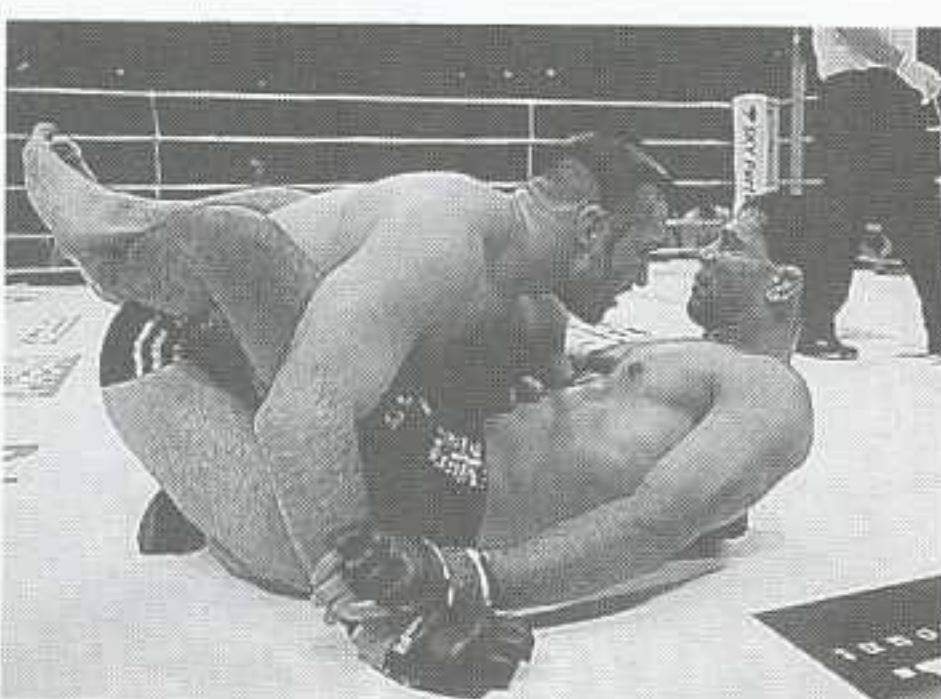
ドラマは最後の最後に待っていた！　大みそかに国民的ヒーローの誕生となった安田vsバンナが大逆転のベストバウト賞！　安田の人生を掛けた大一番での勝利に誰もが感動の涙を流し、アントン総帥曰く“環状線理論のいうところのキャラクター”として安田が歩き始めた記念すべき試合であった。

2nd PRIZE

アントニオ・ホドリコ “ミノタウロ”ノゲイラ vs ヒース・ヒーリング

11月3日（東京ドーム）

203POINT

「PRIDE」初代ヘビー級王座が掛けられたこの一戦は、ハイレベルな技術の応酬でドームの大観衆に驚嘆の声を上げさせた。ノゲイラの仕掛けも凄かったが、耐えたヒーリングもまだまだ底知れぬ潜在能力を感じさせた。また、毎回奇抜な髪型で登場のヒーリングさんにはベストヘアー賞も選定。ダブル受賞となります。

順位	試合	日付・会場	ポイント
3	武藤敬司vs天龍源一郎	（6／8日本武道館）	133POINT
4	菊田早苗vs美濃輪育久	（9／30横浜文化体育館）	129POINT
5	ドス・カラスJr.vs謙吾	（8／18横浜文化体育館）	89POINT
6	武藤&馳vs秋山&永田	（10／8東京ドーム）	78POINT
7	小川&村上vs三沢&力皇	（4／18日本武道館）	54POINT
8	ミルコ・クロコップvs藤田和之	（8／19さいたまスーパーアリーナ）	39POINT
9	CIMAvs望月成晃	（12／10駒沢オリンピック公園屋内競技場）	27POINT
10	橋本&永田vs三沢&秋山	（3／2両国国技館）	25POINT

前回同様、上位を独占したのは総合系の試合。ドスの一投、ミルコの一撃シーンは強烈なインパクトを残した。純プロでは、何度も名勝負を展開している武藤vs天龍が１番の票を獲得。上半期とあってか、橋本や小川のノア勢との絡みは思ったほど票は伸びず。下半期に戦線が拡大しなかったのも要因としてあるのかもしれない。闘龍門の試合もしっかりランクイン。確実に人気を伸ばしていることを証明した。ちなみに「プロレス大賞」ベストバウトの藤田vs永田は圏外。会場での盛り上がりは尋常ではなかったが……。

プロレス&格闘技好き著名人&本誌関係者の 紙のプロレス大賞 2001

ヴァ～！（健介調で） 毎年恒例（と言っても、まだ3回目）2001年の『紙プロ大賞』発表の季節がやってまいりました（って、もう2月だよ！）。ここでは『紙プロ』関係者とプロレス&格闘技好きの著名人のアンケートを一挙掲載！ 文字がかなり小さくなってしまい、正直スマン！ 目を凝らし、よ～く見て下さい（50音順）

アンケート項目

❶MVP➡最も活躍したと思う選手
❷ベストバウト➡最も印象に残った試合
❸ベスト興行➡最も素晴らしかった大会
❹ボクのわたしのMVP➡個人的に賞をあげたい選手とその賞名

平成の眼力王
青木竜象

お笑い芸人。大阪市大正区出身（前田と同郷）。毎週火曜日夜10時～11時に葛飾FM（78・9）『お笑いプロレス道場』で、業界関係者をゲストに毒舌トークを展開。プロレスコントビデオ『ブラジルから来た芸人』も好評！

❶シャイニング・ウィザード
❷小林聡×オスマン・イギン（11・30後楽園ホール）
❸『猪木ボンバイエ2001』（12・31さいたまスーパーアリーナ）
※猪木&サスケ×紅白仮面&シルバがベストバウト
❹ナイスバンプ賞➡高田延彦
ベスト賞➡小川良成

【総括】猪木の『バカヤローッ！』から始まった謎。夢のカードが目白押し。小川と三沢、そしてミルコと藤田、完全に壁はなくなり、猪木は本音全開のマイクパフォーマンスで〝自己開示〟し続ける。本音を語り、本音に生きる者のみが認められた一年だった！ 桜庭も本音、ミルコ戦での高田のバンプも本音！ 新婚さんいらっしゃいの桂三枝を上回るバンプ！ しかし、今思えば『バカヤロー！』はマット界を再編成するためのバカヤロー解散だったのだ！

ラーメン王
石神秀幸

ラーメン評論家、フードライターとして稼いだ金で格闘技観戦の日々を送る。『ビッグコミック・スペリオール』『POPEYE』『TOKYO1週間』『ベストクラブ』など連載多数。近著に『石神秀幸ラーメンSELECTION2002』（双葉社）がある。

❶ミルコ・クロコップ
❷アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ×ヒース・ヒーリング（11・3東京ドーム）
❸『PRIDE.17』（11・3東京ドーム）
❹潔いで賞➡小路晃

【総括】新日本と小川直也というマット界のキーを握るはずの組織、個人が共に果てしなく迷走しているうちに、現場を退いたはずのミスター高橋の手によってプロレスの構造改革を迫られることとなった皮肉な年であった。グレイゾーンとしてのプロレスを望むファンも多いが、もはやリアルファイトとエンターテインメントの二極分化を考えるべき時期に来ているのは、『猪木祭り』の紅白仮面や藤田和之×永田裕志戦でのマット膝打ちや健介のバーリトゥード疑似体験（？）を見るまでもなく明らか。

本誌『最狂プロレスファン列伝』絶賛連載中
イナズマ★K

音楽ライター兼プロレス格闘技探究家。大吉が出たのに新年早々に親とケンカという見事な出だしを向かえた2002年。オトナなのに！を再確認しつつ、どってことねーよ精神で今年も頑張ります。あと、バッファロー柔術でキミも関節キメあったりしませんか？ 無邪気なアナタ、参加者募集中！

❶葛西 純
❷W☆ING同窓会メイン後の松永と金村の殴り合い（4・22ディファ有明）
❸WWF『レッスルマニア17』（4・1テキサス州ヒューストン／アストロドーム）
❹また逢う日まで賞➡茨城清志

【総括】葛西は頑張った！ デスマッチに上手い具合に笑える要素を導入した独特センスと、やはり背中の傷跡が全ての証明だ。松永と金村のマジっぷりがW☆INGの未来を一瞬見させてくれたんだけど…。やはり茨城さん仕切りだとああいう結末を向かえてしまうんですねぇ。でもギャラのゴタゴタを一部始終掲載した雑誌の載せ方は、単なる弱いものイジメにしか見えなかったんですけど。他の団体だったらあそこまでしないよね。まあそんなことより、全てを吹っ飛ばす勢いに溢れたWWFの生のパワーは凄いしか言えないッス。プロレスがどうのこうの言う前に、まずHAVE FUN！ 精神の大事さ、スケールのデカさ、ケツの穴のでっかい感じ！ あー早く観たい！ あと10・30のパンクラス×グラバカ対抗戦もバッチリな興行でした。それにUFCの放送をどこでもいいから望みます。絶対いまなのにね。

活字プロレス創始者
井上義啓

暴露記事は厳に慎むべきだが、シュート活字はプロレス界の救世主となる。このままプロレス擁護論が延々と続くと、プロレスはますます観客数が減り、TV視聴率は落ちる。団体、レスラーには耳の痛いシュート活字をどこでどう折り合わせるかだ。

❶小川直也
❷アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ×マーク・コールマン（9・24大阪城ホール）
❸『猪木ボンバイエ2001』（12・31さいたまスーパーアリーナ）
❹技能賞（ワーストMVPも兼ねる）➡ミルコ・クロコップ

本誌『エロ・サムライ』絶賛連載中
大坪ケムタ

本業はAVライター。『デラべっぴん』とか『ビデオメイトDX』とかで書いてる人。年末、某AVメーカーの忘年会に行ったら、スーツの人が400人近くいる中で、ひとり葛西Tシャツでした。さみしかったです。

【総括】21世紀のMVPとは〝最も印象に強く残った選手〟であり〝マット界に最も利益をもたらした選手〟を指す。だから小川直也。純プロレスではもう何の話題ともならない。ベストマッチについては説明の要なし。〝2・9プロレス〟は見るだけでも哀しい。藤田と永田を一発で沈めた、クロコップの左からの蹴りは秀逸。同時に、この武器が使えなかった高田戦は醜悪。言ってみれば、未完成なるがゆえの思わぬ受賞。

---

❶美濃輪育久
❷菊田早苗×美濃輪育久（9・30横浜文化体育館）
❸ドックレッグス・第52回興行『弱者の祭典』（7・21北沢タウンホール）
❹個人的な流行語大賞➡大谷晋二郎「チクショー！どいつもこいつもバカにしやがって！」

【総括】昨年はパンクラスと女子総合が盛り上がり、念願のドッグレッグスが見れたりと（地方民は見るのも大変なんです！）かなり楽しめた一年でしたねー。あとベストバウト&ベスト興行次点として、どうしても記したいのが『AX』（12・26六本木・CCCホール）の星野育蒔×辻結花。他選手の活躍も含めて、この日の興行は昨年の女子総合の締めに相応しく、なおかつ2002年の大いなる予告編として最高の内容。来年はココのベスト占めちまうかも、いやホントに！

セクシー女優
岡元あつこ

文化放送「みのもんたのウィークエンドをつかまえろ！」のアシスタントパーソナリティー、BSフジ・ドラマ『聖アリス学園・2』にレギュラー出演の他、テレビ、ラジオ、グラビアなどで活動。4月9日～14日には中野ザ・ポケットにて舞台「DOUBLE」に出演。岡元あつこオフィシャル・ウェブサイト（http://www.atsuko.to）では日記公開中。

❶マーク・ハント
❷藤田和之×高山善廣（5・27横浜アリーナ）
❸あえて「なし」と答えたい
❹そんな風に押し倒されたいで賞➡美濃輪育久

【総括】❷マットの上で死ぬ気でやるっちゅーのはこういうことだと思う。よきにつけあしきにつけ『総合』の難しさを感じた一年でありました。バーリ・トゥードというジャンルが格闘技界における流行のようになり必要以上にショーアップされたり物語性が組み込まれたりすることで本来の意義が失われつつあるのではないかという危惧感をも感じます。少なくとも、もうこれ以上「出場することに意義がある」なんていうふざけた格闘マンシップを掲げた輩は早く淘汰されていくべきでしょう。今年に期待します。

本誌『業☆勝ちます！』絶賛連載中
掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）

男道コーチ屋稼業、メロン記念日評論家。2月28日、処女単行本『説教番長・どなりつけハンター』（文藝春秋社刊）をリリース。家賃滞納の鬼。

❶ミスター・ポーゴ
❷美濃輪育久×パウロ・フィリョ（3・31なみはやドーム）
❸モーニング娘。（9・7清里高原特設コンサート会場）
❹新垣とトレードしたいで賞➡西尾美香

【総括】『週プロ』は卒業、『ゴング』は星占いのみチェック、そして『ファイト』さえ買わなくなったプロレスインポ元年。モー娘。がこれだけプロレスより面白い昨今だが、命を張った試合だけは届くもの。リングに自力であがれず若手（近所の子供とか）にケツを押し上げてもらってやっと試合に臨めるポーゴさんの死合は、それこそ毎度毎度命がけである。とにかくゼーゼー言っているから凄い。そんだけ。

セクシータレント
久留須ゆみ

オスカー・プロモーション所属。元6代目ミニスカポリス。昨年はFMWで冬木弘道の公設秘書として活躍。

❶冬木弘道
※やっぱり理不尽を愛してます
❷TAJIRI・サンタ×ババ・クロース（12・24フロリダ州マイアミ／マイアミ・アリーナ）
二瓶組@岸壁デスマッチ（8・26横浜クラブヘブン）
❸WWF『RAW』（12・24フロリダ州マイアミ／マイアミ・アリーナ）
埼玉プロレス（4・22板橋産文ホール）
国際プロレス（12・9茅ヶ崎青果市場）
❹2001年も生き残れたで賞➡サバイバル飛田
スーパーで卵乱て賞➡ブッカーT
またまぎらわしかったで賞➡森谷俊之（旧ニセ大仁田）
正直、大変身で賞➡藤沢一生
最後までバカ一代でシャー！➡剛竜馬

【総括】日本のプロレスは、このままでは生き残れない…。いまでも忘れない、初めてWWFをみた日、あの観客の勢い、笑い…。リアルファイトを追求した『PRIDE』、K－1、それはそれで立派なのだが、たかだか高田（アーハッハッ！）なのである。プロレスはプロレスダーッ!! エンタメに予算がかかるのも事実だが、鶴見五郎率いる国際プロレス（M資金の噂もあるが）や、リングのない産文ホールでの埼玉プロレス（@文明軒では凍ったパンや冷凍庫が大活躍）等、予算をかけなくても立派にエンタメは成り立っているのだ。故に、メジャー団体も、ヴアー、テロリスト、カブトムシのメス等と言ってるヒマがあったらエンタメに力を入れてほしい！ プロレスはプロレスで最強なのだから。生き残れ、レスラー達！ 未来のインディー・メジャー共に支えてほしい。お楽しみはこれからだ！ 乱筆乱文、正直、スマンかった。

伝説の雀鬼
桜井章一

昭和30年代後半から無法地帯であった新宿において、麻雀で圧倒的な強さで勝ち続け「ジュクの桜井」の異名で呼ばれた。レスラー、格闘家とも親交が深く、古くは力道山から始まり武藤、ヒクソンなど様々。先日、某ホテルにてアントン総帥と、力道山との思い出話に花を咲かせたという。

❶桜庭和志
❷アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ×ヒース・ヒーリング（11・3東京ドーム）
❸『PRIDE.13』（3・25さいたまスーパーアリーナ）
❹伝説の雀鬼賞➡ヴァンダレイ・シウバ

【総括】MVPは桜庭。2連敗したけど、日本人選手であそこまでオールマイティーな選手はいないよ。シウバやノゲイラも良かったな。ノゲイラなんて腕一本で猛獣を仕留める狩人そのものだし、シウバも麻雀で言うところの〝オリない〟しな。彼らのような闘いの流れを作れる選手は面白いけど、「猪木祭り」に出てきた部分的な闘いしかできない選手たちはつまらない。リングサイドで見てたんだけど、イライラして目の前をウロウロするやつを蹴っ飛ばしたからな。それぐらい面白くなかった（笑）。【談】

現在無職
ささきい
観戦記ネットを中心にアレコレ書き散らしていた元OL。26歳。年末でOLを辞めて、充電っつーか引きこもり中。忙しくて読めなかった本を読んだり観戦記書いたりして、働き者の友人に呪われる毎日です。

❶橋本真也
❷アントニオ・ホドリコ・ノゲイラ×ヴォルク・ハン（2・24両国国技館）
❸『真撃・第Ｉ章』（6・14大阪城ホール）
❹ベスト・ジーニスト賞（シニア部門）⬇藤波辰爾（猪木ビンタの写真）

【総括】たったひとりで世界を切り開くすごさを、抜群の能天気で見せてくれた破壊王がMVP！でした。ベスト興行は、その破壊王が手作りのムチャクチャさと力強さで押し通してくれて、見終わった後ひたすら笑顔でいられた真撃第Ｉ章。ハン×ノゲイラは、この2人の試合見るのがはじめて（！）だったのに、見ながら涙がひたすら止まらなかった。ハン様、素敵すぎ。ジーニスト賞は、素敵なドラゴンに何かあげたかったので考えてみました。こう言っておけばもらってくれるかなと思って。気持ちが明るくなれた&感動したものを選んでみましたが、すべてのベストの裏に「サクラバ・カズシ敗戦!!」っつー、ものすごい現実の重さを感じさせられた大マイナスがあります。思い出すと、今でも、いくらでも落ち込める。

本誌ＩＴ事業部(？)
佐藤耳男
いまだに何のためにいるのかがよくわかってない、元ロクでなし。現在、会長&一枝の『紙プロ』最狂タッグにより一方的に改名させられまくっている真っ最中。もはや原型をとどめていない。由来はお察しください。あと、リバビリ中です。

❶大谷晋二郎
❷アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ×マーク・コールマン（9・24大阪城ホール）
❸大建工事・興行100回記念興行（5・22後楽園ホール）
❹努力賞⬇篠泰樹（スマックガール・REMIX・渋女）
顔芸おじさん⬇ビンス・マクマホン
日本のWWF（下町のナポレオンと同じ感覚で）賞⬇西口プロレス

【総括】普段は熱心なファンで埋まるはずの後楽園ホールの客席が、ニッカポッカを着たホロ酔い気分のオッちゃん達とその家族で埋まっていた。そんな地方気分を十分満喫できた『大建工事プロレス』がある意味ベスト興行。MVPは火祭り刀を得てからプロレス界を熱暴走し始めた大谷だと思います。篠社長はまだ結果が伴ってないが、やろうとしてることは断然支持！今年からはWWFから西口プロレスまでちゃんと観ま～す。ヴァー！

本誌『ザ・検証』絶賛連載中
椎名基樹
死期近し。恋人募集中。

❶ヴァンダレイ・シウバ
❷菊田早苗×美濃輪育久（9・30横浜文化体育館）
❸リングス10周年記念大会（8・11有明コロシアム）
❹同郷同じ年・修斗ライト級チャンプ戴冠嬉しいで賞⬇大石〝チャッカル〟真丈

【総括】他に大ノゲイラ×ヒーリング、矢野卓見×ランバーがパッと浮かんだ。他にもあったような気がするけど浮かばない。去年はそんな年だった。リングス大会はとにかく辛かった、最低だった。だから選んだ。シウバは大好き。あの闘い方、キャラ立ち、漫画を超えてるでしょ。大石×マモルは観てないんです。もし観てたら、ベストバウト？　観たい！　どんな試合だったの？

本誌『スーパーコラム』イラスト担当
ジェリー・ラヴ
グラフィックデザイナー。祝！　御本尊復帰だって！　今年こそ新日に嵐が吹くって！　目下気になる話題は『平成維震軍』の再結成はアルのか？　ということですよ。

❶橋本真也
❷ドス・カラスJr.×謙吾（8・18横浜文化体育館）
❸『PRIDE.13』（3・25さいたまスーパーアリーナ）
❹個人賞⬇ブラジリアン・トップ・チーム（次点：剛竜馬）

【総括】❶「俺ごと刈れ～っ！」で逆転優勝！　プロレスLOVEを感じた。❷俺ってプロレスLOVEを再確認。❸本当に強いヤツにLOVE。❹入場に使用してたヴァイレ・ファンキ最高！　ブラジルLOVE！（次点）バカ・イズ・ノット・デッド！　プロレスLOVE。
　昨年は同時多発テロの衝撃が強すぎて（比較するワケじゃないけど）今となっては全ての興行が小さく感じます。「闘いとは何か？」テロの直後、取材でニューヨークに行ってきたのですが、WWFショップの近くでミック・フォーリーの格好したオッサンがソッコ突き出しながらフラフラしてて嬉しかったです。

©中川画伯

「観戦記ネット」主宰
品川さん
プロレス格闘技の観戦記を集めたサイト「観戦記ネット」の主宰。観客の目で鋭く興行を切る。今年のサッカーW杯開催を控え「観戦記ネット@サッカー版」も旗揚げ予定。観戦記ネットメジャー化のために今年も頑張ります。
http://www.sportsnavi.com/kakuto/kansenkinet/

❶安田忠夫（&娘）
❷ドス・カラスJr.×謙吾（8・18横浜文化体育館）
❸ZERO-ONE旗揚げ戦（3・2両国国技館）
❹衝撃の告白賞⬇ミスター高橋本
世界に日本寝技が通用することを示したで賞⬇菊田早苗（4・13アブダビ＝サウロ・ヒベイロ戦勝利）

【総括】年間を通じ活躍した選手は、残念ながらいなかった。単発を含め印象に残った選手を選出。その中、大晦日の安田親子が全てをさらった。紅白の裏でアレだけの視聴率（14・9％）を取ったという事実を評価。今年もカンチョー石井主導でこの対抗戦をさらに盛り上げてもらうことを希望。K―1×『PRIDE』の「外人だらけの大会」で視聴率取るようになれば、一挙両得ますます『PRIDE』のK―1化が加速するであろう。とにかく日本人選手抜きで成功させればコレは凄いことになる。「水清ければ魚住まず」世界に誇れる格闘技イベントの確立を。

SMACK GIRL実行委員会代表
篠　泰樹
33歳独身（なんとかしてください）。ReMix創設者、SMACKGIRL実行委員会代表。「人生はプロレスである」を信念に、マイナスな問題をプラスに転換する風車の理論を（勝手に猪木イズムを継承して）実践する人。プロレス・格闘技以外にも幅広く活動し、ゲーム制作から映画制作までクリエイティブに活動する。プロレス界に風穴をあけるべく、今年は動きます！

❶安田忠夫
❷星野育蒔×コボチノバ・タチアナ（5・3『ReMix』代々木第二体育館）
安田忠夫×ジェロム・レ・バンナ（12・31さいたまスーパーアリーナ）
❸『猪木ボンバイエ2001』（12・31さいたまスーパーアリーナ）
❹最優秀女子総合格闘技選手賞⬇星野育蒔
最優秀プロデューサー賞⬇ビンス・マクマホン
グッドプロデューサー賞⬇アントニオ猪木&石井和義

【総括】予想外といっては失礼かもしれないが、純粋に安田選手の勝利に涙を流し、星野育蒔の活躍に感動した一年であった。2人ともいい意味で予想を裏切ってくれて、この驚きがたまらなく脳みそを刺激し、強烈な感動を与えてくれました。ありがとうございます！　個人的には改めてプロレスという言葉の意味を深く考えさせられた一年で、アントニオ猪木とビンス・マクマホンという日米二大巨頭の活躍に嫉妬し、いつの日か自分も……と思い、憧れる日々を過ごしています。出口の見えない迷宮に迷い込んだプロレス界、誰が風穴をあけるのか？　世間との闘いはそろそろ最終ラウンドを迎える気がします。

カリスマレフェリー
島田裕二
PRIDEレフェリー、K―1レフェリー、世界のレフェリーをキャッチコピーに暴れまくる男。去年裁いて印象深いのは石澤×ハイアン。勝利した石澤の顔に男の色気を感じたね。これこそプロレスラーの等身大の姿やね!!

❶Mr.さかい&ミルコ・クロコップ
❷藤田和之×高山善廣（5・27横浜アリーナ）
次点：ドス・カラスJr.×村上和成（10・14NKホール）
❸『猪木ボンバイエ2001』（12・31さいたまスーパーアリーナ）&ZERO-ONE旗揚げ戦（3・2両国国技館）
❹投げられて痛いで賞⬇村上和成（10・14東京ベイNKホールにての払い腰）
プロレス界盛り上げたで賞⬇秋山準
本売れたら第2弾で賞⬇島田裕二

【総括】もう総合とプロレスは別物やね。似て非なる物だと痛感した年でした。個人的には、プロレスラー最強を2002年は見たい。プロレスラーの強い姿をルチャドーラが見せているのは嬉しいね。今年はDXプロレスラーの年かな。2001年は、本出したし、バトラーツも辞めたし、波瀾の年やったね。今年は馬年だから、マット界をハネまくるぞ!!　シマエンタープライズは仕事選ばずレフェリーしまくるぞ!!　サイキョ♥

元祖・アメリカ通信員
ジミー鈴木
'59年東京都出身。アメリカ、メキシコ、ヨーロッパ、そして日本と股にかけて取材に飛び回るプロレス・マスコミきっての国際派記者。年間飛行距離は軽く35万キロ（地球10周）を越える。現在、アメプロを語る自著本（日本文芸社から2月発売予定）を執筆中。

❶武藤敬司
海外⬇ザ・ロック
❷藤田和之×永田裕志（6・6日本武道館）
海外⬇ストーンコールド×トリプルH（2・25ネバダ州ラスベガス／トーマス&マック・センター）
❹殊勲賞⬇安田忠夫
海外⬇カート・アングル
技能賞⬇秋山準
海外⬇クリス・ジェリコ
敢闘賞⬇橋本真也
海外⬇ブッカーT
特別賞⬇TAJIRI

【総括】「レスラーは歩いているだけでこの町にプロレスが来たという広告塔にならねば」というのが私の自論。だから菊田と村浜はナシ。MVPは武藤で異論ナシ（世界的にはザ・ロック）。タッグは武藤&ケア（同＝なし）。最高試合は藤田×永田（同＝ストーンコールド×トリプルH）。殊勲賞は安田（同＝カート・アングル）、技能賞は秋山（同＝クリス・ジェリコ）、敢闘賞は橋本（同＝ブッカーT）が私の選択。特別賞のTAJIRIはアリだ。

本誌・雀キー編集者
ジャン斉藤
元麻雀打ち。伝説の雀鬼・桜井章一会長の圧倒的な強さに憧れ弟子入りをしたが、あまりにも強すぎるためになるべく同卓しないように8年間を逃げ過ごした姑息な26歳。

❶アントニオ・ホドリコ〝ミノタウロ〟ノゲイラ
❷ジェラルド・ゴルドー&イゴール・メインダート×高岩竜一&アレクサンダー大塚（6・14大阪城ホール）
❸新日本プロレス（4・9大阪ドーム）
❹スカッとしましたで賞⬇ドス・カラスJr.

【総括】❶年間を通して強豪をクリアし続けたノゲイラが文句ナシ。あとはテーマ曲を戻せば完璧。❷10年持つ選手生命が1ヶ月で終わってしまうような狂撃を浴びせたゴルドーとそれを受け続けた高岩。試合ビデオを回覧板と一緒に回したくなりました。❸とにかくリング内外どころか、実況席もメチャクチャだったこの大会。最後に強引に締めたアントン総帥も素晴らしい。❹謙吾戦はもういい。鈴木みのる戦が見たいです。

浅草キッド
水道橋博士
漫才師。今年は、「お笑い男の星座2」を出版します。浅草キッドHP…http://www.asakusakid.com/

❶アントニオ猪木
❷安田忠夫×ジェロム・レ・バンナ（12・31さいたまスーパーアリーナ）
❸ZERO-ONE旗揚げ戦（3・2両国国技館）
❹常識外で賞⬇アントニオ猪木・石井館長・百瀬博教

【総括】猪木様の天才ディーラーとしての勘。最後の最後まで、カードを繰り回した挙句、あの札捌きが、あの奇跡の大晦日のロイヤル・ストレート・フラッシュを引き当てた。石井館長、百瀬博教さんを加えて、この胴元トリオ。すれっからし、良識ぶりのファンの想像力の上を行く、ご法度の、男のプライドを賭した鉄火場、賭場開帳ぶりはお見事としか言い様がない。
　今後、プロレスファン以外にも、この試合について語ることは、プロレスファンとして胸張れるでしょう。この試合が放送された時、裏番組、紅白歌合戦では、安田姉妹が、
「泣きなさい～笑いなさい、いつの日か、いつの日か、花を咲かそうよ」
　と喜納昌吉の名曲「花」を歌い上げていた。そして、安田姉妹ならぬ、安田親子は、この歌詞通りに、その花を咲かせ、泣かせ、笑わせた。プロレスファンの記憶に忘れがたい、甘美なメロディーを流した。
　後日、「ZONE」で放送された舞台裏。控え室に向かう廊下で、「マルコさ～ん」と号泣した、安田。『母を訪ねて三千里』より、泣いたよ。ベタかもしれないが、本当のドラマがあった。マルコ×アレク以来の感動だったな。思い返すたびに、花のメロディーが流れる。
♪川は流れてどこどこ行くの～
　人も流れてどことこ行くの～

本誌・ゴミ捨て見習い
スエヒロ・ガイ子
人生下り坂一本調子だった昨年。心機一転『紙プロ』に混ぜて貰い、ヤスティよろしく遅咲きの華をさかせるか！　はたまた奈落の底へ一直線!?　ノアの取材拒否解禁をひっそり目論みハンスト中。

❶大谷普二郎&高山善廣
❷アメリカ帰りの健介、グローブつけてラリアット（藤田戦＝10・9東京ドーム）
❸『猪木ボンバイエ2001』（12・31さいたまスーパーアリーナ）
❹今年も妹に似ていて賞⬇本田多聞
ビッグ賞⬇ビッグ・ショウ

【総括】猪木祭り、最初こそヒヤヒヤものでしたけど、まるで塞翁が馬興行と言っても過言ではなかったですね。ところでガイ子にとって、2001年は未知（WWF）との遭遇元年でした。日本だって役者は揃っているのだから、面白く出来ない訳はないので、その辺日本の純プロレス界の今後の動向を夢想せずにはおれない一年。どうする純プロ？　どうなる純プロ!?　腹が減っては戦はできぬ、今更ながら破壊王弁当でも食べてくださーいッ。ガイガイ。

本誌・スーパー助っ人&営業マン

スモーノブ

昼間は営業マンらしくゲーセン行ったり喫茶店で営業活動（昼寝とか読書とか）したり、夜は『紙のプロレス』でライターとして活動中。たまにLIQUID ROOMのフリーペーパー『LIQUID』で書いてます。そこそこ痩せました。

❶ブッカーT
❷三沢&力皇×小川&村上（4・18日本武道館）
❸大日本プロレス（11・23横浜アリーナ）
❹キ●ガ●（いい意味で）に刃物で賞⬇大谷晋二郎
15メートルダイブ凄かった！　しかも相手はビッグ賞⬇シェイン・マクマホン
がんばりま賞⬇バトラーツ
プロレス映画の最高峰で賞⬇『ビヨンド・ザ・マット』

【総括】破壊的な面白さが台風のようにやってくる2001年のWWFでしたが、欲を言えばもっとハイ・テンションをキープしてほしいところです。そんな中、ずっとハイ・テンションでゴキゲンな笑いを提供し続けたT（『東スポ』調）に1票。

「一揆塾」塾長

ターザン山本

「一揆塾」のホームページで毎日、てんてこ舞い。特に〝四字熟語日記〟では悪戦苦闘中。2月からの「一揆塾」は2ヶ月コース。毎週、土曜日の午後0時からの2時間コースとなった。有能にして優秀な人材がくることを期待する。マイナーパワーHP…http://www.nifty.ne.jp/minorpower/　一揆塾HP…http://www.info-station.net/ikkijuku/

❶〝Show〟大谷泰顕
❷アントニオ猪木×石井館長
❸T2P（11・13後楽園ホール）
❹マスコミMVP賞⬇〝GK〟こと金沢克彦

【総括】予言しておく。プロレスは世の中の〝合わせ鏡〟だ。これからは絶対に〝Show〟の時代になる。まず間違いない。なにしろ昨年の12・31『猪木祭り』。安田が勝った瞬間、リングサイドに娘を連れてきたのは〝Show〟なのだ。これがMVPじゃなくてほかに何があるというのだ。そのあと猪木さんに「今回、お前もよく頑張ったな！」と声を掛けられた〝Show〟は、思わず猪木さんに抱きついてワンワン泣いたとか。これは安田親子（父親と愛娘）の話よりも100倍、感動的、泣けてくる話ではないか？　私も安田の勝利には泣けなかったが〝Show〟の涙には泣けた。「どんな人間にも一生に一度ぐらい幸せなことがあってもいいよな」という長州力の言葉を思い出したよ。ありがとう〝Show〟。

本誌『ディスカバー・シンニホン』絶賛連載中

武田いづみ

21歳女子。『紙プロ』からの郵便物の宛名には「殿堂？01」と書かれています。なんだっけ、コレ。昨年就職しましたが、ワケあって現在無職です。

❶安田忠夫
❷安田忠夫×ジェロム・レ・バンナ（12・31さいたまスーパーアリーナ）
❸選出不可能
❹ざまあみろ賞⬇アントニオ猪木。あと、ドスJr.

【総括】ご覧のとおり、わたくし、お屠蘇が抜けきっておりません。けどね、大晦日によ？　今年もあと数十分で終わろうってときによ？　あんなもん見せられたら、そりゃヤバいって。なぜだかわかんないですけど、ただ、カッコよくて、ちょっと泣きそうになりました。ベスト興行はあまりにも観に行ってないので言わないでおきます。すいません。個人賞はアントンとドスJr.に。コレについてはもう、コラムで書きますから、よかったらそっち読んでください。とにかく、アントンもドスJr.もこう言ってます。「ざまあみろッ！」。

歌うシュート活字王

田中正志

'59年生まれ。同志社大学在学中よりプロレスミニコミ誌を制作。同大学卒業後、コロンビア大学大学院ビジネススクールを修了し、MBAを獲得。アメリカのプロレス業界誌『レスリング・オブザーバー』でも執筆。現在は日本在住。

❶美濃輪育久
❷闘龍門・3WAYダンス（8・14後楽園ホール）
❸パンクラス・グラバカ対抗戦（10・30後楽園ホール）
❹プロレスの神様賞⬇ヴォルク・ハン
※25歳で世界最強のノゲイラを極めさせなかった最後のKOK試合こそ、リングス革命十年の集大生。

【総括】業界の最低はK−1との対抗戦。ミルコ×藤田の衝撃と永田が不憫でならない。武藤×天龍がプロレスとは何かを問い、田尻が全米のスターとなった意義が、実は高橋本の出版にも繋がる。勝った負けたは重要でないとわかって、タッグ屋・天コジ、女子を支えたKAORU、GAMI、中西百重、闘龍門の斎藤了と望月享が評価された。しかし底なし沼は、格闘技であっても勝った菊田早苗ではなく、負けた美濃輪が横浜文体を満員にした最後の真実を丸見えにしてもいる。

『SRS−DX』編集長

谷川貞治

『PRIDE』やK−1解説でも、お馴染みのサダハルンバ谷川氏。先日、高田総裁に焼酎を立て続けに飲まされ、会社に戻って寝ていたはずが、目覚めると何故か自宅に

❶石井館長
❷藤田和之×ミルコ・クロコップ（8・19さいたまスーパーアリーナ）
❸K−1ジャパン（8・19さいたまスーパーアリーナ）
❹ベストドレッサー賞⬇ミルコ・クロコップ

【総括】MVPはK−1という確立されたブランドを敢えて破壊し、リスクを省みず一歩踏み出した館長以外に考えられない。これは一部上場企業がわけの分からないベンチャーに手を出すようなもの。それぐらい考えられないことです。ベストマッチ&興行は、確かに12・31『猪木ボンバイエ』は大成功したが、〝予想もつかない〟という点で、8・19に軍配が上がる。これはハッキリ言ってボクの運。それしか考えられない。自分の強運に背筋が凍る思いだ。また、ミルコは「最優秀外人選手」じゃあまりにも普通すぎるので。それから思いの外、VTのスパッツが似合ったから。【談】

浅草キッド

玉袋筋太郎

※俺なりのプロレスLOVEです。

❶小原道由
❷中西学×ゲーリー・グッドリッジ（9・16名古屋レインボーホール）
❸新日本プロレス全ドーム興行
❹すべてのプロレスはショーで賞⬇ミスター高橋

【総括】中西はプロレスのリング上に限ってはプロレスが一番強いことを示してくれた。小原はプロレスのリング外ではプロレスラーが本当は弱いんだと示してくれました。

フリーアナウンサー

辻よしなり

新日本プロレス中継『ワールドプロレスリング』において異色のヒールアナとして活躍。現在はフリーとしてプロレス実況に限らず様々な分野で活躍中。得意フレーズは〝ビヤッホー〟だが、本人曰く「2回しか使ってない」らしい。

❶ミルコ・クロコップ
❷安田忠夫×ジェロム・レ・バンナ（12・31さいたまスーパーアリーナ）
❸『PRIDE』シリーズ全般
❹泣かせたで賞⬇安田忠夫

【総括】ボーダーが完全になくなった昨年は、猪木さんや石井館長、藤波さん、三沢さん、橋本ら団体の長たちが強烈な印象を残した。今年は是非、選手たちにそれを凌駕してもらいたい。MVPはミルコ・クロコップ。藤田、永田を一発で倒し、我々を一番血湧き肉踊らせた。プロレスファンにとってなくてはならない存在。今後も見逃せない。

ネット説教家

長尾〝メモ8〟文志

掲示板アーティスト、ネット説教家、魂の総合格闘家としての、生き馬の目を抜くプロレス・格闘技ネット界における、ワタクシ、メモ8の活動こそが2001年のMVPだと確信しておる次第です。嘘ですけど。HP……http://homepage1.nifty.com/memo8/

❶美濃輪育久
❷美濃輪育久×秋山賢治（7・29後楽園ホール）
❸スマックガール（一連のクラブアトム興行）
❹萌え萌え賞⬇久保田有希

【総括】根っからのシューターなので、シュート系の興行しか見てないのですが、やはりMVPはシュート興行においても重要なのは勝った負けたではないことを知らしめた美濃輪でしょう。ベストマッチは、その美濃輪が勝つことの素晴らしさを教えてくれた秋山戦。っていきなり矛盾してるじゃんなあ。ベスト興行はひとつではなく通しということで、最強だとかランキングだとかチャンピオンだとかいうのはどうでもいいことに気がつかせてくれたスマックの一連のクラブアトム興行です。久保田萌え〜。

本誌『ほんとにジョーク』イラスト担当

中川雅博

フリーのイラストレーター。'77年、埼玉県生まれ。本誌にて『ほんとにジョーク』連載中。好きなレスラーはカート・ヘニング。今年はもっと仕事がしたい！　どんな絵でも描きますのでお気軽にお声を掛けて頂ければ、嬉しく幸せ！

❶エメリヤーエンコ・ヒョードル
❷三沢光晴×高山善廣（4・15有明コロシアム）
❸リングス（2・24両国国技館）
❹和製ジェーク・ロバーツで賞⬇安田忠夫

【総括】全体的には元気のなかった印象。今年は期待してます。❶ヒョードルは強くて頼もしい。ずっと負けないで欲しい。❷三沢は丈夫だなぁと思った。❸リングスKOK決勝戦の帰り道、両国でチャリに乗った隆の鶴関（ニセ闘牙）を見て嬉しかった。❹ワイドショーのようなリアルな父娘の感情が伝わってきた。結果を出した父親の格好良さ。

フリーライター

中村カタブツ君（38歳）

『SRS・DX』をはじめ、多方面で活躍中の元・本誌編集者。最近彼女の影響か、やたらと小綺麗に。

❶武蔵
❷ドスカラスJr.×謙吾（8・18横浜文化体育館）
❸K−1ジャパンGP&最初の猪木軍×K−1（8・19さいたまスーパーアリーナ）
❹パルメ・ルチャ・ドール⬇カト・クン・リー

【総括】プロレス界のMVPが武藤なら、格闘技界はやはり武蔵。仙台のK−1ジャパンでブラガにタックル食らって脳しんとうを起こし、ジャパンGPの決勝では、ほぼKO負けして、会場を熱くさせたのはまぎれもない事実。本人としては不本意だろうが、客を喜ばせたということでは、確実に〝魅せる〟試合ができる男だろう。嫌味でなく、そう思うのだ。また、ドスの勝利は嬉しい誤算。昨年の格闘技界は爽快感のある試合が多かったのである。

東京ダイナマイト

ハチミツ二郎

昭和新日とWWFをこよなく愛する若手芸人。昨年11月、社長を務めていたインディーお笑い団体『トンパチ・プロ』を自ら潰し、昨年末に「東京ダイナマイト」を2年振りに復活させた。次回単独ライヴは8月30日（金）、なんと日比谷野外大音楽堂！　東京ダイナマイトHP……http://www.tokyodynamite.com/

❶武藤敬司
❷ハチミツ二郎×焙煎TAGAI（西口プロレス＝6・8板橋産文ホール）
❸WWF『レッスルマニア17』（4・1テキサス州ヒューストン／アストロドーム）
❹敢闘賞⬇西村修

【総括】2001年上半期はZERO−ONEがとても良かった。下半期は真撃がとてもダメだった。ベストバウトは骨法歴8年の元芸人・焙煎TAGAIとボクが闘った『PRIDE』ルールのガチンコマッチ。死ぬかと思った。反則技を絡めつつ腕ひしぎでなんとか勝った。ベスト興行を観たかったら、もう本当にアメリカまでWWF観に行くしかないと思います。全然違う。頭が取れる。インディーは葛西純がベスト。団体はDDTがお薦め。

本誌『リングの汁』絶賛連載中

花くまゆうさく

バンバンビガロから、トラック、スミルノフなど、数種類のTシャツです。

❶大ノゲイラ&菊田早苗
❷小ノゲイラ×勝田哲夫（9・2後楽園ホール）
❸キングダム・エルガイツ（11・21後楽園ホール）
❹ありがとうよくやったで賞⬇永田に勝ったミルコ&ミスター高橋

【総括】「ミルコなら勝てる！　おいしい♥」とおいしいとこもっていこうとした新日の思いをこっぱみじんにしたミルコありがとう！　あと『週プロ』&『ゴング』はどんな形であれ、高橋本について触れてほしい。

元原タコヤキ君

原一博

もうすぐ結婚するということと、あと、最近年下の人にやたらと口うるさくなったことが近況報告です。

❶安田忠夫
❷ヴァンダレイ・シウバ×桜庭和志（3・25さいたまスーパーアリーナ）
❸『猪木ボンバイエ2001』（12・31さいたまスーパーアリーナ）
❹仲良しで賞⬇井上きびだんご……Tシャツアーティスト でありながら、神社の息子だから。⬇ケンドーコバヤシ&ますだおかだ……こういう芸人たちを面白いと思うんだから、僕はやっぱりセンスがいいと思う

【総括】❶試合観たのついこないだやからねえ。決して女性の前で涙を見せないことを身上としている僕が、彼女の前であっさり泣いちゃったくらいです。❷サク、連敗しちゃったからねえ。ノーガード戦法をやめて、サクも復帰戦では勝ちにこだわり始めた辰吉のように、劇的な変化を遂げるのでしょうか。❸でも期待した、ヒリヒリした緊張感はまるでなかったなあ。でも「行けなくて悔しい！」と思うようなこともほとんどなかったのも正直なところ。そんな中で、「クソー、行けばよかった」と思わせた安田の試合は、やっぱり素晴らしい試合だったと思います。

本誌・辻ヲタ編集員

堀江ガンツ

昨年は、まんまとアブダビ&メキシコへの海外出張に成功。「今年はロシアに行ってみたいな」と、図々しくも会社の金で海外に行きまくろうとしている男。

❶ヴォルク・ハン
❷仲野信市vs倉島信行（10・7「無我」後楽園ホール）
❸アブダビコンバット2001（4・11〜13、アラブ首長国連邦）
リングスKOK（2・24両国国技館）
❹『紙プロ』特別功労賞⬇金原弘光・藤波辰爾

【総括】❶ノゲイラ戦で最高のエンターテイナーは、最強のシューターだったという、プロレスファンの夢を実現させてくれたハンこそが、史上最高のプロレスラーである！　しかも、自らが一線を退いた直後に、アターエフという新たな幻想を送り出したのだから完璧。❷は絶滅したはずの「昭和・新日本」を最後の最後に見せてくれた仲野に涙したから。❸アブダビ、KOK共に2度と見れないかもしれないが、どちらも後々まで語り継がれるであろうから。❹「Uインター対談」を初めとして、ほぼ毎月のように面白い話を聞かせてくれた金ちゃん、そして1年を通して我々に笑いを提供してくれたドラゴン。この二人のおかげで昨年の『紙プロ』はあったようなものだと思う。

日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史

"路上の完全拳法"骨法を完成させたご存じ堀辺師範。本誌や『SRS・DX』誌での鋭すぎる格闘評論でも、すっかりお馴染み。整体セミナーに続き、最近、道場で開講した『歴史講座』も大好評！

❶21世紀型プロレス大賞⬇安田忠夫
21世紀型格闘技大賞⬇アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
❷高田延彦×ミルコ・クロコップ（11・3東京ドーム）
❹プロレス大賞⬇アントニオ猪木氏

【総括】プロレスラーが格闘技の土壌で、リアルな人間ドラマを見せる！　これこそがファンが求める新しいプロレスの形であり、こういったものを「プロレス」というならば、プロレスは21世紀もまだまだ生き残っていけるでしょう。また、「ベストマッチ」は、内容では「ノゲイラ×ヒーリング」を挙げたいところですが、格闘技を研究するものとしては、「高田×ミルコ」にこそ、いろいろなヒントが隠されていた。そういった意味で最も興味深い一戦でありました。

Stephanie

©中川画伯

飲み屋のマスター

マグナム北斗

もうすぐ39歳。元AV男優（闘龍門・マグナムTOKYOの名前の由来はココ）。元売れない漫才師（太田プロにも在籍したことアリ）。元ユニバーサルプロレス・リングアナ（みちのくプロレス・篠塚アナの師匠）。元歌舞伎町のホスト（売れてたらしい）。『紙プロ』創刊当時の客員ライター（ギャラはW☆ING以上にハナッからナシ）。元航空自衛隊員。プロレス初体験は非常に早く、大阪府立でBI砲十吉村組を生で見たのが自慢。『紙プロ』編集長・山口日昇の過去を知っている男で麻雀仲間。現在、兵庫県在住。加古川の駅前で、亜空間BAR『Magnum T&A』という、格闘技好きには堪らない怪しい飲み屋のマスターをしている。TEL.0794—56—6310

❶ステファニー・マクマホン・ヘルムスリー
次点⬇メイヴェン
❷ビンス・マクマホン×シェイン・マクマホン（4・1テキサス州ヒューストン/アストロドーム）
次点⬇トリッシュ・ストラータス×ステイシー・キーブラー（感謝祭のターキーの汁入りプールで闘ったヤツ）
❸W☆ING復活（4・22ディファ有明）
次点⬇AVW×WWAV（10・31桂スタジオ）
❹必殺技大賞⬇小川＆橋本組の合体技『刈龍怒（かりゅうど）』※技がどうこうってより、ネーミングのセンスに痺れる　阪神の薮恵壱の"薮からボール"並の素敵さ
ベスト・ドレッサー賞⬇佐々木健介　※こんなに似合わないスキンヘッドにする勇気に感動。嫁は止めてくれなかったのか？
使用料払って賞⬇マグナムTOKYO　※最近、闘龍門を観に行くと、TOKYOが本物で、俺の方がパチもんやと思われてるのがハラ立つ。この前もブスな女に「勝手に名前名乗らないで！」って、エラソーに言われてブチ切れた。
話題賞⬇茨木清志＆浅野起州　※こんなにコアな話題を振りまいた人を放って置くほど、俺は薄情な男やない。

【総括】01年はWWFがWCWを飲み込んだ歴史に残る1年。当然、1年間業界の中心で活躍したってことで、記念すべき第1回タフ・イナフ優勝者も、ズベ公呼ばわりされ、豊胸手術を暴露される億万長者のプリンセスには勝てず。❶は文句なしにステファニーで決まり。夫・トリプルHが故障欠場後も、やけに膨らんだ胸と、お嬢様と言いながら、パンプの取りすぎて太くなった腕とウエストを惜しげもなくTVの前に見せ続け、常に話題の中心にいたことを評価したい。出来ることなら、トロフィー代わりに"マグナムのシュトルーテル"を心ゆくまで味あわせたいもんだ。❷ベストバウトも文句なし。今すぐ入籍したいトリッシュとステイシーのセクシーマッチも、この親子の史上最高の素人マッチには勝てるわけがない。この親子、特に息子はレスラー以上の素人やね。1年を通して、この試合よりヘタな日本のプロの試合を何試合も見てるのは、ホンマに心苦しい事この上ない。辛い。トリッシュとステイシーは見てるだけでイイのよ。内容なんかイイねん。日本の女子プロと一緒に考えたらアキマセン。❸W☆INGの復活は、AVプロレスなんていう怪しい興行よりも胡散臭くて、プロレスの素晴らしさを感じる。しかし、ギャラをくれないって、わかってるのに、何故レスラーは試合に出るのだろうか。あるインディーのギャラは2千円でトコもある。これじゃ小学生の小遣い以下やで。W☆INGはそれより高いから未払いになるんやろうね。未払いの10万と、ニコニコ現金の2千円。選択するのはレスラー次第ってことでしょうな。それにしても今年は「刈龍怒」を上回るものが出てくるかなぁ〜。

本誌『ひりきな奥さん』絶賛連載中

真下純子

腐る寸前の肉の旨みがたっぷり詰まった32歳主婦。最近、整体の先生に「左右の尻の大きさが違う」と言われてショックを受けました。大食い番組はTVチャンピオン派。

❶矢野卓見
❷アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ×ヒース・ヒーリング（11・3東京ドーム）
❸ZERO-ONE（4・18日本武道館）
❹だからヒゲを剃れと言ったて賞⬇前田日明リングス総帥

【総括】❶2001年は矢野選手の真顔を沢山拝めて嬉しい年でした。❷素晴らしすぎて危うく解脱するところでした。❸最後に三沢選手が「橋本、お前に食べさせる飯はにゃあずら」みたいな事を言い、橋本選手が一瞬『ほそ腕繁盛記』の新珠三千代に見えました。「銭の花は清らかで白い。だが、その蕾は赤く、血の匂いがする」。銭の花を咲かせるのは難しいだろうけど、せめて血の匂いだけはプンプンさせてほしい、そんな2002年度プロレス格闘技界でございます。

本誌・ズンドコ進行マン

松澤チョロ

先月で30歳になってしまいましたが、相変わらず、住所不定、前歯無し、サラ金地獄は変わらず。谷津親分じゃないけど「三十路の青春」を謳歌したいものです。

❶星野育蒔
❷ランバー・ソムデート吉沢×矢野卓見（12・23ディファ有明）
❸スマックガール（7・26渋谷クラブATOM）
❹これからどうするんで賞⬇滑川康仁
今年はやるしかないで賞⬇小路晃
夜のマット界事情にやたら詳しいで賞⬇篠原光
横浜の大賞⬇鈴木みのる

【総括】❶去年の今頃まで某大学の柔道部だった10代の娘が、ロシアの強豪相手に打撃（！）で衝撃KOデビューすると、毎試合ベストバウトを連発しスマックガールのエースに（本人無意識）、しまいには新団体まで旗揚げさせてしまった。正直、この娘がいなけりゃ、女子の総合はここまで盛り上がってなかった。マット界の天然記念物。❷緊張感と笑いが同居した究極の異種格闘技戦。誰かにビデオでも借りて見て下さい。❸スマックガールは、どれもこれも素晴らしかったが、なかでも、"ブレーキの壊れたキャバクラ嬢"篠原光の衝撃デビュー→意外な強さにビックリ"シングルマザー"千春（現・CHIHARU）の格闘技デビュー戦→入場＆試合＆マイクとパーフェクトのマァ★ティンのメインとトリプルパンチを喰らわされた7・26興行がベスト！　❹滑川＆小路にはホント頑張ってもらいたいです。光ちゃん、夜のマット界特選情報いつもありがと（雑誌には載せられないけど）。最後は、ただ語呂が良かったもんで。弱火です。

デスマッチウォッチャー

三浦店長

何をやっているのか、わからない人。やたらと忙しかったけれど、金が全然残らずに、昨年もまた税金滞納状態。ごめんなさい相模原税務署の皆様。今年はこんな現状を打破し、大金を得ることを決意。目標は関内のクラブで、ハリウッドスター・アラン鈴木氏と豪遊すること。又、伊藤竜二選手に毎日肉を食わせてやる金を残したい。

❶葛西　純
❷ザンディグ×葛西純（6・25後楽園ホール）
❸大日本プロレス（8・19横浜文化体育館）
❹けなげで賞⬇李日韓レフェリー

【総括】97年6月27日の川崎に続き、昨年12月11日の後楽園ホールと、私が観に行く興行がことごとく事実上の最終戦となってしまうW☆INGに涙。それはさておき、また昨年もほとんどBJWしか観なかった一年でした。❶については、一度でも葛西を観たことがある人にとっては当然と納得していただけるでしょう。まだまだ興行の顔にはなれないでしょうけれど、会場人気はエースと言ってもよい程に成長したのだから。そして裏MVPは、李日韓レフェリーを大推薦。テレ朝の番組を見て、私は目頭が熱くなったよ本当に。こんないい女は他にはいないぜ。伊藤選手、なんとかしてやれよ!!

本誌鬼畜編集長

山口日昇

タイガーマスクのソフビが付いたラムネ菓子を買い漁り、ダブリがないことで「今年は運がある」と異常にハシャいで、23歳の社員にバカ扱いされる38歳。

❶石井館長
❷カート・アングル×シェーン・マクマホン（『キング・オブ・ザ・リング』6・24ニュージャージー州イースト・ルサフォード/コンチネンタル・エアライン・アリーナ）
ヴァンダレイ・シウバ×桜庭和志（3・25さいたまスーパーアリーナ）
❸『猪木ボンバイエ2001』（12・31さいたまスーパーアリーナ）
❹いつ何時でもモチベーションがあるで賞→アントニオ猪木
その決断はあなたにしかできないで賞→前田日明

【総括】93年からマット界の構造改革をすすめ、それが実を結んだにもかかわらず、石井館長は"これでアガリ"という感覚を持たずにドン欲なところが素晴らしい。さらに「猪木軍×K—1」という"余計"なことへの踏み出し方は猪木以来の"踏み出し方"だ。マット界MVPにふさわしい。今年は、サクが、次にどういうたたずまいでリングに上がるのかが異常に気になる。

ベリースマート代表

山本雅俊

サムライ『S・アリーナ』土曜レギュラーキャスター、DDTスーパーバイザー、フリーリングアナウンサー。個人事務所・ベリースマート代表。アントニオ猪木がゲストの「おしゃれカンケイ」中、猪木氏の鞄の中身拝見でシステム手帳の一番上に自分の名刺が収められているのが画面で大写しになったのが最近の自慢ネタ。

❶望月成晃
❷BADBOY非道×シャドウWX（10・20札幌テイセンホール）
❸ZERO-ONE旗揚げ戦（3・2両国国技館）
❹スターになるで賞⬇MIKAMI
なにかあげたいで賞⬇マッチョ・パンプ
エンターテイナー賞⬇今井良晴
よく次から次へと冗談を思いつくで賞⬇高木三四郎
レスリングセンス賞⬇ブラック・バッファロー
ガチカッコイイで賞⬇篠原光
プチ可愛いで賞⬇リレー子ちゃん

【総括】元団体関係者としてバトラーツの急落に強烈なショックを受けた。プロレスが"見せる"ことで利益を得る商売である以上、ファンがそれを自分の感性でいじったり、あるいはネット上に何の裏付けもない悪口を書き込んだとしても、それは彼等の自由であり、彼等の権利である。しかし今回バトラーツの投げかけた事情にかなりのエゲツなさがあったとしても、その後、あれ程のサディスティックな作業が大衆の前で公然と行われるとは……。本人は嫌がるかもしれないが、自分は石川雄規に同情している。

©中川画伯

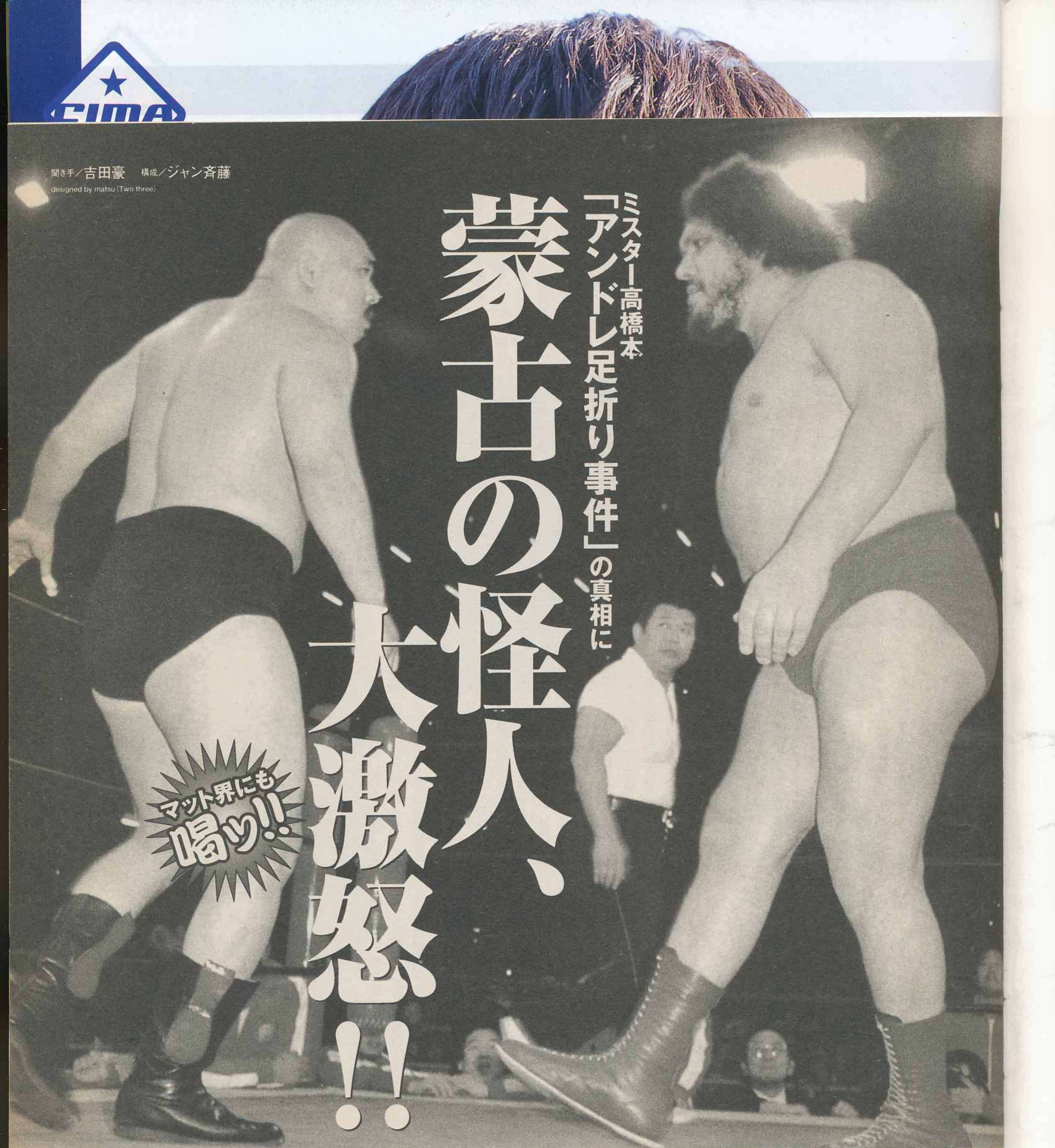
本誌・スーパーバイザー

吉田　豪

ロフトプラスワンを拠点とする古本戦闘集団・WWF（ワールド・レスリング・古本）の暫定チャンプ。『TVブロス』『ダカーポ』『小学3年生』『クロスビート』など、楽しげな連載も増加中。

❶ビンス・マクマホン（次点・藤波辰爾）
❷『ウルルン滞在記』藤波辰爾編（TBS）
❸ZERO—ONE旗揚げ戦（3・2両国国技館）
❹スーパーバイズ賞⬇小川直也ノーコンテストへの提言

【総括】❶文句なしに素晴らしい。「ケツにキスするプロレスなんか見たくない」とどっかの誰かが言ってるけど、そういうプロレスが俺は見たい！　男があぁなりたいと思う理想像。藤波も良かったけど、ああはなりたくないので次点。❷『虎ノ門』の橋本真也MCも最高だったけど、あれは2002年だっけ？　結局、日本でWWFに圧勝できるのはプロレスラーのバラエティ出演しかないのかなあ、と。『ウルルン』でのドラゴンがそういう意味で群を抜いてた。❸ZERO—ONEは最高だったなあ。だけど、WWFでもブッカーTがロックに対抗して映画のオーディションに挑戦したときの回が抜群でさあ……（『サマースラム』前の『スマックダウン』ワシントンDC大会のことだが、会場の外で行われたコントの話なので除外）。あと、年末のストーンコールド×ブッカーTのスーパーマーケット大乱闘もシビレた（同じ理由で除外）！　❹小川が最近いろいろ叩かれてるけど、ノーコンテスト自体は全然悪くないんだよね。むしろ、最大の問題はNWA王座を失ったこと！　だってNWA王者なら、いくら両リンやろうと反則負けしようと王座を守るためなら許されるんだから。とにかく小川は現代のリック・フレアー、いやハーリー・レイスになるべき！　目指せ、ダーティーチャンプ！【談】

聞き手／吉田豪　構成／ジャン斉藤
designed by matsu (Two three)

ミスター高橋本「アンドレ足折り事件」の真相に

蒙古の怪人、大激怒!!

マット界にも喝ッ!!

昭和プロレスの凄みに触れる実録! 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

元WWFスーパースターズ（現在居酒屋マスター）

キラー・カン

恐怖のアルバトロス殺法で、全米や金曜夜8時のお茶の間を震撼させた蒙古の怪人がかつてとは変わりゆくマット界、そして話題騒然の「ミスター高橋本」に大大大激怒!
さあ、元WWFスーパースターの、怒りのチャンコ居酒屋トークを味わいなッ!

カン （開店準備があるためか、いきなり）今日は30分ぐらいで終わるんでしょ？

——いや、やっぱりカンさんのプロレス人生を語ってもらいたいので、できれば1時間以上お願いしたいんですけど……。

カン そんなにかかるの？ それはまずいよお！ 今日は予約が20人入ってるからね。

——20人！ 新宿に移転されても大人気なんですね！

カン まあ、ウチは安くて美味しいですからね。チャンコだって1人前で2800円で3人前ぐらいの量があるし。

——御飯が食べ放題っていうのも凄いですよね（笑）。やっぱりお客さんはプロレスファンが多いんですか？

カン そうですね。こないだも技をかけてくれって頼まれてやってあげたけど「ギャーッ！」って悲鳴を挙げていましたよ（笑）。

——そうやってカンさんはお店に来るプロレスファンと直に接しているから、ファンがいま何を考えているのかわかってらっしゃると思うんですよ。ですから、お忙しいところ申し訳ないのですが、その辺も含めてプロレス人生を語ってもらえないですか？

カン まあ、なんとかしますよ（ぶっきらぼうに）。

——ありがとうございます！ それでは、まずはカンさんの子供の頃の話からお伺いしたいんですけど……。

カン もともと体が動かすのか好きだったんですよ。大人しかったですけどね。

——いろんなレスラーの方が「小沢さんは顔は怖いけどいい人だった」と証言されてますからね。そのあと大相撲の道へ歩むわけですか？

カン やっぱり当時は野球と相撲が人気があってね。自分は野球は好きじゃなかったけど、相撲は雑誌とか買っていて。大鵬関とか柏戸関が横綱だったんだけど、二人とも入門の時は体が細いんだよ。自分も体が細かったから、なれるかなって思って。いまでも生まれ変わるんだったら、相撲取りになりたいなって気持ちもありますから。

——プロレスラーよりも力士ですか。それで実際、相撲の世界はどんな感じだったんですか？ 太れない人も多いみたいですけど。

カン 自分も全然太らなかったんですよ。食べても食べても90キロぐらいで。自分で言うのもおかしいけど、気を使う部分があったんでね。

——精神的な面で太れなかった、と。

カン それで、お相撲さんがケガしたらよく行く病院に北沢（幹之）さんがヒザをケガしていて来てたんですよ。そこで友達になって話をしたら「体も大きいし、太らないんだったらプロレスに向いてるんじゃないの？」って言われてその気になってね。でも、親方は相撲を辞めさせてくれなくて。結局、夜逃げした形で入ったんですよ。

——実際、プロレスにも思い入れはあったんですか？

カン プロレスも好きだったんですよ。子供の頃はリキさん（力道山）の「三菱ダイヤモンドアワー」なんて必ず見てたしね。そば屋に行って立ち見とかしたりしてましたから。それに地元では馬場さんが隣町から出てましたしね。

——プロレスに入ってみて、相撲との違いで戸惑ったりとかは？

カン ありましたね。相撲は親方衆が絶えず見張っていて、練習のときは和気あいあいと喋ったりできなかったし、そういう違う部分はありましたけどね。

——あ、プロレスの練習は和気あいあいとしてたんですか（笑）。

カン いや、プロレスの練習もきつかったですけどね。スクワットにしても藤波選手とか（グラン）浜田とか軽いからパッパッパッとできるけど、こっちは体が大きいからなかなかね（笑）。でも、一生懸命ついていこうとした姿勢を猪木さんや山本（小鉄）さんが認めてくれましてね。

——厳しさは変わりなかったんですね。同期には藤波さんがいたわけですけど、浜田さんと一番仲が良かったんですよね？

カン そうね。凸凹コンビでね。浜田の実家も行ったこともあるしね。藤波選手とも仲は良かったですよ。

——いまでは新日本の社長までに上り詰めましたけど（笑）。

カン フフフ（意味ありげに笑って）。まあ、大したもんですよ。

——ダハハハ！ 大した出世だと。

カン ホント、大したもんですよ。あの人は細かったし子供だったから、練習して鍛えて強くなってね。

——練習も厳しかったとは思いますけど、酒とか遊びに関してもやっぱりあの当時はすごかったんじゃないですか？

カン 辰っつぁんなんかとはよく飲みに行きましたけどね。

——カンさんはプロレス入りした頃は永源さんのアパートに住んでらっしゃっていたこともあったみたいですけど、永源さんともかなり飲まれたんじゃないんですか？

カン 良く知ってるね（笑）。あの頃は寮がなくて、同じ相撲取り出身だったということもあって永源さんのところに居候してたんですよ。よく焼き肉屋に行ったりしてね。それで、永源のおっさんと焼き肉屋に行ったら国士舘の学生連中がいたけど引いていたね。オレらは体が大きいから（笑）。

——カンさんは新弟子だし、やっぱりガンガン飲まされたりしたんじゃないんですか？

カン あの頃はやっぱり相撲社会のしきたりが残っていてね、新弟子もイジメられたりしてたんだけど。私は飲んだら底なしでしたから（キッパリ）。

——底なしですか！（笑）。だからこそこういう仕事もできるわけですかね。

カン いまは飲まなくなったけど、あの頃は一升、二升はなんてことなかったですね。まあ、自分は吉村（道明）さんの付き人をやってましてね。吉村さんは紳士で飲み連れていってもらっても楽しかったですよ。

——北沢さんがきっかけでプロレス入り、吉村さんの付き人になり、カンさんはプロレス界の中でも屈指のいい人たちに巡り会えたわけですね。

カン 吉村さんにはいろんなことを教えてもらったしね。大好きですよ、吉村さんは。猪木さんの引退興行でドームで会ったときにお互いに「ウワーッ！」って抱擁してね（嬉しそうに）。

——ボクもあの興行の前に吉村さんを取材したんですけど、本当に笑顔がかわいくて（笑）。

カン 吉村さんはプロレスではやられてやられてリキさんにタッチしてたけど、私生活も同じでしたよ。自分を犠牲にして人をかわいがるっていうか。だから、自分は何があろうと吉村さんが引退するまでずっと付き人でいようって決めてたんですよ。

——「俺が俺が」が多いプロレス界では、珍しいタイプだったんですね。ただ、当時の日本プロレスは猪木さんや馬場さんにしても段々仲がゴタゴタしてきた時期じゃないですか？

カン 俺は新弟子だったし馬場さんや猪木さんのことはよくわからないけど、中堅所の仲の良い悪いがあってね。「オマエは俺の方につけ！」とかあって嫌だったですね。

——入って早々、嫌な面を見たこともあったんですね。

カン 最後の頃は大木さんと坂口さんがゴタゴタしてね、も〜う、最悪のムードだったですね（苦々しく）。

——相当険悪な雰囲気だったらしいですからね。それで、坂口さんに付いて新日本に行こうと決めたのは御自身の意志だったんですか？

カン 吉村さんが引退したときに相談したら「自分の道は自分で決めるように」って言われてね。それで馬場さんのところに行こうかな、坂口さんと一緒に新日本に行こうかなって迷っていたら、坂口さんがオレらのことを囲った形で新日本に行くことになったんですよ。まあ、成り行

きですよね。

——成り行きですか（笑）。それでは馬場さんの全日本に行く考えもあったわけですね。

カン 馬場さんを尊敬していて大好きでしたから。同じ新潟県出身ってことでカフスボタンやYシャツを貰ったこともありましたからね。いまでも持ってますよ。

——馬場さんと猪木さんの違いっていうのは、間近に見てどう思いました？

カン やっぱり、性格的に違いますよ。

——いや、それはそうなんでしょうけど。

カン ……まあ、あの2人ことは言いたくないですよね。自分なんかは言える立場じゃないし。馬場さんはいい人でしたよ。猪木さんもいい人でしたけど、クセのあるいい人っていうかね（笑）。

——クセはありますね、確かに（笑）。それで新日本に移籍するわけですが、あの頃の新日道場といえばいまも伝説になっているんですけど、実際はどうでした？

カン 猪木さんも会社を興して間もなかったからなんとか成功させようって頭があったし、ブラジルの事業を拡げてたりしてなかったからね。毎日いつも道場に来ていて、練習は厳しかったね。厳しさでいったら日本プロレス時代と変わらなかったけど、ピリピリしたものが新日本にはありましたから。

——トップが率先してキツい練習をやるような環境だったんですね。そういう雰囲気に加えて、カンさんら移籍組に対して生え抜きの選手が敵意剥き出しだったって聞きましたけど。

カン ああ、そうなんですか？ 俺はオットリしてるからよくわからなかったなあ。

——ダハハハ！ 同じく移籍した健悟さんなんかも含めて、藤原さんや荒川さんが「アイツらには負けない！」みたいな思いでいたみたいですよ。

カン ああ、そういうのはあったね。でも、そういうのがないとレスラーとしても成長しないでしょう（キッパリ）。

——いい形のライバル関係だったわけですね。そういった環境の中でカンさんはカール・ゴッチ杯で準優勝して海外遠征に出ることになるわけですけど、実はゴッチさんに言われてメキシコに行かれたんですよね。

カン そうそう、ゴッチさんに言われたんだけど、体が大きいのがメキシコにいないから、またゴッチさんから「アメリカに入るように」っていうことでね。

——ゴッチさんがメキシコ行きを命じるっていうのは、いま考える不思議な話ですよね。

カン いま考えるとホントそうなんですよね。よくわかんないけどさ。だって、ああいうモンゴルスタイルもゴッチさんに言われてやったんですよ。

——あっ、そうだったんですか!?

カン ゴッチさんが自分でイラスト書いてくれて、「こういう衣装作れ」っていうことで。

——ゴッチさんのアドバイスでモンゴル人キャラになったんですか！ ゴッチさんって自分のスタイルを曲げない頑固な人ってイメージですけど、そういうエンターテインメント的なセンスもかなりあったんですね。

カン 普通では考えられないけど、そういう部分もあったんだね。

——ある意味、ゴッチさんに出会ったことがカンさんの人生を変えた、と。

カン 自分はゴッチさんにはかわいがってもらいましたよ。俺が初めてフロリダに入ったときのことはいまでも覚えてますから。ゴッチさんが空港まで迎えにきてくれてね。車を運転してホテルに向かうハンドルを切り損ねて「俺は去年のクリスマスに友人から車のライセンスをプレゼントしてもらった」なんて冗談言ったりして、楽しかったですよ（笑）。

——ゴッチさんとの練習はどうだったんですか？

カン フロリダにいたときはね、ゴッチさんは自分のスケジュールを全部知ってましたから。試合がない日は車でアパートに迎えに来てくれて2人で練習したね。

——ホント、かわいがってもらってたんですね。

カン ゴッチさんは要領よくやる人間は嫌いだったけど、俺は一生懸命練習しましたからね。縄を登る練習したり、ああいうのはあんまりできなかったけど、一生懸命やることでゴッチさんも認めてくれてね。そりゃ、辰っあんのほうができたけど（笑）。

——身体も軽いですからね（笑）。ゴッチさんは厳しすぎるとか話が長いとかって理由で嫌がる選手が結構いるみたいですけど、カンさんにとっては問題なし、と。

カン 厳しいっていっても選手に良い厳しさですよ。

——時間に厳しいのもそうですよね。

カン 練習時間に1分でも遅れたら道場に入れてくれないとかね。

——ゴッチさんのスタイルは固いということでプロレス的にはよく言われないことも多いですけど、カンさんはどう思っていたんですか？

カン ゴッチさんのああいうスタイルができてこそ、ある程度のショーマンスタイルみたいなもんができると思うんですよね。ただ、ショーマンスタイルだけができたって、いつかメッキは剥げますから（キッパリ）。俺はゴッチさんのスタイルは好きですよ。

——プロとしてエンターテインメントに徹するためには、強さのベースが絶対必要ということですね。あと、フロリダではパク・ソンナンと組んだりしてたんですよね？

カン あの人も強かったんだよね。いい人だったですよ。どっちかっていうと馬場さん的な人でね。

——ああ、なんか顔つきも似てますしね（笑）。

カン いや、とにかく性格がいい人だったですよ。

——そんな人を、猪木さんはシュートを仕掛けて潰しちゃったわけですか（笑）。

カン 韓国でやったんでしょ？ 俺は見てないから。

——しかし、そのパク・ソンナンとモンゴルスタイルのカンさんっていうのは、かなりインパクトがあるコンビですよね。

カン 自分がまた東洋の顔もしてるしね（笑）。フロリダでやっていたときに雑誌で「凄いレスラーが現れた！」って特集されたんですよ。だからプロモーターからしてみれば、自分で言うのもなんだけど引く手あまたでね。ルイジアナのビル・ワットにもすぐ呼ばれたよ。

同じ新潟出身ということもあり、馬場に尊敬の念を抱いていたというカン。ジャパンプロ分裂時には、カンの全日入りの噂もあったのだ。

──体格といいキャラといい、圧倒的なインパクトがあったわけですね。

カン　それとトップロープからのニードロップはキラー・コワルスキーもやっていたけど、コワルスキーは脚を立ててるんですけど、俺は正座して落ちたんですよ。ああいうことができるのは俺しかいなかったですし。

──だからこそWWFでも通用したんですね。

カン　ニューヨークのマジソンでメインイベントの数は自分が一番じゃないですか（キッパリ）。

──そうですよね。アンドレとだって普通、何回もやれないですからね。

カン　アンドレの足を折ったのはアクシデントでしたけどね。

──その件についてもキッチリ聞きたいんですけど、具体的に言うとどういうことだったんですか？

カン　トップロープからアンドレの喉元目がけて飛び降りたら、アンドレが起きあがっちゃって。それで足に当たってね。自分もリング上でのたうち回りましたよ。そのせいで、アメリカのプロレスを扱わない新聞、雑誌まで俺とアンドレが出てましたからね。

──日本にも共同通信を通じて一般紙にも配信されたみたいですね。

カン　だから、アンドレが復帰してからは自分との試合が黄金カードだったですね。どんなカードを組んでも満員にできない会場だって、俺とアンドレのカードだけでお客が入れなくなるぐらいになりましたからね。

──アクシデントをビジネスにうまく転化させたわけですね。ケガさせられたアンドレも全然気にしてなかったみたいですけど。

カン　（フレッド・）ブラッシーがアンドレのところに行って「カンが悪かったと謝ってる」と伝えたら、「気にするな。復帰したらガンガンやり合ってビジネスにしよう」って。アンドレもビジネスマンだったんだよね。俺のことなんかいつも「オザワ、オザワ」って。

──本質的にいい人なんですね。

カン　トップになるレスラーはみんないい人ですよ。自分で言っちゃ世話ないけどね（笑）。まあ、そのアンドレも亡くなってしまってね。

──アンドレさんなんかは完全に孤独感をお酒で癒すって感じでしたけど。

カン　みんな怪物扱いしてたからね。

──レスラーの場合、孤独感を癒すために道を踏み外しがちじゃないですか。

カン　そういうのもあったかもわからないけど……。でも、注射とかやったりしたらダメですよね。

──麻薬方面ですか。あと、テリー・ゴディとも一時期一緒にやられてましたよね？

カン　ああ、だから亡くなったときは涙が出たね……。アイツは俺より年下だったけど、ホントにアメリカのヤンチャ坊主でね。でも、ビジネスに関しては一倍考えていましたね。時々、一緒にドライブしたり飲みに行ったりしました（しみじみと）。

──カンさんはフリーバーズと組んでエリック一家と抗争してたわけですよね。そのエリック一家も家族が次々と死んでいっちゃうし。

カン　金があったから、いろんな薬物とステロイドに手を出しちゃうだろうね。

──筋肉増強剤ですね。

カン　そうそう。ダイナマイト・キッドもやっていたけどね。いまはキッドはボロボロでしょ？

──キッドは、いま車椅子ですからね。

ゴッチさんが自分でイラスト書いて「こういう衣装作れ」って

カン　（かなり驚いて）ああ、そうなんですか!?　車椅子なんですか……。奥さんと別れたとは聞いていたんですけど。

──それで再婚したんですけど、その早々に下半身不随になっちゃったんですよ。

カン　そうなんだ、ウワーッ！（顔をしかめて）。

──最近、キッドの自伝が出たんですけど、馬用の筋肉増強剤も使ったって告白してましたね。

カン　俺はキッドに「やめろ、やめろ」って言ってたんですけど、キッドは「俺の体じゃ通用しないから」って言っててね。「ああ、そうかな」って思ったんですけど……。可哀想ですね。

──本人は「後悔してない」って書かれてましたけど、やっぱりリスクがデカすぎますよね。ハルク・ホーガンなんかもそうだし、カンさんの周辺には他人事じゃないぐらい筋肉増強剤を使う人が多かったと思うんですけど。

カン　だからホーガンに「こんな体になるから、やれよ！」って俺も言われたけど、「冗談じゃない！」と。なんでいま現在トップなのに、そんなの使って体をボロボロにしなきゃならないんだってね。キッドとかがやるのはまだわかるんだけど。

──体が小さい人やブレイク前の人間が使ってのし上がるんだったらまだしも。

カン　だいたい、そんなのニセモノの筋肉でしょ？　猪木さんとかドリー・ファンクとか、ジャック・ブリスコとかみたいな体が本当のレスラーですよ（キッパリ）。

──やっぱりハリー・レイスみたいな体のほうが凄みはありますからね！

カン　そりゃそうですよ！　実際、強いんだから。

──それで、そこまで誘惑の多いアメリカで成功するコツって一体なんなんですか？

カン　いやあ、わからない（アッサリと）。

──ダハハハ！　そうですか（笑）。

カン　自分の場合は、ただ一生懸命やっていたわけですよ。控室でスクワット千回やったりすれば他のレスラーもビックリするしね。やっぱり、ナメられないようにすることが成功することですよ。ノホホンとしてたらダメですし。

──それはグレート小鹿さんも言われてましたね。

カン　それと「ジャップ！」って見られているわけだから、日本人がトップでアメリカ人が下っていうことで頭にくる選手もいるでしょ。それは「キラーカーンがトップに立ったからお客さんが呼べる。だから歩合制で自分たちも潤ってるんだ」って思わせないとね。自分はハーリー・レイスとかリック・フレアーなんかと車に乗ったことがありますけど、やっぱりビジネスの話しかしないですよ。

──トップとしていかに興行を成功させるかっていう。

カン　どうやってお客入れるかとかね、レイスとかもそういうことしか考えてないですよ。下の奴らは女のこととかそんなことしか考えてないから、話をしていても嫌だったですよ。

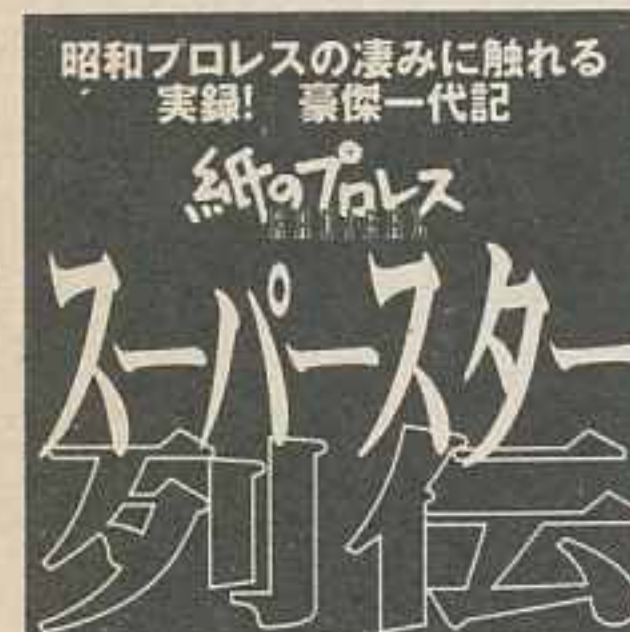
──向上心がないっていう。

カン　所詮、自分はメインまでの繋ぎに過ぎないっていう頭があって。レスラーだったらある程度モテるから、そういう話しかしないんです。だから、付き合うのは上のレスラーに限りますよ。

──出世したければ大物と付き合え、と（笑）。ところで、現在のWWFというのは元WWFスーパースターズだったカンさんはどう思っているんですか？

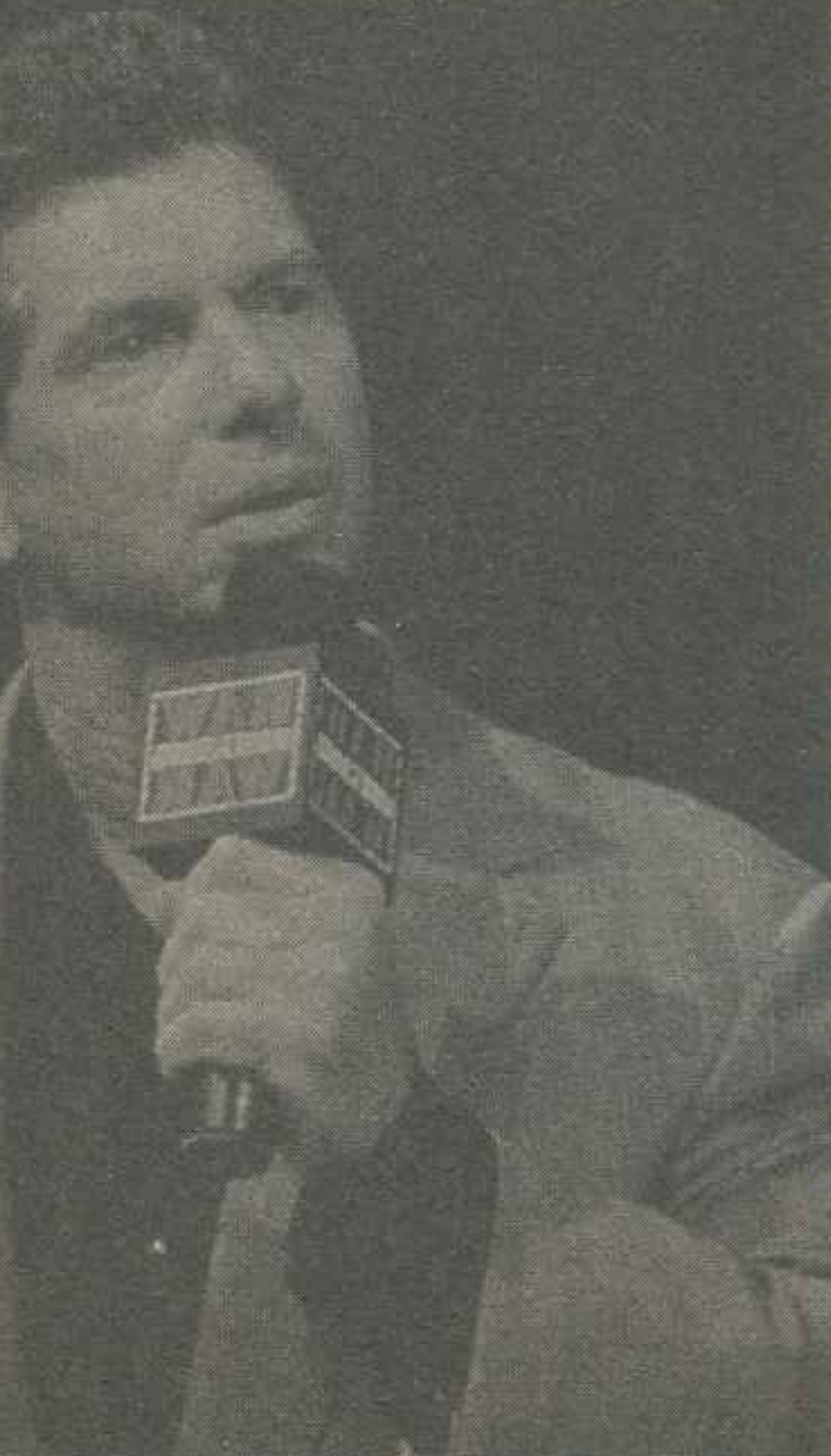
カン　いまのニューヨークは完全にああなっちゃってるけど、昔の（ビンス・マクマホン）シニアの頃は基礎がちゃんとできない選手は使わなかったから。親父さんはね。

──つまり、いまは基礎のできない選手を使いすぎだってことですね。シニアとジュニアの違いってそんなに大きいんですか？

カン　シニアは違いましたね。ジュニアは芸能人を上げてみたり、ボデ

昭和プロレスの凄みに触れる実録！ 豪傑一代記

紙のプロレス

スーパースター列伝

ビンスが「何のトラブルだ!?」「俺が全部解決してやる！」って言ってくれてね

ィビルダー連れてきてレスラーにしたりね。もう見たくもない（キッパリ）。

――ちなみに、いまはジュニアがリングでお尻とか出しているんですよ（笑）。

カン （心底、不愉快そうな顔をして）そういうことするから、プロレスのランクが下がってきてるんですよ。俺らのときはそうじゃなかったですから！

――いまはビンスが「プロレスはショーだ」って完全に打ち出しちゃって、最近では「ビヨンド・ザ・マット」っていうWWFのドキュメント映画も公開されて、試合の打ち合わせ風景とかも表に出ちゃったんですけど、それは御存知ですか？

カン 知らないけど、ジュニアが完全にそういう世界を創ってるんじゃないんですか？ 俺らは猪木さんのところで厳しい練習してね、こういうことやってもケガしないってやっていたのに。でも、アメリカのプロレスではお笑いなんかやってるっていうのは……。終わりですよね（キッパリ）。

――すっかり変わり果てちゃったって感想ですか。

カン ジュニアは何を考えているのかわからなかったですよ。やっぱり、お金が儲かるからやってるんじゃないんですか？

――実際、ジュニアが牛耳ってから儲ける額も桁違いになったわけですからね。

カン だから、頭の中は金しかないわけですよ（キッパリ）。金が儲かるなら、どんなやり方だってやるっていう考え方なんですよ、ジュニアは。

――それで話を戻すとWWFでメインを取るようになった頃、ブームだった頃の新日本にもちょくちょく戻ってきていたわけですけど、ちょうど新日本の裏では面倒なゴタゴタが起きていたんですよね。

カン フフフ（苦笑）。

――まあ、カンさんは日本にあんまりいなかったんで、あんまりヒシヒシとは感じていなかったのかもしれないですけど。

カン そうだね。永源（遙）とかが、「猪木さんのやり方が余りにもデタラメだから会社興すのを手伝ってくれ」「外人呼んでも五分にやれるのはオマエしかいないから」って言われて。まあ、猪木さんが他のビジネスに手を出してからおかしくなったんじゃないですか？

――それで、お金の流れが不明瞭になって。さっきのアメリカの話でもそうなんですけど、トップが下にいかに繁栄させるかを考えなくてはいけないのに、トップが下の分のお金もどこかに使ったら問題も起きるというか。

カン そういうことはあんまり言いたくないんだけど、その通りかもしれないですね。でも、結局新しい会社創っても、みんな戻ったりしてるわけですけど（笑）。それで、自分は一度後ろ足で砂かけた人間のところに戻っちゃいけないって引いたんですけどね。格好良い言い方になっちゃいますけど。

――ジャパンプロレスができたとき、「我々5人は一蓮托生。今度もめごとがあったらプロレス界から足を洗う」とまで言ってたわけですしね。

カン よく知ってますね（笑）。ダメになったらみんなして辞めよう、と。そう言ってたんですよ！ それで自分がアメリカに戻ってダラスにいるときに、大塚（直樹）さんからの電話で「みんないなくなってジャパンプロレスはカンさんだけになった」って聞いて、もう力抜けちゃってね……。もう、やだと思って。あれだけ誓いあったのにってね（しみじみと）。でも、あれから15年も経って考えれば、やっぱり生活懸かってるから戻った人は戻らざるを得なかったんじゃないですか？ ただ、自分は何にも考えないでやめちゃいましたから。女房子供がいて明日の生活もあるのに、嫌になってね。

――他の人たちは生活を考えて身の振り方を考えてたのに（笑）。

カン 独り者の独身の連中が、新日本に戻っていい顔してね。「なんだ、この社会は!?」って思いましたよ！ それでジュニアに辞めるって言ったら「なんで辞めるんだ！」ってスケジュール表を見せてくれたんです。そうしたら大きい会場はみんな自分がメインなんですよ。

――ジュニアにも、それだけ認められていたわけなんですよね。

カン ジュニアが「何のトラブルだ!?」「俺が全部解決してやる！」って言ってくれてね。

――カッコいいですねえ！ とにかく俺に任せろ、と（笑）。

カン ジュニアは、トップのレスラーにはそういうことしてくれるんですよ。どんなトラブルでも何でも、あの人は解決するだけの力があるから。でも、俺は「それは言えない」って言ってね。それで向こうも引いたけど、そのあとにゴリラ・モンスーンとかパット・パターソンとかから随分電話が家にあったらしいですよ。

――戻ってこい、と。

カン だって、一番いいときに自分が引いたんですからね。自分もスケジュール表を見せられたときに一瞬考えてたんですよ。「これぐらい貰えるな」とかね（笑）。そんなこと考えたけど、それよりも気力がなくなったんです。なんであれだけ誓い合った人間がね、なんで後ろ足で砂かけた人間のところに戻るのかってね。それも金に釣られて戻ったんでしょ？

――まあ、要はそういうことなんでしょうね。

カン 俺も要領よくやればそれできたかもしれないけど、それよりもこの世界が嫌になっちゃったんですよ。アメリカでやれば良かったんだけど、リングに上がることすらやんなっちゃったんです。いま考えればね、となんでもないことやったなって思いますけど（笑）。

――WWFでそんな待遇が受けられるなら、絶対にもったいないと思いますよ（笑）。

カン 日本に戻ってもしばらくフラフラ、プータローみたいなことしてたんですよ。子供も食わせなきゃいけないのに（しみじみと）。

――そこまでショック受けるということは、ジャパンプロレスに対する想いもそれだけ強かったんでしょうね。

カン 想いは強かったですよ。あれだけ誓いあったんですから。ジャパンプロレスは良かったですよ。夢があったですからね。

――ちなみにジャパンプロレスで全日本に参戦されてたとき、新日本との違いはどういう風に感じましたか？

カン いやあ、根本的は一緒でしたよ。違いも何も。

――でも当時、「新日本は闘いだが全日本はショーだ！」って新間寿さんとかがブチ上げてたし、長州さんもかなり手厳しいこと言ってたじゃないですか？ 全日本の試合について「ヌルマ湯の中のオナラだ」とか（笑）。

カン それはビジネス上ですよ。

――ビジネスの発言としてそう言うだけで、同じプロレスであると。

カン だから、長州はプロだったんじゃないですか？ ボクは馬場さんと試合できて単純に嬉しかったですから（笑）。

――長州さんはちょうどジャパンプロレスが分裂した頃に結婚されて、

そこから変わったとかってよく聞きますけど。

カン　長州は……よくわからないですね（笑）。

――ダハハ！　カンさんにもわからないですか（笑）。

カン　まあ、お金が好きなんじゃないんですか（興味なさそうに）。あの頃は「ふざけんな、長州！」って思って刺し違えてやろうかという気持ちもあったけどね。

――刺し違えてですか！

カン　でも、やっぱりプロならお金ですから。まあ、あんまりキレイじゃないけど、懐にお金を入れたってことはプロとして一流なんじゃないですか（苦笑）。自分より格上ですよ。長州は自分で良い生き方したんじゃないですか？　あの頃は俺もカッカしたけど、いまになれば笑い話でね（笑）。

――その長州さんが引退して、また最近復帰したわけですけど。

カン　いやあ、俺はそのことに関してはもう言うことはありません（笑）。

――もう怒りが尽きちゃったわけですか（笑）？

カン　いやいや、怒りが尽きたわけじゃなくて。その人なりの生き方があるわけだから、いいんじゃないんですか？　それについていくお客がいるわけですからね。ただ、俺は「長州は復帰しないよ。あんな大仁田みたいな三流レスラー相手に挑発されてリングに上がらないよ」ってお客さんには言っていたらね。

――ところが、その大仁田さん相手に復帰して（笑）。

カン　まあ、大仁田に何もさせないで完勝したらしいけど。それで俺も「長州はこの一回だけですよ」と店に来るお客には言っていたらね。（苦笑）。

――またもやリングに上がって（笑）。

一連託生を宣言し、全日マットを席巻したジャパンプロレス。これは遅れて全日参戦を果たしたマサ斉藤を歓迎する宴会での一枚。皆の笑顔が結束力の堅さを表している。「夢があった」とカンが語るのも頷けるのだ。

カン　そのことについては俺に聞かないでください（笑）。俺も答えようがないですからね。

――ちなみにカンさん自身は「もう一度リングに」とは思わなかったんですか？

カン　気力がない人間がリングに上がって試合をしてもお客に失礼ですからね。

――全てのレスラーにそういう姿勢があればいいんですけどねぇ（苦笑）。カンさんはプロレスがゴールデンタイムで放送されたときの最後の生き証人だと思うんですけど、その頃から比べてどうしてプロレスが格闘技の興行に押されるような状況になったんだと思いますか？

カン　それはプロレスラーが節操がないからですよ。レスラーは子供に夢を与えなきゃいけないのに、金にコロコロ転がっていたらねえ。それと、オレらがやってたときの固いリングに戻せば良いんですよ。猪木さんが引退したときにドームに呼ばれてリングに上がったら、あんまり弾むんでビックリしたんですよね。あんまりリングを良くし過ぎたんで、大技かけても効かなくなったんですよ。

――だからこそカウント2・9で返せるわけですよね。

カン　それでプロレスに対する重みがなくなったんですよね。リングを固くすれば警戒しますし、迫力が出てきますから。いまはポンポン、サーカスみたいなプロレスですから。いまは辞めた人間ですから勝手なこと言ってますけど、そう思うんですよ。

――試合での緊張感は明らかに減っていますからね。

カン　昔は手に汗握って見るもんだったんですけど、いまは笑いながら見るものになってますからね。俺は古い人間かもしれないけど、やっぱり腕だったら腕、脚だったら脚を絞り上げてギブアップさせるようなものが好きですね。いまはポンポンポン飛んでね。レフェリーがいてもいなくても関係なく、急所殴ったりね。2人で攻撃してもカバーが認められるとか、もうメチャクチャですよ（キッパリ）

――かなりズサンなんですよね（笑）。

カン　いまのはプロレスじゃないですよ。猪木さんはそういうのは大ッ嫌いだったんですけど、なんでああいうのを認めているのかわからないですよ。

――猪木さんにも止められなくなった部分はあると思うんですけどね。

カン　う～ん、あれだとホントのプロレスファンは離れていくと思いますけどね。だから、いまPRIDEとかK―1とかに押されてるんじゃないですか？

――格闘技に流れるのもしょうがないと。

カン　はい。ああいうことやってるんじゃね。

――いまはプロレスが非常にどっち付かずなんですよね。真剣勝負になりきれず、ショーにもなりきれず、そして緊張感も出せずって。

カン　それはプロレスラーがダメなんですよ。

――PRIDEに対してはどう思ってるんですか？

カン　認めているっていうか、自分はヒクソンだろうがなんだろうがバリバリ若かったらやってみたい気持ちはありますね。負けるかもしれないけど、結果っていうのはついてくるもんだから、ただやってみたいって気持ちはありますよ。

――ヒクソン対キラー・カンですか！　それで、いま新日本はPRIDEを取り込んだプロレスをやり始めたわ

昭和プロレスの凄みに触れる実録！ 豪傑一代記

紙のプロレス

スーパースター列伝

酒飲んだアンドレが自分の重さで足首やった？ それを俺が演技してなんとかかって!?

けですけど。

カン でも、猪木さんの方針でしよ？

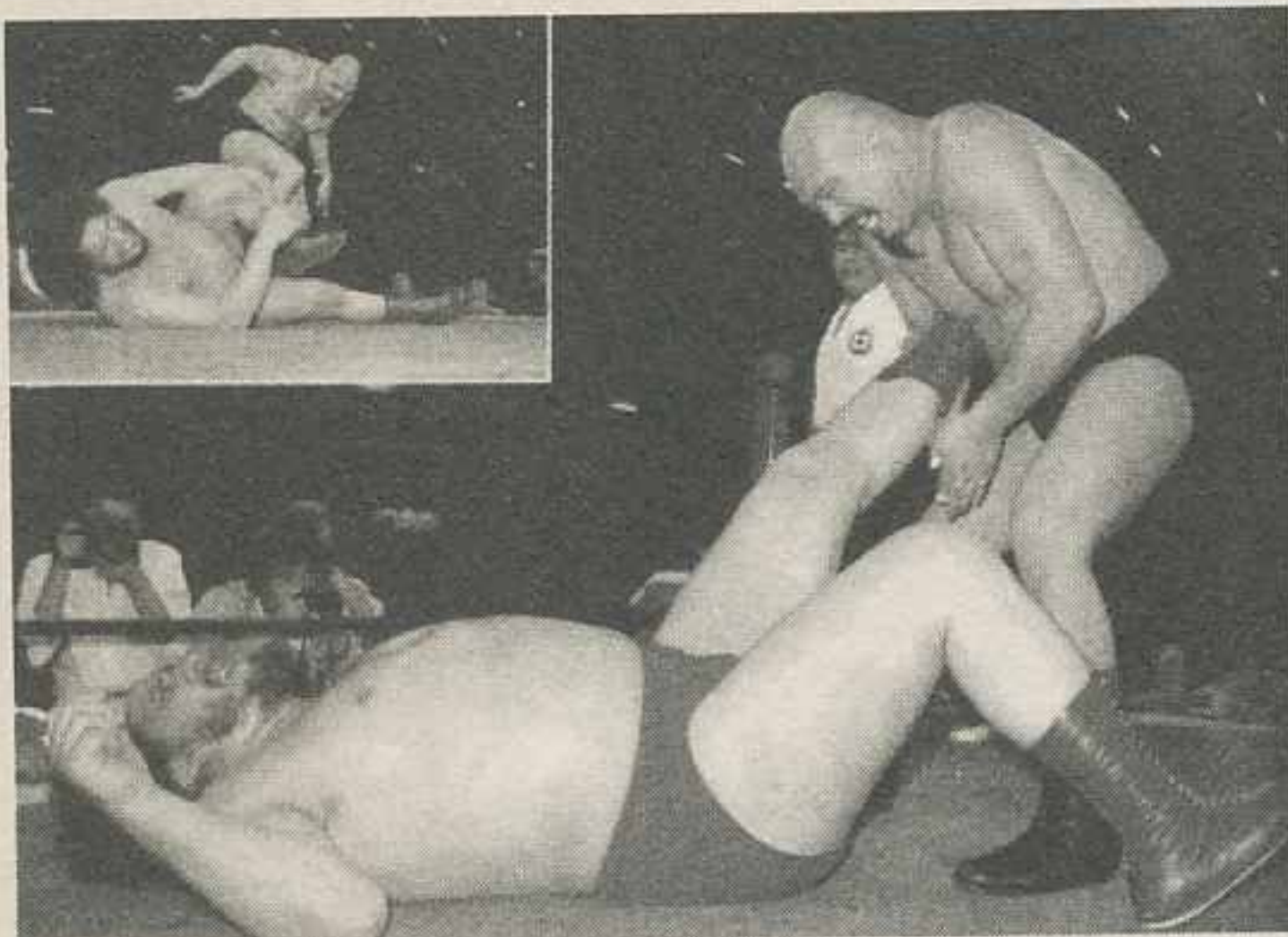
―まあ、そうですね。カンさんは一連のミルコvs藤田、ミルコvs髙田なんかは御覧になられたんですか？

カン お客は藤田が負けたのがショックだったみたいだね。俺も藤田が絶対勝つと思っていたけど、まともにいきすぎたよなあ。

―髙田さんの試合についてはどうでしたか？

カン 髙田ァ？ 髙田はハッキリ言うけど、実力より先に人気が先に行っちゃったから（キッパリ）。俺とすれば、負けたって勝負の世界ですから正々堂々行って負けたほうが評価されますよ。あんな昔の猪木さんと同じみたいなことやったら、高い金払ってるんだからそりゃお客も怒りますよ。自分の後輩だから悪口言うわけじゃないけどね。先輩後輩は別としてそう思いますよ。髙田っていう人間はいい人間ですけどね。努力もしてると思いますけど。

―マスクが良いって言うのも考えものなわけですね。その点カンさんは猪木さんが「私もアゴで悩んだ時期があったのですがそんじょそこらの顔とは違う。本当に天性の素材」って失礼な太鼓判をしてましたけど（笑）。

カン ワハハハ！ 自分のこの顔を最大限にして悪くやってましたから！

―より悪くして（笑）。

カン 人に恨みを買われるようなね（笑）。それがプロですよ（キッパリ）。

―いやいや、いまでも迫力十分です（笑）。

カン まあ、自分なんかは元気いっぱいですけどね（笑）。ホント、悪いところないもん。ちょっと風邪気味だけど、こないだ帰るのがメンドクさくてね、毛布も掛けないで店で寝ちゃってね（笑）。

―ダハハハ！ お大事に！

★ ★

あのビンスに「何のトラブルだ!?」「俺が全部解決してやる！」と言わしめた、真のスーパースター、キラー・カンの栄光溢れるプロレス人生！

その伝説を縁取る一角が、文中にも登場した「アンドレ足折り事件」なのだが、この取材直後にプロレス界を震撼させたミスター高橋「流血の魔術 最強の演技」が発刊！

それによればアンドレ足折り事件の真相は「試合前に大酒を喰らい足元がふらついたアンドレが、よろけて自分の体重で負傷した」と記されていたのだ。

食い違う2人の証言。

真相は一体……!?

編集部は事実を確認すべく再びキラー・カンの元に向かった！

★ ★

―あっ、すいません。ちょっとインタビューの追加をお願いしたいんですけど。最近、ミスター高橋さんがですね……。

カン （遮って）ああ、知ってますよ。俺もちょうど読んでる最中なんですけどね。

―あっ、それなら話が早いんですけど、カンさんが実際に読んでみて……。

カン （再び遮って）確かに当たってたりする部分もありますけど、ちょっとヒドイよ。面白おかしく書けば売れるっていうのはわかるけどさ。俺のことにしても、酒飲んだアンドレが自分の重さで足首をやった？ そんなことだったら、見てるお客から「あッ！ アンドレが自分で足首やっちゃった！」ってクレームがつきますよ！ それを俺が演技してなんとかかって!?

―試合中に自分でケガをしたアンドレに対してアドリブを利かせたカンさんは素晴らしいってことみたいですね。高橋さんは自分で見てきたことしか書けないとは言ってるですけど、事実は違うわけですか？

カン カッ〜、そんなねえ（苦笑）。

結局、俺が読んで思ったのは講談社から一冊の本にしなくちゃダメってことで、自分とアンドレのことも作り上げられたって感じじゃないですか？ アンドレも自分にやられて悔しい思いもあったかもしれないけど、あれじゃアンドレもあの世で泣いてるんじゃないですか？ 情けないですねえ（しみじみと）。そういうことを書いた本を出したことで、高橋さん自身は潤ってるかもしんないですよ。結構、話題になってるみたいだからね。

―となると、やっぱりお店のお客さんの間でも話題になってるわけですよね。結構エゲツない質問とかもあったんじゃないですか？

カン ……というかね、いままでいろいろ質問されたけど、オレはハッキリ「裏があるよ」って言ってきたよ。

―あ、そうなんですか！

カン だって、裏がなかったら死んじゃうでしょ？ でも、見に来てくれるお客さんに「ああ、すごいな！」って思わせるために俺らは練習して努力きたわけ。映画みたいに「NG！ NG！」ってやり直しがきくわけじゃないんだしね。ましてや、猪木さんとあれだけ道場で練習してきたんだからさあ。ションベンが真っ赤になるぐらいね。そうやって練習してきたのに……。

―ちょっと、裏切られたような思いというか。

カン なんか、もう……。あの人はあれじゃないの？ ガードマンなんかの仕事が失敗して、金に行き詰まるかなんかしてやったかなんか知らんけどもさ。ちょっと、もう……なんて言うのかなあ、言葉がないね……。高橋さんとは仲が良かったから悪くは言いたくないけど、負け犬ですね（キッパリ）。

―うわ、思いっ切り悪く言ってますよ（笑）。高橋さんは「新日本に切られた恨み辛みで書いたもんじゃない」ってことを強調してましたが……。

カン （遮って）イヤイヤ、それはウソです！ ウチの店に来てもねえ、新日本の悪口ガンガン言ってたですよ！ 「オレは新日本ができたときからいる。オレが社長にならなきゃウソだ！ なんで藤波がなるんだ!?」っていろんなこと言ってましたよ。

―ダハハハハ！ 俺が社長！ 確かに、本の中でも藤波さんに対してはキツく書いてありましたからね（笑）。

カン 言ってたですよ。俺もね、他のお客さんもいるし、笑って「そうですか」言ってたけど、心の中では「何言ってるんだ!? 新日本から退職金だってガバッって貰って出てるんだろ！ 俺なんか、コツコツ何百円の料理を売って子供喰わせてんだ！ ふざけたこと言ってんな！」って思ったけどね。だから、自分が落ちる所まで落ちて負け犬になったんで、一挙にカムバックしてやろうと思ってやったんじゃないですか!?

―これまでは仲が良くて店にも来ていただけに、余計そう思っちゃうんですかね。

カン ウチの店には3回ぐらい来てたけど、高橋さんは何を考えてるのかなあと思ってね、ホントに。ただただ呆れかえっちゃうよねえ。自分から講談社に売ってね、金儲かるからいいかもしれないけど、プロレスラーやファンのこととかを何にも考えてない。自分さえ良ければと思ってるでしょう。猪木さんも裏があるから、頑張って練習して、ナメられないようにしてきたんですよ。血へ

昭和プロレスの凄みに触れる実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

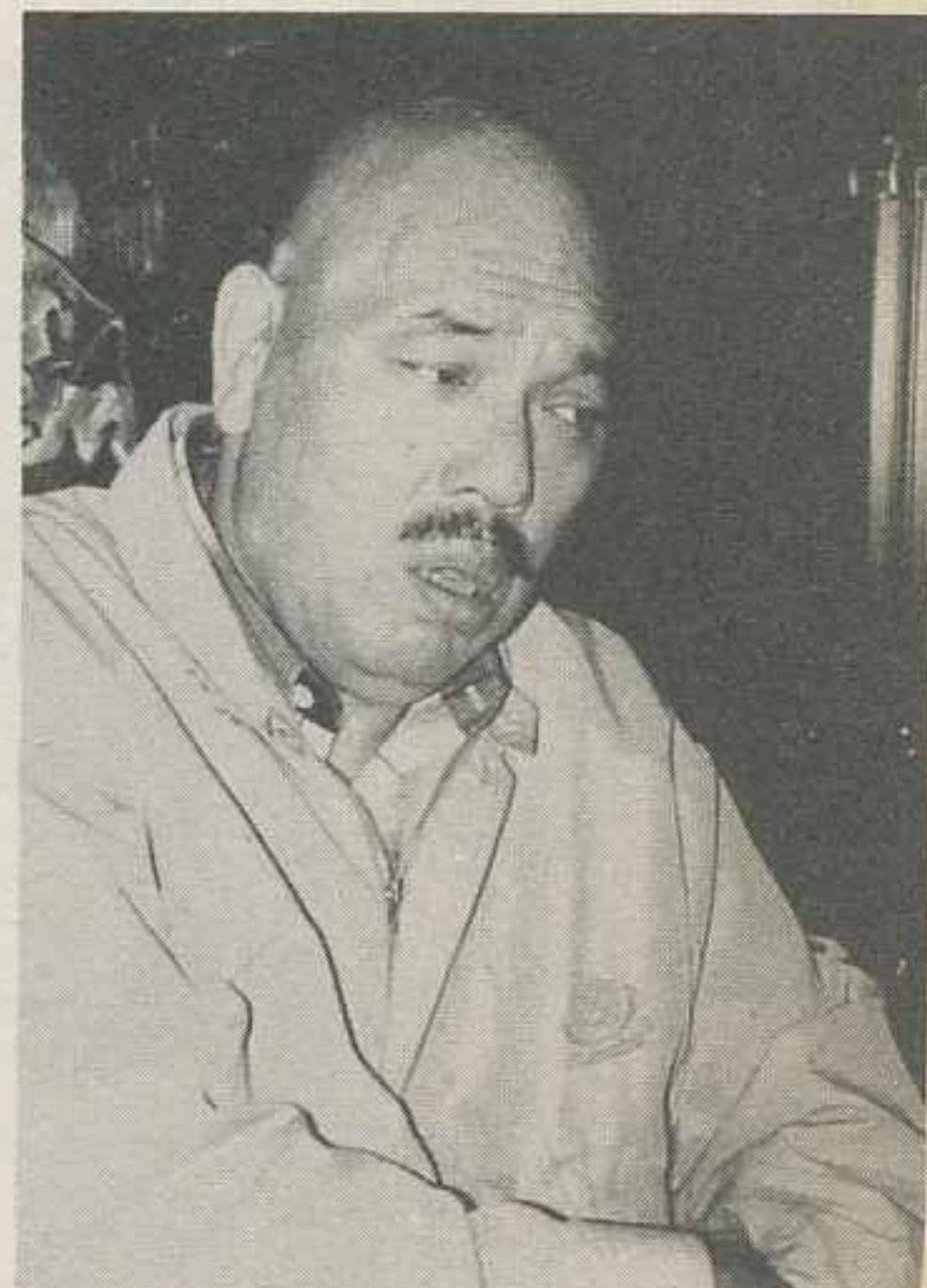
情けない試合やってるから高橋さんがこんなことやったりするんです

ド吐く練習をしてね（しみじみと）。

——もう1つ高橋さんが強調してたのは、この本はマット界の提案、提言であるということなんです。『PRIDE』に代表されるようなガチンコの格闘技が出てきてる以上、プロレスと真剣勝負は違うというのが一目瞭然になってきてるから、もうエンターテインメントってことを宣言しちゃったほうがいいと。

カン ファンからすれば、確かにプロレスに対して半信半疑かもしれないけど。ただ半信半疑とはいえ、目の前であれだけのことをやってるんだからね。俺が入ったときに（モンゴリアン・）ストンパーに小鹿さんがメチャクチャ血だらけにやられてね。俺はリングサイドで「エライ職業選んだなあ」ってガタガタ震えたもん。プロレスはそういう世界ですよ。

——単なるエンターテインメントではない、と。

カン でもね、自分は40歳になってスパッって身を引きましたけど、いつまで経っても名前は言わないけどね、もういい歳かっぱらってやってる人がいるからこそ、こういうふうに「あ～だこ～だ」って言われるんですよ。ファンがそういうことで疑問視してるから高橋さんもやったかもしれないですけど。

——高橋さんも言われてましたね。「真剣勝負を謳うなら藤波さんが20歳の選手に勝てるわけがない」って。

カン 確かにレスラーも悪いんですよ。ただね、そういう人は他の仕事ができないんですよ。怖いわけです、他の仕事に移るのが。プロレスやってればとりあえず先輩扱いだしね、ちゃんとした給料も貰えるし。でも、それはお客さんに失礼ですよ（キッパリ）。お相撲さんだって、下手したら20代で引退する人もいっぱいいるわけだから。そういうところで疑問に思われるから俺はハッキリ「裏はあるよ」って答えていたんですよ。でも、そう答えながらもプライドはありましたから、あれだけ練習してきたわけですからね。

——結局、いまのプロレスにプライドを持てなくなっちゃってる部分もあるんじゃないですか？ あの本で書くまでもなく、ファンとかのレベルでもプロレスはあらかじめ勝敗が決まっているとか……。

カン （遮って）勝敗が決まってるとかなんとかじゃなくて、俺が猪木さんとやって勝てないのはわかってるんです！ 実際、猪木さんは強いもん、強い（キッパリ）。

——それはボクも同感です！

カン ただ、オレがこうやって言ったことで高橋さんが、ましてやトップの第一線のレフェリーがこうやって書いたってことはね、俺がいろんなこと言ったところで聞く人が聞けば「何言ってんだ！」って言い訳にしか聞こえないかもしんない。だから、俺もガタガタ言いたくないです。でも一言、「あれだけ努力したのはなんだったろう？」って。御飯食べてるときも腕がパンパンで箸が口まで届かなかったりね、「小沢！」って呼ばれても首が回らないから体ごと向かなきゃいけないぐらいの練習してね。まあ、いまのレスラーもね、俺から言わせれば飛んだり跳ねたりね、あいうプロレス、大ッ嫌いですよ（驚くほどの怒鳴り声で）!! ヘド吐くぐらい嫌いですよ！ やっぱりね、プロレスっていうのは思いっ切り蹴り上げたり、絞め上げたりする。それがプロレスですよ！

——（あまりの迫力に圧倒され）い、いや、本当にそういった有無を言わせない迫力や説得力が薄れちゃったのが問題だと思うんですよ。

カン そうでしょ？ 飛んだり跳ねたりなんて、そんなのサーカスでいいんですよ。器械体操でいいんです。でも、プロレスは違いますから。確かに「ロープに投げられてなんで返るんだ」っていうのもありますよ。それは、そこで無理したらアバラやられるんですよ。

——素人だと骨折しかねないみたいですからね。

カン 中にワイヤーが入ってますから。跳ね返ることによってある程度ダメージを埋めてますしね。だから、プロレスラーも悪いと思いますよ。そ～んな、飛んだり跳ねたりしたのを「ワーッ」って笑いながら見るのはプロレスじゃないんですよ！ お客が見てて、手に汗握るのがプロレスなんです。俺は辰っあんとは仲がいいつもりだけどね、メキシコから帰ってきて飛んだでしょ!?

——ドラゴンロケットですね！

カン それで下から（レスラーが）受け止めたでしょ!? オレはアレ見て「は～ッ!?」って思ったですよ（愕然と）。佐山にも俺は言ったこともあります。「飛んだり跳ねたりもいいけどね、そういうのは最後に取っとけ。最初から最後までそうだったらお客飽きちゃうだろう」って。

——佐山さんは、飛び技だけじゃなく、殴る蹴るも関節技も人一倍できるわけですからね。

カン そ～んな飛んだり跳ねたりとかね、そんなことばかりやっていったら段々にバカにされていきますよ。そういうことです（キッパリ）。だから足四の字なんかにしても吉村さんから聞いたけど、リキさんがデストロイヤーとやって担がれて帰ったときに足がデコボコだったらしいですよ。

——うわ！ 一流の四の字にしても、説得力が違うわけなんですね。

カン 本来はそれくらい凄いもんなんですよ。だけど、いまはもう技をかけても試合の中の一部にしか過ぎないでしょ。自分はやめちゃったから好きなこと言えるけど、レスラーはもうちょっと頑張らなきゃダメですよ。

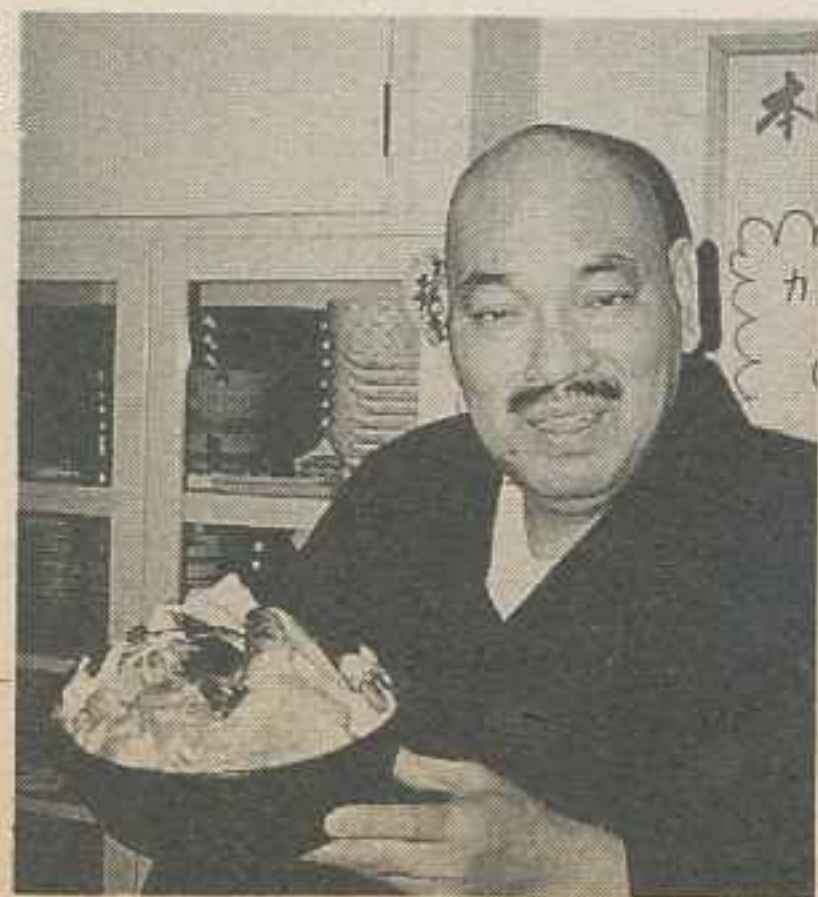
——こういう本が出るのには、プロレスラーの側にも責任はあると。

カン それはあると思いますよ。こないだ長州と橋本が試合やったときに、辰っあんが止めに入ったでしょ？

——「殺し合いじゃないんだ！」ってヤツですね。

カン あんなの、ふざけるなと！「な～にやってんだ！ 辰っあん」「なんで止めに入るんだ!?」と思ったですよ。俺らはもっと凄い試合何回もやってるんだ！ 情けない！ 橋本にしても長州にしても、負けたっていいじゃないですか!? 情けない、ただその一言に過ぎなかったですよ。そういう試合やってるからこそ、高橋さんがこんなことやったりするんです。そういうことですね。（店内が慌ただしくなり）もういい？ いろいろ店の準備があるんだよね。

——はい！ 今回もお忙しいお仕事前にありがとうございます！ 頑張って下さい！

【01年12月22日／居酒屋カンちゃんにて収録】

【キラー・カン】本名・小沢正志。昭和22年3月6日 新潟県出身。大相撲時代は春日野部屋で越錦の四股名で活躍。プロレス引退後には「スナック・カンちゃん」のマスターとしてプロレスファンには広く知れ渡っている。現在は新宿に店を移し「ちゃんこ居酒屋カンちゃん」として営業。メニューには「尾崎豊が愛したキラーカンのカレー」があるという。

【ちゃんこ居酒屋カンちゃん】
住所●新宿歌舞伎町2-2712
新宿リービル2 5F
TEL●03-3207-3217
定休日●日曜・祝日

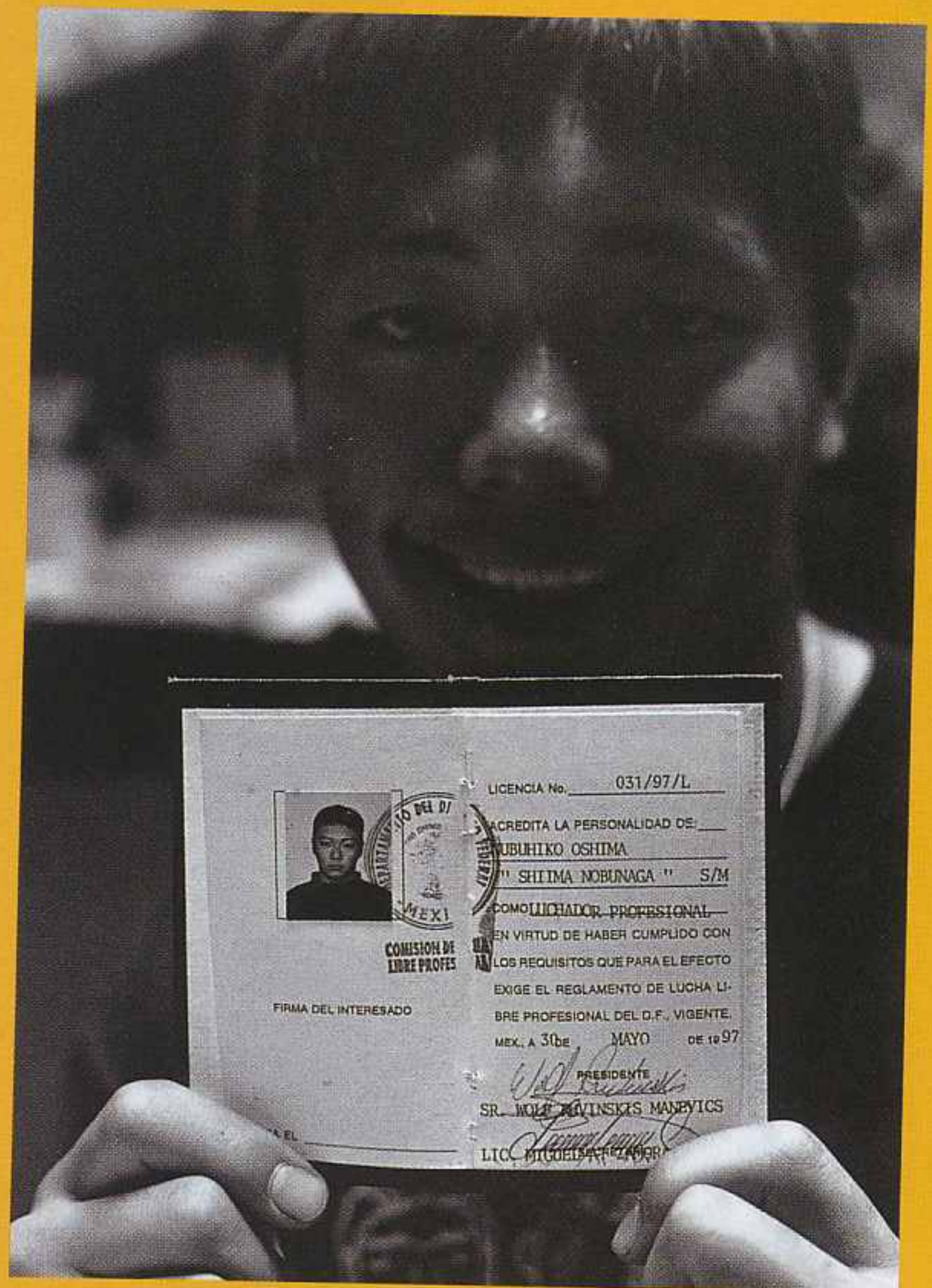
CIMA

すべては浅井嘉浩（ウルティモ・ドラゴン）の遺伝子がそうさせるんです

メキシコ修行時代の秘蔵写真一挙大公開!!

CIMA

いま最も面白いプロレス団体・闘龍門JAPAN! 会場には若い女性ファンが多数詰めかけ、他のプロレス団体とは明らかに違う明るい熱を発している。その人気の秘密とはなにか？　闘龍門の象徴、CIMAのプロレス心に耳を傾けろ!

聞き手／堀江ガンツ
撮影／吉場正和
撮影（メキシコ）／乾晋也
design by Isamu Ebisawa (ZERO graphics)

いい加減に思われがちなメキシコだが、実はルチャリブレ協会がしっかりしており、ルチャドールにはライセンスが発行され、これがないと試合ができない。もちろんCIMAも取得済み。それにしてもこの写真は若い！

高2の夏休みに一人でメヒコに行きドスJr.とよく練習したんですよ

――新しいファンは「CIMA『紙プロ』初登場！」のように思うかもしれませんけど、実は連載も持ってたんですよね（笑）。

CIMA やってましたねぇ。あれは写真も自分で撮って、全部自分プロデュースだったんですよ。まぁ、休載してたっちゅうことで、またやらせてください（笑）。

――それではまずはインタビューで復活ということで、今回はよろしくお願いします！　CIMA選手はそもそもプロレスラーになろうと思ったきっかけは、素顔でやってた頃のウルティモ・ドラゴン校長（浅井嘉浩）の影響なんですよね？

CIMA そうですね。憧れてたというか、浅井さんになりたかったんですよ。浅井さんになりたくて、同じ道を歩きたかったんです。それで浅井さんがデビューしたのがメキシコじゃないですか？　だからもう中学のころから「メキシコ行こう」と思ってたんです。

――中学生でもうメキシコ行き決意ですか！

CIMA でも、先立つものがないんで、とりあえず高校には行っとけと。それで中学3年から引っ越しセンターでアルバイトして。高校に入ってからは、学校行って、バイトしてボディビルのジムに通ってっていう繰り返しでしたね。それで高校2年ぐらいでお金貯まったんで「ちょっとメキシコ行ってくるわ」って。

――またメキシコ行きを近所のコンビニ行くみたいに言いますね（笑）。

CIMA まぁ、夏休みだったんで、とりあえず将来やる仕事を確認しに行こうっていう、社会見学みたいな感じで1ヶ月ぐらい一人でメキシコに行ったんですよ。「時差」も知らない人間が（笑）。

――時差を知らない！（笑）。

CIMA だから参りましたよ。ロサンゼルスで飛行機の乗り換えだったんですけど、時差を知らないから腕時計が日本時間のままだったんですよ。それで「まだ、（飛行機乗り換えの時間まで）全然余裕あるなぁ」って思ってたんですけど、自分の荷物が見あたらなかったんで、「この便で来たんやけど、荷物がないんやけどな」って言ったら空港の人が「その便は行った」って（笑）。「エーッ！　まだこんな時間や」っ言ったら時差があるっちゅうこと教えられて……。

――そこで初めて時差の存在を知りましたか（笑）。でも、その便に乗れずにどうなったんですか？

CIMA さすがに「これは参ったな」って思って、とりあえず空港のイスで寝たんですよ。

――なぜ寝ちゃう（笑）。

CIMA でも、起きたら当たり前なんですけど周りもメチャ暗くなってて。それで空港ウロウロしながら「マズイぞ！　マズイぞ！」と思っていたら、「メキシコシティ」って書いてあるカウンターがあったから、これに乗ったらメキシコシティに行けるんちゃうかと思って。シレーッと、入ったろかと思って行ったら止められたんですよ（笑）。

――そりゃ止められますよね（笑）。

CIMA でも、運良く空席があったみたいで、カタカタとパソコン打ってチケットをチェンジしてくれたんですよ。それで最終便でメキシコに行くことができたんですけど、着いたら着いたで迎えに来てくれる人が誰も居なくて（笑）。

――まさか違う便で来るとは思わないでしょうからね（笑）。

CIMA しょうがないから日本の雑誌を持ってウロウロしてたら、日系の人が声を掛けてくれて、ホテルまで連れていってくれたんですけどね。

――いきなり波乱のスタートですね（笑）。その1ヶ月は何をしてたんですか？

CIMA 当時のUWAっていう団体のシンディカトっていう道場で練習したり、あとはアレナ・サンファンで練習したりしてました。

――それは何かのつてがあってできたんですか？

CIMA よく行ってたプロレスショップの人が、ドスカラスを知っていて紹介してくれたんですよ。それでドスカラスさんが「息子が迎えに行くから」って言ってくれたんですけど、メキシコ人ってみんな同じ顔してるじゃないですか（笑）。だから誰がドスカラスJrかわからへんなあって思ってたんですけど、メチャメチャデカイ奴が「WAR」のTシャツ着て歩いて来たんで、「絶対コイツや」って思って（笑）。

――ガハハハ！　「WAR」Tシャツですか！　分かりやすすぎですね（笑）。

CIMA だから練習はドス・カラスJrとよくやりましたね。メチャクチャ強かったですよ。当時18歳ぐらいだったと思うんですけど、身体なんか190センチ以上あって、体重も100キロ以上ありましたからね。それで俺なんかメキシコ人の中に一人日本人が混

ざるわけじゃないですか。言葉も何もわからない、16歳のクソガキだったんで結構大変でしたね。言うてることがわかんないんで、とりあえずみんなに付いていってマネして。

——そのときは練習だけしてたんですか？

CIMA　実は帰り間際に1試合だけやらしてもらったんです。

——え！　じゃあ、16歳で密かにデビューしてたってことですか!?

CIMA　デビューじゃないんでしょうけど、練習試合みたいな感じですね。最初向こうの人に「帰るな！」「あと3ケ月ぐらいやっていけ」って言われたんですけど「高校があるから、帰らなあかんのや」って。でも、そう言いながらも心の中で残るかどうかっていうギリギリの葛藤があったんですよね。

——このままいけば普通にメキシコでプロレスラーになれるわけですからね。

CIMA　そしたら「じゃあ、1試合だけやっていけ」って言われて、サンファンっていうかなりローカルな興行で試合やらしてもらってたんです。

——対戦相手は覚えてますか？

CIMA　相手は覚えてないですね。なんかオッサンとアンちゃんでした（笑）。

——普段は何やってるんだろうっていう（笑）。

CIMA　お客さんが30人ぐらいしかいない興行でしたからね。でも、その中のふたりがドス・カラスJrとシコデリコJrですから（笑）。二人が応援してくれて写真も撮っていてくれたんですよ。

——無駄に豪華な客層ですね（笑）。いやぁ、でも高校時代ですでにそんな交流があったっていうのは凄いなぁ。

CIMA　だから闘龍門でメキシコ行ったときも、いまアレナ・メヒコでやってるトニー・リベラ（CMLLのトップリンピオ）も覚えていてくれましたね。「オマエ、あんときの！」「大きくなったなぁ！」って大人が子供の成長を見るような感じで（笑）。

——この高校時代のメキシコ修行は、ホントいい財産ですね。

CIMA　そうですね。楽しかったですよ。「ウルティモ・ドラゴンが住んでる所や」っていうだけで、かなりワクワク感もありましたし。いまもメヒコはメチャクチャ好きですね。

これが本文中にも出てくる、CIMAがメキシコ修行時代に居候させてもらっていた家族。なんでも2期生がメキシコに来たあと、1期生が自立して自分で居候先を探すことになり、突然布団と荷物全部持って行って「悪い！　今日から頼むわ！」とお願いしたらしい。頼むCIMAも凄いが、受け入れる家族もいい人だ。

99年、メキシコでも猛威を振るった「クレイジーMAX」。TARUのビジュアルが強烈だ。現在、SUMAがC－MAXから離れているが、やはりもう一度、フルメンバーのC－MAXが見たい！

メキシコはメチャクチャ好きですね 排気ガスの嫌な臭いまで心地いいですから（笑）

―でも、メヒコって闘龍門の選手でも、結構好き嫌いは分かれますよね。

CIMA 自分も腹壊して病院にかつぎ込まれたりしましたけどね。それでも嫌いにならないんですよ。メキシコシティなんか空港に着いた時点で排気ガスの嫌な臭いがするんですけど、それが心地よいですからね。あ〜、帰ってきたって（笑）。

―高校生のときはウルティモ・ドラゴン校長とは会ったりできたんですか？

CIMA 会えなかったんですけど、アレナ・メヒコに試合は見に行ったんですよ。そこで試合終わって校長がリングから帰ってくるときに「日本から来ました！ 日本から来ました！」って叫んでたんですけど、聞こえてなかったみたいです（笑）。

―日本に帰ってきたあとは普通に高校に行ってたんですか？

CIMA また高校、バイト、ボディビルの日々ですよ。「高校卒業したら、今度はマジで行くぞ。向こうに住むぞ」と決めてたんで、今度は結構な金額を貯めて行こうと思って、高校卒業しても働いてたんですよ。それで9月にメキシコに行こうと思ってたら8月に闘龍門の募集広告を見つけて。「なんや、これは！ 聞いてへんぞ！」って。でも、憧れてたウルティモ・ドラゴンがメキシコに道場を作るっていうのは、もうタイミングが良すぎですよね。これはもう行くしかないやろって。だから履歴書と一緒に自己アピールをレポート用紙3枚に渡って書きましたからね（笑）。頼むから入れてくれって。

―そして闘龍門1期生になるわけですか？

CIMA そうですね。でもホントは2期生も1期生も応募したのは一緒だったんですよ。ただ、下準備のためにまず3人メキシコに行くって決まって、それが一期生ですね。

―その3人っていうのは？

CIMA 最初、自分は行けるはずじゃなかったんですよ。まず、マグナム（TOKYO）は校長の一番弟子で鞄持ちから入ったから決まっていて、そのマグナムとアニマル浜口さんのジムで一緒だったSUWAも合流して、あと（ビッグ）フジがWARの営業やってた関係で合流して。

―フジ選手がWARの営業だったっていい話ですよね（笑）。

CIMA で、その3人が闘龍門の元の元を作ったようなもんだったんですけど、メキシコに行くのに3人っていう奇数だと、練習とかにも支障をきたすんで、運良くもう一人自分が選ばれた感じですね。

―いまの闘龍門のメキシコジムっていうのは最初からあったんですか？

CIMA まだなかったですね。最初は校長が体育館の近くにボロアパート借りてくれて、そこに4人で住んでたんですけど、ホントに大変でしたね。カギ壊れるわ、洗濯物盗まれるわ、ゲーム盗まれるわ。さらにガス止まるわ、電気止まるわ、水止まるわ、出っぱなしにはなるわで（笑）。

―ガハハハ！ 凄まじいアパートですね（笑）。

CIMA でも、そのころが楽しかったですね。闘龍門がメキシコで興行するって言っても、何にもないところから始めたわけじゃないですか。しかもメキシコ人を入れない、前売りのみでやるっていう方式だったんで、僕らが現地の日本企業を一社一社回って営業したんですよ。自分は営業経験してるマグナムについて回って、そんときにマグナムから口の利き方から何から社会の制度をすべて学びましたね。これはいまも大阪大会の営業に役立ってますよ（笑）。

―この間、メキシコまで闘龍門自主興行の取材に行ったとき、日本の有名企業がたくさんスポンサーとして名前が入っていて驚いたんですけど、それはそのころからの営業努力の賜物だったんですね。

CIMA あれはもう、1期生、2期生のころからですね。

―メヒコはかなり治安が悪いみたいですけど、向こうで危ない目には合ったりはしませんでしたか？

CIMA 何回かはありますけどね。殺されかけたことありますから（笑）。

―殺されかけましたか！

CIMA ドラゴン・キッドと一緒に買い物に行ったときにナイキの靴を履いていたんですけど、シンナーを吸っていたやつに「その靴、くれ！」みたいなこと言われて（笑）。

―「くれ」じゃねえだろって（笑）。

CIMA 俺は無視して「ダメだ！ ダメだ！」って歩いていたら「いいから、くれ」って付いてきやがるんですよ。俺は相手するなって言ってたんですけど、いきなりキッドがキレだしたんですよ。「あげないって言ってやるやろ、ボケ！」って日本語で（笑）。

―ガハハハ！ わかんないって（笑）。

CIMA そしたらそいつも逆ギレして、床屋に走り出したと思ったらハサミをガッって取り出して「ウリャーッ！」向かってくるんですよ！ あれはホンマに人を刺しかねない感じだったんで、キッドと2人で道場があるナウカルパンまで走って逃げましたね（笑）。で、キッドに「何であんなこと言うんですか」って言ったら「大島さんがいるから、大丈夫だと思いました」って。俺、やめよって言ってんのに（笑）。

―なぜかそんな方面で頼りにされてましたか（笑）。地下鉄なんかだとスリも多いみたいですけど、そんな被害は？

CIMA 地下鉄ではないんですけど、トレーニングジムで1回ありましたね。ジムで汗かいたんでシャワー浴びていこうと思って、靴脱いで、その上に靴下置いて、服とかも全部上に置いといたんですよ。水だけサッと浴びただけなんで1分ぐらいだったんですけど、出たら全部なかったです（笑）。

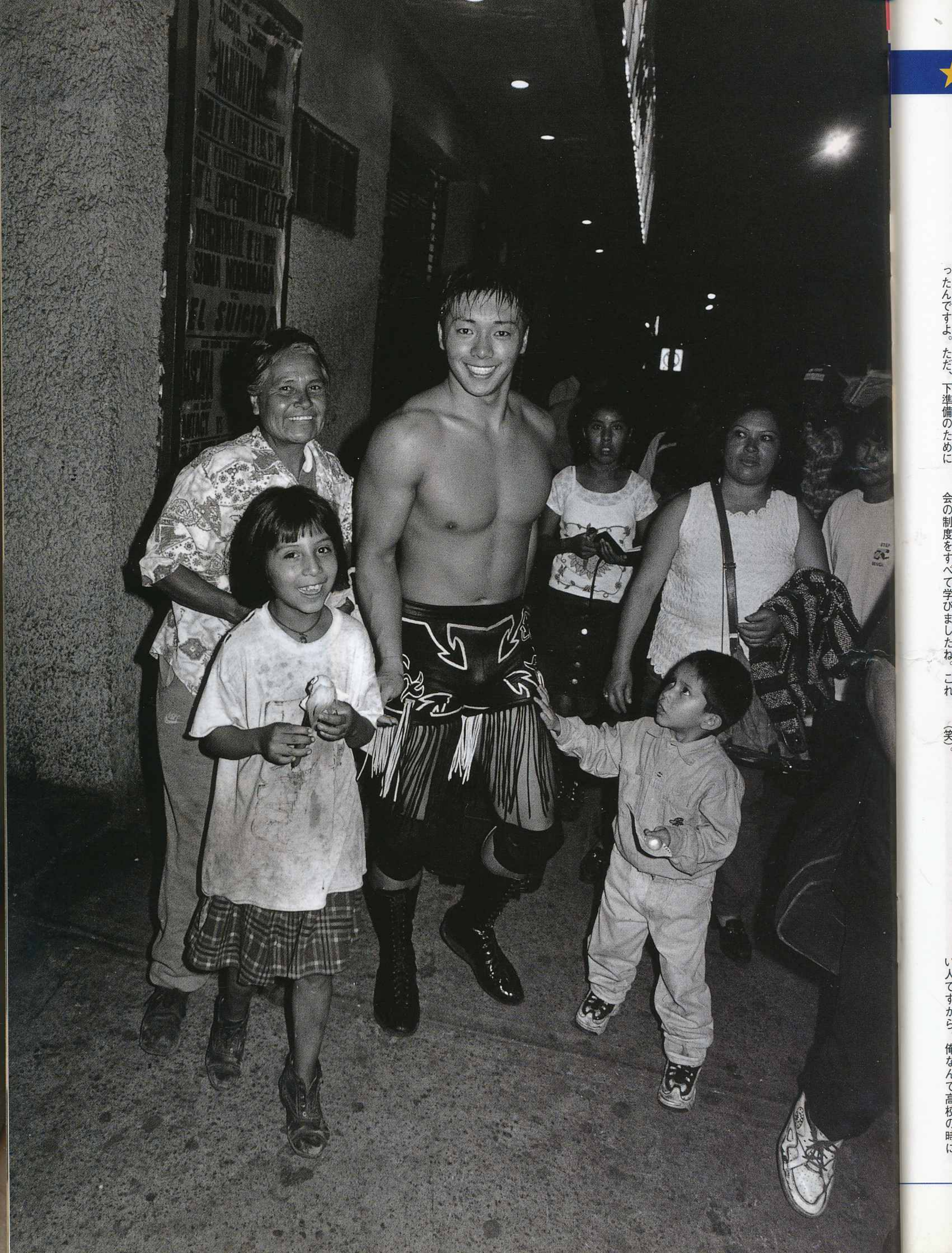
―丸ごと（笑）。

CIMA 「あれ、おかしいな？ 誰か移動したんかな？」って周りを見てもないんですよ。多分ナイキの靴が欲しかったんでしょうね。しゃあないんで、その日は練習用のスパッツ履いて、タオルを上から巻いて、サンダル履いて帰って。下宿先の家族に「どないしたや？」って驚かれましたけどね（笑）。

―突然ハダカで帰ってきた、そりゃ驚きますよね（笑）。CIMAさんはそういう危険な目に遭いながらも、メキシコ凄い好きっていうのは、どの辺が好きなんですか？

CIMA 結構エエ加減なところとか好きですね。あとは体育館があったらリングがあるっていうそういう環境も好きですし。もちろん闘龍門が生まれた場所っていう思い出もありますしね。でも一番は、言葉も何もわからないところから行って、言葉覚えて、プロレスラーになって帰って来たっていう達成感というかいいますか、そういう意味で凄く思い出深いところですね。

―「プロレスラー・CIMA」が生まれた場所ですもんね。

CIMA そんでいろんな人との出会いがあったり、思い出があったり。メキシコ人って基本的にはみんな気がいい人ですから。俺なんて高校の時に、

ったんですよ。ただ、下準備のために

会の制度をすべて学びましたね。これ

（笑）。

い人ですから、俺なんて高校の時に

WCWの舞台裏を経験したことに ライブで感じた事をプラスしたのがCIMA

メキシコの市内観光をしてくれた家族の家に居候してたんですけど、ものすごいお世話になりましたからね。メキシコのごく一般的な家庭なんですけど、そこのお兄ちゃんと同じ部屋に住ませてもらって。また会いに行かなきゃいかんですよ。

——いい人に巡り会えたと。

CIMA メチャクチャいい人ですよ！

——向こうに行ってたときはWCWにも行ってたんですよね？

CIMA 行ってたっていうか、校長がWCWの所属選手だったんで、それの付き添いみたいな感じで。金魚の糞みたいに4人付いて行ってたんです。

——あの当時はWCWは世界最大級の団体でしたよね？

CIMA あれは大きかったですね。もの凄い刺激受けましたね。

——どんなところが刺激を受けましたか？

CIMA やっぱり、リング上もそうですけど、お客さんの見えないところも見えたわけじゃないですか？ そういうところですね。向こうのジムにも連れていってもらったんですけど、それでレスラーの身体の作り方とか見せ方とか、そういう見えない部分が学べたのが大きかったですね。

——いま闘龍門は「日本のアメプロ」みたいな感じで言われることが多いですけど、その辺についてはどう思いますか？

CIMA それは1期生がWCWに連れられていったのと、校長がWCWの舞台裏を表現したからだと思いますね。

——やっぱり日本とは違う感じがしますか？

CIMA 日本とはやっぱり違いますね。だからアメリカのやり方をそのまま全く同じことをやるんじゃなくて、日本のテイストにアレンジしないとダメだと思いますんで。

——喋りなんかも参考になりましたか？

CIMA なりましたね。あとはリング上での自分の役割とか。自分がリングのどの位置にいてるのかっていうのが。

——は〜、役割とリング上での位置ですか。

CIMA 向こうの選手とか絶対そんなこと言わないですけど、見てて分かるんで。だから闘龍門でも基本的に"正面"っていう方向があって、そっちを見るようにしたり。極端に言えば、リング下でお客さんが見にくい所でやるよりはリング上でやったほうが全然違いますし。

——そういうプロとは何ぞや、ショービジネスとは何ぞやっていう基本的な部分ですね。

CIMA 自分はそっちのほうに影響を受けましたね。あと自分はライブとかにもたまに行くんですけど、WCWを経験したことに、ライブで感じたことをプラスしたのが闘龍門のCIMAなんですね。

——ライブですか？

CIMA 日本のライブもかなり外せないですね。闘龍門と客層が似てるからかもしれないんですけど。一番大きかったのが、ライブのツアーの前説で全国を回らせてもらったことがあったんですよ。

——CIMA選手がライブの前説ですか!?

CIMA はい。これはエイベックスと闘龍門が業務提携して、そこから貰った仕事なんですけど、元ルナシーのJさんとzilchっていうバンドのツアーに同行して、マイク持ってコスチュームを着て前説させてもらったんですよ。

——へ〜、そういうことってプロレスラーとしては初じゃないですか？

CIMA じゃないですかね。普段立てないステージで仕事して、それでお客さんの反応とか、凄く勉強になりましたね。これはいまの闘龍門でのMCに役だってますよ。

——いまやオープニングのトークは、闘龍門に欠かせませんもんね。

CIMA あとはアーティストのお客さんへの表現の仕方や、舞台裏でのバンドの結束力の付け方とかも勉強になりました。それからライブ見ると「次はこの曲が来るんじゃないか」っていうワクワク感があるじゃないですか？ それをプロレスでも出したいですね。それが出せる団体って限られると思うんですけど、闘龍門はその数少ない中の1つだと思うんで。

——闘龍門見に行くと「今日は何が起こるんだろう」っていう、ワクワク感って確かにありますね。

CIMA 俺が他人の試合を見ても楽しいですからね。遺恨の作り方とか「あ〜、こう持っていくか」ってね（笑）。そん中でも一番ウケたのはフジが斉藤了の自転車盗んだときですね（笑）。

——そこから「自転車兄弟」に発展して、いまだに続いている大ヒットアングルですね（笑）。

CIMA あれはフジしかできないですから（笑）。不思議なことに、みんなフジと絡むと光るんですよ。フジももちろん光るんですけど。一番最初に日本逆上陸したときにアラケンがフジと絡んだんですけど、それでバーンって伸びて。堀口（元気）も成長して。神田（裕之）もそうですよ。そして言うまでもなく斉藤了が成長して。フジは一番の仕事人ですね。

——フジ選手は素晴らしいですよ。人柄というか、キャラクターも最高ですし（笑）。

CIMA いまフジさんはアイパー当ててるんですけど、自分も30過ぎたらアイパー当てたいなって思いますもん（笑）。

いまや闘龍門JAPANには欠かせないCIMAのトーク。第1試合前には、これで初めて見るお客さんにもストーリー展開を理解してもらうことができ、メイン終了後は、興行を見事に締めてくれる。フジとの絡みは必見。

ね。だからアメリカのやり方をそのま かにもたまに行くんですけど、ＷＣＷ したね。これはいまの闘龍門でのＭＣ（笑）。

CIMA

しーま■本名・大島伸彦。1977年11月15日、大阪府堺市出身。173cm、84kg。97年５月11日、メキシコ、アレナ・ナウカルパンで黒木克昌（マグナムTOKYO）相手にデビュー。チーム最年少ながら、クレイジーＭＡＸリーダーにして、闘龍門JAPAN事実上のトップ。その才能は、望月成晃をして「何十年に一度の天才」と言わしめるほど。

ーガハハハ！　アイパーのＣＩＭＡですか！（笑）。

ＣＩＭＡ　あんだけ小綺麗な髪型ないですよ！　ビシッとしてて。それにカッコ良さを感じてしまうのはおかしいかもしれないですけど（笑）。あれはいいですよ。

ーま、ちょっと話を戻しまして（笑）。いま闘龍門は後楽園を毎回満員にして、そして4、5千規模の会場でビックマッチをやってますけど。さらに大きくなるにはどうしたらいいと思いますか？

ＣＩＭＡ　もうちょっと時間がかかるんじゃないですかね。そのためにも俺が広告塔になって闘龍門を広めて行こうと思ってますけど。

ーそれはプロレスに限らず、いろんな分野にってことですよね？

ＣＩＭＡ　他団体には出たいとは思わないんですよ。違う分野のものに出ていって、闘龍門っていうのをアピールして、そっからお客さんを引っ張ってきたいですね。結局問いつめていくとプロレスラーになりたいから、プロレスを始めたと一緒で、闘龍門をもっとデカくしたいから、他の世界でに飛び出すっていう感じですね。自分が出ることによって、それは闘龍門に返ってくることなんで。甘っチョロイ考えでやってるんじゃやなんいで。

ーそれで外から得てきたものを取り入れて、また興行自体も変わっていく可能性もあるわけですか？

ＣＩＭＡ　ありますね。Ｔ2Pがあんな感じでスタイルを確立してきましたし、それでまだいろいろ考えてるとこなんですけど。それは自分だけじゃなくて、みんなのいろんなアイデアがあるんで。みんなのアイデアがプラスされてできていくのが闘龍門ジャパンなんで。そしてその大前提として、ウルティモ・ドラゴンの遺伝子がそこに全部入ってるんですよ。自分だって闘龍門じゃなかったら、こんな考え方できてなかったと思いますから。

ーホント、闘龍門の選手っていろんなこと考えるの好きですよね。

ＣＩＭＡ　みんな浅井ファンだし、浅井遺伝子が詰まった人間たちなんですよ。それが実行に移るかどうかは別にして。やっぱり、みんなそれぞれ考えますね。考えないと生き残っていけないんと思うんですよ。自分はやっぱ体が小さいですし、プロレスラーになれなかった人間が集まってプロレスやってるのが闘龍門なんで。他の団体と同じことやっていっても負けちゃうんで。生き残れないんで。その辺の努力はしてますね。普通のサラリーマンだって毎日みっちり8時間働いているわけじゃないですか？　プラス残業もあって。それに比べたら、プロレスラーっちゅうのはリング上で試合してるっていうのはたった10分、20分ですからね。考える時間は有り余るハズやから、それで俺は忙しいっていうのは、逃げだと思うんで。

ーみんながそういう考えなら、まだまだ進化していきそうですけど、2002年の闘龍門はどうなっていくんでしょうか？

ＣＩＭＡ　こればっかりは時期が経たないとわからないですけど。ある意味、3軍抗争というのは、現時点では出尽くした感があるんで、もしかしたら多少シャッフルされるかもわからんですね。全然違う組み合わせが見られるかもわからないですね。

ーこれからやっていきたいことってありますか？

ＣＩＭＡ　リング上もリング外もさらにクオリティーの高いものを目指していきたいですね。それといま、これは採用されたらの話ですけど、会場に足を運んでもらったらわかるような仕掛けを考えてますので。これから舞台さんと相談せなアカン話ですけど、これは業界初ですね。

ー業界初ですか！　それは楽しみですね。

ＣＩＭＡ　まだ下準備段階ですけど、実現したら女の子とか喜んでくれると思いますよ。これはビックマッチとかだけじゃなくて、地方でもやるつもりなんで、ぜひ近くに闘龍門が行ったときには、会場に足を運んでほしいですね。

ーでは、リング内リング外両面で、2002年も期待してます！

【01年12月12日／東京・お台場にて収録】

闘龍門JAPAN大会日程

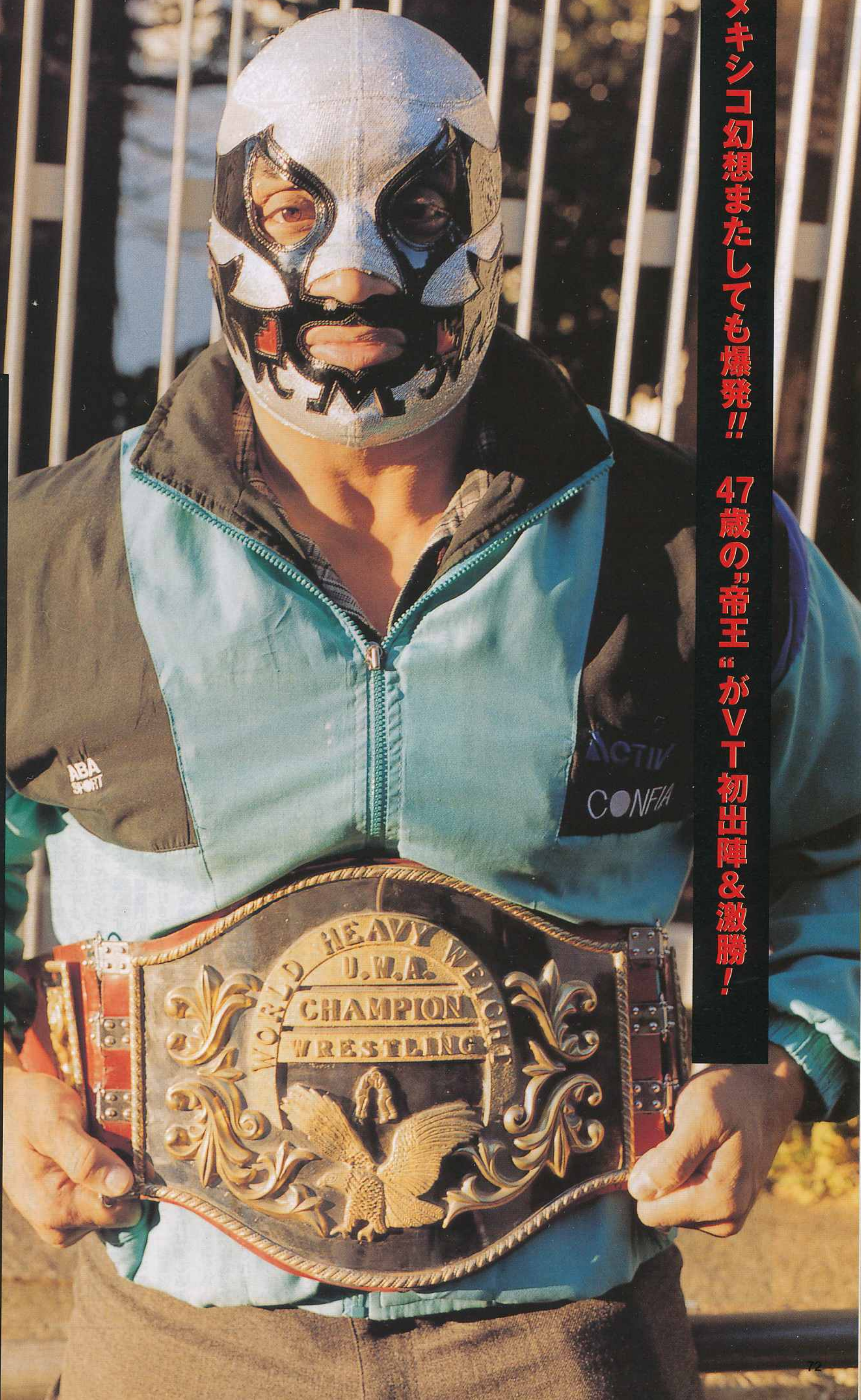
■2月

日付	会場	開始
3日（日）	福岡・博多スターレーン	18:30
4日（月）	福岡・サンライズ杷木	18:30
5日（火）	鹿児島・鹿児島アリーナ	18:30
6日（水）	熊本・熊本興南会館	18:30
7日（木）	福岡・小倉北体育館	18:30
9日（土）	愛媛・テクスポート今治	18:30
10日（日）	香川・善通寺市民体育館サブ	18:00
17日（月）	徳島・徳島市立体育館サブ	18:00
24日（日）	東京・後楽園ホール	18:30

お問合せ：闘龍門JAPAN　TEL:078-333-9797

メキシコ幻想またしても爆発!!

47歳の”帝王“がVT初出陣&激勝!

”ならず者“が語るルチャドールの誇り

EL CANEK

エル カネック

「日本人はまだカネックを知らなすぎるんだ」

"ならず者" がDEEPで激勝！　カネックと言えば、本国メキシコでは「帝王」の名をほしいままにする名レスラーながら、日本では「敵前逃亡」「IWGPリーグ戦全敗」「素顔がブサイク（byケロ）」など、その過小評価ぶりが尋常でなかった悲劇の男。そんなカネックが今回、47歳にしてVT初挑戦＆初勝利！　遂にカネックが日本で日の目を見る日が来たのだ！　初来日から23年、いまこそ遅ればせながら「メキシコの帝王」を再評価せよ！

聞き手／堀江ガンツ
撮影／松本等
design by Isamu Ebisawa (ZERO graphics)

カネック敵前逃亡事件とは何か？

昭和53年3月30日、蔵前国技館。凱旋帰国した藤波のWWWFジュニア王座初防衛戦の相手であるカネックが、試合直前に逃亡したというのが事件だ。長年この件に関してはは、ドラゴンに恐れをなした説、英語がしゃべれないカネックがノイローゼになった説、白人レスラーからのイジメに耐え切れなかった説など、さまざまな説があったが、真相は謎のままだった。しかし、この一件でカネック＝敵前逃亡のイメージが定着してしまったのも事実。今回、23年の時を経て、その真実を解き明かす！

敵前逃亡事件の真相も遂に明らかになる

EL CANEK

――いや〜、カネック選手のような名前のあるベテラン・ルチャドールが突然バーリ・トゥードに出場するとはビックリしましたよ！

カネック ちょっと待て！ いま「ベテラン」と言わなかったか？

――は、はい。言いましたけど……。

カネック 「ベテラン」というのは取り消してくれ。私はそんな年老いているわけじゃない。日本に初めて来たのが20年以上前だからそう言うのだろうけど、まだまだ若いつもりだよ。でも、もし私をベテランというなら、それは闘いに対する経験が豊富だということだから、なんらマイナスになることはないし、もちろんファン、そしてプロモーターの期待以上の仕事をする自信はある。

――はぁ、それは失礼しました！ では今回はどんな経緯でDEEPに参戦することになったんでしょうか？

カネック 彼らが私の家に電話をかけてきてコンタクトを取ってきたんだ。だから私は二つ返事でOKしたよ。

――電話一本ですぐバーリ・トゥードですか（笑）。

カネック まぁ、もともとバレ・トド（バーリ・トゥード）には出るつもりでいたからね。実はDEEPからはずいぶん前にオファーをもらっていて、来年の3月の大会に出場する予定だったんだ。それがイホ・デ・ドス・カラス（ドスカラスJr）のケガで前倒しになっただけだよ。

――DEEPの試合はビデオか何かで見たことがあるんですか？

カネック いや、まったくない（キッパリ）。

――え！ 一度もないんですか⁉

カネック ああ。だから今回出場する他のファイターも知らない選手ばかりだよ（笑）。

――まったく見たこともない競技について、自信があるのはなぜなんですか？

カネック それは自分自身を信じているからだよ。これまで私は世界中を回って、アンドレ・エル・ヒガンテ（アンドレ・ザ・ジャイアント）、アントニオ・イノキといった強豪と闘ってきた。その経験をもってすれば、怖いモノはないよ。

――バレ・トドという競技は以前からご存じだったんですか？

カネック ああ、知っていたよ。そしてバレ・トドは”なんでもアリ“を謳いながら、非常にたくさんのルールがあり、決して”なんでもアリ“なんかじゃないこともね（ニヤリ）。

――では、逆に言うとカネック選手は本当の意味でのバレ・トドを闘う準備や心構えもすでにできていたということですか？

カネック その通りだ。バレ・トドなんかよりもルチャ・リブレの方が遙かに「なんでもアリ」だよ（笑）。だが、バレ・トドもこれはこれとして、いつでもできる状況にある！

――日本ではプロレスやルチャ・リブレより、バレ・トドの方が厳しい闘いなんじゃないかというイメージがファンの間で広がりつつあるんですけど、カネック選手は全然そんな風には感じていないわけですか？

カネック どちらが厳しいというより、スポーツということでくくれば、ルチャもバレ・トドも同じものさ。ルチャ・リブレにもルールがあるし、バレ・トドにもルールが存在する。試合の準備という部分では変わらないよ。

――では、ルチャとバレ・トドの一番の違いはなんだと思いますか？

カネック う〜ん、私が言えるのは、”違った意味のスポーツ“だと言うことだな。しかし私にとってはひとつのスポーツなんだ。というのはバレ・トドにもルチャリブレにも蹴ったり殴ったり、そして関節を極めたりというものが入っている。もちろんその使い方が若干違うんだが、私はどちらでも応用が利くんだよ。

――では、たとえばジャベ（メキシコ流関節技）をバレ・トドで極めたりとかももちろんできると。

カネック ああ、できるとも！（キッパリ） 私は数えきれないほどのジャベを持っているが、そのうち何種類かはバレ・トドに打ってつけの技があるんだよ（ニヤリ）。

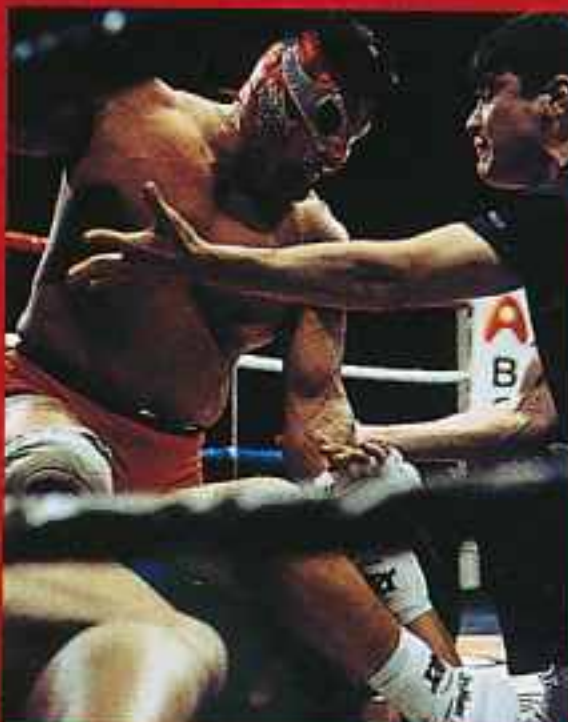
――おお〜、それは楽しみですね！ ドスカラスJr選手は「チリマ」で謙吾選手を病院送りにしましたけど、カネック選手も普段のルチャで使わないような、裏技的なものを隠しているわけですか？

カネック 隠しているというよりも、日本のファンはまだあまりにも「カネック」を知らなさすぎるんだ。

2001.12.23『DEEP 2001 3rd IMPACT』 ●DEEP公式ルール5分3R

○ **エル・カネック**（メキシコ/AAA）（1R 4分55秒 TKO）**大刀光**（日本/SPWF）●

向かい合った絵ヅラだけでお腹いっぱいのこの一戦。相撲レスラーとルチャドールのVTとは、DEEPならではである。

大刀光がマウント（!）から、チョークスリーパーへ！ そのときカネックは「レフェリー、チョークだ」とアピール！ 最高だ！

タチのチョークから逃れたカネックは、パスガード（！）から、ニーオンザベリー（！）、そしてパンチのラッシュでタップアウト勝ち！ ホントに勝っちゃった！

47歳のルチャドールがバーリ・トゥード初挑戦、初勝利という快挙を成し遂げ、UWA世界ヘビーのベルトを高々と掲げるカネック。ビバ、メヒコ！

バレ・トドよりルチャリブレの方が遥かに「何でもアリ」だ！

だよ（笑）

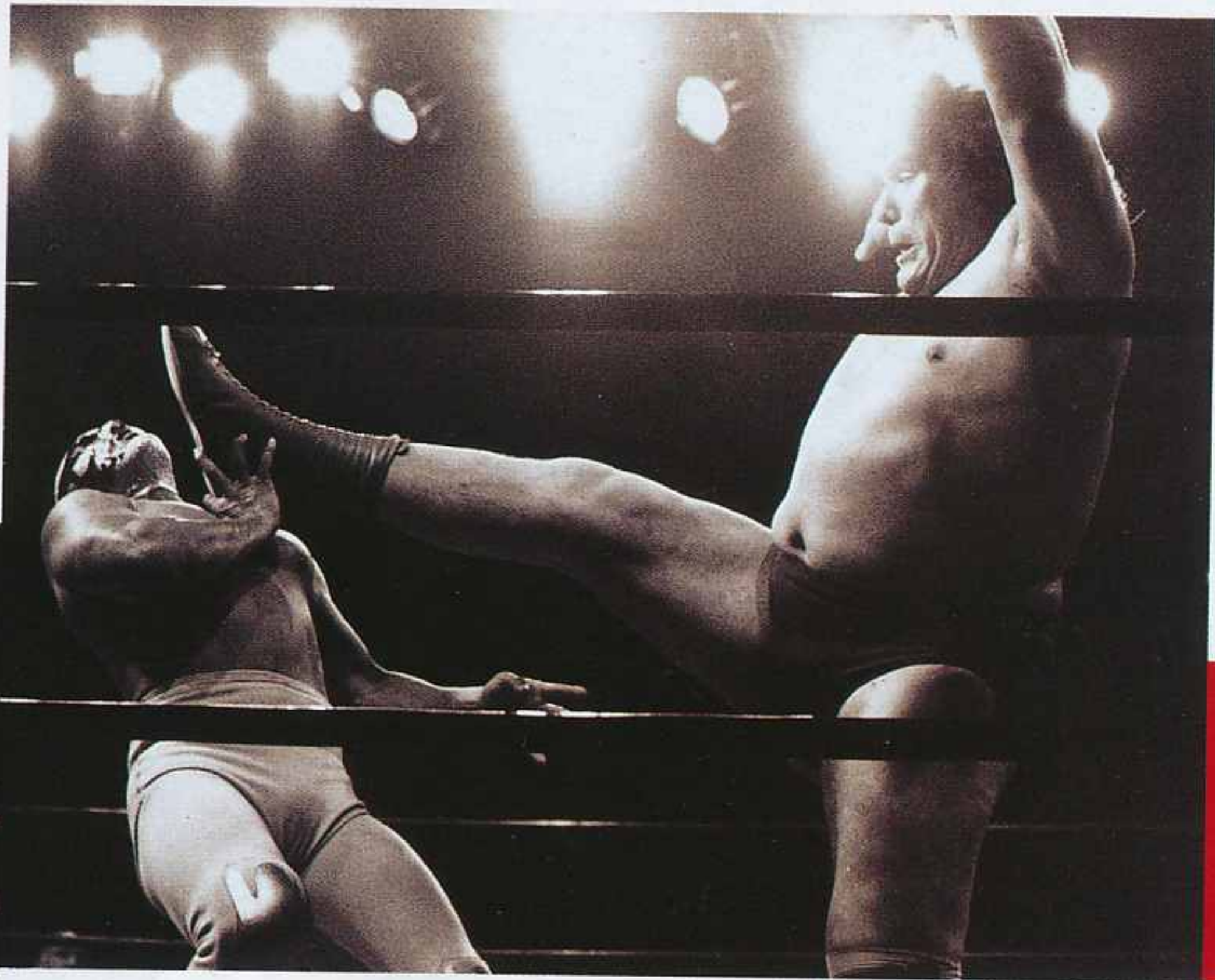
違った意味のスポーツ"だと言うこ

ハリ）

私は数えきれないほどのジャ

ック」を知らなすぎるんだ。

カネックの勲章と言えば、なんと言ってもアンドレをボディスラムで投げたこと（世界で８人目）。しかもその時（83年、メキシコ・エルトレオで行われたＵＷＡ世界戦）、３本勝負の一つとして、アンドレにフォール勝ちしたという伝説も残っている。

日本でのカネックと言えば、やはり「敵前逃亡」に代表されるように、ドラゴンとのライバル抗争が有名。カネックはそもそもドラゴンがメキシコ修行時代に見いだした強豪という触れ込みで、日本でもジュニア王座をかけて幾度となく対戦した。

——カネックを知らなすぎる！

カネック　そう！　日本のファンが知っているカネックは、カネックのほんの一部分でしかないんだ。だから今回の闘いでも、私は決して新しいことをするつもりはないが、私のことをよく知らない日本のファンにとっては、新しく見えるかもしれないな。我々のルチャリブレは日本人が考えるルチャリブレとはまったく違うんだよ。

——おぉ～、ますますルチャ幻想が広がりますね（笑）。対戦相手の大刀光選手についてはなにか情報を仕入れていますか？

カネック　知っているのは、彼がスモーをやっていたということと、身体が大きいということだけだ。あとはどんな顔なのかも知らないよ（笑）。

——顔も知らない！（笑）。よくそれで試合ができますね。

カネック　まぁ、身体が大きいと言ってもアンドレよりは小さいだろうからね（笑）。それにスモーの力士と闘うのは初めてだが、私はスモーをテレビで何度も見たことがあるし、実際にクラマエ（蔵前国技館）にも何度か見に行ったことがあるから何も問題はない（キッパリ）。これは私にとってもいい経験だし、彼にとってもルチャリブレの王者である私と闘うことは、いい経験になるだろう。

——バレ・トドでカネック選手がどんな闘いを見せるか想像もつかないんですけど、今回はどんな戦略を練ってきたんですか？

カネック　作戦はないよ（アッサリ）。

——作戦なし！

カネック　ああ。なぜなら私は試合開始のゴングが鳴ったら、まず相手の出方を伺って、どんな闘い方をするか、どのくらいの力量があるのか、それを見極めた上でそこから作戦を練るんだ。私はいつもこうして闘ってきたし、相手と組んでみたらその力量なんていうのはわかるものさ。たぶん相手も同じことを考えているだろう。プロのルチャドールがどんな闘いをみせるのか、それは闘ってみなければわからないはずだ。

——確かに大刀光選手もカネック選手が何をしてくるか、サッパリわかってないでしょうね（笑）。カネック選手はルチャを始める前に何か格闘技はやっていたんですか？

カネック　ルチャドールになる前は少しボクシングをやっていたぐらいだな。でもルチャのスクールに入って、そこでアマチュア・レスリングを徹底的に叩き込まれたんだ。それに格闘技ではないが、スポーツはボディビルに熱中して、あとは野球、それから登山なんかもやったし、一通りやっているよ。

——スポーツ万能なんですね。ルチャの世界に入ってからの師匠というと誰になるんですか？

カネック　いろんな人に習ったよ。例えばペリヘ・カンブリー、ファンタスマ・デ・ラ・ケブラーダ、ロス・ブラソスの父親にも習った。それからメキシコ人だけじゃなく、ビル・ロビンソン、カール・ゴッチ、ルー・テーズら、アメリカやヨーロッパのビッグネームたちからもテクニックを伝授してもらったよ。

——へ～、それは意外ですね。

カネック　意外じゃないさ。だから私はいろんなスタイルの選手と闘うことができるんだよ。

——ルチャドールになろうとしたきっかけというのは、やっぱり誰かに憧れていたからなんですか？

カネック　多くのルチャドールがそうであるように、私もエル・サントに憧れたんだ。サントはアメリカで言うならスーパーマンに当たる人だ。でもスーパーマンはスクリーンの中にしかいないが、サントは実在するんだよ。しかもサントはルチャドールであり、映画俳優でもあった。私もサントみたいになりたかった。そして実際、私も2本映画に出たことがあるんだよ（自慢気に）。もちろんマスクを被ってね。

——それは見てみたいですね（笑）。カネック選手の「エル・カネック」というリングネームにはどんな由来がるんですか？

カネック　マヤ文明の神話の中に登場する英雄の名前だよ。私はタバスコ州の出身なんだが、タバスコ州はかつてマヤ文明が栄えた場所だから、それにちなんで「カネック」という名前をとり、マスクにマヤの文様を描いたんだ。

——「カネック」は「英雄」だったんですね。ところが日本では「ならず者」と呼ばれていたんですよ（笑）。

カネック　そんな意味じゃないよ（笑）。確かに神話の中の「カネック」も暴力は振るったが、それは侵略してきたスペイン人に対してだからね。

——ボクはてっきりカネック選手のことを、若い頃からケンカが絶えない「ならず者」で、それが高じて今回バレ・トドに出るのかと思ってました（笑）。

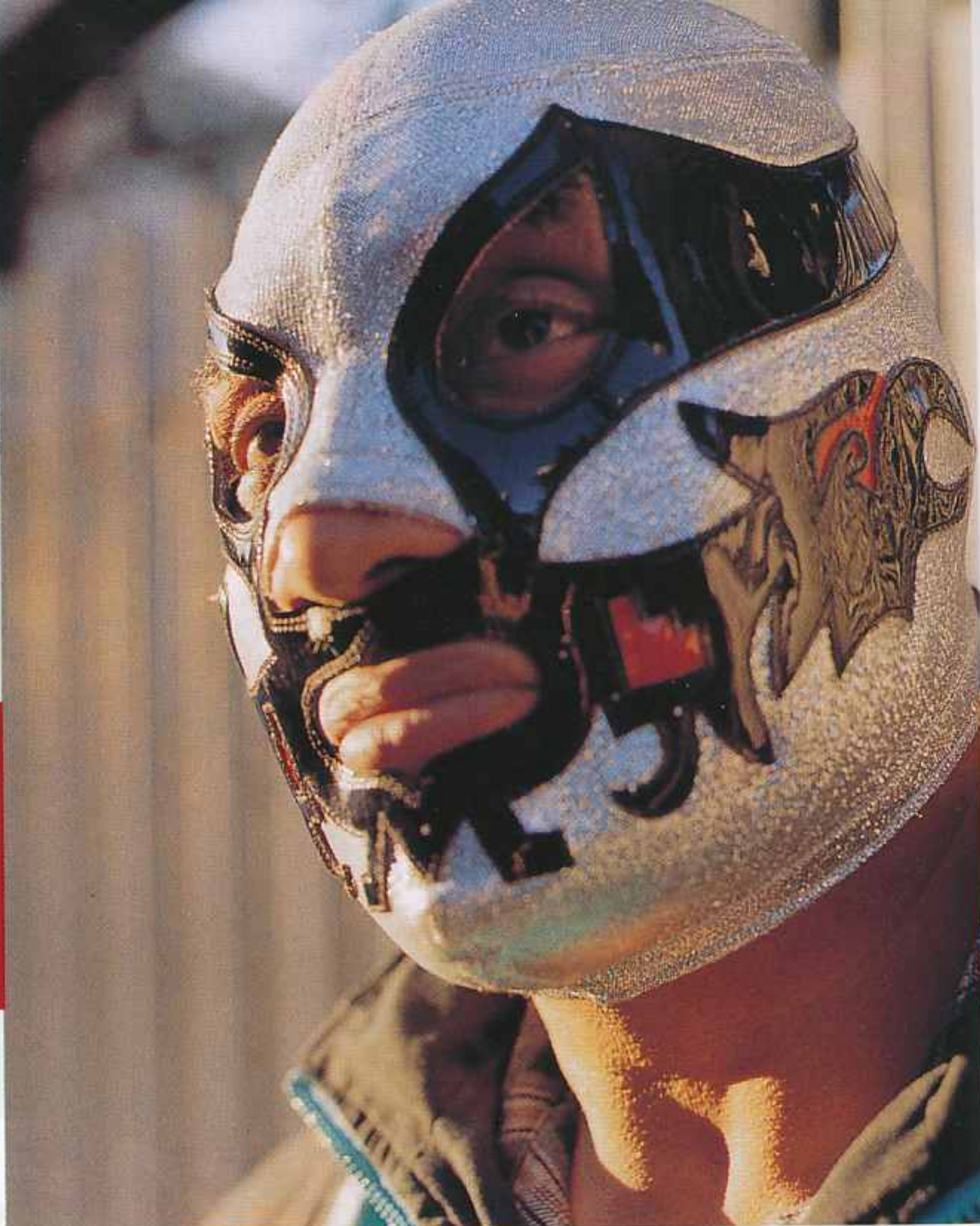
カネック　たしかに若いことはよくケンカもしたよ。いまはさすがにやってないがね（笑）。

——カネック選手が長いキャリアの中で「こいつは強い」と思った選手は誰ですか？

カネック　なんといってもアンドレ・エル・ヒガンテだな。彼はすべてにおいてケタはずれだった。でも、私は常に勝利を信じているから勝つことができたんだ（上記の写真説明文参照）。

EL CANEK

ピーター、言いたい事があるならなぜ現役時代に言わないんだ？

CANEK■本名・不明。メキシコ・タバスコ州出身。本人は47歳を強調するが、1950年生まれ、51歳説も有力。78年、初来日。日本ではあまりパッとしなかったが、メキシコではルー・テーズを破りUWA世界王者になったり、アンドレを破ったりと「帝王」の名を欲しいままにした。186センチ、105キロ。

それからアントニオ・イノキ、ハルク・ホーガンといった私のよきライバルたちも当然強かったよ。

——猪木さんとホーガンがライバルですか？　ボクの記憶だと、猪木さんやホーガンより藤波選手と何度も対戦しているイメージが強いんですけど。

カネック　ああ、フジナミとも確かによく闘ったな。いい選手だと思うよ。でも、彼らと比べると印象は強くないな。

——あら、ドラゴンは印象が薄い（笑）。

カネック　プロレスというスポーツの中のライバルでは確かにあったけどね。だからいい印象はあるし、同時に彼にとってもカネックは強いという印象が残っているだろう。

——その藤波選手絡みでひとつ長年の疑問があるんですよ。78年にカネック選手が藤波選手との対戦が決まっていたにも関わらず、当日になって突然メキシコに帰国してしまった〝敵前逃亡事件〟がありましたよね？　あの真相をいまこそ聞かせていただけませんか？

カネック　ああ、あのことか……、よく覚えているよ。

——日本では「カネックは藤波のドラゴン・スープレックスに恐れをなして逃げ出した」というのが定説なんですけど……。

カネック　そんなことはあるはずない！（キッパリ）

——あ、やっぱり（笑）。

カネック　私は世界中の強豪と闘ってきたし、アンドレにだって勝っているんだ！

——では、真相は何だったんですか？

カネック　あの時、私には直前まで「マスカラ・コントラ・カベジェラ（敗者髪切り覆面剥ぎマッチ）」だと知らされていなかったんだよ。メキシコでは「マスカラ～」をやるときには、何ヶ月も前に知らされ、そこから当日までに因縁を深めていく。そして初めて実現するものだ。もちろんその際には試合以外にマスカラ・コントラ・カベジェラの契約もする。それなのに、あのときはそんな契約はしていないのに、突然やらされそうになった。だから帰ったんだ。

——話が違う、と

カネック　そう。彼らがどう考えているかはわからないが、我々にとってマスクはそんな軽いものじゃないんだ。だから、明日のDEEPだって突然「マスカラ・コントラ・カベジェラ」にされたら、私はリングに上がらず飛行場へ直行するよ！

——敵前逃亡予告ですか！（笑）。でも20年以上の時を経て誤解が解けて非常に良かったです。

カネック　まぁ、そんなこともあったけど、新日本で闘ったことは非常にいい経験になったよ。いまはどうか知らないが、当時の新日本は非常に厳しい闘いをしていたからね。そういった闘いをしていったことは私の財産になっているし、私の自信ともなっている。だから私はまったく知らない選手と闘うことにも、恐怖を感じることはないんだ。

——その新日本プロレスの話なんですけど、当時レフェリーをしていたミスター高橋さんって覚えてらっしゃいますか？

カネック　おお、ピーターだろ？　よく知ってるよ。

——そのミスター高橋さんが「プロレスは勝敗が決まっている最強の芝居なんだ」と本に書いて、いま非常に話題になっているんですけど、それについてはどう思いますか？

カネック　（呆れた顔をして）……彼はもうレフェリーをやっていないのか？

——ええ、引退しましたね。いまは新日本プロレスとも関係はないようです。

カネック　やっぱりそうか…。そういうことが言いたいなら、なぜ現役時代に言わなかったのかと言いたいよ！　引退してから本に書くということは、彼の勝手であり、ご都合主義だろう。そんなものは私が引退してから、「ルチャリブレはすべてインチキだ」と言うようなものだ。そんな馬鹿なマネは私は絶対にしたくないし、言いたいことがあるならいま言うよ。

——高橋さんは「情報公開することで、プロレス界を発展させたい」ということなんですけどね。でも、そんな本が出た今だからこそ、プロレスラーの強さをカネック選手にも見せてもたいたいんですよ。

カネック　（興奮気味に）ああ、もちろんプロレスラーの強さを証明するつもりだ！　そのために私は日本に来たんだよ！　明日はファンに応えられるように、いい試合をしたいし、絶対に勝つよ！

——わかりました、期待してます。今日はどうもありがとうございました！

カネック　あ、ちょっと待ってくれ、「絶対に勝つ」という言葉は訂正させてくれ。

——えっ……なんでですか？

カネック　「絶対に勝つ」なんて言うと、勝敗があらかじめ決まっていると思われるかもしれない。そんな風に思われたら嫌なので、「勝利を探しに行く」という言い方に変えさせてもらうよ。もう私は2度と「絶対勝つ」という言葉は使うことはないだろうね。

【01年12月22日／都内・某ホテルにて収録】

ボクシングvsシュートボクシング
骨法vsムエタイ
ルチャリブレvs大相撲
パンクラスvsリングス

よくもまぁこれだけ「異種格闘技戦的」カードを揃えたものだ。先日アニメ版も放映された『グラップラー刃牙』の最大トーナメントは東京ドーム地下で行われる設定だったけど、あたかもディファ有明の地下で闘わば？的ダウンサイジングな対戦カード。ほとんど選手にとって「元」「出身」が付く競技名ではあるけれど、ちゃんとその匂いのする選手を集めているのがなんとも秀逸。しかも今時「柔術」がないのが新鮮というか天の邪鬼というか。

過去第一回の村浜武洋vsホイラー・グレイシーに美濃輪育久vsヒカルド・リボーリオ、第二回の謙吾vsドスカラスJrと、これまでのDEEPでの名勝負も異種格闘技戦の匂いを漂わせていた。総合として完成した選手が中心の『PRIDE』には無い魅力がDEEPにはある！　ま、同じ異種格闘技戦な猪木祭りに比べて派手さには欠けますが。

ならば知名度は無くても組み合わせで勝負！　そういう意味で最も鮮烈かつ最上級の組み合わせだったのはセミファイナルの"骨法"矢野卓見vs"ムエタイ"ランバー・ソムデート吉沢。マント姿にM16ライフルを振りかざして入場のランバーに対し、喧嘩骨法のテーマにのって「法骨セエ」（前号インタビュー参照）Tシャツで入場のヤノタク。外人から見れば、ある意味どっちも「東洋の神秘」だろう。

とにかく組み付きたいヤノタク、サイドキックでちょっかい出しつつ飛びつこうとするも、なかなか寝技に引き込めない。最大の勝機は2R、テイクダウンに成功しバックチョークを狙うもランバーが身体を回転させ極めさせない。これですっかりスタミナ切れになったヤノタクは3Rは自ら転がって猪木―アリ状態から引き込もうとするが、今度はその足にランバーのローが軽快かつ激しく決まる！　それどころかギロチンチョークまで仕掛けるランバー。最後の抵抗と、前号で対談した須藤元気からインスパイアされたかヤノタクがインサイドガードからジャイアントスイング！　しかしコレで極められるはずもなくタイムアップ、判定3―0でランバーが総合初試合初勝利をモノにする。

極めきれなかったヤノタクは会見場で倒れ込むほどの疲労困憊ぶりで「ランバーのキックは効いていたし、2R終わってスタミナも切れて3Rは抜け殻状態。ジャイアントスイングで予備燃料も使い果たしました（苦笑）。でもお客さんが喜んでくれて良かった」と語った。対するランバーは判定コール前から勝利を確信し「ランバ！　ランバ！」とライフルを振り回しヤノタクやレフェリーに突きつける喜びよう。試合後は「機会があれば、また総合の試合に出たい」と前向きに語っており、3月の名古屋大会後のDEEPで、ブラジリアン柔術のトップ選手との対戦が予定されているという。そのスタミナと言うまでもない打撃の威力、それに植松直哉らとの練習十天性の反射能力による寝技を備えた"タイ発日本経由のVT戦士"が世界を席巻するのは遠くないのかもしれない。

また組み合わせのインパクトなら「日墨国技（？）対決」大相撲vsルチャの大刀光vsエル・カネックも負けていない。とはいえ「78年にルー・テーズを破ってUWA世界ヘビー級チャンピオン」がカンバンではさすがにカト・クン・リーの二の舞か……いくら相手がVT連敗中のタッチーとはいえ。プロレスの格では10 0倍は違う両者、しかしVTでは！と張り切るタッチーはローからパンチ連打、スリーパーと今まで見られなかった総合の定石な攻めを見せる。これに、すかさずカネックは「チョークだ！」と盛んにアピール。ルールもロクに覚えず上がってる所に古き良きプロレスラー魂を感じさせます。しかし魂は古くも錆び付かず！胴絞めスリーパーに来たタッチーのサイドを奪うとメキシコ親父の拳骨連打！　上から殴られ続け動けないタッチーを見てレフェリーがストップ、見事ルチャ勢が前回に続き驚愕の2連勝を果たした。

しかも次回3月大会では「日本vsルチャ」の対抗戦が決定！　グラバカにシゴかれ成長目覚ましいパンクラス本隊の同期・石井大輔、渡辺大

この日のベストバウトは文句なしでランバー vsヤノタク。ムエタイ戦士のランバーは、これまでキック以外にも柔術の大会からバトラーツまで、様々な舞台に上がっているが、バーリ・トゥードはこの日が初挑戦。経験だけではなく体格差（約10キロ）もあるため「倒してしまえばヤノタクの独壇場」という大方の予想を見事はね飛ばしたランバー。猪木―アリ状態からのランバーの破壊力満点のローキックは、これまで見てきた中でもダントツの凄まじさだった

サイドキックや浴びせ蹴り、さらにはジャンピングニーのような形で果敢にランバーに向かって行くヤノタクだったが（写真下）、なかなか得意のグラウンドへは引きずり込めず。2Rには何度かヤノタクがチョーク＆ボディシザースを極めかけるも、ランバーは背後にいるヤノタク目掛けて強烈かつ的確なパンチを放ち、これをなんとか凌ぐ（写真右下）。一足早い猪木軍vsK-1とも言える両者のハイレベルな攻防に場内は大歓声に包まれた

3R後半、猪木―アリ状態からのキックを受けまくりダメージの深いヤノタクをギロチンで絞め上げるランバー。なんとか、これを脱出したヤノタクは、予備燃料を使いジャイアントスイングを敢行！

判定のコール前から、勝利を確信したランバーはライフルを手に大はしゃぎ。一方、破れはしたものの場内を大いに沸かせたヤノタクは「『格通』とかより『週プロ』に載った方がしっくりくる試合でしたね（苦笑）」と、確かに！なコメントを残したが、結局掲載はされず

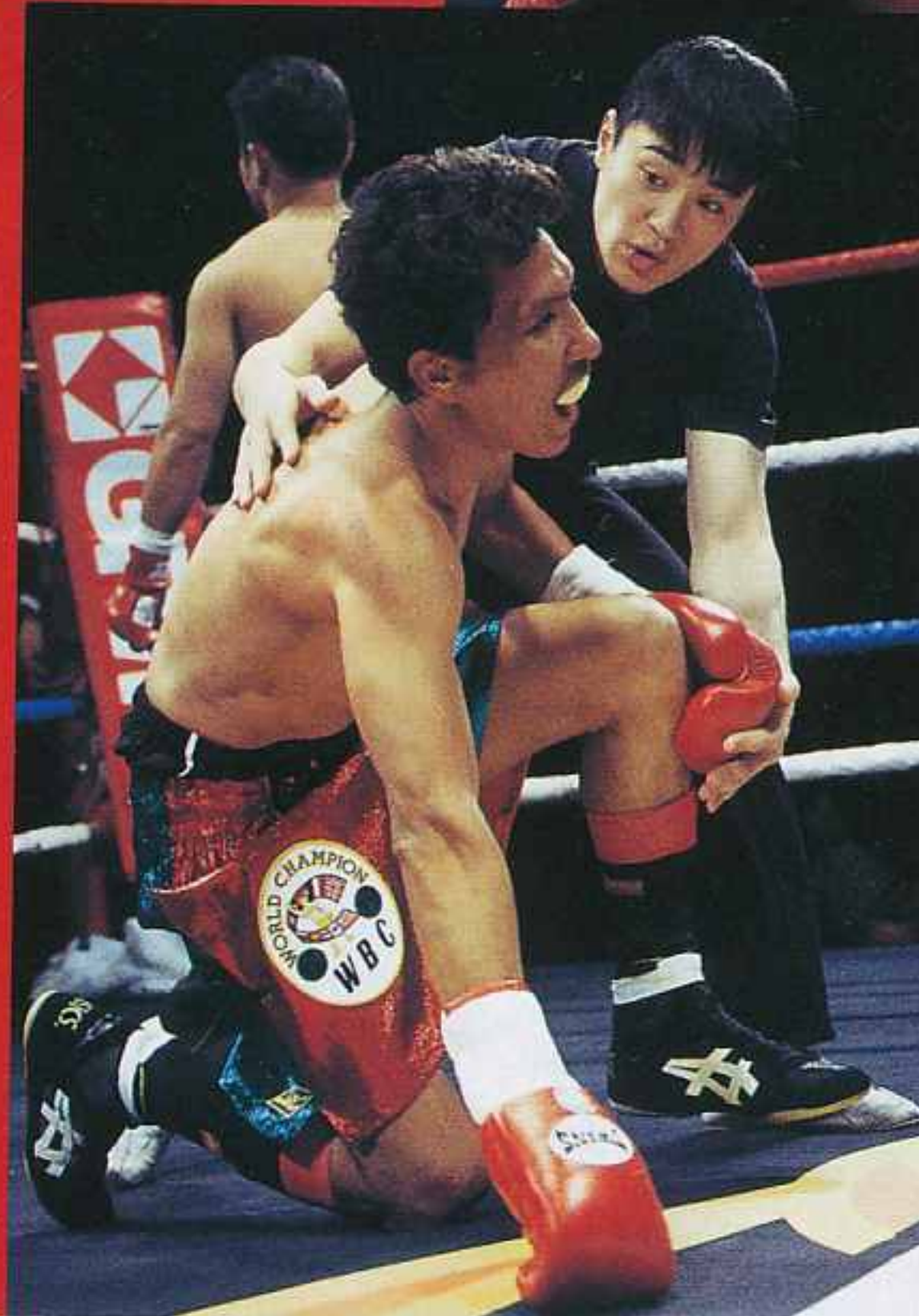
「今回は必ず勝ってやる！　絶対に負けない！」と、当初予定されていたドスJr.戦前は気合い十分だった大刀光。相手はカネックに変更されたものの、大刀光はローキック、パンチ、さらにはマウントまで取り、このまま行けば総合初勝利間違いなし、と期待させたが…

押せ押せの大刀光がチョークを極めると、ルールを把握していないカネックは「チョーク、チョーク」とレフェリーへアピール。これでペースを乱されたか、ポジションを逆転された大刀光はカネックの顔面パンチ連打で動けなくなりレフェリーストップが宣告された。大逆転勝利で喜ぶカネックとは対称的に、負けた大刀光は「反則ばっかしやがって！　ふざけんなよ！」とご立腹！

DEEP INTERNATIONAL

伊藤崇文vs日高郁人戦が伊藤の負傷欠場により延期となり、大会直前になって急遽、対戦が決定した美濃輪vs大久保。わずか3週間前に復帰戦を終えたばかりの美濃輪だったが、この日もその勢いは変わらず。開始早々、タックルで大久保を高々と担ぎ上げた美濃輪は、なんとデスバレーボム狙い。形は崩れたものの大久保を豪快にマットに叩きつけた

元WBC世界バンタム級王者ビクトル・ラバナレスと対戦した『DEEP2001』のエース村浜武洋。DEEP特別ルール（3ノックダウン制、5エスケープ）が採用されたこの試合、開始直後、ラバナレスのパンチをかわした村浜はタックルであっさりテイクダウンに成功！

ギロチンでプレッシャーをかける村浜が素早くヒザ十字へ移行するとラバナレスはエスケープもできず即座にタップ。その間、わずか40秒！ ドスJr、カネックに続き「ビバ・メヒコ！」コールは受けられずじまい。勝った村浜は試合後、K—1中量級大会へ挑戦表明！ 後日、村浜の希望どおり魔裟斗戦が決定！

正直、美濃輪のピンチらしいピンチといえば大久保に一瞬バックを取られた時ぐらいか。それも前方に落としクリアするとマウントからアームロック、最後は腕十字をガッチリ極め完勝！ 試合後は3月のDEEP、さらには『PRIDE』、UFCと無差別に出場志願宣言！

介に遅れをとりまくる謙吾がドスJrを今度こそ破り、再びエリート街道に復帰するのか？ 試合後「あんなので止められたくなかった」とブーたれるタチ関のリベンジは？ 先日アルシオンを電撃離脱した浜田文子の参戦は？ ついでにルチャ軍団の総大将として文子のパパ、グラン浜田の総合初挑戦の可能性は？ 等々

おそらく日本だけで燃え上がってるであろう日墨決戦の鼓動。一般的なVTの時代の流れとは関係なく、思いっきり独走するこの流れ、面白すぎです！ ビバ・メヒコ！ ビバ・佐伯（代表）！

と、『紙プロ』及びプロレス・格闘技雑誌的にはこの2カードが話題の中心だったわけだけれども、総合知らずの人にも届く知名度の選手といえばメインに出場のビクトル・ラバナレス。その名前をサラリと言われてもわかりづらいが、辰吉のWBC王座を奪い、再戦では網膜剥離を患わせた強豪と言えば思い出す人も多かろう。いまだ38歳現役で、12R闘い抜くスタミナも証明している元世界王者が、『DEEP2001』のエース・村浜と対決！ こちらも強拳でならすだけにいかなる打撃戦が繰り広げられるか……とはいえ総合で考えれば差は歴然なのだけれど、出会い頭ってこともあるから……。

しかし、その出会い頭を制したのは村浜。パンチをかわしてタックルで難なくテイクダウンを取るとアッサリとヒザ十字、エスケープ有りのルールなれどすぐさまタップするラバナレス。ルチャは連勝なれど、メキシコ連勝とはいかないようで……。一方完勝の村浜は「打撃から総合やってる選手はいますけど、プロレスが出来て、総合も出来て、さらに打撃も出来る人間は世界に『大阪プロレスの村浜』しかいない」と豪語し、K—1中量級への参戦を表明。さらに新日本への再出撃という展望を語った。また先日のリングス横浜大会でヤマケンを敗った須藤元気もK—1出撃をブチ上げているだけに、今年本格化するK—1中量級の見どころに「総合格闘家の立ち技挑戦」が増えたと言えるだろう。

さてその他も旬なレスラーたちが旬な話題を振りまいた『DEEP2001』。最後まで今年のパンクラスの顔・美濃輪育久は、Uファイルの大久保一樹をいきなり高々とリフトアップして最後は腕十字で完勝。試合後、「3月のDEEPは（地元）名古屋での開催なので出たい」「アメリカでも試合がしたい」「『PRIDE』に出たい気持ちもある。今はまだ言えないけど闘ってみたい選手がひとりいる」と今年は外に討って出そうな勢いの美濃輪。実際、尾崎社長も『PRIDE』からオファーがあったことを認め、出場の可能性も高まっているだけに、来年は東京ドームでその勇姿が見れるかも……その相手はシウバか、桜庭か？

一方、窪田幸生にマウントパンチで完勝した坂田亘は会見後、鈴木みのるに対し「横浜の若い奴をやったんだから大将出てこいよ。引導渡してやるから」と過激に挑発。その上、1・6ZERO-ONE後楽園大会では高岩竜一を襲撃と、唐突にアチコチ噛みつきだした坂田。DEEPと同日に行われた『PRIDE.18』ではヤマノリも勝ったことだし、12・23はリングスOB決起記念日だったのか？

他にも、寂しさを感じずにはいられなかった冨宅飛駈vs長南亮の一戦。「寂しい」と言っても試合がつまらなかったわけではなく、一方的に攻められる冨宅が哀しすぎて…。パンクラス内では、まだまだ若手の佐藤光留に負けた相手に翻弄される冨宅、"格"の無い世界のこの現実は分かってはいても切ない。あたかもアリスの『チャンピオン』が流れるようなこの一戦、来年の冨宅はどう動く？ それとも……。

なにはともあれ、K—1中量級、『PRIDE』、日本vsルチャ対抗戦、対戦アピールなどなど、出場選手各々の来年が見えた年末の『DEEP2001』。次回大会は3月30日、再び愛知県体育館に戻っての一周年記念興行。その時までにはこの日起きた各々のうねりが、より大きく、より激しい波となって襲いかかってきているのは間違いない！

ドスJr.、カネックに続きルチャ戦士、大挙来襲！

ルチャ戦士vs日本勢の全面対抗戦が行われる『DEEP』次回大会は3月30日（土）、愛知県体育館で開催。すでに発表されているドスJr.vs謙吾のリマッチの他、メキシコからは、キックボクサー、リスマルクJr.、カネック弟、ソラール等の名前がリストアップされているが、出場メンバーは佐伯代表が2月のメキシコ視察から帰国してから発表される。他にも注目カードとして、村浜vsジョン・ホーキの再戦、ランバーvs南国系日本人ファイター、坂田vsパンクラス所属選手が内定している。「『DEEP』の門番」（by佐伯代表）大刀光の出場はあるのか？ 等々、正式なカード発表及び大会詳細は次号でドカンと大特集します！

アレクサンダー大塚

大場貴弘

聞き手／堀江ガンツ
撮影／遠藤政文
designed by hisa（Two Three）

アレク、シウバ相手に肉薄！

新人・大場がロシアVTで準優勝！

バト魂は死なず！　昨年、10月14日のNKホール大会を最後に休眠状態に入ったバトラーツ。ファンの中には、団体自体がなくなったと思っている人もいるようだが、どっこいその魂は生きていた！　10月以降もバト道場で練習するアレクがあのシウバに肉薄。そして新人・大場がロシアVT大会で準優勝！　まさに原点に還ったバトラーツ。その咆吼を聞け！

バト魂は死なず！

――骨折した鼻は、もう大丈夫ですか？

アレク　まだ、今月いっぱいはかかるみたいです。折れてるだけなんですけどねぇ。

――お、「折れてるだけ」（笑）。

アレク　日々の生活には支障ないですから。それに病院で「もともと鼻が曲がってましたよ」って言われたんで、たぶん気づかないうちに以前にも折れてたんじゃないですかね。

――知らない間に折れてましたか（笑）。それでは、シウバ戦後は骨折でコメント出せなかったみたいなので、今日はまずあの試合を振り返っていただきたいと思います。

アレク　おお、ありがたいですねぇ（笑）。

――試合前には「選手生命を賭けるくらいの意気込みで試合に臨む」とおっしゃってましたけど、闘い終えてみていかがですか？

アレク　う～ん、満足はしてないですよ。結果はもちろんですけど、内容的にも自分が思ってたほどは出来なかったですからね。もっとグラウンドで上を取りたかったです、2Rの最後みたいな感じで。

――あれは惜しかったですね。内容も良かったんですけど、僕はあの試合で一番印象に残ったのは、じつは入場シーンだったんですよ。

アレク　ああ、たしかに流れ落ちる涙を思わずぬぐってしまいました……（遠い目）。「この試合が終わった後、ひょっとしたら自分はプロレス界から足を洗うことになるかもしれないなぁ」と思って入場を待ってましたから。そんな状態なのに入場の時点で、あれだけの声援をもらうことが出来たんで。「まだ求めてくれてるのかな」と思って、ちょっとホロッと来ましたね。

引退すら覚悟してた所であれだけの声援
思わず涙が流れましたね

――久しぶりにアレク選手とファンの関係が正常化した瞬間でしたよ。

アレク　ああ、久々にガッチリと結びついた感じでしたね（笑）。

――アレク選手自身、ファンの求めているものと自分とのズレは感じてましたか？

アレク　そうですねぇ……（長い沈黙）。プロレス・格闘技界での立場に何かしらの変化をもたらそうとしたときに、無理矢理にでも白いものを「黒だ！」って言っていかないと変わらないと思ったので……そういう部分でなかなか試合内容や試合結果がついてこなかった。ファンの人たちも僕に付いて来にくい部分もあったでしょうから、そこにギャップはあったと思いますけど。

――その点、今回はテーマ曲の『AOコーナー』がしっくりくる試合でしたよ。

アレク　そうですか。試合が終わるまでは「大塚がシウバと試合をするのは、どうなんだ？」って思ってる人も多かったでしょうけど……それでも、あの日の声援は試合前の最後のエネルギー補充になりましたから。逆に、バトラーツのNKホール大会（01年10月14日）の入場は全くエネルギーを感じませんでしたからね。

――NKでのアレク選手は、ファンとも噛み合わないし、金的とかいろんなアクシデントが起きて、もがき苦しんで、どん底まで落ちたという意味ではNK大会でのバトラーツを悪い意味で象徴してましたね。

アレク　ホント、あの頃はリング内外でいろいろありすぎて……この業界が嫌いになっちゃってましたよね。

――あの頃、アレク選手が出席していた会見をいろいろ取材しましたけど、ホントに表情が死んでましたもんね。だから、『PRIDE』の入場シーンの晴れ晴れした表情は、逆に印象に残ったんです。それに、試合前も「練習がしっかり出来た」とコメントしてましたけど、その充実感が見てとれました。

アレク　ジャクソン戦に向けてガッチリ練習してたんですけど、そのままの流れでシウバ戦の練習もかなり出来ましたからね。そのとき、スパーリングの相手をしてくれたのが、この大場なんですよ（と、横にいる大場貴弘を紹介）。

大場　よろしくお願いします！

――ようやく登場しましたね（笑）。「シウバに負けない顔の持ち主」という評判はうかがってたんですけど……たしかにその通りですね（笑）。

アレク　旧・地球人の顔ですね（笑）。

――その大場選手なんですが、12月15日にロシアのVT大会に出場したんですよね？

大場　ええ。11月頃から島田（裕二）さん

01・12・23『PRIDE.18』
アレクvsシウバ
PUTIT REVIEW

ヴァンダレイ・シウバ（3R2分22秒 ドクターストップ）アレクサンダー大塚

久々に聞く「大アレクコール」の中、アレクは一度涙を拭うしぐさを見せたが、実にいい表情で入場。マルコ・ファス戦以来のアップセットを期待させた。

スタンドでの打撃だけでなく、マウントを奪われるなどピンチの連続に見舞われたが、その都度「折れない心」で脱出。この粘りこそがアレクの、そしてプロレスラーの真骨頂だ。

に「お前、ロシアに行くからな」とは言われてたんですけど、「試合がある」とは聞いてなくて……、「ロシアのねえちゃんを買いに行くから！」としか言われてなかったんですよ。

大場 ガハハハ、島田さんにハメられた、と。

アレク だから急な話だったんですけど、NK大会の前から、大塚さんと一緒に練習をさせていただいてたので、助かりました。

――でも、バトラーツジムでコツコツ練習してるアレク選手や、大場選手が、シウバといい勝負したり、ロシアのVTでいい成績残したりするのを見ると、バト道場での普段の練習の重要性を再確認しますね。しかも大場選手は、B—CLUB（バトラーツのアマチュア育成ジム）の出身なんですね？

大場 ええ。

――もともとプロレスラーになろうと思ってB—CLUBに入ったんですか？

大場 いえ、そういうわけではなかったんですよ。大学4年のときに、「このまま就職して社会人になったら、本格的に格闘技の練習をすることもないだろうから、一度だけやってみよう」と思って入会したんです。

――その意識がどこらへんから変わってきたんですか？

大場 一昨年の10月にジムで紅白戦があったんですよね。その頃、普段のスパーリングでも常連の強い人からタップを奪ってたんで、天狗になってたんです。「初出場で初優勝ってカッコいいなぁ」とか思いながら、ひそかに優勝を狙ってたんですよ（笑）。

アレク そうだったの？（笑）。

大場 そしたら3試合やって2敗1分で、天狗の鼻をボキッと折られましたね（笑）。そこから週5～6回通い始めて、練習もハードにしていきました。ちょうどその頃が就職活動の真っ最中で、自分は福祉関係のところに就職が決まりかけてたんですよね。でも、そのときに周囲を見渡したら、大塚さんがいる、石川社長がいる、日高さんや臼田さんもいる……メチャメチャ遠い存在だったはずのプロレスラーを身近に見て、「かっこいいなぁ」と思ったんですよね。そこで悩み始めて、最終的には「行っちゃえ！」って感じで入門を決めました（笑）。

最初はVTじゃなくて「ロシアに女買いに行くぞ」って言われてたんです（笑）

アレク 大場は障害者の人を介護する側から、介護される側を選んだんですよ（笑）。

――それでデビューが7月5日ですか。たしか対戦相手はアレク選手でしたけど。いきなり団体のスター選手と第一試合で当たるっていうのも、凄いですね！

アレク スターっていうか、その頃、ワイがボロカスに言われてたから（笑）。まあ、（対戦は）ワイが希望したことなんだけど。

――大場選手に目をかけていたから、対戦を希望したわけですか？

アレク いや、ただ単にメインとかセミで試合をしたくなかっただけ（キッパリ）。

大場 ハハハハハハ！

アレク でも、いざ試合してみたら、せっかく治ったばかりの額の傷をヘッドバッドで流血させられましたからねぇ。それでカチンと来て、逆エビ固めで思いっきり絞り上げちゃいましたけど（笑）。

――主流から外れて第一試合に出たら、偶然ですけどバトの源流のような試合にたどり着いちゃったわけですね（笑）。大場選手は、アレク選手同様プロレスとVTの両方をやっていきたいと思っているんですか？

大場 はい、やりたいですね。アマチュアの時に出させていただいた『PRE—PRIDE』も、総合ルールの試合でしたけど、抵抗はなかったですから。

――じゃあ、島田さんにハメられて、VTに出ることになっても抵抗はなかった？（笑）。

大場 ええ。でも、びっくりはしましたよ（笑）。ロシアって、場所も場所でしたから。

アレク しかも「ロシアのねえちゃんを買いに行く」って話だったからねぇ（笑）。

大場 それは、ちょっと嬉しかったですけどね（笑）。島田さんからは「キャットファイトの選手発掘しに行くから」とも聞いてたんで、「ああ、そうなんだぁ」って（笑）。

――納得しちゃだめですよ！（笑）。

アレク ロシアのお姉ちゃんのギャラは2500ルーブルらしいですよ（笑）。

〝猪木―アリ状態〟になってもシウバの猛攻は止まらず。しかし、アレクも足を上手く使い、決定打を出させない。

2ラウンドになると徐々にペースを掴んだのはアレク。シウバから両足タックルでのテイクダウンに成功し、パスガードをするも、2R終了のゴング。惜しい！

3Rに入り判定決着かと思った矢先に、シウバのヒザがアレクの鼻を直撃！その一撃で鼻の骨を折られ血が止まらないアレクは無念のドクターストップ。

――ギャラって……（笑）。

大場　そんなおいしい仕事に行けるんだから、万々歳だと思ってたんですけどね、急にVTやることになってしまって（笑）。

――一気に天国から地獄ですね（笑）。ルールは完全なVTだったんですか？

大場　そうですね。島田さんには「肘打ち、頭突きもアリだから！」と言われてたんですよ。でも、現場に行ってみたら、結局のところ「肘打ち、頭突きナシ」で。

――島田さんもいい加減だなぁ（笑）。

大場　それは、まあいいんですけど……もっと大きかったのは、「グラウンド1分間」という制限があったことなんです。

――ああ、なるほど。日本の『ＲｅＭｉｘ』もグラウンドの制限がありましたからね。

大場　それを聞いたのは、試合前日のルール・ミーティングだったんですけどね（笑）。

アレク　でも、じつはその大会の前にすでにロシア人と一戦交えていたというウワサがあるんですよ（笑）。

大場　（慌てて）いやいやいやいや（笑）。

――2500ルーブルの一戦が（笑）。

大場　やってませんよ！　「試合前にそういう一戦を交えてしまうと、気が抜けちゃうからやめとけよ」と、ある先輩からアドバイスを頂いてたんで（笑）。

――ガハハハ！　誰ですか、そんな素敵なアドバイスを送る先輩って？（笑）。

大場　いや、それは言えません！　だから、「我慢しといた方がいいのかな」と思って、試合前は控えてました。

――なるほど。「試合前は」ね（笑）。

大場　実際、自分もかなりナーバスになってましたからね。対戦相手がどんなヤツかもわからない状況ですからねぇ。島田さんのアドバイスも「とりあえず、力の強いデカいヤツが来るから、極まったらすぐタップしろ」って感じでしたから（笑）。

アレク　アハハハハハハ！　アドバイスになってないじゃん！

――よく「折れない心」とか言いますけど、島田さんは「すぐ折れろ」と（笑）。

大場　さすがに、自分も「それじゃマズいだろう」と思いましたけどね（笑）。

――試合は8人参加のトーナメントだったんですよね？

大場　それも現地に行って初めて聞いたんですよ。最初は「ワンマッチだ」って聞いてたんですけどね（笑）。

――またハメられた、と（笑）。ちなみに一回戦の相手は46歳だったそうですけど、どんな選手でしたか？

大場　105キロあったんですよ。昔、サンボで強かったらしいんです。試合前に握手したら、わざと強く握ってくるから「嫌だなぁ」と思いましたねぇ（しみじみ）。

――早くも心が折れてるじゃないですか（笑）。

大場　ハハハハハハ！　でも、バカにされてるみたいで悔しかったですよ。向こうは横幅も凄くあるんですけど、こっちはホントに細いですからねぇ。もの凄い左フックで吹っ飛ばされて「ヤバイ！」と思ったんですけど、足を取られそうになったとき、顔をバーンと蹴り上げたんです。そしたら、鼻血がドバーッと出てきてドクターストップ勝ちになったんですよ。

――で、2回戦がリングス・ロシアの選手だったらしいですね？

大場　なんかリングス・ロシアのジャージを着て会場を闊歩してたんですよ、だからたぶんリングスの選手だろう、と（笑）。

――「リングス・ロシア所属と思われる選手」というわけですね（笑）。

大場　その選手が。一回戦の試合を自分も見てたんですけど、相手に突進して行ってV1アームロックで一本勝ちしてたんですよ。「わぁ、この人はグランドも出来るんだなぁ。嫌だなぁ」と。

――ここでも心が折れてますね（笑）。

大場　でも、いざ試合になったら3分ぐらいで相手がスタミナ切れしちゃって、亀の状態になってるところに、顔面への膝蹴りを叩き込んでTKO勝ちしたんですよ。

――そんな過激な攻撃が許されてるんか？

大場　ええ、そうなんですよ。でも、この試合で拳を痛めちゃったんです。それで「もう、ダメかなぁ」と思いましたね。

――それで、ワンマッチのはずが3試合目になってしまうわけですけど（笑）、その決勝戦の相手がリングスでもおなじみのコーチキン・ユーリー。強い選手ですよねぇ！

実は「賭けVT大会」で会場は金持ちとマフィアばかりでしたよ

（写真・左）殴られ“シウバ顔”に磨きがかかる大場。しかし、デビュー半年でこの結果は快挙だ。（写真・右上）優勝はリングス・ロシアのコーチキン・ユーリー。リングスがなくなっても来日してほしい選手だ。（写真・右下）掣圏道トレーナーを着て、ロシア美女と記念撮影する島田裕二氏。今回の陰の主役。

大場　そうなんです。でも自分は一回戦でリングから落とされて足を痛めて、2回戦で拳を痛めてましたから。島田さんも「これ以上は試合させられないから棄権するぞ」って言ってたんです。そしたら、そこに大会のプロモーターさんがやってきて、いきなり「試合ニ出テクダサイ！　注射ウテバ、ダイジョウブ！」とか言い出して（笑）。

――ガハハハ！　無茶ですねぇ！（笑）。

大場　じつは、この大会は賭けVT大会だったらしくて、どうしても決勝戦をやらないと困る状況だったみたいで……しまいにはドクターまで連れてきて「大丈夫だ！」とか勝手にゴーサイン出してるし（笑）。

――ドクターもグルですね（笑）。

大場　結局、そこで棄権して、試合をせずに終わったんですけどね。

――はぁ～、凄い状況ですねぇ。

大場　もう、客席にいたのは大金持ちとマフィアばっかりでしたよ。食事しながら試合を見てるんですよ。リングサイドの席は日本円で2万円ということだったんで、ロシアの物価を考えたら相当高いですよね。

――まさに僕らが想像する地下プロレスの世界ですね！　よく無事で帰って来れましたね、そんな状況で棄権しちゃって（笑）。

大場　まあ、でも自分に賭けてくれてたおっちゃんは勝ったら喜んでくれてたみたいで、ウォッカをガンガン飲まされました（笑）。

アレク　アハハハハハ！

大場　「オオバ！　オオバ！」って声をかけられて、腕をからませてウォッカを一気飲みを何回もするんですよ。

――ああ、ロシア式の乾杯ですね（笑）。

大場　ベロンベロンになっちゃったんで「もうダメだ！」って断ってたんですけど、「大

丈夫だ！　レモンを食えばまだ飲める」って、レモンを食わされて（笑）。また乾杯が始まっちゃって……。
――ロシアの洗礼をしっかり受けてきたんですね（笑）。いい経験というか、なかなか貴重な体験ですよ、それは。
大場　はい、いい経験をさせていただきました。
――バトの新人がロシアのVT大会で準優勝というのは、バトラーツにとって久々のグッドニュースですよね。いま、バトラーツは休眠状態なわけですけど、実際の活動はどういうことをしてるんですか？
大場　他団体の試合に出させて頂いたり、自分と同期の佐藤でB―CLUBの会員さんを指導したりしています。
――そして、石川社長と臼田（勝美）選手は串焼き屋もやっているわけですね。
大場　もちろん、社長と臼田さんも他団体の試合に出たりしてますけどね。
――でも、こうなってバトラーツは純化した感じですよね。そうなると原点に戻ったバトラーツの試合をもう一度見てみたいなぁと思うんですけど、その可能性はないんですか？
アレク　ワイは正直言うと去年の8月でバトラーツとの契約は切れて、9月以降はフリーとして参戦してたんですけど、いまは逆にみんなが散り散りになっていなくなっちゃいましたからね。「残った選手と一緒にやっていくのもいいかなぁ」という思いもありましたけど。でも、今年1年間はプロレスの試合をせずに総合格闘技に専念してみようと決意したんで、バトラーツに参戦することは今年中はないと思います。
――シウバ戦という大勝負をやって、もう一回スタートラインに立った感じですか？
アレク　そうですね。とにかく自分がイキイキした闘いをして、シャムロック戦でガクンと落ちた評価をまた上げていきたいですね。そういう闘い方をしていきたいです。
――今年の『PRIDE』は田村潔司選手も参戦するし、パンクラス勢も参戦してくるし、さらには活動停止したリングスの選手も参戦してくるかもしれないですよね。新しい日本人選手が流入してくれば、生存競争もドンドン激しくなりますよ。
アレク　ただ、『PRIDE．4』から参戦して盛り上げてきた人間としては、このまま引き下がれないなという意地がありますよ。
――まあ、今回スタート地点に戻ったという気持ちもあるし、今まで積み重ねてきた経験の違いを見せたいという気持ちもある、ということですね。大場選手は、今後の意気込みはいかがですか？
大場　プロレスもVTも、やっていきたいですね。こないだのロシア大会みたいに突然ブッキングされても対応できるような準備をしておきたいと思います。
――アレク選手も若い頃は『トーナメント・オブ・J』に突然エントリーしたり、リングスにいきなり出たりしてましたもんね（笑）。
アレク　ワイもリングスに初めて出たときは前日に言われたから。
大場　えっ！　そうだったんですか？
アレク　たしか、『トーナメント・オブ・J』は2週間前に言われたし。
――その当時のアレク選手といまの大場選手はまさに似たような立場ですよね。
大場　見習いたいですね。それにしても前日ですかぁ……。
アレク　でも、その方がギャラはいいんだよ（笑）。
大場　ハハハハハ！　そこも見習いたいです（笑）。

【02年1月15日／越谷市「石川屋」にて収録】

おおば・たかひろ■1976年8月14日、埼玉県浦和市出身。180cm、85kg。大学時代にラグビーを経験。その後、バトラーツジム『B-CULB』に入会。アマチュア時代に『PRE-PRIDE』に出場しベスト4進出。2001年7月5日、アレクサンダー大塚戦でデビュー。同年12月15日、ロシアで行われたVT大会『ReMix』に出場し、見事準優勝の成績を上げる。業界の一部では、本誌鬼畜編集長・山口日昇に似ていることから『紙プロ・ファイター』の異名も持つ。

2001.12.23 マリンメッセ福岡
PRIDE.18 DIGEST

イッキシンテン！ ヤマノリが『PRIDE』にちょっとだけリベンジ！

前田への感謝の意と「イッキシンテン」など、試合後はヤマノリ節が爆発。今度はＰＲＩＤＥ戦士を破って、真の意味での『ＰＲＩＤＥ』へのリベンジ達成だ！

○山本憲尚（1R 1分43秒 腕ひしぎ十字固め）
ヤン“ザ・ジャイアント”ノルキヤ●

11秒でＫＯ負けという最悪の『ＰＲＩＤＥ』デビューを飾ってしまったヤマノリ。この日は背水の陣で、『Ｋ－１』の大巨人と対戦。パンチをくらい、ネックロックを取られるなど、ヒヤヒヤさせられたが、最後は十字を取って完勝！　ＰＲＩＤＥルールへのリベンジ成功！

高山轟沈！ ツインタワー対決はシュルトが圧勝！

『ＰＲＩＤＥ』随一の大型対決として注目された一戦。高山はグラウンドで勝つ作戦だったが、ゴング直後グローブを合わせようとしたところに喰らった前蹴りに激高！無謀にもシュルトに打撃勝負を挑んでしまい、組み付いてからの顔面パンチ。そしてスタンドでの顔面への正拳突きで轟沈！これで『猪木祭り』出場もなくなってしまった。高山もう一丁！

○セーム・シュルト
（1R3分9秒 KO）高山善廣×

オーフレイム3連続逆転負け！ ボブチャン復活！

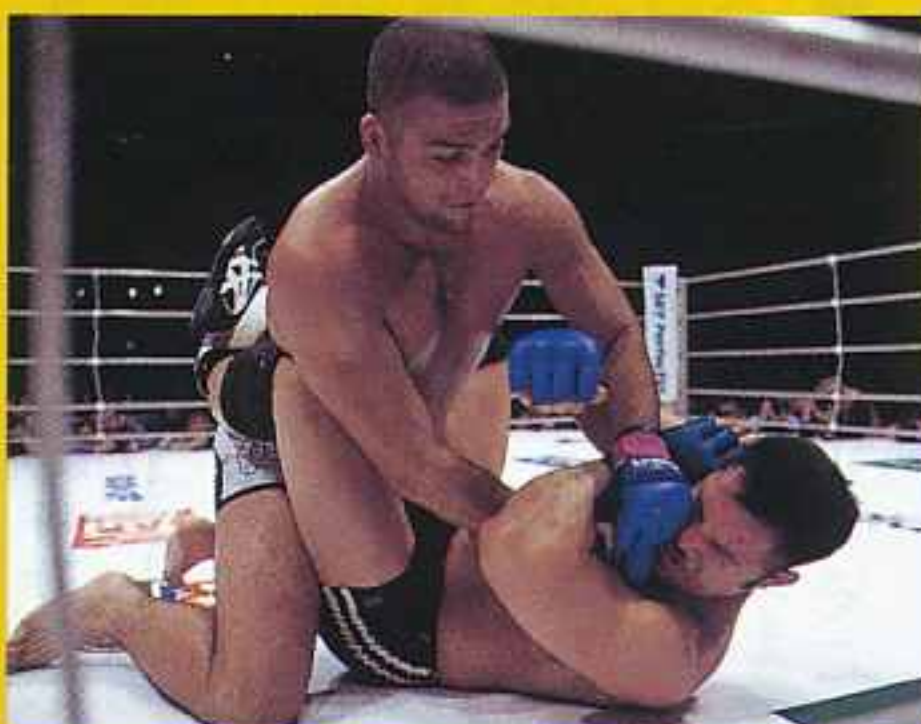
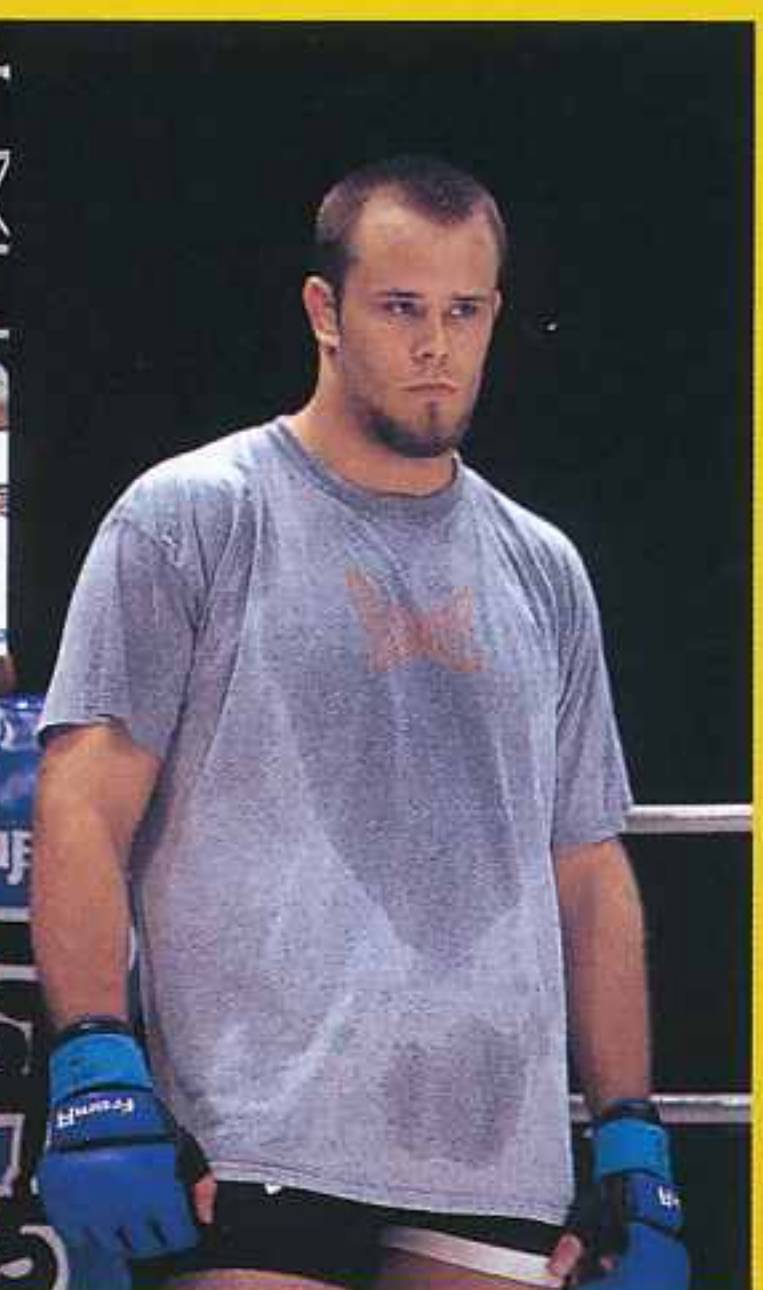
『ＰＲＩＤＥ』参戦以来、序盤から攻め込みながらもツメが甘く逆転負けが続いているオーフレイムは、この日もまったく同じ展開。得意のアキレスを切り替えされ、なんとボブチャンにヒールを極められる失態。実力はありながら、またしても初勝利を逃した。

○イゴール・ボブチャンチン
（1R 2分22秒 ヒールホールド）
ヴァレンタイン・オーフレイム●

リングスからまたしても強者が『ＰＲＩＤＥ』に参戦！

ＫＯＫでは結果を出せなかったが、その実力は誰もが認めるジャレミーが遂に『ＰＲＩＤＥ』参戦。“地味な大ノゲイラ”とも言うべきそのテクニックは隙がなく、実力者・小路を完封。ミドル級戦線にまたひとり強豪が加わった。

○ジャレミー・ホーン
（3R　判定）小路晃●

強い！ 上手い！ スタミナ抜群！ ニンジャ絶好調！

いまやシウバより強いのでは？　の声も出るニンジャ。抜群のポジショニングと底なしの体力でこの日もライオンズデンの刺客を一蹴。

○ムリーロ・ニンジャ（3R　判定）
アレックス・アンドラーデ●

闘うブラピ（？）が粘り勝ち！ ゴエスは終わったか……

菊田に極めさせなかったアレックス。この日もゴエスの寝技に再三ピンチを迎えるも脱出し、スタミナが切れたゴエスにヒザ蹴りで逆転！

○アレックス・スティーブリング
（3R0分47秒　TKO）アラン・ゴエス●

暴走ホームレスが金的蹴りで大暴走

桜庭相手に善戦し、アレク、石川を破った“プロレスラーキラー”を松井がどう攻略するか注目だったが、わずか14秒で終了。松井無念！

○松井大二郎（1R0分14秒　反則勝ち）
クイントン・“ランペイジ”・ジャクソン●

「なんで〝横浜の大将〟と闘いたいかって？ 嫌いだからブッ潰したい!! それだけだよ！」

坂田亘 [EVOLUTION]

「お前んとこの若いヤツやったんだから、横浜の大将出てこいって！」。昨年の12･23『DEEP』ディファ有明大会、パンクラスの窪田幸生を病院送りにした坂田は試合後のコメントルームで、怒りの表情を浮かべ、こう語った。あえて名前は出さなかった坂田だが、パンクラスで“横浜の大将”と言えば鈴木みのるのことである。突然の対戦表明の真意は一体どこにあるのか？ 窪田戦翌日のクリスマスイヴに坂田を直撃してみた。

聞き手／松澤チョロ　撮影／丸山剛史

designed by hisa (Two Three)

――パンクラス、リングスどちらのファンからも注目されていた窪田戦での勝利おめでとうございます！

坂田　そんな注目されてたの？

――三段論法もアレですけど、やっぱり窪田選手は上山龍紀選手と2度引き分けてますし、近藤有己選手が手こずった石川英司選手にも勝ってるってことで、お互いの力関係はどんなものかっていう意味で、各方面で注目されてましたから。

坂田　あぁ、それはあるかもね。

――坂田さん的には勝って当然みたいなところはあったんですか？

坂田　会見の時も俺は言ったけど、どういう勝ち方するかだけだって思ってたよ。

――自信満々に言ってましたよね（笑）。

坂田　まあ勝って当たり前って言うと相手をバカにしてるみたいな言い方で嫌だけどさ。ただプロレスと違って総合だと、いくらキャリアがあっても勢いで負ける時もあるし、勝負は水ものだからわかんないよね。

――で、結果的には窪田選手は試合後、病院に直行という形になってしまったわけですけど、坂田さんも最後のマウントパンチで拳をケガされたみたいですね。

坂田　そうそう。2、3発目のパンチで結構グキッていってたから。「早く止めろ」ってアピールしてたんだけど、実は自分の手が痛かったからなんだよ（笑）。

――そうでしたか（笑）。試合後、窪田選手に対して、「耐えるばっかりが根性じゃない」とか言ってましたけど。

坂田　どう見たって、もうダメだったじゃん。いざ自分が逆の立場だったら窪田選手と同じように意地でも耐えたのかもしれないけど、自分がやる方になってみると嫌だよね。やっぱり選手の気持ちを考えてレフエリーが的確な判断を下すべきだと思うよ。別にこれは悪口でもなんでもないけど、平（直行）さんはブレイクは早いけど止めるのが遅い！（笑）。でも、いい人だから何も言えない（笑）。

――そうですよね（笑）。でも坂田さん的には、リングスを離脱して、道場を立ち上げ、プロレスにも挑戦した激動の一年をうまく締められたって感じじゃないですか？

坂田　う～ん……いろいろあったから、そういう意味では良かったかもね。

――それで、ちょっと前までの高橋戦のアピールから一転、窪田戦後には〝横浜の大将〟を挑発してましたけど、どういった心境の変化なんでしょうか？

坂田　心境の変化っていうか〝横浜の大将〟と違って、高橋選手のファイトスタイルは俺は好きなんだよね。選手として尊敬してるし凄い強いと思うから。パッと見、パンクラスで強さを感じるのは高橋選手と、滲み出る強さじゃないんだけど近藤選手だったりするからね。

――あぁ～、それはわかる気がしますね。

坂田　そういう意味では、高橋選手とはいずれやってみたいし、その気持ちはずっと持ち続けてるよ。ただ、今はUFCに頭が行ってるみたいだし、体重も落とす気ないみたいだからさ。もうやりたくないって言ってるんじゃなくて、俺がこのまま勢い付けていけばいつかどっかで絡むだろうから。それだったら、いくらこっちが挑発してても出てきそうにねえ、弱虫を引っ張り出してやろうかなと（ニヤリ）。

――そこまで言いますか（笑）。鈴木さんとは、口には出さないまでも前々から闘ってみたいと思ってたんですか？

坂田　闘いたいっていうか、潰してやりたいよ、ホントに！（キッパリ）。

――ヒャッ!? そこまで思いっていうのは、リングス時代、パンクラスとモメていた頃から続いてるんですか？

坂田　それもないとは言い切れないけど。

――高橋さんと闘いたいっていうのは、過去に「前田を殺す！」っていう発言とか直接的な因縁があったんで見てる方もわかりやすいんでしょうけど……。

坂田　（遮って）なんかわかるんだよ、高橋さんの気持ちは。高橋さんは前田さんのことを良く思ってないんだろうけど、やっぱりパンクラス愛から出た言葉だと思うし、俺も逆の立場だったら同じようなこと言ったかもしれないしね。それに実際やるとなったら逃げない人だと思うから。

――その当時、高橋さんと違って、船木さんと鈴木さんは、リングスというか前田日明とは絶縁という形を取りましたよね。

坂田　それならそれで良かったんだけど、でも違うじゃない？　実際、俺らの耳に入ってくることは。そのことだけをこの間の試合後、言ったわけじゃないんだけど、陰では「リングスはどうのこうの」って言ってみたりとかさ。ホントかどうかはわかんないよ。ただ、そういうのって火のないところに煙は立たないっていうか、どっかで言ってんだから入ってくるんだろうし……でも、もういいよ、これ以上リングス時代の話は（笑）。嫌がる人もいるだろうし。

――わかりました（笑）。リングス時代の話だけじゃなく、最近の鈴木さんについても気に入らないところがあるわけですか？

坂田　あるよ！（キッパリ）。

因縁のリングス対パンクラス決戦として注目の坂田対窪田戦は、坂田の希望によりグラウンド状態の相手への蹴りもOKというルールで行われた。開始早々、坂田のヒザが窪田の急所に入り試合が一時中断。再開後、差し合いからバックを奪った坂田はパンチの連打で窪田を病院送りに。試合後、坂田は「お前んとこの若いヤツやったんだから、横浜の大将出てこいって！引導渡してやるから。陰でグチグチ言ってんじゃねえよ！」と突如、鈴木みのるに宣戦布告！

Wataru Sakata

―最近の鈴木さんはキャッチレスリングを中心にやりつつ、田村選手、橋本選手、健介選手に対戦表明をして……。

坂田　（遮って）売名行為ばっかりで、何も実現してねえじゃん！　それに、田村さんと大将が試合したとして、それが危ない橋だと思えないし、別にどっちが勝とうが負けようが傷つかないでしょ？　傷つかないって言い方はちょっとあれかもしれないけど、橋本さんにしろ佐々木さんにしろ、そんなにリスクはないと思うんだよ。だけど今のパンクラスで、そういう身を削るような試合をやってるのは、近藤選手であったり山宮選手だったり若い選手ばっかりじゃん。この間、郷野選手が言ってたでしょ。「俺が美濃輪とやるのは10年早いと言ってるヤツ、目を覚ましてください！」って。

―パンクラスマットで、あのマイクアピールは、かなりインパクトありましたね。

坂田　ホントそのとおりだよ！（キッパリ）。そんなのアンタが言うの10年早いって感じだよ。やってから言えって！

―（迫力に圧倒されて）あ、あれは鈴木さんのことだったんですかね？

坂田　俺も、その時は知らなかったけど、そんな風に聞いたよ。

―もし鈴木さんとの対戦が実現するなら、ルールはキャッチレスリングでもオッケーなんですか？

坂田　キャット？　猫ファイトだとしても俺は殴るよ！

―キャットじゃないですよ（笑）。でも、パンクラスマットでは、やりたくないって言ってませんでしたっけ？

坂田　別に、ちゃんとギャラ払ってくれるんだったらいいけどさ（笑）。まあシチュエーションによってはパンクラスでも別にかまわないけど。横浜の大将とだったら、でもDEEPの方が出やすいんじゃない？

―中立のリングになりますからね。

坂田　中立というか、なんだろうね（笑）。パンクラス名古屋支部かと思っちゃうけど（笑）。まあ、それは冗談だけど、次のDEEPは3月に名古屋でやるでしょ？

―坂田さんの地元になりますよね。

坂田　そう。だから、もし大将との試合が組まれたとしても名古屋は俺のホームみたいな感じだから、それが嫌だって言うんなら都内の試合でもかまわないよ。まあ、こういう風に俺が言っても「ふ～ん」とか言って、とぼけるんだろうね、また上手いこと。出てきたらたいしたもんじゃない？

―実際、試合が組まれれば負ける要素は何一つないと？

坂田　それは、やってみないとわかんないけど、ブチのめす自信はあるよ！

―窪田選手の二の舞になると？

（横浜の大将は）売名行為ばっかりで、何も実現してねえじゃん！

坂田　窪田選手との試合はもう終わったことだから。でもね、窪田選手は上山とも二回やってるし、今のパンクラスの状況とか見てると他流試合とか多いじゃない？　そういうのをドンドン経験していったら、俺なんかが言うのもあれかもしれないけど、絶対いい選手になると思うよ。

―そうでしょうね。で、話は変わりますけど、坂田さん的には、真撃での星川戦がプロレス初挑戦になったわけですけど、リングス時代はプロレスをやるなんて思ってなかったんじゃないですか？

坂田　思ってもいなかったよ。プロレスは見てなかったし。まあ今でも勉強で見るぐらいで、そんな見ないけどね。でも前も言ったけど、あの人は好きだよ。

―誰でしたっけ？

坂田　西村（修）さん。あの人の試合は面白い。素敵な試合だよね（笑）。

―あと、前に藤波社長の言動は気になるって言ってましたね（笑）。

坂田　気になるっていうか『紙の新聞』の藤波さんネタが面白いんだよ（笑）。

―あ、そうですか（笑）。やっぱりプロレスをやろうと思ったのはフリーになったっていうのが大きいんですか？

坂田　リングスにいたら絶対できないもんね。

―成瀬さんのように、坂田さんもリングスを出たらプロレスも挑戦してみたいっていう気持ちがあったと？

坂田　いや、全然なかったよ。やっぱりジムのことで頭がいっぱいだったからさ。ただ、橋本さんと話したら、ある意味、前田さんに負けず劣らずのところがある人だなって（笑）。

―それはあるでしょうね（笑）。

坂田　なんか言い方難しいんだけど、俺が持ってたプロレスに対するイメージが変わったっていうか、凄く肩の力が抜けたんだよ。この人ならっていうのを感じたからね。それに今は他の団体から話もないし、最初に声掛けてくれた橋本さんに義理も感じてるし、そういうのもあって橋本さんのとこで勉強させてもらおうと思ってるから。

―星川戦後はプロレスは難しいって何度も言ってましたよね。

坂田　いやぁ～、凄く難しかったねぇ（しみじみと）。ホントに自分でやってわかったけど、ネット野郎なんかがグチグチ書いてんじゃん。いろんな選手に対してだとか、あの試合はどうだとか。まあ詳しく見てねえけど、お前らが言ってるほど簡単なもんじゃねえよ。

―やる前と、やった後ではプロレスに対するイメージが相当変わったと。でも、いまだにプロレスに対してあまりよく思ってない格闘家って多いですけどね。

坂田　そう思うんだったら、相手にしなきゃいいじゃん。レスラーの中にも、バカにされたら「じゃあ俺がやってやるよ！」っていうヤツは絶対何人かいると思うし、プロレスラーを名乗るなら、そうじゃなきゃいけないと思うよ。「じゃあやってやる」っていう強いヤツらの集まりじゃないとダメなんじゃない？

―確かに、強さっていう部分もプロレスラーには絶対必要ですよね。

坂田　でも、そうじゃないヤツもいるからね。素人にも「コイツなら勝てるだろ」って思われるヤツがいるから悪く言われるんであって。みんながみんなそうじゃないと思うよ。絶対強いヤツはいるし。ただ格闘家側がそういう風なことを言うんであれば

……なんか自分も昔そんなようなことを言ったのかなあって思う節もあるけど（笑）。

―どっちかっていうとプロレスは嫌いっていう感じでしたよね。それに、昔から大仁田嫌いで有名でしたし（笑）。

坂田　今でも大っ嫌いだよ！

―やっぱり（笑）。

坂田　まあ今は大先生になっちゃったからね（笑）。でも変な話だよね、格闘技側とかプロレス側っていうのも。俺も別物だと思ってるっていつも言ってるんだけど。

―両方体験してみて坂田さんがプロレスと格闘技が別物だと一番感じるところはどんなところですか？

坂田　そうだなぁ。俺個人の考えで言ったら、プロレスは……う〜ん、難しいなぁ……（と考え込む）。プロレスは地上最強のエンターテインメントというか。格闘技は……俺的には自分の志というか。もちろん、プロレスの方も志を持ってやってるわけだけど……まあ自己満足かな、総合格闘技は。

―自己満足ですか？

坂田　なのかもしれない。自己満足、自己確認。うまく言えないけど。（苦笑）。

―プロレスデビュー戦となった星川戦は振り返ってみてどうでしたか？

坂田　ジャーマンで今でも首が痛いし、もともと頚椎がダメなのもあるんだけど、延髄蹴りも効いたよ。でも、一番効いたのは座ってるとこにドロップキック喰らったヤツ！　あれはホント、よくマンガであるけど頭の回り星がピカピカってあんな感じだったよ（笑）。

―試合では出なかったですけど「ワタル・ロック」っていう必殺技もあるんですよね（笑）。

坂田　あるよ。どんな技かは教えないけどね（笑）。ジム生に掛けたら見映えが悪いって言われたんだよ（笑）。

―威力はあるけど見映えが悪い（笑）。

坂田　そうそう（笑）。素人にそんなこと言われちゃったから、ちょっと改良中だね。異常に効くんだけど見映えが悪い（笑）。

―星川戦後には「高岩は殴りがいがありそう」「その後には大谷、村上と闘いたい」というような発言がありましたけど。

坂田　あと知らないもん。高岩は噛み合うんじゃないかと思って（※その後1・6ZERO―ONEで襲撃）。でも、体重的には俺はジュニアになるんでしょ？

―プロレスの枠で考えるとジュニアでしょうね。

坂田　そういう関係なくしたいよね。

―真撃、ZERO―ONEに上がるからには、最終的には橋本、小川選手とかとも闘いたいということですか？

坂田　もちろん！　そのうち襲撃してやるよ！

―真撃といえば前々回の大会でUWFルールをやってましたけど、坂田さんはUWFルールの試合には興味はありますか？

坂田　相手にもよるけど……でもどうなんだろうな。真撃っていう大会の中で、ひとつだけ違うルールをやるっていうのは、なかなか受け入れられづらいと思うけどね。

―坂田さん的には今の時代の中でUWFルールというのはありだと？

坂田　いや、ありでしょ（キッパリ）。ただ、やるんだったらUWFはUWFでやったらいいと思うし、そんなに簡単にはいかないと思うけど、真撃は真撃、DEEPはDEEP、『PRIDE』は『PRIDE』って、やればいいんじゃないの。でも逆に聞くけど田村さんのUWFスタイルの試合見たくない？

―田村さんレベルの選手の試合だったら見たいですけどね。

坂田　田村さんだって昔のUWFスタイルをそのままやろうと思ってないだろうし。やりようによってはありだと思うよ。

―坂田さんが田村さんとUWFルールで闘ったら、進化したUWFスタイルを見せられるっていう自信はありますか？

坂田　見せられるっていうか、目一杯やると思うよ。声が掛かれば（笑）。でも、今は横浜の大将だね。だって見たいでしょ？　俺がボコボコにするとこ。

―ボコボコにするところっていうか、単純に、その試合は見たいですよ。

坂田　でもね、"人間力"とか、そういった意味では、あの人は凄い人なんだなとは思うよ。

―認めている部分もあると？

坂田　そこは尊敬できるよ。ただ言うだけ言ってやらねえから頭きてるだけで。やれば絶対強いと思うし、キャットレスリングが悪いって言ってるんじゃないけど……。

―キャッチレスリングです（笑）。

坂田　あっそっか（笑）。あのルールで俺がやったら、そこら辺の選手にコロッて負けちゃうかもしれないしさ。それに、その道を極めてるんだったら凄いなと思うんだけど、そうは思えないから。なんか楽な方に行ってるように見えるんだよね。郷野選手のことを「美濃輪とやるのは10年早い」とか、人のことをどうのこうの言ったりしてないで、アンタのところの若いヤツをもっとアピールしてやれよって！　自分だけ目立てばいいのかよって感じだよ。

Wataru Sakata

“横浜の大将”に続き、1・6ゼロワンでは高岩竜一を挑発＆襲撃！

12月の星川戦ではプロレス技の洗礼を浴びながらも最後は強烈な跳びヒザ蹴りで勝利。そして1・6ゼロワン後楽園大会では勝ち名乗りをあげる高岩を「そんな試合で満足してんじゃねえだろうな」と挑発！　星川に続き高岩も跳びヒザで失神KO!　3月のゼロワン両国大会で激突か

坂田の挑発に対し鈴木は「リングで言えば試合ができるんですか？　遊びじゃないんだから」と素っ気ない返答。尾崎社長も「ウチのランカーとやってからでいいんじゃないですか？　今回、山宮と渋谷のオファーを断って窪田とやったんだから。訳わかんないこと言うんなら反則（急所蹴り）しないで勝て」と明らかに不快な様子。突如勃発したこの確執、一体どうなる？

——どこにいても目立ちますからね（笑）。

坂田　後楽園でやった対抗戦だって俺見に行ってたけど、出てもいないくせに大将ヅラしやがってさ……横浜の大将だけに（笑）。アホかって！（と一人ツッコミ）

——実際、横浜の大将なんで、大将ヅラしたっていいと思いますけどね（笑）。

坂田　そうなんだけどさ……まあ、ようは嫌いってことで。

——一番わかりやすいです（笑）。

坂田　嫌いだからブッ潰したい！　それでいいじゃない？　ぶり返すけど、ホント郷野選手とかが、そんなこと言われる筋合いないと思うよ。修斗とかの厳しい環境の中やってきて、パンクラスに乗り込んで来て盛り上げてきたわけじゃない？

——パンクラス対グラバカの対抗戦は毎回盛り上がってましたからね。

坂田　郷野選手だけのおかげだとは思わないけど、客入ってたじゃない？　アンタがそういう試合しろよって感じだよ。でも、俺がこんなことといろんな雑誌で言って、向こうも「あのクソガキ、殺してやる！」みたいな感じで言ってくれたら盛り上がると思うんだけどね。

——それは盛り上がるでしょうね。

坂田　でしょ。それにさ、最近そういった切羽づまった試合ってあの人は何もやってねえじゃん。パンクラスの若い選手達はキツイ試合毎回やってて凄いと思うし、そういう中で近藤選手であったり美濃輪選手なんかは自分っていうものを確立したんだと思うしさ。リアルな言い方で嫌だけど、どうせ若い選手よりいいギャラもらってるんでしょ？……わかんないけど（笑）。

——ボクもわかんないですけど（笑）。

坂田　若い選手だけじゃなくて、冨宅さんとかもリスクのある闘いしてるしね。凄い勇気あると思うよ。この間のＤＥＥＰでの試合だってリスクしかないでしょ？

——そうですよね。対戦相手の長南選手とはキャリアや知名度を考えるとリスクだらけでしたからね。

坂田　でしょ。ただ格闘技って、一対一で日時が決められたケンカみたいな感じだから分かりやすいだけで、どんな世界でも競技者だったら下克上ってあると思うし、そういう意味では冨宅さんは凄い勇気あると思うよ。それに哀愁が漂ってたしね（笑）。

「ここまで言われて逃げるのか、大将!」って書いといてよ!

——漂ってましたねぇ（笑）。

坂田　まあ、いつかは俺もそんな時が来ると思うけど、そういう時に、あの人みたいになりたくないよね。「キャッチレスリングしかやらねえ！」みたいな。

——かなりキツイ発言を連発してますけど、そんなに言って大丈夫なんですか？

坂田　これでも言葉選んでるつもりだよ。ホントに俺は腹たってるからさ。

——鈴木さんと高橋さんとでは同じ「闘い」でも感情は全く違うわけですか？

坂田　全然違うよ！　さっきも言ったけど高橋さんは尊敬してるから。今さら「陰口なんて言ってねえよ！」って言われてもしょうがないんだけど、実際、陰口叩いてるっていうのが耳に入ってきたからね。それに、前田さんだって、あの人に対しては、よく思ってないでしょ？

——そうみたいですね。

坂田　俺にこれだけ言われるのも、そういうところからきてるんだと思うよ。

——鈴木さんは10月の横浜大会で「まだまだ引退なんてしねえぞ！」って言ってましたけど、早い時期にやらないと意味はないですよね。

坂田　もちろん！　何年も待つ気なんてないよ。そうしたらドンドンへぼくなっちゃうだけだし。あっ、あとさ、窪田選手が倒れてる時、伊藤（崇文）君とかが俺にガンたれてたんだよ。

——そうなんですか。

坂田　頭にきたんだったら、その場で言えって感じだよ。その時、言ってくれるんだったら考えても良かったけどね。

——あとから、「鈴木さんの前に俺と闘え！」って言ってきても受け付けないと。

坂田　そうだね。俺はその場で横浜の大将って言ったんだからさ。前田さんもよく言ってたけど、ガン飛ばしたり強気に見せたりとかは誰でもできるんだよ。本気でそういうヤツだったら真っ先に「俺とやれ！」ってくるだろうし。

——そういうもんでしょうね。

坂田　でも、あんだけ睨むんだったら来て欲しかったよね。街中で、あんな誤解されるような目で見てたら間違いなくブッ飛ばすぞって感じだよ。

——でも、『ＰＲＩＤＥ』の広告じゃないけど、路上なら警察沙汰ですよ（笑）。

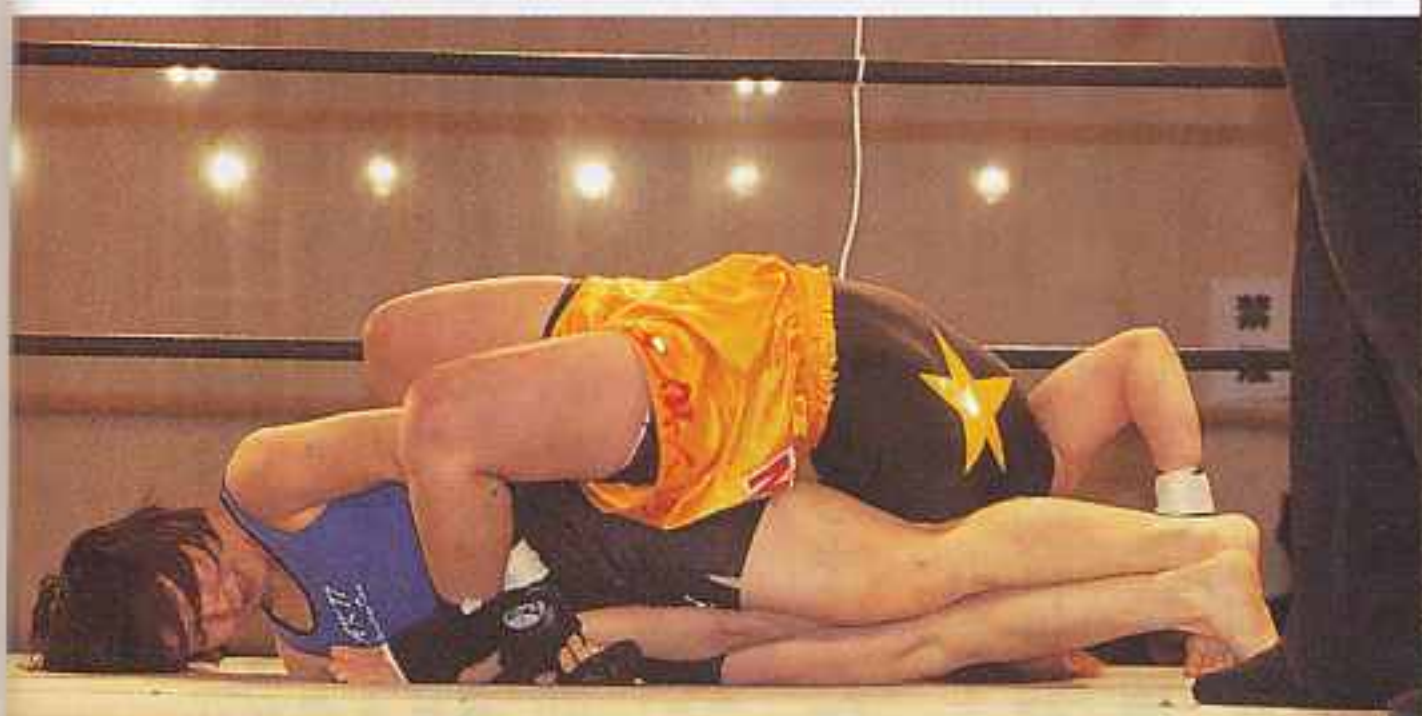
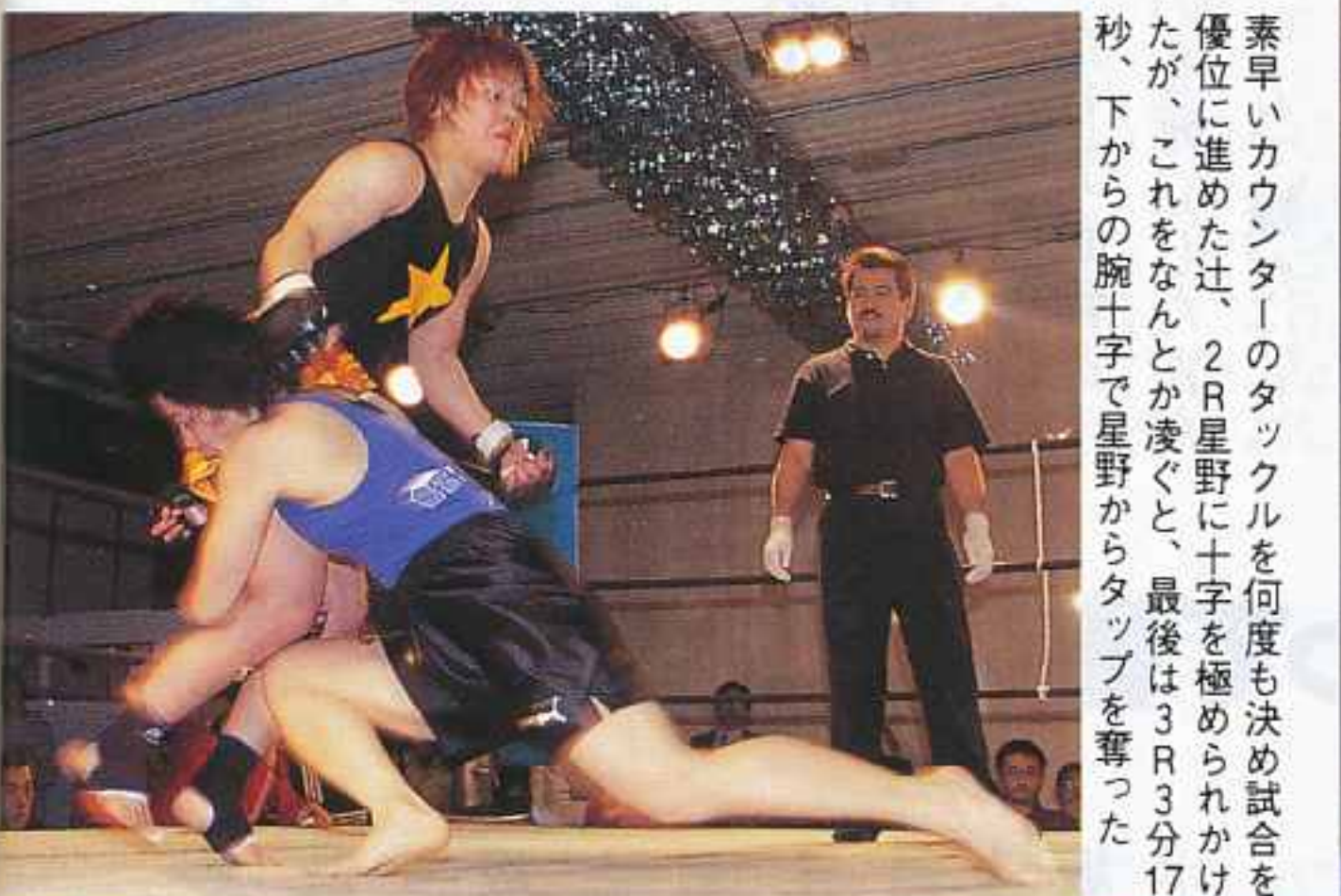
坂田　そうか（笑）。

——今は鈴木さんしか眼中にないと？

坂田　そう。「ここまで言われて逃げるのか、大将！」って書いといてよ（笑）。

——わかりました（笑）。横浜の大将との試合が実現するよう期待してます！

【01年12月24日／東京・品川区『食飲市場・だいどころ』にて収録】

星野の2001年最後の対戦相手はアマレス出身の強豪・辻結花。試合開始早々、辻のタックルと星野のローキックが激しくクロス！

タックルだけでなくパンチや関節でも星野を追い込んだ辻。1R中盤、完全に極まったかと思われた腕十字から必死に逃れる星野

素早いカウンターのタックルを何度も決め試合を優位に進めた辻、2R星野に十字を極められかけたが、これをなんとか凌ぐと、最後は3R3分17秒、下からの腕十字で星野からタップを奪った

誰が何と言おうと 2001年 女子プロ大賞は 星野育蒔、お前しかいない!!

マァ☆ティン、涙々の初黒星!!

文／松澤チョロ
撮影／丸山剛史
designed by gutty（Two Three）

マァ★ティンが負けちゃった！　なんて、新日の解説者の本のタイトルみたいな書き出しをしてみたが、そういうことなんです！

去年のReMixで柔道界の強豪・タチアナを破り、衝撃のデビューを飾ったマァ★ティンこと星野育蒔。その後も、スゲェ試合を連発、気がつけば総合の世界では驚異の年間7連勝という結果を残してきたのが星野なのだ。連勝記録という点だけを見ても十分評価できるが、星野の試合は勝ち負け以外にも、いつだってプラスアルファがてんこ盛り。女版・美濃輪と言えばわかってもらえるか。

そんな星野に初黒星が付けられた。やっぱり抜群に面白い試合を見せながら。もちろん対戦相手の辻結花も素晴らしかったが、この一敗で星野の価値が落ちることはないはずだ。むしろ、本人が言っているとおり「サンタがくれた苦いプレゼント」と受け取って、再び“最強”目指して走り出してもらえれば、それでかまわない。

そんなボク的には、2001年のプロレス大賞は文句なしで星野育蒔なのである。昨年の　東スポ　のプロレス大賞は武藤が選ばれたわけだが、確かに星野は武藤のように何本もベルトは持っていないし、当たり前だがスキンヘッドでもない（自らがエースの団体を飛び出してるのは一緒だが）。

そんなネタはさておき、ボクは本気でそう思っている。当然、「星野はプロレスラーじゃないだろ」とか「試合も見たことない」とか、ヘタすりゃ「星野って誰？」ってツッコミもあるだろう。いや、星野の活躍を知っている人からも「新人賞でいいじゃん！」なんて言われるかもしれない。確かに。

だったら、ノブ兄さんばりに一億万歩譲って、星野には女子プロ大賞を差し上げたい。つーか、東スポ　の女子プロ大賞って誰

Jd' NO HOLDS BARRED 2002
1・13後楽園ホール

昨年10月から約2ヶ月に渡り"本業"のプロレスを離れ、オランダでの武者修行ならぬ武者旅行(本人談)を終え帰国した藪下めぐみと、第1回ReMixで、その藪下を下し優勝したマーロス・クネーンとの再戦が実現した1・13Jd'後楽園大会。結果は1R2分27秒、チョークスリーパーで藪下の完敗。「今までで一番悔しい。クーネンやトーヒルとは勝つまでやりたい」と涙まじりに再戦をアピールした藪下だが、柔道時代の貯金だけでは太刀打ちできないくらいレベルアップしたクーネンに、今のままの藪下が再度挑んでも結果は変わらないはず。どの道を行くのか? 藪下に決断の時が来た!

藪下、クーネンに返り討ち! そして涙のリクエスト!!

ゴルドーやアイブルらとの打撃特訓が裏目に出たか、キックを繰り出し打撃の間合いで闘う藪下にクーネンの鋭いヒザ蹴りが顔面を直撃! 試合後の検査で藪下は鼻骨骨折と診断された

身長差19センチのクーネンと藪下。その体格差を活かしクーネンは上から下からパンチ&ヒザをブチ込む。最後はクーネンのチョークの前に藪下はたまらずタップ。リングには藪下の鮮血が……

試合後「格闘技をやってきてこんなに悔しいと思ったのは初めてなんですけど、これからもプロレスと両立してやっていきたいと思います」と涙声でアピールした藪下。正直、藪下の泣き顔は見たくない。あのグンダレンコ戦での戦闘スマイルをもう一丁!

女子総合格闘技『AX』
『We Want To Shine 〜輝きたいの〜』
12・26 六本木CCCホール

レスリングの実績は国際レベルの辻。現在は大阪にある総合格闘技ジム闇愚羅(アングラー)に所属。他にも週二回、ボクシングジムにも通っているという。女子総合に新星誕生!

試合後、悔し涙の止まらないマァ☆ティンはデビュー以来初のノーコメント。控室で落ちつきを取り戻そうと精神統一!

試合後、花道で辻の勝利を称える山本美憂。ちなみに妹の聖子と辻はレスリングでは何度も対戦経験がある。控室に戻るとリングスの横井が辻の勝利を祝福。聞くと、横井は大阪時代に辻の所属する闇愚羅でも練習をしていたとのことで辻とも旧知の間柄だという。

女子総合にアックスボンバー! 台風の目、続々あらわる!!

女子キックで活躍するジェット・イズミが総合初挑戦。相手は禅道会の金子真理。総合でのキャリアが上の金子が有利かと思われたが、イズミのジェット級のヒザが金子を直撃、僅か85秒の衝撃KOデビュー!

サンボの強豪・しなしさとこはプロレスラーの亜利弥'と対戦。10キロ以上の体格差に苦しみながらも最後は1R2分29秒、豪快な投げから腕十字を極め勝利。しなしは2月3日のスマックガールにも出場する

東スポ　の女子プロ大賞って誰よ? この問題に答えられない人は、なにげに多いと思う。(ちなみに正解は全女の伊藤薫)。

紙プロ　読者の中には、いまだに女子プロ&インディーは「興味なし!」の一言で、済ましてしまう層が多い。最近やっと闘龍門や葛西純などが評価されてきてはいるが、正直、女子プロファンは数少ない存在である。いくら「スマックがやばい」だとか「マァ★ティンを見ろ」なんて言っても右から左へ状態なのかもしれない。それはあまりにももったいない。

この際だから言っとくが、星野に限らず今の女子の総合は、女子プロ嫌いでも、PRIDE好きでも、なんならモーヲタでも十分楽しめると思う。WWFとかと同じように小難しいことは考えず理屈抜きで見てもらえれば理解してもらえるはず。で、やっぱりオススメはマァ★ティンの試合! 次の試合は修斗の大会みたいだけど、詳しいことは各自調査!

SMACK GIRL FIGHTING ENTERTAINMENT

2・3ディファ有明

スマックガール、遂に復活

注目は日本人女子レスラー＆格闘家史上最長身長180cmのトップモデルの出場だ！

傷つけられたら、モデル仕事に影響があるんで、やられる前に必ずやっつけます！

中村珠美【禅道会】

昨年の女子格闘技界に風穴を空けたスマックガールがパワーアップして帰ってきた！　これまでもコギャル系からミニモニ系、女子大生にキャバクラ嬢、さらには佐賀のビックリみかんまで、スマック出場選手は、とにかくキャラクターの宝庫であった。そして今回、再スタートとなるスマックの目玉は、なんと現役のモデルさん。世界でも活躍するモデルだけに、身長はジャイ子もビックリの180センチ！　しかも対戦相手はレースクイーンというからたまらない。早速、現役モデルファイター・中村珠美を直撃！

——復活したスマックガールに、現役バリバリのモデルさんが出るって聞いて急いで確かめに来たんですけど……ホ、ホント大きいですねぇ。

珠美　私、生まれつき大きかったんですよ（笑）。こればっかりはどうしようもできなくて。

——プロフィールには身長180センチって書いてますけど、サバ読んでないですよね？

珠美　それは大丈夫です（笑）。

——モデルとしては主にどういった活動をされてるんですか？

珠美　やっぱり身長が大きいんで、ショーがメインですね。あとは雑誌モデルとかもやってます。

——聞くところによると、モデル的には女の子で180センチって大きすぎるみたいですね。

珠美　大きすぎますね。

——それは海外でも？

珠美　そうなんですよ。180あると仕事も取りづらいんで、（小声で）モデルのプロフィールはちょっとサバ読んでます（笑）。

——へぇ～、そういうもんなんですか。ショーモデルが中心ということですけど、さっき見せてもらった資料を見ると、キムタクとも共演してるんですね。

珠美　一応、共演してます。足タレとしてなんですけど（笑）。TBCの広告だったんですけど、プールサイドでキムタクを跨いでました（笑）。

——キムタクを跨いだ女なんだ（笑）。

珠美　はい（笑）。あと髪の毛をアレンジして2メートルぐらいになったりもしてます。

——2メートル！　頭の先からつま先まで、全身が商売道具なんですね？

珠美　使えるとこは残すとこなく使おうかなと（笑）。

——で、今回の対戦相手は元レースクイーンってことなんですけど、それを聞いた時はどう思いました？

珠美　いや、相手は特に関係ないです。でもきっと面白いでしょうね、レースクイーンvsモデルってことで。

——人ごとみたいですね（笑）。

珠美　私はモデル代表として頑張ります！（キッパリ）。

——でも、モデルってことは試合で傷でも付けられたら商品価値はガクンと落ちちゃうんじゃないですか？

珠美　（即座に）落ちます！　それは困りますね（苦笑）。

——その辺の対策はできてるんですか？

珠美　対策っていうか、試合の2週間後にモデル仕事が入ってるんで、やられる前に倒すしかないですね。やられる前にやっつけろって感じで（笑）。

モデルになる前は日体大でバスケをやってて、一応、全国優勝してます！

―対戦相手の中嶋さんはテクニック云々っていうよりも、女の感情をもろに剥き出しにするって感じで……どっちかっていうとケンカ系ファイターなんですよ。

珠美　ビデオでちょっと見たんですけど、そんな感じですよね。

―ボクは珠美さんの動きを見たことないんでアレですけど、正直、傷はつきそうな気がしますね（笑）。

珠美　そうなんですか（笑）。（顔をガードして）こう押さえて、なんとか防ぎます！

―頑張って防いで下さい（笑）。ところで、珠美さんは格闘技経験って、どれぐらいなんですか？

珠美　いや、これまでは全くなくて、禅道会に入ってまだ半年です。

―エッ、半年？

珠美　（恥ずかしそうに）はい（微笑）。

―何かきっかけはあったんですか？

珠美　8月9日に入ったんですよ。自分の誕生日に。たまたま禅道会で教えてる方と知り合いになって。やっぱ体育会系だったんで…。

―体育会系だったんですか？

珠美　そうなんですよ。大学までバスケットボールやってましたから。バスケは12年間続けましたね。

―12年間も。それは凄い！

珠美　日体大のバスケ部だったんですけど、一応全国優勝してますし。

―日体大のバスケ部っていったら、ベンチ入りするだけで凄いですけど、珠美さんはレギュラーだったんですか？

珠美　ベンチには入ってて、たまに交代して試合にも出てましたね。

―モデルの仕事っていうのは大学を卒業してから始めたんですか？

珠美　そうです。卒業後の進路はモデルに進もうと思ってたんで。

―大学卒業後は、すんなりとモデルになれたんですか？

珠美　あっ…おかげさまでなれました（笑）。「もう絶対自分は運動はしないぞ！」ぐらいの勢いでモデルの世界に入ったんですけど、また今こんなことやってるじゃないですか？　やっぱり私って体育会系なのかなぁと（笑）。

―そうかもしれませんね。

珠美　やっぱりモデルをやってるとストレスも溜まるし、運動もしたいなと思ってる時に禅道会の方と知り合って、話を聞いてたら面白そうでノリもいいし、入っちゃおうかなと思って。どうせだったら記念に誕生日に入っちゃえって。25歳のバースデープレゼントということで入門したんですよ（笑）。

―自分への誕生プレゼントに（笑）。練習はどれぐらいのペースで？

珠美　週2回とか3回です。

―もしかして、今度の試合が初めての試合になるんですか？

珠美　いや、禅道会の大会で一試合してるんですよ。その時は負けちゃったんですけど、面白かったですね。まだまだ自分は、やらなきゃいけないことがいっぱいあるなと思って。

―今回、スマック参戦の話を聞いた時は、どう思いました？

珠美　あぁ、面白そうだな、出してくれるなら出してくれ！　みたいな。

―モデルっていう、人に見られる職業としては、やっぱり人前で闘うのは楽しみですか？

珠美　とても楽しみですね。

―やるからには当然、負けることは考えてないとは思うんですけど、正直、不安はあります？

珠美　負けることなんて考えないです。だって嫌じゃないですか？　殴られたりギブアップしたところを撮られたりするのは。

―そうですか。でも、撮られたりってところがモデルさんらしいですね（笑）。あと、モデルさんということでコスチュームも期待してるんですけど。

珠美　どうなんでしょうね？　コスチュームは禅道会の方に作ってもらってるんで。

―お任せなんだ。「こんなのにしてくれ」とか希望は言ってないんですか？

珠美　希望とかは特に。さすがに下着姿とかだったら「エ～ッ！」って言いますよ（笑）。

―ヒャハハハ。これからもモデルと格闘技は両立してやっていくつもりなんですか？

珠美　両立したいですね。

―格闘技での目標は何かあります？

珠美　う～ん、目標は……強くなって有名になって、「格闘技界に珠美あり！」って言われるように（笑）。「だけどモデルなんだって」みたいに両方にプラスになればいいなと。あと、格闘技系の雑誌の表紙とか飾れたら嬉しいですよね。

―モデルとしての最終目標は？

珠美　もっと海外のショーに出たいですね。あと、いろんな服を着たいですね。

―さっき、試合の2週間後にモデル仕事が入ってるって言ってましたけど、それはどんな内容なんですか？

珠美　ヘアーショーなんですけど。

―ヘアーショーって言っても、顔中、傷だらけってわけにはいかないですよね。

珠美　はい。それに、その時の衣装が足を出すような感じなんで、足も気をつけないと（笑）。ちょっとぐらいだったらファンデーションで隠せるんですけど。

―よく、胸に1億円とか保険をかけるタレントとかいますけど、珠美さんも必要になってくるかもしれませんね。それも全身に（笑）。

珠美　そうですね（笑）。

―ちなみに、珠美さんの得意技ってなんなんですか？

珠美　得意技ですか？　得意技は……まだ、開発中です（笑）。

―打撃とグラウンドだったら、どちらが得意なんですか？

珠美　やっぱり、希望としたら打撃だけで倒したいですね。なるべく身体に触れられないように打撃で突き放したいなと（笑）。

―触るんじゃねぇ！　と（笑）。

珠美　ええ（笑）。傷つけられる前になんとか倒したいと思ってます（笑）。

―かなり緊張感のある試合になるでしょうね（笑）。頑張って下さい！

【02年1月12日／スマックガール事務所にて収録】

見てみ、この身長差！

180cm

147cm

なかむら・たまみプロフィール

1976年8月9日、神奈川県藤沢市出身。身長180センチ、体重58キロ。B83W61H88。足のサイズ25・5センチ　★血液型＝A型　★好きな食べ物＝硬いパン　★嫌いな食べ物＝鯛（ビジュアルがダメなんです。特にあの赤い鱗が）　★好きなタレント＝及川光博　★目標とする格闘家＝特にいません。ただ、石原（美和子）先輩は凄い素敵な選手なんで技とか見習いたいです　★ライバル＝自分自身　★今年の抱負＝一日一日、元気で楽しく過ごす　★趣味＝散歩、バイク＆車の運転、写真を撮ること　★チャームポイント＝クールかつキュートなとこかな。クールにもなれるし、カワイイ系にしろって言われれば、それなりに（笑）　★好きな場所＝海が好きです。あとバカじゃないんですけど高いところが好きです（笑）

モデルVSレースクィーン　勝者はどっちだ!?

中村の対戦相手は元レースクイーン（現在はコンパニオン）中嶋智希。既にスマックやAXでも活躍している中嶋。その負けん気の強さと、巨乳がこぼれ落ちそうになる危なっかしいコスチューム姿は必見！　顔＆身体に傷が付くことを心配している中村だが、中嶋は過去に経験済み。試合で青アザを作り仕事ができなくなったこともあるという。昔は男も平気で殴っていたという中嶋相手に中村は無傷でリングを降りることができるのか？　ズバリ言って注目です！

初の総合タッグマッチに出陣するのは元女子プロ仲良しコンビだ!

小さな荒鷲 坂口一美

元全女&元ネオ練習生 関口瑠美

——スマックで初めてのタッグマッチに出ることになった、元女子プロ……元女子プロコンビでいいですかね?

坂口 はい。でも格闘技で慣れてきたら「2人でプロレスに戻りたいね」って。やっぱりプロレス好きなんで。

——関口さんは全女でデビュー後、ネオの練習生だったってことですが、試合は何年振りぐらいになるんですか?

関口 え~、どれぐらい振りだろ? 凄い……凄い振りですよ、きっと(笑)。

——関口さんはマット界から離れている間、何をやってたんですか? まあ言える範囲でいいんですけど(笑)。

関口 う~ん、記憶が止まってる(笑)。全女辞めて……私、何やってたのかなぁ?

——全女は円満退社だったの?

関口 微妙ですねぇ。今でも気まずい(苦笑)。

——で、今回はどういった経緯で出ることになったの?

関口 前にも何度か話はあったんですけど、でもスマックって格闘技じゃないですか? 私はプロレスが大好きだから迷ってた部分もありましてですね。なんかプロレスやめてから自分がわかんなくなっちゃって。いろいろあったんですけど、折角なんで出てみようかと(微笑)。

——女子の総合でタッグマッチは初めてなんですけど、どう思います?

坂口 やっぱり、今まで前例がないから、やらせて頂けるのは凄い光栄です。

——で、対戦相手は、しなし(さとこ)さん&X組ってことなんですけど。知ってます、しなし選手って?

関口 し、知ってます……サンボ!

坂口 凄い素晴らしい選手なんで、せめて気持ちだけは負けない様に(笑)。

——気持ちだけは(笑)。元女子プロだけにタッグでは負けられないよね。

坂口&関口 はい!

——タッチする前にタップしたりしないで下さいね(笑)。

坂口 ヒッド~イ! でも向こうは狙ってきますよね、秒殺(笑)。みっともない試合をしない様に頑張ります。

関口 私は、やれることを精一杯頑張ります(笑)。あ、私、みちのくプロレスに出たいんですよ。岩手出身で、ちっちゃい頃から観てたところだから。それに、サスケさんに「瑠美は大きくなったら絶対プロレスラーになるんだ」って言ってたんですよ。

——へぇ~。夢が叶うといいですね。

関口 出れるように頑張ります。

せきぐち・るみプロフィール
デビュー戦の相手は先頃引退したばかりのワッキー。全女時代にテレビで特集が組まれ注目を浴びるも脱退。その後、ネオに入門するがこれも脱退。今回が格闘技戦、初挑戦となる。

さかぐち・かずみプロフィール
デビュー戦は高1の頃、佐山聡や剛竜馬なども出場していたプロレスショップ「プロレスマニア館」主催興行という変わり種。ちなみに、その翌年はSPWFで千春とも対戦している。

"ミクロの決死隊"改め"北の最小兵器"ナナチャンチン プチインタビュー

ミニモニ系女子総合格闘家。自画像の前でポーズ(RVDのパクリ)をキメるナナチャンチン(年齢不詳)。みんなも一緒に「ナナ・チャン・チン!」と会場でコールしよう! ちなみに好きな格闘家は矢野卓見。

安田さんみたいに、私の試合で感動させたいです!

——スマックガール復活一発目の意気込みを聞かせて下さい!

ナナ もちろん"勝つ"が目標です!

——今までのナナチャンチンの戦歴って何勝何敗になるんだっけ?

ナナ (寂しそうに) 0勝5敗です。大晦日に、闘魂注入してもらおうと思って猪木祭りに行ったんだけど、してもらえなくって。それがあったら今度の試合は絶対いけるのになぁ。

——それもどうかと思うけど(笑)。で、今度の対戦相手はアマレス出身の選手みたいですね。

ナナ まあ打撃系の選手とやるよりはいいかな。ただ、今回はヘッドギアなしみたいなんだけど、まだ、その感触がわからないんで正直不安です。それに5分3Rだから、今はスタミナ付けるのが最優先。前に坂口さんと試合した時、5分2Rでやったんですけど、それでも凄い死にそうだったんで。

——死ぬ気で頑張って下さい(笑)。ズバリ、勝算は何%ですか?

ナナ 100%と言いたいところですけど……99%!(笑)。

——今回は、かなり自信があると?

ナナ 今回っていうか、いつも絶対勝つ気でいますよ!(キッパリ)。

——それは失礼しました。

ナナ 私は相手がどんなに強くても、それに立ち向かっていくっていうファイティングスタイルが好きなんですよ。この間も安田さんの試合を観て、感動して涙が出てきちゃったんで、今度は逆に私が、みんなを感動させられればいいなって思ってます!

——キャッチフレーズも"ミクロの決死隊"から、ナナチャンチンらしく"北の最小兵器"に変わったみたいだし、一気進展、頑張って下さい!(笑)。

ナナ はい! 頑張ります!!(かなり、ちっちゃなガッツポーズ)。

スマックガール実行委員会代表・篠泰樹が語る復活スマックの見どころ

スマックガール、3月大会は3・2(土)ディファ有明での開催が既に決定済み。ドスJr.やカネックの活躍に触発されたルチャドーラや某有名女子格闘家の参戦も噂されており、こちらも見逃せない。現在の日本マット界唯一とも言える、大型プロジェクターやスタジオなども備えたスマック新事務所にて新たな作戦を練る篠泰樹代表

さぁ、消滅するはずだった? SMACKGIRLが装いも新たに、よりパワーアップして帰ってきます。開催場所も渋谷の会場では入りきらなくなっていたので、ディファ有明に移動! 平日開催だと厳しいという声を拾って週末開催となって(年間を通じて会場は確保しました)、観戦料金もお手ごろ価格で提供させて頂きます。もちろん、中身もパワーアップ! 従来のレギュラーメンバーに加え、高橋洋子、石原美和子と女子総合の先駆者をはじめ、ワクワクドキドキする新メンバーも多数参戦、3月大会もアッと驚く選手の参戦があります。テレビ放映も決まり、地方の皆さんにも楽しんで頂けるような環境の中、今年は必ずやSMACKGIRL飛躍の年になります!

格闘エンタテインメント

SMACK GIRL☺

~Pioneering Spirit~

2002・2・3(日)ディファ有明

試合開始18:30

★第一試合 ナナチャンチン(147cm/43kg/チーム南部)vs川又尚美(161cm/47kg/フリー)

★第二試合 中嶋智希(174cm/55kg/インプレイス)vs中村珠美(180cm/58kg/禅道会)

★第三試合 久保田有希(170cm/68kg/チーム荒武者)vs金井広美(165cm/66kg/GF2所属)

★第四試合 高橋洋子(170cm/68kg/三晴塾所属)vs張替美佳(156cm/61kg/GF2所属)

★第五試合 しなしさとこ(150cm/44kg/Freely Chambers)&超強豪X(?cm/?kg/?)VS坂口一美(150cm/42kg/GF2)&関口瑠美(159cm/48kg/フリー)

★第六試合 石原美和子(155cm/74kg/禅道会)vs市村幸恵(160cm/58kg/GF2)

★第七試合 篠原光(170cm/63kg/電撃ネットワーク・チーム南部)vsドレイク森松(163cm/82kg/フリー)

■入場料金:全席自由 3,500円(当日500円増)

■問い合わせ:スマックガール実行委員会 03-5447-8483

※2・3 SMACK GIRL ディファ有明大会の模様が2月12日の19:00から『FIGHTING TV SAMURAI!』でオンエア決定!

『PRIDE』ジャッジ、元髙田道場レスリングコーチ、
そして“金メダルをなくした男”としてお馴染みの
元祖・元気の出る男がプロレス＆格闘技界を語る!

あの“金メダルをなくした男”が安田のレスリングテクを絶賛!?

ソウル五輪レスリング金メダリスト

小林孝至

アルファイトとエンテーテインメントの極分化が進むマット界。だが、平成元、リアルファイトの世界で輝かしい実績残しつつ、バラティーの世界でも活躍した一人の格闘家が存在した。そう。ソウル五輪のレスリング金メダリストである小林孝至（たかし）さんだ。一般的にはあの“金メダルをなくした人”として著名な方であり、『元気が出るテレビ』では無茶で無体な企画に身体を張って応えてきた。そんな小林さんに、現在の格闘技界、アマレス界、そして、奇想天外な半生を語っていただいた。

聞き手／中村カタブツ君（38歳）
助手＆撮影／松澤チョロ
designed by matsu（Two three）

“ミクロの決死隊”改め“北の最小兵器”ナナチャンチン

初の総合タッグマッチに出陣するのは元女子プロ

―今日はソウルオリンピック金メダリストとしても、その金メダルをなくした男としても有名な小林孝至さんに、最近の格闘技界についてを中心に、お話を伺いたいと思っております（笑）。

小林　はい、お願いします（笑）。

―ところで、今日は金メダルの方は持ってきていただけたでしょうか？（笑）。

小林　持ってきましたよぉ。

―忘れてきてくれると、それはそれで面白いかなって思ってたんですけどね（笑）。

小林　やめてよ！（苦笑）。もういいですよ、あんな思いは。

―ということで、あんな思いも含めて聞きたいと思ってるんですけど、ちなみに、現在はサラリーマンとしてジャパンビバレッジの社員の他に、『PRIDE』の……。

小林　ジャッジですね。

―いま、『PRIDE』には、石澤さんや藤田さんといった、アマレス界で実績を残した選手が活躍してますけど、どういう風にご覧になってますか？

小林　やっぱり、後輩というか…先輩方もいますからね、困ったことに（苦笑）。

―あっ、谷津さんとかいますからねぇ（笑）。

小林　一昨日、一緒だったんですよ（苦笑）。やっぱり、ああいうところ見ると……。シビアな世界ですからね。ケガしないでほしいっていうのが、まず第一ですよね。

―谷津さんは、かなり粘りましたからね（笑）。あのとき、ジャッジは？

小林　避けてました（笑）。完全に感情が入りますからね。

―取材依頼の電話をした時も、感情が入るからプロレスとか格闘技の試合は、なるべく見ないようにしてるって言ってましたもんね。

小林　出来るだけ感情を入れないように努力はしてますけどねぇ。あとで見返してみると、やっぱり少し入ってるんですよねぇ（しみじみと）。

―入っちゃいますか（笑）。だけど、入っちゃダメですよね、ホントは。

小林　ダメなんだけど入っちゃうんですよねぇ。そういう試合がはっきり言って、今まで2、3試合あるんですよ。

―正直ですね（笑）。小林さんなら、それもOKでしょう（笑）。

小林　いやいや。それとやっぱり、会場の雰囲気に呑まれてるケースもありますね。例えば、『PRIDE』で髙田さんとミルコがやりましたけど、あの時、ミルコが酷いこと言ってたじゃないですか？

―ええ、髙田さんはチキンだとかどうだとか。

小林　あの状況を私が後でビデオで見たのと、その場で見てたのは全然違いますね、印象が。

―最初見た時は？

小林　最初は生で見てるでしょ？　そうすると、「何で髙田さん、逃げてばっかりいるんだ」っていう気にはなったんですよ。それが一番目立ちましたよね。でも、ビデオで冷静に見てみると、ミルコも全く同じことやってるんですよ。ただ、どっちのアクションが派手だったかというと、髙田さんの逃げ方が派手だったから目立っただけですよ。

―確かに派手でしたね（笑）。

小林　だから、髙田さんばかりを責めるのは絶対おかしいと！　これは今日は一番言いたいことなんですよ！

―分かりました。それは必ず書いておきます。髙田さんは今でも「アマレスでオリンピックを目指したい」と言ってますけど、それについてはどう思いますか。

小林　……ハッ、ハハ（苦笑）。

―微妙な顔してますね（笑）。「まだ夢は捨ててない」って言ってるんですけど。

小林　そうですねぇ…。基本的にもう少しアマレスの基本を習わないと難しいですよ。アマのタックルとしてはまだまだですからね。それとやっぱり、せめて一本背負いとか、そういう系統の投げとかね。やっぱりそういうのも必要だ

あれはリスクを回避しながらの、非常に上手いタックルですよ！

金メダリストの壮絶人生に触れる
実録! 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

あれが谷津さんのタックルだと思われると心外ですよ!

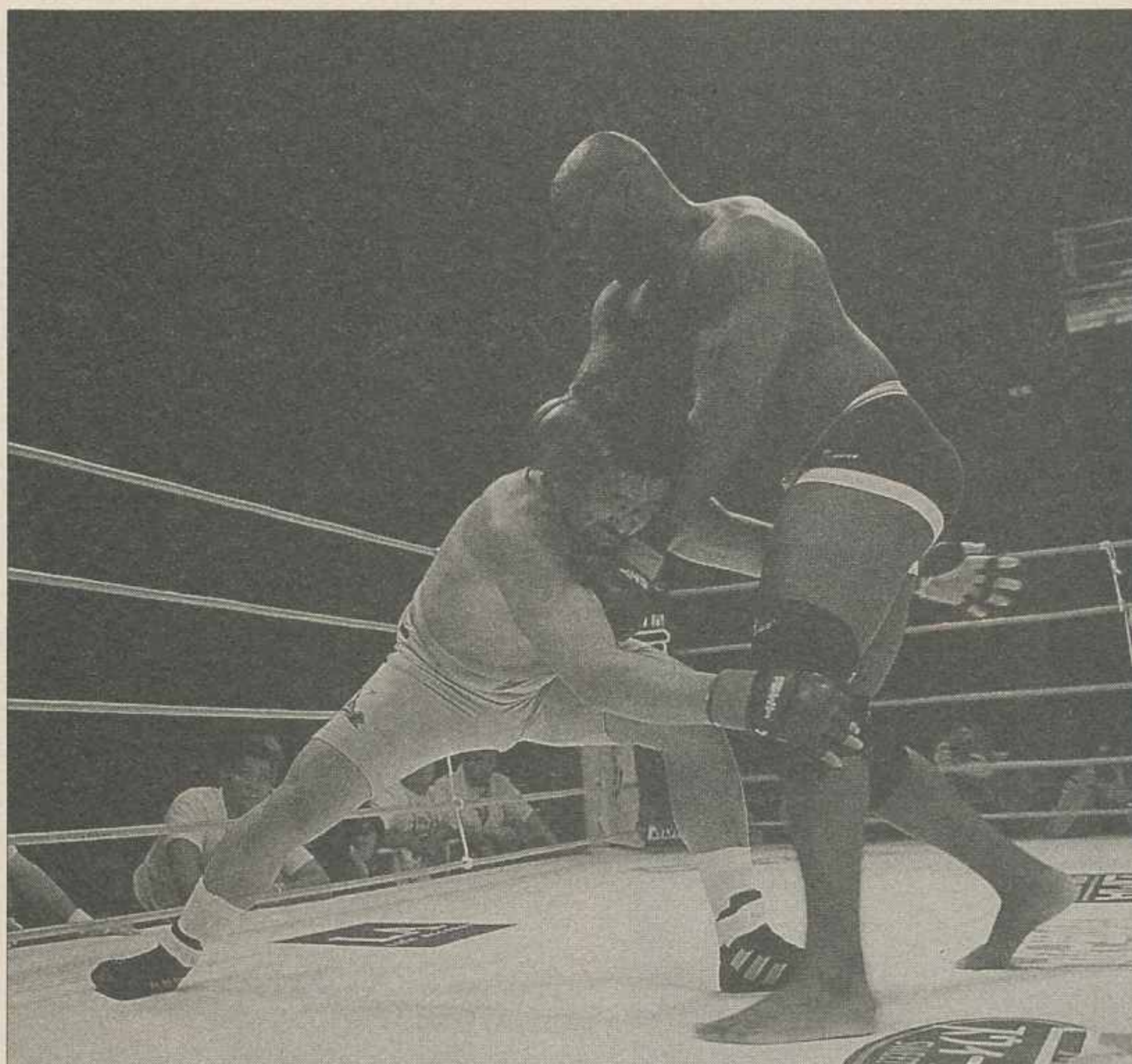
し……。

—夢を捨ててないってところでボクは注目してるんで、ぜひとも挑戦してほしいんですよね。で、谷津さんの話に戻りますが、グッドリッジとの2戦目の時はどう思いました?

小林 ……う〜ん。

—コメントしづらそうですけども（笑）。

小林 しづらいですね、非常に。あのタオル投げろっていう手招きまで、間近で見てしまいましたからね（苦笑）。本人は違うっていうことですけど。まぁ、谷津さんもアマレスの全盛期時代と今では、やっぱりタックルの質が全然違ってるんですよ。

—アマレス時代に比べたら、谷津さんはタックルは下手になってたんですか?

現在プロレス界で活躍するアマレス出身の選手の中でも、谷津と多聞の強さはズバ抜けていたという小林氏。しかし、その2人のスパーでは多聞が何度も転がされていたというから、全盛期の谷津親分、おそるべし! なのだ

小林 下手になったっていうか、谷津さんの得意なタックルって意外と低いタックルなんですよ。

—そうなんですか! だけど、あの時はエライ腰高でしたよね。

小林 だから、あれが谷津さんのタックルだと思われると心外なんですよね。それに、ああいうタックルは、アマレスでもやっぱりリスクの大きいタックルなんですよ。タックルっていうと、みんな足に入るもんだと思ってますよね?

—両足取るか、片足取るか。

小林 別に足取らなくたっていいわけですよ。腕取ったって、胴取ったって。首だってかまわない。なぜそれをわざわざ『PRIDE』というかなり過酷なルールの中であえてリスクを背負う技を仕掛けていくのかなって、いつも思うんですよ。

—疑問を感じると?

小林 だって、安田さんがこの前勝った試合は、あれは首にタックルが入ってるんですよ。

—えっ!? バンナを倒したのは首タックルだったんですか!?

小林 ええ（アッサリと）。要するに、安田さんは首を目がけて行ってますよね? あれはリスクを回避しながらの、非常にうまいタックルですよ。

—そうなんですか!? だって、どちらかといえば、打撃をまともにもらっちゃうんじゃないかなと、素人目には見えたんですけど。

小林 いやいや、あれは首タックルですよ!

—あれは効果的なタックルなんですか?

小林 非常に効果的なタックルですよ。私の中で見ると。だから、安田さんの佐竹さんとの『PRIDE』一発目の試合は、安田さんに倒す技術がなかったんで面白くない試合になりましたけども、あれで倒す技術があったらば、大晦日と同じような結果が出てたと思いますよ。技術的に、かなりの進歩だと思いますけどね。

—技術的に見て?

小林 そうですよ。あれ、難しいですよ。コーナーに挟まってますからね。完全にコーナーに押しこんどいて、それから倒すんですからね。間90度しかないんですから。あの中で倒すっていうのは技術要りますよ。

—いやぁ、安田さんを技術で評価するっていうのは初めて聞きました（笑）。

小林 みんな、あれを見習うべきですよ!

—安田を見習え!（笑）。例えば桜庭さんとかは、低いタックルをよく使ってますけど、そういうのを見ると、「何であんな危険な!」っていうのはあるわけですか?

小林 ありますね。相手を倒す確率からいくと、やっぱり低い方が取れる確率が高いですよ。でも、胴タックルとか、上に行けば行くほど技術が必要なんですよ。

—じゃあ、もしかして安田さんの技術はかなり高度なものだった、と（笑）。

小林 そうです。上に行けば行くほど難しくなって来るんです（キッパリ）。

—いい話だなぁ（笑）。

小林 アメリカン・フットボールの選手で低くタックル入る人いませんよね。ところがあれでひっくり返る時ってあるでしょ。あれと同じことをリングの中でやるって非常に酷なんですよ。

—素人目にはああいうタックルじゃダメだっていうのがあったんですけど。

小林 いやいや。フットボールの選手っていうのは、あれしかないんですから。毎日そればっかやってるわけでしょ。やっぱり、ああいう技術って、我々も見習うべきですよ。

—じゃあ、タックルだけなら?

小林 タックルだけに関して言えば、やっぱりフットボールの選手は偉大ですよ。

—勉強になります（笑）。じゃあ、大晦日の石澤さんの試合はどうでしょう?

小林 やっぱりね、永田もそうだったけど、相手の攻撃力って言うか、そういうモノに恐怖心を持ってしまったっていうのが顔に出てますよね。顔っていうか態度に出てますよね。あれがファンとして、やっぱり残念なものだと思いますよ。対称的なのは、安田さんですよ。一発二発くらっても構わないから、前に出ていく、やっぱりそういう精神が欲しかった。

—そこでも「安田を見習え」と（笑）。で、石澤さんが特に目立ったのが極めがないっていうところで……。

小林 ちょっとねぇ。極めがないんだよねぇ。私も正直、それは高田道場で思い知らされましたねぇ（しみじみと）。

—小林さんは、一時、高田道場でインストラクターもやってらっしゃったんですよね。

小林 道場生にね、関節極められるっていうのは、ホント恥ずかしいけどね。極まるもんなんですよね、アレは。こっちは関節技は素

人だからね（笑）。こっちは攻めてるもんだと思ってたら、いつの間にか完全に極まってたとかね。ですから、自分でも出来て、また防御も出来る様になるには、やっぱり、まずその技を覚えないといけないっていうか。一生懸命覚えましたけどね。

――小林さんの得意技はなんですか？ 関節の。

小林 私ですか？ やっぱり、がぶりが一番得意じゃないですかね。がぶりで落としますからね、ホントに。がぶり極まったら逃げられないよ（笑）。

――それはいわゆるフロント・ネックロックみたいな。

小林 そうですね。で、今、『PRIDE』とかで行われてのは首だけを取る。要するに自分の脇の下に抱える形ですよね。あれは第二段目の技なんですよ、私から言わせると。

――第一段というのは？

小林 第一段っていうのはやっぱり、自分の胸の下に相手の頭がある状態ですね。こういう場合、足と足は必ず離れてるという。そうすれば何のリスクもないわけです。こっちの有利な体勢なわけですね。

――ただ、それだと簡単には極まらないんじゃないですか？

小林 極まりますよ！ それだけでも極まったらもう最後ですよ！ だって、そのままこうやって相手持ち上がりますから。

――宙に浮いちゃう。

小林 絶対、我慢できませんよ。大体、自分の体重の2倍ぐらいは上がるからね。人間っていうのは上げやすいですから。

――それは小林さんが背筋が二百いくつもあるからじゃないんですか？

小林 ですから、百キロぐらいの選手だったら平気で挙がるわけです。で、今の選手の背筋は二百どころじゃないわけでしょ？ ということは大体の選手は上がってしまうっていうことですよ。上がったらもう二度と何もできませんから（キッパリ）。

――見たいなぁ。小林さん『PRIDE』とか出ましょうよ！

小林 う〜ん。

――日本のカート・アングルになりましょうよ（笑）。

小林 もう年だしねぇ。まあ、石澤に関して言えば、あそこまで出来ててね。悔しいですよ。でも、私が彼らの立場になったらやっぱりああいう風になるだろうなって。手に取るようにわかりますよ。

たら、多聞、後輩に取られちゃってね（笑）

金メダルを取ったソウル五輪へ出発する直前の小林氏と現在ノアで活躍する本田多聞。休みの日には日頃の練習でグッタリしている選手が多い中、多聞はトランペットに凝っていたという

――石澤さんと永田さんたちとはアマレス時代に一緒に汗を流した中ですからね。

小林 後輩ですからね。一緒に合宿もしてますしね。いまプロレス界で我々と一緒に合宿をやったりしてるのは、石澤、中西（学）、パンクラスの髙橋和生（現・義生）ちゃんね。そこら辺。あとはバトラーツの石川社長とかね。

――石澤さんって、昔から変わってるところがあったんですか？

小林 変わってますか、アイツ？

――いや、よく変わってると言われてますけど。でも確か、小林さんも「変わり者」と言われてたんですよね（笑）。

小林 うん。ある意味そういうのはあるのかも知れないしね。でも、私から言わせると彼はまったく変わってない。普通です（キッパリ）。ただ、石澤なんかは「やれ！」って言っても自分が気に入らなければ絶対やらないしね。いまでもそうなんでしょ？ やっぱり、それが普通だと思います。

――たしか、小林さんはアマレス合宿中に失踪したことがあったんですよね（笑）。

小林 何回やったかねぇ（笑）。

――何回もやったんですか（笑）。有名なのはソウル五輪前の500日合宿の時ですよね。

小林 そう、500日ですよ！ それも毎日！ 選手はたまったもんじゃないよ！

――ちょっと、すいません。500日って本当に500日なんですか？

小林 500日ぶっ通しです！

（キッパリ）。

――ぶっ通し？

小林 そう！ 1年半！

――メチャクチャなところですね、アマレス界は（笑）。

小林 考えられませんよォ。しかも、1人のコーチがズーッとついてて「今日は手加減してあげないと」とか考えてくれるんだったらいいですよ。でも、コーチは毎日交代で、こっちは目一杯やらされるんだから！（笑）。

――トータルで見てくれないんですね（笑）。

小林 トータルなんかじゃない。その日、その日、目一杯！ それに、俺、そこから会社行ってたんだから！

――ワハハハ！ 500日特訓プラス会社！（笑）。

小林 そう。当時の合宿所は代々木にあるオリンピック・センターだったんですよ。で、俺はそこに住んでたんだから。

――環境としては最高というか、最悪というか（笑）。

小林 いつでも、何でも揃ってるからね。雨の日は体育館使えるしね。走るのだってさ、すぐ近くに代々木公園があるわけだしね。

――イヤになるぐらい揃ってますね（笑）。

小林 ホント話にならない！ あそこで1500mのダッシュを10本もやらされてみなさいよ。たまったもんじゃないよ、こっちは（苦笑）。

――それが500日（笑）。

小林 そりゃ、逃げ出し

たくもなるよね（笑）。

――でも、他の人は逃げなかったんですよね。

小林　だって他の人は交替交替で来てるんだから。

――他の選手は通いだったんですか（笑）。

小林　そうですよ。他の人は入れ替わりが激しいんですよ。最後まで生き残ったっていうのは、私ぐらいなんですよ。

――確か最後の100日ぐらいで失踪したんですよね。ということは400日間はズーッとやってたんですか。

小林　一生懸命ね。だから、平気で逃亡してたんですよ（笑）。

――逃亡中、なにしてたんですか？

小林　寝てたんです（笑）。

――あ、寝てた（笑）。

小林　うん。友達ん家に行って寝てた。だって、そうしないとホントに身体もたないよぉ。

――面白いですねぇ、小林さんは（笑）。元々アマレスって八田イズムってあるじゃないですか。あれって結構ムチャなことを強いるんですよね（笑）。

小林　ムチャですよねぇ。例えば、戦争やってる国に平気で試合に行っちゃうとかね。イラン・イラク戦争をやってる最中に平気でイラン行ってたしね。

――それは誰の意向で行ったんですか？

多聞に頼まれて、女の子と友達とでデートした

小林　もう協会ですよ。「行け！」って言ったら、もうそのまま行くしかないですよ（苦笑）。いまみたいに情勢がどうのこうのなんて関係ないんですよ。それもね、日本で試合が終わった翌日に出発ですよ。考えられない（笑）。

――わけもわからないうちに飛行機に乗せられた、と（笑）。

小林　ホント『電波少年』の世界ですよ（笑）。目隠しされて、連れてかれて、ハッと気が付いたらもうテヘランだったっていう、そういう世界ですよ。で、当時だから、JALの南周りでギリシャまで16時間ぐらいかけて行くんですよね。それで、ギリシャで2泊して、そこからイランに入ったんですけど。

――ちょっと入る前、イヤだったんじゃないですか？

小林　いや、何とも思ってないんですよ、その頃。

――えぇ!? なぜですか。

小林　そんなことよりも減量がキツくてね、こっちは、それどころじゃないですよぉ。

――腹が減ってて、戦争どころじゃない（笑）。

小林　でね、ギリシャからイラン入る時なんか、戦闘機が護衛についてましたよ、一緒に。両方の翼の上に飛んでましたからね。サイド・ワインダーがついてくるのが、よ～く見えましたよ。ミサイルの現物見てね……あんまりいい気持ちじゃないですねぇ。

――でも、もう飛行機乗っちゃってるし。

小林　減量も厳しいし（笑）。

――どうしても空腹から頭が離れられないんですね（笑）。で、テヘランに着いて。

小林　テヘランってところは標高2千や3千ぐらいあるんですよ。

――それじゃあ、酸素薄いわけですか。

小林　そうですね。だから、試合終わったら意識なくなってね。あの「ホワイト・アウト」って言うんですか？ サーッと白くなってブッ倒れましたね。あんな経験、最初で最後ですよ。

――日本で試合やって、16時間飛行機乗って、高地で試合ですもんね。そりゃ倒れますよ（笑）。ところで、あのぉ、戦争だったんですよね？ 実際あそこは。

小林　やってましたよね。夜、高射砲の音、聞こえましたよね。

――みんなピリピリしたところとかなかったんですか？

小林　結構、いろんな国から、みんな普通に来てましたね。

――普通に来てましたか（笑）。その時は選手は何人ぐらい集まったんですか？

小林　アジア選手権ですからね。各国から百人ぐらいは集まってたと思いますけどね。

――アマレス界って凄いですね。常識が通用しないところですね、世界的に（笑）。

小林　世界的に（笑）。まあ、そうですねぇ。いま考えるとホント、凄いですね（しみじみ）。

――思い出すと腹が立ってきます？（笑）

小林　いや、ホント、スーッと真っ白になってねぇ。あの時、気がついたらみんなが周りにいてね、「俺、何でこんなところで寝ちゃったんだろう？」と思いましたけどね。

――は？「ホワイトアウト」の話ですか（笑）。なんか、戦地にいるのにそっちの方が気になる小林さんが一番凄いなぁ（笑）。

小林　だから、戦争やってるっていう気は全然しませんでしたよね。

――そうなんですかぁ。ちなみに、小林さんたちがやらせる側になった時の話で言うと、選手にバンジー・ジャンプ特訓をやらせてますよね。

小林　バンジー・ジャンプとは違うんですけど自衛隊の降下部隊のところに行って訓練してね。アレ、結構度胸いりますよ。落下傘にヒモをくっつけて、それで10何mのところから飛び降りるんですよ。

――あとは地上82mの鉄骨の上で腕立て伏せもやってるんですよね？

小林　あれもやりましたけどね。鉄骨だけで下が丸見えですし、揺れますしね。

小林氏（右端）が大学二年の頃のソ連遠征時の一枚。「この後、多聞（左から2番目）ともう一人の重量級のヤツを2人には内緒でソ連に、そっとおいて来たんだよ（笑）。向こうは重量級の選手が多いんで、いい練習になるだろうって」と小林氏。レスリング協会、恐るべし！

こちらも海外遠征時の一枚。左から2番目が小林氏、右から2番目が現在パンクラスで活躍中の高橋義生。アマレス時代は海外遠征が多かったという小林氏、「日本ではマッチョマンは、そんなにモテないけど海外ではモテるんだよね」と思い出し笑い。でもデブは苦手だそうです（笑）

——でも、当時、小林さんは選手を引退して、アマレス協会の広報委員をやってたんですよね。やらなくてもいいじゃないですか（笑）。

小林　「やれ！」って言うんですから（笑）。「お前が見本見せるんだよ！」って。

——そうすると、結構やっちゃうタイプ？

小林　まぁ、「やれ！」と言われれば何でもやりますけどね。嫌でも何でも。

——体育会系ですね。でも、そういう特訓って必要なんですか（笑）。

小林　やっぱり必要条件じゃないかと思いますよ。度胸がないとね、勝てないですよ。格闘技っていうのは。

——八田イズムに間違いはなし？

小林　間違いはないと思いますね。だから、危険がなければ、やっぱりF1にも乗せてあげたいしね。

——ぜひとも乗せてあげたいですね（笑）。今年あたり何かやらせたいことってありますか。

小林　いや〜、何やらせようかなぁ？（笑）

——楽しみですね（笑）。

小林　うん、まぁそうですね（笑）。今、思い出したけど、私が選手時代に日没1時間前に、山に登らされたっていうのがあったね。菅平に猫岳ってあるんですよ。大体、上に登るまでに普通の人だと2時間ぐらいかかるんですけど、日没1時間前に出発してね、「1時間で行って帰って来い！」って言うんですよ。「暗くなると、お前ら遭難するぞ！」って脅かされてね（笑）。

——酷いですねぇ（笑）。

小林　私は足遅いもんで降りてくる頃にはもう真っ暗ですよ！　よ〜くズッコけてね、すりむいたりしてましたよ。

——懐中電灯ぐらいは持たせてくれるんですか？

小林　（クビを横に振って）ないですよ。だから、月明かりだとかが頼りですよ。

——勘を磨くみたいなとこなんですかね？　よく言えば。

小林　なんでしょうねぇ。要は「早く帰ってこい！」ってことなんですけども。

——意味もわからずやらされてたんですね（笑）。

小林　でも、こっちは必死ですよ！

——それは、わかります（笑）。

小林　だって、猫岳では毎年何人も遭難して死んでるわけですから。鉄塔のアレよりも全然危険ですよ！

——じゃあ、そういう過酷な特訓がイヤで失踪したみたいなこともあるんですか。

小林　いや、それは過酷だと思ってないから。なにが過酷かって、やっぱり普段の練習の量と、その質の高さ。それが一番過酷ですよ。

——特訓は楽！　そもそも小林さんがアマレスを始めたのはアマレス名門校の土浦日大（付属高校）に入ってからですけど、そこでいきなり天才的なところを発揮したんですよね。アッという間に技も覚えたっていう。

小林　うん（アッサリと）。高校時代には、もう全日本のメンバーには選ばれてましたし、とにかく世界チャンピオンには一回も負けたことないですよ。

——いいセリフだなぁ（笑）。ただ、練習は、もの凄くハードだったんですね。

小林　私と同階級だった、ただ一人の先輩も私と入れ替わりに逃げちゃいましたからね（笑）。

——じゃあ、そこからは、ずっと階級が上の人と練習してたわけですか？

小林　そうですよ。私なんかよりちっちゃいのなんかいねぇんだから！（笑）。何が一番つらいって、普通の練習が一番つらかった。だから、合宿になるとかえって楽なんですよ。全国合宿とかになると、自分より弱い選手がいっぱいいるわけですよぉ（嬉しそうに）。

——それは楽しいでしょうね（笑）。

小林　楽しいですよ、そりゃあ！（笑）。バンバンやったって疲れないんだから。それに、うちの高校のレベルって、やっぱり全国でもかなり高いレベルにいたんで。関東では、二人が2位で、あと全部優勝っていう。そういうチームでしたからね。

——もう名門中の名門ですね。

小林　異常ですよね、あの頃の我々の時代はね。当時の私の階級の全日本のチャンピオンは約十五〜六年間、全部茨城なんですよ。

——日本でアマレスと言えば茨城っていうことだったんですね。

小林　茨城ですよ、私の階級は。

——当時、小林さんのライバルだった入江さんはロスの銀メダリストだったし、小林さんはソウルの金メダリストですからね。

小林　入江さんも茨城ですからね。

——じゃあ、県大会自体、すでに世界レベルだと？

小林　世界レベルで県大会ですよ、それこそ。で、デカい人の中には（本田）多聞もいたしね（笑）。

——黄金時代だったんですね。

小林　そうでしょう。多聞とも付き合いは長いよなぁ。高校、大学、それから就職してまで合宿一緒だからね。

——高校時代、多聞さんと一緒に遊びに行ったりとかはあったんですか。

小林　よく夜中に抜け出してゲームセンターに遊びに行ったりね。面白いことってそれぐらいしかなかったからねぇ（しみじみと）。

——ホントにつらそうですよね（笑）。

小林　大学の時にしても、やっぱりパチンコやったりとかねぇ、それから彼女がどうのこうのとかね。一回、多聞に好きな子ができてね、その子と私と、一つ下の後輩で高橋ってのがいるんですけど、4人でね、デートみたいなことをしたんですよ。多聞がどうしても「頼む」って言うんで。

——それは楽しそうですね（笑）。

小林　そしたらね、その子は高橋にかっさらわれたんだよね（笑）。

——ワハハハ！　後輩に取られましたか（笑）。

小林　だって、多聞、恥ずかしがっちゃってあんまり喋らないんだもん。だから、もってかれたんですよ。取られちゃった（笑）。

——高校時代だと、三沢さんとか

がぶり（写真上）や逆一本背負い（写真下）などテクニックには絶対的な自信を持つ小林氏。日本版カート・アングルとしてマット界で大暴れしてもらいたいが…

金メダリストの壮絶人生に触れる実録！豪傑一代記

紙のプロレス

スーパースター列伝

も一緒だったんですよね？

小林　三沢さんは一つ上の先輩です。監督同士が同級生だからよく足利まで合宿に行ったよ（笑）。そうそう、川田（利明）なんか同級生ですよ。

——川田さんと話したりとかしましたか？　「三沢さんはヒドいんです」みたいな（笑）。

小林　いや、普通の話ですよね。

——大学に入るとオリンピックが見えてくるわけですけど、相当自信はあったんですよね。

小林　行けて当然！（キッパリ）。優勝して帰ってくるのが当然と思ってましたからね。

——ところが、ロス五輪の予選会でまさかの敗北。しかも、一回判定で勝ったのに物言いがついてビデオ判定で逆転負けと。

小林　がっかりしたね。

——判定ってそんな簡単にひっくり返るもんなんですか？

小林　ホントはやっちゃいけないことをやったんです、審判団が。いま裁判やったら絶対勝てるよ（キッパリ）。

——もういいじゃないですか、終わったことなんですから（笑）。

小林　私が、あとでビデオ見返して見てみても、やっぱり私が勝ってるんですよ。

——結局、ビデオで確認しても見る人によって違うと。

小林　でもね、ソウルの時の予選会の決勝では私、負けてるんですよ、私が見ると。冷静につけてくとね、私、1点差で負けてるんですよ（苦笑）。

——だけど、勝ちましたよね（笑）。

小林　うん。だから、そんなもんですよ。

——ただ、後の金メダルを落とした人ということで考えるとホント面白い人生だなって、つくづく思ったんですよね。

小林　う～ん。

——ほとんどロス五輪の切符を手にしていながら落としたという（笑）。

小林　半分掴んでたからね（笑）。

——で、その後、一回アマレスを離れて、ビバレッジのアマレス部で復帰したという感じですか。

小林　うん、レスリングがないとやっぱり寂しかったというかね。

——その時は、もう一回オリンピックを目指そうかと思ってたんですか？

小林　「そこまでできるかなぁ？」とは思ってましたよ、正直。肩も悪かったし。でもね、思いのほか調子いいんですよ。その年の国体で失点0、全てフォール勝ちしたんですから。

——エッ!?　それって凄いじゃないですか！

小林　あんな成績、他にないもん。やっぱりちょっと気が抜けるところがあって、必ず取られるもんなんですよ。ましてや、私は失点が多い方ですから。

——それはよくわかります（笑）。それでさきほどの地獄の500日合宿後にソウル五輪なんですが、なんか「楽勝で勝っちゃった」っていう風に伝えられてますけれども。

小林　うん、楽勝だったですね。ほとんど大差の判定ですからね。決勝なんてあと2ポイントでTKOでしたから。

——そうやって圧倒的強さを見せ付けて金メダルを取ってきた小林さんですから、当然、帰国すれば騒がれるわけですよね。

小林　そうですね。

——で、あの事件でさらに騒がれて、と（笑）。

小林　……う～ん。

——10月29日。

小林　よく覚えてますねぇ（苦笑）。

——上野駅、公衆電話。

小林　……の横。

——ですか（笑）。ついつい忘れちゃったんですよね。

小林　そうですよね。ま、ついついというか、一つのことを考えると、2つも3つもね、同時に考えることができない体質だから。

——電話なら電話！（笑）。

小林　電話なら電話。何するにしても、とにかく一つのことに集中するタイプなんですよね。だから、やっぱり性格上、ああいう風になるっていうのは必然的なんでしょうね。

——必然的なんですか（笑）。

小林　いつかやるんじゃねぇかっていうのは、周りは思ってたみたいですけどね。

——その瞬間は、やっぱりボー然ですか？

小林　ですよねぇ。サーッと血の気が引いてくのがわかりましたからね。「ヤバイ」の一言。「俺、いままで何やってたんだろう？」って。

——これまでの自分の人生を振り返って（笑）。

小林　振り返りましたね。折角もらったものをね。ボーナス、現金でもらってそのまんまどっかいっちゃったって、そんな感じですからね。

金メダルをなくしたって気づいた瞬間、サーッと血の気が引いていくのがわかりましたから

——そんな感じだったんですか（笑）。

小林　困ったなぁって。

——で、次の日、確か……。

小林　茨城で報告会ですよ。「やっと皆さんのおかげで取れました」って見せるはずが、メダルがないわけですよ（笑）。

——でも、「見せてくれ」って言われるわけですよね。

小林　そりゃそうですよね。その時に、正直に、「なくした」という話をして。「そりゃ～お前、大変だ！」っていうことで、たまたま共同通信社の人が来てて、その人に全部配信してもらったんですよ。そしたら大騒ぎになっちゃってね（苦笑）。

——そりゃそうですよ（笑）。そんな面白い事件ないですよ、他人事だけど（笑）。

小林　他人事だから面白いかも知れないけどね、こっちは必死ですよ！

——で、報告会がとんでもないことになっちゃったわけですね？

小林　みんなからなぐさめられてね。「大丈夫、戻ってくるよ！」って言われても、こっちは半信半疑だから。

——そして、その報告会の翌日には、今度は講演会があったんですよね、しかも母校で？

小林　そうですね。

——その時にはもう記事が配信されてて。

小林　ええ。もうみんな知ってるわけですよ。その中で講演するのは……。

——針のむしろですねぇ（笑）。

小林　たまったもんじゃないよぉ、それが母校ですからね（笑）。

——本来だったら、〝金メダルを取ってきた素晴らしい先輩からのお言葉〟ということだったんですよね？（笑）。

小林　〝（金メダル）なくしたバカが隣でしゃべってる〟みたいな感じですよ（笑）。

——来た途端、みんな「クスクス

金メダリストの壮絶人生に触れる実録！　豪傑一代記

紙のプロレス RADICAL

スーパースター列伝

クス」っていう（笑）。

小林　いや、やっぱり。笑うに笑えないですよね、やっぱり。それはお客さんも感じてたみたいですよ。

――本人も困ってるけど、お客さんも困った状態で。

小林　そうそうそうそう。それで、講演やってる最中に「メダルが見つかったから取りに行け」という連絡が入って、思わずマイクで喋ってね。「見つかった」と。そういう話をしたら、ウワーッと沸いてね（笑）。

――結果としては、いい講演になりましたね（笑）。それで一躍、時の人にもなって。

小林　なんか、金メダル取った人イコール私みたいなイメージがついちゃいましたよね。

――取っても落としても金メダルといえば小林孝至（笑）。それで『元気が出るテレビ』からお呼びがかかるわけですね。

小林　テリー伊藤さんが、「こういう番組なんだけど、とにかく出て欲しい」って、直接口説きに来てねぇ。で、会社の方もＯＫ出しちゃってねぇ。

――その時は企画の内容とかは聞いてたんですか？

小林　全然、話してくれなかった。ある程度の内容っていうのを聞かされたのは、収録終わってから。

「ヒエ～ッ！」って思いましたよ（笑）。

――じゃあ、現地に行って初めて内容を知った感じだったと（笑）。

小林　現地っていうか、最初は私の自宅だったんですよ。

――どんな企画だったんですか。

小林　確か、高田純次さんが来て、こっちが目を離した隙にメダルを隠したり、メダル噛んだりとかっていう。あと、私に、吹くとピーッって伸びる紙の笛があるでしょ？　ああいうのを3本まとめて吹かされたりね。「金メダリストはそういうことをしてくれるのか？」っていうね。そういう感じですよ（笑）。

――でも、やったんですね（笑）。

小林　「やれ！」って言われたら「ハイ」ってシステムの中で育ってるもんですから。

――ワハハハ！　体育会系の性ですね（笑）。ボクが覚えているのでいうと、ブリッジしてる小林さんの、その股間を、なぜかチンパンジーが触っているという映像が延々流されるという（笑）。

小林　あれは、股にエサを入れたマネをするんですよ。それでやっと触ってくれる。

――やっと触ってくれる（笑）。わかっててやってたんですか？

小林　そうですよ。

――でも、見てる側は「勃つんじゃないか？」ってドキドキしてるんですよ（笑）。

小林　う～ん、ねぇ？

――奥さんは何て言ってたんですか？

小林　エッ？　ウチのかみさんは何も言わないですよ。でも、周りはやっぱり「あんな恥ずかしいことするな！」とか、「もう少し自覚持て！」とかね。

こばやし・たかし■1963年5月17日、茨城県出身。中学時代にはバスケで鍛え、高校では恩師の薦めもあってアマレス部へ。入部初日から同級（48キロ級）の先輩を振り回していたほどの天才ぶりを発揮。2年連続高校三冠王。全日本代表メンバー。1988年にはソウル五輪で圧倒的強さを誇って優勝、金メダルを獲得して日本中の話題をさらい、その後、メダルを公衆電話に置き忘れてさらに話題となる。現ジャパンビバレッジ勤務の他『PRIDE』のジャッジとしても精力的に活動中

――でも、金メダルをなくした男の自覚としては、正解だと思うんですよね（笑）。

小林　別にふざけるところで、ふざけたっていいじゃないねぇ？

――全然、問題ないですよ！（笑）。むしろ、やるべきですよ。

小林　「やれ！」って言われれば、なんでもするっていうかね。そういう世界で育ってきちゃいましたからねぇ。要求されればそれに答えなきゃいけないという、本来の素質というか。

――素晴らしい！　やっぱり日本のカート・アングルだ（笑）。やりましょう！（笑）

小林　いやぁ、だって相手がいないでしょ。私、ちっちゃ過ぎますよ。

――いやいや、逆にジャイアント・シルバみたいなデカい人とやればいいじゃないですか。なにしろ、背筋二百キロならシウバも上がりますよ（笑）。

小林　いまはもうムリ！（笑）。

――だけど、カート・アングルも金メダルを有効利用してるんで、もう一度なんかやるのも面白いんじゃないんですか。

小林　まあそうですよね。やっぱり自分が取ったものですから大いに利用すべきだと思いますし。

――ＷＷＦはご存じですか？

小林　ビデオで何回か見たことありますね。あれいいですよぉ（笑）。

――だから、小林さんがメダル下げて何か前に出てくるっていうのも、それはそれで面白いじゃないですか。

小林　だって審判がそれやっちゃったら話にならないじゃない！（笑）。

――だったら、審判辞めましょうよ！（笑）。

小林　なにそれぇ！

――カートだって、一時は牛乳まいたりしてたんですから、小林さんもビバレッジのコーヒーとかまけばいいじゃないですか？（笑）。

小林　できるかなぁ。

――できますよ、『元気が出るテレビ』にも出ていた実力派ですから（笑）。

小林　どうしようかなぁ。

――夢の膨らむ話なのでいつか期待してます（笑）。

［02年1月7日／東京・「シズラー新宿三井ビル店」にて収録］

あなたのオフィスに金メダリストがやって来る！

カプチーノ、エスプレッソ、カフェラテ…
本格ヨーロピアンテイストと
スリムで機能的なデザイン
オフィスに安らぎをもたらします。

コーヒー好きの方に朗報です。小林さんの本業はオフィス専用のコーヒー自動販売機の営業。この販売機をオフィスに設置すると、コーヒー、カフェラテなど約5種類の飲み物がいつでも手軽に飲める。抽出法は高圧高温スチームをかけるエスプレッソ方式。「うまいんですよ、これが！」（ｂｙ小林）。一杯100円で設置料等は一切なし。営業には小林さん本人が駆けつけてくれるのも嬉しい話。問い合わせ＝03-5321-0477ジャパンビバレッジ特販部　小林まで

昨年の11・23FMW横浜大会で6年ぶりの来日を果たした〝スーパーフライ〟ジミー・スヌーカ。日本ではリッキー・スティムボートとの抗争、さらにはブルーザー・ブロディとのタッグが有名だが、初来日はなんと日プロ時代！ 80年代前半のWWFマットでは、時の王者バックランドを凌ぐ人気で、出場する会場は常に超満員。そんな、マット界の生き字引とも言えるスヌーカに、その半生を大いに語ってもらおうと思っていたのだが……。

スヌーカのマネージャー 成田空港行きのバスがもうすぐ迎えに来るので、30分でお願いします。

――さ、30分だけですかぁ!?

マネージャー 30分だけです！

――それじゃあ、駆け足でうかがいますけど、久々の日本マット登場の感想を聞かせて下さい。

スヌーカ ベリー・グッドショー！ FMW（日本語で）イッチバ～ン！ 私は日本が大好きなんだ。日本に来るといつも休暇気分になれるから嬉しいんだよ（笑）。

――休暇気分なんですか？（笑）。

スヌーカ 周りが私のことをキングの様に扱ってくれるしね（笑）。

――現在、57歳ということですが、最近でもコンスタントに試合には出られてるみたいですね。

スヌーカ ノーノー、私は58歳だよ（笑）。孫も3人いるし、春には、もう1人増える予定だ。それに私は、まだまだ現役を続けるし、引退したわけじゃないから。最近もインディペンデントばかりだけど、いろんな団体で闘っているよ。

――新しくできた、XWFという団体にも出場したんですよね。

スヌーカ イエス。新しく（ハルク・）ホーガンが作った団体だ。XWFはWWFのようなエンターテインメントではなく、我々が70年代から80年代の初めにかけてやっていたベリーハードなスタイルを現代に甦らせたのさ（笑）。

――そうなんですか。スヌーカさんは、グレート・スヌーカというリングネームで69年に初来日したわけですけど、その時の率直な印象を聞かせて下さい。

スヌーカ 当時、一番印象に残っているのは、日本のレスリングはアメリカと比べて凄くシリアスだなって感じたことかな。レスラー同士、みんな真剣に殴り合ってたっていう印象があるよ。

――エッ!? 真剣にですか（笑）。

スヌーカ いやいや、もちろん真剣に殴り合っているさ（笑）。ただ、あの頃に比べると今の日本のレスラーはプロレスというものに対して理解を深め

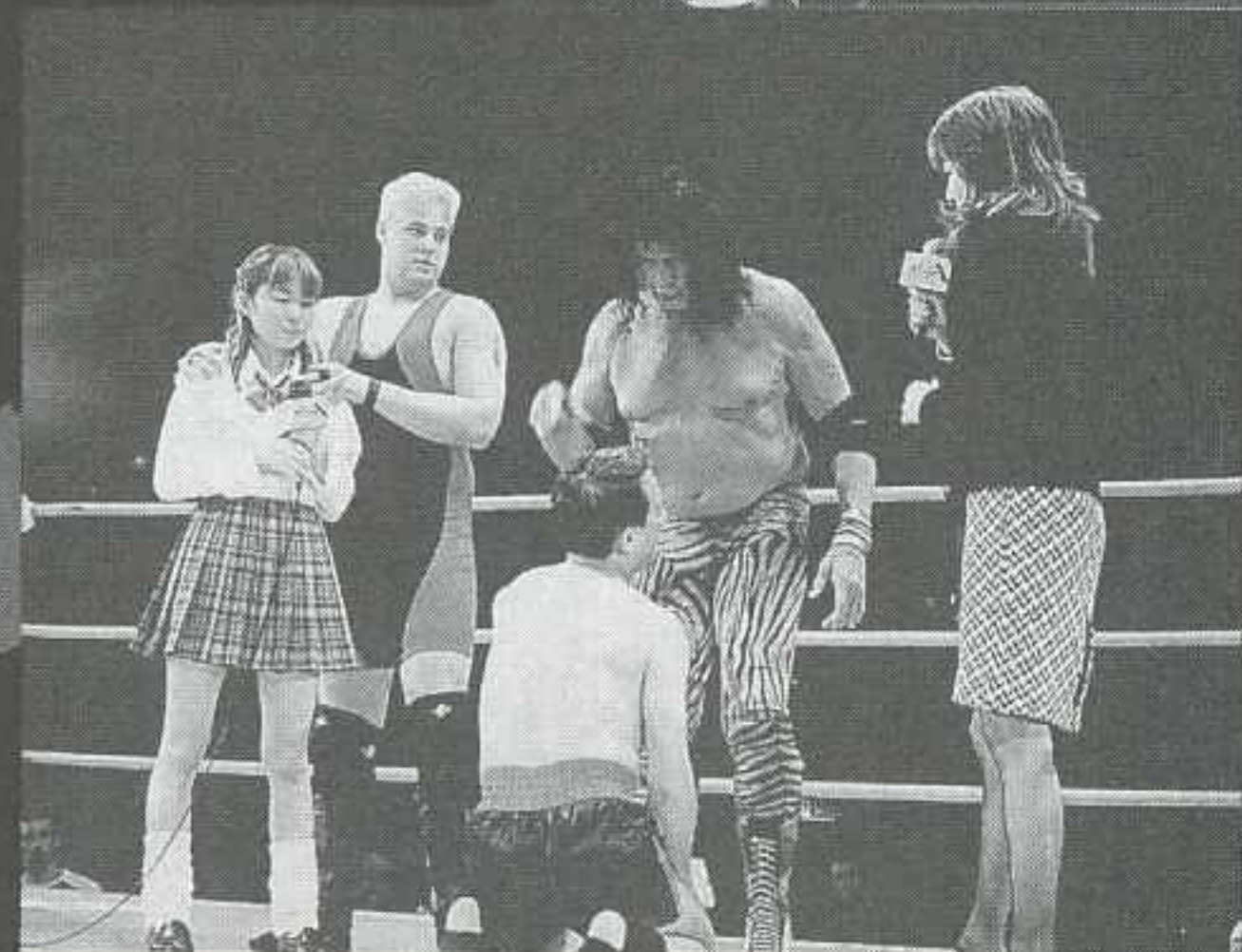
すわっ!?

聞き手／イナズマ★K
構成&撮影／松澤チョロ
通訳／吉田香織
designed by matsu (Two three)

新日でのタッグリーグ戦ボイコットに続きスヌーカ、『紙プロ』インタビュー途中ボイコット!? その真相は？

“スーパーフライ” ジミー・スヌーカ interview

本名ジェイムス・レイハー。
1945年5月18日、フィジー出身。
初来日は日プロ時代の69年。
その後、シークやブロディのパートナーとして全日＆新日でも活躍。
WWFでも王者を凌ぐ人気を博す。
67年から3年連続で「ミスターハワイ」に輝くなどボディビルダーとしても名を馳せた。
ECW初代ヘビー級チャンピオンでもある

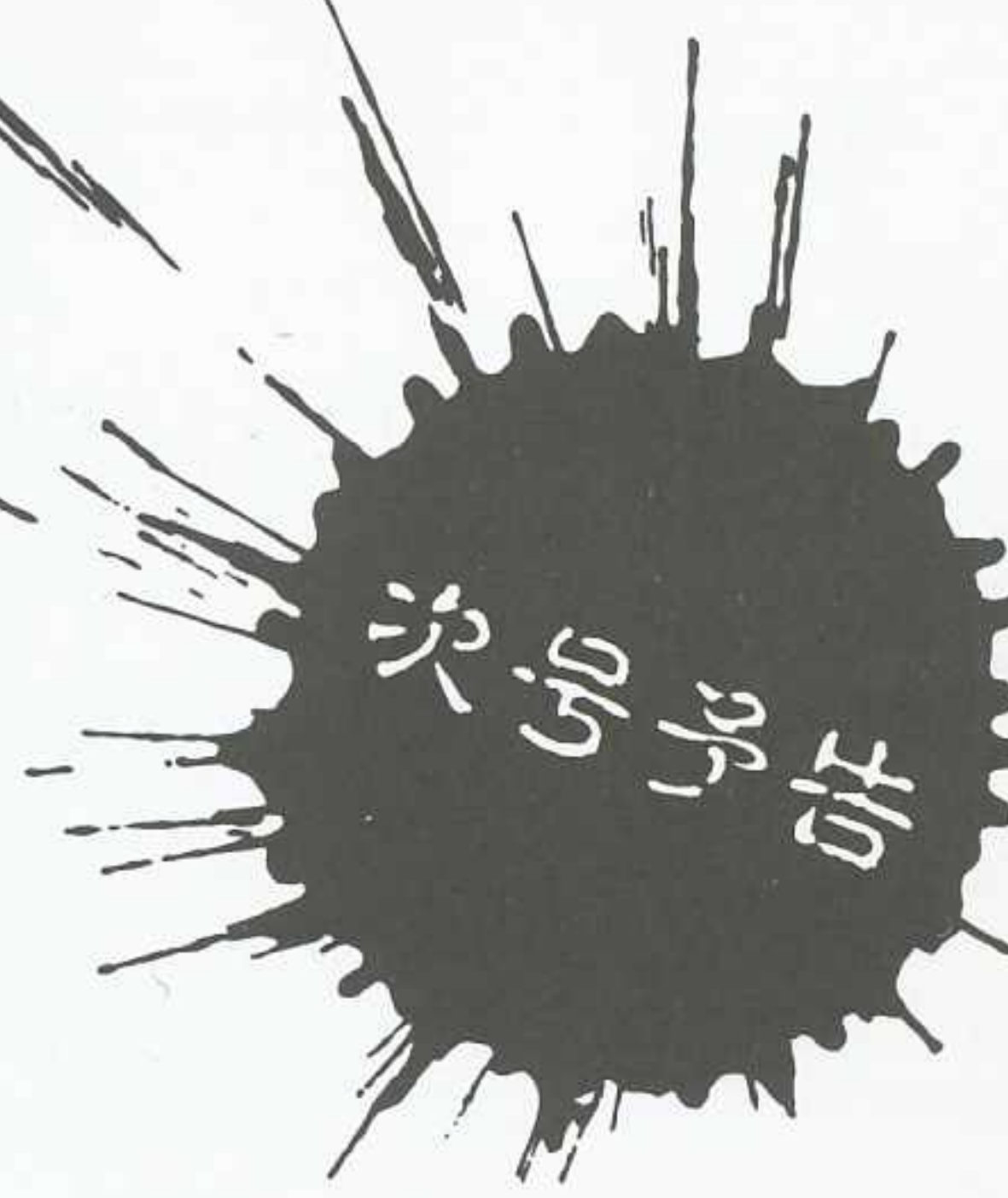
ているように思う。
——なんとなくわかります（笑）。当時、印象に残っている選手は？
スヌーカ（日本語で）ジャンボ・ツルタ、アントニオ・イノキ、テンルー、ババサンね（笑）。
——ボクらが印象に残ってるのは、やっぱりブロディとのタッグなんですけど、2人の間で何か面白い話があれば聞かせて下さい。
スヌーカ　ブロディというレスラーはビジネスマンなんだよ。ギャラがよくないとすぐに機嫌を損ねてしまうんで大変だった（苦笑）。
——ブロディとは、新日のタッグリーグ優勝戦をボイコットしたり、いろいろとありましたからね。
スヌーカ（急に険しい表情になり）ハッキリ言っておくが、あの時は、ニュージャパンが我々を正当に扱わなかったのが原因だ。まあ今は、それ以上は言いたくない。
——そこを何とか（笑）。
スヌーカ　次に会ったときに話そう（笑）。でもブロディは自分にとってはパートナーだったから、いろいろと我慢しながらも一緒にやっていたんだ（苦笑）。
——やっぱり、芸人さんじゃないですけど、舞台裏ではいろいろとあるもんなんですね（笑）。
スヌーカ　イエス（笑）。でもブロディとのタッグは、いいチームだったと思うよ。タッグチームとしてナンバーワンにもなれたし、ビジネスとしても良かったからな。もちろん、我々だけでなく、ババサン、イノキサンの会社に対してもプラスになっていたと思う。
——それはそうでしょうね。
スヌーカ　今は若いレスラーを教えたりしながら、ドンドン日本に紹介していきたい。私の息子のスヌーカJrもプロレスを始めて2年目になるが、次に来日する時は一緒に連れて来たいと思っている。
——スヌーカさんから見て、スヌーカJrはプロレスラーとして、どう評価されていますか？
スヌーカ　グッドレスラー！（日本語で）ダイジョーブ！（笑）。
——大丈夫ですか（笑）。
マネージャー　いや、大丈夫じゃないです。あと5分で終わらせていただけますか？　迎えの車が来て待ってるんで。
——あ、あと5分？　急ぎます（笑）。今、WWFで活躍しているロックや、あとミック・フォーリーなんかもそうみたいですけど、みんなスヌーカさんに憧れてプロレスラーを志したみたいですね。
スヌーカ（嬉しそうに）そうみたいだな。自分がそういったヤング・ジェネレーションのアイドル的存在として見られていたってことは誇りに感じているよ。それに、それだけのことをしてきたっていう自信もあるからね（ニヤリ）。
——それで、スヌーカさんと言えば、やっぱりケージマッチというイメージが強いんですけど、ケージマッチはどういった経緯でやることになったんですか？
スヌーカ　一番最初にケージマッチが決まった時に全米でテレビ中継されるって聞いたんだよ。凄くエキサイトしたし、それを利用してビッグになってやろうと思って金網のてっぺんからスーパーフライを決めてやったんだ。そのおかげで全米に"スーパーフライ"ジミー・スヌーカという名が知られるようになったんだよ。
——「金網のてっぺんから飛ぶ」って簡単に言いますけど、かなり度胸がいるんじゃないですか？
スヌーカ（指を左右に振りながら）ノーノーノー！　私はレスラーになる前は観光客相手に見世物をしてて、崖から落ちるっていう仕事をしてたんだよ（笑）。
——まあ、今でいうバンジージャンプみたいなもんですかね。
スヌーカ　そうだな。そういう経験を若い頃からしてたんで、なんてことはない。ノー問題さ（笑）。
——スーパーフライには年期が入ってるんですね（笑）。ところで、スヌーカさんは、ビンス・マクマホンについてはどう思いますか？
スヌーカ　シニアの方かい？
——まずはシニアの方から。
スヌーカ　シニアはイッチバ〜ン！（笑）。
——ジュニアはどうですか？
スヌーカ　ジュニアの方はイチバンでもなんでもないよ。
——テリー・ファンクさんとかも、ジュニアのことはあまり良く言わないんですけど、何がそんなにダメなんでしょうか？
スヌーカ　ジュニアは、とにかくビジネスが下手だ（キッパリ）。
——エッ⁉　ジュニアの方がシニアよりビジネスが下手だと？
スヌーカ　イエス！　ジュニアは話がコロコロ変わるし、いろんなところでトラブルを巻き起こしている。企業的には成功しているのかもしれないが、レスラーとのビジネスはシニアの方が全然上だった。それは間違いない。それに……。
マネージャー（遮って）申し訳ないですが、タイムアップです！
——アラッ。つ、次は是非ロングインタビューでお願いします！（笑）。
スヌーカ　イエ〜ス（ニッコリ）。次の来日まで、"to be continue"にしておいてくれ。
——いつになるかわかりませんけど、その時まで待ってます！（笑）。

【01年11月24日／帰国直前、都内某ホテルにて収録】

レスラーになる前は観光客相手に崖から落ちる仕事をしてたんだ

スヌーカは息子のスヌーカJr.とともに期待を寄せるジェイソン・レイとのタッグでFMW初登場。さすがに体力の衰えは隠せなかったスヌーカだが、スーパースターのオーラはプンプン。試合後は吉田専務等とのスキットにも参加

スヌーカインタビュー後編は次の来日まで待て!(って、いつになるんだよ!)

次号予告

この間、ステファニーにWWFで俺がやりたいストーリーを渡したんだ

WCWマットで、あのスティーブ・ウイリアムスから勝利を奪ったモンスターが衝撃の告白!!

これまで『紙プロ』ピンナップに2度登場しているミスフィッツ（白塗りホラーパンクバンド）のジェリー・オンリー。1度目は『紙プロ』20号でのAKIRA、2度目は25号の渡辺大介とのもの。知ってる人も多いと思うが、ジェリーはWCWで、日本でもお馴染み、S・ウイリアムスから勝利をあげるなど、プロレスラーとしても活躍していたのだ。今回、ライブで来日中のジェリーにプロレス話オンリーで話を聞くと、出るわ出るわの新事実！　次号を待て!!

現在、42歳のジェリー・オンリーだが見事にビルドアップされた肉体を誇る。その秘訣とは何か？　次号インタビューで、その謎が明らかに！（協力／ロードランナー・ジャパン）

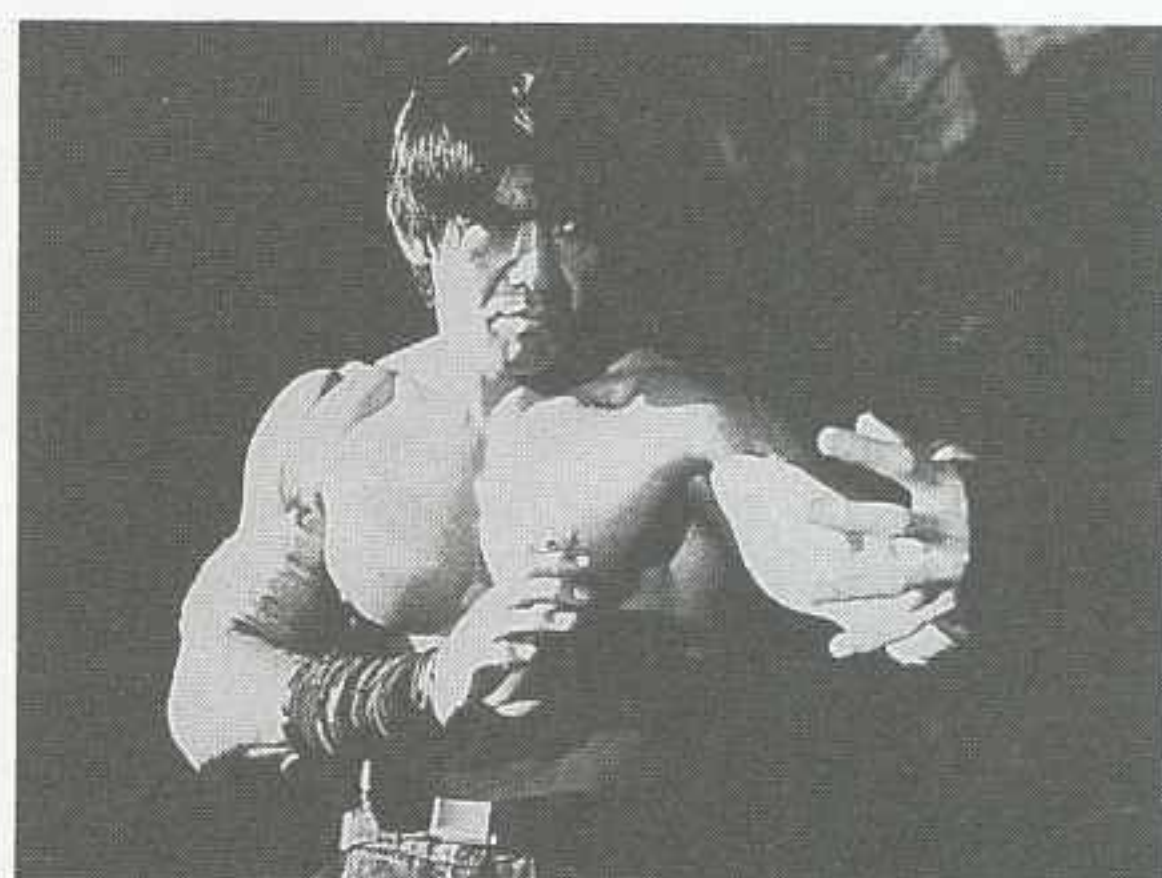
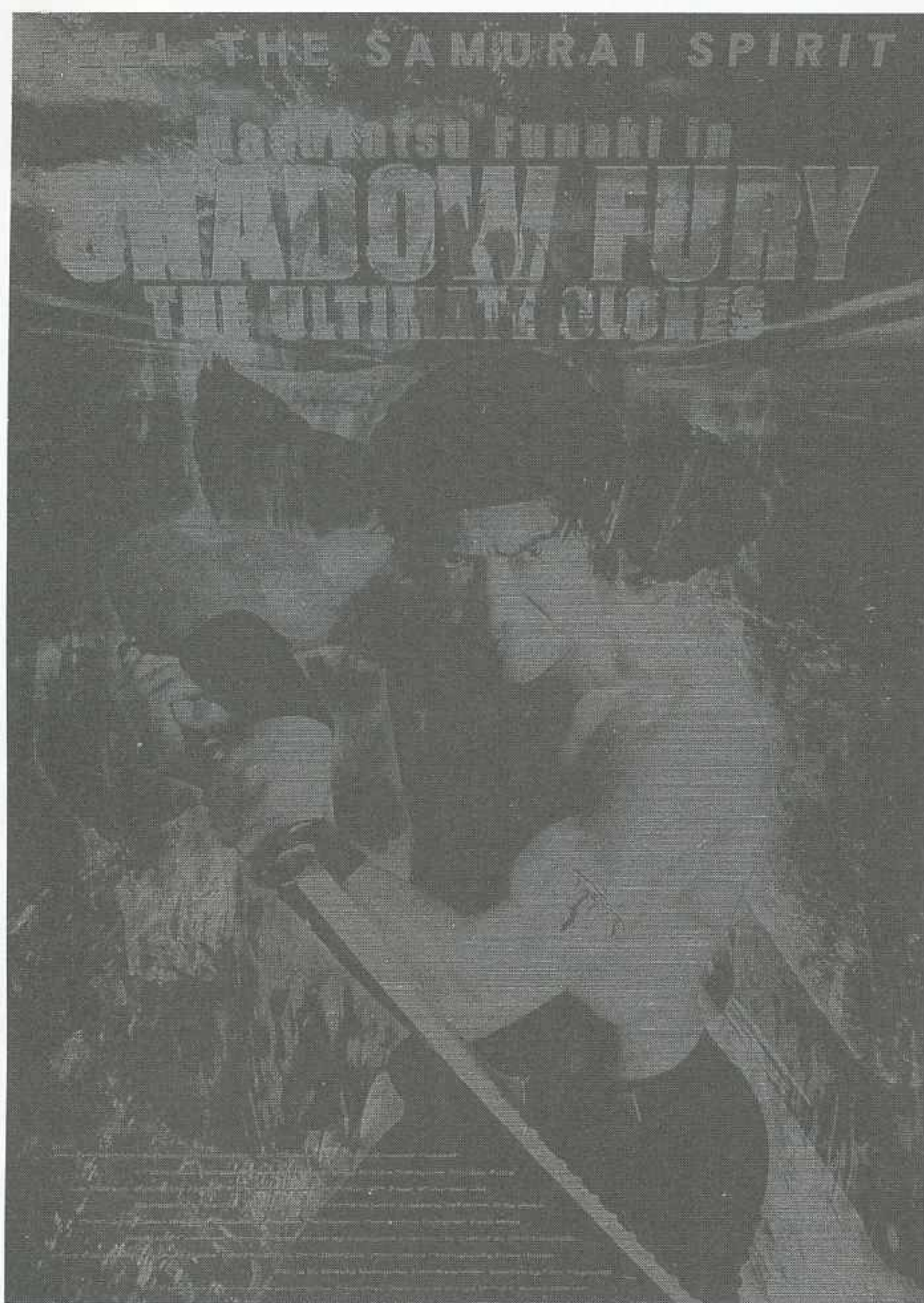
PHOTO:Shigeo "JONES" Kikuchi

「オラ死なねばダメだ！」そんな人に送る

●明日また生きるための情報満載●

『紙プロ』Information

船木誠勝主演映画、公開迫る！

バス・ルッテンと死闘！「SHADOW FURY」

シビれるハイブリッドボディはいまでも健在！

バス・ルッテンとスクリーンでも激突！
こちらの結果はいかに？

船木が殺人アルティメット・クローンとなって帰ってくる！ 船木が主演をつとめ、刀を振り回し暴れるというこの「SHADOW FURY」。クランクアップまでの軌跡を綴ったプロダクションノートによると「現代に忍者が存在するという設定に苦戦したが、船木の人間離れした完璧なボディから、殺人クローンを発想」「クライマックスシーンのために１人減量を続け、体脂肪率が測定不能になるまで体を絞り込んだ」というから凄い船木が見れそうだぜ！ さあ、「SHADOW FURY」を見逃すな！ 新宿トーアにて3月16日（土）よりロードショー！

『猪木メールマガジン』発信ダーッ！

俺が笑えば、キミも笑う！ 思わずに笑顔になること間違いないなし！ そんなステキなアントン総裁のメッセージが届く『猪木メールマガジン』が創刊ダーッ！ 他にも最新のプロレス・格闘技情報や興行日程、最新グッズ情報などもお届け！ それでは会員になりますかーッ！

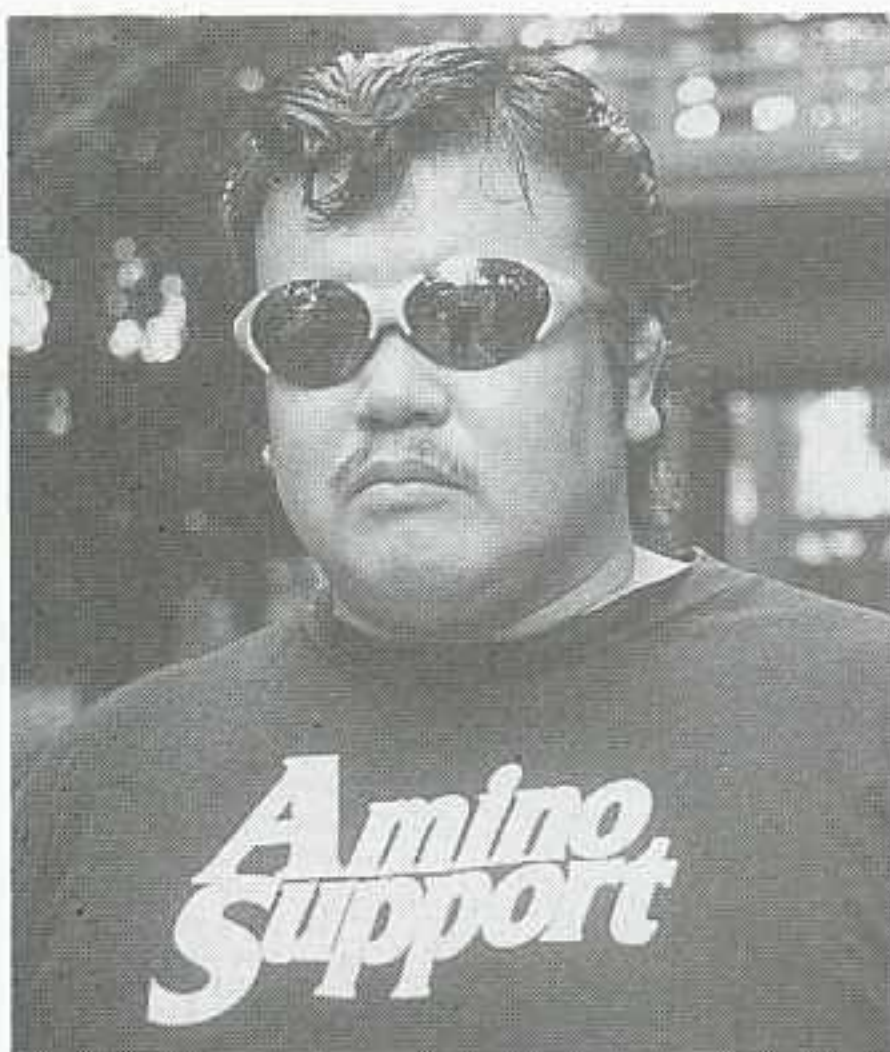
【お問い合わせ】
新日本プロモーション
TEL.03-3408-3111
http://www.shinni-pro.co.jp

高田道場入会金無料キャンペーン

ギョギョッ！ なんと入会金が無料！ 様々な格闘家訪れるという高田道場に足を踏み入れる大チャンス到来だ！ 特典も多数！ いましかないぞ！

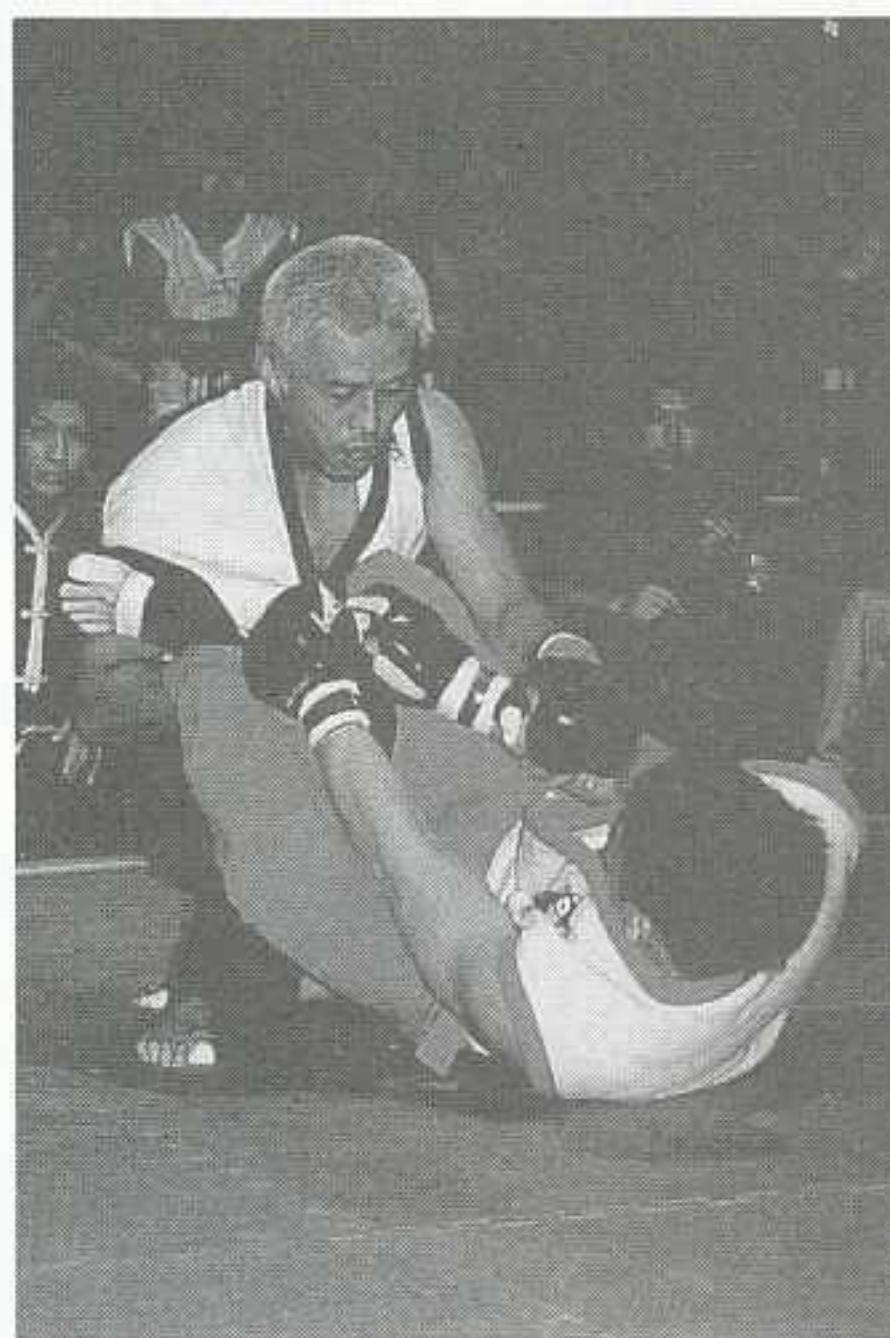
【無料キャンペーン実施期間】入会費3月末日まで。月会費のみとなります。¥7000（4歳～中学生）¥12000（高・大学生）¥15000（一般）
【会員特典】道場特製スパッツ・年4回発行の道場会報・道場主催行事の参加 チケット優先予約・道場グッズ20%オフ 見学・無料体験可
【お問い合わせ】
高田道場 TEL.03-5749-5030

この興行を見て、明日をまた生きろ!

◆中野巽耀自主興行

野武士が動いた!

2月24日『PRIDE.18』が行われる埼玉で、もう1つの"U"が動き出す! "野武士"中野巽耀自主興行「DYNAMATE」が爆発だ! 久々の試合となる中野だが、ハードトレーニングで体調はバッチリだ! 『紙プロ』インタビューで大反響を呼んだ中野の生き様を刮目せよ!

【日時】2月24日(日) 18:00～
【場所】埼玉・越谷桂スタジオ
【お問い合わせ】
TEL.0489-99-4103

◆道着着用総合格闘技ORG

ORG－1st～COSTUME COMPETITON～

コンテンダーズで実験的に行われていたORGが独立初興行を開催だ! もちろん宇野薫がプロデュース! ストライプルとWK-NET-WORKの全面対抗戦を実現させる! 道着を付けての殴り合いが熱狂の渦を巻き起こす! 毎回、大人気のGCMイベント。チケットはお早めに!

【日時】2月10日(日) 17:30
【場所】TOKYO FMホール
【チケット】S席¥7000
A席¥6000 B席¥5000
(全席指定・税込み)
【お問い合わせ】
http://www.g-c-m.net

明日への熱きメッセージ!

◆ターザン山本『ターザン山本自画自賛の会』

論証:プロレスの面白さは俺の記憶のなかにある!

ターザンがまたまた大炎上は間違いなし! 恒例となった闘道館主催のターザン山本イベント! 今回は昭和望郷編と題して、昨年実現した大木金太郎お見舞いツアーの秘蔵ビデオが大公開! 韓国で実現した大木金太郎vsターザン山本を見ないと、絶対後悔しますよォォォォォォォォ!

【日時】2月3日(日)18:30
【チケット】前売り¥1500(当日¥2000)ワンドリンク付き
【場所】千代田区三崎町2-9-9ナガヤビル5F(JR水道橋駅徒歩3分)
格闘技プロレス図書館「闘道館」
【お問い合わせ】TEL.03-3512-2080
http://toudoukan.hoops.livedoor.com/

◆『PRIDE』直前恒例イベント ～『PRIDE』とは何か?～

『PRIDE』開催直前におなじみとなった島田裕二プロデュース「『PRIDE』とは何か?」。おなじみ島田レフェリーに加え、本誌鬼畜編集長・山口日昇とサダハルンバ谷川の2大巨頭が田村参戦で揺れる『PRIDE.19』を語り尽くす! さあ、このイベントで熱を高めるんだ!

【日時】2月19日(火) 19:00 【チケット】¥500
【場所】ロックウエスト 渋谷区宇田川町47トウセン宇田川町ビル7F(JR渋谷駅より徒歩7分)
【お問い合わせ】TEL 03－5459－7988

明日を生き抜くためのジムオープン

日本初! オクタゴン完備「CHAMBERS－TOKYO DOJO」

代表を務めるアニィこと阿部裕幸が総合格闘技、キックボクシングを港太郎、山口元気といった大物たちがコーチ。そしてサンボのしなしさとこ、藤井恵が女性だけのファイテング・ボディメイク・プログラムでカラダ作りをサポートするぞ! 合気道コースもあるから文句ナシ!

動物園ではありません。これはオープニングパーティーで行われた高阪と小路のスペシャルエキシビションマッチです。

【アクセス】都営浅草線「中延駅」下車A3出口徒歩30秒 東急大井町線「中延駅」下車徒歩30秒
【お問い合わせ】03-5751-7833 www.chambers-tokyo.com

その他NEWS

◆石川社長と囲む会IN長野

"燃える情念"が長野にやってくる! 格闘探偵団バトラーツの石川雄規社長を囲んでの食事会が長野で開催だ! こんな時代だから社長の声に耳を傾けろ!
【日時】2月9日(土)18:30～21:00
【会場】焼肉&soul&foodバックドロップ 長野市上千歳町1137-5 TEL.026－237－8887 ※JR長野駅から車で5分。長野市役所近く
【参加費】¥5500
【お問い合わせ】月刊ながの情報/ツノダ(男) TEL.026-234-3115 1月31日締切

◆SPWFプロレス2002年度新人募集

キミの夢を谷津親分にぶつけろ! SPWFプロレスでは四角いジャングルで暴れ回りたい新人を大募集だ! 千葉の自然と共に育め!
【資格】18歳以上の健康な男子。身長170センチ以上で体重の規定は特になし。
【応募方法】履歴書(身長、体重、スポーツ歴を明記)全身と上半身の写真、810切手を同封し、〒299-4301 千葉県長生郡一宮一宮10073-2 SPWFプロレス「新人募集」係まで

◆アストレス、CDデビュー!

Jd'マットで未来のスターを目指し頑張っているアストレスのデビューシングルが発売されてるぞ! ヤッター～ッ!
早速ショップに飛び込み「アストレスの『HAPPY☆HAPPY』をください!」と大声で頼もうね!

◆Jd'アストレスオーディション開催!

未来のスターはアナタだ! アストレスがアクション女優を目指す女性を募集しているぞ! アストレスになりたい人は履歴書に身長、体重、3サイズを明記し 上半身、全身写真各1枚を送りつけろ!
【宛先】〒107-0052東京都港区赤坂2-3-4ランディク赤坂ビル4FJd'スター吉本女子プロレス「アストレス・オーディション事務局」まで。
【応募資格】2002年中学卒業見込み。身長、体重の制限はなく15歳～25歳までの健康な女性。合格後に育成プログラムを受講するために吉本女子プロレスJd'横浜道場と都内近郊のレッスン場に通え(横浜道場併設の寮に住み込み可)、アクション女優育成の一環として吉本女子プロレスJd'プロテストおよびリングデビューに向けた練習ができる方に限ります。
【応募締切】は3月20日(到着分有効)。3月下旬に2次選考会&最終選考会を実施。2次選考では体力検査、特技披露。最終選考に面接となります
【お問い合わせ】TEL.03-5561-0522
http://www.jpstar.co.jp
【スタッフ募集】アストレスを支える女性マネージャーも大募集!
【応募資格】19歳から30歳までの女性。普通自動車免許取得者は優遇します。

◆全日本女子プロレス2002オーディション開催

伝統のリングを支えるのはアナタだ! 恒例の全女オーディションの季節がやってきたぞ! 体験入門も実施するのでモジモジしないで女子プロレスの世界に飛び込め!
【日時】2月10日(日) 14:00
【参加資格】履歴書(身長、体重、スポーツ歴を記入し、上半身&全身写真を同封)を事前に事務所まで郵送。オーディション受験者は必ず水着を持参すること。
【体験入門】11:00より開始。中西百恵&高橋奈苗が指導員。補佐役に藤井己幸&納見佳容&西尾美香。希望者はジャージなど運動ができる格好すること。参加は無料で飛び入り参加もできます。
【宛先】〒153-0064 目黒区下目黒2-17-17全日本女子プロレス「オーディション」係まで。体験入門&オーディション参加希望者には2月11日後楽園大会、2月24日横浜文体大会のチケットをプレゼント。

◆美濃輪育久サイン会

oi!oi!oi!oi!oi 美濃輪が名古屋にやってくる! 名古屋駅前に新規オープンする「I・V・Y BOOKS」名古屋本店でサイン会を敢行だ! oi!oi!oi!oi!oi
【日時】2月2月(土)18:00～19:00
【場所】「I・V・Y BOOKS」名古屋本店 ※名古屋市中村区則武1-12-1名古屋駅西ビル1F
【参加対象】3月30日『DEEP』愛知県体育館のチケットを同店にて購入された方。同店にて商品をお買いあげの方(¥3000のパンクラス福袋を10個販売致します)。
【お問い合わせ】「I・V・Y BOOKS」名古屋本店 TEL.052-459-7122 パンクラスTEL.03-5792-0815 DEEP事務局TEL.052-339-030

◆「爆勝宣言」もボーナストラックに収録! "ミスター・プロレステーマ"鈴木修CD

プロレステーマ・マニアなら知らぬ者はいない鈴木修のニューアルバム! 武藤、橋本、蝶野を始め多数のプロレスラーのテーマ曲を手掛ける鈴木氏だけにファンの琴線に触れるのは確実だ! ノア各選手のテーマも多数収録「GRAND SWORD」を買うんだ!

◆九州求道軍から「プロレスリング求道軍」に!

プロレスリング求道軍、6月に旗揚げ予定! 九州求道軍が名称を変更し、2002年はイッキシンテンだ!

見てみ、このマンが顔！ガイ子、笑撃デビュー

このリードすら書く時間が惜しい締切間際。しかもガイ子紹介ページというから本当に面倒くさい。ま、とりあえず「私もアゴで悩んだ時期があったのですが、そんじょそこらの顔とは違う。本当に天性の素材」と、アントン総裁も断言しかねないこの顔と（髪型も含め）、ガイ子初レポートをじっくり堪能して頂ければと思います。（ジャン斉藤）

わたしが夢の中で乙葉ちゃんからクリスマスプレゼント（写真集「Love Story」と初エッセイ&フォトブック「乙葉本オトハボン・オトハゴコロ」）をもらっているころ、ガイ子はターザンからサイン入り記念写真がプレゼント。きっと、一生の思い出になることでしょう。

ガイ子初レポート ターザン山本「クリスマスをぶっとばせ！」

昨年暮れ、『紙プロ・ボンバイエ』の2日前（つまりXマス・イヴ）、プロレス図書館こと水道橋は闘道館にて、このイベントはおこなわれた。主役はターザン山本。イヴとターザン、そんな取り合わせで、聖なる夜をやり過ごそうなんて輩は、間違いなく"Xマスにぶっとばされた"人々。との予測から、おなじみ吉田豪が特命リサーチを早速発令！ おっと、突然失礼。私はガイ子。誤植にあらず、ジャイ子さんとかっていうデッカイ人とは別人の、アゴもチャームな練習生。ガ、ガイガイ（まだ不慣れ）。自己紹介はこれくらいで。質問？ 『ガイ子に首ったけ』係迄。

さて、やや遅刻気味で会場に着けば、もはや足の踏み場もない程の客の入り。"超満員（主催者発表）"どころの騒ぎじゃなかったのだ。しかも、当初の予測は見当違いで、観客全員目が輝いてる。

そして、時は来た！「メーリー・クリスマス！ボク、クリスマスがダ～イスキッ!!」と絶叫しながら現れたのは、客の輝く瞳より、更にマブしい真紅の衣装のターザン山本だった。「あれ？ 還暦だったっけ⁉」いやいや、Xマスをぶっとばせ、と言い出した本人が、サンタルックで身を固めてやがるのだ。一同の心にツッコミ魂が芽生えたのは言う迄もない。次いでなんの脈絡もなく「♪う～みぃは～、広いぃなぁ」と歌い出したのだから、さすが落武者。それだけでは収まらず、「サラリーマンは即刻辞表を出せぇぇぇ！」と、意味不明なオピニオンリーダーっぷりを、いつもの通り無責任に、かつ無闇に発揮。この勢いに、スッカリ取り残された一同を 尻目に、独走態勢のターザンサンタは、おもむろに『プロレス大賞』に噛みつき始める。観客との質疑応答の時間が設けられるも、さすがはターザン。観客に対してはいつ何時でも肩透かしを喰わせる。例えば「来年のマット界は…？」と質問されれば、「あ～、大谷普二郎の母親（美人）とは同級生だったんですよぉ」と自慢で返し、「小橋の復帰は…？」と尋ねられれば、「彼のサービス精神は常にトンチンカンなんですよぉぉぉ！」と例の金髪をけなしてみたりと、一時が万事この調子。そんなこんなのターザンのペースに、いいかげん観客もウンザリしてもいい頃なのに、そんな気配は一切ないのが不思議なばかり。ある意味唯一『Xマスをぶっとばせ』だったプレゼント大会（ターザンサンタにプレゼントを献上するコーナー）の尋常じゃない盛り上がり方を見れば、イヴの夜、やることないから来たんじゃなくて、デートをすっぽかしてでも、ターザンイズムに浸りたかったと心底納得できたのだった。

よって総評、タイトルに偽りナシ！ ターザンに一筋縄ナシ!! と、いったところか。ところでこのレポート書き直すこと約18回。書けば書く程ダメになる……。片山ぼんさん、文章書くってホンット難しいものなんですね（正直、ゲンナリ）。

ガイ子 Profile

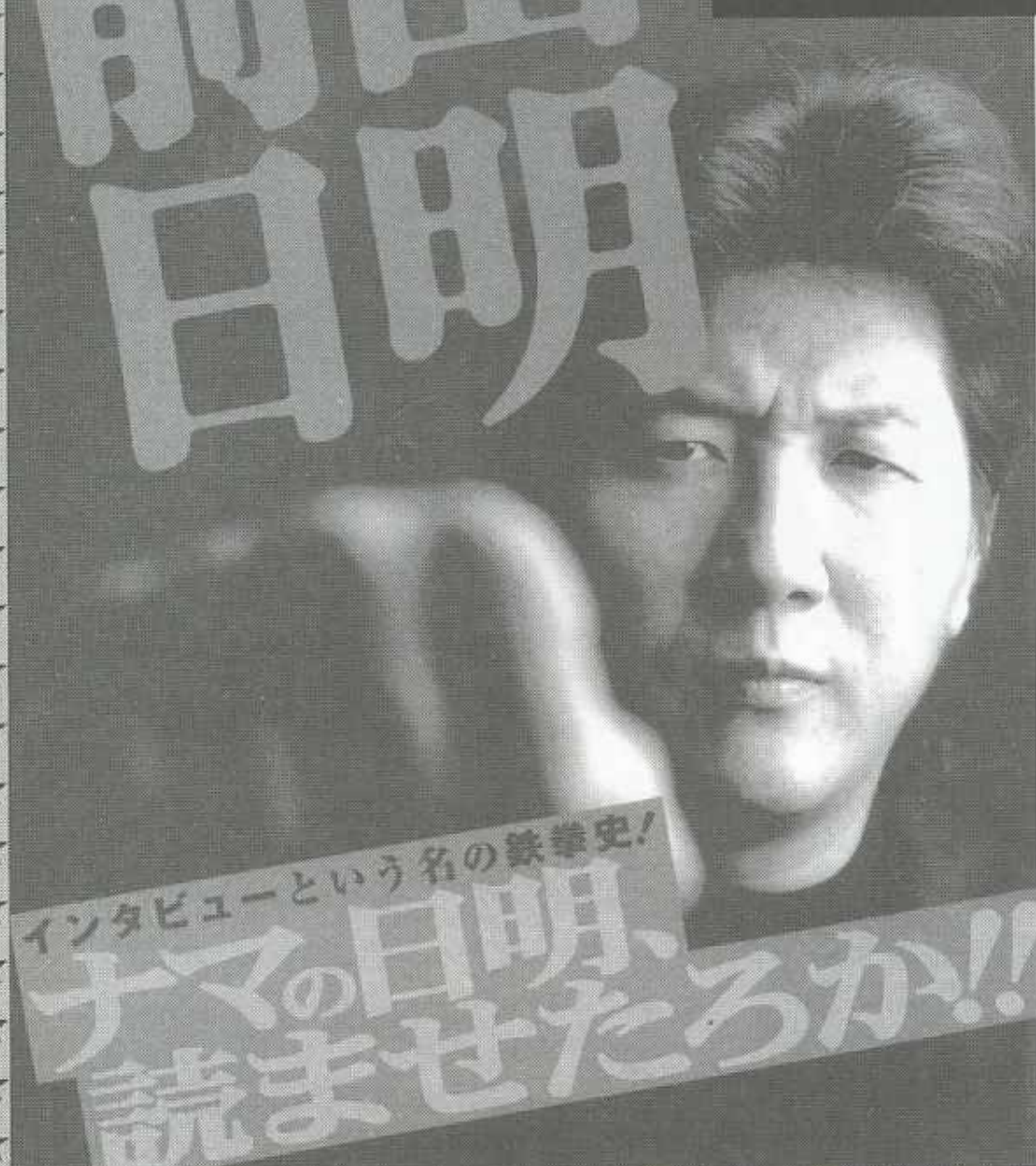
笑撃デビューを飾ったガイ子の全てを教えてあ・げ・る！ そして、全く紹介されないわたくしジャン斉藤の全てもそっと紹介しましょう。

名前	ガイ子	ジャン斉藤
本名	スエヒロガイ子	斉藤慎一
生年月日	ヨーコ・オノの息子と1日違い	昭和50年5月19日（アンドレと同じ月日）
出身地	どちらかといえば荒川遊園地	福島県いわき市八茎鉱山（絶賛閉山中）
尊敬する人	猪武者（三国志の）	桜井章一 清水健太郎
デビュー戦	ターザン山本戦（H13年Xマスイブ） ヨッパライ勝ち	第10期雀鬼会Jrリーグ vs 山下・内山・佐野
主要タイトル	紙のプロレス・インターボンチネンタル	雀鬼会選抜王者
趣味特技	オミヤゲット、髪切りデスマッチの髪切りの部分（自分に）	特になし
ライバル	リングアフロ（時代はおかっぱ）	特になし
テーマ曲	練習生の分際だから黒のショートタイツ程度で	メガデス「狂乱のシンフォニー」
抱負	「こんな会社辞めてやる！」って言わない	特になし

写真を撮ろうとすると照れる照れる。やっぱりガイ子も女の子！……など思うわけがない。そんなガイ子の魅力を次号特集予定の「月刊ガイ子」でじっくりお届けします。お楽しみに（無表情で）。

紙の前田日明

インタビューという名の鉄拳史!
ナマの日明、読ませたろか!!

マット界始まって以来の
インタビューという名の鉄拳史!

紙の前田日明 いま喰らわないでどうする!?

読んでみい!　前田日明のエネルギー史!

◎「プロレス、UWF、そしてリングスとは何か?」(92年収録)
◎「猪木とは何か?」(94年収録)
◎「マッキントッシュとは何か?」(95年収録)
◎「強さとは何か?」(95年収録)
◎「脳味噌とは何か?対談　解剖王・養老孟司」(95年収録)
◎「勝負師とは何か?対談　撃墜王・坂井三郎」(96年収録)
◎「巨乳とは何か?対談　イエローキャブ社長・野田義治」(96年収録)
◎「激白!　プライドとは何か?」(96年収録)
◎「マット界の諸問題にイライラ爆発!」(97年収録)
◎「現役ラス前メッセージ」(98年)
◎「マット界地殻変動檄談　エンセン井上」(98年収録)
◎「語りおろし!　現役最後のインタビュー」(99年収録)

『紙プロ』バックナンバーは力道山時代以来の大改革!

50%OFF!!

第8号 1994年1月号
特集 さらば新日本プロレス
仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス&天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！　２０ページにも及ぶ大特集！

第17号 1995年7月号
特集 実況パワフル北朝鮮
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！　アントニオ猪木&永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

第13号 1995年3月号
特集 道場破りとは何か?
安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！　山本小鉄&上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

第19号 1995年9月号
特集 さようなら紙のプロレス
『紙プロ』を偲んで…ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ&高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会

完売間近

格闘男
撮影／荒木経惟　プロデュース／南部虎弾
桜庭和志、藤田和之、村上和成、アレクら11人のプロレスラーが天才アラーキーと勝負した！　カメラの前で"生身"をさらけ出し「男の張る」姿を見逃すな!

第14号 1995年4月号
特集 神秘とは何か?
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

パンクラス公式読本[矛]
９７年夏、横浜道場所属のパンクラシストを直撃！　鈴木みのる／近藤有己／山田学／故・長谷川悟史／そして佐山聡、カール・ゴッチも登場だ！

2000年　4月
情念〜夢一途なり〜石川雄規
『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！　情念とは何かがわかる一冊である。

第15号 1995年5月号
特集 インディペンデントの逆襲
あんた誰？　山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／Kーとは何か？　石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのKー１三兄弟（当時）インタビュー

パンクラス公式読本[盾]
９７年夏、東京道場所属のパンクラシストが語る！　船木誠勝／パンクラス非公式座談会／ナゼか、故・ジャイアント馬場vsターザン山本が実現！

第16号 1995年6月号
特集 新日本凸凹大学校
『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！　マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！　糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

極真魂溢れる１６人を直撃！
極真とは何か?
松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／盧山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

50%OFF 衝撃販方法

●その他の号、『猪木とは何か?』『猪木とは何か?　キラー編』『大山倍達とは何か?』は完売しました。編集部に訪ねて来ても冷たくあしらいます。
●代金は半額セールのため、8号は¥700→¥350、11号〜21号は¥780→390、パンクラス公式読本『矛』『盾』は¥1260→¥630、『極真とは何か?』は¥1530→¥800、『情念』は¥2100(送料込み)、『格闘男』は¥3000(送料込み)、『紙の前田日明』は¥2000(送料込み)となってます。
●送料は1冊＝¥310/2冊＝¥380/3〜4冊＝¥450/5冊＝¥520/6冊以上は¥700となります。
●申し込み方法は現金書留と郵便振替でお願いします(バックナンバーは通販しか取り扱っていません)。
【現金書留】――〒151−0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3−11−3−702(株)ダブルクロス
【郵便振替】――00130−3−769154(株)ダブルクロス
●郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。

【『紙プロ』本誌・50%OFFセールショップ】アイドール新宿店・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京店・チャンピオン大阪店・リングスパレス・バディスラム・タコシェ

PART 2

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである──（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座

大人の事情で一回休んだら、モチベーションがすっかり急低下した今日この頃。しかも、電車で通勤しなくなり本を読むヒマも激減したので今後の連載続行に暗雲が立ちこめつつあるんだが、「田中忠志の書評は絶対イヤ！」との非情な意見が予想以上に多かったのでヤマノリばりに「一気進展」頑張るつもりの書評コーナー。でも、まだやってない本が大量にあるのでミスター高橋本についてはまたいつかということで。あと、念のために言っておくと『ナンバー』猪木特集号のペールワン原稿は必読。2001年で最高のプロレス記事なのに、リアクション少なすぎだって！【e-mail:go@kamipro.com】

『ピュア・ダイナマイト ダイナマイトキッド自伝』
（監修／ウォーリー山口／エンターブレイン／1800円）

英国貴公子チックなロングヘアに華麗さを感じた国際時代、スキンズばりの風貌に凄味を感じた新日時代、そして諸事情により細身になってもミッキー・ロークばりの渋味を感じた全日時代と、いつ何時でも美形好きの女子のみならず我々男子のハートにも火を点けてきた男。それがダイナマイト・キッドである。

近頃横行しくさっている寸止めプロレス・ダンスなんかとは違い、レスリングの技術と蛇の穴（ウィガン）仕込みの関節技をベースにした上で持ち前の気の強さを全開にさせたハイリスクかつハードヒットなキッドの試合スタイルは、ハッキリ言ってシュートだのワークだのといった二元論がまったく気にならなくなるほどの素晴らしさ！

なにしろ、82年にMSGで行われた初代タイガーマスクとのシングル戦を、**「あの試合は俺の見てきた試合の中でもベストに入る」**とあのビンス・マクマホンJr.にさえ言わしめたぐらいなん

ピュア・ダイナマイト
PURE DYNAMITE
ダイナマイト・キッド自伝
史上最強のジュニア・ヘビー級戦士。
トミーが動けば地は割れ、
山々が吹き飛んだ。
とんでもない圧力だった！
──初代タイガーマスク
（佐山聡　掣圏会館館長）

だから、もう本物と言うしかないだろう。

そう考えると、**「日本ではリングに入ったら、相手を蹴って鼻だの顎だのをヘシ折ってしまうくらい激しいファイトが好まれた」**とのニーズに従って繰り広げられたキッドと佐山との抗争を当たり前のように何度も観ることができた我々は、本当に幸せだったんだといまさらながら痛感される次第なのだ。

だが、しかし。試合中も対戦相手に**「動くなよ」**とつぶやくなりトップロープから顔面に膝を落として歯をヘシ折ったりするのが日常茶飯事だった以上、キッドがリング内外で揉め事を起こしがちだったのも当然の話。

新日時代にも、リングに向かうときにファンが邪魔だったら何をやってもいいとミスター高橋からタチの悪いアドバイスを受けると、すぐさま言われた通りにしていたのだそうである。

「ファンのひとりがちょっと強く俺のことを叩いた。ふと、ピーターの言葉を思い出した俺はクルリと向きを変え、そいつをつかんで柵の向こう側から花道へと引きずり込んだ。そいつの服をすべて剥ぎ、床に叩きつけ、顔面に蹴りまで入れてやった。下着一枚の姿になったまま花道に残し、俺はリングへと向かった」

もちろんやりすぎだったため、キッドは**「逮捕され警察署に連れて行かれると、ひとりで留置所へブチ込まれた」**そうだが、新日本サイドが保釈金を払うと、3日後に出所。

「留置されているあいだ、俺は2試合をスッぽかしたわけだがギャラはしっかりともらった。保釈されるやその話は新聞にまで書きたてられ、まるで問題児のように扱われた。それがビジネスにどう影響したかは想像がつくだろう。新日本が払った保釈金や試合もしないで俺にくれたギャラなんて、後で数倍にもなって返ってきたのだ」

こうして現実に起きた洒落にならない出来事を次々とアングルに転化させていった昭和の新日本は、まさに「過激なプロレス」だったわけである。

「俺の目から見て、当時の新日本はプロレス・ビジネスにかけては最もスマートな団体だった。優秀なレスラーを揃え、最高のストーリー・ラインが用意された上で激しい試合をファンに提供していた」

それに比べて**「当時の全日本の試合は『おい、冗談だろ？』と思ってしまうものが多かった」**そうだが、バッドニュース・アレンに対して**「次のツアーに来る時はマスクを被ってくれ。それで『ブラック・タイガー』としてタイガーマスクと闘うんだ」**と、ただ肌が黒いだけで言い出す新日フロントの発想も負けずに冗談みたいなものだったんじゃないかとボクは思う。

そしてキッドは、「冗談」のはずだった全日本移籍後も、大プッシュされていたナスティー・ボーイズに対してこんなエゲツない試合を仕掛けて、ジャイアント馬場を激怒させたりしていたそうなのである。

「試合開始早々から、俺たちはヤツらが繰り出してくる攻撃すべてに反撃を加えた。ヤツらに技をかけさせるスキも与えず、クズ同然に扱ってやった。ファンの目にはブルドッグスばかりが光る試合に映っていたはずだ。試合が終盤に差しかかったところでデイビー（ボーイ・スミス）が俺にタッチし、（ブライアン・）ノッブスと向かい合った。ヤツをターンバックルに打ちつけながら言ってやった。『クローズラインだ……、動くなよ』」

そう。「すべてのプロレスはショー」だとミスター高橋の本を読んで勝手に達観するのもいいが、プロレスは決して単なるショーではない。それは、ブレット・ハートが父スチュ・ハートに**「ダイナマイトとは闘いたくない」**と懇願したにも関わらず組まれたシングル戦の描写を見れば、きっとわかってもらえることだろう。

「ヤツは硬直したままで動きもぎこちなかった。そこで俺は心を決め、ブレットをコーナーへと連れて行き、前腕で殴りつけて鼻を折ってやった。すると不思議なことに、ヤツの身体から余分な力が抜けた。試合は両者反則もしくは両者リングアウトの予定だったのだが、試合後にさっさと控室に引き揚げたブレットの鼻からは血が流れ出て、怒り狂い、今にもかかってきそうな勢いだった。それを察知した安達と桜田がなんとかブレットを抑えたが、もしあのふたりが止めていなければ、俺のほうがブレットを片付けていた。きれいさっぱりと……」

つまり、プロレスとは試合の結果自体は決まっていようとも、そこに至るまでにはリング内で何が起こっても決しておかしくない、とんでもなく自由度の高すぎるショーなのである！

さらに、ジョブ（ミスター高橋流に言えば「ジャブ」）を頼まれても**「反則かリングアウトで負けるならともかく、ヤツらにフォール負けするなんてとんでもない話だ」**とゴネたり、プロモーターから**「キッチリとデイビーを倒して、ベルトは必ずここに置いて行ってくれよ」**と依頼されても**「デイビーボーイ・スミスのキャリアに花が添えられる」**との理由で勝手に対戦相手のデイビーにすら内緒でわざとピンフォールされてベルトを渡したりと、もはやキッドの前では結果絡みの決め事すら無意味だった様子。

なお、暗闇の虎・アレンにも**「彼に対して対戦相手が巻き投げやバックドロップで投げ飛ばしたところを見たことがない。それは彼がいつも試合の指揮を完全に握っていたから」**というように相手の技を受けない面もあったそうだが、それでも〝ヒットマン〟ブレット・ハートは果敢に立ち向かってみせたのだという。

「ブレットが軽率だったのか賢い攻撃に出ようとしたのかはわからないが、いつも胸を攻める代わりにアッパーカットをバッドニュースの顔面に叩き込んでいた。バッドニュースは何回かは我慢していたが、ある日ついにキレた。ブレットを床に叩きつけ、罵声を浴びせるとさらに首を絞め始めた。その後、ブレットはバッドニュースを怖れ、一緒のリングには二度と立とうとしなかった。そして、ほかの誰もが同じように怖れたため、結局最後には俺に回ってきた」

要するにキッドは、他のヤツとは違って**「俺は誰の試合からも逃げたことはない」**と男らしく豪語しているのであった。カッコいい！

その他、カール・ゴッチを**「クソじじい」**と言い切ったり、タイガー・ジェット・シンを**「マット界において、おそらく最悪の人間」**だの**「レスラーとしてもとんでもないクズ」**だの**「己の栄光に固執し、自分が負けることをこの上なく嫌がった。だから、タッグマッチの時は常に『俺は絶対に負けない』と念を押していた」**だのと断罪したりするレスラー評も、いちいちキッド節全開でシビレる限り。

いまも最強説が囁かれ続けるアンドレ・ザ・ジ

ャイアントですら、キッドに言わせれば「実際のアンドレはみんなが彼のサイズから想像する怖さとはほど遠かった。彼が相手を引き起こす時には、相手のほうから彼のために起き上がらなければならなかったほどだ」「それほど彼には力がなかったのだ」「アンドレと同じリングに立つ時は、対戦相手が一から十まですべてをやらなければならなかった」と、強さもプロ意識もまったく認めていないことがわかるのだ。

それでも、「ちょっと狂気じみていて、酒好きで、いつでも小さな38口径スペシャルを携帯していた」というマフィアばりのエピソードが似合いすぎる美獣ハーリー・レイスのことは、さすがの爆弾発言小僧・キッドも大絶賛！

「彼の偉大さはそのNWA王座の奪取の記録にある。そこで知っておいてほしいことは、ひと昔前まではよほどのレスラーでない限り王者になる権利を与えられなかったということだ。つまり、たとえそこが路上であろうと、リング外でも自分を守れる人間でなければいけないということだ。なぜなら、世界王者が街でチンピラに絡まれボコボコにされたなんてことになればこの業界の大恥になってしまうからだ。こういう事実を踏まえた上でハーリーの記録を見れば、彼がどれほどのレスラーだったかわかってもらえるだろう」

やっぱりプロレスラーには強さとハートと有無を言わせぬ説得力が絶対に必要だと、いまさらながら痛感させられる素晴らしい一冊なのであった。

……と絶賛したいところだが、この本にはタチの悪いイタズラ話ばかり満載されているのでぶっちゃけた話、ボクにはほとんど共感できやしなかったわけなのである。正直、スマン！

普通ならプロレスラーのイタズラや喧嘩の話はカラっとしていて笑えるはずなのに、どうしてなのかこれっぽっちも笑えないキッドのイタズラ。

それはなぜかと言えば、ヒルビリーズのアンクル・エルマーという50歳過ぎのレスラーのイビキがうるさいというだけで彼の部屋に忍び込み、「非常に燃えやすい素材」でできた「白いテーピング用のテープ」を足の上に乗せて燃やしたり、リック・マグローを全裸にすると手押し車に乗せてエレベーターにブチ込んだり、デイビーボーイ・スミスの尻にステロイドではなく牛乳を注射したり、ジプシー・ジョーを火ダルマにしたりと、ハッキリ言ってキッドのイタズラは犯罪そのものであり、明らかにやりすぎだからなのだ。

アル・ペレスが「試合前にきっとジョークのつもりだったんだろうが、俺に気に入らないことを言ってきた」というだけで彼のカウボーイ・ブーツにダイナマイトを突っ込んで爆発させたことからもわかるように、キッドのやり口は爆弾小僧にも程がありすぎなのである。

それと、抗生物質に見せかけてマイク・デービスに下剤を飲ませると、酔い潰れたデービスの頭に除毛剤を塗りたくり、おまけにしっかりシャワーキャップも被せて「下剤と除毛剤のおかげで、マイク・デービスは日本へ来た時よりも身も頭も軽くなって帰国の途についたというわけだ」と述懐していたりと、まったく反省の色が見えないのも極悪の一言。

しかも、テリー・ファンクが飲んでいたブランデーにイエロー・ジャケットとスピードをブチ込み、完全に潰れたテリーから真相を追求されたときにもひたすらとぼけ続け、「最後にはテリーも俺のしわざじゃないと信じてくれた。テリー、今だから白状する。薬を入れたのは紛れもなくこの俺だ」と言い放ったりで、行為自体を認めようともしないのも本当にタチが悪すぎるのだ。

ハーリー・レイスにステロイドを打ったときも、すぐさまハンセンやブッチャー、ブロディ、ゴディらにチクってみんなで笑い物にしておきながら、レイスには「誓うよ。俺は誰にも言ってないし、言おうとも思わなかった。だけど、ひとつだけは認めるよ。じつは、従弟のデイビーボーイ・スミスにだけは打ち明けてしまったんだ」とシラを切ったキッド。このため「現場にいたというだけでも、キミはきっと後から俺がやったとみんなに言い触らすんだろう」とビビって逃げたデイビーがレイスにボコられたりと、責任転嫁が上手いのもキッドの特徴だろう。

ただし、レイスもそうだが、アレンにも下剤を飲ませたり、ディック・マードックのパンツを「床に落ちていたという汚れた下着」と取り替えて慌てさせたりと、強豪にもイタズラを仕掛けているのはさすがなのであった。

こんな調子で、とにかく誰かを丸坊主にしたり、悪事を働いては人のせいにして余計な揉め事を起こさしてばかりいたキッドは、そのくせ当然のようにこう言い放っていたものである。

「確かにブルドッグスはひどいことをやらかしていた。しかし、それらは卑劣な手段ではなく、あくまでもユーモアに富んだものだった。その証拠に俺たちは数え切れないほど笑わせてもらった」

おい、笑ってるのはブルドッグスだけだって！

「確かに俺のいたずらは半端じゃなかったが、ケガをさせるようなことは決してしなかった。あくまで俺から言わせれば、俺にからかわれたヤツらのほとんどは、そうされて当然のヤツらだった」

しかし、キッドはこんな罪もない相手にも容赦なくイタズラを仕掛けていたわけなのだ。

「近所にフィリスという小太りの女性が住んでいて、たまに彼女のアパートで朝食やコーヒーをご馳走になった。自分でもなぜあんなことをしたのかわからないが、ある日、いつものように彼女のアパートへ招かれた俺は、引火性のフィエリー・ジャックのチューブを持っていった。で、フィリスがコーヒーを作っている間に、俺はトイレの便座にそれを敷き詰めて、笑い出さないようにジッとこらえていた。彼女がトイレへ行き、戻ってから1、2分ほど経った時、フィリスはモゾモゾとして、突然飛び上がって叫んだ。『助けて！　お尻に火が！』」

……英国人のユーモアセンスは、どうも我々日本人には理解し難い気がしてならない。

やっぱり、熊と闘うと宣言したが州の競技委員会に反対されると白いペンキを塗って北極熊に仕立てたり、ついでにドリーが買ったばかりのキャデラックもペンキまみれにしたり、部屋を自分で破壊して警察を呼び、犯人はこいつだとドリーの部屋を案内したりしてきたテリー・ファンクのように、底抜けに明るいアメリカ的なイタズラとはあまりにもベクトルが違いすぎるのであった。

ちなみに彼氏、レイスとは「勝つか、負けるか、相打ちか、どうなるかはやってみなければわからない」とばかりに喧嘩にも挑み、「後ろからブーツで彼を蹴飛ばし、尻から地面に転ばせた」こともある様子（ついでに前田日明とも揉めた星野勘太郎とのバトル経験もあり！）。

どうしてまたキッドはエゲツないイタズラや喧嘩を繰り返したのか？　そして、なぜ危険な試合を平気で続けることができたのか？

それは、ジャンクヤード・ドッグにステロイドとコカインを教わり、ジェイク・ロバーツにスピードを教わったためなんじゃないかとボクは勝手に推測する次第なのである。

「ステロイドはただ単に肉体に影響を及ぼすばかりでなく、精神にも害を与えた。時にすごく攻撃的になり周囲の者が手をつけられなくなるので、誰も俺と目を合わせないようにしていた。俺自身、感情を抑えることができなかったのである」

こうした行き場のない感情が、洒落にならないイタズラに向かったり、命知らずな闘いへと向かったはずなのだ（なお、ステロイドについては「時には手に入れたものを他のヤツにくれてやることもあった。信じがたい話だと思うが、その多くが日本人レスラーだったこともある」とのことで、本国で売られているオリジナル版には日本人選手の具体的な実名も出ているとの噂）。

「巡業はいたずらやら何やらで笑いの絶えない場でもあった。しかし、正直言うとそれでも俺の気分は散々だった。気分がひどくて、ベッドから起き上がるのさえやっとということもあった。俺にはその理由がわかっていた。長年の間に蓄積した完治しないままの負傷とステロイドだった」

常にキッドが不機嫌だったのには、こんな理由もあったのに違いない。しかも、この怪我の「根本的な原因は、佐山と繰り広げた激しい試合の数々にあった」らしいのだ……。

「25歳になった時、背中に激痛が走るようになっていた。その原因がブレーンバスターやパイルドライバーなどの技によって慢性的に背中を打ちつけることによるものなのか、あるいはステロイドによるものなのか、またはその両方が原因なのか、まったくわからなかった。時には肋骨や肝臓など、とにかくあらゆる部分に痛みが走った。それでもハイ・リスクな技を出すのはやめようと思ったことは一度もない。ファンはそういう技を見るために金を払っているわけだから」

この身体の痛みを麻痺させるためには、きっとドラッグに頼るしかなかったのだろう。まあ、そんな男が喫煙反対キャンペーンのCMで「チビッコのみんな、タバコは吸うなよ。健康に悪いぜ」などと視聴者にアドバイスしていたのが、いまとなっては皮肉でしょうがないんだが。

その後、キッドは全日に移籍。「新日本にいた頃は、テレビ中継のたびにピーター（ミスター高橋）に『こうしなければダメだ、ああしなければいけないぞ。長く闘ってくれよ』と口うるさく言われた」ものの、全日本のプロレスは意外にも「多かれ少なかれ、その場の流れに応じてレスラー個々人に任せていた」など、監修がウォーリー山口のためなのか意外な全日エピソードがけっこう多いので、ちょっと紹介してみたい。

「当時の俺の好きなフィニッシュは相手をコーナーに追い詰め、シャープなエルボーを相手の顔面にブチ込んで決着をつけるものだった。顔面にかする程度ではなく、モロに入れるのだ」

これを天龍にブチこんだら、試合後に「今夜のエルボーはとてもシャープだったよ」と笑いかけてきただの、天龍のみならず「その頃の馬場はまだ確実に受け身を取っていて、多くの日本人レスラーに嫌がられている俺のパイルドライバーでさえ、彼はキチンと受けていた」だのと、全日幻想が高まるちょっといい話も満載（小橋のナイスガイぶりとか）。

ただし、その頃にはすでにキッドの身体はボロボロになっていたわけなのだ……。

たとえば、WWFから完全離脱するため車椅子で飛行機に乗り、デイビーに支えられてリングに立ってチャンピオンベルトを失ったというのに、試合のギャラはわずか25ドル……。

同時期にデイビーとの確執（あれだけイタズラの被害に遭えば、従弟でも嫌になる気持ちはわからないでもない）や夫人との不仲も重なってプライベートでもボロボロになり、挙げ句の果てにはダニー・スパイビーから貰ったLSDで心臓停止！

ジョー樋口からは「リングでそんなにハードにやらなくても、ちょっと手加減すればいいさ。そうすれば続けられるよ」と現役続行を薦められたが、キッドは「それではダメなんだ。ケガをしていようがいまいが、試合中に手加減したことなど一度もない」と反論し、男らしく引退の道を選んでみせた。

しかし、やがてみちのくプロレスで一夜限りの復帰を果たしたことで、見るも無惨な姿を客前で晒すことになってしまったわけなのだ。

「当日会場入りする頃になると本当に具合が悪くなっていた。頭が朦朧として目の前に黒い点がチラつく状態がずっと続いた」

あのとき開場前に見掛けたキッドと目が合ったボクは、ついつい写真を頼んだら思いっ切り睨まれたという切ない思い出もあるんだが、まさかこんなことになっていたとは……。

この試合後、発作を起こして緊急入院したキッドは歩行不可能になったのだそうである……。

LSDを渡したスパイビーが悪いのかともつい思うが、それが単なるきっかけに過ぎないことは「ダニー・スパイビーはいまだに連絡をくれる。彼の両脚は俺と同じくもう崩壊寸前だが、今でも俺たちから笑いが消えることはない」と、本人がまったく気にしていないことからもわかるはず。

「俺は生まれ変わっても再び同じ世界に身を投じるだろう。そして何が起ころうとも自分のやり方を変えるつもりはない。プロレス人生を車椅子という形で閉じてしまった男がこんなことを言うなんてどうかしていると思われるかもしれないが、これが俺の正直な気持ちだ。レスリングこそ俺の愛すべき人生そのものだった。決して後悔はない」

どうして、その状態で後悔しないんだよ！

……キッドが活躍していた頃と比べて最近のプロレスはつまらないと、誰もが言う。

そんなことは当たり前だろう。そもそも、選手の背負っているリスクがケタ違いなんだから。

だからといって、ここまでのリスクをいまのプロレスラーたちに強いる権利なんかあるわけもない以上、我々にできることは巨大なリスクを背負い続けて一時期、誰よりも光り輝いた男のことを決して忘れないことだけなのである。

紙のプロレス発足10周年＆紙のプロレスRADICAL創刊5周年記念イベント

12月26日「渋谷ism」

『紙プロ』ボンバイエ2001

バイブーッ!!

バイブーッ!!

バイブーッ!!

バイブーッ!!

観客、謎の絶叫!!??

「こんなの初めてェ～！」「バイブーッ！」
昨年12月26日、とても暮れの押し迫った時期とは思えない、淫らな絶叫が渋谷にこだました。
この日は、『紙プロ』旗揚げ10周年＆RADICAL創刊5周年記念イベント『紙プロ・ボンバイエ』が行われた！（いつもご愛読ありがとう。謝々）
さて、その記念すべきイベントのオープニングは、ナゼかドラゴンの緊張感のないランニング映像、脳天気なテーマ曲『ドラゴン・スープレックス』が流されてスタート！
間違ってもドラゴンが来るはずはない。登場したのはドラゴンパフォーマー第一人者で今回司会を務めるユリオカ超特Q、その人であった。
壇上に上がるや、さっそくドラゴンムーブ敢行のユリオカ超特Q！　ドラゴンの試合中の息づかい、リアクション、言語不明さ、前言撤回ぶりなどとにかくドラゴンそのもの！　ほかにも金本（ただし試合後限定）や「ゴング」の竹内宏介氏というマニアック過ぎる持ち技を披露。誰もやれないというか、誰もやらない革新的なネタで観客を大爆笑させたのだ。
そんな飛龍革命なオープニングのあと、ゲストよりも来場が不安視された本誌鬼畜編集長・山口日昇と本誌スーパーバイザー吉田豪が壇上に上がり一発目のゲストをコール。
この日は「超大物レスラー多数参戦」と銘打ってはいたが、超満員200人（限定）でギュウギュウの会場に詰めかけた読者も「どうせマユツバ。大物レスラーのモノマネでお茶を濁すつもりだろ？」と信用していなかったはず。
そんな雰囲気の中、派手なスモークと共に姿を現したのは、なんと本物の橋本真也！　ヨッ、破壊王！　お帰り、NWA世界王者！
米国より持ち帰ったばかりのNWAベルトを携えての登場となった破壊王は、「本当は便器を持ってきて、『ベンキですかーッ！』ってやりたかった」といきなり破壊王節を全開！
トークの方では、大スターのA・ブッチャーをまだ破壊王がグリーンボーイ時代、乱闘にまぎれて思い切り蹴飛ばしたという、いまやよほどのマニアでも覚えていない〝事件〟の真相も暴露。なんと、ドン荒川が「いいから蹴ってこい！」と焚き付けられてのことだったことが発覚したのだ。あの一件は、ヒロ斉藤〝指折り事件〟同様の顛末だったわけである。
そんなバツグンの破壊王エピソードがタップリ語られ、遂にメインイベントに突入！　破壊王の伝説のアルバム『橋本元年』（絶賛廃盤中）に収録された伝説の名曲「栄光への独白」熱唱コーナーに！　紅白不出場のウップンを晴らしてくれ、破壊王！
さあ、皆さんもご一緒に！

★

（セリフ）
俺は、自分のことを、弱虫だと思う。
（以下ページの都合上省略）

★

どーですかッ、お客さん！　完全熱唱しましたか？
ところが破壊王は「歌詞を忘れた」とのことで完全熱唱はならず。残念！
それでも、帰る際に退場口を間違えるなど最後までらしさを発揮して会場を去っていったのである。拍手！
ここで短い休憩が入り、狭い会場ながらホッとする観客だが、次なるゲストが登場するや再び爆発！　大声援が会場を包み込む！
そんな大声援を一身に浴びての登場は、前田日明だ！
登場するや延々と〝山口日昇バイブ発覚事件〟（各自調査）話を本当に楽しそうにする前田総帥。話題が変わったかと思えば「実験のため○○に包茎手術を受けさせた」だの、「○田は泥酔してウンコを垂れた」だの、ドラゴンが「オマエは○田だろう!?」と絶叫する影で〝オマエはウンコ垂れだろう！〟と前田総帥は延々と追求した話だの、高貴なヒゲにピッタリな高貴な話で観客を圧倒！　とても、翌日にリングス解散を電撃発表する人の話とは思えない。
ちなみにこの「力道山時代以来の大改革」についての質問も何度か飛んだ

前田、橋本、ドラゴンを話る

見てみ、このサスケの熱唱振り！　誌面からでもその歌声が伝わってくるようだ！　途中、『紙プロ』とは関係が深い島田レフェリーも駆けつけ「いまの『紙プロ』はつまらない！」と、祝福の言葉を送った。

風貌はちっともドラゴンを感じさせないが（パーマ頭はカツラ）、とにかくそっくりだったユリオカ超特Q！　プロレスファン以外はウケないというドラゴンネタだが、そんなことどうでもいい。ユリオカ超特Qを見逃すな！

シウバ戦で負傷した鼻が癒えぬまま登場したアレク。しばらくは総合のリングに専念するとのこと。3回目の『紙プロ』表紙を目指して頑張ってください！　ちなみにアレクはミスター高橋派だそうです。

とにかく物騒な話で会場を凍り付かせた篠原光。肩書きとしては、太●●アと付き合っていた女、現役キャバクラ嬢、喧嘩無敗と様々だが、北斗晶に成り代わり、デンジャラス・クイーンをゼヒとも名乗ってほしいものだ。

プライベートで現れた山本憲久。『PRIDE.18』で話題を呼んだマイクアピール“イッキシンテン”とは、一気に進展する意味だったと説明。あらためて、今年の一気進展な飛躍を観客に誓った。

新日時代、選手会長だったこともあり、破壊王は常にドラゴンに振り回され放しだったという。「言うことが毎日変わってみい？」と、「紙の新聞」で報道されるドラゴン像とはウソ偽りがないことを証明。しかも「コンニャクという呼び方が新日で流行った」というからビックリだ！　そんなドラゴンエピソードを笑顔を絶やすことなく振り返る破壊王であったが、ユリオカ超特Qの似すぎるドラゴンムーブに「見てたら、段々ハラが立ってきた！」と怒り心頭。モノマネでここまで激怒するとは……。だからこそドラゴンとの絡みが見たい！

昨年は、ドラゴンが「KOKルールで闘ってもいい」と前田との対戦をブチ上げたり（しかも新日マットで）、小原vsアターエフという犬vs狼が実現しかけたりしたこともあって、前田が久々に新日事務所を訪れたことも（そして間違って闘魂ショップに入ったらしい）。だが、訪れたのはいいがドラゴンからは具体的な話は一切なし。それでも「しょうがないから、優しい目で見てしまう」という大人な対応をする前田なのであった（その後「東スポ」フィルム抜き取り事件が勃発。ドラゴンが触れるもの全てに呪いが……!?）

が「明日やね、明日。それは明日までのお楽しみやな」と言いながら、「俺は、やるときはスパッとやるよ」と意味深な言葉を口にしたのだった。ああ、リング揚げ10周年を迎えたのに（涙）。

最後は、前田総帥に「1、2、3、ダーッ！」のアントン・パフォーマンスをお願いすると、思った通りアッサリ却下。前田曰く「ダーッ！がイヤ」とのことだが、いつの間にか「こんなの初めて～！」と前田が振り、観客が「バイブーッ！」と唱和することがリングス解散と同じく電撃決定！　有無を言わせず観客に絶叫させたからとんでもない。どんな締めなんだ、一体。かくして、前田日明は死なずを予感させた内容となった。

ここで第1部は終了。司会がちっちゃい頃の『紙プロ』ダミー編集長としておなじみの原タコヤキ君にチェンジし、第2部がスタート。後半最初のゲストは、大みそか『猪木ボンバイエ』にも緊急参戦を果たし、『ボンバイエ』連続参戦の快挙を果たすことになった東北の英雄・サスケ社長！

営業で渋谷を回っているうちに「プロレスファン独特の匂いを嗅ぎつけてやってきた」といい加減な前振りで登場したサスケは、『噂の真相』で流れた愛人問題から中東情勢など幅広い話をスーダラに展開。途中で、『島田が見た』発刊記念サイン会でお客が3人しか来なかった島田裕二レフェリーが乱入すると、山口、サスケ、島田のトリオがキャバクラでダベるような話を垂れ流し。完全にイベントは忘年会モードに突入していった。

そして、サスケが自らのテーマ曲でもある『SEPARRADOS』を大熱唱！　舞台はキャバクラから、場末のカラオケバーに移ったわけである。

そんな異様な空間を醸しだし始めた会場の雰囲気を、一新するかのように鳴り響いたのは『Ao Corner』！

そう、続けて現れたのは、まだシウバ戦（『PRIDE.18』）の傷跡が生々しいアレクサンダー大塚！

会場には、大熱戦となったシウバ戦の模様が上映され、それをアレクが振り返るという、打って変わってシリアスな雰囲気に。

が、サイン会に客が3人しか来なかった島田レフェリーがまたもや割って入り、バト時代のグチ話、いや、思い出話に花を咲かせた。島田レフェリー、2度の出演、お疲れさまです！

そんなわけで気が付けば、さして『紙プロ』の歴史を振り返るわけでもなく5時間経過。全女並の長時間興行になったが、女っ気は1ミリたりともナシ（たまに出てくれれば新人のガイ子。しかも前田総帥のデコピン志願だから色気のある話ではない）。

だが、ここで救世主登場！　SMACK GIRLの復活が間近に迫る篠原光が駆けつけてくれた！

仕事帰りという篠原は、過激なコスチュームで会場の視線をクギづけにさせ、トークの方でも公にできない過激な内容で（太○○アや王道女神な人の話とか）こちらは会場を騒然とさせるどころか凍結状態へ！　そんなサービス精神旺盛過ぎる光ちゃんは、豪華プレゼントコーナーと称された編集部のグッズなどの在庫一掃にも協力。本当にありがとうございました！

本来ならこれで予定されていたゲストは全て登場となったわけだが、高田道場入りした、あの山本憲尚がプライベートで訪れ突然の飛び入り参加！

「いやあ、ボクも10周年なんですよ！」と一方的に話を進め、イベント最後の締めまでノリノリで強奪！

「1、2、3、ヤマノリーッ！」と、ホントにゴーインに締めてしまった。

そんなわけで、気がつけば午前4時過ぎ。狂乱のオールナイトイベントはこうして幕を閉じたわけだが、最後を飾ってくれたヤマノリの勢いを見習って、『紙プロ』も11年（秒）で倒れぬようイッキシンテンでバク進していきます！

出演を引き受けてくれたゲストの方、そして集まってくれた読者の方、みんなアリガトーーッ!!　来なかったやつザマアミローーッ!!　ボンバイエッ！

（ジャン斉藤）

触わるな！ 危険

2002年マット界は、コイツに注目！ この男から目をそらすな!!

1・6ゼロワン後楽園大会で、デンプシーに殴られました。この写真は、その直前に撮った命懸けの一枚。皆さんも気をつけて！ というわけで、まずは 紙プロ に届いた、めでたい年賀状を紹介！「小生はNo.38のお写真を見てジャイ子ファンになりました。 紙プロ の軽薄短小の男共には理解できないと思いますが、貴女は最高級の美女です。小生はマッサージをすることが趣味で、350人以上の女性を揉みました（21才～52才、150cm～185cm、35kg～80kg）。その中で173cm、63kgの女性と並ぶ、最高の美女はジャイ子様のみです。是非一度ジャイ子様をマッサージさせて下さい。"魔法の手"より」だって。どうするジャイ子？

ジョシー・デンプシーさん（27歳）

今年もあんたが総大将

「『噂の真相』のやつみたいには描けませんでした。とてもじゃないけど元●夫人の裸など描けません。良心的にも美意識的にも」。なにやら意味深ですのぉ。アポアポ！

※当作品は実在する人物とは一切関係ありません

「『格通』の『ゴリヘラ』で初めてサル・ザ・マンのイラストを見てもう10年になるか。凄いインパクトがありましたよ。あのハガキ職人が年月を経てデスマッチスターになるなんてねぇ…。木こり出身、ロックグループ出身に負けない経歴の葛西純選手の活躍を心から祈ってます」。本人も、きっとウキーッ！

「新日がエンターテイメント宣言したら主役になるのは武藤でも蝶野でもなく、案外、藤波と健介なのかも」。ドラゴンもケンスキーも無意識でっていうのが素晴らしいね。

「入江vs稲垣戦はどこも扱いが小さかった。ヒクソン戦へ向けての貴重な第一歩だったというのに。まぁその先、何万歩歩かなきゃならんかは知らんけどね」と雄大先生。遅くなったけど、花くま先生のコラムはキングダムネタです！

今月のアンリミテッド王者

理恵ちゃん、もう一丁だ!!

裏

2002年になっても、その勢いは変わらず！ 理恵ちゃん、「紙プロ」認定アンリミテッド王座4度目の防衛に成功！ 前号では間違えちゃったけど、あと一回防衛に成功すれば、なんと理恵ちゃんには賞金50万円が贈られます！（これホント！） さあ次号、理恵ちゃんの運命やいかに？ で、今回は昨年まで「紙プロ」に在籍した幸田珍からの年賀状をどうぞッ！（なんでやねん！）。「ご無沙汰しておりますが、みなさんお元気ですか。奈良に帰って僕は会社の健康診断で脂肪肝と告げられ、積極的に野菜を摂取し、数値を下げる努力をしています。みなさんもお体にお気をつけて下さい。幸田欣也」。ありがと、幸田珍。死ぬんじゃないぞぇ！ では、また今月ッ！

表

紹介するには、ちっと遅いが、各界著名人からの年賀状だジョー!!

「ウッキー!!」と言えば、酒井法子（それはヤッピー）でも英語が上手なアントン（それはウィッキー）でもなく、葛西純なんだっつーの！

A HAPPY NEW YEAR 2002

ウッキー!!

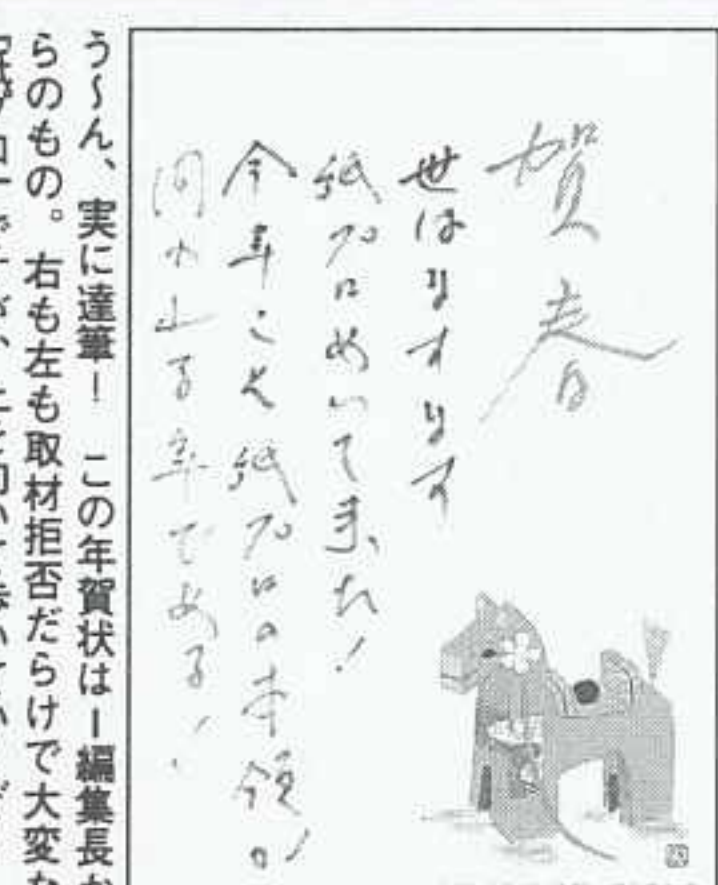
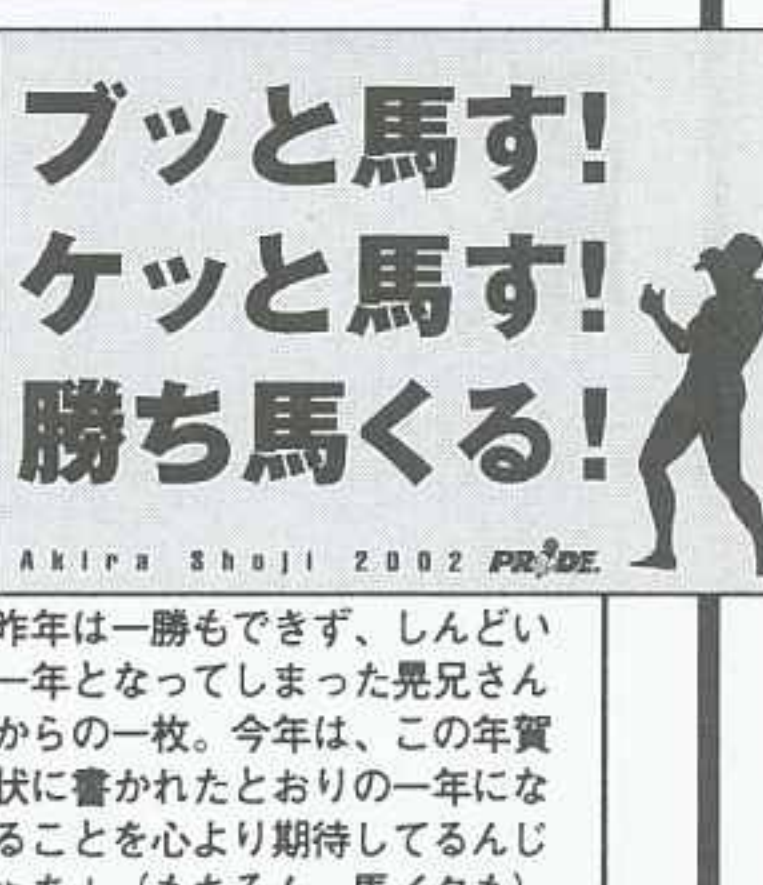
〒224-0053 横浜市都筑区池辺町4347 大日本プロレス 葛西 純

WWFに熱くなっていた杉作さんも、いまや知る人ぞ知るモー娘。中毒。みんなも杉Jと一緒にあいぼん（加護亜依様）を応援しましょう！

あけましておめでとうございます みんなであいぼんを応援しましょう

杉作J太郎

以前「エロ・サムライ」にも出てくれた、うらんちゃんのイラストが書かれたDDTで活躍中の「昭和」子からの一枚。まさに萌える闘魂！

萌春。

う～ん、実に達筆！ この年賀状は一編集長からのもの。右も左も取材拒否だらけで大変な「紙プロ」ですが、上を向いて歩いていくぞ！

ブッと馬す！ ケッと馬す！ 勝ち馬くる！

Akira Shoji 2002 PRIDE.

昨年は一勝もできず、しんどい一年となってしまった昇兄さんからの一枚。今年は、この年賀状に書かれたとおりの一年になることを心より期待してるんじゃあ！（もちろん、馬イクも）

千駄ケ谷3丁目 読者の声

★「安田軍の反乱◎セミファイナルが終わった時、新日の負けだな、今日は。と感じていました。石澤はレスリングしか見せられず永田は打ち首のようなノックアウト、ジャイアント・シルバは猪木に使われた。そして安田である。その場にいてサイコーに興奮する闘いであった。個人的にはハッキリ言って全てが謎の前衛舞台みたいだなと思った猪木の試合も頭に残ったが、ホントにホントに安田が全部持っていった。終わってから思うと2001年12月31日、猪木に唯一人かつ最大に反抗をできたのは安田忠夫なんじゃないかと思った。選手も観客も選手も石井館長も一歩も動けない中、安田は猪木に入れられたオリの中で力いっぱい鉄柵子をガチャガチャゆらす事ができた唯一の男というイメージがわいた。そこが安田があの日、かっこ良かったと思う。そして安田がどこへ行くのか分からないが、とりあえず借金を増やして欲しいと思った。また光ってくれそうだから」【村田卓実】

➲このプチコラムは2年ほど前『紙プロ』で連載していた素人勝ち抜き投稿合戦『PRIDE.0』で活躍した、村田卓実君からのものです。というわけで、とりあえず借金増やせ、安田!(無責任に)

★「面白かった記事はミスター高橋関連。私はいままでプロレスが試合をやる前から「勝敗は決まってるものだ」とレスラー関係者から直接聞いたのは、全女の元WWWA世界タッグ王者だったミスZ(大西ゆかり)と佐山サトルの2名でした。ですから、それほど驚きはしませんでしたが、面白かったです」(原文ママ)【神奈川県・佐々木千代子・33歳・主婦】

➲っていうか、ミスZ(大西ゆかり)って誰? ミスAとか大森ゆかりなら知ってるんだけど。それにしても、佐山先生。押忍!

★「面白かったのは『語録で振り返るマット界2001』。ようするに『紙プロ』は藤波ドラゴンのお陰で成り立っているようなもんだ、ということがわかった」【東京都・八武崎貴広・18歳】

➲『語録で〜』はドラゴンのおかげで大好評でした、多分に。

★「面白かったのは、『ジェラルド・ゴルドー先生の人生相談』がよかったです。「刺したり、撃ったりするのは当然の話だろ?(前号 P.92)」しびれました。24時間ジェラルド・ゴルドーだなぁと思いました。安心した」【兵庫県・河合健治・33歳】

➲そりゃ良かった。次はタイガー・ジェット・シンに相談予定だ!お金持ちになるには、どうすればいいのか相談してこよう!

★「面白かったのは、葛西純さんインタビュー&ピンナップ。ピンナップ、カッコイイ♥ でも字がじゃま。ちゃんとインタビューが載ってよかった。血だらけでも、猿でも、素でもカッコイイ♥葛西さんが一生やるなら、一生応援します。キズの手当してあげたい。ガラスの破片、とってあげたい。また、インタビュー載せて下さい」【東京都・清水恵美子・27歳・販売】

➲いやぁ〜、葛西インタビューは大反響でした。またやるっつーの!

★「須藤&矢野の対談が面白かったです。矢野さんがサクちゃんのことを「桜庭さんみたいな顔は、いままでだったら正直、スターになれなかったでしょ」です。笑かしてもらいました。やっぱりサクちゃんは男前じゃないんですかねぇー!? もう1つは「前歯がなくとも正すく生きる!(エンペラー吉田罰で)」が、いかったです! なつかしかったー」【大分県・高原恵子・33歳】

➲いくら懐かしがっても前歯は帰ってこないのねん。ふがふが。

今年もイラスト界の大横綱

「リングスが好きです。さみしいです。コピィロフ引退しないで欲しいです」という中川画伯。それにしても年末の「めちゃ女」での小野愛&サトエリ&雛形は良かったたね。スマックに出てくれ!

「今年は馬年、ジャイアント馬場の年!」と天国の馬場さんがドラゴンばりに言ったかどうかは知らないが、今年の全日本は興味津々。元子さんのネグリジェ姿も興味津々?(埼玉県・中川雅博)

今年も元気にいきますか——ッ!

一気にドカンと大爆発!(ヨダレ付き)。この間の猪木祭りの百八つビンタでも失礼な輩(下ネタ&ウケ狙い)が現れる度、見てるこっちがヒヤヒヤしてしまったよ。ヒャ!?(大阪府・英加直純)

予備校生ビンタに代表される、アントン出演のテレビ番組等で、お馴染みの光景。ピーター風に言えば、まさに"最強の演技"。「ンムフフフ」と相手を思いきり油断させといて……(左へ続く)

◎◎◎◎◎◎◎天才は忘れた頃にやってくる!◎◎◎◎◎◎◎
復活記念! セッド・ジニアス プチ特集

冬休み読書感想文(?)「ミスター高橋本」を読んで

ここ数年噂になっている新日本の株式公開に関しても、もし本当に新日本が株式を公開するのであれば、全ての情報公開をしなければならないし、しなければいけない。プロレスとはこういうビジネスですよ、こういうシステムですよ、ということを全て公開し、それを理解した投資家達が株を買うということになる。投資家達に嘘を言って、騙して株を買わせるわけにはいかないわけだから。

WWFが株式公開できたのも情報公開をし、プロレスとはこういうビジネスですよ、こういうシステムですよ、ということを全て公開し、それを理解した投資家達がWWFの株を買い、WWFが大きくなったというのが事実であり、現実である。だから、WWFが、フットボールリーグを設立した際に、投資家達より、俺らはプロレスに投資したんであってフットボールに投資したんじゃないと不満の声が上がるのである。

プロレス関係者なら誰もが経験しているであろう"世間の壁"。怪しい団体、怪しい競技、怪しいスポーツ、怪しいビジネス、怪しい勝敗、本気でやっているんですか、勝敗って最初から決まってるんですよね、本当の血なんですか、ショーですよね、そして"八百長"という言葉……。

スポンサー獲得の際も、プロレスですかぁ……。チケット一枚売るのにも、プロレスですかぁ……と疑心暗鬼の目で見られたことがあるのは一度や二度ではないはず。みんな言葉にできない屈辱感を味わったことがあるはずです。ルー・テーズがよく笑いながら「プロレスはショービジネス!!」って言ってたんですよ。私は、その言葉を聞いて正直言ってプロレスというものに冷めてしまいました。それは私が純粋で染まっていなかったのかもしれないし、まだ私が若かったのかもしれない。

この高橋さんの本は一見暴露本のように思えるかもしれないが、逆にプロレスにとっては救世主(本)のような気がしてならない。これによって胸のつっかえが全て取れたような爽快感を感じるのは私だけでしょうか。

現在プロレスというビジネスに関わっている人達からすると、情報公開というものに慎重にならざるを得ないし、"怖い"と感じるのは仕方のないところ。一時的にファンのプロレス離れが起きるかもしれない。でも、それは日本のプロレス50年から新たな歴史が始まるまでの陣痛期なのではないか。

何も恥じることはない。胸を張ればいい。プロレスは沢山の人々を感動させ、勇気を与え、夢を与えてきたのだから。俺らはそのプロレスという素晴らしい競技を真剣に勝負しているんです。この事実は絶対に変わることはないし、変えられないし、胸を張るべき。

これは、日本のプロレスの一時代を猪木さんと共に作ってきた高橋さんから後輩の俺らに送られた最高のプレゼントだよ。

情報公開をすればどうなるものか 危ぶむなかれ 危ぶめば道はなし 踏み出せば その一足が道となり その一足が道となる 迷わず行けよ 行けばわかるさ

猪木さんの言った言葉につながるじゃないですか。いい言葉だ。ちなみに、蝶野とテーズ道場でやった時はシュートだったから。お互い鼻血出たし……。

「新年の候、各団体関係者、選手より年賀状が届く今日この頃"悲しき天才"を名乗る男より「あぶり出し年賀状」と書かれた謎の年賀状が届いた。早速、編集部ではライターであぶり出しを開始するも何もあぶり出せず年賀状が燃えてしまうというアクシデント発生……。編集部では"悲しき天才"を名乗る男を直撃し、「何で書いたんですか?オレンジジュースですか? アップルジュースですか?」と尋ねると、"悲しき天才"を名乗る男は、なんと「六甲のおいしい水」で書いたとの仰天告白。思わず、「んなもん、あぶり出せるわけねぇだろ!」と突っ込むと、その男は「バ〜カ、電子顕微鏡であぶるんだよぉ! ミトコンドリアがいっぱいだぞぉ!!」と予想外の答え。ん〜、年明け早々ヒネリが効きすぎて編集部は大混乱であった……」。以上の内容が記されたFAXが「あぶり出し年賀状」が届いた2日後に送られてきました。まったくも〜う"悲しき天才"さんったらイタズラ好き(かなりクラシックネタ。しかも自作自演)なんだからッ! ジニジニ。

童心にかえってやってみました。まさに燃える投稿!

何でもアリだ! 投稿しろ! 押忍!!

見てみ、この奇跡の一枚(byゴルドー・ジャパンからの年賀状)。昨年はアントンブーム、今年はアリ&ゴルドーブームとなるでしょう、多分に。アリの百八つパンチやゴルドーの百八つ正拳突きが、そこかしこで見られると思うと、想像しただけで……耐えられません!

進行担当として過去最高の遅れとなってしまった今号の『紙プロ』。読者の皆さん、選手&関係者の皆さん、正直、スマン! 今後は海外にでも行ってVT特訓でもしようかと思ってます。ご意見、ご要望、イラスト等もヴァーっと待ってます。いつも使ってるアドレスが調子が悪いんでメール投稿は下のアドレスまで!
kamiprochoro@hotmail.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702(株)ダブルクロス『ディス・イズ・バカヤローッ!』係まで。

中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

第7回

〈新表記〉
大流血の末、レフェリー・ストップ
↓
カミソリ負け

今月イチバンおもしろかった作品とその作者

静岡県磐田郡 **目ガ覚メタロウ**

★目ガ覚メタロウさん、いつも投稿してくれてアリガトウ!! 御希望の猪木T(M)楽しみにしていてね。
★『紙のプロレスRADICAL』読者の皆さん、ハガキが"ほんとに"来ません。と言うよりも目ガ覚メタロウさんからしか"ほとんど"来ねぇんです。助けて下さい! いつもいつも「助けてー」って言ってるばかりじゃ芸が無いんで今回、物を付けます。ハガキを送って頂いた方の中から抽選で5名様に「中川雅博オリジナル手づくりステッカー」をプレゼント!! よろしくお願いします。採用された方にはTシャツをプレゼント!! ハガキに好きな選手名を書いてください。いつ何時、誰のTシャツでもつくります!

➔前号のプレゼントTシャツ 小川直也(色・ベージュ)

応募方法 プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ。毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ(S・M・L・XL)をハガキに書いて下さい。〈例〉斉藤了のL

FEBRUARY.2002

BEST OF THE スーパーコラム™

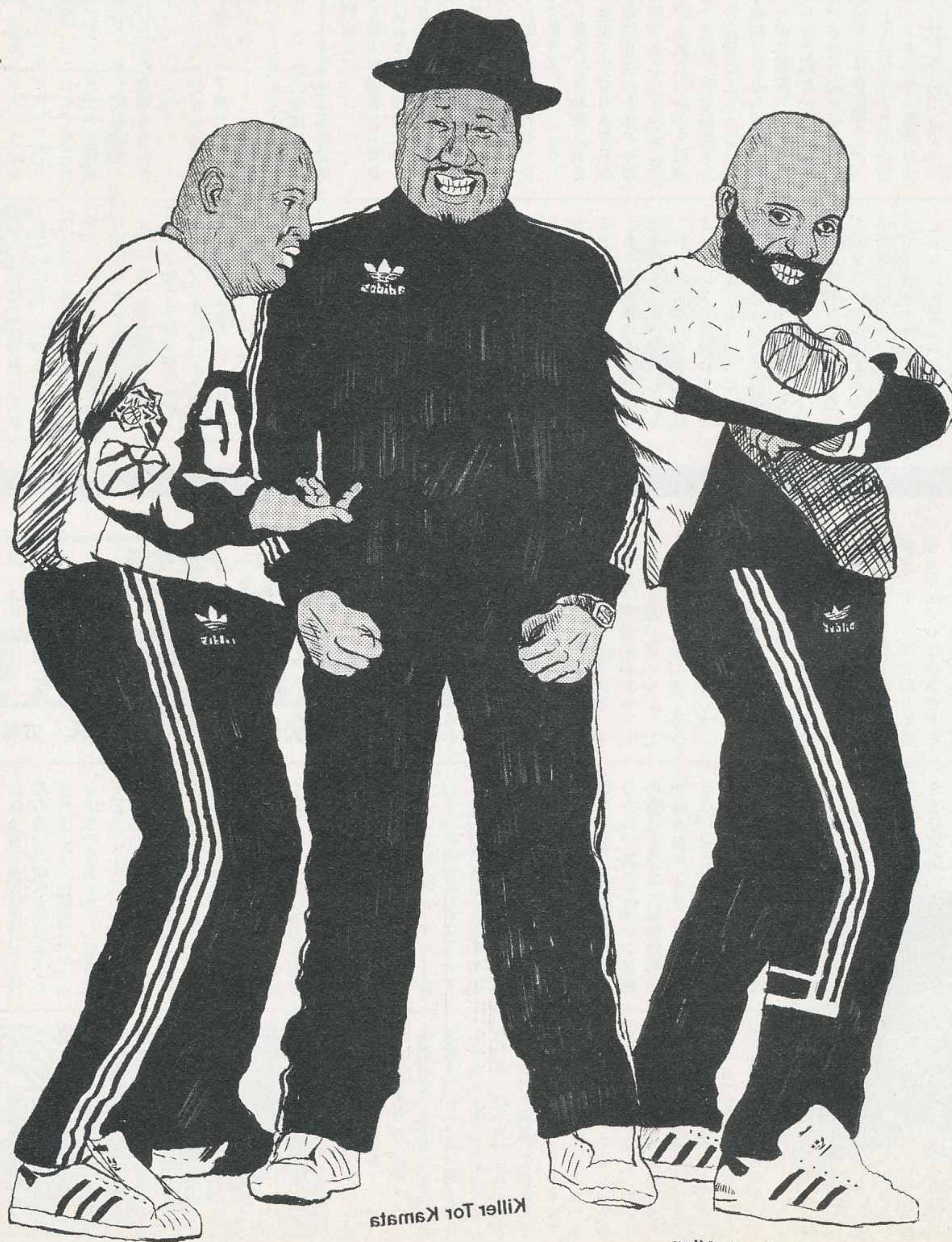
おまっとさんでした！2002年もスーパーコラムはブラックユーモア満載でお届けします！

Killer Tor Kamata

Abdullah The Butcher

Bad News Allen

Title&Illustration/Jerry Luv for ADS

※今回は石神秀幸さんの『闘魂★たべある記』と真下純子さんの『ひりきな奥さん』はお休みです。

ガキ帝国から20年経つのに、正月の新作ゴジラ見たら木下ほうかが暴走族役でビックリ。

花くまゆうさく

リングの汁 RADICAL

それでいいのか スペーヒー

いくらインパクトあったからって、いつまでも小川の試合のたんびに両軍セコンド大荒れネタを毎回毎回やりすぎ。あれじゃ大男たちの吉本新喜劇。それかタニャンのタイマンテレホン。ドラゴンか誰かが「ベティ！」って叫んだら、みんなリングになだれ込む仕組みなのかな？

古い話になってしまうが、去年11月のキングダム後楽園大会は、不思議となんだかなごませ、やさしい気持ちにさせるもんであった。

前半に闘った人達&セコンド、なんだかみんなイキイキと見える。懐かしいというか失いかけたモンというか、なんかそんなのがホールに充満してた。なぜか行なわれたダンスバトルも、みんなニコニコして見られる（プライドとかであれやられたら〝早く終れ念力〟がピリピリと会場を包むだろう）。

グラバカ（総合格闘技）や、セコンドで現れた島田宏（インディー）に藤原（旧UWF）そしてバレット（柔術）と、この空間はなんだ。イーゲンは柔道部物語の西野みたい。

ここ数十年のマット界がここにあった。後楽園のリングで藤原が動いてるのを見て、旧UWFを見に高校生の俺はここに通いつめたなぁ、あん時の俺はどこいってしまったんだとか、ひとりで酔っていた。

そしてカード発表された時、全国で500人くらいへ夢電波を送ったステキなカード、バレット対今成。終ってみればバレットの完勝だったが、試合前もしかして今成勝つんじゃないかと本気度200%思わせてくれたのは事実。コンバットのルミナ戦といい、今これだけドキドキさせてくれる今成からは目が離せない。カードを見て「どうせ判定だろ」とまったく魅力なくゼニの取れないプロがいっぱいのこの世界において、今成は異彩を放つ。今年こそコンテンダーズやアブダビなど進出してドキドキさせてほしい。

そんでメインの入江対稲垣。いつもの泣き虫キャラの入江にはなんの思い入れもないけど、この日の入江には身を乗り出すモンがあった。いままで東十条あたりでやってた大衆劇団が、大バクチで新宿コマに討ってでるような悲愴感がある、「なんとしても今日の公演は成功させなきゃいかん！」ってね。

今日はいつもと違いガチだ、そしてなおかつ勝たなきゃいかん、そう思って見ると入江の顔が悲愴感たっぷりに映る。試合自体はブサイクだが、何度も「入江がんばれ！」と念力を送る自分がいた（そんな自分にちとビックリ）。

そしてなんとか入江が勝ってホッとした館内。こんな大事な試合に勝ったんだから、いつもより大号泣かなと入江の顔に注目。するとあら不思議!? 入江はまだ泣いていない！ しかしこれが逆に凄いリアルに見える。いつもと違いガチだったので、もういっぱいいっぱい、そんな泣き虫モードしてる余裕なし、そう思わせるリアルさだ。

少し時間が経ち落ち着いたのか、いつもの入江泣き虫劇場が始まる。「いやよかった、勝ててよかったね」と素直に祝福してしまう。みんななんだか顔がほころんでいる。近頃なかなか味わえない珍しい空気に包まれた大会であった。上野の

男道コーチ屋稼業・掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の

業☆勝ちます

『初夢ッ！ 伊勢崎暗黒街ブルース』の巻

（群馬県伊勢崎市内の某所、漆黒に塗られ『悪』という字を車体の横にペイントされた廃バスの中で、数人のチビッ子たちが楽しそうにキャアキャアはしゃいでいる。だがよく見るとその中心にドッカリ座り、焼いた鳥のもも肉をおいしそうにパクつく大人の姿がある。もちろんポーゴさんである）

うめぇ〜！（一心不乱にガツガツ鶏肉をむさぼり食うポーゴさん。口の周りも五指も鶏脂でベッタベタ。一層はしゃぐ子供たちを気にもとめない。どえらい器量だ）。

うめぇ〜！（丹念に肉を前歯で全部刮ぎとり、喰った後の骨を丁寧に窓辺に並べて乾燥させている。胸元には食後の鶏骨で作った手製のネックレスがカラカラと揺れている。結構器用だ）。

……ゲフゥ〜ッ、もう喰えねぇ〜！ ごちそうさま〜！（手を合わせる）おっと、喰ったあとは歯みがきだな（育ちも良いようだ）シャコシャコシャコシャコ、お前ら、シャコシャコシャコシャコ、今日も、シャコシャコシャコシャコ、悪いことしてきたか〜！ シャコシャコシャコ……（水を口に含む）ガラガラガラガラガラガラガラガラガラガラガラガラガラガラガラ、ペッ！ ……ふぅ〜っ、スッキリしたぁ。……俺様がこないだの会議（近所のガキを集めて自慢話や愚痴を聞かせるだけ）で提案した『伊勢崎ワルワル計画』の方は、順調にはかどってるんだろうな〜？ どうだぁ、みんなぁ！ 俺様の夢はなぁ！ この伊勢崎を暗黒街にすることだ〜!! え〜、そこでは〜、悪い者が全てを支配する……歯医者にキチンと週2回通える奴よりも予約をいつもスッポかす奴の方が偉かったり、キッチリゴミを分別して決められた曜日に出す奴よりも燃えないゴミの日に燃えるゴミをコッソリまぜて適当に出す奴の方が偉かったりするという、とてつもなく怖ろしい街だ！ どうだぁ！ スゲェ〜だろう？ あぁぁぁぁぁぁ〜、おっかねぇ〜（ブルブル武者震いするポーゴさん）。

……ところで、ワル1号（小4）、今日はどんな悪いことしたのか言ってみろ！（ガキ、ベイブレードに興じていてポーゴさんの話が全く耳に入っていない）。

……じゃ、じゃあ、ワル2号（小1、ワル1号の弟）はどうだ？（レスポンスが全くない）……アレ？ そういえば2号がいねぇぞ！ お前ら〜、2号はどうしたんだ〜？（ワル1号、ポーゴさんに一瞥もくれず「おじちゃん、ひろあき今日おたふくカゼ」と発言しながらベイブレード続行）。なに〜！ おたふくか!! ……うつったらヤダなぁ…。オレまだかかってねぇし……。おい！ ワル1号、おうちに帰ったら2号に「お前はしばらく休みだ」って言っとけ。この『ムジナの目パート2』の団員は健康第一がモット

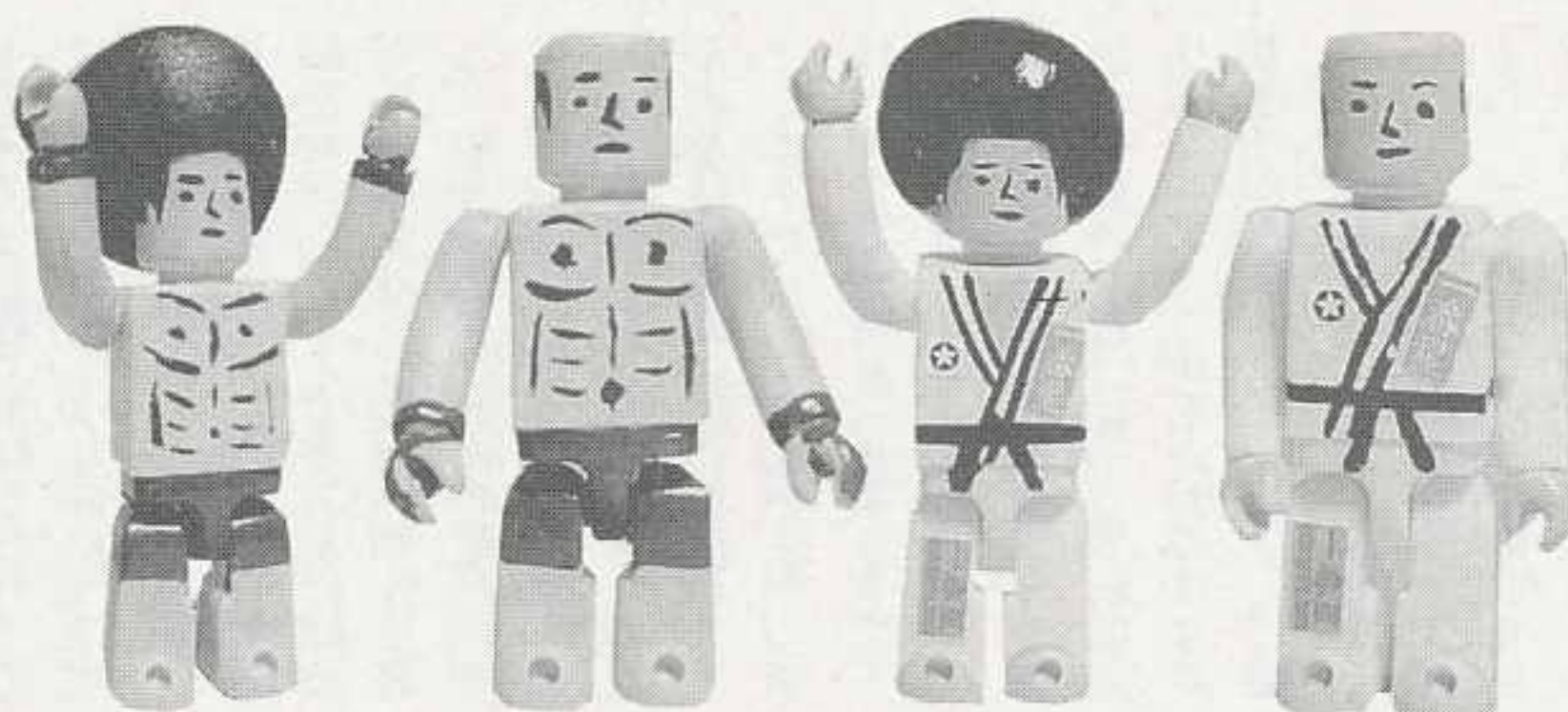
1・20レインボー興行でW★ING復活を宣言した後、鎖鎌をブラブラさせながらエレベーターを待つポーゴさんを発見！ 心臓バクバク！

MOMA展のようにユーミンの「やさしさに包まれて」が流れてた（これはウソ）。

この日限定で持ったやさしい気持ちで、新日や小川や橋本を見れば楽しめるのではないかと思ったが、やっぱダメだった。バンナ戦を逃げたり、スペーヒーやノゲイラを仲間にしてしまう小川には心底冷める。

永田対秋山も全然面白くない。あれをほめちぎり永田対ミルコ戦をあっさり受け流すSアリーナのプロレス守る3人組（菊池・GK・すこやか整体）の話には、うんざり。

そんな私でも高田と大谷はOK。高田は試合以外とてもいい。去年の言動は全面支持できるもんばかりだ。大谷もいい、去年に突如できあがったあのキャラは理屈ぬきに面白い。あれに佐藤耕平のような強さのリアリティーが加われば、どこへもいける最高のキャラになるのではないか。それを想像するとクラクラするほどステキだ、あのキャラのまんまパンクラスへ乗り込んで、鈴木の変に難しくしようとするしゃべりにわかりやすい発言で返す大谷。そして刀でポージングだ。

そうなりゃ船木も黙ってない。近藤に刀を渡すだろう。そして無感情で非情に殴りまくる近藤。リアルジャンボ鶴田は近藤なのか？

郷野戦で感じた、あの誰とやっても勝ってしまいそうな不思議な強さは恐ろしい。

はなくま・ゆうさく■
柔術で紫帯になりました。がんばらなくては。

ーだからな〜。カゼなんかひいてる弱っちい奴はダメだ、ダメ！（という話をしながらポーゴさんも鼻水がたれてる）……ブ・ヘックショ〜〜イッ!! ズルズル〜ズルッ、ハァ〜……まぁ〜、とにかくだ〜、カゼが流行ってっからお前らも気をつけるよ〜に。オレ様も気をつけるからぁ。うがいとかちゃんとしろよ、みんな〜！

これまでにもぉ〜、オレ様は数え切れないほど悪いことをやってきた！　うちの隣のババァん家のまわりにあるネコよけのペットボトルを、中身の水全部飲み干して、かわりにションベン入れてやったし、うちの隣のババァん家に頼んでもいないカツ丼十人前とチャーハン十人前と小僧寿司のパーティーセットを送りつけてやった！（鼻をつまんで少し嗄れた声色で）「もひもひ〜。来々軒ふぁ〜ん？　ラーメン十杯追加ね〜。うひの孫がね、今度『フードバトル』出るから練習ひたいのよ〜。冷めないうちにアツアツのやふ持ってきてね〜フガフガ」……ウッヘッヘッヘ！　どーだ、ババァそっくりだっただろ〜？（かなり自慢げ）茂木のババァが家に届いた大量のラーメン見て腰抜かすところが目に浮かぶようだぜ…。あのバァさんよぉ〜、ケチンボだから自分で三杯半くらい喰ったりしてな〜！　ウッヘッヘヘヘ！　ああ〜いい気味だ！　ウッヘッヘヘヘ！（これまでのババァいじめの成果を転げ回って喜ぶポーゴさん。Tシャツからへソがはみでている）。

よし、じゃあさっそく今日の『伊勢崎ワルワル計画』の内容を発表する……。お前ら怖いからってビビって逃げんじゃねぇぞぉ！……うちの隣のババァん家にうまそうになっている柿……そいつをオレ様たちが全部いただく！（近所のガキ、拍手喝采）あの強欲ババァにうまい汁を独り占めさせるわけにはいかねぇ！（てゆーか、人んちのもの）。今日の計画が成功したら、今度は3丁目の三宅のオヤジんちの柿も根こそぎいただいて、ゆくゆくは伊勢崎に『ポーゴ干し柿工場』をブッたててやる！　盗んだ柿が材料だから丸もうけだぁ〜（また結構自慢げ）。

で、作戦だけどな、まずワル3号（小2、テアトルエコー所属。子役経験アリ）が、ババァの家の前で激しく泣きまねをしてババァの気を引く。その隙にオレ様がジェイソン（こいつもよく泣く）に肩車してもらって柿を全部もいじまうって寸法だぁ〜。おーい、ジェイソ〜ン！（ポーゴさんの座っていた棺桶の中からゆっくり起きあがるジェイソン。「ポーゴサン、ココハドコ？　ワタシナニスルノ…？」）やっとジェイソンが目覚めたか……いよいよ時が来たぜぇ〜。んあ〜、ジェイソンにはこの計画を実行するためにわざわざグアムから来てもらった（船便・貨物扱いで一ヶ月かけて）。伊勢崎を暗黒街にするため、そしてババァの家の柿を全部オレ様のものにするためにはお前の力が必要だ〜。肩車、よろしく頼む。現地着くまで寝てていいぞ（再び眠りにつく心優しきジェイソン。ポーゴさん、パタンと棺桶のフタを閉める）。

お前らは下に落とした柿のキャッチ係だぁ〜。よ〜し、これで計画はバッチリだ〜。じゃあ、みんな、そろそろいくぞ〜！　……ん？　どうしたお前らぁ。え？　もうすぐごはんの時間だと？　もう遅いから帰るって……？　……そうか。じゃあ……また明日だな……。絶対来てくれよ！　……伊勢崎ワルワル計画、一緒にやろうな。待ってるよ。待ってるからよぉ……（夕焼け空の下、ガックリ肩を落とし淋しそうなポーゴさん。赤城山の向こうでは、カラスが数羽鳴いていた）。

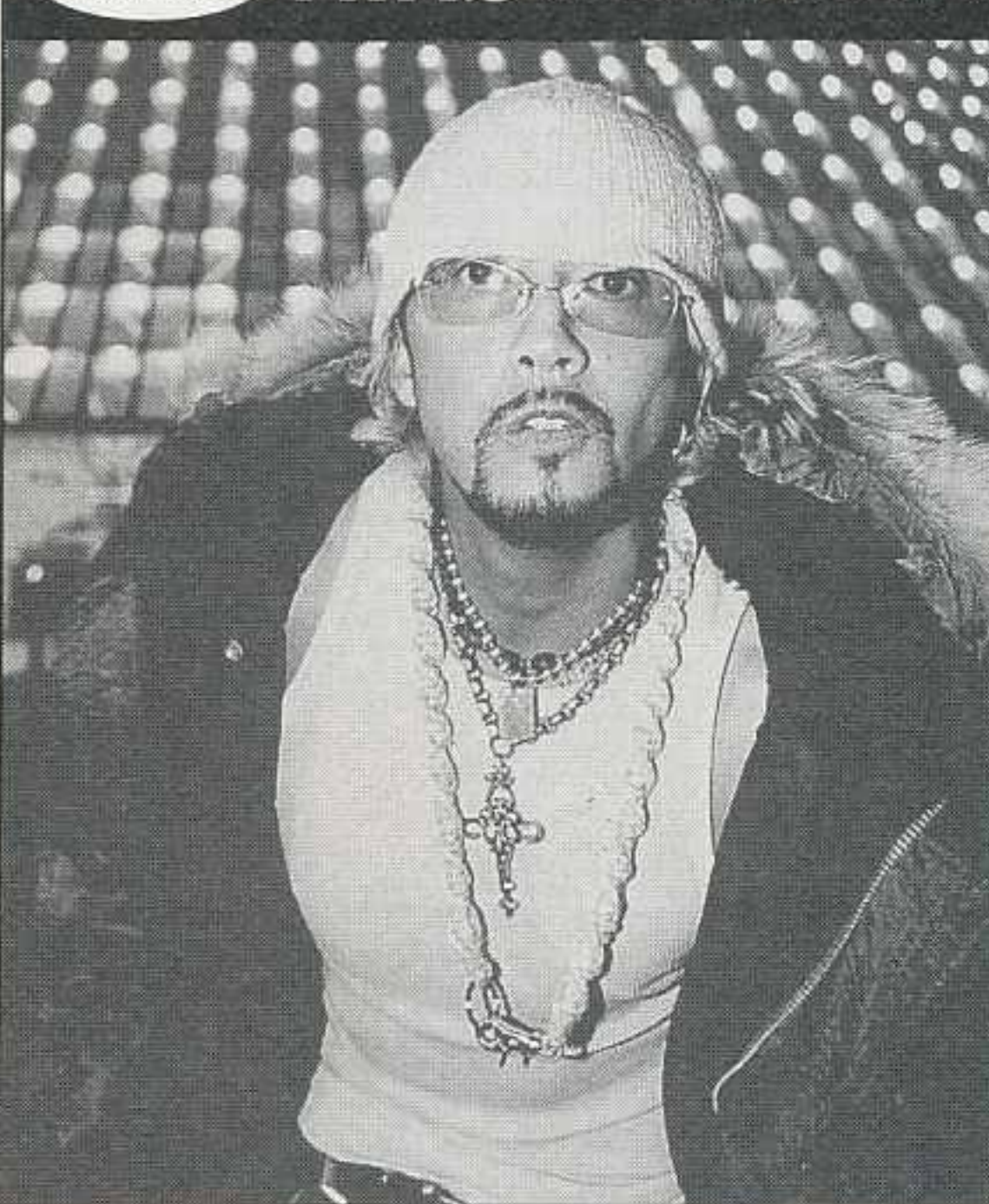
おきて・ぽるしぇ■
2月末日に掟ポルシェ処女単行本『説教番長・どなりつけハンター』が文芸春秋社から発売！　書店の店員に思いきりガン飛ばしながらキリキリと予約注文せよ！

プロレスが好きな人、この指止まれ!!

実録 最狂プロレスファン列伝

構成／イナズマ★K

No.20 HIRØ(RISING SUN)

©古澤聖三

PROFILE

ハードコアバンド『RISING SUN』のヴォーカリスト。ストリート誌『BURST』の連載や映画『TOKYO G.P.』でも知られる彼。16歳の時、“地元”の六本木でチームを結成する。そう、いわゆるチーマーの元祖なのだ。「オレの中でロックとプロレスっていうのはイコールなんですよ。でもそれはあんまり言いたくない。なんでかっていうと、プロレスファンにだけ分かって欲しいから。フレーズの中に微妙に出たり、例えばオレが今やってる連載『OVER THE EDGE』ってタイトルもそうだし、去年ドロップしたアルバムも『ATTITUDE』だし！分かるでしょ？（笑）。“ATTITUDE”って“態度”とか“姿勢”って意味あるけど、“ATTITUDE”って言葉は“アティテュード”にしたいっていうのがオレの中にあって。それをもっと浸透させようと思ってるから。フミ斉藤さんも『アメリカーナ』のタイトルで付けましたよね。『お互い“ATTITUDE”活動頑張ってるよね』とか言ってて（笑）」

――六本木のストリートでかなり知られているHIRØさんですが小さな頃から、かなりのプロレス&格闘技ファンだとか。

HIRØ（以下H）『紙プロ』とか『SRS・DX』は風呂まで持って行っちゃうくらいで（笑）。それに『紙プロ』はゴルドー先生をフューチャリングしてるからいいよね。

――ゴルドー先生も六本木好きみたいですけど（笑）、古くからの知り合いなんですか？

H　先生とは仲イイッスよ！　さすがに最近はないけど、昔は結構バチバチのヤバイ現場とか見てるし（笑）。一回、オレ、キレたヤツに最初パカーンって殴られたんで、ブッ飛ばしてマウントになってボッコボコにしてたら「もう、それくらいでいいだろう」ってニコ先生に止められたことあるんだよね（笑）。

――ゴルドーのお兄さんに止められましたか（笑）。

H　そうそう（笑）。この間も「新しい刺青どうしたんですか？」って聞いたら「ディス・イズ・プレゼント。●●●●ファミリーから」って言ってましたから（笑）。ホントかなぁ～なんて思いながらも先生らしいなって（笑）。先生は、よくトニーローマで飯食ってるんですけど、で、オレがガールフレンドとかと行くとシャンパンが届くんです。「あちらのお客様からです」って見ると「オオ～、先生だぁ～!!」って（笑）。

――さすがゴルドー先生（笑）。で、HIRØさんはいつ頃からプロレスが好きなんですか？

H　最初の衝撃はテレビで見た『国際プロレス』の金網デスマッチ。初観戦は馬場とバーン・ガニアのAWA戦。あの頃はブッチャーとか触って喜んでましたね。今はあんまり好きじゃないけど（笑）。シンは私生活でもクレイジーでファンを蹴っ飛ばしたりっていうけど本当にそうなのかってホテルに確認しに行ったり（笑）。当時、最強タッグの時は赤坂東急ホテルで、マスカラスだけ銀座のダイアモンドホテル。それを調べてマスカラスの素顔が見たいって（笑）。ホント半分追っかけでした（笑）。リベラでブロディとスヌーカの喧嘩も見てるし。

――エッ！　それは凄い!!

H　スヌーカ強かったですよ～。あと喧嘩強いと思ったのはスティーブ・ウイリアムス。ムッチャクチャやるからね（笑）。それにテリー（ゴディ）が死んだのは今でも信じられない。オレ、2人に聞いたことあって。「タバコは吸うし、バリバリで●●●●かましてるし、でもあんなに速く動いたり走ったりできるのは凄いよね」って。そしたらスティーブが「オレらはプロレスやってそういうのを抜いてるんだよ」って！（笑）。

プロレスとエロどっちも裸のおしごとです

エロ♥サムライ

第11回『レスラーのAV適応性』の巻

文・大坪ケムタ

TVドラマや映画ではフツーになりつつある「異業種監督」に、時の人がヒョッコリ顔を出してるような話題性目当ての「異業種ゲスト出演」。AV界における異業種ゲスト、といえば何故かプロレスラーが珍しくなかったりする。藤原組長自ら監督した『俺が藤原だ！』が95年。ハヤブサ（中身が雁之助時代）、金村らノーリスペクトの面々が出演した『不死鳥伝説』と、サスケ（中身は不明）が監督&男優までやった『サスケのジュニアはヘビー級チャンピオン』が99年。昨年紹介した『女空手家vsレイプ魔』でもアブドーラ小林がコーチ役で出演したり、『AVW』でも覆面を被って某選手が出ていた。他にもホモビデオに昨年末引退してしまった某選手がヒッソリ出ていたりと、フツーの俳優が出ればイメージダウン確実だけども結構ヒョッコリ出たりしてるのが英雄色を好むというか、むしろ出ることで幻想を強めてるというか。

そして2002年、「プロレスラー最多出場AV」が登場！　都内某ボクシングジムで撮影された『天国と地獄（仮）』（V&Rプランニング・4月発売予定）は、その名の通り4人の女のコがリング上で対決し、勝ち抜けば宝石・負け残ればザーメンぶっかけというもの。そのレフェリーには藤原組長、試合解説にシャーク土屋。選手の女マネージャーにI-WAでおなじみのMAYAと、芸達者な3人がAV女優に混じってリングに上がる。とはいえ格闘するのはAV女優たち。

ちなみにワタクシ当日までファイトの内容を聞かされておらず、いかなるキャットファイト物か…と思って来てみたら、「第一回戦・顔面騎乗対決！」ってオイ。ちなみに説明しておけば「顔面騎乗」というのは最近人気のプレイのひとつで、横になった男の顔面に女が剥き出しの股間をグイグイ押しつけるというもの。コレで男を窒息させた方が勝ちという……ま、「プロレスバラエティAV」ですやね。しかし賞品と罰ゲームはガチだけに女のコの気合いはホンモノ。レオタードのおマタの部分を横に寄せて、剥き出しのアレを汁男優の顔に押しつけます。一見ウラヤマシイ感じもしますが、女のコの全体重が顔面に押しつけられると思うと結構キツイ。で、その間レフェリーの組長は何をしてるかというと、女が男に乗っかるだけで動きがないだけに手持ち無沙汰に「ファイト！」。ああ往年のテロリストもコレには手も足も出ず……。そんな展開をフォローするアドリブ力はさすが！　なのがMAYA姐さん。相手選手の邪魔をしたりギブアップを迫ったりと試合同様のナイスサポート。その甲斐あってかMAYAがマネージャーする広瀬奈央美ちゃんが男をへバらせて勝利！

グッタリした汁男優を外に連れ出すためリングに現れた屈強な男たちが現れた。それは一宮章一・橋本友彦・タノムサク鳥羽とDDTでおなじみの顔、というかMAYA経由のアルバイトか？　ともかく男を担ぎ出すとムリヤリ水をブッかけ叩き起こす、救護というよりはランバージャックなセコンド役。「大変な現場に来ましたわ～」と言いつつも、カラミの映像に目を見張らせてましたが。

そしてシャーク土屋は解説担当。相方の往年の怪男優・清水大敬の実況にスゴみを効かせつつ場を盛り上げる。「土屋さんはこういうのはしばらくヤラれてないんですか？」「ルセェよ！　お前のケツの穴に入れてやろうか！」てなトークが意外と噛み合って夫婦漫才のよう。でもたまにエロネタを振られて照れる土屋はちょっと可愛いぞ。

さて勝ち残り組・負け残り組が優勝・最下位を決める決勝はシックスナイン対決。女同士互いの股間を舐めあい、イカせた方が勝ちという、いかにもAV的対決。しかしコレがまた長いんだ！　互いにガマンするだけに簡単に気持ちよくなってはくれない。そこでやはり勝負を分けるのはMAYAのサポート、バイブ片手に敵選手の股間を突きまくる……って、その手慣れた使い方に「この人、前はどんな仕事してたんだろう？」と突っ込みたくもなります。そのサポートが功を奏して奈央美ちゃんが優勝！　ちなみにこの頃、組長は酒飲んでてレフェリー放棄してしまい土屋が何故かレフェリーをやる展開に……どこまで本気なのかわかりません、組長。

そして25人ザーメンぶっかけを賭けての負け残り最下位決定戦はシックスナイン対決で勝負が付かず、互いのセコンド男優を使ってのファック合戦に急遽変更。完全決着を目指しての結果はビデオを見てのお楽しみということで。

しかし撮影現場を見てあらためて思わされるのは、プロレスラーのアドリブ対応力。AVもプロレスもざっくりした流れはあれど、細かいディテールは選手なり女優なりに任せられてる「筋書きのあるドキュメント」というべき部分が濃い。それだけに組長のやる気あるんだかないんだか、なキャラを見せつつ楽しめる部分や、土屋のワルなイメージを見せつつもややコミカルな部分も見せて話すサジ加減は絶妙。もしこれがアドリブに不慣れな普通の役者だったらここまでの対応力はあったろうか？　そういう意味でもプロレスラーのAV出演は適正としてはバッチリなのだナァと。「ドラゴンのドキドキ筆下ろし」とか「後藤・小原の人妻調教」なんて絵ヅラ的にも良さそうなんだけどねぇ。

おおつぼ・けむた■自分のHPにアクセスログ機能を付けた所「美濃輪」「妊婦SEX」「日ハム」「トルコライス」をキーワードに来てる人が。よくわからないニーズがあるようで。

—かっこいいですね〜（笑）。

H　プロレスラーだなーって思ったもん！（笑）。あと、ホークとかも仲いいしね。

—六本木という場所が呼びあってしまうんですね。ずっとプロレスは観ていたんですか？

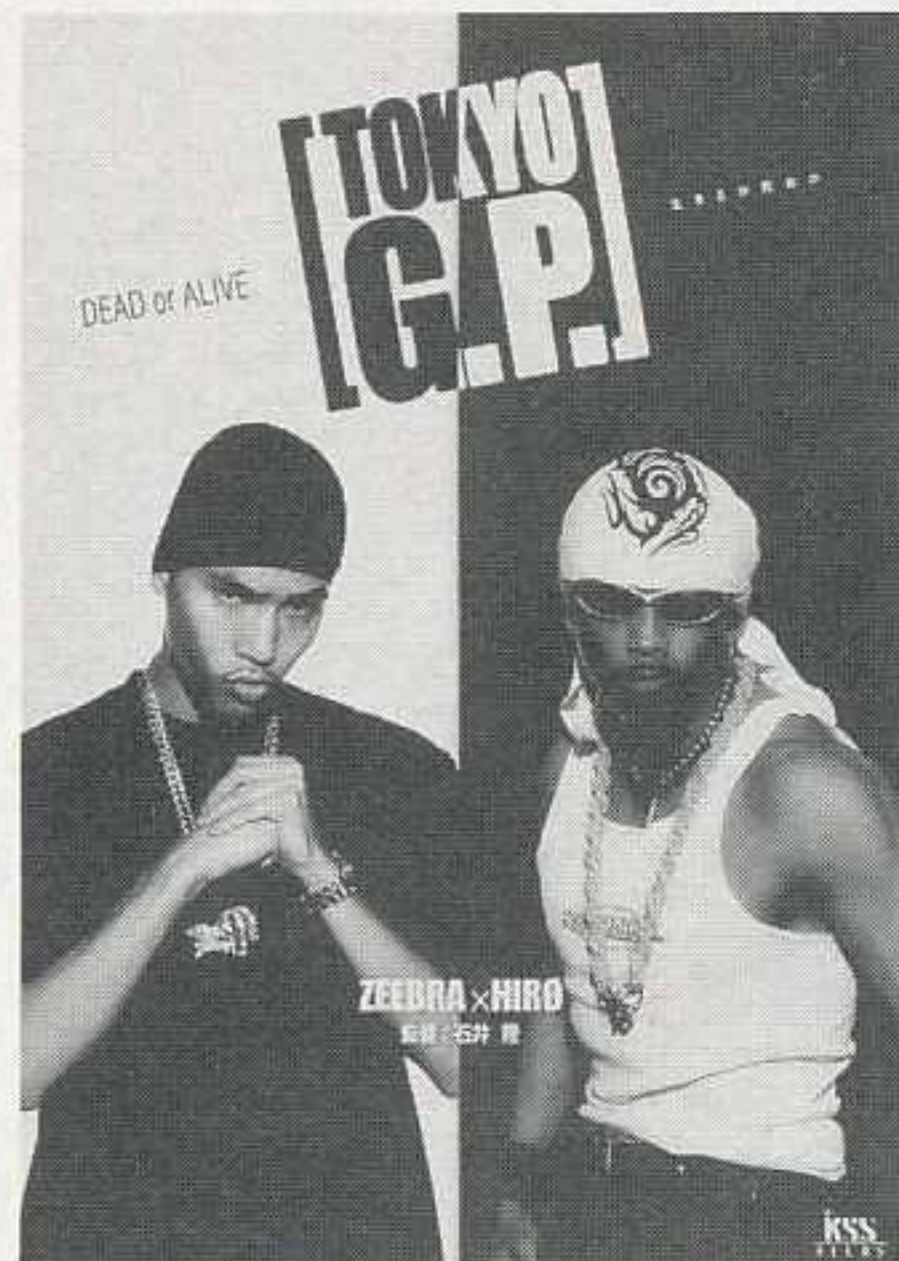
H　オレ、高校大学とアメリカ行っちゃうんですよ。そこでUSA大山行ったりして格闘技の方に入っちゃって（笑）。でもUWFの新日業務提携時代の大阪城ホール（藤波戦）とかハンパないと思ってたから、日本に帰ってくる度にUWFのビデオ買ったりして（笑）。だからずっと〝U幻想〟はあって、この間も年末のライブ（ニューイヤー・ロックフェス）の時に楽屋で『ボンバイエ・トトカルチョ』をやってたんですよ（笑）。みんながベルナルドに賭けてるところを、オレは「最後の〝U幻想〟！」って言って高田に賭けましたからね（笑）。

—アハハハ！　やはり自分でやる分には打撃の方が。

H　まあ、オレは基本的にぶったり蹴ったりとかの方が好きなんで（笑）。マーシャルアーツって蹴りとかホントにアートじゃないですか。そういえば、昔、空手の大会にやったことない仲間連中で出たんですよ。申し込み用紙の団体名の欄に『野獣会』って書いて（笑）。1人は二日酔いで試合に出してもらえなかったり（笑）、2回戦で肋骨折って、そのまま広尾病院送りのヤツとかいましたね（笑）。

ブロディとスヌーカの喧嘩見たことあるけどスヌーカ強かったよ！

—うわッ、スゲー！（笑）。今はどういうのが好きですか。

H　正直『PRIDE』だよね。いま難しいじゃない、プロレスは。小川は日本人相手に限定でガチやってイジメて欲しいね。中西とか秋山を（笑）。プロレスルールでもいいけど、橋本にやったことをやれと。でも、なんだかんだ言ってもカッコイイスターは、いま小川しかいないよね。

昨年8月に劇場公開されたHIRO主演&原案のミュージック・バイオレンス・ムービー『TOKYO G.P.』。監督は『GONIN』『死んでもいい』等でお馴染み石井隆。エンセンも出演のこの映画、現在DVD&ビデオ化されているので要チェキだ！

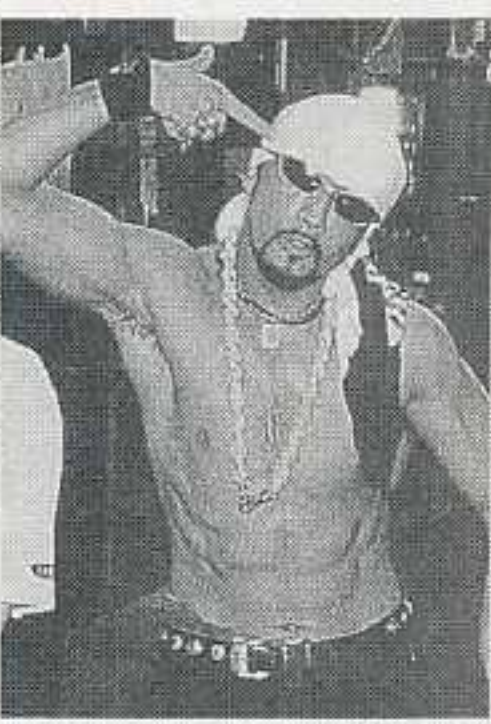
あと、知り合いも多いんだけど、パンクラスのヤツらはギャングっぽくて超カッコイイよ。こっち（ハート）も強いから。

—ではHIRØさん的な音楽とプロレスの繋がりを。

H　オレのライヴはハードなんで後半疲れちゃうんですよ。でも「ヤベェ、なに座ってんだ!?」って。レスラーもそうだと思うんだけど、昔の新日は凄かったでしょ。「寝てるんじゃねぇ！　走れっ!!」って感じで（笑）。

—もうプロレスが体の中に染み込んでるんでしょうね（笑）。

H　それはプロレスっていうか自分の中にあるものでしょうね。あと、格闘技やってたから真剣勝負の前の不安とか緊張感って凄くわかるし……（延々とプロレス&格闘技話が続く）。なんかプロレスの話だといくらでも話せちゃうよ。ホント、プロレス好きなんだろうな（笑）。

ファーストアルバム『ATTITUDE』はプロレス&格闘技ファンなら必聴！　問い合せ■シルバーレコード TEL03-5466-6915

単行本化も決定している『BURST』で連載中の対談コーナーには、魔裟斗やエンセン井上といったHIROと交流の深い格闘家も登場している

©曽木幹太

武田いづみの

ディスカバー・シンニホン

Vol.7『猪木熱』の巻

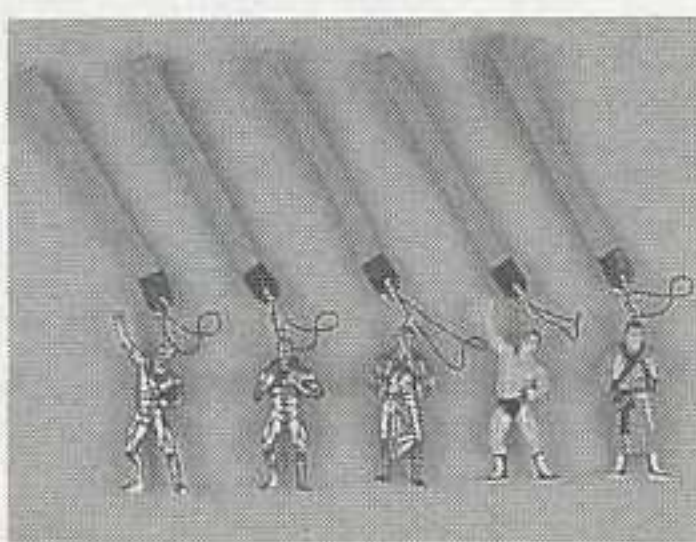
最近、どうもアントニオ猪木が「流行って」いる気がする。

そう感じ始めたのは随分前だったような気がするが、猪木祭が決まったあたりから、くすぶっていたこの疑念は急速に確信に変わっていった。間違いない。流行っている。

友達が私の携帯ストラップを「欲しい」と言うようになったのは、昨年の夏だった。私のストラップは黄金のアントン像がついたもので、「ダーッ！」の場面を映しとった逸品だ。お気に入りの品である。「欲しいって言われても、これしか持ってないもん」と断ると友達は、「もし売っているならば買いに行く」とまで言い出した。調べてみると処分品らしく100円で売っている。私達は問い合わせて在庫確認をしてもらい、水道橋まで買いに出かけた。

私は3種類ある黄金のアントンを前にしてクラクラしながら、自分用3つと布教用3つの、計6個購入した。闘魂6個で、わずか600円。6個買っても600円。（こういうので「価値観」がわかるのかな……）と思いながら、前日私のストラップをまじまじと見つめ「これが明日、あたしの物に……」とつぶやいていた友達を見ると、興奮気味に3種類すべて購入していた。

なぜこんなにまで「猪木」が蔓延したのだろうか。果たしてこんな無菌状態の乙女にまで、おもしろいと言わしめるのはなんなのか。水道橋のステーキ屋で、うまくストラップを付けられない友達にコツを教えながら、私は不思議で仕方なかった。

そして、猪木ボンバイエ。それが決定してからというもの、私の周囲で「猪木」という単語を、大げさでなく、日に一回は耳にすることとなった。電車で、会社で、飲み会で、「猪木、猪木」。異常事態である。当日、私は会場ではなく「猪木熱」にやられた友達数人とテレビで観ることにした。2001年もまもなく終わろうという時間に観たかったから、あえて9時からのテレビ中継が素敵だと思ったのだ。

『紙プロ』編集部にも黄金から着色バージョンまでアントンストラップが5個ありました。これも追加であげちゃいます！

猪木熱にやられた人はみんな、「ダーッ！」をやりたいと言う。そういう人にとって今日は「大晦日に『ダーッ！』ってやれるなんて、楽しみ！」なのだ。みんなが目を輝かせて待っている。いい子にしてたら、きっと来る。

そして、猪木が姿を現した。謎の棺を従えて花道を歩くアントン。みんなが「ダーッ！」に備えて身構える。挨拶を始めた猪木に襲い掛かる、棺から出てきた紅白仮面！

「？？？」。

（なんで自分で持ってきた棺の中から出てきた人にやられるの？）

（なんであっちから異常にデカイ人が？）

（なんでサスケ？）

明らかにポカンとしている人々を無視して繰り広げられるアントン劇場。いい子で待っていた子供達に地獄のプレゼントを撒き散らす。「？」だらけになっていく猪木熱患者。最後は卍固め。打ち鳴らされるゴング。

「なにこれ？」

すべての答えは、ゴングの後に猪木が叫んだ「ざまあみろーッ！」である。言葉どおり、みんなが「ざまあみ」た。「？」のまま突入した「1・2・3、ダーッ！」に乗り遅れる患者。

じつに「ざまあみろ」だ。「猪木、猪木」と待っていた人を、ぬるま湯から氷風呂に叩き込んで「ざまあみろ」。急速に蔓延した「猪木熱」は、猪木にとってはぬるま湯だったのだ。私はおもわず「無理だ」とつぶやいた。プロレスが一般化することなんてありえない。いちばん元気な人に、そんな気がサッパリないからだ。熱には自らが強烈なワクチンとなってこれを制す。やはり「元気が一番」。

「ざまあみろ」はいい言葉だと思う。「ざまあみ」させた時はスッキリするし、「ざまあみ」た時はくやしいが、驚かされる。どちらであれ、氷風呂にブッ叩き込まれるようなこの感覚は、ぼんやりした毎日のなかでは痛快である。

昨年のドスJr.の試合で、私は「ざまあみろッ！」と気持ちよく言えた。今年は……どっちかっていうと、やっぱり「ざまあみろ」って言いたい。

たけだ・いづみ■私の猪木ストラップはひとつは兄に、もうひとつは友達に嫁がせて、現在4個になりました。ご希望の方は『紙プロ』編集部「武田のプレゼント」係まで。いいですよ、これは。

ザ・検証

ザ・検証

昨年末のリングス活動休止発表、大晦日の猪木祭り、箱根駅伝に出ていた小鹿社長の息子、毎年恒例1・4新日ドーム、その後の分裂騒動と、年をまたいで検証ネタは山の如し。というわけで、これだけは検証してもらわないと死ぬに死ねないという切羽詰まったネタがあれば編集部宛に送って下さい。一応、目を通す用意はあります!

今月の検証 by 椎名基樹

駅弁ファックはプロレスラーのアイデンティティーか？

おけおめ！　ことよろ！　コマネチ！と、いうことで、少し遅くはありますが、今年一発目ってことで、新年の挨拶でありました。

しかし、去年の暮れから今年の初めにかけて、ちょっと一言いわせてちょんまげ、ヤスカクと呼んでにゃんまげな事件が続発し、何から取り上げていいか、困っちゃうね。

でも、まず最大の事件は何といっても、オーエンのバロンドール受賞ではなく、リングスの解散でありましょう。いや〜寂しいですな。と、いっても寂しいには寂しいが、いまは、それほど実感が沸かない。「前田社長年越せず」などという不謹慎なギャグも浮かんできたりする。こういう別れの「感慨」みたいなものは、ずっと後になって初めて実感できることなのでしょう。「リングスの数年間が何であったか？」わかる時がくるでしょう。でも、「リングス休止」の報とともに友人からメールで送られてきた「去年のリングス餅つき大会の模様」の写真にはグッときました。あれは一度行っとくべきだった。後悔。

しかし、そういう後ろ向きな考えよりも、金原、高阪、滑川、他若手、それに間違いなく強いであろう（しかも、今のVTのセオリーと少し違う闘い方で）アターエフ、ヒョードルの今後を考えると、そっちの方が楽しくて仕方がない。やっぱり『PRIDE』行くのかな？　そしたら大変なことになるね。軍団対抗戦、しかも綱引きマッチでなんてことになったら盛り上がっちゃうね、俺。多分、失禁ですよ。あっ！　いま思いついたんだけど、あの新日vs維新軍の綱引きマッチの、綱引き抽選部分もインチキだったのかな？　猪木vs谷津は始めから決まってたのかな？　だとしたら、あの時の谷津のガッツポーズは迫真の演技だったなあ。どうなのよ、教えてピーター！

で、話は戻って、リングスの解散。やっとエースで道場長となったのに、またまた路頭に迷ってしまった、我らが金ちゃんであるが、世の中には「雨男の論理」というのがあることを、彼氏はどう思っているのだろう。そいつがいると必ず雨が降ってしまう男のことを雨男という。それと同じで、そいつがいると必ず、会社が潰れてしまう。ぶっちゃけて言って疫病神！　金ちゃんは「炭疽金ちゃん」だったりして。で、仮に金ちゃんが『PRIDE』に行って、『PRIDE』が潰れたら「結局、最強は金原だった」ってことになるハズだ。頑張って〜、金ちゃん！　俺はお前が一番好きだ！

と、リングス解散の話に続いての衝撃事件は、それと地続きの話題「田村vsシウバ決定」である。いや〜楽しみですなあ。田村vsヘンゾをうっすら涙を浮かべながら観てしまった過去がある、俺（悪いか！）。今回はそれどころじゃありませんよ。VTでしかも、あのシウバが相手。今から興奮！　会場では脱糞ですよ！　2月24日は、さいたまスーパーアリーナに田村戦独特の「男性ファンの黄色い声援」がコダマすることでしょう。でも、俺は田村ファンとはいえ彼らみたいに「田村のテーマ」に合わせて手拍子をしたり絶対にしない、多分しないと思う、しないんじゃないかな、ま、ちょっと覚悟はしておけ。

それに去年発売され超話題の「ミスター高橋の本」にも一言いわせてちょんまげ。

いや〜おもしろかった。でも、読後感悪ぅ〜。そりゃそうだよね、どう読んでも恨み節だもん。「プロレスがシナリオある劇だ」ってカミングアウトすること自体が、WWFみたいに大きくなる方法であるなんてわけないじゃん。子供の論理だよ。WWFがカミングアウトしたのは、その方がバイオレンスを厳しく規制するアメリカのテレビの中で都合が良かっただけでしょ。WWFみたいになるには、テレビのソフトを作る優秀なスタッフをどれだけ集められるかってだけじゃん（それが良いのか悪いのか俺は知らねえよ）。あまりに自分を変な論理で正当化しちゃって、鼻につくねえ。でも、そういう言い訳入れないと、あの本は出せないのもわかる。結局。ピーター！　他のプロレス関係者のみなさん！　バシバシ面白い本を出してくだちゃ〜い。

そういえば、ピーターの本を新宿の紀伊國屋で買って、帰りにプロレスショップ「アイドール」に立ち寄ったら、サラリーマン風の若者が店員に「ミスター高橋の本ありますか？　どこにもないんです」と聞いていたので「いま俺、紀伊國屋で買いました」って教えてあげた。プロレスファン横の繋がり！

そして、ピーターの本の言う通り「プロレスが強さを競い合っているワケでない」ことが露呈してしまったのが、大晦日の「猪木祭り」。ミルコvs永田！　スゲーなミルコの左ハイ！　左のハイキックっていう技、俺大好きだよ。本当、高級。芸術的！

「今まで駅弁ファックをした女性で一番背が高いのは180cmぐらい。そしたら彼女に『グレート・ファッカー』の称号をいただきましたよ。グレートだけにね（笑）」。サスケ社長、最高！

に、しても猪木の「猪木ショー」の時、ゴキブリが出た〜！と思ったら、サスケでやんの！　で、ガチの中のガチで試合した石沢よりも長くテレビに写っちゃって。さすがグレート！　尊敬します！

と、いうことで今回の検証テーマは、偉大なるゴキブリ野郎、我が人生の師、ザ・グレート・サスケが、フランス書院のHPのインタビューで発言していた、次の一節について考えてみたいと思う。

「必ず心がけるのが駅弁ファック。私のセックスにとって必須の体位ですね。駅弁ファックをすることがプロレスラーであることを確認する一つの方法になってます（笑）。トレーニングのように無意識についヤッてしまうんですよ。プロレスラーの悲しい性ですね」

とサスケは発言している。つまり、駅弁ファックはプロレスラーのアイデンティティーだというのだ。

なるほど、太●●アの彼女だった、スマックガールの篠原光選手もインタビューで「●アは駅弁で部屋中走りまわる」と言っていたし、プロレスラーとやったという話だと必ず駅弁ファックが登場する。プロレスラーはSEXの時、必ず駅弁ファックをするのだろうか？　それがプロレスラーなのだろうか？　だとしら、リトル・フランキーも駅弁で？　と、いうことで「プロレスラーとやった人、お便り待ってま〜す！　以上！

駅弁と言えばチョコボール向井。彼の駅弁もレスラーとしてのアイデンティティーなのか？

今月の検証 by せき詩郎

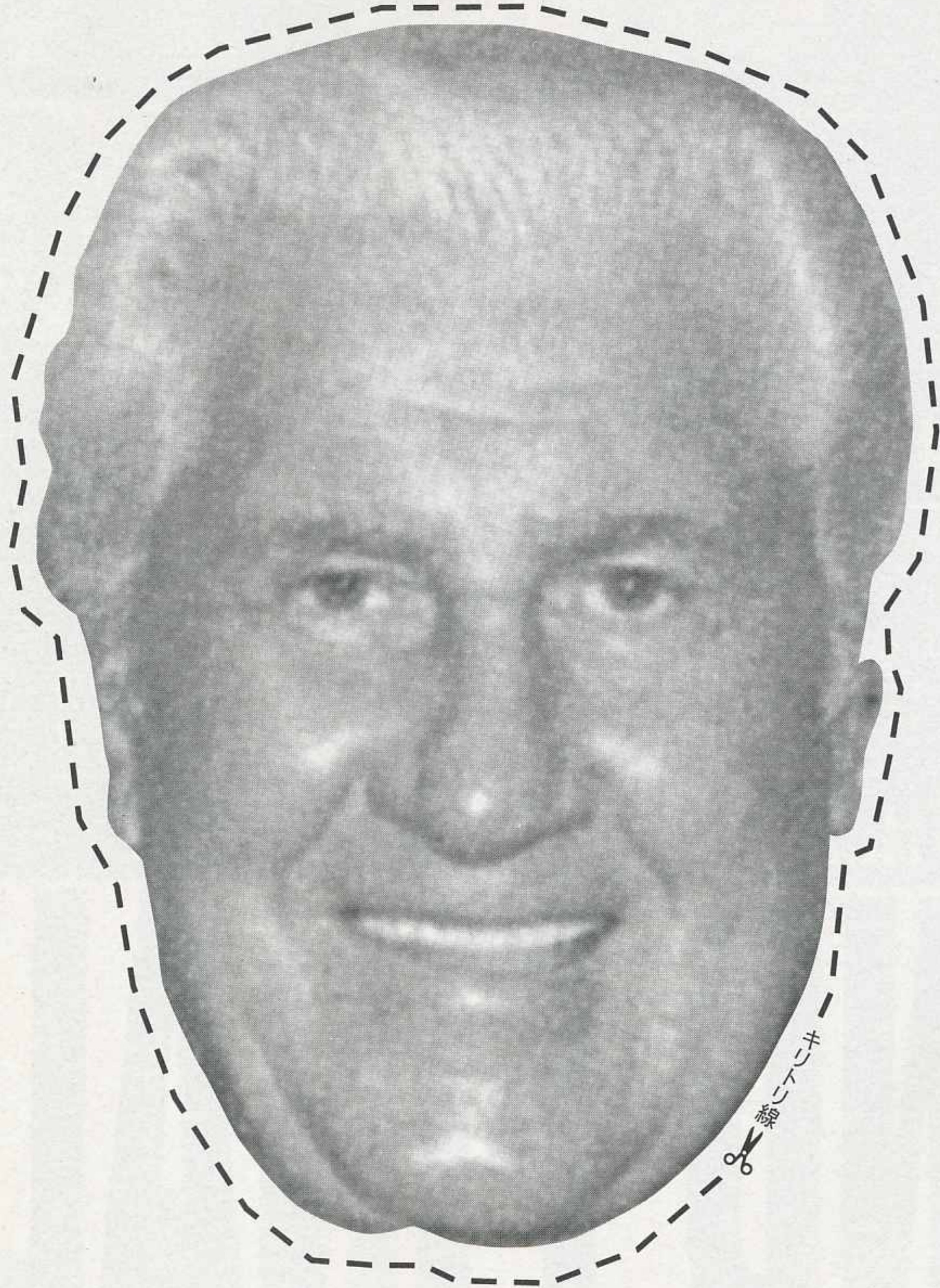
節分の過ごし方

2・3節分。皆はどんな節分を過ごしたことだろうか？　一年365日は節分と、その他364日に分けられる。それくらい節分は一大行事。悔いのない節分を力いっぱい過ごせただろうか？　まあ、多くの人は『ホットドック』の節分特集とか読んで、前もって準備し、自分なりの納得いく節分が過ごせたことだろう。

しかし、それで安心してはいけない。もう来年の節分勝負は始まっているのだから。今から準備しても早過ぎるなんてことはない。

「そんなこと言われなくてもわかっている！」とお叱りの声が聞こえてきそうだが、もしかしたら今回の節分に全身全霊を傾けすぎて、そして燃え尽き、「ちょっとだけ」と気を抜いてしまっている人、いるんじゃない？　その気の緩みが節分時の痛ましい事故に繋がる可能性もあるし、それよりなにより、いざ用意を始めようという段階になって、豆が無い、鬼役の人がいない、なんてことになったら大変だ。せっかくの節分が台無しになり、悔いに悔やめない状況になってしまう。

例えば節分の日に突然ドン・フライが部屋に遊びに来たとする。それほど仲が良くないにも関わらず、だ。「ちょっと近くまで来たから」なんてそんなどうでも良い理由で。怒ったら怖いし、しかも年上だし、取り敢えず家に招き入れ、お茶でも出すとしよう。その辺にある雑誌を適当にパラパラとめくりながら、上着のみならず靴下まで脱ぎくつろぎだすドン・フライ。「猪木祭り見ましたよ」などと気をつかい、言葉を慎重に選びながら会話していくうちに、話題はどうしても節分になることは確実。「今日、節分なんだよね」と、ドン・フライが切り出してきたならば、もはや豆まきを始めるしか残された選択肢はない。

その時だ。その時になって豆がないってことに気がついたらどうする？　なぜかオープンフィンガーグローブを付け、すでに豆まきの準備万端のドン・フライに向かって「すいません、豆がありません」なんて言えるわけが無い。言ったとしても、大急ぎで豆を買って来なければいけない。走ってスーパーへ買いに向かう、時間にしてわずか数分。その間にドン・フライが勝手にあなたの机の引出しを開けてニヤニヤしてたり、冷蔵庫を開け、あとで食べようと楽しみにしていたシュークリームをむしゃむしゃ食べていたり、たまたまかかってきた実家からの電話にでられ、親と自分の昔話で盛り上がっていたりしたらどうする⁉　CD棚から昔たまたま買ったCD（やまかつウインクとか）を目ざとく抜き出し、「へえ～、こういうの聞くんだ。ふふふ」なんて言われたらどうする⁉　とてもじゃないがほんの一瞬たりとも部屋を空けることなんてできない。つまりは豆を買いに行くなんてことは不可能なのだ。

「豆がありません……」そう正直に言ったとする。「そうか、なら仕方ないね」と、もしかしたらドン・フライは驚くほど素直に諦めてくれるかもしれない。しかし問題はその後だ。「じゃあ、ビデオでも見ようよ」とカバンからレンタルビデオを何本も出されたら⁉　もう終わりだ。その際、カバンの中に歯ブラシセットを見てしまったら⁉　ドン・フライはとことんビデオに付き合わせた挙句に、泊まるつもりなのだ！　嗚呼、こんなことなら節分の準備をきちんとしておけばよかった……。

どうだろうか、節分の準備を怠ると大変な事態を巻き起こす可能性がなくもないことが十分おわかりいただけたことだろう。準備をしないならしないで、相当の覚悟が必要なのだ。例としてドン・フライをあげてみたわけだが、これはあくまでも例えばの話。ドン・フライではなくスタイナー兄弟が二人いっぺんに家に……なんてこともあるのだから……。

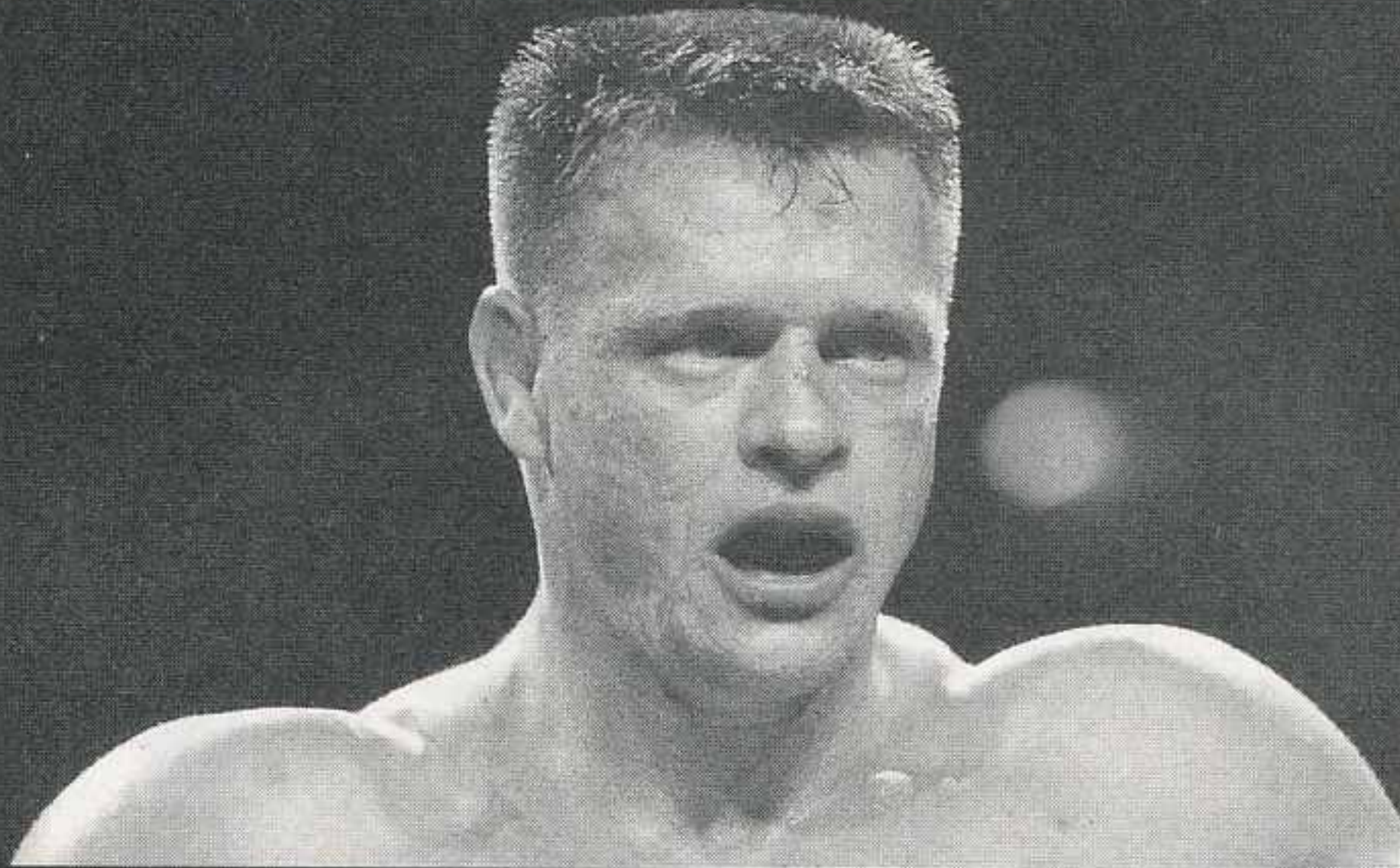
やはり準備できるものならば今からしておいたほうがよい。そこで、今回は鬼のお面を用意してみました。〝銀髪鬼〟のブラッシーです。と、プロレスになんとか結びつけてみたところで、今回の検証テーマ『健介家のインテリアとは何か？』は、正月ボケで書く時間が無くなってしまったのでお休みいたします。

「違うよ、ベアマウンテンバイクは8番だって言ってるだろ！」

以上、新婚さんいらっしゃいを真剣にみながら。

特別付録 〝金髪鬼〟フレッド・ブラッシーお面

キリトリ線

無差別級世界チャンピオン決定トーナメント

決勝戦

FIGHTING NETWORK RINGS

WORLD TITLE SERIES

10th ANNIVERSARY

~GRAND FINAL~

2002.2.15（FRI）

OPEN 17:30
START 19:00

横浜文化体育館

主催／WOWOW　FIGHTING NETWORK RINGS

後援／日刊スポーツ新聞社・デイリースポーツ新聞社・TVKテレビ

協力／日ロスポーツ交流協会・日本コマンドサンボ連盟

入場料金

ロイヤルリングサイド ¥20,000　アリーナリングサイド ¥15,000　リングサイド ¥10,000　SS(1Fひな壇) ¥ 7,000
スタンドS ¥ 7,000　スタンドA ¥ 5,000　スタンドB ¥ 3,000　学生特別優待席A ¥ 2,000　学生特別優待席B ¥ 1,000
※ 学生特別優待席はチケットぴあのみでの販売となります。なお、高校生以下 に限らせていただき、ご購入の際、学生証の提示が必要となります。

発売場所

チケットぴあ ℡03-5237-9999（Pコード 594-030）／ローソンチケット ℡03-3569-9900（Lコード 31235）
CNプレイガイド ℡03-5802-9999／後楽園ホール ℡03-5800-9999／レッスル渋谷 ℡03-3464-0078／レッスル池袋 ℡03-3989-0056
書泉ブックマート ℡03-3294-0011／大山アメリカン ℡03-3962-6443／ビデオショップ・チャンピオン ℡03-3221-6237
フィットネスショップ水道橋店 ℡03-3265-4646／格闘技プロショップ・イサミ ℡03-3352-4083／イサミ尚武堂 ℡03-5214-6487
WOWOW情報ダイヤル（24thテープ）　℡045-683-8009
お問い合わせ　㈱リングス ℡03-3461-0257　　リングス最新情報　http://www.rings.co.jp/

さらばリングス

2.15横浜文体で、10年8ヵ月の歴史に幕

FIGHTING NETWORK RINGS

12月27日、前田日明CEOの口から突然発表された「リングス活動休止」。会見はわずか2分足らずで終了し、質疑応答も受け付けられなかったので、今後リングスがどのような形で存続するのか、または解散となるのかは、会見から1ヶ月が経とうという現在もまだ判明していない。現時点でわかることは、2月15日横浜文体を最後に現体制のリングスが終了するということ。いま、一つの時代が終わりをつげようとしている。

年の瀬に衝撃走る！ 12月27日活動休止会見ノーカット再録

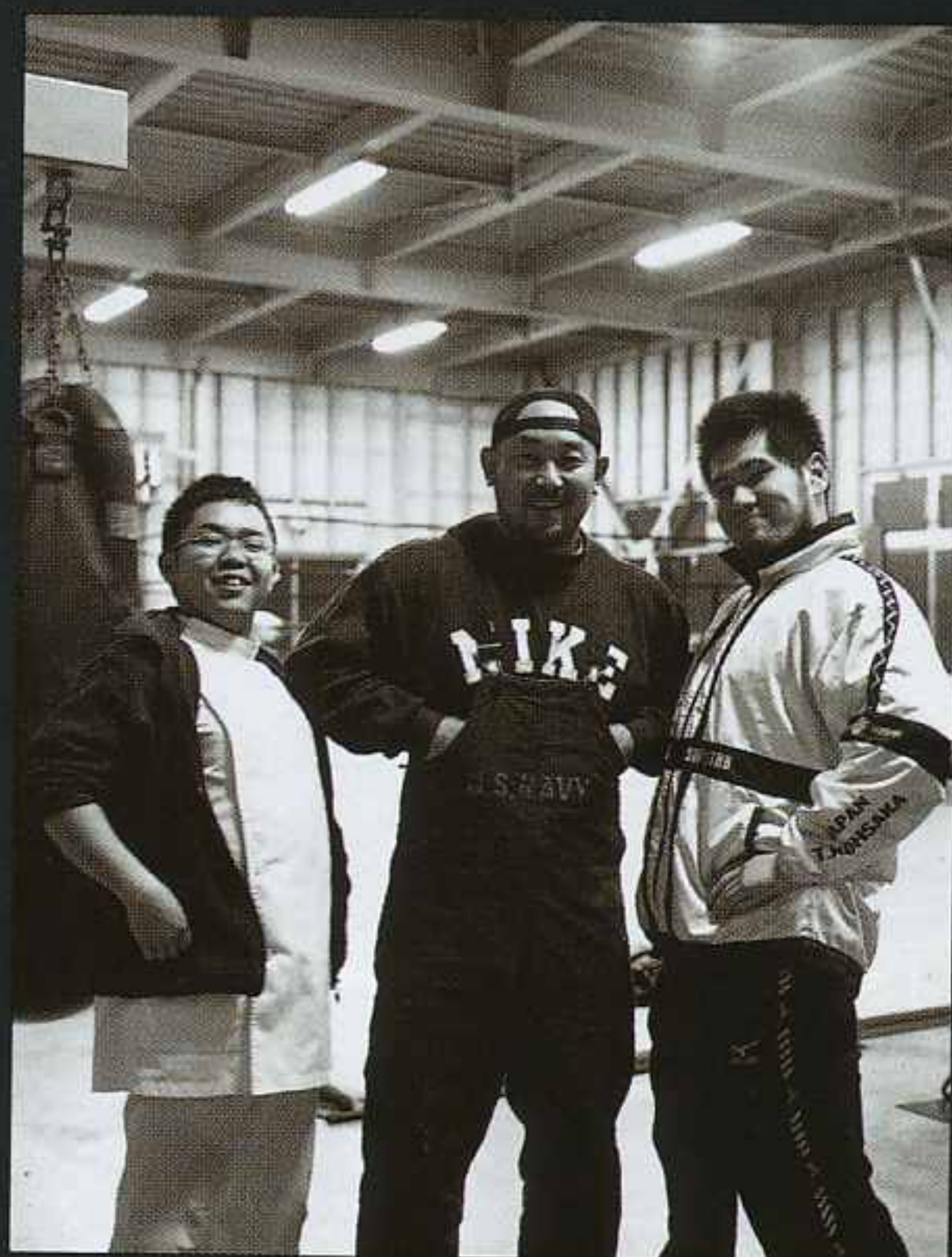
前田　日明

年末のお忙しい中お越しいただきまして、誠にありがとうございます。

リングスは来年2月15日の大会を持ちまして、組織を精算、活動休止状態にあいなりました。10年間応援していただきました各マスコミの皆様、並びにｗｏｗｏｗ特に初代の局長である桑田さんとは世界ソフトを目指そうと頑張ってまいりましたが、力足らず、こうなってしまった責任はひとえに自分にあると思います。世界各国のネットワークは、日本から資金ノウハウの導入を得まして、独立の興行形態を引いていますので、ネットワークは残っていきます。日本発で出来上がったリングスが世界各国に根付いていくものと信じております。

今後はいま現時点では何も決まっていない状態なのですが、来年早々からいろいろ今後の方針等について、かねてからこういうことも予想しておりましたので、考えていたプランに基づき、動いていきたいと思います。以上です。

金原弘光

せめて前田道場だけは残したかったよね

さらば最後の〝プロレス道場〟

「リングス活動休止」その報を聞いたとき、真っ先に考えたのが「前田道場はどうなるんだろう」だった。鶴見川の土手沿いにある冷暖房のない、古きよきプロレス道場幻想を持った道場。なんとか残してほしかったが、残念ながら2月いっぱいその役目を終えることになったという。ジャパン勢の心境はいかなるものか。道場長・金原と道場主・和田レフェリーに話を伺ってみた。

聞き手／堀江ガンツ
撮影／松本崇
designed by さおとめの事務所

"The Last of Pro-wrestling-Dojo"

――大変なことになってしまいました。

金原 ねぇ。

――前号で〝10周年おめでとうインタビュー〟をやって、その一ヶ月後にこのようなインタビューをすることになるとは、こちらとしても思いもよらなかったんですけど……。

金原 まぁねぇ。それはそれで仕方ないと思うけど、ホントに前田道場がなくなるのが一番辛いね。

――あぁ～、やっぱり道場がなくなるのは寂しいですよね……。

金原 うん。せっかくこの間、デビュー10周年の自分へのお祝いでカーナビ買って、道場までの裏道もわかったところなのにさぁ。

――あ、そういうこと（笑）。

金原 だってあのカーナビ、特注だから高いんだよ！　こうなるってわかってたら買わなかったよ～（苦笑）。もう3月からお給料出ないんだからさ。俺は契約社員扱いだから、失業保険も出ないし（笑）。和田さんたちは正社員だからいいけどさ。

和田 ハローワークに行ってきま～す（笑）。

金原 だから正月に実家に帰ったんだけどさ、「今年はお年玉、あんまりあげられないからね」って言ったもんね（笑）。

――ガハハハ！　リングスの活動休止は、早くも金原家の親族にまで影響を及ぼしてるわけですね（笑）。では、まずはそうなるまでの経緯を伺いたいんですけども。「活動休止」が知らされるまで、全然そういう予感とかもしなかったんですか？

金原 今回、正式に（記者会見で）発表したのが（昨年）12月27日でしょ？　その前25日に会議があったんだけどさ、「会議がある」って聞いたとき、和田さんと「なんかヤバいのかな」とか言ってたんだよね（笑）。

――この時期に会議とは怪しいぞ、と（笑）。

和田 普通、会議って言っても、選手以外はボクぐらいしか呼ばれないんですよ。でも、その時は（ムエタイトレーナーの）エッディさんまで呼ばれてたんで「これは何か重大発

俺が有名な選手だったら道場開いて みんな雇ってやりたいけどね

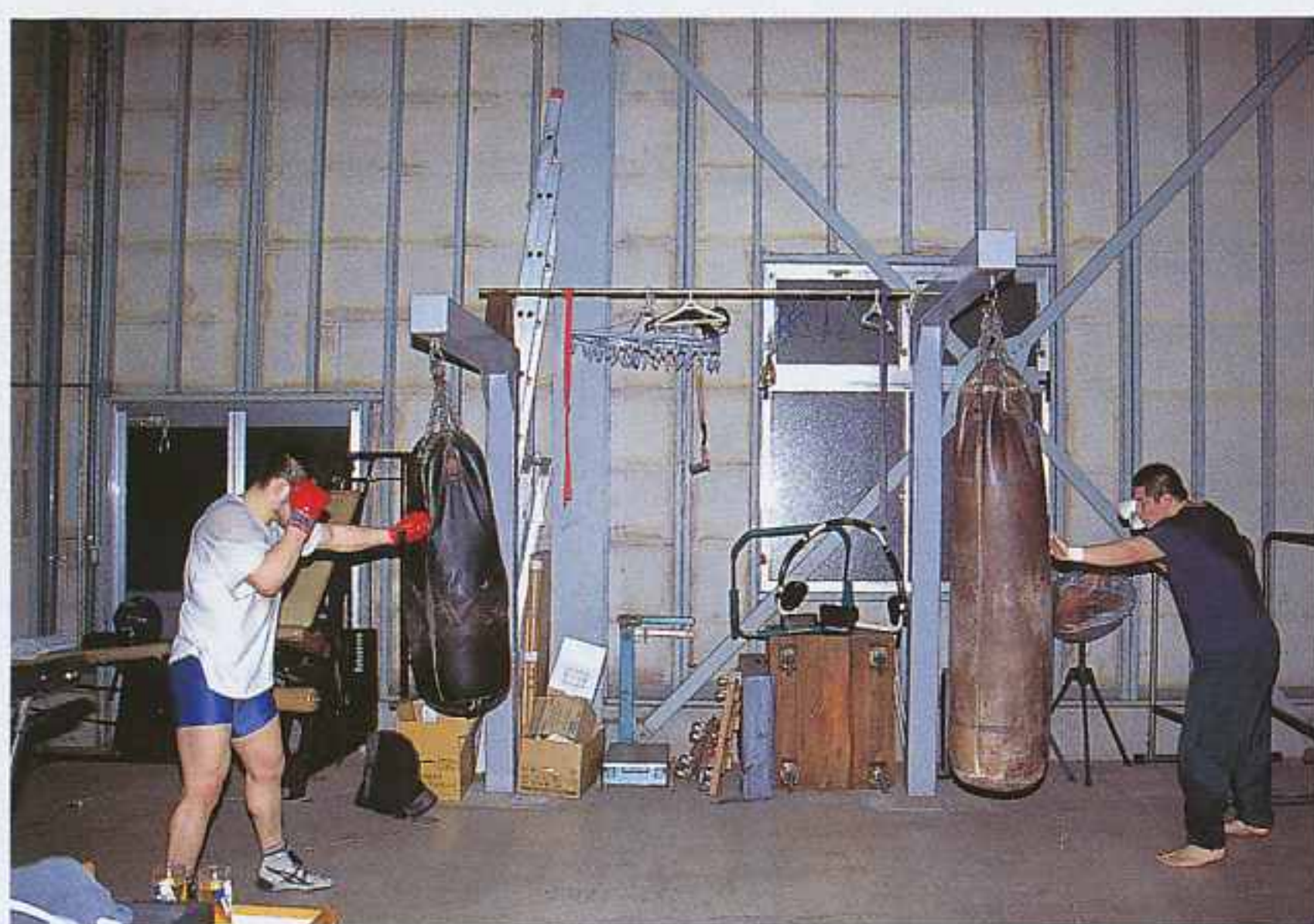
表があるぞ」って。でも、金原選手と高阪選手は20日に試合を控えてたんで、ボクは二人には言わなかったんですよ。動揺させないように。それなのに、金原選手はそういう時の勘がするどいんですよね（笑）。

金原　だからさ、実際に「活動休止」っていうのを聞いた時もさ、「あ～、やっぱり。また来たか」って感じだったよね。「俺たちは3度目だから、わかるんだよ～」って（笑）。

――経験者は語る（笑）。

金原　で、早速「退職金出るんですか？」って聞いたんだけどさ、「あったら払いたいけど、ないんだから払えないです！」って言われて、「あ、そうですか」って（笑）。

――早くも現実的に話になってますね（笑）。「活動休止」を告げられたあと、選手間でなにか話はしたんですか？

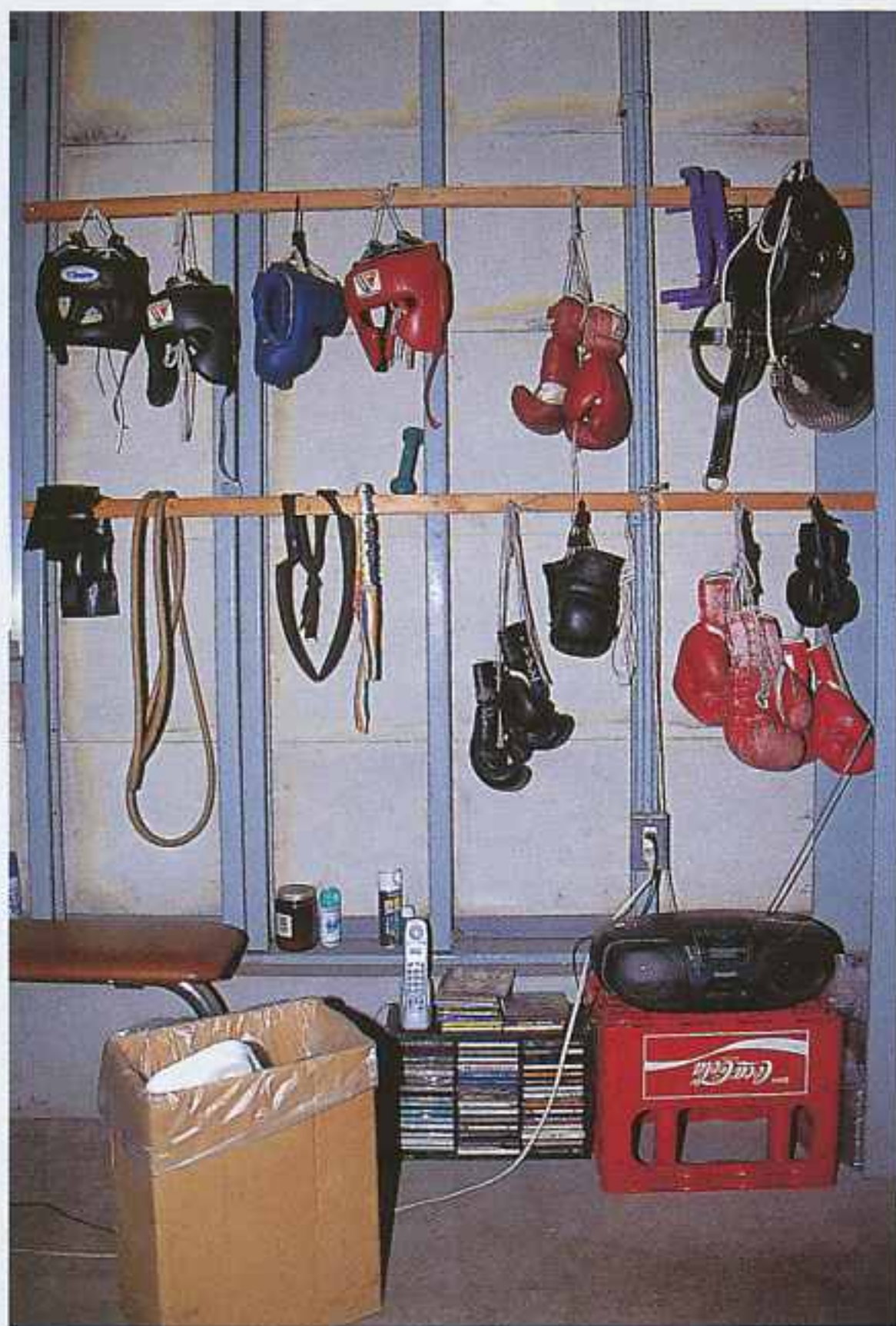
金原　リングスの忘年会で滑川が「リングス・ジャパンっていうのを残していきたいです」とか言ってたけどね。まぁ、俺がね、金があってすごい有名な選手だったらね、道場でも開いてみんな雇ってやりたいところなんだろうけど。そんな資本もないし、現実的には苦しいからね。だから、若い奴とかはやっぱり気になっちゃうよね。「お前ら貯金はあるのか？」って聞いたら「一銭もないです！」って言うからさ。

――ガハハハ！　揃いも揃って（笑）。

金原　合宿所もなくなるのに、どうすんだろうと思ってさ。だから「みんな和田さんの家に居候しろよ」ってこの前、言ったんだけど（笑）。

和田　すごいでしょ？　こうやって勝手に言うんですよ（苦笑）。

金原　和田さんの家、賃貸だけどでデカいからさ（笑）。

和田　デカくないんですよ！　だた、僻地のほうでテラスハウスで……ホントに全然広くないんですから！　そういうこと言うと、例によって若い子はみんな「はい！　じゃあお願いします！」って悪ノリするでしょ。たまんないッスよ（苦笑）。

――じゃあ会社の方からは、「2月で活動休止」っていうこと以外は、具体的にはなかったわけですか？

金原　そうそうそう。「今後はすべて白紙です」って感じだから。あと道場も2月いっぱいだって言われたけどね。給料出なくなっても道場だけは続けてほしかったんだけど。

――選手としてはそうですよね。

金原　前田道場って凄く環境がよかったからね。タイ人のコーチがいて、トレーナーがいてさ。いま「道場」っていう形式は前田道場ぐらいしかないでしょ？　でも、選手にはこれが一番いい環境なんだよ。

――どういった部分でですか？

金原　だって一つの道場でさ、レスリングとかスパーリングできて、ウェイト・トレーニングできて、キック・ボクシングできて、マッサージもできて、全部一カ所でできたでしょ？　移動する必要ないんだもん。

"The Last of Pro-wrestling-Dojo"

――やっぱり移動時間のロスは大きいですか。

金原　大きいよ。道場ならその時間で昼寝もできるんだから。そういうのってやっぱり大事だからね。

――しかも、道場ならチャンコがあるから、食事の心配もいらないし。

金原　そうそう。それが一番大きいよ！　キングダムの道場がなくなったときも、まず一番こたえたのが、練習終わった後のチャンコが出ないことだからね。キングダムの末期にさ、高山（善廣）君と練習終わって二人でホカ弁を買いに行ったのよ。そうして食ってたら、やっぱり味気ないし栄養もないじゃん？「これじゃあ、もうプロとしてダメだよな」って二人して言ってたのを思い出したよ。

――練習場所はどっかで確保できるでしょうけど、チャンコ出してくれるところなんてないですからね（笑）。

金原　そうそうそう。ましてや、前田道場なんか卵の白身は食べ放題だしね。和田さんなんかも『プロテイン』飲み放題だし。

和田　そんな飲んでないっしょ！

金原　もう和田さんが身体を大きくする環境がすごく揃ってたからさ（笑）。

――なるほど。それでリングスは経費がかさんでしまったわけですね（笑）。

和田　また私ですか!?　違いますよ！　勘弁して下さい、もうホントに。

金原　すごいってもう。チャンコとご飯おかわりして、ツナ缶食べて、タマゴの白身食べて、プロテイン飲んで（笑）。なんか間違ってる？

和田　ま、サムタイムということで（笑）。

金原　だからさ、それがなくなるのが一番つらいよね。給料が安くてもね、やっぱりそれはお金に換算したらすごい額になると思うからね。いや～、つらいねぇ（苦笑）。でも、リングスはもったほうだと思うよ。

――もったほうですか（笑）。

金原　だって、Uインターも5年だし、キングダム1年でさ。リングスがやっぱり10年以

滑川康仁

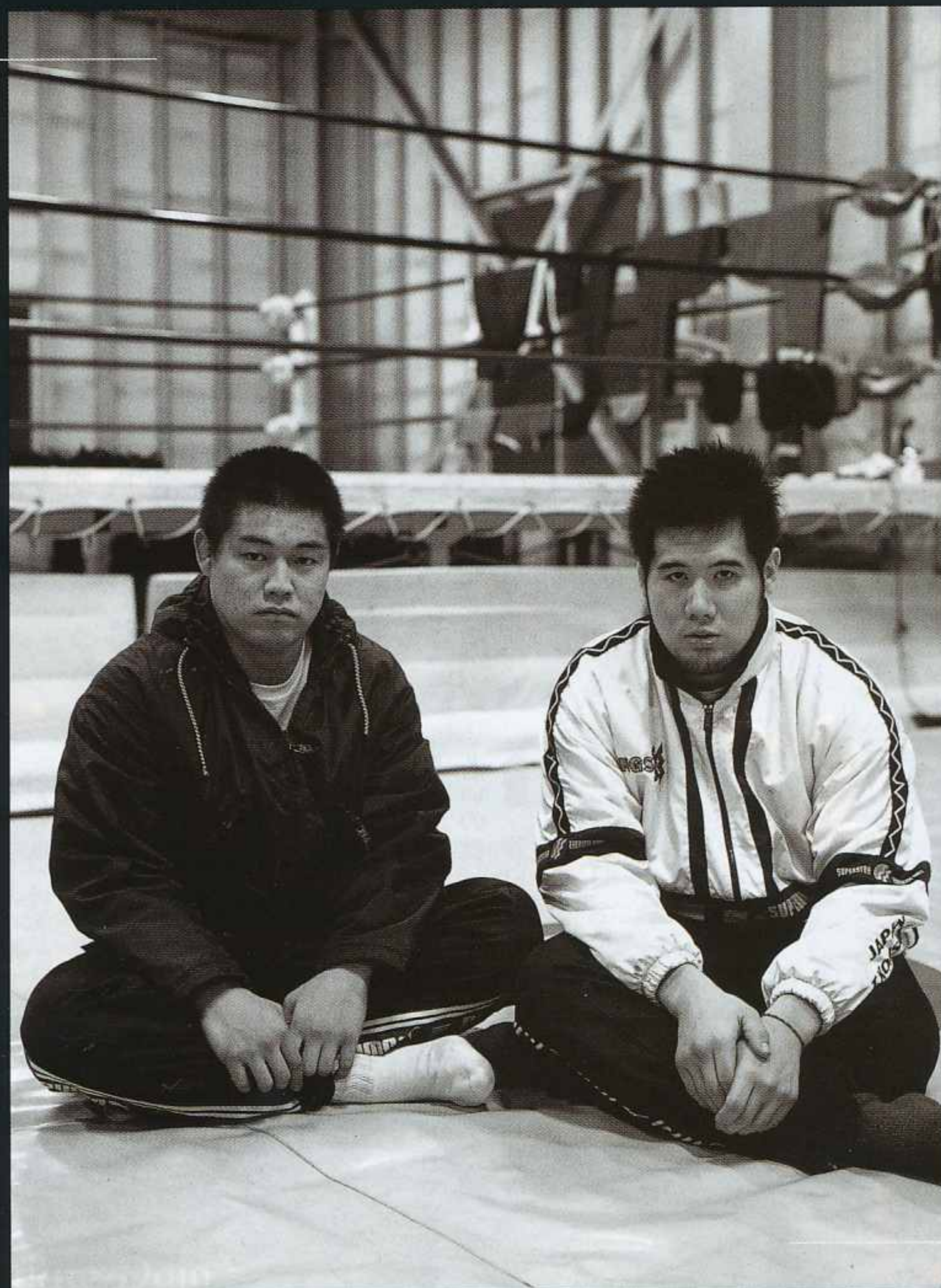
Yasuhito Namekawa

最初に活動休止って聞いた時は「『紙プロ』に所属させくれないかな」と本気で思ったんスよ。ボクは元『紙プロ』ファイターだからね(笑)。でもホント突然だったんで、やっぱショックでしたね。２月の大会が終わったらケガもあるし、ちょっと治してからやった方がいいかなって。まあ、やった方がいいかなって言っても特に話がなかったらカッコ悪いですけど（苦笑）。ただ、貯金がないんでクラブ・ファイトに出させてもらいたいな(笑)。もしリングスがなくなったとしても、ボクは誰よりもリングスが好きなんで“ミスター・リングス”ってみんなに言われるよう頑張りたいです。それで、W★ＩＮＧ金村さんみたいに“リングス滑川”ってリングネーム変えようかなって思ってて（笑）。ノゲイラみたく、康仁“リングス”滑川の方が海外でも使えるしいいですかね？今後？　リトアニア大会や他の海外のリングスの大会に出たいッスね。やっぱり、ヴァラビーチェスにリベンジしなきゃいけないんで。やるんだったらボクはＫＯＫルールが好きなんで、それでやりたいですね。だけどエスケープルールでも頑張りますよ(苦笑)。最後に真面目なこと言わせてもらうと、ボクは状況がどう変わろうとリングスの看板は絶対下げないから！

伊藤博之

Hiroyuki Ito

（活動停止は）まだ実感が湧かないですね。最初に聞いたときも……まさかこうなるとは思わなくて。ボクにとってここで育ててもらったというのは大きいですからね。いまはとにかく２月15日の試合のことだけ考えて。矢野（倍達）さんとの試合は、自分にとって格闘技界で生き残れるかどうかの大勝負なんで。人生を左右する試合だと思って頑張ります。矢野さんは凄い実績がある選手ですけど勝ちますよ。“多分に”。

横井宏孝

Hirotaka Yokoi

こんな事態になるとは全然考えてなかったんで、もうショックですね。会議があるって言われても、新しいジムを開くとか、そういう話だと思ってたんで。いまはもう、最後の2月の大会を絶対に盛り上げよう、それだけを考えています。これからのことはわからないですけど、リングスはボクの夢でしたから。どこへ行こうとここで得た前田イズム、前田道場イズムを背負って頑張ります。

場所が変わってもまた同じメンツで「前田道場」がやっていけたら一番いい

上続いたことはすごいことだと思うよ。これで、日本人選手があんだけ辞めなくてさ、外人選手もあんだけ引き抜かれなかったらまだ続いてると思うしね。

——金原さん自身これからの具体的なプランっていうのは、いま現在あるんですか？

金原 う〜ん、やっぱり団体所属じゃなくなるわけだから、ホントにこれから生きていくのが大変になるよね。でも、ちょうど休むいい機会だとも思ってるしさ。いままでずっと連戦続きだったし、10周年迎えて心身共に疲れがたまってきてたから、とりあえず2ヶ月ぐらい休んで、それからどうするか考えるよ。まだ試合したいからね。

——だからリングスがなくなっちゃうのはホントに残念なんですけども、一方でホッとしたような部分もあるんですよ。ここ1〜2年間ホントにハードな試合が休みなく続いていて、その割には報われてない気がするリングスの選手を見続けてきたんで。

金原 だから、若い奴もみんな、逆にこれをチャンスとして活かしたほうがいいじゃない？ そのためには、最後の試合でどんな闘いをするかが重要だからさ。若い奴には、「（2月の大会で）ヘタな試合したら、お前ら終わりだぞ」ってハッパかけてるから。

——金原さんももちろんそういうチャンスを狙っていくわけですよね？

金原 そうだね。でも、まだ2件しかオファーが来てないんだけどね（笑）。

——えっ!? もうすでにオファーが来てるんですか？

金原 そう、ひとつは「スプリング・オフィス」っていうところなんだけどさ。

——スプリング・オフィス？ どんなところなんですか？

金原 春一番さんの事務所なんだけどさ（笑）。春さんが「一緒に営業でもやりませんか？」って言ってくれたの（笑）。

——ガハハハ、金原弘光芸人に転向！（笑）。

金原 あとは、この前（グレート）サスケさんに10周年のお祝いの花をいただいたお礼の電話をしたら「ウチはいつでも歓迎するからね！」って言われたの。だからみちのくプロレスも視野にいれて（笑）。

——金原さんのみちのく参戦は一度見たいなぁ（笑）。

金原 あとサスケさんは、和田さんも使いたいって言ってるんだよね。「あのキャラクターは惜しい！」って（笑）。

——ガハハ！ それはいいですね。新崎人生さんとタッグを結成したり（笑）。

和田 ムリですよォ！

金原 あと高山君にも「アレ？ 高山堂（高山善廣のマネジメント事務所）からなかなか誘い来ないんだけど？」とか言ったんだけど、「も〜、一人で手一杯です」って（笑）。これから（高山を）「社長」って呼ぼうかなって思ってたのに（笑）。

——ちゃっかり高山堂入りを狙ってましたか（笑）。ま、高山堂はともかく、金原さんもいずれはどっかに所属したいなっていう感じですか？

金原 いや、所属は別にしてもしなくてもいいんだけどさ。ただ、寝技もキックも全部できる練習環境がほしいよね。それが無理だったらさ、暖かいところが好きだから。沖縄とかさ、ハワイとかグアム辺りで、なんか仕事見つけながらのんびり暮らしたいなと思っちゃうしさ、色んなこと考えちゃんうんだよね。もうどっかに移民しようかなぁ。

——移民まで視野にいれてますか（笑）。でも、まだまだもうちょっと金原さんにはスポットライトを浴びてもらわないと。

金原 まだ一度もおいしい思いしてないからね（苦笑）。

——やっぱりファンも期待してるのは『PRIDE』で闘う姿だと思うんですけど、金原さん的には、そういう希望はありますか？

金原 オファーが来たら、やっぱり考えますよ。

——ラウンドガールもたくさんいるし（笑）。

金原 そうそう（笑）。でも、あそこの試合も結構危ないよね。この間もアラン・ゴエスがくも膜下出血かなんかしたんでしょ？ あんな風になったら選手生命終わっちゃうわけだからさ、リスクも大きいよね。

——『PRIDE』というと、金原さんは桜庭さんとも仲いいですけど、桜庭さんとは何か話をしたりはしてないんですか？

金原 いや、いろいろ話したよ。桜庭にも「雇ってくれ」って言ったんだけどね（笑）。

——高田道場にですか？（笑）

金原 いや、桜庭のマネージャーとかスパーリングパートナーでさ。

——個人的な契約してくれって（笑）。

金原 そうそうそう。桜庭が練習するぞっていう時に、「あぁ、わかりました」ってこう。まぁカバン持ちですよね（笑）。

和田 じゃあ第一鞄持ちが僕で、第二鞄持ちが彼で（笑）。

——今後、いろんな選択肢が考えられると思うんですけど、理想を言えばどんな風にやっていきたいと考えてるんですか？

金原 そりゃ一番いいのはやっぱり前田道場が残ることだよね。だから、もしあそこの場所がなくなったとしても、どっか他の場所で、またいまのメンツでね、前田道場っていうのをやっていけたら一番いいけどね。

——それは例えば、ジム生も募集みたいな感じでできたらっていう。

金原 そうそうそう。それでいて、選手はいろんな所で試合できたりね、そういう風になればいいよね。せっかくここまでやってきたんだから、前田道場っていう看板は消したくないよね。

——ここ最近は団結力もあって、道場のムードが凄く良かった感じがしますからね。

金原 うん、そうだね。練習はみんなやってるよ。俺から言わせるとまだまだなんだけど（笑）。そこそこはやってるよね。

和田 いつも金原選手にケツ叩かれてますよ、若いのは（笑）。

金原 若い奴ら見てるとさ、なんかね〜、「俺が若い時、もっとやったぞ！」って思っちゃうんだよね。

——宮戸さんや安生さんにしごかれて（笑）。

金原 だから、俺と同じだけの練習やってもダメじゃん。やっぱり俺の2倍、3倍やってほしいんだよね。若い時しかそういう練習できないし、やっぱりそれは練習の貯金じゃないけど財産になるからね。その辺どう？

和田 うん。Uインターの頃というのは、やっぱり「量の練習」ではあったかも知れないですけど、もの凄かったですからね。基礎体力の運動、スパーリングの数、もちろん立ち技も含めて凄かったですよ。それを毎日、毎日……。しかもあの緊張感の中でですからね。

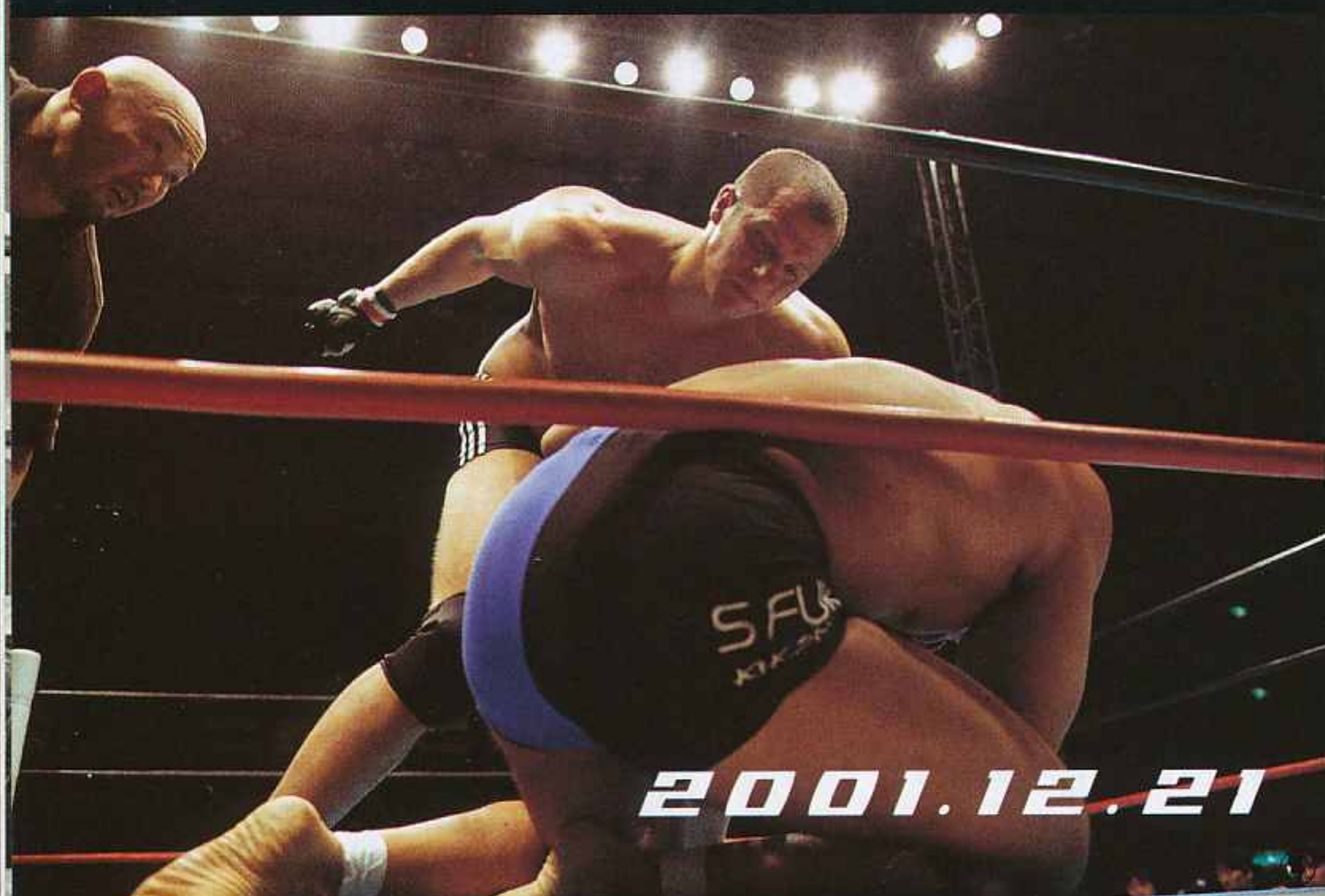
金原 確かに凄い集中力だったよね。

和田 だって練習生なんて道場に入ったとたんに、あまりの緊張感で戻しちゃったことが何度もありますからね。

金原 そういうところにいたからさ。若い奴

12・22横浜大会で行われた、「金原弘光デビュー10周年セレモニー」には、かつてUインターで苦楽を共にした仲であり、親友の高山善廣が駆けつけた。

①

③

（写真・1）金ちゃん10周年マッチの相手は、あのヒース・ヒーリングと練習を積むカフーン。日本では無名だが、凄まじいパワーを秘めた選手だった。金原は体重差に苦しみながらも、真っ向から殴り合い判定勝ち。記念試合を勝利で飾った。（写真・2）SBからの第2の刺客、前田辰也は、リングス豪州のステファン・ギリンダーと対戦。2度のダウンを奪い、最後は2R1分42秒チョークで極める完璧な闘いぶり。今後も総合の試合にゼヒ出て欲しい選手だ。（写真・3）A3ジムの門馬秀貴とU−FILEの佐々木恭介が第2試合で対戦。体格差に勝る門馬が辛くも判定勝ち。（写真・4）リングスが生んだ最後の怪物・ヒョードルが無差別級トーナメント準決勝で“ポリスマン”ハスデルと対戦。ヒョードルはM・タイソンばりの迫力抜群のフックでハスデルを追い込むと、豪快にテイクダウン。グラウンドでは、流れるように体勢を替え、最後は引きずり回すようにネックロックで勝利。ハスデルが可哀相になるくらいの圧勝劇だった。

2001.12.21 YOKOHAMA

⑦

⑥

（写真・5）初来日でいきなり連勝中の滑川をＫＯし、一躍トーナメント優勝候補に名乗りあげたリトアニアのエギリウスは、準決勝でヘイズマンと対戦。両者ともにオールラウンドな選手なので、好勝負が期待されたが、実力差は予想以上でヘイズマンが１Ｒ３分０８秒、腕十字でタップ奪い完勝。（写真・6）リングス・ライト級のエースとも言われ始めた小谷が、この日もＡ３の飯田崇人相手に素晴らしい動きを披露。１Ｒ３分０２秒、腕十字で貫禄の一本勝ち。（写真・7）ロシアの破壊神・アターエフがデビュー後初めてトップ選手と対戦。さすがのアターエフもＴＫ相手では、分が悪いかと思いきや、闘牛士のようにＴＫのタックルをかわし、そこへカウンターを合わせる見事な闘いぶりで判定勝ち。いよいよ底知れぬ強さを身につけてきたようだ。（写真・8）ヤマケンが約３年ぶりのリングス復帰。自身の持つＵＦＣジャパンベルトを賭けて須藤元気と対戦。１Ｒは息詰まる緊張感溢れる展開となったが、２Ｒ元気がオモプラッタから２Ｒ１分４６秒、チョークで一本勝ちを奪った。

⑧

上がるリングは変わっても肩書は″リングス・ジャパン″として出たい

が、ミットとかサンドバックを10ラウンドぐらいで終わるの見ると、「なんで10ラウンドで終わるんだ?」って思っちゃうんだよね。俺が10ラウンドぐらいやってたらさ、「20ラウンド、30ラウンド行ってやろう!」って思わなきゃ。そうやってガンガン、向上心を持ってやってほしいね。

――なるほど。そういうのを教えるのも、憶えるのも道場ですよね。そう考えるとやっぱり前田道場がなくなるのは大きいなぁ。

金原　だからこれからは別れ別れになるかもしれないけど、俺からあいつらに伝えたいのはそういうこと。ホント俺の3倍、4倍の練習をしてもらいたいよ。いましかできないんだから。歳食ったらもう、練習したくても体動かないんだから。

――金原さんにしても、桜庭さんにしても、いまのレベルがもの凄く上がった総合格闘技界の中でトップクラスで闘えるのは、やっぱり若い頃それだけの練習に耐えてきたからなんでしょうからね。

金原　老体にムチ打っててねぇ(笑)。でも、リングスにしても『PRIDE』にしても25ぐらいの強い選手がいっぱい出てきてるじゃない。そうなってくると、30超えてる連中はやっぱりキツいよね。彼らはみんな体力が凄いからね。あれが一番脅威だよ! 体力ってホントに技術とかより優っちゃうからね。

――ただ、これからホント、いわゆるUインターとか前田道場みたいなプロレスからの流れを汲んだ道場制度がなくなっていったら、技術的なことはともかく、根性とか底力がある日本人がなかなか現れないんじゃないかなという危惧もありますね。

金原　そうだよね。下積みからやっていくことがもうなくなっちゃうわけだからね。だからジム制度も、それはそれで時代の流れでいいかもしんないけど、やっぱり下積みがあったほうが俺は、「いいのかな」とは思うよね。

――だからちょっと誤解される様な言い方かも知れないですけど、Uインターにしても、リングスにしてもプロレス道場の流れを汲んでることで、揶揄されることがあったじゃないですか? でも、そこから生まれた選手が総合格闘技のトップで通用してるんだから、やっぱり「最強」の旗印もあながち大袈裟じゃなかったと思うんですよ。

金原　そうだよね。だってUインターに入って「ここにいたら絶対強くなるな」って感じがしたもんね。ここで生き残れば間違いなく強くなれるって。

和田　すごかったっスよ~。高田さんとか安生さんのスパーリングはホントすごかったッスから。絶対にそこで揉まれることによって金原なり桜庭なりが強くなったんですから。これは間違いないですよ! 毎日ボロ雑巾のようにされて、それをボクは傍らで見てて「これは親御さんには見せられないな」って当時は思ったもんですよ。

金原　和田さんは、レフェリーなのに、一緒に基礎運動やらされたり、スパーリングやらされたりしてたからね(笑)。

和田　だから、いまだに言うんですけど、あの頃大将が高田さんじゃなかったら、ボクは逃げてますよ、ホントに。ボクは高田さんの顔で入れてもらったんで、それはできなかったですけど、ハッキリ言って逃げたかったっスから(笑)。

金原　前代未聞の「レフェリー夜逃げ」になってたかも知れないからね(笑)。

"The Last of Pro-wrestling-Dojo"

和田　なんでレフェリーが夜逃げしなきゃいけないんだって(笑)。でも、これホントですよ。

――そうやって若い頃の練習はUインターの道場で培った金原さんですけど、総合格闘家としての経験という意味では、リングスでの闘いが凄く大きいんじゃないですか?

金原　それはあるよね。だってさブラジル、ロシア、オランダ、アメリカ……世界中の強い選手と闘ってきたからね。いい経験させてもらったよ。しかもKOKではそれを一日2試合とかやってたわけだからね。

――一日にデイヴ・メネーとノゲイラの連戦したり、ジェレミー・ホーンとダン・ヘンダーソンの連戦したりしてたんだから、いま考えるととんでもないですよね(笑)。

金原　みんなチャンピオンだもんね。ホントにキツかったよ。それに海外での試合もたくさん経験させてもらったからね。普通、ロシアとかオランダとか海外で試合することってなかなかないじゃない? リングスはそれを平気で組める会社だからね。逆にオファーがありすぎて断るぐらいさ(笑)。やっぱり海外のネットワークはすごかったよね。

――日本発のプロスポーツが世界で根付いたわけですからね。

和田　ボクもリングスに来たばかりの頃、金原選手と一緒にロシアに行ったことが思い出深いですね。

金原　俺がリングス来て3試合目だよね。和田さんなんかバス乗ったらにキョロキョロしちゃってさ。電車が通ったら「あれ、シベリア鉄道かな?」とかさ(笑)。「こんなとこ、二度と来れないよ!」って言ってたんだよね。結局そのあと3回行ったけど(笑)。

和田　そうそう(笑)。そのとき僕もレフェリーで初めて行って。向こうの会場はものすごい熱狂的なんですよ。軍隊がいて警察がいて、ホントに熱狂的! そこで金原選手が試合やってね。相手も結構強かったんですよ。

金原　サンボのチャンピオンだよね。

和田　その試合で金原選手がアームロックを完璧に取ったんですけど、相手が地元だからギブアップしないんですよ。で、(金原が)「和田さん! 折れる折れる!」って言うんだけど「俺、これを止めたら殺されるのかな?」と思ってね(笑)。そういう雰囲気なんですよ。

金原　セコンドとか周りの審議委員も「折っていいよ」って言ってるんだもん(笑)。

和田　結局、勇気を振り絞って止めましたけどね。そのときは客もわかってくれましたけど、凄い雰囲気でしたよ。

――まさに「猪木vsペールワン」みたいな感じですね。金原さんが「折ったぞ~~!」って(笑)。

和田　もう、ホントそんな感じですよ。グルジアではエアガンで撃たれましたしね。

――えっ! 撃たれたんですか!?

和田　「な~んだこれ!」と思ったら、エアガンの弾が飛んで来るんですよ! 興奮した客が、やってくるんですよね。あと誰だか忘れましたけど、グルジアの選手がロープ際で劣勢だった時に、興奮した客が革靴の底で外人選手の頭をガツーンっとやって、一時中断になったこともありましたから(笑)。

――客が乱入しましたか(笑)。

和田　そういうことがあるから海外は機関銃持った兵隊とかいるんですよ。だから、そういう環境でよく選手って試合するなって。地元の英雄相手に闘うんですから。しかもリングスの外人はホントに強いですもん。もう名前が通ってなくてもホントに強いのがゴロゴロしてるんです! 全然科学的なトレーニングしてるわけでもなく、ステロイド使ってるわけでもなくナチュラルに強いんですよ。

金原　ホント、リングスで4年間やってきて、「コイツ弱かったな」って思った選手はほとんどいなかったもんね。

和田　だから改めて思いますよ。凄いネットワークだなって。そう考えるともったいないですよね。

金原　そういう意味で〝リングス〟っていう名前だけはなんとか残したいよね。だから、もし俺がどっかに上がるにしても、〝リングス・ジャパン〟っていう看板を背負っていきたいよ。みんな名前の後に「所属○○」ってつけるでしょ？　俺はそこに〝リングス・ジャパン〟ってつけたい。

──それはゼヒやってほしいなぁ。

金原　滑川とかにしてもやっぱり、そうやってやってほしいよね。TKとかみんなね。やっぱり11年間続いた団体の名前だから残したいよ。だから、もし今後なんか道場をやるにしても〝リングス〟って名前使いたいよね。

和田　『リングス和田道場』とかさ（笑）。

金原　な〜〜んで俺の名前なの！

和田　和田さんがオーナー兼社長になって、俺が副社長の座に座ってさ（笑）。

金原　収拾つかないって！　いろんな選手が来て、みんな遊んじゃって。

──ホントに実現したらいいですけどね。そして、桜庭さんとか高山さんとか金原さんが練習してるっていったら。凄い数の会員集まりますよ！

金原　そうだよね。和田さんオーナーでさ、俺たちがそこで週一回とかで教えてね。いい感じだよね。その為に『紙プロ』でスポンサー募集してよ（笑）。

──ガハハハ、確かにスポンサーさえつけば不可能じゃないですよね。

金原　いまのご時世、難しいだろうけど、和田さんが代表取締役だから。負債背負ったときは全部、和田さんが背負いますから（笑）。

和田　やめてくれよ！　割に合わないよ！

金原　いや、和田さんも40なんだから人生の転機だよ。ここは男として一つさぁ、一発立ち上げてみたらどうなの!?

和田　僕にはそんな器量はありません！

金原　一生負け犬で終わるか、一発勝負するかだよ（笑）。

──勝手に負け犬にされてますけど（笑）。ま、真面目な話、そういうのが実現できたら最高ですよね。

金原　うん。だからどっかの社長さんが倉庫とか空いてて、「好きに使ってくれよ」っていうのがあったらいいよね。そこにリング買ってさ。

──そもそもUWFだって、そこから始まったんですからね。

金原　そうだよね。だからなんとか実現できたらいいよね。

──では、最後にラスト興行になる2・15横浜の意気込みを聞きいて終わりたいんですけど。相手はミーシャですよね。

金原　ミーシャって俺がリングスに来て初めてやった相手だから、それで終わるのはいいんじゃないかと思ってね。でもホントはミドル級のタイトルマッチをやりたかったの、グスタボ・シムと。でも来れないみたいだからね。だから、リングスでベルトが巻けなかったのが心残りだね。

──そのタイトルマッチは見たかったですね。そして皮肉にも最後の横浜大会は、久々に満員になるんだと思うんですけど（笑）。

金原　やっぱり〝最後マニア〟っているからね。だから、毎回「最後」って言ってちょっと続けるのもいいんじゃない（笑）。

──そんな、一年中「閉店セール」やってる宝石屋じゃないんだから（笑）。

金原　そうじゃなかったら、おひねりでもしてほしいね。ルチャみたいに（笑）。

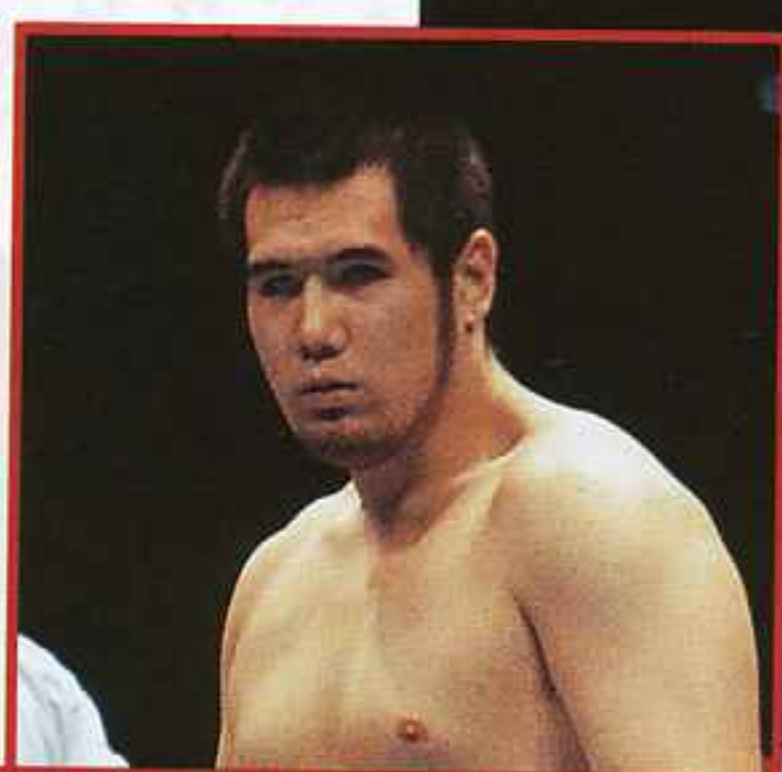
──ガハハハハハ！　これからの生活の為に（笑）。

金原　そうそうそう（笑）。だから2月15日は帽子被って入場しようと思って。それで試合が終わったら、そこにおひねり入れてもらうの（笑）。

──大道芸人じゃないんだから（笑）。ま、リングス最後の試合ですから、おひねりが飛ぶくらいの試合期待してます！

【02年1月14日／前田道場近く『焼き肉村』にて収録】

2.15 横浜文化体育館
WORLD TITLE SERIES
~GRAND FINAL~

リングスでの4年間がなんであったか!
イリューヒン・ミーシャ vs 金原弘光
(リングス・ロシア) (リングス・ジャパン)

パンクラスvsリングス最終戦争!
藤井克久 vs 横井宏孝
(V−CROSS) (リングス・ジャパン)

矢野卓見も参戦!

旧リングスルール・エキジビションマッチ
髙阪剛vs宇野薫緊急決定!!

「最後ぐらい見てやるか」と思って来場なさる皆さんへ——

ヒョードルに驚け!

チケット完売真近! リングス11年間の集大成を見届けろ!

designed by さおとめの事務所

世界最強の男はリングスが決める!
エメリヤーエンコ・ヒョードル(リングス・ロシア)
vs クリストファー・ヘイズマン(リングス・オーストラリア)

滑川康仁 vs サム・ネスト
(リングス・ジャパン) (リングス・オーストラリア)
伊藤博之 vs 矢野倍達
(リングス・ジャパン) (RJW/CENTRAL)
小谷直之 vs 吉信
(ロデオスタイル) (四王塾)
矢野卓見 vs 松本秀彦
(烏合會) (SKアブソリュート)

この対戦が見られるのも最後か!
ヴォルク・ハン vs アンドレイ・コピィロフ
(リングス・ロシア) (リングス・ロシア)

現体制のリングスラスト興行となる、2・15横浜大会の全カードが遂に発表となった。皮肉にも「活動休止」が発表されてから、大会チケットは飛ぶように売れ始め、当日は超満員札止め確実な状況。対戦カードの方もその大観衆に見合う、豪華なものが出揃った。

まず、メインは10月から行っている無差別級王座決定トーナメントの決勝戦、ヒョードルvsヘイズマン。最後を締めるのが、日本人でないことは寂しいが、ヒョードルと言えば、リングスが生みだした最強最後の怪物。最終興行ということで、初めてリングスを見るファンも多いと思うが、一見さんはその強さに間違いなく驚くことであろう。対するヘイズマンもリングスマットで最も成長した、ファンには思い入れ深い選手。これぞリングス!という試合になることは間違いない。

また、この日はリングスジャパン全選手が出場。エース金原はリングスデビュー戦の相手であるミーシャと対戦。負傷明けの滑川は豪州の新鋭と、日本ではまだ2戦目の伊藤は矢野倍達にチャレンジする。そして8月のデビュー以来3連勝中の〝怪物君〟横井は、なんとパンクラスヘビー級ランキング1位の藤井と激突。会場は異常な熱気に包まれるだろう。さらに、締め切り直前にリングス生え抜きの髙阪剛と宇野薫の「旧リングスルール」でのエキジビションマッチが緊急決定。二人がレガース姿で闘うのを見れるのは、これが最初で最後のチャンスだろう。見逃せない。

旧ルールはもう一試合。リングスを10年間盛り上げた立て役者であるハンとコピィロフの対戦も決定。旗揚げ時からのファンには涙もののカードだ。その他にも矢野卓見が、サンボ王者・松本秀彦とマニア垂涎の一戦を行うなど見どころいっぱい。当日はリングスグッズの大処分セールも行われるということなので、早めの来場が得策だ。とにかく、我々が愛したリングスが見られるのもこれが最後。平成14年2月15日、リングスのすべてを目に焼き付けろ!

RADICAL 通販SPECIAL

FRONT

BACK

アディオスアミーゴTシャツ
ホワイト／ブラック　XS・S・M・L・XL　¥3,800

リングスよ　永遠なれ！
オフィシャルが出さねえなら『紙プロ』が出すぜ！
リングス“アディオスアミーゴ”Tシャツ
“ヴォルク・ハン”Tシャツ緊急発売！

ヴォルク・ハンTシャツ
ホワイトのみ
S・M・L　¥3,800

リングス・ラストマッチのメモリアルとして、『紙プロ』からリングスTシャツを2種類緊急発売！　ひとつは胸にリングスのシンボルマーク、バックにはリングス全大会名が入った「アディオス・アミーゴ」Tシャツ。もうひとつは日本ラストマッチとも噂されるV・ハンTシャツだ！　どちらも『紙プロ』通販、当日会場、『グレート・アントニオ』、直販店の限定販売。これを逃したらもう手に入らない！　迷わずゲットせよ！

通信販売方法

『アディオス・アミーゴ』Tシャツ、『ヴォルク・ハン』Tシャツ共、リングス組織精算につき、完全限定販売！　ご購入は早めの通信販売をオススメしております。ご購入を希望される方は、希望商品名、サイズ、色、枚数を記入の上、下記の要領で申し込み下さい。代金は3800円＋送料500円、計4300円です。尚、発送は2月12日以降となります。

【郵便振替】　00130-3-769154（株）ダブルクロス
【現金書留】　〒151－0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス「通販」係

リングスをその目に焼き付けろ！

WORLD TITLE SERIES ～GRAND FINAL～

2月15日（金）横浜文化体育館　開場17:30／開始19:00

■入場料金

ロイヤルリングサイド	¥20,000-
アリーナリングサイド	¥15,000-
リングサイド	¥10,000-
SS（1Fひな壇）	¥7,000-
スタンドS	¥7,000-
スタンドA	¥5,000-
スタンドB	¥3,000-
学生特別優待席A	¥2,000-
学生特別優待席B	¥1,000-

※学生特別優待席は「チケットぴあ」のみでの販売。
高校生以下に限定。購入の際、要学生証提示。

■お問い合わせ
（株）リングス　03-3461-0257
WOWOW情報ダイヤル
（24時間テープ案内）045-683-8009
http://www.rings.co.jp/

盟友クリス・ドールマンから独占メッセージ

「リングス活動休止」は、リングスネットワーク加盟各国にも衝撃を与えている。その中で、旗揚げ時からの前田の盟友であり、かつて共通の野望として「アメリカ制圧」を誓い合った仲である、リングス・オランダ代表、クリス・ドールマンから、『紙プロ』へ独占コメントが届いたので紹介しよう。

「リングス・ジャパンがこのような結果となってしまって、非常に残念だ。しかし同時に、これがリングス・ジャパンの終わりであるとは思いたくない。もし、マエダが再出発できるなら、私は今まで同様に協力と支援をしたいと思っている。

現在の状況はよくわかるが、マエダはファイターだ。すべてのトラブルに立ち向かうファイターであるはず。近い将来、マエダからの良いニュースが到来することを願っている。

リングス・オランダ代表　クリス・ドールマン」

今回の活動休止発表をリングスに帰ってきたばかりの 山本喧一 はどう受け止めたのか？

前田さんが今後、格闘技界のために何かしようというなら俺は協力は惜しまない！

「前田さんに恩返しがしたい」との想いで2年10ヶ月振りにリングスへ帰ってきたヤマケン。12月の須藤戦は破れたものの、ヤマケンは2002年もリングスを中心に闘っていきたいと語っていた。今回の突然の活動休止発表をヤマケンはどう受け止めたのだろうか？

聞き手＆撮影／松澤チョロ　designed by さおとめの事務所

――リングスに帰ってきたばっかりでアレなんですけども（笑）。

山喧　ねえ？（笑）。今は、あんまり言葉が見付からないよね。

――最初に、リングス活動休止と聞いた時はどう思いました？

山喧　ちょうどプロの仕事を見せられるモチベーションになった矢先だったんで。今は、いろんな団体があってどこでも選べる時代だけど、リングスだから戻ってきたっていうのはあるんで。やっぱり、そのリングスがなくなってしまうのは凄く寂しいよね。あそこ（扉の写真参照）に俺がジムを立ち上げた時のポスターがあるんだけど、一番上に『FIGHTING NETWORK RINGS』ってタイトル入れたんだよ。

――今はもう入ってないですからね。

山喧　あれ見ると一つの歴史が終わるような気がするよね（しみじみと）。

――今回はヤマケンさん的には、Uインターとキングダムの解散の時とは立場的には、ちょっと違いますよね。

山喧　そうだね。金原さんもそうだけど、俺らには免疫があるから（笑）。まあでも、リングスがここまで持ったのは前田さんの影響力ですよ。それと前田さんとWOWOWさんがくっついたから続いたんじゃないですかね。

――それは大きいでしょうね。

山喧　UインターもWOWOWが付いてたらもうちょっと続いたんじゃないかと思うんだけど（笑）。だって、テレビが付かない状態で、当時、業界ナンバーワンの利益を上げてたからね。

――インターは武道館クラスの会場を毎回の様に満員にしてましたからね。

山喧　そうそう。ただ俺がデビューした頃にはバブルが終わってしまってたから。あの当時は、下の方から上のやってることを全部見てきたんで、これで潰れたんだろうなとか予測がつく部分はあったし、リングス行っても、そういうのを感じたんだよね。

――これはヤバイんじゃないかと？

山喧　そう。だから俺は出来る範囲で改善しようと思ったんだけど、でもそれが出来ない自分と出来ない環境があったんで、今できる人間がやるべきなんだから、俺は俺でやるべき時が来るんだろうって思って飛び出したんだけどさ。それで想像通り、いい勉強をさせてもらって、多少波はあっても、描いたビジョン通り俺なりに唱えてきた提案はできたつもりだからね。

――そういう意味では、若いのにホント波瀾万丈な人生ですよね（笑）。

山喧　でしょ（笑）。前は願望として「こういう世界にしなきゃいけない」っていうのがあったけど、今は「これはできねえな」とか「これはできるな」っていうのがフリーになったおかげでハッキリ色分けができるようになったし。リングスを抜けてフリーになったこの3年間は本当のフリーになる為の期間だったから。今回、リングスがこういうことになったっていうのもあるけど、自分の中で本当の意味で独立するのはこれからだと思ってるしね。

――ヤマケンの格闘人生はこれからが

リングス復興が山本喧一の格闘技界での新たなテーマ!

スタートだと?

山喧　そうだね。この3年間っていうのは、自分の中でいつ潰れるのか、いつドロップアウトしちゃうんだろうって気持ちが俺の中であったからさ。

――それこそヤマケン自身が活動休止してしまう可能性もあったと?

山喧　あったよ。「俺が業界をなんとかする!」って言ったところで、俺なんか誰かに協力してもらわないと何にも出来ないから。やっぱり、経験不足で何かと不自由なことはあったけど、会社にいたら勉強できないことをフリーになったおかげで学べたからね。だから今となれば、前田さんみたいに選手兼経営者っていう部分のシンドさもよく分かったし、興行に必要なイロハやお金の大事さも分かったし、人を使うことの難しさも分かったんで。そういう人生勉強だったと思ってるから。

――そういった人生勉強を積み重ねて、満を持してリングスへ戻ってきたわけですよね。

山喧　俺の中で良い節目だと思ってたんだよね。それで「よし、来年からやるぞ」ってモチベーションになってリングスに帰ってきたわけだから。勿論UFCを狙うっていうのはあったけど、日本で闘うステージを考えた時に、これはリングスに戻らなきゃいかんのじゃないかと。あの当時の自分が描いてきた終着点がリングスであるはずだったんで。この間の元気戦で、一応、その夢は達成できたけど、その後、残念ながらこういう状況になってね。

――2002年は日本ではリングスを中心にやっていこうっていう当初の予定は崩れちゃった訳ですけど、今後はどうしていこうと思ってるんですか?

山喧　基本的に前田さんが今後、格闘技界の為に何かしようというなら俺は協力は惜しまないです。今の段階では前田さんがこの先どんなことを考えているのかが見えないけど、タイミングが合って価値観も一致したら前田さんの行動に賛同するつもりはありますから。まあリングスがなくなって、自分の闘うステージがなくなったからといって、それで俺が終わるかっていうとそんなことはないし、俺にしてみると、中学卒業して正道（会館）に入ってからの下積み10年がようやく完了したって感じなんで。

――昨年は厄年っていうことでしたけど、須藤戦の敗戦で厄払いも済んだということで（笑）、ようやく完璧な状態になったんじゃないですか。

山喧　いや、俺は旧暦でものを考えるんで、旧暦だと3月1日が元旦なんで、2月いっぱいまで厄年なんだよ（笑）。

――あ、そうだったんですか（笑）。

山喧　同年代の人より濃い人生を歩んできてるんで、本厄が人より早く来たんじゃないかと（笑）。だから23〜25の厄年が俺の人生の中で恐らく一番キツイ厄年だと思うんだよ。それを乗り越えたら良くなるんじゃないかって気はするけど。なんか脱線しちゃったけど（笑）、やっぱり〝リングス〟っていうのは業界に貢献してるんで、ジムでもなんでもいいから名称は残した方がいいんじゃないかとは思うよね。

――大会名にしろなんにしろ「リングス」は残した方がいいと?

山喧　前田道場はなくなるみたいだけど、リングス道場っていうのをつくるとか、何かリングスファンの心の拠り所みたいなものを作ってやらないと。リングスってものはただの興行団体じゃなかったから。UWFから続いているちゃんとした歴史があって、その進化系がリングスなんで。俺は過去があって未来があるって考えなんで、過去を否定しては現在も未来もないって思うし。それに、そういうドラマがあるから面白くなってくる訳じゃない?だから、そういうことを大事にしないで、ただ強けりゃいいって思ってやるんならアマチュアでいいんだよね。

――確かにそうですよね。

山喧　波瀾万丈、負けが多いからこそカッコいいんじゃないかと。だから会社が潰れることも含めて、俺はプロっていうのは負けの美学だと思ってる。どれだけ負け続けて大きくなっていくかだと思うんだよ。アマチュアは勝たなきゃ始まらないんで「勝つ」ってことが美学だと思うけど、プロでやっていく人間っていうのは、どれだけ苦境を乗り越えていくかだと思うしね。

――リングス、そして前田日明もこの苦境を乗り越えてもらいたいと?

山喧　やっぱり前田さんをはじめスーパースターになった人っていうのは、波瀾万丈な状況の中で大きくなってるじゃないですか。前田さんなんか俺の年代の頃はユニバーサルで干されてたり新日解雇されたりっていう時期で、そういうのを乗り越えて今の前田日明があるんだろうし。そういう意味では、前田さんのように自分で言ったことに対して自分で、しっかりケジメがつけられればいいと思うけどね。

――前田さんには、何かあればこれからも、お手伝いをしていきたいと?

山喧　そうだね。一時は前田帝国ってものがあったけど、それが崩壊してしまったんで、俺のこれからのビジョンとしては、その帝国をもう一度復活させる仕事をするってことだね。できないかもしれない。だけど前田さんが見せてきた世界、思想は引き継いでいきたいと。やっぱりUWFが生まれなかったら俺等の存在はあり得ないわけだし、それに自分は、リングスや前田日明には人一倍思い入れがあるんで、リングス、そして前田イズムを復活させようと、たった今、決心しました（笑）。

――また、決断が早いですね（笑）。

山喧　もう一回、リングスを復活というか、復興させる為に俺は仕事をしていこうかなと。どれぐらいかかるかはわかんないけど、これから、それが俺の格闘技界での新たなテーマだと思ってます。

【02年1月8日/パワーオブドリームにて収録】

ヤマケン、リングス復帰戦を飾れず! 元気がUFC-J新王者に!!

12.21 RINGS 横浜文化体育館

○須藤元気【2R1分46秒 チョークスリーパー】山本喧一●

戦前、リングスでは珍しく激しい舌戦を展開した両者だったが闘い終わるとノーサイド。要求通り持参したUFC―Jのベルトを自ら元気の腰に巻き「ベルトの価値を高めてくれ!」と声をかけたヤマケン。新王者の元気は早速、挑戦者を募集。さらにK―1中量級へ挑戦宣言!

約3年ぶりのリングス登場となったヤマケン。75キロ契約で行われたこの試合は前日の会見で急遽タイトルが懸けられることに。元気より軽い73.4キロでリングへ上がったヤマケンはムエタイパンツで鋭く重いミドルを繰り出した

トリッキーな動きで攻め込む元気と、どっしり構えプレッシャーをかけるヤマケン。緊張感溢れる展開も最後は元気の裸絞めでフィニッシュ

"アキラのズンドコ応援団"

浅草キッドが

今、万感の思いを込めて

「おつかれさんでした！」

リングス遂に活動停止！　マット界を駆けめぐったその報はこの人たちにも衝撃を与えた。かつて『フロムA』誌上で「アキラのズンドコ応援団」という連載コラムまでもっていた浅草キッド！　10年間「前田軍」の旗を振り続けた男たちが、いま万感の思いで語る！

司会／山口日昇　構成&応援団員／堀江ガンツ　撮影／松本崇　designed by さおとめの事務所

〝解散〟は前田武将が城ひとつ失ったぐらいの感覚だなぁ（博士）

浅草キッドが 今、万感の思いを込めて「おつかれさんでした！」

山口 今回はターザンが片思いしている仲居さんがいることでお馴染みの新宿『月亭』で、浅草キッドのご両人にリングス解散についてお聞きしたいと思います。

水道橋博士（以下・博士） 実はあんまりショックがないんですけどね。「リングス解散」って言われてもね。

山口 うん、確かにそうだな（笑）。

博士 っていうか、もっとショックだろうと思ってたんだけど、それは（活動休止発表の）前日に『紙プロ』のイベントで（前田に）会ってるっていうのもあるし。

玉袋筋太郎（以下・玉袋） あれだけ下ネタを明るくしゃべった次の日だもんな。

博士 その前に「プロレス界の構造を変えるようなことを発表します」って、なんか意気軒昂に言ってたじゃないですか？

山口 「力道山時代以来の興行の大構造改革をします！」って言ってましたね（笑）。

博士 全然、大構造改革じゃない（笑）。

山口 改革どころか「解散」ですからね（笑）。

博士 だからなんかねぇ、いまマット界が群雄割拠の戦国時代で面白いじゃないですか。アントニオ猪木、ドン・キング、石井和義とか、ああいうところと世界地図を持って陣地取り合戦をやってる部分の楽しさがいま凄いあるわけじゃない？ その中で前田武将が、城ひとつなくしたなぁっていうぐらいの……なんかそんな感覚なんだけどな。だから、これがリングスを続けられなくなるっていうことで「責任を取って切腹します」っていう話だったら違うけど……。

玉袋 切腹まではねぇ。

博士 だってそういうこともあり得るような人じゃない。だから、そういうことじゃないんだからっていう意味でショックがないんだと思うんだ。

山口 城ひとつなくなったぐらいでは前田日明は終わらないと。

博士 まだその戦国絵巻の中にいるじゃん。その感覚はあるなぁ。

山口 戦国絵巻の中にいないようでいて、シッカリいますからね。

博士 「なんでいるのかなぁ」って考えたらさ、前田日明っていうのは武将としてアントニオ猪木の配下に下ってないじゃない？ たとえばオーちゃんでも、武将なのかもしれないけど、猪木傘下っていうかね。

山口 髙田延彦も『猪木祭り』に出たしね。猪木さんへの敵対心はない。

博士 そうやって多くの人はアントニオ猪木の方向性に共鳴していくなかで、前田日明だけは永遠に「猪木さんは間違ってる」っていうこと言ってね。

山口 「俺が一番従順な弟子だ」っていう意識も含めて、反骨精神を燃やしてる（笑）。

博士 こんな小さな領土を守ってる。だから、やっぱり前田って武将だなって思いますよね。武将なんだけど、前田日明に関してそういう領土を広げていくようなところに興味があったのかっていうと、前田ファンってそうでもないでしょ？

玉袋 うん、そうでもないな。

博士 武将そのものに興味があったわけじゃないですか？

玉袋 そうなんだよな、これが!!

博士 むしろ、いままであるその領土で禄を食わすために前田日明が苦労しているのを見るのは、やっぱり辛いところもあった。

玉袋 あったあった!!

博士 特にここ1～2年は辛かったじゃないですか？ だから、そういうことから解放されると、俺なんか、ショックっていうより、それぞれ「金ちゃんも『PRIDE』出れるかもしんないなぁ」とかさ。そういうこと考えると発展的な未来っていうかね。「個々の人たちにとってはいいな」と思っちゃうよね。でもその時に、〝前田日明の旗〟だけは、そういう選手たちも持ってくれよっていうね。

玉袋 そうだ、それはある!!

博士 せめて田村も、『PRIDE』に上がるときに前田の旗を持ってくれると、ファンはたまらなくいいのになぁとか思うけどね。

玉袋 でも、安易に『キャプチュード』は流してくれるな！ と（笑）。

博士 あと四文字熟語みたいのは、ちゃんと憶えておけという（笑）。

山口 「イッキシンテン」ね（笑）。だから、これからリングスは会社としても残るだろうし、ホントに興行形態も革命的に変えて生き残る可能性もまだまだあるけど、個の前田日明に戻るというのは、逆に今度は面白いですよね。例えば『PRIDE』に〝前田軍〟として、リングス・ロシア勢を引き連れて来る前田を想像すると……。

玉袋 そりゃあ凄いよ！

博士 その想像をさせてくれるのが一番楽しいんだけど、ファンの想像通りに乗っかってくれるかなっていうのがアレですよね（笑）。

山口 多分こういうのが誌面になったら意地でもやらない気はしますけどね（笑）。

玉袋 やらないな、そりゃあない。意地があるだろ。こと『PRIDE』にはさ。

博士 でも田村が出てだよ、そしたら昔言ってた全面対抗戦が出てだよ、あのパンクラスっていうのと同じ構図が出てくるわけじゃない？

山口 「誰が一番強いかハッキリさせたらえ

暮れも押し迫った昨年12月27日、突如、前田の口から発表されたリングスの活動休止。「俺はやるときは中途半端にはやらないから、スパッとやるよ」という実に前田らしい、潔い幕の引き方と言えるだろう。

ホントに俺は前田日明の〝インテリトンパチ〟ぶりが大好きだから（博士）

えんや！」の世界が、大きなスケールのなかで実現するわけだからね。

博士 それを猪木さんが発令したら出来ないんだと思うんだよね。武将同士だからさ。そうじゃなくて文官レベル？　そういう武将じゃない人たちが調整してね、「対立構図として、リングスで育った選手を〝前田軍〟という構図の中で対抗戦としてやりたいんです」っていうことを言えば。猪木さんが言わなかったら、あり得ると思うけどな。

ガンツ あとは誰が間に入るかですよね。

博士 だから何が問題かっていうと、石井館長とか猪木さんに対して尊敬がまるでないところですよね。館長に対して「あのオッサンなんか、俺のマネしてるだけや」って言ったり（笑）。

山口 ガハハハ！　「猪木さんにもらった葉巻は偽物だ」って言ったりとか（笑）。

博士 そんな身もフタもない話してたら、一緒に席にもつけないよ。

玉袋 そりゃ難しいぞ〜。だって、間にF局が入っていっても、F局のKさんが入ったら話になるわけねぇよ！

山口 ガハハ！　それはならない（笑）。

玉袋 ホント四面楚歌だよ！

博士 じゃあこれはどう？　選手側の、金原あたりが「前田軍っていうのを名乗りたいんです」って言い出す。

山口 それは持っていきやすいですよね。

博士 それで、ノゲイラを口説く。

山口 ガハハハハ！　前田軍総大将・ノゲイラ！（笑）。

博士 そうしたらトップは前田日明で行けるでしょ。でも、ノゲイラとかアッという間に猪木軍に買収されそうな気がするけど（笑）。

山口 だから、その買収される場面まで見せてくれれば面白いんですけどね。リアルファイトとWWFの合体した奇跡の空間。命がけのエンターテインメント（笑）。

玉袋 それ、素晴らしいなぁ！

博士 うん、夢が膨らむよ。

山口 でも多分、ボクらが『PRIDE』に求めてるのってそれですよね。リアルファイトを軸にした、プロレスをも軽く凌駕するエンターテインメント空間ができるかどうか。

博士 出来るはずなんだけどな。前田日明が動けば。あれだけWWFに興味はあるんだから。

山口 でも前田日明の生き方の解決にはなるんですかね？『PRIDE』に出て。

博士 でも「リングスを相撲協会のような組織にしたい」っていうようなことを言ってたじゃない。そういう理想主義者みたいなところをホントに望んでいたのかな？っていう気が凄くするなぁ。アマチュア・リングスとかを眺めながら、「う〜ん、これはなかなか面白い」と本当に思ってるかなぁっていう気は凄くするんだよね。

山口 そういう理想に燃える前田は絶対にいるんだけど、それを運営するとなると、ちょっと話は違ってくるよね（笑）。

博士 そう思うんだよね。それ以外だと、石田えりの家に遊びに行きたいとか。

山口 釣りに行きたいとか（笑）。

博士 でも前田日明のそういう部分だとか、そういう話の方が俺たちも好きだしさ。

山口 だから、インターネットが普及したのと凄い密接な気がするんですよ、昔ながらの団体運営が時代にそぐわなくなってきたっていうのは。ネットが出てきてから、しばらく前田だって見てた時期があるはずですよね。そこで「やっぱりリングスはプロレスだ」って言われたり、いろいろ素人が言うじゃないですか？　そうすると「な〜にをこいつら、偉そうに！」っていう意地の部分ばかりが大きくなっていっちゃった。

玉袋 見てたんだろうなぁ。

山口 『PRIDE』に対しても意地の部分ばかりが膨らんでしまった。意地は持っててもらいたいけど、その意地の方向性の角度を変えれば、前田日明の可能性なんていくらでもあるじゃないですか。1回目の髙田vsヒクソン戦の前ぐらいかな？「こんな気持ち悪い、ハ虫類みたいなファンの前でなんかやるのが嫌になった」って言ってた時期があるんですよ。たぶんそれ、ネットですよね、中心は。

玉袋 絶対そうだ。

山口 そういうのを引きずらなければ、もっとスパッと前田らしい敏感な方向転換って、できた気がする。逆に言えば、何を敵にしてるのか見えなくなったというか。

博士 昔、「批評を差し挟む余地がない、（立川）談志師匠と前田日明は同じだ」ってあったじゃないですか？　見巧者の人がいくら言ったって、より本人のほうが芸を分析できてるっていうのは、ホント、そうですよ。

山口 だから、見巧者の上を行くもの、見巧者をも痛快に裏切れることを前田日明だったらできるんだろうけど、現役を退いたら、何で表現したらいいのか？　談志師匠だったら高座に上がればいいんだけど、前田日明はリングに上がれない。だから、どういう形で表現したらいいんだろう？って本人も周りもわからなくなったと思うなぁ。

博士 『月刊・松山千春』があんだけ売れるんだったら、『紙プロ』別冊で『月刊・前田日明』って出せば絶対ありますよね。

山口 あ、そういう表現の仕方（笑）。

博士 昨日もまた『紙の前田日明』（『紙プロ』公式読本）とか読み直してたけど、こんな面白い本ねぇなと思ってね（笑）。例えば（イエロー・キャブの）野田社長との対談でも、やっぱり面白いわけじゃん。だから毎月、前田さんのところに行って「すいません、1・4の新日を今日は一緒に見ていただいて……」って言って、1時間半見ていただいて、「さぁ感想どうぞ！」って言って、それを全部口述筆記！　でいいわけじゃない。それを毎月、読みたいね。

一同 ガハハハハ！

博士 「今日はモーニング娘。のコンサートを見ていただいて」って言ってさ。「あのちっちゃい子、誰や？」とか。俺、何でも聞きたいよ！ 本当に俺は前田の〝インテリ・トンパチ〟っていう部分が大好きだから。

山口 ガハハハ！ インテリ・トンパチ！

（笑）。新しいジャンルですね、それは。

玉袋 インテリ・トンパチっていいねぇ。

博士 うん。面白い部分だと思うんだけどな俺は。頭いい人が言動がおかしいわけじゃん。

玉袋 始末悪いよな（笑）。しかも強いんだもん。

94・7・14大阪府立 ある意味、リングスにおいて最も前田の魅力が爆発したと言えるのが、このディック・フライとのケンカマッチ。サミングをしながら、あっさりタップするフライに前田が激高！ 試合後にストンピング（！）で踏みつけるなど大荒れとなった。

浅草キッドが 今、万感の思いを込めて「おつかれさんでした！」

ガンツ ジャイアンと出来杉君が合体したようなもんですからね（笑）。

玉袋 そうだよね！ ジャイアンだもん。俺も正月にみんな集まってさ、裏ビデオ大会とか言って、みんなでビデオ持ち寄って見てたんだけど。やっぱ数ある裏ビデオの中でもトップは前田が坂田亘をブン殴ってるヤツ（笑）。

山口 ガハハハハ！ ちょっと前に芸能誌で話題になったやつ。

玉袋 アレ、一等賞だもんね！

山口 あれは何回見ても凄いもんなぁ。

玉袋 何度でも見たい！ あんなの正月の新年会で見ちゃったからさ、「おい！ 絶対初夢に出るぞ！」みたいな、そういう擦り込み方されるよ。だから人の心にガーッと擦り込まれるような前田日明っていうのは、やっぱりこれからも見たいなぁ、俺は！ まぁ、それをあまり言っちゃうと、周りがうるさいんだけどさ（笑）。

山口 でも俺たちは暴力そのものを喜んでるわけじゃないからね。暴力が発生するまでの過程とか思いとか心の根っこにあるものを俺らは楽しんでるわけだから（笑）。

博士 あれだけのエネルギーが発散する理由っていうのに興味があるし、しかも「思慮深い人が」っていうのはあるよね、前田にはね。

山口 ホント思慮深いもんね。みんな信用しないかもしれないけど（笑）。

博士 いやいや、『紙プロ』の一連のインタビュー読めばわかるよ。そりゃあ、『フライデー』とか『アサヒ芸能』だけを読んでたら「前田ってどんな野蛮人なんだ」って思うけどね。だから『紙プロ』が伝えることって絶対そこだよね。いい部分が全部出てるわけじゃない。……編集長にしたら、もう？

山口 パン！（手を叩く）。それはいい！（笑）。

玉袋 いや～、でも周り全部取材拒否だろ（笑）。

一同 ガハハハハ！

博士 『格闘伝説』で中20ページぐらい、ターザンが編集長のページやってるじゃない。だから『紙プロ』も前田日明にやらせりゃいいんだよ。

山口 それは面白い！ まるごと一冊、前田日明・責任編集でいい（笑）。

博士 絶対読むよ、俺！

山口 内容は何でもいいもんね。前田日明の葉巻教室でもいいし（笑）。

博士 小池栄子と対談でもいいわけですよ。

玉袋 ヨシッ!! 預けちゃうか！ 前田に。

山口 でも、『紙プロ』の編集長に収まるような、チンケな器じゃないもんな、前田日明は。現実的にはやっぱり『PRIDE』に上がる〝前田軍〟っていうのは見たいですよね。

玉袋 う～ん、見たい！

山口 それを足掛かりにしてもっと面白いことをやってほしいっていう。ホントに総合格闘技っていう場が、いままで俺らがイメージしてた〝プロレス〟っていうものになり得るチャンスなんだよね、いま。純プロレスに多くを期待するより、総合格闘技をいい意味でプロレス化していくほうが全然早いっていう気はするね。俺、これを5～6年前から言ってるけど、いまはチャンス（笑）。

玉袋 そうなんだよな。プロレスはヤバイぞ～、ありゃあ！ プロレスはヤバイ。もうね俺、1・4で感じたのはね、もう新日の客筋もなんかダメでさぁ。何だろう？ 上野とか御徒町に買い物に行く人と同じなんだよね。

山口 は？ どういうこと？（笑）。

玉袋 いや、なんか雰囲気が。『PRIDE』なんかは渋谷とかさぁ、裏原宿とか行きそうな客層が多いのよ。それが新日の客層見てたら、ホント上野にさぁ、正月の新巻鮭買いに行ってるような雰囲気なんだよ！

一同 ガハハハハ！

山口 だから前田日明には、リングスの社長やめて新日本の社長をやってもらいたいよね。ドラゴンよりはいいよ。選手はみんなやめるだろうけど（笑）。

リングスを世間に届かせる長～い闘いが終ったなあ（玉袋）

玉袋 今後はね（笑）。でも、前田さんが今後何をやろうとしてるか、俺ホント不思議なんだよな。

博士 俺もわかんないなぁ。

玉袋 何するんだろう? でも何をするでもね、ホント「前田が決めたことだったらいいよ」って前田ファンは思ってると思うけどね。談志師匠がよく好きなジョークでさ、外国人がいて、全然日本語わかんないのに笑ってるって言って、「なんで笑ってるんだ?」って聞くと、「芸人を信用してるから。貴方を信用してるから」って言うんだけど、ホント前田に対しては俺は完璧にもう、それなんだよ。前田を信用してるからっていうだけなんだよね。なにやっても面白いし、言葉が通じてなくたって笑ってるんだよ。だからそれは悲惨な結末に行こうとしてるものだって面白いし、むしろ今回のことでいうと、この1年間ぐらいの「もうやめてよ……」っていうところの……。

玉袋 見てるほうも「苦しいよー」っていうね（笑）。

博士 だからある意味、肩の荷が降りて、これから楽しみだよね。

玉袋 これで金原とか髙阪が1回でも『PRIDE』のリングに上がって輝いたら嬉しいねぇ！ もう大変だろうけどさぁ、体もダメージ残っちゃってて。だけど、それを見届けられたら嬉しいよ、俺は！

博士 TKはUFCって言ってなかった?

玉袋 あ、UFC! でも、それでもいいや。とにかく輝いてほしいよ。

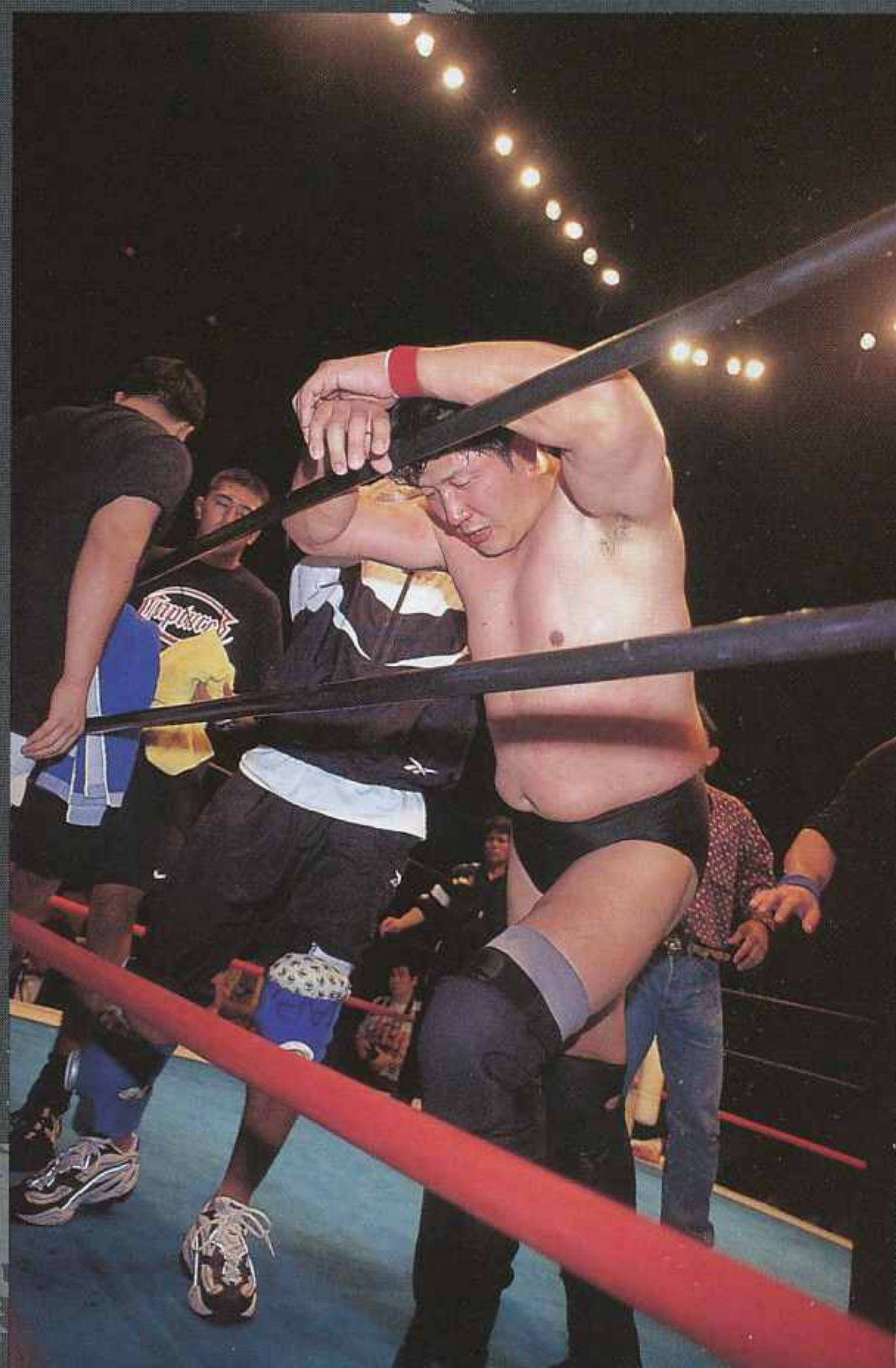
ガンツ リングス・ロシア勢も『PRIDE』に出てほしいですけどね。

玉袋 だよな!

ガンツ セコンドでもいいから、ヴォルク・ハンが『PRIDE』に現れるところ見たいですよ。

玉袋 見たい見たい。もうリングス・オランダはいいから。あんなのは見なくてもいいから、ディック・フライだとか、ああいうのは。

ガンツ ヒョードルなんか出たら、たぶんノゲイラよりも衝撃的なんじゃないかと。

玉袋 ノゲイラであれだけスターになったんだからね、なんだかんだ言って。小池栄子が「ノゲイラに極められたい」って言う時代だからね。ハンだとかロシアのああいう人たちが出てきたらさ、最高だろ。おんもしれェど～、これからも。夢のカード続出だ! これが締めだよ、締め。

山口 「これから『PRIDE』が面白くなるかも」っていう締めでいいのか（笑）。

玉袋 『PRIDE』は面白くなるど～!（笑）。だけど、もちろん前田様がいたおかげでこういう状況になってることを忘れちゃいけねぇや。

ガンツ 現行のリングスとしては2・15横浜文体が最終興行になりますけど、ここでは何を見たらいいんですかね?

博士 また淡々としてるんだって。

山口 たぶんね（笑）。

玉袋 淡々としてるんだよね。こっちが乗っかって乗っかって、「さぁ後は泣かせてくれ～!」って言っても、「おい! これで終わりかい!」みたいなね。

ガンツ 引退試合であんだけ泣かせない人も前田日明くらいですからね（笑）。

玉袋 泣かさなかったなぁ（笑）。

博士 アリーナの引退試合なんかひどかったじゃない。

山口 ガハハハ! ヤマヨシ（現・ヤマノリ）とやった「リングス引退試合」ね（笑）。

UWFが解散し、ひとりぼっちになった前田に、クリス・ドールマン率いるのちの『リングス・オランダ』勢が協力したのが、リングスそもそもの始まり。今回も前田は一人ぼっちになるわけだが、この時ほどの悲壮感は感じられず、むしろ前向きな気すらする。

98・7・20横浜アリーナ　愛弟子・山本宜久（現・憲尚）相手に「リングス・ラストマッチ」を行った前田は、「引退試合にそこまでしなくても」と言いたくなるほどボロボロな姿に。引退式のズッコケぶりといい、格好悪いことが格好いい、前田らしい引退試合だった。

ガンツ 猪木さんとかニールセンとか髙田とかゲストに呼んで、スタンド席に座らせてるんですからね（笑）。

山口 呼べよ、リングに！（笑）。

玉袋 ぶきっちょなんだよなぁ、そこら辺が。

山口 猪木さんだのを2階席の一番前のほうに座らせて、「ボクのほうが目下で、見上げる感じで」っていう礼儀はわかるんだけどさ（笑）。

ガンツ ボクは当時、一ファンとして見てたんですけど、せっかく特リン3万円のチケット買ったのに、猪木さんの姿は遙かかなたのスタンド席ですからね（笑）。

一同 ガハハハハ！

ガンツ 3万円払った意味がないじゃないかって（笑）。

山口 ホント、興行をやるっていうことに関しては、一番向いてないよね（笑）。

博士 向いてないねぇ。

玉袋 もったいないこといっぱいあったよね。ダメだったなぁ（笑）。

山口 だから前田日明の生き方や思考そのものを伝えていくほうが面白いわけだよね。やっぱり表舞台に出てくるべき人なんだよな。裏に回って興行をプロモートしてるだけじゃ、コボれちゃうよ、いろんなものが。そんな狭い器じゃないから。

玉袋 そうだよなぁ。

博士 言えてる。

玉袋 だからたぶん、最後の興行もズッコケて終わるんじゃねぇかな（笑）。

ガンツ ある意味、前田日明らしい、リングスらしい最後の興行が観れるかもしれないですね（笑）。

玉袋 いやぁ、でもねぇ、なが～い闘いだったね、リングスを見続けて来てる我々としては。

山口 ダハハハハ。そうだよねぇ。

前田の好きな歌にこんな一節がある。「金のない奴ぁ俺んとこへ来いッ！　俺もないけど心配するな、見ろよ～青い空～、し～ろい～雲～、そのうちなんとか、な～るだ～ろ～～」そう、前田に関しては心配無用！　これまで通り凝視し、ついていけばいいのである。

浅草キッドが

今、万感の思いを込めて

「おつかれさんでした！」

玉袋 横浜アリーナまで旗揚げ戦を観に行ってな。それから10年ですよ、もうね。な～がい闘いだった！　ホ～ントに！

山口 ある意味、ホッとしてる（笑）。

玉袋 そう、ある意味ホッとしてる！　ホント、対世間以上の闘いだった！

山口 リングスをプロレスファンに届かせる作業っていうのは、対世間より大変だったもんね（笑）。

玉袋 俺たちは雑誌の連載（『フロムA』）までしたぐらいだからな！

山口 そうか、2人の思いは計り知れないものがあるんだろうなぁ（笑）。

玉袋 ホ～ントある。そのことにリングス側の誰も気づいてくれてなかったところが

ガンツ くやしいんですか？

玉袋 いや、好きなんだよなぁ。

一同 ガハハハハ！

玉袋 長かったなぁ……。

博士 でも、あのあたりが面白かったと思わない？「前田を殺す」ってパンクラスの高橋が言ったり、「パンクラスはハッキリ言って邪魔なんです」とかさ、あんなこと言いだした時の、「どうなるんだよ、これ!?」っていうあたりは最高じゃない？

玉袋 あ～れは最高だった！

博士 「女子便所説教事件」とかさぁ。

玉袋 安生に後ろからブン殴られてブッ倒れたときだって、おっどろいたぞ、俺！「あんなことあっていいのか!?」ってな！

山口 リングスを業界や世間に響かせる作業は難しかったけども、前田日明を届かせる作業っていうのは、全然ラクだもんね（笑）。選手個人個人のことを届かせるのもリングスを届かせるよりかは全然ラク。そういう意味ではオレも肩の荷降りたなぁ、ホントに（笑）。

玉袋 降りたかもしんない。ホント、肩の荷降りたなぁ～（しみじみと）。

山口 一緒になってリングスを背負ってる気になってたからね（笑）。

玉袋 ……疲れたよ、オレも。

山口 「疲れたよ、オレも」。いいなぁ（笑）。

玉袋 疲れたでしょ、みんな？　だからもうホント、リングスの選手、社員、そしてファンみんなに「ご苦労さんでした！」って言いたいよ！

ガンツ じゃあ、2月15日はしんみりせず、打ち上げみたいに盛り上がった方がいいですね（笑）。

玉袋 ホント、皆さん、そして前田さんご苦労さんでした！

【02年1月14日／新宿「月亭」にて収録】

あさくさ・きっど■水道橋博士（右）と玉袋筋太郎（左）の超実力派毒舌漫才コンビ。かつて『フロムA』で「前田vsカレリン戦への道・アキラのズンドコ応援団」という連載コラムを持っていた程の前田ファン。プロレスへの見識はピーターがTV解説者に推薦するほど。
http://www.asakusakid.com

「SRS・DX」編集長　サダハルンバ谷川の
立ち技＝プロレス講座

ギョ!?『紙プロ』に立ち技のページ！

純プロレスじゃ見れない“プロレス”がここにある

レス”を見れるか？

©K—1

『紙プロ』読者の皆さん、K—1好きですか、嫌いですかーッ？

　たしかに「猪木軍vsK—1」が行われるまでプロレスファンにとって、K—1はまったく関係ない世界のものでした。私自身も「SRS—DX」の編集をやっていて思うのは、『PRIDE』のように総合が好きなファンにはK—1はまったく届かないものでした。K—1ファンはプロレスや総合に対してまるで無関心。両者を結びつける作業は、もうお手上げ状態だったのです。

　ところが！「猪木軍vsK—1」をやったことで、K—1はプロレス（総合）ファンにとって、かつてのグレイシーのような存在となり、完全に視界に入っているのではないでしょうか。ミルコなんて、ホント今やプロレス界最大の敵になってるんでしょ？

　でも、私がここで言いたいのは、プロレスファンにとっても視界に入ったK—1ではなく〝キミはK—1そのものにプロレスが見れるか？〟ってことなんです。

　たとえば、1・27K—1ジャパン静岡大会。そこには〝プロレス・ハンター〟のミルコ・クロコップ以外に安田忠夫に勝ったレネ・ローゼ、バトで石川雄規に異種格闘技で勝ったモハメド・アリ、そしてK—1王者のマーク・ハントも出ているじゃないですか。これはヘタなプロレス団体よりも、よっぽどプロレスファンに響く興行だと言えます。

　しかも。その試合内容が凄い！ミルコが〝プロレスラー〟を名乗る柳澤龍志を木っ端微塵に破壊しちゃうし、ハントはガチンコの世界では珍しい〝ゆるみ〟を持った男で、なんと「一度も倒れたことがない」ことが自慢だったはずなのに、よりによってあの中迫剛のハイキックを喰らってダウンを喫してしまう始末。それでも、そこにはK—1王者の意地で中迫に反撃。その壮絶な殴り合いは、とても橋本真也vs佐々木健介の殴り合いとは比べものにならないほどのド迫力で、中迫に劇的な逆転KO勝ちしてしまう展開。さすがにK—1新破壊王は一味違うでしょ？

　ただし、レネ・ローゼが天田ヒロミに1RKO負けしたのは、大誤算でした。これはオランダの喧嘩番長vs群馬のヤンキーの対決というプチ・アングルだったんですが、バンナに勝った安田を壮絶KOしたレネ・ローゼに、天田があんなに簡単に倒してしまったら、いったい誰が強いのかがわからなくなってしまう。そこがガチンコの実力測定の難しさなのではありますが……。

　それにしても、K—1にはプロレスファンがちょっと注意していれば〝これはプロレスだ〟と感じる部分がたくさんあります。

　ミルコは昭和のプロレスラーを思い起こさせるムードが漂ってるし、バンナの発言なんてプロレス

1.27 K-1静岡大会

【大将戦】	●中迫剛 (2R2分55秒　KO) ○マーク・ハント
【副将戦】	○天田ヒロミ (1R1分25秒　KO) ●レネ・ローゼ
【中堅戦】	○藤本 祐介 (判定3―0) ●セドリック・コンガイカ
【次鋒戦】	○グレート 草津 (2R1分35秒　KO) ●モハメド・アリ
【先鋒戦】	●柳澤 龍志 (1R2分44秒　KO) ○ミルコ・クロコップ

見えない左ハイがまたもや炸裂！
ミルコ、柳澤を流血葬！

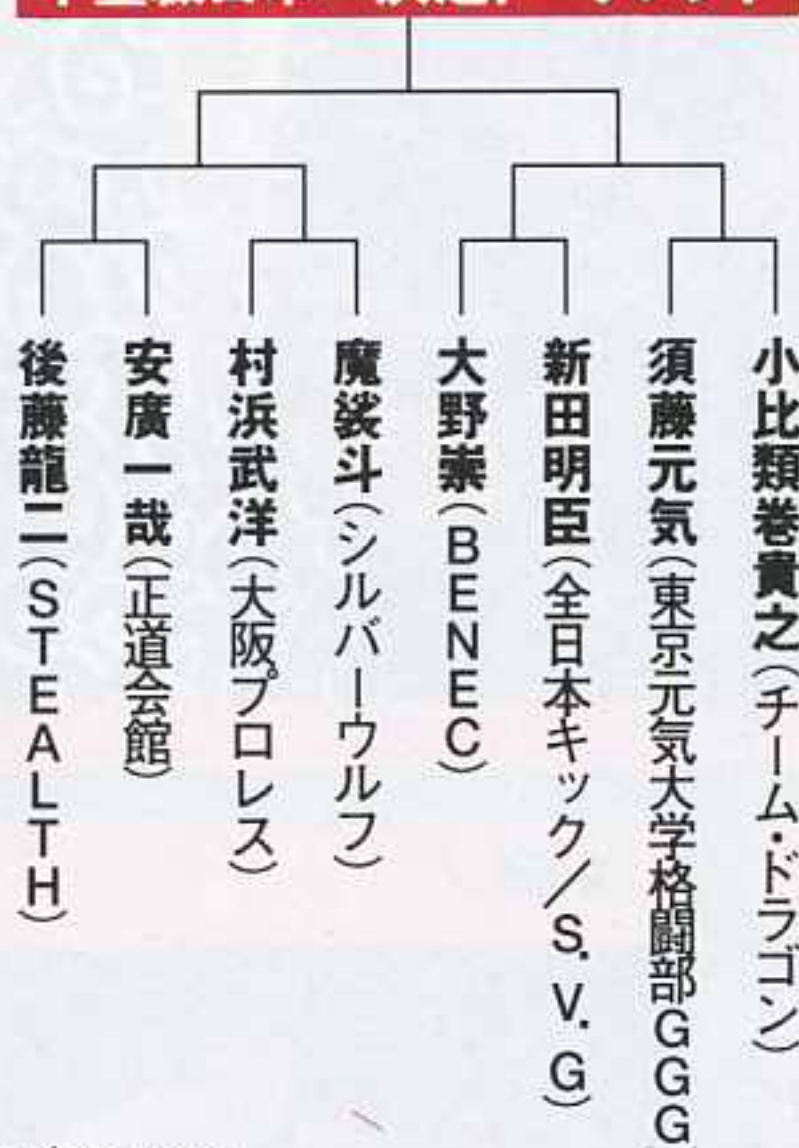
見えない左ハイ炸裂！　ミルコが柳澤を流血TKOで追い込み、プロレスラー・ハンターぶりをまたもや見せつけた。プロレスラーなら誰とでも闘うと挑発を続けるミルコ。止めるのは一体誰だ！　一方、K―1世界王者マーク・ハントは練習不足が響いたか、中迫に大苦戦！　右ハイを浴びて生涯初（たぶん）のダウンを喫した。その後も猛攻を浴び、足元すらおぼつかなかったハントだが、最終的には持ち前の怪人ぶりを発揮し、中迫をマットに沈めた。そのほかの試合では、モハメド・アリ、レネ・ローゼといったプロレスファンにも馴染みのあるファイターが登場したが、ジャパン戦士の前に敗れ去った。

ギョ！　村浜、須藤も参戦
2.11　K―1　J・MAX

小比類巻貴之 vs 須藤元気

魔裟斗 vs 村浜武洋

中量級日本一決定トーナメント

- 小比類巻貴之（チーム・ドラゴン）
- 須藤元気（東京元気大学格闘部GGG）
- 新田明臣（全日本キック／S.V.G）
- 大野崇（BENEC）
- 魔裟斗（シルバーウルフ）
- 村浜武洋（大阪プロレス）
- 安廣一哉（正道会館）
- 後藤龍二（STEALTH）

【日時】2月11日(月・祝)　16：00
【場所】東京・国立代々木第2体育館
【会場アクセス】JR原宿駅・千代田線明治神宮前駅
【チケット】SRS席￥20,000／スタンドS席￥10,000スタンドA席￥5,000
【お問い合わせ】K―1事務局　TEL.03―3796―2977

キミは立ち技に"プロ

ラーより気が利いているでしょ？　だいたい、今のプロレスラーにバンナやアビディくらいの〝負けっぷり〟を見せられる選手が何人いるのでしょう。あるいは、ハントvsセフォーの顔面パンチを受け合うという壮絶な受けの美学。また、今回のK―1ジャパンの中迫vsハントに限らず、倒れながらも何度も立ち上がる精神の闘いもいっぱい見れます。あ、そうそう、そう言えばバンナvs極真のニコラス・ペタスでは、試合後ノーアングルの乱闘まで起こりそうになりました。

もう、K―1にはこれほどまでに〝プロレス〟がいっぱい詰まっているんです。ていうか、プロレスよりも、〝いいプロレス〟が見られる瞬間がたくさんあるのがK―1なんです。

プロレスファンの多くは、どこか立ち技に対する生理的嫌悪感がたしかにあります。でもね、これまでのプロレスのインパクトのある必殺技が立ち技だったように、立って打撃をぶち込む行為は、本当にスカッとするし面白いもんなんですよ。山口日昇編集長のように、難しく考えなくて済むし。

まあ、あまりにも簡潔で何も考えないような試合ばかりじゃ困るけど、なんと言ってもK―1をやっているのは、ヒンシュクは金を出してでも買おうとする石井館長。石井館長と藤波社長や三沢社長と比べてもらえばわかりますが、石井館長のほうがよほどプロレス的エゲツない仕掛けをするんです。K―1がただのスポーツになるわけがないじゃないですか。

その意味で、今までプロレスファンには遠かったK―1ですが、世間のほうがK―1に〝プロレス〟を見ている人は多いと私はハッキリ断言。特にバンナやミルコやハントなんて、〝プロレスラー〟じゃないですか。

先日、とある所でヤ〇ザの親分さんに声をかけられる機会がありました。そこで、こんなことがあったのです。その親分さん、若い衆を紹介するのに「こいつは〇〇組のバトル・サイボーグと呼ばれている男です」と言うんです。私は驚きました。いくら格闘技の人気が上がってきたとはいえ、そこまで届いているなんて、これはもうプロレスはヤバイでしょう。あ、でも、もちろんその人達も世間と言える人じゃないんですけどね。

というわけで、あなたはK―1に〝プロレス〟を見ることができますか？　そこが今回、私がプロレスファンの方々に、あえて問いたかったことです。

レッツ・ゴー！
世露死苦！
（谷川貞治）

紙の新聞

●マット界の1ヶ月丸わかり●

編集長／堀江ガンツ
助手／ジャイ夫

2001 12/15 → 2002 1/27

「新日本分裂」という激震のあおりを受けて「藤波社長引責辞任か!?」という、聞き捨てならない噂がまことしやかに流れている。社長就任以来、ドラゴン・ストップやパーマ頭そして、毎度の迷走ぶりと、日本マット史上類をみない見事な社長キャラを築き上げてきたドラゴン。もはや新日マットへの興味をドラゴンのトンデモ発言のみで繋いでいる我々にとっては、なくてはならない存在であり、もしホントに辞任（解任）するとなれば、このコーナーの存続すら危うい状況になる。だから、いまこそドラゴンにはいつものこの台詞を言って欲しい。「こんな状況だからこそ、辞めてられない!」

12/18

【プロレスリング・ノア】
NOAH事務所横スペース

ドラゴンと秋山の因縁再燃!

秋山激怒!「秋山vs永田」新日マット（1・4ドーム）でのGHC戦という歴史的一戦が発表されるまさにその時だった。記者陣より、この日、新日本藤波社長から、同大会で「IWGP王座決定トーナメント」開催の発表があったことを聞いた秋山は表情を一変。前日には行わないと言っていたにも関わらず、永田を差し置いて決定戦を発表したドラゴンに対し「言うことがいつもコロコロ変わる」と吐き捨て、「もう帰るぞ」と出場辞退を宣言。またしてもドラゴンのコンニャク裁定が凶と出た新日本は、すぐさまIWGP王座決定戦を撤回。毎度毎度のドタバタぶりをみせた。それにしても、笑顔で発表したカードが数時間でポシャったドラゴンの立場は……。

【新日本プロレス】

仰天! インターネットでドラゴンが君に語りかける!

夢のインターネット放送局「新日本チャンネル　NJTV」が遂に開局! 12月27日から始まったこの放送局は、新日本プロレスの試合結果、最新ニュースはもちろん、なんと試合のライブ中継も実現! さらに毎週1回、我らがドラゴン、藤波社長がファンに熱いメッセージを送る「藤波宣言」(!)までもがある。「紙プロ」読者ならいますぐ登録せずにはいられないスーパーラインナップとなっている。視聴には月1000円が必要だが、毎週ドラゴンが自分のパソコンから語りかけてくれることを思えば安いものだ。さぁ、いますぐアクセス!
http://www.so-net.ne.jp/njpw/njtv/

12/18

【新日本プロレス】

なぬっ、新日マットにキン肉マン再び!?

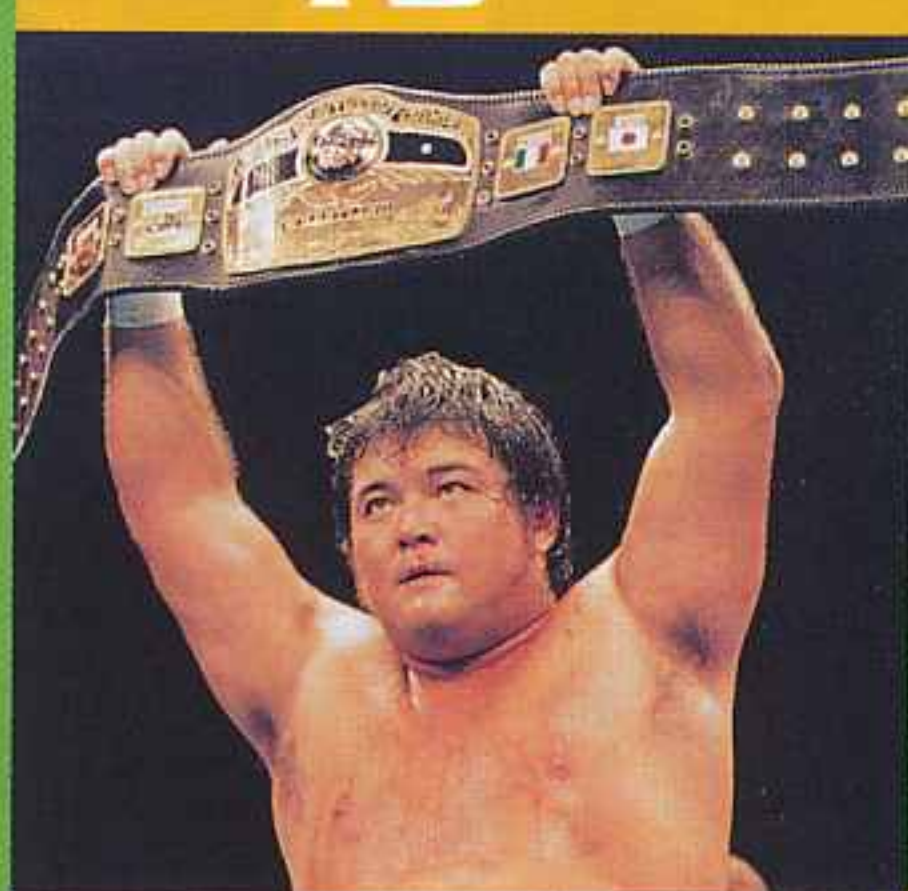
1月9日からテレビ東京系全国ネットで毎週水曜午後6時から絶賛放送中の「キン肉マンII世」。キン肉マンと言えばマット界でも美濃輪育久や滑川康仁など熱烈なファンを持つプロレス漫画である。この日、行われた完成披露試写会にはゲストとして蝶野正洋が来場、原作のゆでたまご氏とトークショーを行った。蝶野は新人時代、ラーメンマンに似ていると言われたエピソードを披露、さらに「アニメの中に登場するレスラーと新日本の闘いがリンクすれば面白いよね」と自身のアイデアを明かした。再び平田選手会長の出番となるのか?

12/15

【全日本女子プロレス】
川崎市体育館

脇澤美穂引退 ワッキースマイルは永遠だ!

底抜けに明るい性格でファンに愛されてきた「わっきー」こと脇澤美穂が、この日、引退試合を行った。脇澤はプロレス以外にも、あのつんく♂プロデュースによるユニット「キッスの世界」で、超独特なダミ声……もといハスキーボイスを炸裂させファンを魅了してきた。この前日には、憧れの人・健介夫人こと北斗晶（輸入家具の女王）との夢の対戦を実現し、引退試合ではタッグパートナーであった納見佳容と対決。試合後のセレモニーでは、声を出して号泣しっぱなしだった脇澤だが、最後はファンが投げ込んだ大量の黄色い紙テープに囲まれて、いつものワッキースマイルでファンにお別れをした。

12/15

【ZERO−ONE】
米ペンシルベニア州ピッツバーグスポーツ・アトリアーム

破壊王、日本人4人目のNWA王者に!

破壊王が敵地アメリカに乗り込み、日本人として4人目となるNWA世界ヘビー級王座奪取の快挙を成し遂げた! 今日こそ悲願達成だ! そんな思いを秘めた破壊王は板橋産文ホールに劣るとも勝らぬ大観衆が見守る中、S・コリノ、G・スティールという二人の偉大なる(?)元王者と、NWA伝統……とは全く関係ない3WAYマッチで激突。前回、TKO勝ちを収めながら、「ルールにより王座移動ナシ」という、昔なつかしい罠にはまった怒りを晴らすべく、序盤からキック、チョップで攻め立て、最後は垂直落下式DDTで完璧な3カウント! 夢にまで見たNWAのベルトを奪い取った……が、スーパーヘビー級の腹回り災いし、ベルトが腰に巻けなかったことは内緒である。

1/7

【ZERO−ONE】

破壊王、極真と全面抗争に突入?

「全面戦争だ!(ドラゴン調)」。高校時代、柔道着の胸の部分になぜか「極真會」と書いてしまうくらいの極真ファンとして知られる破壊王が、突如、極真空手との全面抗争に突入した。この日のメインでN・ジョーンズを破りNWA世界ヘビー2度目の防衛に成功した破壊王が花道を引き下がるとき、観戦していた極真空手城西吉祥寺支部長・小笠原和彦氏が「お前の蹴りはハエがとまる」と因縁をつけ乱闘に発展。破壊王も「ナメやがって、いつでもやってやる!」と異種格闘技戦に発展するかのように思えたが、一夜明けると一気にトーンダウン。さらに9日に極真會から「組織には一切関係ない」というFAXが出され、あっというまに沈静化した。

12/31

【猪木ボンバイエ】
さいたまスーパーアリーナ

大仁田、毎年恒例門前払い

アフガン・プロレス推進委員長、参議院議員の大仁田厚氏(44)がいつもの革ジャン姿で毎年恒例の「猪木ボンバイエ」襲来パフォーマンスを行った。「狙うは長州の首ひとつ!」時代から、中西の……もとい、馬○のひとつ覚えのように繰り返す、押し売り対戦要求であるが、やっぱり今年も門前払い。今年は「ボンバイエ」成功に命を懸けるアントンが宣伝効果も兼ねて、「大仁田も来ればいい」という発言を事前にしていたにもかかわらず、裏切られた形となった大仁田は「猪木さんがウソつきだってことがよくわかったよ」と自分のことは棚に上げて激怒。っていうか、いまごろ気づいたの?

12/25

【CPE】
新宿ロフトプラスワン

女子プロレスラーがキャットファイト団体を旗揚げ!

女子プロレスラーAKy(ミス・モンゴル)が完全プロデュースするキャットファイト団体CPEがクリスマスで賑わう(って関係ないか)新宿歌舞伎町のロフトプラスワンでプレ旗揚げ戦を敢行。試合にはSM嬢から、AV男優、大ヒットエロビデオ「女格闘家対レイプ魔」でブレイクした柔道家・松井恵梨改め鮎川忍、さらにはつぼ原人まで登場。もちろんAKy(この日はLa.malcriada)も出場し追い剥ぎマッチで対戦相手の風香のFカップを露わにさせ場内は興奮の坩堝に。しかし、キャットファイト経験者&評論家として一言いわせてもらう。エロは可愛い娘しかダメ! そんでもって俺の挑戦を受けろ!(チョロ)

12/19

【新日本プロレス】

武藤、やんわりとドラゴンに退陣要求

ドラゴンのコンニャクぶりで、宙に浮きかけた秋山vs永田も無事正式決定に至り、この日、なんとか全カードが正式発表された1・4東京ドーム大会。まずはめでたしめでたしと言いたいところだったが、また火種が生まれてしまった。その火種とは、"6冠王"武藤敬司である。当初は永田戦が浮上したり、IWGP王座決定トーナメント出場が噂されたりしたが、結局はドラゴンとのタッグマッチに落ち着いた武藤は「藤波さん。さすがのオレも、そうコロコロ話がかわったんじゃ身がもたねえよ」とコンニャクぶりを糾弾。そして「来年以降、防衛戦などのいろいろなことを任せることが不安だよ」と、ドラゴンへの信頼感がゼロであることを吐露。武藤の新日離脱はもしや、ドラゴンが原因なのでは……

1/8

【闘龍門JAPAN】
後楽園ホール

M2K新スローガンは「完全決着推進委員会」

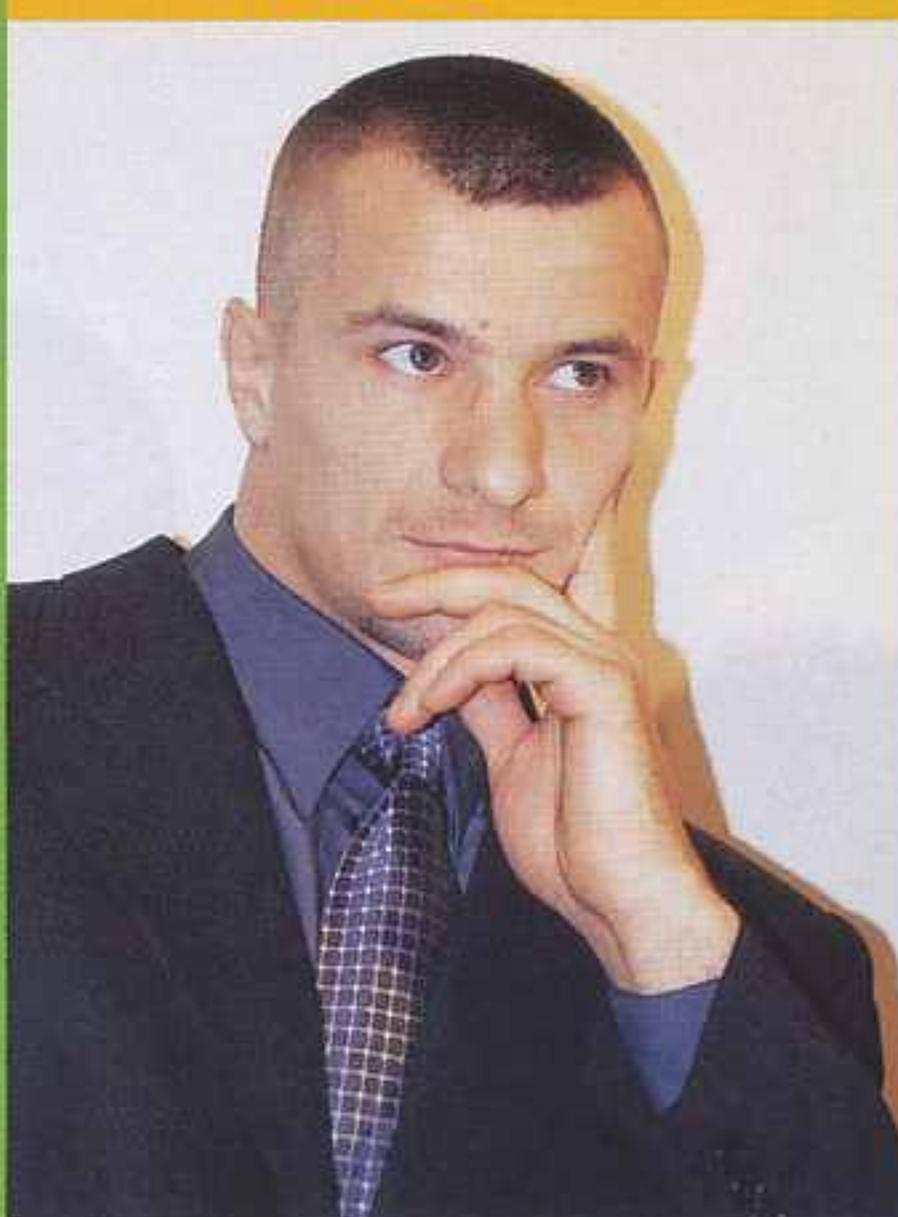
"最強ヒール"望月成晃が、まさかの「正統派転向宣言」! 12・11駒沢の"髪切りマッチ"でCIMAに敗れたモッチーは、この日のオープニングでスーツ姿に黒ブチメガネ、そして丸坊主という、これまでのスカジャン、グラサン、金髪というスタイルとは正反対の出立ちでファン爆笑のなか登場。そこで昨年まで推し進めていた「両者リングアウト推進委員会」に代わり、新スローガン「完全決着推進委員会」の発足を発表。動揺するM2Kメンバーをシリ目に「CIMA戦で両リンに限界を感じた。これからは完全決着の熱い闘いを目指します!」と、高らかに宣言した。モッチーのあっと驚く正統派転向。今年も闘龍門は展開が読めない!

1/4

【新日本プロレス】
東京ドーム

新日ドーム史上最低動員記録達成! 5万1500人

プロレスファンの"初詣"としてすっかり定着した、新日本プロレスの1・4東京ドーム興行。毎年懲りもせず6万の大観衆が集まっている同大会であるが、今年の観客数は23回目となる新日本の東京ドーム興行で史上最低となる5万1500人に終わった。ドームの観客数と言えば、10・8大会を6万1500人と発表したところ、アントン総帥に「酷い水増し」とバラされた笑撃事件があったが、どうやらそんなこともあり「今年からは実数に近い数を発表(関係者・談)」することになったという。となると昨年10月に「ドームに6万人が集まった、これは事実なんです!」とパーマ頭を逆立てながらアントンに反論していたドラゴンの立場は……。

12/28

【猪木ボンバイエ】

ミルコ、口でも圧勝!

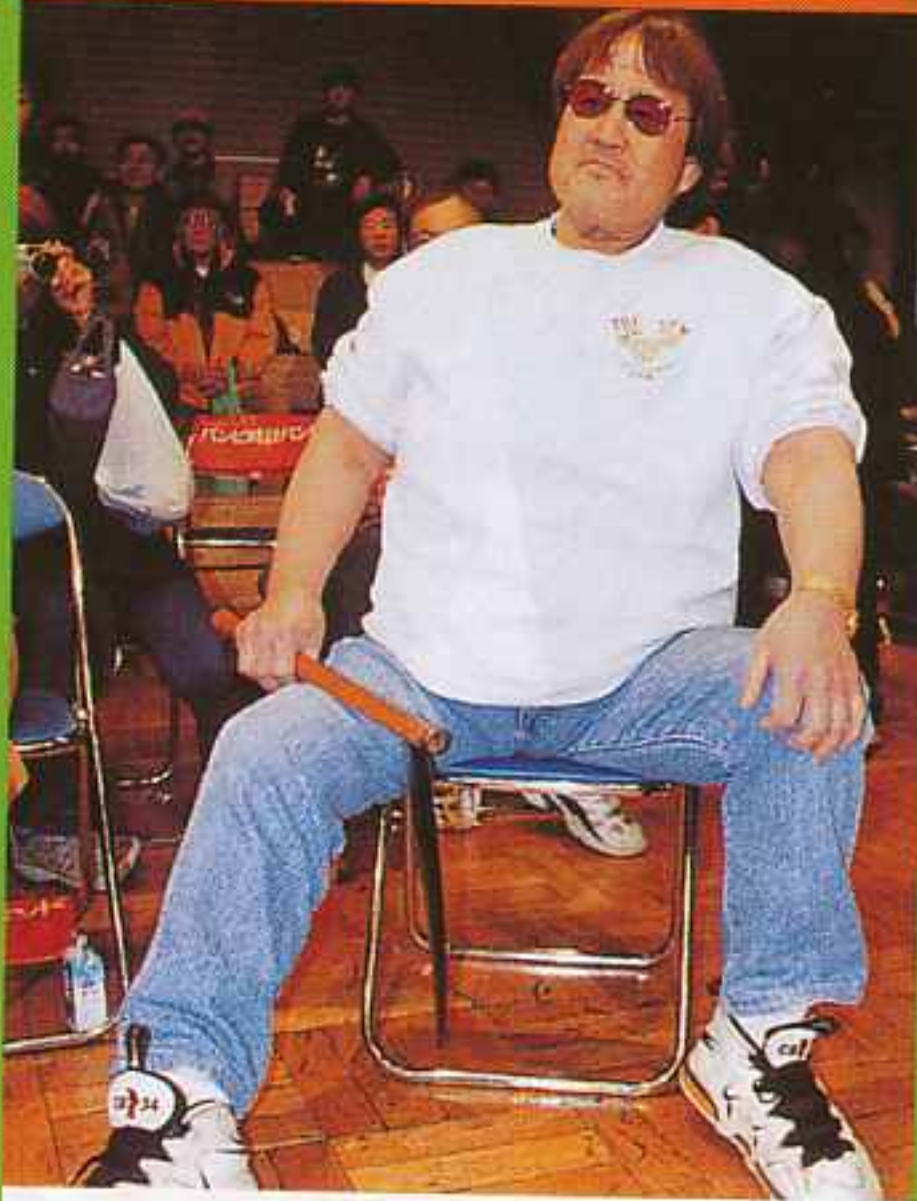
12・31「猪木ボンバイエ」で新日本のエース永田をわずか21秒、左ハイキック一発でKOしたK−1最強軍のエース、ミルコ・クロコップ。試合後には「ナガタは、今日の試合ビデオを100回見て、ハイキックとはなんたるかを学んで欲しい」とプロレスラー顔負けのコメントも残しているが、実は試合の3日前にはもっとえげつない発言を残していた。大会直前の個別記者会見に現れ、対戦相手である永田の印象を聞かれたミルコは「プロレスラーというフェイクファイターだというイメージしかない」とピシャリ。試合でも口でも圧勝であったのだ。

12/25

【猪木ボンバイエ】
新宿中央公園

アントン絶叫!「銭ゲバ、死ね〜〜!」

「打倒・紅白」の為に、全国行脚中のアントン総帥が、福岡、大阪に続き新宿中央公園で決起集会を敢行。なんと、集まった200人のホームレス(本物)に焼肉を配給するという驚愕のパフォーマンスを行った。おなじみになったホームレス姿に加え、「INOKI X」というペイントを顔に施して登場したアントン総帥は、新宿の後、渋谷→原宿の竹下通りもカッ歩。あまりの群集の熱狂ぶりにゴキゲンのアントンは1・4新日本ドームも見てやってください。"銭ゲバ"が頑張りますから。"銭ゲバ"が誰か知ってる?"銭ゲバ"は死ね〜!」と絶叫! まさに歩く街宣車、リアル暴走ホームレスなのであった。

1/23

【レインボープロモーション】
後楽園ホール

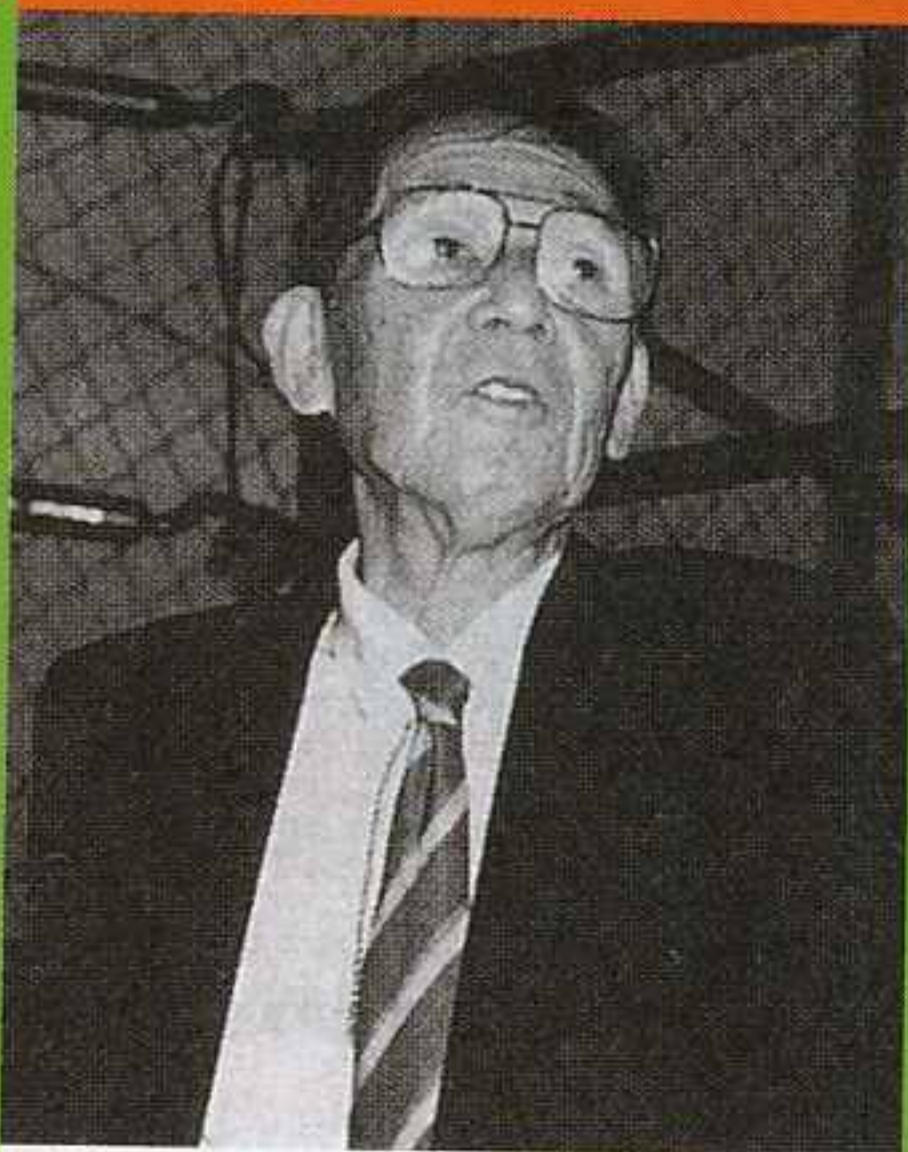
W☆INGがまた…とにかく復活! ex藤原組と全面対抗戦へ

大会前日に「みんなぶっ殺す!」と至極物騒な声明を出していたポーゴがセミの松永vs藤原戦前に登場。しかし、試合中は終始静観の構えで、試合中、松永が持いた画鋲を組長がバトラーツ勢に掴かせたりしてても、ポーゴは微動だにせず。だが試合終了後、遂に乱入! 松永に襲撃か?と思われたが、ポーゴの標的は組長!「東京プロレスの頃から気に入らなかった」と組長を挑発した。その後、ポーゴに大場が飛び掛かかり、元W☆ING勢と組長withバトラーツ勢で大乱闘が勃発。そして乱闘後、ポーゴはお得意のW☆ING復活宣言! 今後、W☆ING対ex藤原組の対抗戦に発展しそうだ。いまさら。

【レインボープロモーション】
後楽園ホール

ジニアス、病をおして復帰戦決定! 相手は、な、なんと大仁田厚なんじゃあ!!

上の記事以外にも事件が続々と勃発したこの日。メイン後、大仁田が小川直也に突然の挑戦表明! アフガンでの対戦を迫った(もちろん一方的に)。さらに、その後の大仁田劇場に足を引きずりながら現れたのが、"悲しき天才"セッド・ジニアス。なんでも、同じジムで練習をしているというジニアスと大仁田、話をするうちにジニアスのプロレスに対する想いを感じ取った大仁田は、3・24ディファ有明でのジニアス興行へ出場宣言! ジニアスは「あっちゃん! お前、猪木戦パクッたろ! キャッチ・レスリングで勝負だ!」と早くも挑発。どうなることやら。

1/15

【全日本女子プロレス】

元全女コミッショナー植田信治氏、逝く

タイトル認定書の朗読でお馴染み、元コミッショナー・植田信治氏が心不全で亡くなった。享年74歳。植田氏と全女の付き合いは昭和40年代まで遡る。植田氏はデイリースポーツ編集局長当時、全女が「暴力団の資金源になっている」というデマで公共施設から締め出されていることと、全女・松永四兄弟の苦労話を聞いて、「こんな苦労人を見捨ててはいけない」と決意。新聞社としての顔の広さを利用して各県警を「松永四兄弟は悪くない」と口添えし、公共施設で興行を打てるようにしたという。その後コミッショナーに就任。これまで全女を見守ってきた。謹んでご冥福をお祈りします。

1/11

【UFC―35】
米・コネチカット州モントビル

ブスタマンチ、メネーを破りミドル級新王者に!

主催者がSEGからズッファ社に変わってから、好カードを連発するUFC。この日も、ヘビー、ライトヘビーのタイトル戦こそ組まれなかったものの、日本のファンにも注目の一戦が多数組まれた。菊田、安生を破っているB・トップチームの重鎮、ムリーロ・ブスタマンチが"ミスター貧乏"デイヴ・メネーの持つUFCミドル級王座に挑戦。柔術のスペシャリストながら、パンチャーのメネーに殴り勝ち、第2代王者となった。その他にもR・パバルが出場しランデルマン判定勝ち、宇野薫を破った者同士のライト級頂上対決となったパルヴァーvsBJペンは、パルヴァーさん判定勝ちで王座防衛に成功した。次回「UFC36」では、いよいよティトvsビクトーが実現する!

1/10

【IWAジャパン】
原宿・アストロホール

タイガー・ジェット・シンCDデビュー! 2丁目劇場・原宿出張編

若者の街・原宿で、何の因果かシンのCDデビュー記者会見が行われた。会見の前にシンは、現在発売中のデビューCD「愛は地球を救うのだ」に収録されている「妖怪人間ベムのテーマ」を、ゴージャス松野&浅野社長と共に披露した。が、それだけで終わるハズもなく、1・15で対戦する偽造軍団・一宮がFMWの荒井社長を伴ってやっぱり乱入。昨年末に大仁田と因縁を残した松野氏を、二人して「半魚人」などと挑発した。それに松野氏が激怒! 一宮らに掴みかかった…が、顔に白粉をかけられる等されやっぱり撃沈。その後、シンと共に大仁田&一宮への復讐を誓ったのでした。

1/21

【新日本プロレス】
新日本プロレス事務所

中西、またしても小川戦を要求!

21日に契約更改を終えた"日本一の馬鹿(カシン調)"中西が、なぜか小川直也に向かい吠えまくった!「俺が何を言いたいかわかるか? 契約がどうこう、武藤がどうこうじゃないワ。佐々木健介vs小川直也の試合や。あの試合は俺が乱入して試合をブチ壊したと言われてるけど、確かにその通りや。俺がブチ壊した。ただ小川には去年の5月、福岡ドームで逃げられたまんまや!! 俺にも言い分がある。俺にやらせろと言いたい。アイツのことやから大きい会場でしかやらないとか言うんやろ。せやったら、次の大きなところでやってやるわ!!」以上、ファンのニーズが全くないカードを煽りまくる中西男(カシン調)でした。

1/13

【アルシオン】
後楽園ホール

ロッシー悲痛! 文子、アルシオン退団!

またまたアルシオンに衝撃! 翌日に成人の日を控えたこの日、20歳の浜田文子がアルシオンを退団することが発表された。今年からコスチュームをやけに肌の露出が激しいものへとチェンジしたばかりの浜田だったが、この日の全試合後、ロッシー小川社長から「浜田文子選手は、昨年12月31日をもちまして契約を終了しました」とファンに発表された。退団に関して浜田は「自分がメキシコ人であることをわかってくれなかった」とコメント。一時的にメキシコに戻ることも表明した。以前にもアジャ・コング、美幸涼といった不可解な離脱が続出するアルシオン。ロッシーも頭が痛い!

1/11

【新日本プロレス】

健介、小川に「ノールール決着戦」を要求!

ヴァー! 毎度お馴染み大乱闘による不透明決着に終わった小川戦から7日、健介の気持ちはいまだ収まっていなかった。この日、TBSラジオ「辻よしなりのプロレスの勝ち!」にゲスト出演した健介は、「今度は2人とレフェリーだけで戦いたい」と当たり前すぎることを大まじめに主張。さらに「ルールもすべて小川に100%任す」とノールールも辞さない構えを見せたが、その舞台は相変わらず「新日マットで」と肝心なところは譲らなかった。「とにかく今はIWGPより小川」と言う健介。どうやらIWGP王座決定トーナメントを健介が制することはなくなったようだ。

1/27

【パンクラス】
後楽園ホール

パンクラスに謎の覆面ファイター登場！

新年一発目のパンクラスは漫画「高校鉄拳伝タフ」とのタイアップ興行。なんと言っても注目はタフの主人公・宮沢熹一（ノット元首相）対鈴木みのるのドリームマッチ。鈴木は逆エビやらボディスラム、最後はマスク剥ぎまで見せ、プロレスラー魂を発揮。試合後、みのるは「中身の奴、早く本戦に上がってこい!」とマイクアピール。正体は星の王子様説も出ているが一体誰なんだ?さらに菊田がエキシビジョンで極真から総合へ挑戦の岩崎達也と対戦後「プライドへ出陣します！　ホイスでもシウバでもミルコでも誰でもかまいません!」と4月のプライドへ出場表明！　その他の試合はメインまで全て一本もしくはKOフィニッシュ！　ベストバウトは大逆転の腕十字で山宮を下した佐々木有生対山宮戦！　なお、この日よりパンクラス東京と横浜がUFC&プライド参戦に向け統合。元の横浜道場に場所も統合されて、以後、所属は「パンクラスism（イズム）」となった。なお、2・17（日）の大阪梅田ステラホール大会（16時開始）の全カードはこちら！　注目は2月のプライドでシウバ戦が決定している田村潔司率いるU-FILE-CAMP勢の大挙参戦だ！

★

ミドル級（3R）
國奥麒樹真（王者）×石川英司

ミドル級（3R）
三崎和雄×上山龍紀

キャッチレスリング（1R）
鈴木みのる×稲垣克臣

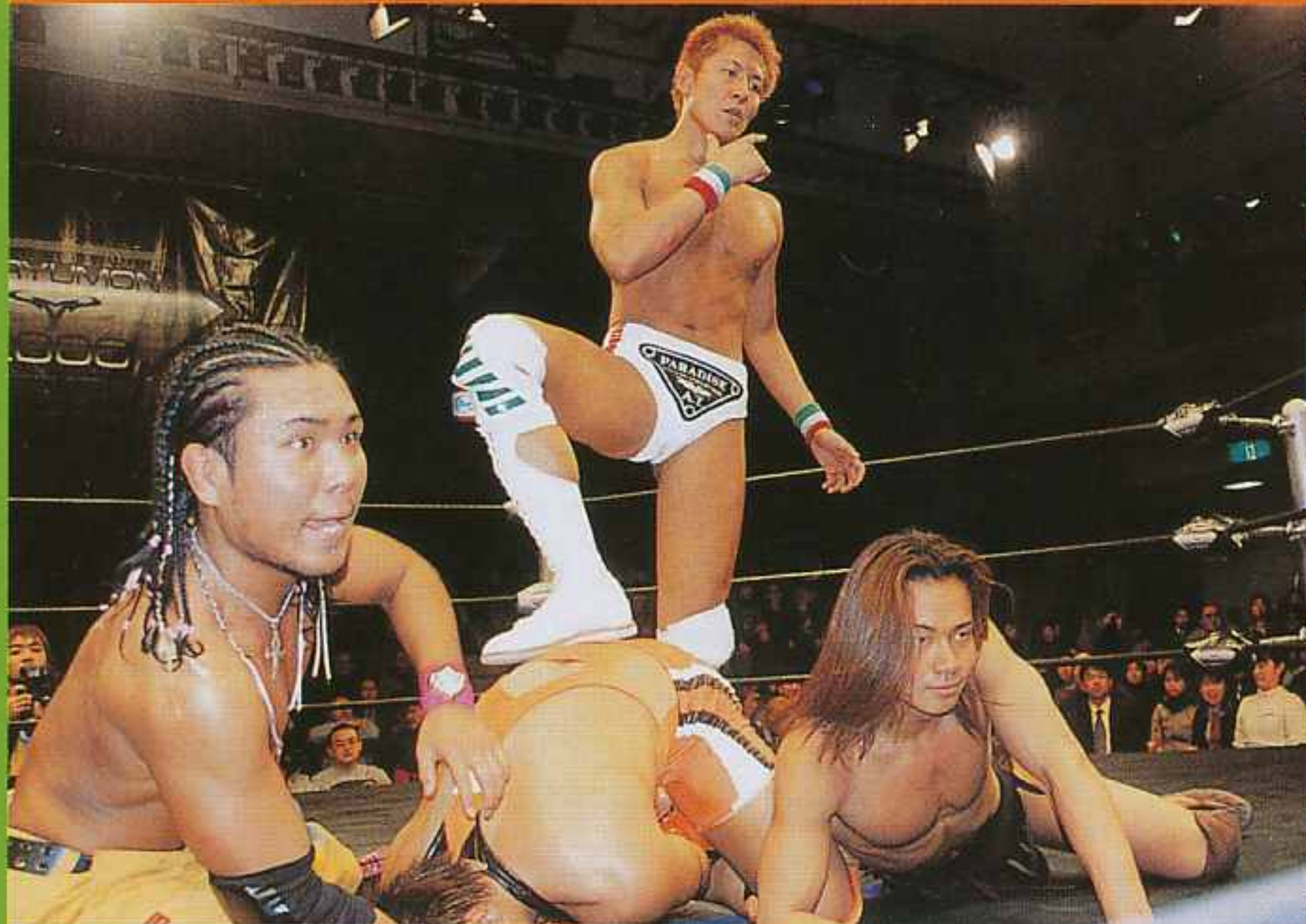
ライトヘビー級（3R）
窪田幸生×渡辺大介

ミドル級（2R）
佐藤光留×大久保一樹

ミドル級（2R）
宮川順也×長南亮

ウェルター級（2R）
冨宅飛駈×アライ ケンジ

【お問い合せ】パンクラス
TEL.03-5792-0815

1/23

【闘龍門2000プロジェクト　T2P】　後楽園ホール

T2P再び!!　ルチャ・クラシカ大爆発!!

六角形リングにまたもやジャベ・イリュージョンさく裂!!　プロレスファンがいまもっとも注目するT2Pの日本逆上陸第2弾興行が、後楽園に1810人(超満員)のファンを集めて開催された。空中殺法を極力使わず、複雑なメキシコ流関節技を駆使した「ルチャリブレ・クラシカ」を標榜するT2P。昨年11月の第1弾興行では、56種類のジャベ(メキシコ流関節技)を持つと豪語するT2Pのエース、ミラノコレクションATが、闘龍門JAPANの斉藤了を「ロープエスケープ5回で負け」という「ルチャクラシカ・ルール」(61本3本勝負)で対戦しストレート勝ちし、実力を見せつけた。第2弾となる今回は、ミラノ&吉野&ツジモト組vs斉藤了&森&八木組という6人タッグでの「ルチャクラシカ・ルール」リターンマッチがメインで組まれた。T2Pのトップ3を自認するミラノら3人は、ここでも斉藤組を圧倒。試合内容もシングルマッチでは地味になりがちな関節技の攻防の欠点を、展開の早い6人タッグにすることで解消。また六角形リングを駆使し、3つの対角線を同時に使ったT2Pならではの初めて見る動きを披露すると、これには観客も大熱狂!!　物凄い盛り上がりに包まれた。結局、ミラノ組がまたしても2本連取のストレート勝ちを収め、その実力をあらためて誇示しまくった。メイン以外にも、メキシコのカール・ゴッチ的存在である、T2Pの関節技のコーチ役、ホルヘ・リベラがTARUシート相手にエキジビションマッチを披露!!　ファン待望のしゃちほこマシーンズ日本初登場!!　そして“最後の日本兵”大柳錦也が、のっぴきならない事情により、受験生キャラに突然ヘンシン!!　と話題豊富だった今大会。いよいよその全貌を現してきたT2Pは、次回逆上陸第3弾シリーズ(2/27愛知、3/2名古屋、3/3ディファ有明)で、60年代からあるメキシコ伝統のベルトを争う「T2P実力査定リーグ」を開催する。

1/25

【新日本プロレス】
後楽園ホール

ドラゴン吠える！「全日と全面戦争だ」

「分裂問題」が発覚して以降、問題が問題だけに不用意な失言をさける為か、一切のコメントを控えていたドラゴン。しかし、この日緊急帰国したアントンと会談し、今回の件は「引き抜き」との認識で一致すると、突然強気になり「正直、ハラワタが煮えくり返っている。全面戦争です!」と前日「危機こそ最大のチャンスなりですよ」と笑顔を見せた同一人物とは思えない豹変ぶりを見せた。さらに「うかつなことは言えないけど」と前置きした上で、「ある国会議員……まあ馳浩が裏から知恵をつけてるのは明白」などと実名でうかつな発言を連発。アントンという後ろ盾を得て、さらに暴走するダーク・ドラゴンに期待だ。

1/24

【新日本プロレス】
東京スポーツ

ドラゴン、アントンに全権委任

「新日本分裂!」というお家の一大事を迎え、いまこそ社長として、そのリーダーシップを発揮するチャンスである我らが日本の社長ドラゴン。しかし、連日記者団にコメントを求められても、出てくる言葉は「すべては契約が完了したあと」の一点張り。その割には諸問題について自信満々の笑顔を覗かせていたので怪しいと思いきや、この日ようやくドラゴンが打ち出した方針は、なんと「すべては猪木さんに一任」だった！　これまでカード編成等で「ボクが社長なんだから、任せてもらわないと」などと散々息巻いていたドラゴンだが、肝心なところで全てアントン任せ。嗚呼ドラゴン、あなたって人は……。

1/24

【闘龍門JAPAN】

さようなら、ビッグ・フジ　こんにちは、ドン・フジイ

1月8日の後楽園で「ビッグ・フジは大阪で辞めさせていただきます」という、引退を示唆したかのような仰天発言をしたC−MAXのビッグ・フジ。そして迎えた運命の大阪大会。そこで発表されたのは、やっぱり単なる改名であった。新リングネームは、その名も「ドン・フジイ」！　本名の藤井達樹でデビュー後、スモー・フジ、スモー・ダンディ・フジ、スモー・ダンディ・フジ2000、ビッグ・フジとリングネームを次々に“進化”させてきたフジイは今回が早5回めの改名となる。そのフジイはこの日、C−MAXとしてマグナム、キッドアラケン組を破り、UWA世界6人タッグ選手権を防衛。また第1試合に組まれた、注目のSUWAvs望月成晃の一戦は、“いい人”宣言した望月がM2Kの乱入をきっかけにフォール負けを喫した。

やってくる ヤァ! ヤァ! ヤァ!

構成／坂井ノブ
撮影／ジャン斉藤
designed by matsu（Two three）

来日メンバー決定!!

Chris Jericho

あの大刀光のデビュー戦の相手もつとめ、WARで大活躍だったジェリコ。現在は、WWF&WCWの統一チャンピオンとして君臨している。自分の顔に酔ってるナルシスト・キャラで“ヒール道”をばく進中の元・“ライオン道”。

VS

The Rock

「People's Champion」（皆の王者）ことロック様。決めゼリフ「If you smell what The Rock is cooking!」（ロック様の妙技を味わいやがれ）は当然、みんなで大合唱したい! 特に味わってもらいたいのは、必要以上にもんどりうつ受身。

Big Show

たしか昔、某紙のインタビューで「俺はアンドレの息子」だとか断言していたはずの231センチの大巨人。現在はTAJIRIのパートナーとして、名コンビぶりを発揮。

Kane

入場時、４つのコーナーから上がる“地獄の業火”は必見! 「消防法があるから日本では実現不可能」とか言われているが、果たしてどうなる!? ２メートルの巨体で軽々と飛ぶ。

Lita

マットの彼女だったが、最近別れた。ケツがかなりハミ出てるＴバックも凄いが、試合も凄い。

The Hardy Boyz

ジェフ（左）とマット（右）の空中技の数々は、マジでド肝を抜かれるぞ! ジェフのスワントーン・ボム、必見!

The Duddley Boyz

ババ・レイ（左）とＤボン（右）の異母兄弟。ハードコアな合体攻撃の数々は必見。テーブル破壊ボム、見たいぞ!

Edge

弟・クリスチャンと一緒にバカなコントばっかりやっていたが、コンビ解消以降は急成長中。今年大注目だろう。

WWFのスーパースターズが

「武藤vsロック見たい!! 至高のドリカム」という、とてつもない表紙で『週刊ゴング』（1月10＆17日号）がWWFファンの思いを見事に踏みにじってくれたわけだが、WWFファンのみなさんはいかがお過ごしだっただろうか？ 当然、僕らが見たいのはWWFの純血興行で、断じて「至高のドリカム」ではない！ そんなドリームは見てない！ 混血してしまったがゆえに失敗した前回のマニアツアーの教訓は何もいかされていないのだろうか？ まあ、いい。そんなモヤモヤも1月18日に行われた記者会見ですっかり晴れたので、笑って見過ごすことにしよう。そう、1月18日に新高輪プリンスホテルでWWFが日本大会に関する記者会見を行ったのだ。集まった報道陣は約200名！ プロレス誌に限らず、一般誌の記者もかなり大勢集まっており、近年まれに見る報道陣の数だった。

多くのフラッシュが焚かれる中を登場したWWFE（World Wrestling Federation Entertainment）の副社長ロジャー・マーメント氏が、今回のイベントの概要を説明してくれた。今回来日した3名と右ページに掲載したレスラーが主な来日メンバーだが、他にもテスト、ステーシー・キーブラ、ビリー・キッドマン、ビリー・ガン＆チャック・パランボ、ハリケーン＆マイティ・モーリー、ダイヤモンド・ダラス・ペイジ、ハク、フナキ、さらにリック・フレアーの来日が発表された。そしてメインがロックvsジェリコであることも明らかになった！

チケットは即完売！ 今回こそは大成功確実!? 気になるのは演出面か……

フレアーが来るなら、ひょっとしたらビンスも……？ と期待を抱かせてくれる。「スケジュールが合えばもちろん来ますが、今は決定しておりません。個人的にご招待して頂けるんであれば、考えさせて頂きたいと思います（笑）」（マーメント副社長）とのこと。ってことは、可能性あんのかッ!? みんなで募金して金をかき集めてでも招待したいぞ！ 残念ながらストーンコールド、カート・アングル、アンダーテイカー、ブッカーT、RVDらは参戦しない模様だが、大会が成功すれば次回以降にはイギリスのような定期的なPPV開催が期待できるだけに、「お楽しみは取っておこう」といったところだろうか。

そして、場内が暗くなりテーマ曲が流れる中、クリス・ベノワ、TAJIRI＆トーリー・ウィルソンの3名のスーパースターが入ってきた。さすがのTAJIRIも、報道陣の多さには「こんなにたくさんのマスコミの方に来て頂いて、びっくりしました（笑）。3月1日に日本でみんなそろって、試合をしに来るのが非常に楽しみに思います」と決意を新たにしたようだ。会見後の囲み取材では「たった一人で成田からメキシコに飛んだときを思い出した」と感極まっていた模様。いい話じゃないか！

さらに会見の締めくくりでは、ロック様から「日本で会おう！ If you smell what The Rock is cookin'!!」（と言ってたんだと思う）という業界で最もシビレるメッセージが流れたので記者からは拍手も起こったほど。笑いあり、涙あり、そして驚きもあり、お土産（WWFのTシャツ）もあり、もう満腹！ 相当ハイ・レベルな記者会見だったと断言できる。

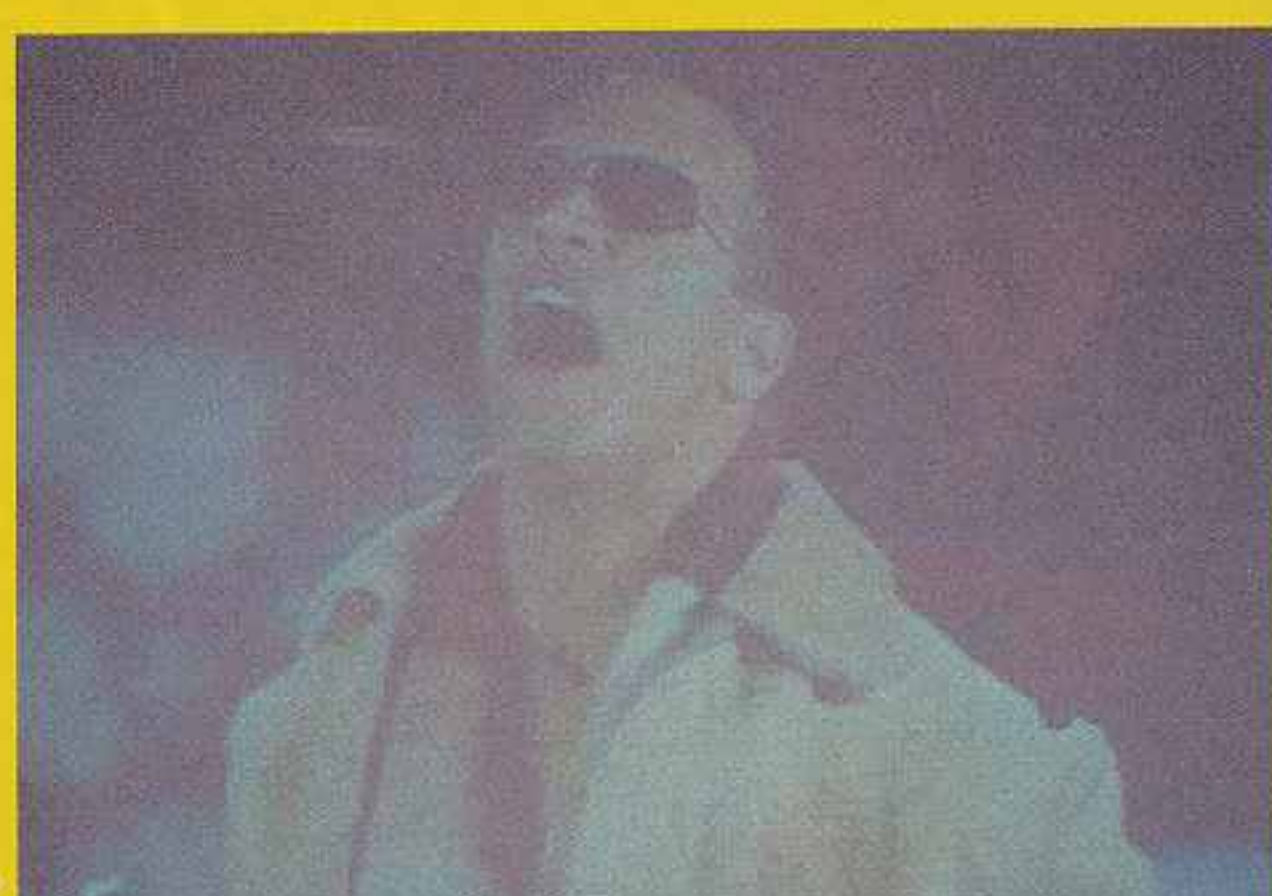
この会見の2日後、1月20日（日）の午前10時からチケットが一斉発売されたのだが、あっという間に完売！ 完売にかかった時間は5分とも20分とも30分とも言われているが、とにかく空前のチケット争奪戦が繰り広げられたわけだ。ここ数年、横アリ・クラスの会場でチケットが完売したプロレス興行は皆無だ。黒船・WWFは、ホントに「泰平の眠りを覚ます」勢いで上陸してきた。でもって、家康（好きな）・藤波率いる徳川幕府＝新日本は早くも崩壊？ 状態。大会自体も非常に楽しみだが、その余波も楽しみだ！

で、最後に残念ながらチケットが取れなかった方に朗報！ この大会はJスカイスポーツで3月8日に放送決定！ テレビ東京で3月10日26時～27時30分に、大会の模様が、2月16日16時～17時15分に直前特番が放送決定!! こちらも見逃せないぞ！

熱いキスを披露した恋仲のTAJIRIとトーリー。ちなみに、18日の午前中に厚木の基地を慰問してきたというから、さすがスーパースターズ。その名に恥じないハードスケジュールだ。

1.18 WWFが日本で記者会見!! ロック様からメッセージが!!

ユーモアたっぷりに答えてくれたマーメント副社長。「みなさんが楽しめるものにする！」と力強く言い切った。

久々の来日となったクリス・ベノワ。他にも、ジェリコ、ハク、もちろんフナキなど日本育ちのレスラーにも期待！

突然のビデオ出演で記者をシビレさせたロック様。当日、会場でのマイク・アピールはどうなるのか？ 字幕も含めて「検討中」だそうだ。

3・1WWF横浜アリーナ大会正式決定!!

TAJIRIが来たりて霧を吹く

MYSTERIOUS INTERVIEW OF TAJIRI

聞き手／坂井ノブ　撮影／松本崇　designed by hisa（Two Three）

昨年11月、初の単行本を発売した島田裕二レフェリーが都内某所でサイン会を行ったところ1時間粘っても3名のお客さんしか集まらなかったそうだ。ひとりだけ具体例を挙げてしまって島田レフェリーには申し訳ないが、もっぱら新日本、ノア、闘龍門以外の選手のサイン会も似たような感じで人の集まりは芳しくないと聞く。そんなご時世に、昨年末に緊急帰国を果たしたあるプロレスラーがたった1日でサイン会に500名も動員してしまったのだ！　2001年、WWFマットに登場した途端に独特のジャパニーズ・キャラで爆発的な人気を獲得した、あの男……そう、ズバリTAJIRIのことである！　年末の休みを利用して一時帰国を果たしたTAJIRIは、12月29日に大阪と横浜の2ヶ所でサイン会を行うという強行スケジュールを敢行。どちらも大盛況だったというから、TAJIRI人気の凄まじさは推して知るべしであろう。

実際、横浜のサイン会会場まで足を運んできたのだが、店内はWWFのスーパースター見たさに大勢のファンが集まってきていた。ひとりひとりと記念写真に収まるたびに、おなじみの不気味な表情をクルクル変えていくTAJIRIからは、エンターテイメントの本場で揉まれてきた男の力強い自信が漂っていた。

このサイン会の直後に、わずかながら時間を割いてもらうことに成功した本誌は、本人から直接話を聞くことが出来たのでお届けしよう。

「ただ年末だから帰ってきただけですよ」

あわただしく席につくなり、「今回の来日は3月1日の日本大会のプロモーションですか？」と質問をぶつけてみたら、返ってきた答えである。リーガルやオースチンに向かって日本語をまくし立ててるときと、まったく同じ口調で質問に答えてくれた。

一応、WWFでのTAJIRIを見たことがない人のために説明しておくと、TAJIRIはWWFの寸劇の中でも日本語しかしゃべらない。不気味な笑顔と、おじぎと、日本語だけで、言葉の壁を乗り越えた稀有なキャラクターなのだ。もちろん、試合でアメリカ人の度肝を抜くような大活躍しているからWWFでも認められているわけだが、それにしても凄いことだと思う。

「英語はしゃべれるんですよ、ホントは（笑）。キャラクター作りですか？　これは、地でやってるだ

「アメリカで活躍するのは私の〝運命(さだめ)〟ですから!!」

けです」

たしかに、こうして会話をしているときも、話し方はリーガルやストーンコールドと話しているときの口調と大差はない。もちろん、あんなにペコペコしているわけではないが、矢継ぎ早に言葉を繰り出してツッコミを入れる間を与えてくれない。撮影の際に次々と表情を変えて記念撮影に収まっていたのも、TAJIRIに言わせると、

「ただ、好きでやってるだけですから（苦笑）」

ということらしい。

日本のマットで活動していた頃のTAJIRIは、試合巧者のイメージはあったものの、こうしたキャラクターが前面に出てくることはなかった。もちろん、日本のマット界にはそうしたキャラクターを受け入れる土壌はなかったのだが……。

「日本にいたころは、またキャリアが浅かったから大人しくしてただけです（笑）」

たしかに日本のプロレス界で新人に求められるのは、現在のTAJIRIのようなキャラクターではないだろう。思えば、TAJIRIになる前の田尻義博が在籍した当時のIWA JAPANと大日本プロレスは、どちらもデスマッチ路線だった。そんなIWA JAPANも、いまや浅野社長がオカマ・キャラ全開で奮闘するエンターテイメント路線をバク進中である。さらに大日本のグレート小鹿社長は本誌前号でTAJIRIについて

「突然電話がかかってきて、『日本に帰ったときは大日本に上がりたい』と言ってくれたよ。お世辞かもしれないけど、うれしいもんだ」と語っていた。そんな浅野社長や小鹿社長のことをTAJIRIに聞いてみた。

「俺が居た頃に浅野社長がああいうことやってくれれば、みんなハラ抱えて笑うことができたなって、当時の仲間と『残念だったな』ってたまに話すんですよ。大ファンですから（笑）」

嬉しそうに話すTAJIRIからは、浅野社長に対する愛（そっちの意味の〝愛〟じゃなくて）を感じることが出来た。小鹿社長に関しても、懐かしそうな表情をうかべながら話してくれた。

「ああ、なんか自分がそう言ったらしいんですよねぇ。あとで、小鹿さんがそういうことを言ってたよって聞いて『えっ？』って。なぜ自分の記憶にないかというと、ベロンベロンに酔っぱらって電話したからなんですよ、藤田（穣）と2人で（笑）。小鹿さんのこと好きなんですよ、俺も藤田も。だから懐かしくなって『小鹿のおとっちゃんどうしてるか電話してみようよ』ってかけただけです（笑）」

なんと、これが真相だったわけだが、この話をしているうちにTAJIRIの顔が曇っていった。

「まあ、そんなのあれこれ詮索することじゃないでしょう。それだけですよ。だから、あんまり深く突っ込まないでください、そんなことまで。そういうとこまでとやかく言われるんじゃ、もう何の話もできないですよ、俺たち」

こちらとしては、単なるネタふりのつもりで、特に「大日本復帰か？」なんてことを聞こうと思ったわけではないのだが……余計な詮索と感じられたのだろうか？ 小鹿社長もTAJIRIも、双方にわだかまりがないことは理解できた。良好な関係なのに、今更他人が首を突っ込んでくれるな、ということかもしれない。まあ、アメリカの雑誌取材でそんな小ネタを振ってくるところはないだろうし。アメリカでも、TAJIRIはインタビュー取材などは受けているのだろうか？

「取材ですか？ よくありますよ。もちろん英語で答えてます。スペイン語で聞いてくるヤツがいたら、スペイン語で答えますし」

リング上のキャラで答えてくれ！とか、そういうインタビューなのだろうか？

「アメリカのインタビューってそういうのはないんですよ。キャラクターになり切らなくても答え易いような質問が多いですから、アメリカの記者の聞いてくることって。たとえば、過去のこととか日本のこととかね。いつかキャラクターで答えることもあるかもしれないですけど。いまのところはないですね。アメリカのファンは進んでますからね、そういうことを言ってっても、1、2行だけ読んで、しゃべってる内容が想像ついちゃったら、読むのをやめちゃうんじゃないですか？」

なるほど、さすがはエンターテイメント先進国。キャラクターだけでは満足せず、その先を知りたがる「シュート活字」的なものを求めるファンの気質をTAJIRIも捉えてインタビューに応じている、というわけだ。そうした機運が日本のファンの中にも徐々にだが生まれつつある。昨年末に出たミスター高橋の衝撃本『流血の魔術 最強の演技』（講談社刊）などは、ファンの間でも大いに話題となった。プロレスの見方そのものが大きく変化する時期にさしかかってきている。まだ未成熟ながらも、日本のプロレス界にも大きな変化が訪れていることは間違いない。読んではいないが、ミスター高橋本の存在は知っているというTAJIRIは、日本の変化についてどう思っているのだろうか？

「それはアメリカと同じようにはならないんじゃないですか？ 国の土壌が違うから。だから、比べるもんじゃないと思いますよ」

たしかに、根本的な国民性の差はとてつもなく大きい。アメリカの国民性と根強く結びついているエンターテイメント・プロレスとその裏返しであるシュート活字が、日本ですんなり受け入れられるか、多くの人が指摘する問題ではあるが、本場で活躍するTAJIRIの言葉だけに重みが違う。

「今度WWFが来ますけど、日本向けなことは何もやらないんじゃないかな？ アメリカでやってることをそのままやると思うんですよね。それを見て『面白い』って思う人はあまりいないと思うんですよ。なぜかというと、それは日本人が見るから！私は何となくそう思うんですよ。最初からWWFが好きで見に行く人は面白いでしょうけど、初めてWWFを見る人はそんなに面白いと思わないんじゃないかな？ でも、別にそういう人の意識を変えなくなったいいし……と、私は思うんです」

さらにTAJIRIは自分の主張を矢継ぎ早に繰り出していく。

「レスラーはね、あんまりファンの意識を考えてないですよ、はっきり言って（苦笑）。だってリングで仕事するのが仕事だから。あんまそういう哲学的なことは外野が言うことであって。レスラーは一生懸命試合を見せるだけです、はい。俺はそういうタイプです。そういうことばっかり言うレスラーはいますけど、私はそうじゃないですから」

一見、突き放したように感じられる言葉だが、この言葉の裏にはTAJIRIのプライドを感じることが出来るはずだ。たしかに、言葉をいくら積み重ねるよりも、試合を見せた方が、よっぽど強烈なメッセージとなってファンに突き刺さる。つまり、言葉よりも試合で語るのがTAJIRIというプロレスラーなのだ。過剰な期待や余計な詮索を受け付けない（ように見える）あたり、野球のイチローやサッカーの中田英寿のような21世紀型アスリートの距離感覚に似ているのではないだろうか。

そんなわけで、あっという間にタイムリミットとなってしまったが、最後にインタビュー中に最も印象に残ったTAJIRIのセリフを紹介したい。並みのレスラーにこの言葉は吐けないだろう。

「アメリカのマットで活躍するっていうのは、俺が持って生まれた運命（さだめ）ですから」

もちろん、こうした言葉の数々よりも試合の方がずっと雄弁にTAJIRIの主張を伝えてくれるのだろうから、3月1日の凱旋試合を見逃すわけにはいかない！ WWFに興味がある人も、ない人も必見だ！

12·29 タワーレコード横浜店

サイン会は大盛況!!

このサイン会はプロレスショップ『SOLLUNA』が発売したWWFのCDを買った人が対象だったのだが、約200名以上のお客さんがTAJIRIのサイン会に集まった。

新旧リングス選手集結!

各1名様

★U-FILE CAMP 田村サイン入りTシャツ
シウバに挑む田村が心も体もTシャツも一新! 2種類ともサイン入りだ! 【U-FILE CAMP提供】
お問い合わせ
TEL.044-932-0282

3名様

★リングス全選手サイン入り色紙
な、なんと、和田レフェリーも激筆! 金原はもちろん滑川、横井、伊藤たちサインが入った超貴重なサイン色紙だ! 不滅のリングス魂をキミの心に焼き付けるぞ! 【リングス提供】

5名様

★リングス2002年カレンダー
今月はカラーで御紹介! 大好評のリングス今年のカレンダー! 永久に貼って置きたくなるぞ! 【リングス提供】

1名様

髙阪「で、伊藤、俺のは何も無いんか?」

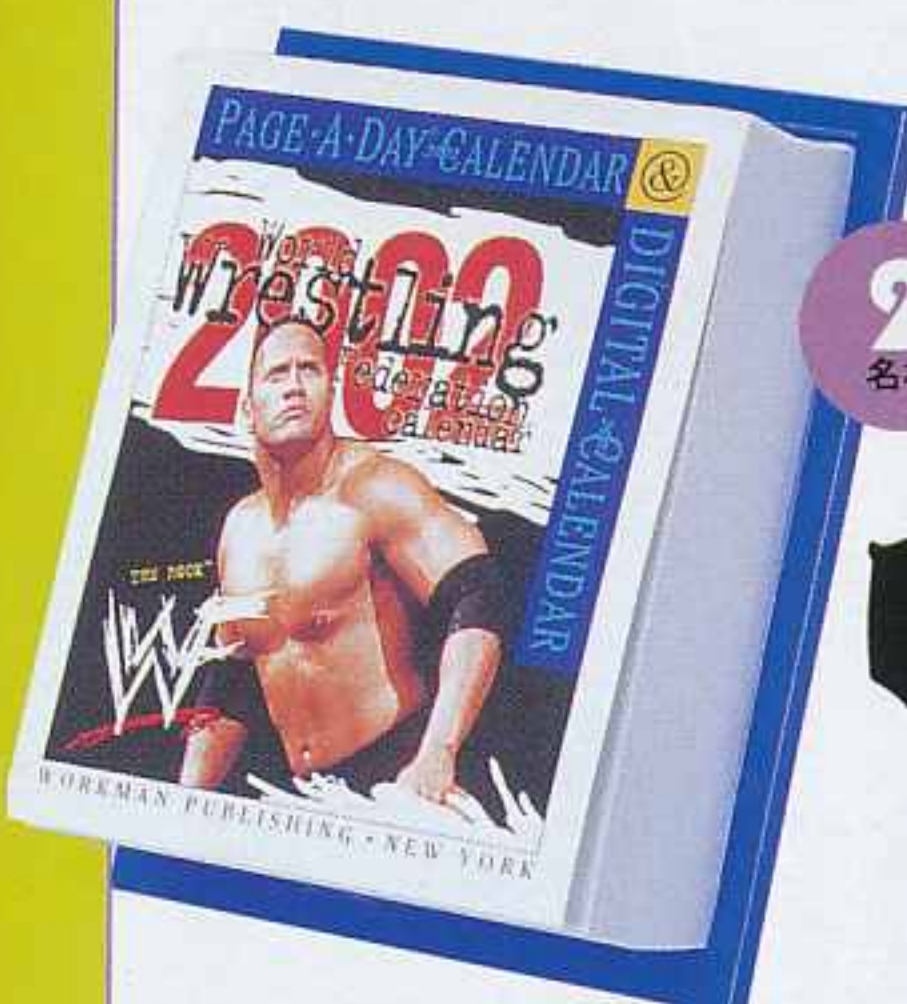
★リングス伊藤博之「心は山本　技は金原　体は和田　生き様は前田」練習スパッツ
伊藤のおなじみの目標に「生き様は前田」が加わった練習スパッツ! 未来のスターのレアブツを手に入れろ! 【伊藤博之提供】

3名様

★「パワーオブドリーム」ポスター
なんと、ヤマケンがリングス在籍時に作られた貴重な逸品! ヤマケンの今後の活動同様に見逃せないポスターだ! 【山本喧一提供】

1名様

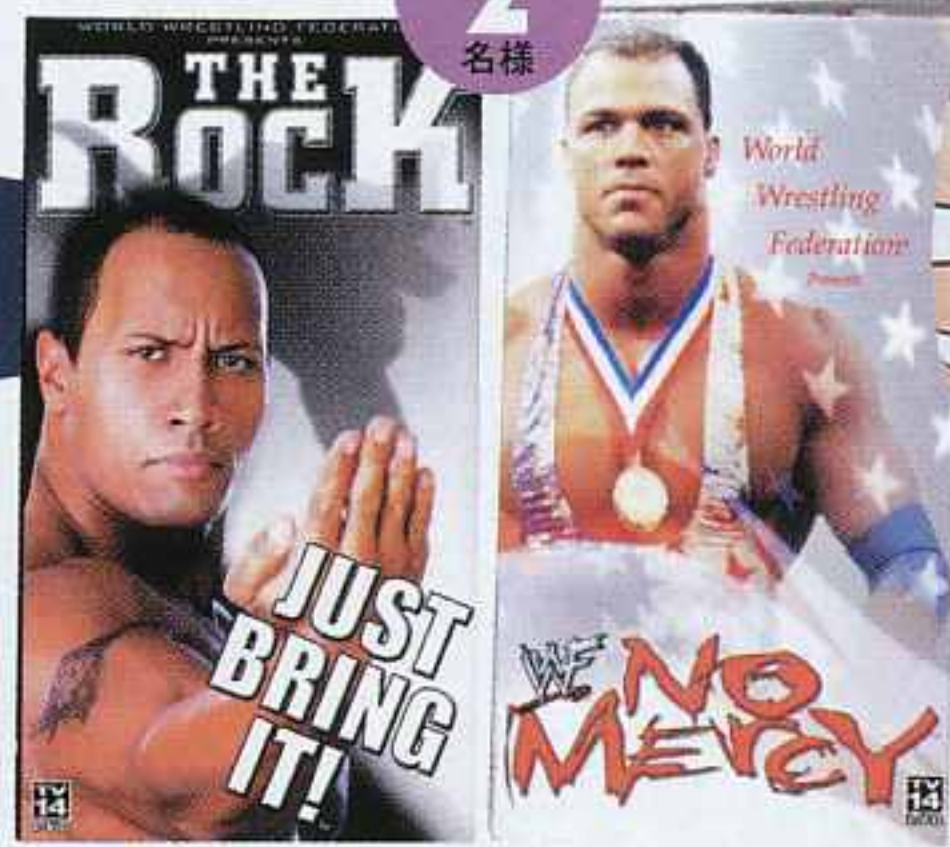
★ヤマノリのリングス置きみやげ「プロテイン」
イッキシンテン山本憲尚がリングス退団時、滑川に残していったプロテイン! 飲めば体どころか心までヤマノリに! 【リングス提供】

WWF上陸記念!

★WWF・日めくりカレンダー
捲るのがもったいないWWFカレンダー! 保存用も絶対欲しいぞ! 【Big Blue提供】
Big BlueはWWF観戦チケット代行も受付中! Big Blueからアメリカに飛びたて!
港区浜松町2-5-1石渡ビル2F
TEL.03-3435-2883

2名様

★オースチン新作Tシャツ
新作をいち早くゲット、オースチンが来なくてもこれを来て横浜に行け! 【Big Blue提供】

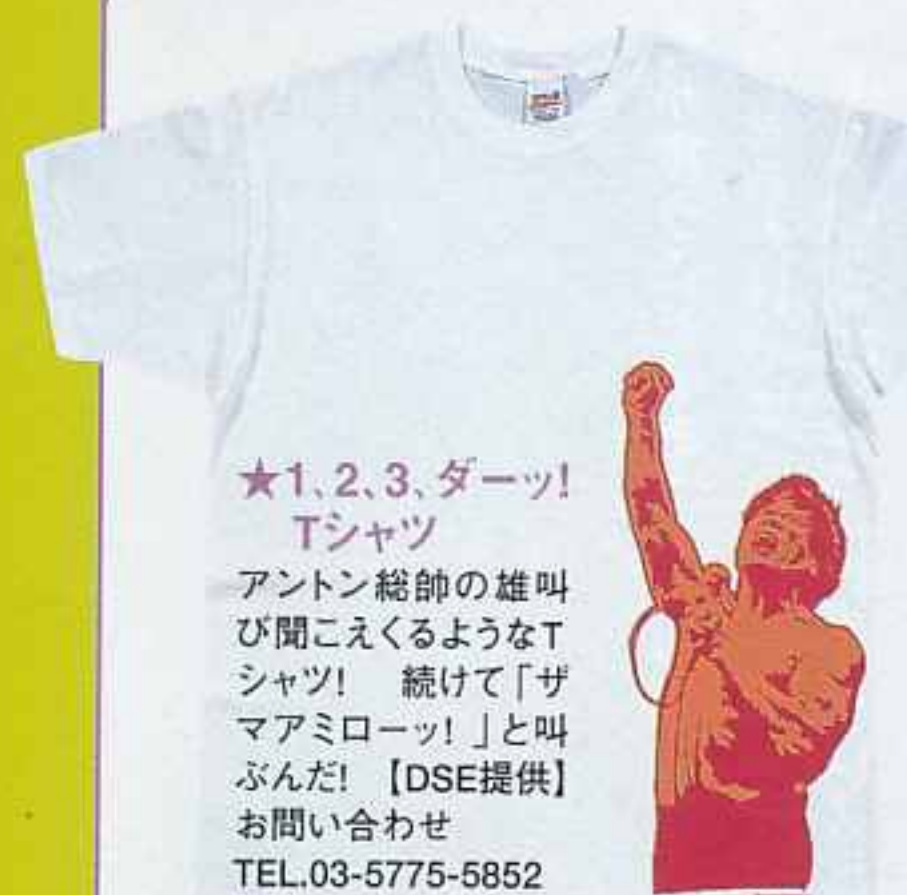
2名様

★リタTシャツ
WWFマニアの女の子は絶対着て欲しいTシャツ! これを着て横浜に集合だ! 【Big Blue提供】

各2名様

★WHAT SUCAL The Rock JUST BRING IT!
★NO MERCY
本場の雰囲気を味わえ! 英語の勉強にも最適WWFビデオ! とにかくWWFはすばらしい! 【Big Blue提供】

1名様

★ランディ・サベージ抱きマクラ
元WWFスーパースターズを抱いて寝ろ! 水平チョップを天龍張りに見舞うのも良し! 【編集部提供】

DSEダーッ!

各1名様

★1、2、3、ダーッ! Tシャツ
アントン総帥の雄叫び聞こえくるようなTシャツ! 続けて「ザマアミローッ!」と叫ぶんだ! 【DSE提供】
お問い合わせ
TEL.03-5775-5852

★「猪木ボンバイエ」パンフレット
DSE運営制作「猪木軍vsK-1」の記憶が蘇るパンフレット! 井上義啓氏など豪華執筆陣による原稿も読み応えあり! 【DSE提供】

★DSE懇談会セット
先日行われたDSEマスコミ懇談会のおみやげ! ボブさんクッキー、携帯ラジオ、ドリンクケースがセットに! フリースもついていたが山口日昇が持ち帰りました 【DSE提供】

キミは黒使無双を見たか!?

★コンプリートプレイヤーズ第1回自主興行
田中将斗、邪道&外道のコンプリ自主興行がビデオになった! ZERO-ONE大谷も熱く登場し、大仁田も出てるん邪! 【エンドレス提供】

★「LOVEみちのく」
武藤が"黒使無双"として初見参! 白使(新崎人生)とタッグで大暴れだ! もちろんサスケも暴れているぞ! 必見! 【エンドレス提供】
お問い合わせ http://www.edls.co.jp/

各2名様

必着！ 花くま先生イラスト！

★花くまPUREBREDTシャツ

★花くま柔術Tシャツ

1名様

花くま先生とE-FORCE JAPANが強力タッグ結成！ 柔術ファンならずとも注目のTシャツだ 【E-FORCE JAPAN提供】
お問い合わせTEL.047-378-6400 http://www.e-force.co.jp/

マリオ・スペーヒー サイン入りだ！

各1名様

★マリオ・スペーヒー サイン入りTシャツ

★サインなし色違い

★レオナルド・サントスTシャツ

★ゲミネスTシャツ

豪華メンツに担ぎ上げられてるのは店長さん！ 「ファイトカンパニー」にはブラジリアン・トップチームがやってくるぞ！ 遭遇チャンスを逃すさず、まめに足を運ぶんだ！
【ファイトカンパニー提供】
世田谷区松原1-32-11 TEL.03-3325-5047

バーチャファイター

3名様

★「バーチャファイター4」クオカード

バーチャファイターシリーズの最新作がプレイステーション2で登場だ！ ゲーセンを熱狂の渦に巻き込んだあの興奮が家庭で楽しめるぞ！ 今日から3日は徹夜だ！
【デジタルシステム提供】

アルシオンを味わえ！

★アルシオン・オフィシャルカードコレクション2001

各1名様

アルシオンのカードコレクション第3弾！ 最先端の技術を駆使して写真がアートに変身だ！ 電撃離脱の浜田文子のカードは超貴重！ 【さくら堂提供】
TEL.03-5686-7671

ゴルドーはグッズも最高！

3名様

★ゴルドーサイン入りドージョーカマクラ巨大ワッペン

こんな巨大なワッペン見たことない！ 3点セットでお見舞いするぞ！ 押忍！
【ゴルドージャパン提供】

カシン戦が蘇る！

★桜庭和志Ver.3

ケンドー・カシン戦の桜庭を再現した特製フィギア！ カシン風オーバーマスクがカッコいいぞ！
【インスパイア提供】
お問い合わせTEL.03-5670-9283（月～金10：00～18：00）

1名様

ART JUNKIE

各1名様

★チャッカル大石Tシャツ

★修斗K.O. SHOOTO GYM Tシャツ

見てみい、この修斗魂溢れるTシャツたち！ 静岡からの発進！ 見逃すな！ 【ART JUNKIE提供】
お問い合わせTEL.053-451-5507 keito@tokai.or.jp

UからMへ！ マスカラスサイン色紙

1名様

★ミルマスカラス・サイン入り色紙

編集部の大掃除中に発見された宝物！ ルチャ幻想が高まるアナタに送る！ 【編集部提供】

応募要項

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名
❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事&その理由
❻つまらなかった記事&その理由
❼田村潔司vsヴァンダレイ・シウバの勝者を予想してください

応募券

【宛 先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「生き様は前田」係まで
※締切は2002年2月25日（月）当日消印有効

驚異の品揃え！ グレート・アントニオ

各2名様

★アントニオ猪木vsブルザー・ブロディTシャツ

★ボボ・ブラジルTシャツ

★ジョニーバレンタインTシャツ

★フリッツ・フォン・エリックTシャツ

★藤田和之フィギュア

★ルー・テーズTシャツ

★アントニオ猪木“元気御守”（赤・紺セット）

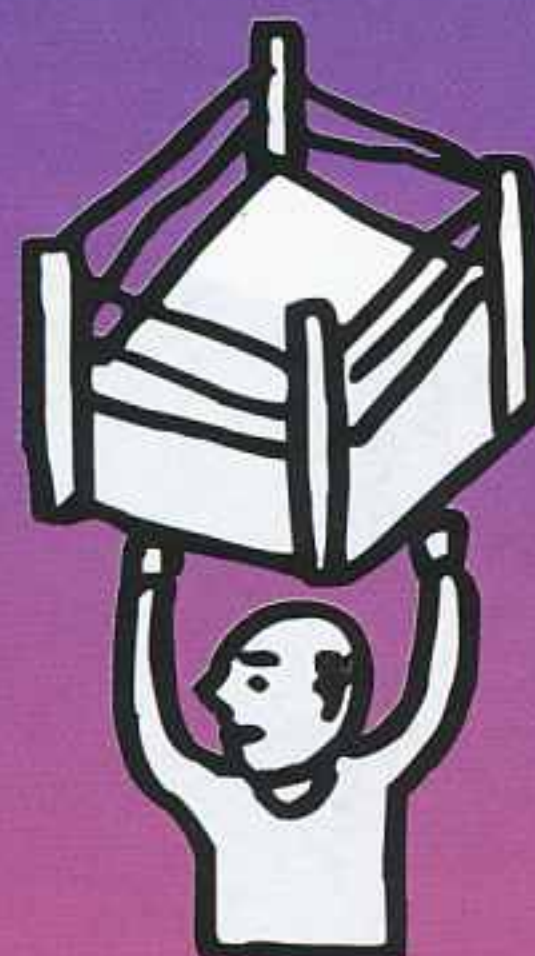
★ブルザー・ブロディTシャツ

★ザ・シークTシャツ

★桜庭ぬいぐるみ“マスクド・サクモン”

驚異のペースでグッズを生産する「グレート・アントニオ」！ すべてオフィシャルのオールドレスラーシリーズから桜庭、藤田のグッズも充実！ 世界最強の品揃えだ！
【グレート・アントニオ提供】
お問い合わせ
TEL.03-3219-9550
http://www.great-antonio.jp

オープン24時間！に10実してます！

ンムフフフ！

※え～、ちなみに現金書留と郵便振替のみの24時間受付です。

紙のプロレス旗揚げ10周年限定記念Tシャツ

リング・アフロラグラン長袖Tシャツ〈グレー×黒〉

¥4,500　S or M or L

リング・アフロラグラン半袖Tシャツ〈黒×グレー〉

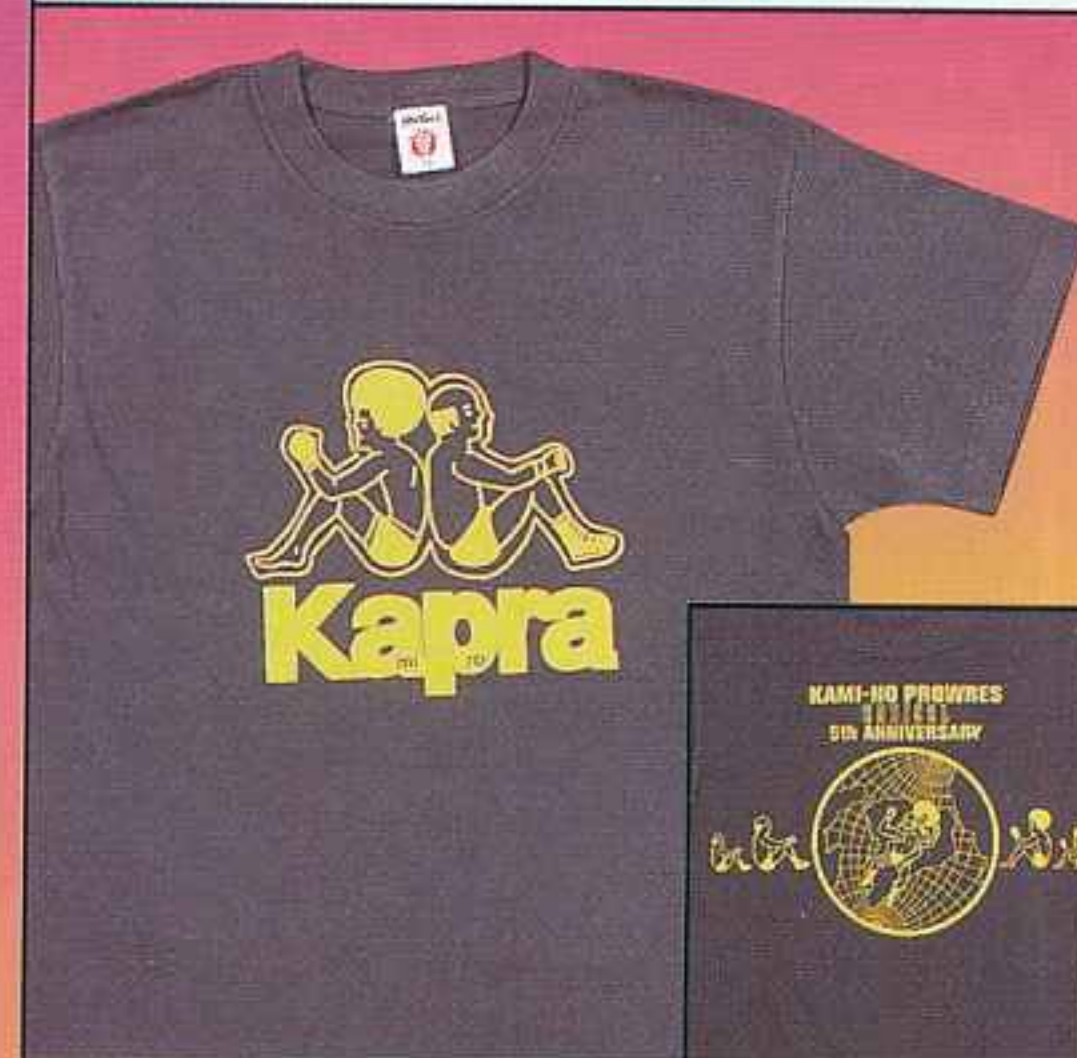
¥3,800　S or M or L

RADICAL創刊5周年Tシャツ＆パーカー

Kapra半袖Tシャツ〈白〉

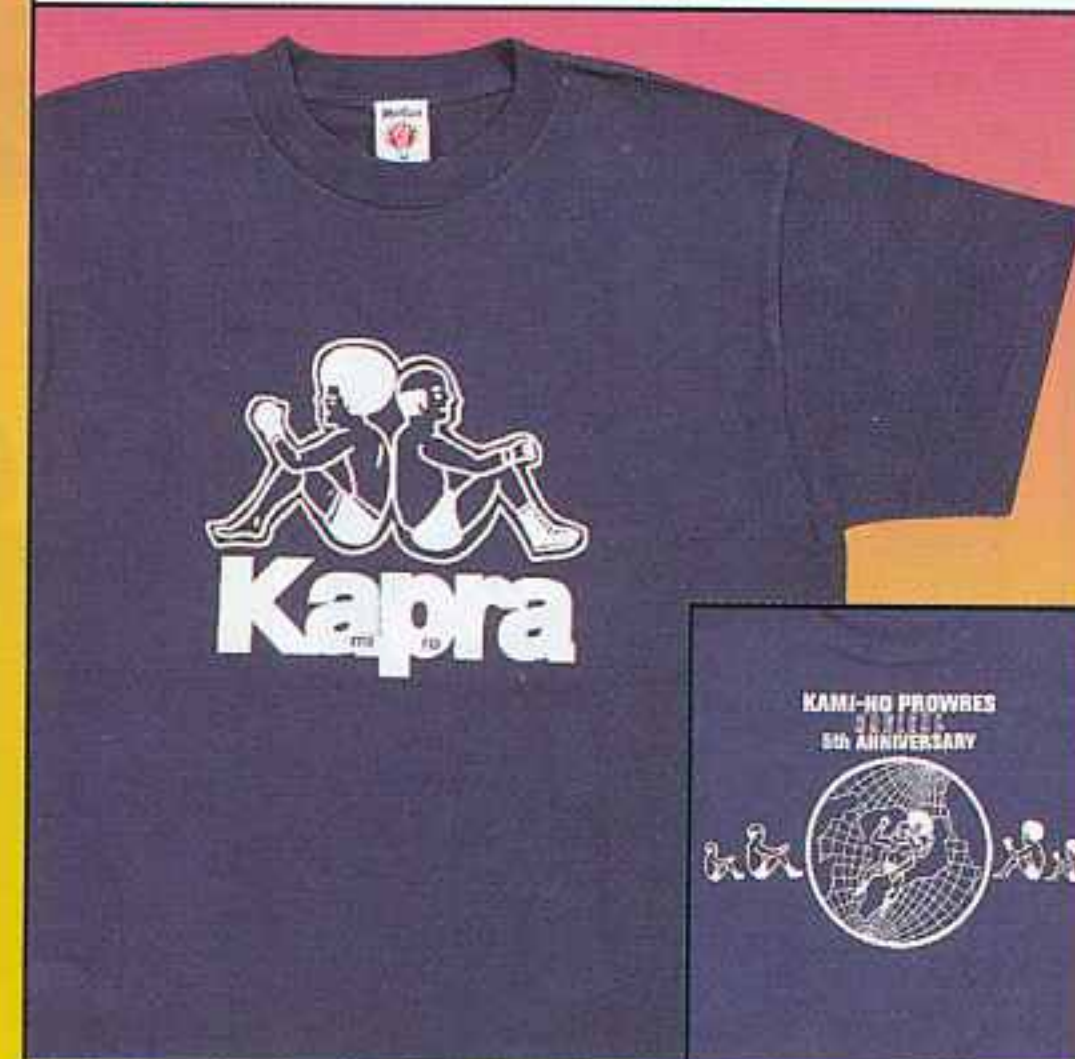
¥3,500　S or M or L

Kapra半袖Tシャツ〈グレー〉

¥3,500　S or M or L

Kapraパーカー〈チャコールグレー〉

¥6,000　M or L　［残りわずか！］

Kapra半袖Tシャツ〈デニム〉

¥3,500　S or M or L

『紙プロ』特製缶バッチ（非売品）

「リングアフロ」or「Kapra」商品をお買いあげの方にプレゼント！
（初回製造枚数のみ。6種類のうちいずれか1個。選択不可です。お楽しみに）

紙のプロレス RADICAL

No.46

2002年2月25日発行

No.47は 2月下旬発売予定！

※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
斉藤中
八木賢太郎（「猪木祭り」のモチの取り合いで殴られたため非番）

編集見習い
スエヒロ・ガイ子

スーパーバイザー
吉田豪

スーパーイビキ助っ人
スモーノブ

助っ人
中村カタブツ君
佐藤耳男

アートディレクター
出田さん（TwoThree）

デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
タニやん（以上TwoThree）

トメさん
はなえちゃん（以上さおとめの事務所）

海老沢勇（Zero graphics）

石田理恵

カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
菊池茂夫

試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

苦しみの中から立ち上がれ
ジャイ子

お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝

出前
出前持ち入江（TwoThree）

フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

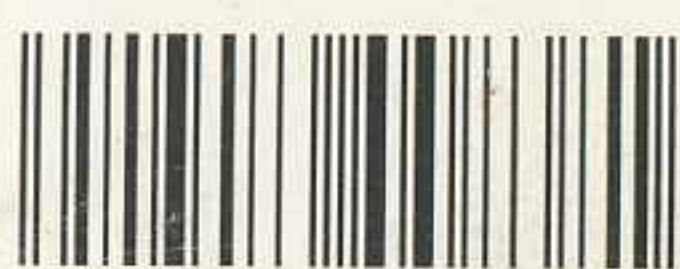
発売元　株式会社ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地　TEL.03-3357-2911（販売・営業）
発行元　株式会社ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　TEL.03-3403-5188（編集・制作）

 編集内容等に関するお問い合せは（株）ダブルクロスにぶつけろ！

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK 191
2002 NO. 46
マット界、大地殻変動!

WORKS SPECIAL EDITION

平成14年2月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体838円＋税

9784898296721
ISBN4-89829-672-6
C9476 ￥838E
1929476008381
雑誌　69862-91

印刷：図書印刷株式会社

☎INDEX

団体	電話	住所
全日本プロレス	➡03-3403-7344	〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12
プロレスリング・ノア	➡03-3527-5311	〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
新日本プロレス	➡03-5468-3111	〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
FMW	➡03-5496-0671	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15 ダヴィンチ下目黒6F
リングス	➡03-3461-0257	〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1 サトウビル202
WAR	➡03-5477-0461	〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23 萬豊ビル2F
みちのくプロレス	➡019-626-1333	〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
SPWF	➡03-3814-6371	〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4 クロサキビル
パンクラス	➡03-5792-0815	〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
IWAジャパン	➡03-3352-3366	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ401
大日本プロレス	➡045-937-0811	〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347
バトラーツ	➡0489-63-0005	〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
DDT	➡03-3356-8493	〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内
髙田道場	➡03-5749-5030	〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 ワールドパレス武蔵小山1F-B1
UFO	➡03-5447-2121	〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5 OK白金台ビル7F
大阪プロレス	➡06-6636-6672	〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
闘龍門JAPAN	➡078-333-9797	〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り3-17-8 TOWA元町ビル901
ダイプロデュース(大仁田興行)	➡03-5496-4900	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-32-3 大北ビル3F
ZERO-ONE	➡03-5730-3401	〒105-0014 東京都港区芝2-30-11 寿ビル601
掣圏道	➡03-5456-7333	〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14 恵比寿スカイハイツ607
U-FILE CAMP	➡044-932-0282	〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
キングダム・エルガイツ	➡0423-31-2797	〒206-0822東京都稲城市坂浜2305
キャプチャー	➡044-959-3333	〒215-0011 神奈川県川崎市麻生区百合ヶ丘2-2-1 横山ビルB1
国際プロレス	➡0467-86-0197	〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14
高山堂	➡03-3386-3324	〒161-0032 東京都新宿区中落合2-12-23-602
つぼプロモーション	➡03-3498-4710	〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1 アパルトマン青山2F-E
トータルワークアウト	➡03-3280-5557	〒108-0073 東京都芝区三田4-7-24 明るいビル
喧嘩プロレス二瓶組	➡044-588-2438	〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2 二瓶ビル
ZIPANG	➡0427-54-8851	〒229-0002 神奈川県相模原市渕野辺本町2-37-19 コスモハイグランド106
T.A.M.A	➡042-572-6795	〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5
WWS	➡0495-24-6900	〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23 連合305
UNW	➡03-3362-3014	〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311
栗栖ジム	➡06-6790-8896	〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7
ドリームステージエンターテインメント	➡03-5775-5700	〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4 ルーメリ赤坂103
K－1事務局	➡03-3796-2977	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14
修斗コミッション	➡03-5824-1324	〒111-0032 東京都台東区浅草5-56-8 若山ビル201
GCM COMUNICATION (和術慧舟會、A'GYM、RJW)	➡03-3538-5801	〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
DEEP 2001事務局	➡052-339-0303	〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
怪獣王国	➡03-5952-1177	〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F
全日本女子プロレス	➡03-3493-6541	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
JWP	➡03-3839-4161	〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10 大秀ビル502
LLPW	➡03-3945-7926	〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4 ビクセル文京105
GAEA JAPAN	➡03-3795-2555	〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3 COVAMOC BUILDING 2F
Jd'	➡03-5561-0522	〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4 ランディック赤坂ビル4F
アルシオン	➡03-5745-6101	〒141-0031 東京都品川区西五反田3-6-24 サンハイツ1004
NEO	➡044-422-8344	〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
SMACK GIRL実行委員会	➡03-5447-8483	〒106-0017 東京都港区南麻布4-11-21 ランディック南麻布B1
女子総合格闘技・AX	➡03-5286-7921	〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町1-7

『紙プロ』読者が選ぶ
2001年ベストバウト

12・31 さいたまスーパーアリーナ

猪木軍vsK−1軍　大将戦

●安田忠夫

［2R2分10秒ギロチンチョーク］

ジェロム・レ・バンナ×

JAPANESE BUZZSAW

TATARI

『紙プロ』編集部おススメ興行

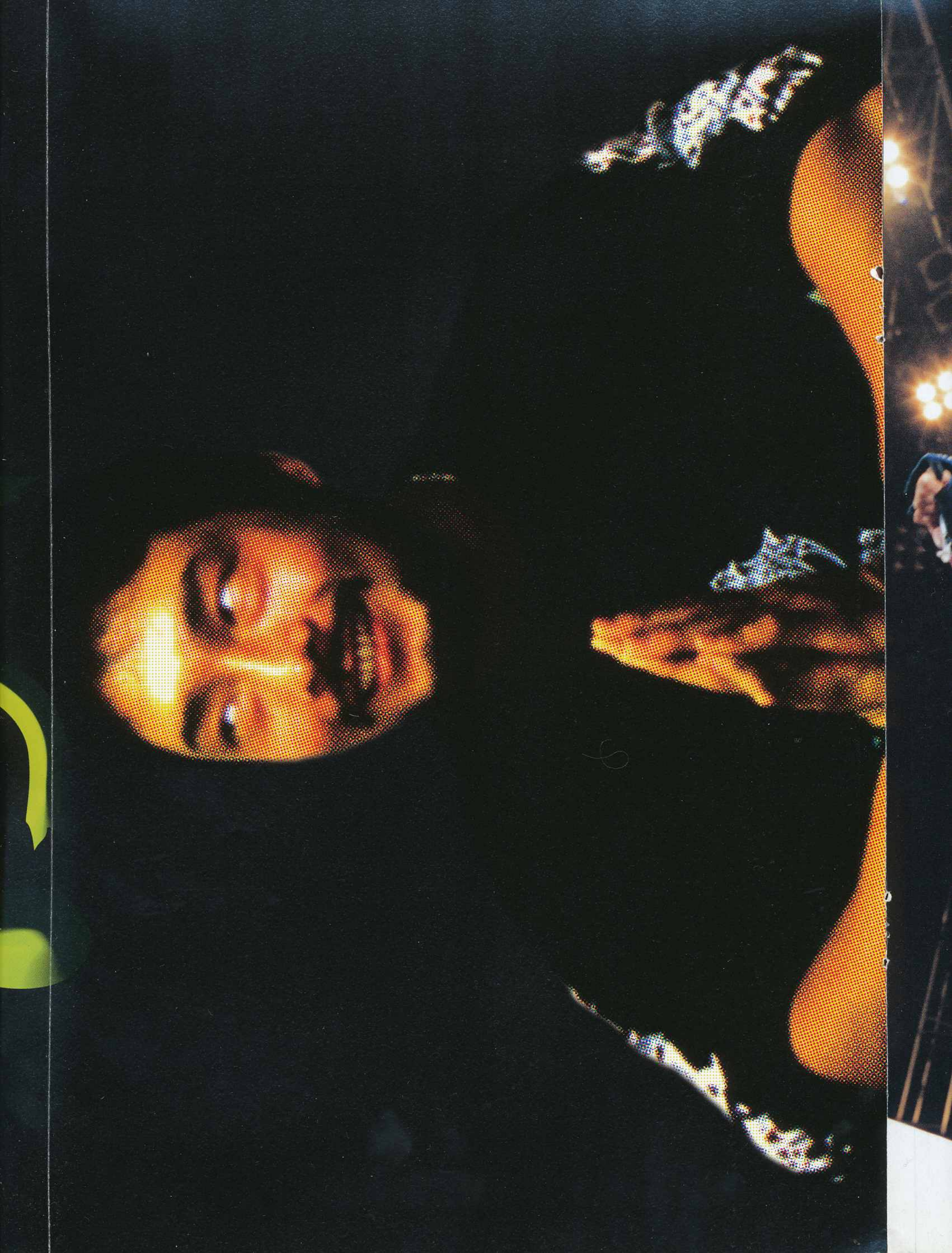
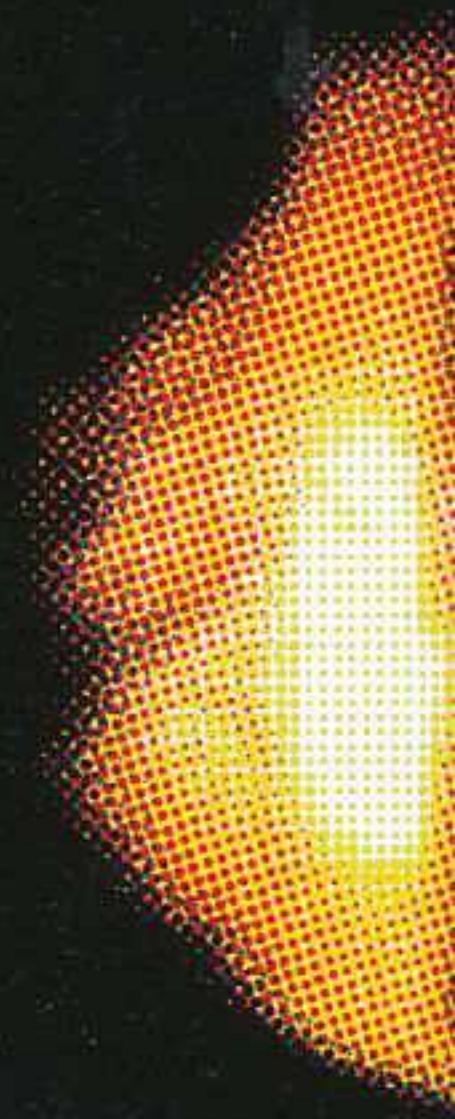
★ 山口日昇　♠ 松澤チョロ記者
◆ ガンツ堀江　◎ 斉藤中

00)

ザ(15:00)

ター(18:30)

)

:00)

NEO■東京・板橋産文ホール(18:30)
大日本■千葉・市原臨海体育館(18:30)

24 SUN.

Jd'■横浜・横浜道場(12:30)
全日本■東京・日本武道館(15:00)
全女■神奈川・横浜文化体育館(15:00)
『PRIDE.19』■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(16:00)★◎
中野巽耀自主興行■埼玉・越谷桂スタジオ(18:00)
闘龍門■東京・後楽園ホール(18:30)

28 THU.

修斗■東京・北沢タウンホール(18:00)
大日本■茨城・ひたちなか松戸体育館サブアリーナ(18:30)

3 March

1 FRI.

大日本■静岡・アクトシティー浜松(18:30)
WWF■神奈川・横浜アリーナ(19:00)

2 SAT.

ZERO—ONE■東京・両国国技館(18:00)◆
SMACK　GIRL■東京・ディファ有明(18:30)

3 SUN.

Jd'■東京・北沢タウンホール(13:00／17:00)
大日本■神奈川・横浜文化体育館(16:00)
NEO■東京・板橋産文ホール(18:00)

7 THU.

アルシオン■岩手・一関文化センター体育館(18:30)

8 FRI.

新日本■新潟・新潟市体育館(18:30)
アルシオン■青森・むつ市民体育館(18:30)

9 SAT.

ZERO—ONE■東京・後楽園ホール(18:30)
新日本■神奈川・平塚市総合体育館(18:30)
アルシオン■青森・弘前市河西体育センター(18:30)

10 SUN.

FMW■東京・後楽園ホール(12:30)
アルシオン■青森・五所川原市民体育館(14:00)
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)

12 TUE.

NEO■東京・北沢タウンホール(19:00)
アルシオン■東京・後楽園ホール(19:00)

13 WED.

修斗■東京・北沢タウンホール(18:00)

14 THU.

新日本■京都・京都市体育館(18:00)
ノア■東京・後楽園ホール(18:30)

15 FRI.

新日本■京都・福知山市三段池公園総合体育館(時間未定)
修斗■東京・後楽園ホール(18:00)

16 SAT.

U-FILE■東京・大田区体育館分館(17:00)
ノア■茨城・水戸市民体育館(18:00)
新日本■広島・広島県立ふくやま産業交流館(18:30)

17 SUN.

ノア■東京・ディファ有明(15:00)
新日本■愛知・愛知県体育館(16:00)
Jd'■大阪・NGKスタジオ(18:00)

19 TUE.

ノア■茨城・鹿島市立体育館(18:30)

21 THU.

アルシオン■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場(13:30)
ノア■静岡・清水マリンビル(15:00)
大日本■愛知・名古屋市体育館(15:00)
新日本■東京・東京体育館(16:00)

22 FRI.

ノア■福井・福井市体育館(18:00)
新日本■静岡・浜松市体育館(18:30)
Jd'■東京・後楽園ホール(18:30)
アルシオン■愛知・豊田市体育館(18:30)

23 SAT.

アルシオン■岩手・岩手県営体育館(17:00)
NEO■東京・板橋産文ホール(18:30)
新日本■三重・三重県営サンアリーナ(時間未定)

24 SUN.

アルシオン■秋田・秋田県立体育館(13:00)
ノア■京都・KBSホール(15:00)
新日本■兵庫・尼崎市記念公園総合体育館(16:00)

25 MON.

パンクラス■東京・後楽園ホール(18:30)
ノア■岡山・岡山武道館(18:30)
DDT■東京・北沢タウンホール(19:00)

27 WED.

ノア■熊本・熊本市総合体育館(18:30)

28 THU.

ノア■大分・大分県立荷揚町体育館(18:30)

29 FRI.

ノア■長崎・佐世保市文化体育館(18:30)
新日本■新潟・苗場プリンス(時間未定)

RADICAL CALENDAR

2 February

2 SAT.
新日本■北海道・札幌テイセンホール(18:00)
ノア■東京・ディファ有明(18:00)
Jd'■宮城・矢本町民体育館(18:00)

3 SUN.
みちのく■東京・後楽園ホール(12:30)
全女■埼玉・児玉町民体育館(13:00)
ノア■東京・メッセ昭島(15:00)
新日本■札幌・テイセンホール(15:00)
FMW■大阪・ひらかたパークイベントホール(15:00)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)
闘龍門■福岡・博多スターレーン(18:30)
SMACK GIRL■東京・ディファ有明(18:30)♠

4 MON.
闘龍門■福岡・サンライズ杷木(18:30)
FMW■東京・後楽園ホール(19:00)
JWP■東京・東京キネマ倶楽部(19:00)

5 TUE.
大日本■千葉・千葉公園体育館(18:30)
闘龍門■鹿児島・鹿児島アリーナ(18:30)

6 WED.
ノア■愛知・東海市民体育館(18:30)
闘龍門■熊本・熊本興南会館(18:30)
DDT■東京・club ATOM(19:00)

7 THU.
ノア■広島・福山ビックローズ(18:30)
闘龍門■福岡・小倉北体育館(18:30)

8 FRI.
新日本■岐阜・岐阜産業会館(18:30)
大日本■埼玉・本庄市民体育館(18:30)
GAEA■東京・後楽園ホール(19:00)
NEO■東京・板橋区立産文ホール(19:00)

9 SAT.
ノア■三重・メッセウイングみえ(18:00)
Jd'■東京・新宿リキッドルーム(18:00)
全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
新日本■和歌山・県立橋本体育館(18:30)
大日本■静岡・伊東青果市場(18:30)

10 SUN.
ノア■兵庫・神戸ワールド記念ホール(15:00)
新日本■岡山・岡山県体育館(16:00)
全日本■愛知・津島市文化会館(17:00)
華☆激■愛知・名古屋市枇杷島スポーツセンター第2体育館(17:30)
大日本■福島・大熊町第二体育館(14:00)
ORG■東京・TOKYO FM ホール(17:30)

11 MON.
全女■東京・後楽園ホール(12:00)
プロレスリングX■静岡・キラメッセ沼津(13:30)
全日本■愛知・豊橋市総合体育館第2競技場(15:00)
新日本■大阪・舞洲アリーナ(15:00)
Jd'■大阪・NGKスタジオ(15:00)
修斗■兵庫・神戸ファッションマート・アトリウムプラザ(15:00)
ノア■愛知・豊田市体育館(17:00)
JWP■東京・東京キネマ倶楽部(17:00)
大日本■静岡・ツインメッセ静岡(15:00)
K-1■東京・代々木競技場第二体育館(16:00)

12 TUE.
全日本■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:30)

13 WED.
新日本■福島・白河中央体育館(18:30)
ノア■和歌山・ハナヨアリーナ(18:30)

14 THU.
新日本■福島・福島体育館(18:30)
全日本■山口・海峡メッセ下関(18:30)
ノア■滋賀・滋賀県立体育館(18:30)
DDT■東京・club ATOM(19:00)

15 FRI.
全女■東京・ミズノフットサルプラザ(18:30)
リングス■神奈川・横浜文化体育館(19:00)★◆♠

16 SAT.
新日本■東京・両国国技館(18:00)
全日本■長崎・福江市中央公園体育館(18:00)
GAEA■大阪・梅田ステラホール(18:00)

17 SUN.
アルシオン■東京・後楽園ホール(12:00)
ノア■東京・日本武道館(15:00)
パンクラス■大阪・梅田ステラホール(16:00)
Jd'■東京・ディファ有明(16:00)
みちのく■神奈川・横浜文化体育館(17:00)
全女■ 埼玉・本川越ぺぺホール(13:00/17:00)
全日本■長崎・新魚目町町民体育館 (18:00)
IWA■東京・後楽園ホール(18:30)

19 TUE.
ターザン後藤一派■東京・江東区亀戸スポーツセンター(18:30)

20 WED.
全日本■長野・飯田市勤労者体育センター (18:30)

21 THU.
全日本■千葉・成田市民体育館(18:30)
DDT■東京・渋谷clubATOM(19:00)

22 FRI.
IWA■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:30)

23 SAT.
JWP■東京・金町地区センター5F文化ホール(18:00)
NEO■東京・板
大日本■千葉・市

24 SUN.
Jd'■横浜・横
全日本■東京・
全女■神奈川・
『PRIDE.19』■
中野巽耀自主
闘龍門■東京・

28 THU.
修斗■東京・北
大日本■茨城・

3

1 FRI.
大日本■静岡・
WWF■神奈川

2 SAT.
ZERO—ONE
SMACK GIR

3 SUN.
Jd'■東京・北
大日本■神奈川
NEO■東京・板

7 THU.
アルシオン■岩

8 FRI.
新日本■新潟・
アルシオン■青

9 SAT.
ZERO—ONE
新日本■神奈川
アルシオン■青

10 SUN.
FMW■東京・
アルシオン■青
新日本■東京・

12 TUE.
NEO■東京・北
アルシオン■東

13 WED.
修斗■東京・北